

令和5年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業

ヤングケアラー支援の
効果的取組に関する調査研究

報告書

令和6年（2024年）3月

有限責任監査法人トーマツ

目 次

第1章 事業要旨	1
第2章 事業概要	2
1. 背景と目的	2
2. 事業内容	3
(1) 検討委員会の設置・開催	3
(2) 基礎調査（パイロットスタディ）の実施	4
(3) 地方自治体、ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するアンケート調査	4
(4) 地方自治体、ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するインタビュー調査	4
(5) 効果的な影響をもたらした取組事例（ベストプラクティス）の収集・分析 ..	4
第3章 基礎調査（パイロットスタディ）	5
1. 調査目的	5
2. 調査概要	5
(1) インタビュー調査の対象	5
(2) 調査の時期	5
(3) 調査の方法	5
(4) 調査項目	5
3. 調査結果	6
(1) 認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス（佐賀県佐賀市）	6
(2) 一般社団法人 Omoshiro（神奈川県横浜市）	8
第4章 アンケート調査	10
1. 調査目的	10
(1) 地方自治体に対するアンケート調査	10
(2) ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するアンケート調査	10
2. 調査概要	10
(1) アンケート調査の対象	10
(2) 調査の時期	11
(3) 調査の方法	11
(4) 調査項目	13
(5) 回答状況	16
3. 調査結果	17
(1) 地方自治体に対するアンケート調査結果	17
(2) ヤングケアラー本人に対するアンケート調査結果	33
(3) ヤングケアラーの家族に対するアンケート調査結果	52
(4) 支援団体に対するアンケート調査結果	65
第5章 インタビュー調査	71
1. 調査目的	71
(1) 地方自治体に対するインタビュー	71
(2) ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するインタビュー	71

2.	調査概要	71
	(1) インタビュー調査の対象	71
	(2) 調査の時期	72
	(3) 調査の方法	72
	(4) 調査項目	72
3.	調査結果	76
	(1) 地方自治体インタビュー結果概要	76
	(2) ヤングケアラー本人、家族インタビュー調査結果概要	81
	(3) 支援団体インタビュー調査結果概要	92
第6章	考察	101
1.	支援における基本的な姿勢	102
	(1) ヤングケアラーの捉え方	102
	(2) 家族全体を捉える視点	102
	(3) 信頼関係のある人からのアプローチを基本とする（支援の専門家に限らない）	104
	(4) 支援につなげることを焦らない	104
	(5) 急な予定変更が生じやすいことを踏まえた事業・支援設計を行う（支援利用の急なキャンセルへの柔軟な対応）	105
2.	効果的な影響をもたらした支援（こども・若者の年代別）	106
	(1) ヤングケアラー本人及び家族の声	106
	(2) 効果的と考えられる支援順序	108
3.	効果的な影響をもたらした支援（ケアの対象者の状況別）	110
	(1) ヤングケアラー本人及び家族の声	110
	(2) ケアの対象者の状況別で効果的と考えられる支援	112
4.	効果的な取組事例及び取組のポイント（支援メニュー別）	115
	(1) 相談窓口の設置・運営	115
	(2) アウトリーチ	117
	(3) 居場所	
	(オンラインサロン、ショートステイ・トワイライト（夜間）ステイを含む）	118
	(4) 家事・育児支援	121
	(5) 食に関する支援（配食支援・食糧支援、こども食堂等）	122
	(6) 学習支援	123
	(7) 就労支援	124
	(8) その他（外国語対応通訳支援、外出時の付き添い、現金給付、進学支援等）	126
5.	自治体の体制面等におけるポイント	127
	(1) 都道府県、市区町村の役割分担	127
	(2) 教育部門と福祉部門の連携	128
	(3) 予算確保	131
	(4) ヤングケアラー・コーディネーターの配置	131
	(5) 広報啓発	133
6.	今後の課題	136
	(1) 中長期的な視点が必要であることへの理解	136
	(2) 学び直しの機会の充実	136
	(3) 若者支援の充実	137

(4) 家族全体のニーズに対応した支援方法や普及啓発方法の検討	137
(5) 長期的な支援による支援者側の体制維持	138
第7章 成果の公表方法	140
付録 資料編	141

第1章 事業要旨

本事業は、ヤングケアラー支援の効果的取組について調査することで、支援の更なる充実・強化を図ることを目的として実施した。

本事業においては、(1) 検討委員会の設置・開催、(2) 基礎調査(パイロットスタディ)の実施、(3) 地方自治体、ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するアンケート調査、(4) 地方自治体、ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するインタビュー調査、(5) 効果的な影響をもたらした取組事例(ベストプラクティス)の収集・分析、といった5つの活動を行った。

ヤングケアラー支援の実態等を把握し、各種アンケート調査項目及びインタビュー調査項目を検討するため、アンケート調査に先立ち、基礎調査(パイロットスタディ)を実施した。

ヤングケアラーの支援について実態を知るとともに、ヤングケアラー本人、家族にとって効果的な影響をもたらした支援を検討するため、地方自治体、ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対してアンケート調査を実施した。

さらに、上記アンケート調査結果を踏まえて、アンケート調査では把握しきれない内容を知るためにインタビュー調査を実施した。

そして、基礎調査(パイロットスタディ)、アンケート調査及びインタビュー調査結果を踏まえ、効果的な影響をもたらした取組事例の収集・分析を実施し、本事業の成果物を完成させた。

本事業において、何がヤングケアラーとその家族にとって「利用してよかった」と感じる支援になっているのか、その理由などを知る上で、ヤングケアラーやその家族の声を聞くことが必要不可欠であった。

ヤングケアラーやその家族の声を聞く際には、過度な負担を生じさせないように、支援団体の協力を得ながら細心の注意を払って進め、そうした声に基づいて、効果的と考えられる支援について検討した。

第2章 事業概要

1. 背景と目的

ヤングケアラーについては、令和3年5月に取りまとめられた「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告」において、早期に発見し適切な支援につなげることが明記された。

これを受け、国は地方自治体による実態調査やヤングケアラー・コーディネーター配置等の体制準備を後押ししており、令和5年度からは、外国語対応が必要な家庭に対する通訳派遣も支援するなどしている。

「こどもまんなか社会の実現」の視点を踏まえ、これまで行われてきた取組がヤングケアラーにもたらした影響を把握・整理することで、効果的な取組に重点的に予算を配分するなどして、ヤングケアラーへの支援を更に充実・強化させることができる。

こうした認識に基づき、本事業は、こどもから若者への移行期における切れ目のない支援の必要性について明確化できるよう留意した上で、ヤングケアラー支援の効果的取組について調査した。

2. 事業内容

(1) 検討委員会の設置・開催

ヤングケアラーの支援に関する状況、課題等の知見を有する学識経験者及び自治体職員、計7名で構成する検討委員会を設置し、会議を年4回実施した。

検討委員会では、アンケート調査における調査項目等の検討、インタビュー実施における対象の選定や調査項目等の検討、調査結果に基づく効果的な取組事例の分析に関する議論、成果物に関する議論等を実施した。以下に検討委員会の委員名簿を掲載する。

図表2-1：検討委員会委員名簿

委員名簿 (○印は 座長、五十 音順、敬称 略)	上田 智也	神戸市福祉局相談支援課こども・若者ケアラー相談・支援窓口課長
	蔭山 正子	大阪大学高等共創研究院 教授
	黒光 さおり	尼崎市教育委員会事務局こども教育支援課 スクールソーシャルワーカー
	○澁谷 智子	成蹊大学文学部現代社会学科 教授
	勝呂 ちひろ	一般社団法人Omoshiro 代表理事
	福阪 圭輔	京都府健康福祉部家庭支援課 参事
	宮崎 成悟	一般社団法人ヤングケアラー協会 代表理事

※ オブザーバー：こども家庭庁、文部科学省、厚生労働省

検討委員会の開催概要を以下に示す。

図表2-2：検討委員会開催概要

開催概要	第1回検討委員会 日程：令和5年8月28日（月） 議事： 1 事業概要 2 基礎調査（パイロットスタディ）の報告 3 地方自治体における効果的な取組事例の収集（地方自治体に対するアンケート調査）における調査項目等の検討 4 ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するアンケート調査項目等の検討
	第2回検討委員会 日程：令和5年12月26日（火） 議事： 1 アンケート調査結果の報告 2 地方自治体における効果的な取組事例の分析について（成果物の方向性） 3 インタビュー実施計画について（対象の選定、インタビュー項目等）
	第3回検討委員会 日程：令和6年2月26日（月）

	議事： 1 アンケート調査の追加集計結果の報告 2 インタビュー調査結果の報告 3 事業報告書骨子の検討
	第4回検討委員会 日程：令和6年3月11日（月）～15日（金）（書面開催） 議事： 1 報告書の確認

（2）基礎調査（パイロットスタディ）の実施

ヤングケアラー支援の実態等を把握し、各種アンケート調査項目及びインタビュー調査項目を検討するため、基礎調査（パイロットスタディ）を実施した。

詳細については、「第3章 基礎調査（パイロットスタディ）」を参照。

（3）地方自治体、ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するアンケート調査

ヤングケアラーの支援について実態を把握するため、アンケート調査を実施した。

詳細については、「第4章 アンケート調査」を参照。

（4）地方自治体、ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するインタビュー調査

アンケート結果を基に、インタビュー調査を実施した。

詳細については、「第5章 インタビュー調査」を参照。

（5）効果的な影響をもたらした取組事例（ベストプラクティス）の収集・分析

アンケート調査及びインタビュー調査の結果を基に、効果的な影響をもたらした取組事例を収集・分析した。詳細については、「第6章 考察」を参照。

第3章 基礎調査（パイロットスタディ）

1. 調査目的

ヤングケアラー支援の実態等を把握し、各種アンケート調査項目及びインタビュー調査項目を検討する際の参考とすることを旨とした。

2. 調査概要

（1）インタビュー調査の対象

支援団体と当事者が密な関係を構築できている団体として、検討委員会委員長よりご推薦いただいた。

- 1) 認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス
- 2) 一般社団法人 Omoshiro

（2）調査の時期

令和5年7月31日（月）、令和5年8月3日（木）

（3）調査の方法

オンラインインタビューにて実施した。

（4）調査項目

調査項目を以下に示す。

図表3-1：インタビュー調査項目

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 こどもの年齢や発達の程度に応じた支援におけるポイント※2 こどもが担うケアの内容に応じた支援におけるポイント※3 効果的な支援を行うための支援順序におけるポイント4 限られたリソースの中で優先的に行うべき支援5 支援対象者を増やすためのポイント6 支援を卒業する際のポイント（ヤングケアラー本人や家族の納得感を得るための工夫等）7 地方自治体との連携を円滑化するためのポイント <p>※ 家族構成に基づく留意点などを含む。</p> |
|---|

3. 調査結果

(1) 認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス (佐賀県佐賀市)

認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス	
1. 法人概要	<p>① 社会的に孤立した当事者に支援を届けている。<u>アウトリーチを重要視し、ワンストップ化にも力を入れている。</u></p> <p>② 我々の窓口には年間延べ 81,000 件の相談が寄せられている（行政機関、専門機関からの依頼・紹介案件が7割）。</p> <p>③ <u>相談の 84.7%は問題が複合化</u>しているため、多角的に検討できるよう多職種連携を前提とした組織をつくっている。</p> <p>④ 本人の周りの家族関係、外部関係者との関わりの中で、現状、どのような困難を抱えている状態か、どんな存在であればこどもに受け入れやすい存在となり得るのかを詳細に分析し、支援者をマッチングし、<u>家族構成等の相対的要素を加味して関係を構築</u>している。また、<u>こどもの価値観に合わせる</u>ことを意識している。本人が好きなきことに我々も興味関心を持つことで、例えば、ゲーム障害で自室にひきこもっている場合、まずオンラインゲームでつながりオフ会に誘うことで接点を持つこともできる。</p>
2. こどもの年齢や発達の程度に応じた支援	<p>① 若者支援はそれぞれの世代によって変わると思うが、<u>前提としてケアの負担は内容や時間等で変わる</u>と考えている。</p> <p>② 我々の支援のプログラムはオーダーメイド型。生まれ育った環境、家族との関係性等によっても得られる経験や機会に格差が出る。ケアで逸失した経験等があれば、それを補っていくという考え方である。</p> <p>③ <u>居場所の重要性は年代共通だが、個別的部分もある</u>。幼児期は家庭で十分な養育を受けられず<u>発達に遅れ</u>が出る場合もある。その上の年代になると<u>不登校</u>として影響が出る場合もあるため、<u>保育や教育という枠組みの中で発見し、他機関につなげる</u>などして個別的な支援へと導入することになると思う。</p>
3. こどもが担うケアの内容に応じた支援	<p>① <u>メンタルヘルスの課題を抱えている保護者のケア</u>を担う場合は、<u>こどもが受ける心理的影響も負担も大きくなる</u>ことがある。特にひとり親家庭のケースでは、元配偶者の暴力等の影響によって、<u>外部の人間に対して不信感</u>を持つことがある。このようなケースの場合、<u>保護者の信頼感が重要</u>となる。アウトリーチをかけられるようになった時に、<u>生活の中の負担をいかに減らせるか</u>を考え、こどもと一緒に部屋の片付け、家事手伝い等をし、その過程で培われた関係性を活かす形で家事代行サービスの紹介、投入することもある。</p>
4. 効果的な支援順序	<p>① <u>安易に介入しない</u>ということが一番大事にしている。過去に働きかけを受けて拒絶をしている場合は、<u>サービスを提案した時点で心を閉ざす方もいる</u>。</p> <p>② 全小中高 300 校にアウトリーチを行っており、全学校の情報にアクセスできるようになった。<u>家庭教師方式のアウトリーチ</u>を行っており、継続的に家庭訪問する中で、様々な家庭問題やヤングケアラーのケアの部分に触れ、一緒に手伝いをし、信頼を深めた上で、ケアに関する専門家を連れてくるようにし、<u>徐々に支援を広げている</u>。最初は抵抗感の少ない家庭教師から入り、<u>個別対応から小集団、集団活動へと段階的に移行</u>していくよう</p>

認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス	
	<p>にしている。これまで経験できなかった経験や必要なものを取り戻すプロセスがないと、心のカウンセリングをただけでは学校復帰や進学等に至るのは難しい場合も少なくない。その他の家族のケアについても必要に応じてそれぞれに伴走者をつける必要がある。</p> <p>③ <u>生活困窮者自立支援法の枠組み</u>の中で貸付等のやり取りをする中で<u>親と関係性をつくる</u>こともできる。学習・生活支援事業の一環である学習会を通じてや、こども食堂に来ているこどもを通じて保護者と接点を作ったりと、様々な手段で接点を持ち、段々と本来の相談ができるような関係性を作っている。</p>
5. 優先的に行うべき支援	<p>① 有給職員で<u>経験を積んだメンバー</u>は専門性が求められる<u>重篤な状況の家族の支援に集中</u>してもらい、有償・無償ボランティアはこども食堂等に参加し、居場所づくりなどのケアの一部を担っている。</p> <p>② <u>一つの団体ではできることは限られている</u>ため、少しずつ<u>ネットワークを広げていく</u>中で、地域全体で当事者に支援をできる人が充実していくことが大切である。</p>
6. 支援対象者を増やすためのポイント	<p>① 虐待は疑いの段階で通告が義務化されているため、本来であれば相談すればすぐに解決できる子育ての問題でも抱え込んで閉ざしてしまう家庭がある。<u>民間のNPOは行政と違ったイメージでアプローチ</u>できる。</p> <p>② 義務教育はすべてのこどもたちが通る道である。いじめや虐待が過去最多の状況であり、学校がヤングケアラーに優先的に力を入れることは難しい。そのため、<u>先生の負担を減らせるよう我々が可能な限り動く</u>というアプローチをしており、先生からの評判も良い。</p> <p>③ 通常、<u>行政サービスの数だけ書類が必要</u>になるが、それは負担であり、窓口から遠ざからせることにつながる。当団体は、国、県、市のすべての委託元と交渉して、<u>佐賀一括同意方式</u>を開発し、1枚の紙で<u>一括同意</u>が取れるようにした。</p> <p>④ 課題を課題のまま放置せず、<u>協働する中で新たな社会資源の開発</u>を行い、<u>支援メニューを増やしていく</u>ことが大事であり、ケアを受ける子や家族を支えることを通じて、地域全体を良くしていくという循環が必要だと思う。垣根を越えて当事者を支える仕組みができると良い。</p>
7. 支援の卒業	<p>① 昔ながらの地域のように、<u>本人が周りの人に助けてといえる状況をつくり</u>、様々なつながりの中でその家族を支えられるという状況を整える必要がある。孤立している当事者の場合、個別対応から小集団、集団活動へと段階的に移行する過程で様々な人や制度とのつながりをつくり、再び<u>孤立することを防ぐ</u>必要がある。</p>
8. 地方自治体との連携	<p>① 多岐にわたる団体等とのネットワーク構築ができており、行政主導の複数の協議体にも参画している。</p> <p>② ヤングケアラーの場合、<u>長期的な支援</u>となることが多いため、<u>評価の段階を細かく設定</u>しないと、事業の効果が見えず、すぐに取りやめとなってしまふことが懸念される。</p> <p>③ 一つ一つは小さな総合相談窓口でも集約化すれば、スケールメリットが生まれ多職種のチームが常駐する窓口となり、解決能力、支援能力も高くなる。その上でアウトリーチを伴う支援実践を行いつつ、PDCAを回すことで、自治体レベルで協働事業が創設され、結果として義務教育段階から就労段階まで伴走型の支援が展開できる、<u>総合的な自立支援体制が構築され</u></p>

認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス	
	た。財政にも3年間で9億5千万以上の税収効果をもたらしたとの試算も出ている。
9. その他	① <u>小学校低学年のこどもに対するアンケート</u> は、支援機関との関係性ができていれば可能だと思うが、 <u>心のケアも一緒にする必要がある</u> 。自分が恵まれていない事を気づいた際に、支援が受けられないと苦しみを抱えさせることになる。

(2) 一般社団法人 Omoshiro (神奈川県横浜市)

一般社団法人 Omoshiro	
1. 法人概要	<p>① 令和3年にケアマネジャーの事業所を立ち上げ、<u>親子まるっと伴走支援</u>を行っている。これは、親子それぞれで制度、窓口、役割が異なっているが、それを我々が一緒に対応するというもの。</p> <p>② 家事支援で、ヘルパーが1時間掃除や調理の支援をする場合がある。我々は親子の暮らしが見えており、こどもが何年生でどれくらい焼きそばを食べるのかを把握しているため、ヘルパーの方にも焼きそばをフライパンいっぱい作ってほしいというリクエストを出せる。また、<u>親子の暮らしが見えている</u>からこそ、こどもが夏休み期間中は家事支援の内容を変えたり、夕食を準備する際に、翌日のお弁当用のおかずを用意できたりもする。</p> <p>③ 親子まるっと伴走支援を行う上で、<u>親子それぞれが自分の気持ちを伝えあえるようにすることが重要</u>だと考えている。最初は我々のような支援者が代弁者ではあるが、最終的には、こどもが進路を決める時期になった際などに、自分の考えを母親に伝えられるようになれば良い。<u>親子それぞれ伝える、伝わる練習をするという事を大事</u>にしている。</p> <p>④ ケアを必要としている<u>母親が入り口</u>であり、その家庭で暮らす<u>こどもたちを居場所につないでいる</u>。</p>
2. こどもの年齢や発達の程度に応じた支援	<p>① <u>この年齢だからこれが必要という事ではなく、ケアが違っていけばグラデーションも変わる</u>と思う。</p> <p>② 我々は母親の暮らしの背景を把握している。その時の母親がどのような状況で、何に困っているのかをケアマネジャーは把握しているため、居場所事業でもそれが情報として入っている上で、こどもたちと向き合っている。何歳に何が必要か、小学生に何が必要かという事よりも、その<u>親子の暮らしが分かっている</u>上で、居場所の中で話した方が良い、個別に場所を変えて話す方が良い、区役所に連携したほうが良いという事を<u>状況に合わせて対応</u>している。</p> <p>③ 何歳であっても困っていることが言えれば良いと思う。</p> <p>④ 年齢や学齢期で分けると、<u>専門性や元々あるリソース</u>を使える場合もあるが、<u>成長段階にはグラデーション</u>がある。</p>

一般社団法人 Omoshiro	
3. こどもが担うケアの内容に応じた支援	① 定期的にスーパーへ買い物に行く必要がある子もいる。自分が嫌だというと、母親が困るという構図が家の中でできていると、大事な母親を困らせないように、嫌と言う事をやめようと折り合いをつけ、それが段々と当たり前になっていく。2週間に1回はヘルパーを入れ、スーパーに行ってもらおうようにすると、 <u>最悪こどもが行かなくても大丈夫な状況</u> にできる。一方で、スーパーに行った際には自分のジュース等、好きなものを買うことができるため、スーパーに行くという <u>役割を残しておく</u> と、 <u>こどもの気持ちにも寄り添える</u> 場合もある。実際にこどもの声を聞き、暮らしを理解し、匙加減で支援内容を決めている。
4. 効果的な支援順序	① こどもが入り口になると、こどもがおかれている状況を解決するという思考になりがちで、母親に問題があるという事になってしまう。その場合、母親はそのために来る人とは話したくないと思う。 <u>母親が悪者にならないように気をつける</u> 必要がある。母親のことも大事にしつつ、こどもも一緒にやろうとなれば支援に入れると思う。 ② 母親を巻き込んでそのこどもを見る仕組みづくりが大切だと思う。大好きな <u>母親がこどものために支援を入れようとする</u> ことは、こどもからしたら嬉しいことであるため、 <u>こどもにも受け入れられやすい</u> 。
5. 優先的に行うべき支援	① 財源が十分でない場合は、 <u>今あるものを使う</u> ことが大切だと思う。 ② 夏休み期間であればこどもが家にいるため、いくら掃除をしても部屋が片付かない。そのため、掃除は不要で、それよりも三食の献立作りや買い物のリストの作成、お昼ごはんの焼きそばを作してほしいという要望がある。このような場合、夏休みの間だけ支援の内容を変えるなど、 <u>親子の暮らしに合わせて対応</u> している。
6. 支援対象者を増やすためのポイント	① <u>こどもと大人への支援を両軸</u> で走らせることが大切。 ② <u>助けてと言っても良いという事を体感できるチャンスをつくる</u> ことが大事。出産時は、母子手帳を貰ったり、助産師が訪問に行くなど、必ず行政と関わる。我々が支援で関わる方には、必要な時に行政に助けを求められるよう、練習してもらっている。妊婦の時に助けが求められるようになれば、 <u>育児で苦しい場面にあった時に役所に相談に行ける</u> 。 ③ 我々は困りきっている人たちを対象に支援をしており、 <u>支援を拒むという人はあまりいない</u> 。そういった人たちは <u>コミュニティにつながっていること、近所に話せる人がいることが大切</u> だと思う。
7. 支援の卒業	① ケア対象者が亡くなるまでケアは終わらないため、 <u>ケアがなくなる時が支援の終了ではない</u> 。自分の人生の舵を自分で取っている感覚をその人が持てたら <u>終わり</u> で良いと思う。自分でヘルパーや区役所に相談できれば、 <u>終わり</u> で大丈夫だと思う。自分で SOS を発信できるような力をつけ、自分でその感覚を持てていれば良いと思う。
8. 地方自治体との連携	① ケアマネジャーは個人情報の壁を越えることができる。ヤングケアラーコーディネーターを置いて、 <u>個人情報の壁を越えられる仕組みになっているかが重要</u> なポイントだと思う。 ② 企業も大人も、我々がやっているような取組を、どのように応援すればよいか分からないという場合もある。月に1回イベントを行い、 <u>様々な人に来てもらえる仕組み</u> にしている。

第4章 アンケート調査

1. 調査目的

(1) 地方自治体に対するアンケート調査

地方自治体におけるヤングケアラー支援実態を把握・整理する。

(2) ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するアンケート調査

地方自治体やヤングケアラー支援団体のこれまでの支援等の取組を通じて、ヤングケアラー等にとってその支援がもたらした影響を把握・整理する。

2. 調査概要

(1) アンケート調査の対象

1) 地方自治体に対するアンケート調査

悉皆 (1,788 自治体 (都道府県 47 所、市区町村 1,741 所))

2) ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するアンケート調査

① ヤングケアラー本人 (抽出)

本事業で行う「支援団体に対するアンケート調査」の調査対象となった団体の支援を受けたことがあるヤングケアラーに対して支援団体を経由して調査への協力を求めた (各団体、小学生、中学生、高校生世代、若者世代の4世代でそれぞれ最大3名ずつにご案内いただいた)。

② ヤングケアラーの家族 (抽出)

本事業で行う「ヤングケアラー支援団体に対するアンケート調査」の調査対象となった団体の支援を受けたことがあるヤングケアラーの家族に対して支援団体又はヤングケアラー本人を経由して調査への協力を求めた (各団体、小学生、中学生、高校生世代、若者世代の4世代の子どもを持つ家族、それぞれ最大3名ずつにご案内いただいた)。なお、アンケート対象の家族の考え方は以下のとおり。

- 子どもがケアをする対象の家族に限らない
- 子どもがサービス利用者の場合、子どもがサービスを利用したことを知る家族
- 家族がサービス利用者の場合、サービスを利用した家族

③ ヤングケアラー支援団体（抽出：50所）

「地方自治体に対するアンケート調査」で把握した団体のうち、支援内容等を踏まえ対象を抽出した。その他、こども家庭庁、（一社）日本ケアラー連盟のHPに掲載されている、ヤングケアラー当事者・元当事者同士の交流会家族会などを開催する団体や、こども家庭庁担当課や検討委員会委員からの推薦先などを対象に加えた。

（2）調査の時期

1) 地方自治体に対するアンケート調査

令和5年9月19日（火）～10月6日（金）

2) ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するアンケート調査

令和5年10月23日（月）～11月24日（金）

（3）調査の方法

1) 地方自治体に対するアンケート調査

インターネットによるアンケート調査を実施した（こども家庭庁担当課から、市区町村の児童福祉部門に対して、電子メール等により調査専用サイトのURLを記した依頼状を送付し、依頼状を受け取った対象には、インターネット上でアンケートに回答することを求めた）。

2) ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するアンケート調査

① ヤングケアラー本人（抽出）

【小中学生向け】

ヤングケアラー支援団体宛にアンケート調査票を郵送し、団体から調査対象者に対して配布することの協力を求め、回答は郵送にて回収した。

回答に際しての小学生の心理的、労力的負担を軽減するよう、ヤングケアラー支援団体の方から説明を補足してもらったり、記載できる箇所は埋めてもらうなどのサポートを依頼するとともに、必要に応じ、心のケア等ができるような体制でのアンケートの実施を依頼した。

【高校生世代～若者向け】

WEBによるアンケート調査を実施した（ヤングケアラー支援団体に対して、メールにて調査専用サイトのURLを記した依頼状を送付し、支援団体の支援を受けたことがあるヤングケアラー本人に対して案内することの協力を求め、WEB上で回答を集めた）。

② ヤングケアラーの家族（抽出）

<ヤングケアラー支援団体が家族の連絡先を知っている場合>

ヤングケアラー支援団体に対して、メールにて調査専用サイトの URL を記した依頼状を送付し、支援団体の支援を受けたことがあるヤングケアラーの家族に対して、支援団体が支障がないと判断した場合に案内していただき、WEB 上で回答を求めた。

<ヤングケアラー支援団体が家族の連絡先を知らない場合>

【小中学生のこどもを持つ家族向け】

ヤングケアラー支援団体宛に郵送する、ヤングケアラー本人に対するアンケート調査票に、家族に対するアンケート調査専用サイトの URL を記した依頼状を同封し、こどもから調査対象者である家族に対して配布することの協力を求め、WEB 上で回答を集めた。

【高校生世代～若者のこどもを持つ家族向け】

ヤングケアラー支援団体に対して、メールにて調査専用サイトの URL を記した依頼状を送付し、支援団体の支援を受けたことがあるヤングケアラー本人を経由して家族に対して案内することの協力を求め、WEB 上で回答を集めた。

③ ヤングケアラー支援団体（抽出：50 所程度）

WEB によるアンケート調査を実施した（メールにて調査専用サイトの URL を記した依頼状を送付し、WEB 上で回答を求めた）。

(4) 調査項目

調査項目を以下に示す。なお、SA は単数回答、MA は複数回答、FA は自由回答、YC はヤングケアラー、YCC はヤングケアラー・コーディネーター、SSW はスクールソーシャルワーカーを示す。

図表 4-1：地方自治体に対するアンケート調査項目

1. 基本情報	Q 1 自治体種別(SA) Q 2 YC 支援の主な担当窓口(SA)
2. 取組内容	Q 3 YC 関連の取組実施状況(MA) Q 4 Q 3 の支援開始からの経過期間(FA) Q 5 Q 3 の支援以外で YC 等がよく利用するサービス(MA) Q 6 Q 3 の支援の具体的な取組内容(MA) Q 7 オンラインサロンにおける効果的と考えられる取組(MA・FA) Q 8 国の予算事業の実施状況(MA) Q 9 国の予算事業の事業名(MA) Q 10 取組の実施形態(直接実施/委託/補助等)(MA) Q 11 実態調査の調査対象(MA) Q 12 実態調査の記名の有無(SA) Q 13 実態調査の対象選定方法(SA) Q 14 実態調査を実施していない理由(MA) Q 15 関係機関職員研修の実施主体(MA) Q 16 関係機関職員研修の参加者(YC 支援の主な担当窓口主体)(MA) Q 17 関係機関職員研修の参加者(教育部門主体)(MA) Q 18 YCC の雇用・契約形態(MA) Q 19 YCC の出勤頻度(MA) Q 20 YCC の保有資格(MA) Q 21 YCC が担う役割(MA) Q 22 SSW の配置有無(SA) Q 23 YCC を配置していない理由(MA) Q 24 相談支援において、相談内容として多いもの(MA) Q 25 YC 関連の有識者会議の設置経緯(MA) Q 26 YC 関連の有識者会議の構成員(MA) Q 27 YC 関連の有識者会議でこども・若者の声を聴く工夫(MA) Q 28 都道府県が、市区町村、政令市に主導的な役割を期待する支援(MA) Q 29 市区町村が、都道府県に主導的な役割を期待する支援(MA) Q 30 自治体で行う YC 支援で特に効果的と考えられる取組(MA・FA)
3. その他	Q 31 本人/家族アンケートへの協力可否(SA) Q 32 本人/家族インタビューへの協力可否(SA) Q 33 自治体インタビューへの協力可否(SA) Q 34 本人/家族インタビューに協力可能だと想定される対象者の年代/人数(MA・FA) Q 35 回答者情報(FA)

図表4-2：ヤングケアラー本人に対するアンケート調査項目

	小中学生	高校生世代以上
1. 基本情報	Q9 学年 (SA) Q10 性別 (SA) Q11 同居家族 (MA) Q12 ケア対象者 (MA) Q13 ケア対象者の状況 (MA) Q14 実施しているケアの内容 (MA) Q15 ケアの頻度 (SA) Q16 ケアに費やす時間 (SA)	Q1 学年/年齢 (SA) Q2 就学・就業状況 (MA) Q3 在学中の学校 (SA) Q4 性別 (SA) Q5 住所 (都道府県) (SA) Q6 住まい方 (SA) Q7 同居家族 (MA) Q8 現在のケア対象者の有無 (SA) Q9 ケア対象者 (MA) Q10 ケア対象者の状況 (MA) Q11 実施しているケアの内容 (MA) Q12 ケアの頻度 (SA) Q13 ケアに費やす時間 (SA)
2. 支援団体のサービス	Q1 利用したことのある支援団体/ 自治体名称 (FA) Q2 利用したことのある支援内容 (MA) Q3 利用してよかったと一番に感じる 支援 (SA) Q4 利用してよかったと感じる理由及 び自分や家族の変化 (MA・FA) Q5 支援の利用頻度 (SA) Q6 支援の利用期間 (SA) Q7 支援サービスの改善点等 (FA) Q8 他の人にしてもらってうれしかったこと (FA)	Q14 利用したことのある支援団体/ 自治体名称 (FA) Q15 支援を知ったきっかけ (MA) Q16 支援を利用したきっかけ (MA) Q17 利用したことのある支援内容 (MA) Q18 利用してよかったと一番に感じる 支援 (SA) Q19 利用してよかったと感じる理由 及び自分や家族の変化 (MA・FA) Q20 支援の利用頻度 (SA) Q21 支援の利用期間 (SA) Q22 支援を利用していた時期 (SA) Q23 支援サービスの改善点等 (FA) Q24 他の人にしてもらってうれしかったこと (FA) Q25 広報活動において留意が必要な 内容・方法・表現等 (FA)

※ 小中学生向けの調査票は回答者の負担を考慮し、高校生世代以上向けの調査票をベースとして簡略化するとともに構成を変えているため、「1. 基本情報」がQ1から始まっていない。

図表4-3：ヤングケアラーの家族に対するアンケート調査項目

1. 基本情報	Q1 アンケートの案内元 (SA・FA) Q2 こどもがアンケートの案内を受けた団体/自治体 (SA・FA) Q3 回答者属性(こども本人からみた続柄) (SA) Q4 こどもの学年/年齢 (SA) Q5 こどもの就学・就業状況 (SA) Q6 こどもが在学中の学校 (SA) Q7 こどもの性別 (SA) Q8 こどもの住所 (都道府県) (SA) Q9 こどもの住まい方 (SA) Q10 こどもの同居家族 (MA) Q11 現在のケア対象者の有無 (SA)
------------	---

	Q12 ケア対象者(MA) Q13 ケア対象者の状況(MA) Q14 こどもが実施しているケアの内容(MA) Q15 こどもが実施しているケアの頻度(SA) Q16 こどもがケアに費やす時間(SA)
2. 支援団体のサービス	Q17 支援の利用者(MA) Q18 こどもが利用したことのある支援内容(MA) Q19 こどもが利用してよかったと一番感じる支援(SA) Q20 こどもが支援を利用してよかったと感じる理由及びこどもや家族の変化(MA・FA) Q21 こどもの支援の利用頻度(SA) Q22 こどもの支援の利用期間(SA) Q23 こどもが支援を利用していた時期(SA) Q24 家族が利用したことのある支援内容(MA) Q25 家族が利用してよかったと一番感じる支援(SA) Q26 家族が支援を利用してよかったと感じる理由及びこどもや家族の変化(MA・FA) Q27 家族の支援の利用頻度(SA) Q28 家族の支援の利用期間(SA) Q29 家族が支援を利用していた時期(SA) Q30 支援サービスの改善点等(FA) Q31 広報活動において留意が必要な内容・方法・表現等(FA)

図表4-4：ヤングケアラー支援団体に対するアンケート調査項目

1. 基本情報	Q1 団体名称(FA) Q2 団体所在地（市区町村まで）(SA・FA)
2. 支援団体のサービス	Q3 提供している支援内容(MA) Q4 Q3の支援の具体的な取組内容(MA) Q5 地方自治体の事業の実施有無(MA) Q6 YCとの関わり始めの段階で効果的と考える支援(SA) Q7 Q6が効果的だと考える理由(SA・FA) Q8 YCの負担軽減を目指す段階で効果的と考える支援(SA) Q9 Q8が効果的だと考える理由(SA・FA) Q10 団体の支援を利用するYCのケア対象者の状況として多いもの(MA) Q11 ケア対象者の状況別で効果的と考える支援(SA) Q12 Q11が効果的だと考える理由(SA・FA) Q13 支援を行う上で特に重要と考えていること(MA) Q14 Q13の具体的な内容(FA) Q15 支援を行う上での課題(SA) Q16 Q15の具体的な内容(FA) Q17 自治体事業への改善点(FA)
3. その他	Q18 団体インタビューへの協力可否(SA) Q19 本人/家族インタビューへの協力可否(SA) Q20 回答者情報(FA)

(5) 回答状況

1) 地方自治体に対するアンケート調査

自治体種別での回答状況は以下のとおり。

図表4-5：アンケート回答状況（地方自治体に対するアンケート調査）

		回答件数	回収率
全体		1,221	68.3
自治体種別	都道府県	47	100.0
	政令指定都市	20	100.0
	中核市	58	93.5
	特別区	23	100.0
	一般市町村	1,073	65.6

2) ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するアンケート調査

それぞれの回答状況は以下のとおり。

図表4-6：アンケート回答状況
（ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するアンケート調査）

	回答件数
ヤングケアラー本人	78
ヤングケアラーの家族	20
支援団体	30

3. 調査結果

【アンケート結果の記載に係る留意点】

- 第4章のアンケート結果では、全体像を捉える上で特に記述したいと考えた内容（第6章の考察に
関係する内容等）を抜粋して掲載している。
（アンケート結果の詳細については資料編を参照）

（1） 地方自治体に対するアンケート調査結果

Q2 ヤングケアラー支援の主な担当窓口（SA）（Q2×Q1 自治体種別）

ヤングケアラー支援の主な担当窓口の割合は以下のとおりである。

図表4-7：ヤングケアラー支援の主な担当窓口（SA）（Q2×Q1 自治体種別）

		(%)										
		(N)	児童 福祉 部門	教育 部門 (教育 委員 会、 学校)	母子 保健 部門	高齢 者福 祉部 門	障害 福祉 部門	生活 保護 担当 部門	政策 部門	重層 的支 援体 制	主な 担当 窓口 が定 まっ てい ない	その 他
全体		1,221	75.8	3.5	2.5	0.4	0.8	0.2	0.2	1.6	10.5	4.5
Q1	都道府県	47	78.7	0.0	0.0	6.4	0.0	0.0	0.0	8.5	0.0	6.4
	政令指定都市	20	90.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	5.0
	中核市	58	79.3	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.6	10.3
	特別区	23	82.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3	8.7	0.0
	一般市町村	1,073	75.0	3.9	2.9	0.2	0.9	0.2	0.1	1.3	11.3	4.2

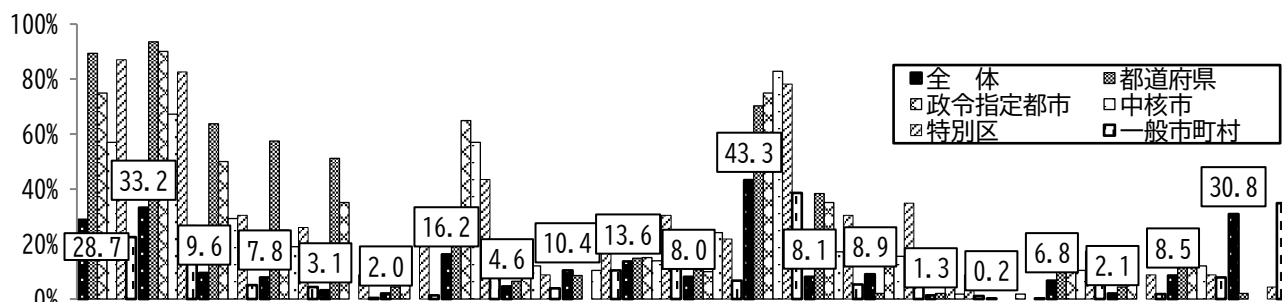
【その他の主な内容】

- 複数部門にて対応
- その他の部門にて対応（福祉部門や選択肢の部門の機能を統合した部門など）など

Q3 ヤングケアラー関連の取組実施状況 (MA) (Q3×Q1 自治体種別)

ヤングケアラー関連の取組の割合は以下のとおりである。

図表4-8：ヤングケアラー関連の取組 (MA) (Q3×Q1 自治体種別)



		(N)	実態調査・把握(※1)	関係機関職員研修	ヤングケアラー・コーディネーターの配置	ピアサポート等相談支援体制の推進(相談窓口の整備等)	サロン(※2)ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援	外国語対応通訳支援	家事・育児支援	配食支援	食糧支援(フードバンク)	こども食堂	ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ	広報啓発活動(※2)	自治体における有識者会議の設置	ショートステイ、トワイライトステイ	外出時の付き添い・同行支援	現金給付	学習支援(フリースクール、家庭教師を含む)	就労支援	その他	ヤングケアラー関連の取組は特にない
全体		1,221	28.7	33.2	9.6	7.8	3.1	2.0	16.2	4.6	10.4	13.6	8.0	43.3	8.1	8.9	1.3	0.2	6.8	2.1	8.5	30.8
Q1	都道府県	47	89.4	93.6	63.8	57.4	51.1	4.3	21.3	6.4	8.5	14.9	10.6	70.2	38.3	2.1	2.1	0.0	14.9	4.3	19.1	2.1
	政令指定都市	20	75.0	90.0	50.0	25.0	35.0	10.0	65.0	15.0	0.0	15.0	10.0	75.0	35.0	25.0	5.0	0.0	20.0	10.0	15.0	0.0
	中核市	58	56.9	67.2	29.3	19.0	0.0	0.0	56.9	12.1	10.3	13.8	24.1	82.8	17.2	15.5	1.7	1.7	10.3	0.0	12.1	0.0
	特別区	23	87.0	82.6	30.4	26.1	8.7	21.7	43.5	8.7	21.7	30.4	21.7	78.3	30.4	34.8	8.7	0.0	17.4	8.7	8.7	4.3
	一般市町村	1,073	22.5	26.6	4.9	4.3	0.5	1.4	12.3	3.8	10.4	13.1	6.7	38.7	5.3	8.0	1.0	0.2	5.8	1.9	7.7	34.9

※1 既存の各種調査に、ヤングケアラーに係る設問を追加するなどの対応を含む

※2 オンライン、対面いずれも含む

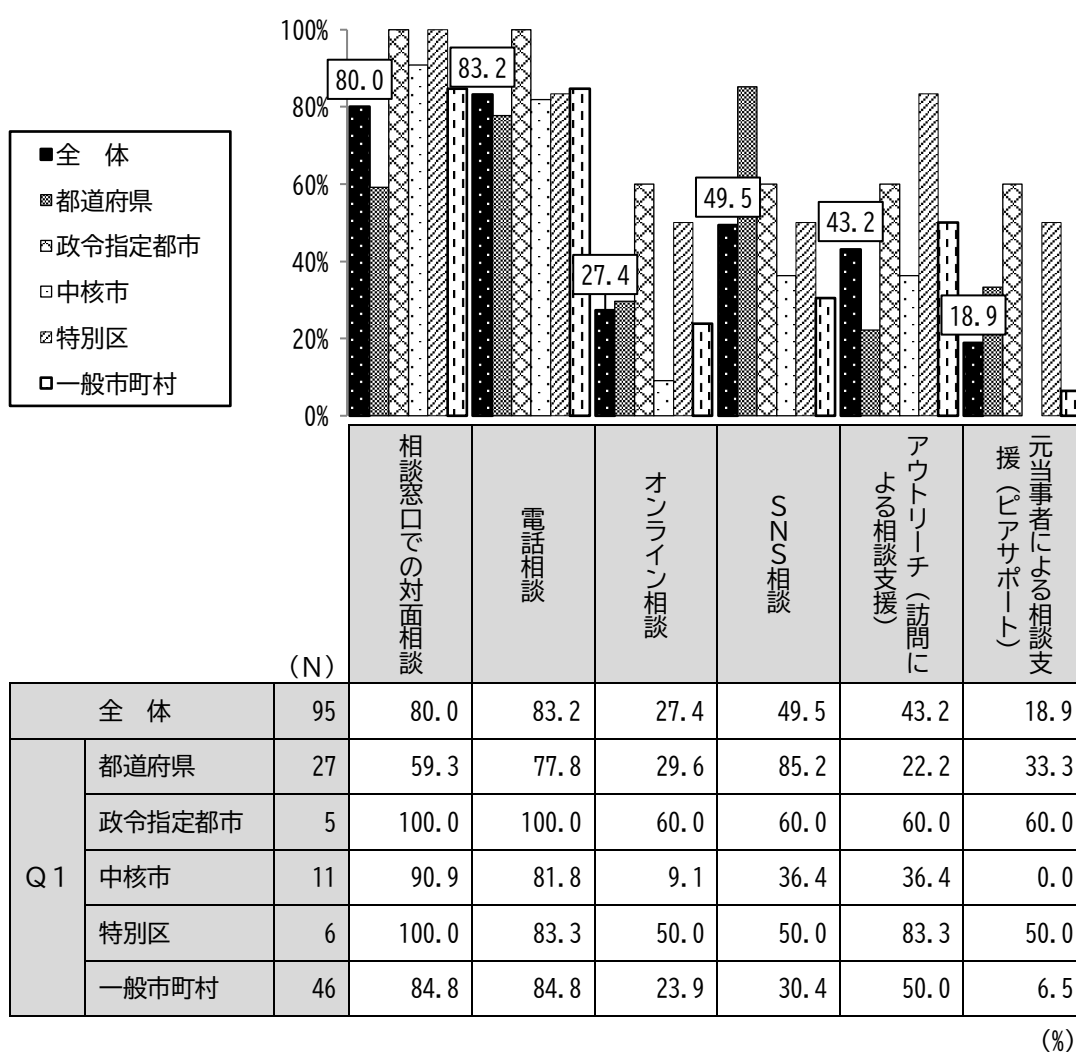
【その他の主な内容】

- 庁内連携強化(会議の開催含む)
- 関係機関との情報共有、協力体制の整備
- 寄り添い・見守り支援 など

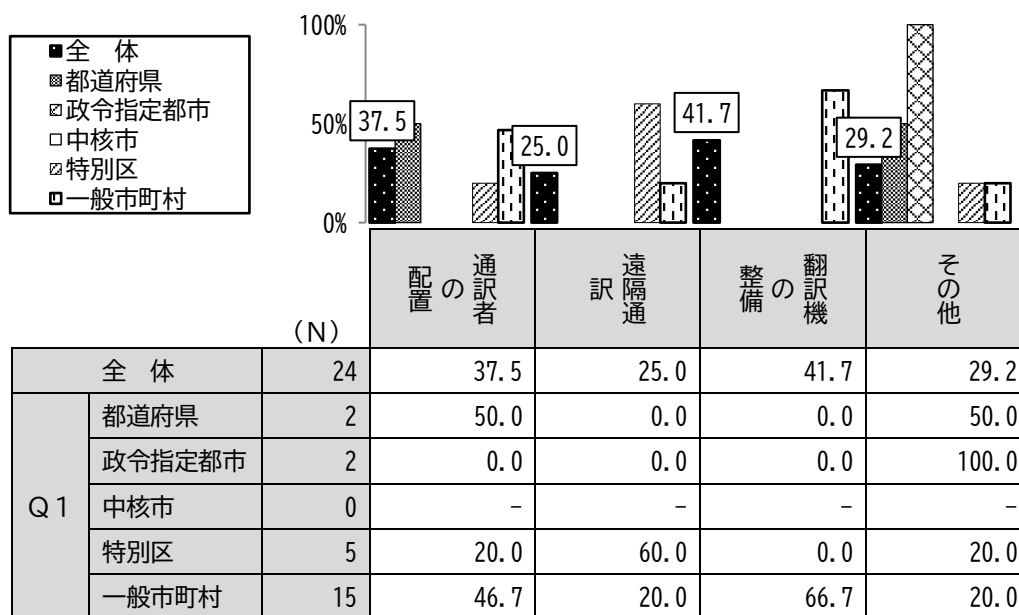
Q6 ヤングケアラー関連の具体的な取組内容 (MA)

Q3 ヤングケアラー関連の取組において、「ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）」、「外国語対応通訳支援」、「配食支援」、「サロンの設置・運営」のいずれかを実施していると回答した自治体に対して、具体的な取組内容を尋ねたところ、それぞれ以下のとおりの結果となった。

図表4-9： Q6 相談窓口の整備等×Q1 自治体種別)



図表4-10：Q6外国語対応通訳支援×Q1 自治体種別

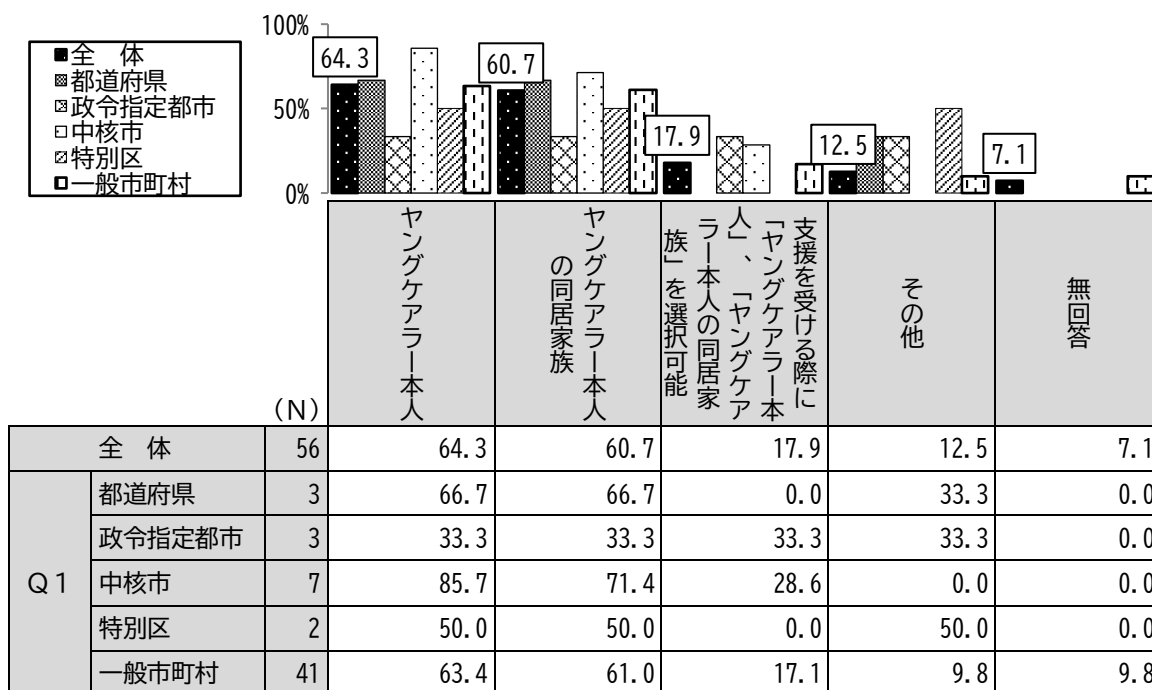


【その他の主な内容】

(%)

- 通訳者の派遣
- 簡単な日本語で説明（一般市町村）
- 通訳者の紹介，マッチング（一般市町村） など

図表4-11：Q6 配食支援:支援対象×Q1 自治体種別

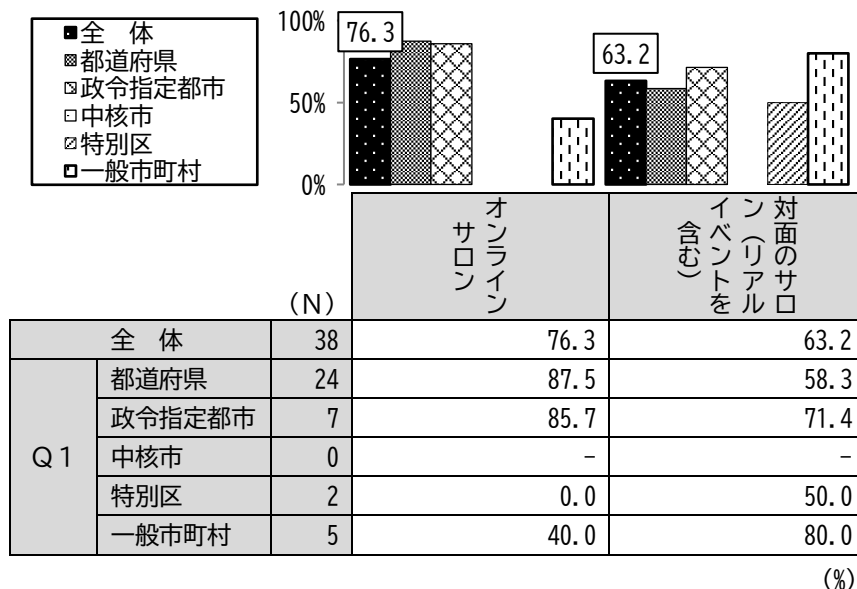


【その他の主な内容】

(%)

- ヤングケアラーに限らず、平素から見守りが必要な児童を対象
- 18歳未満の本人と同居児童 など

図表4-12：Q6 サロンの設置・運営、支援×Q1 自治体種別

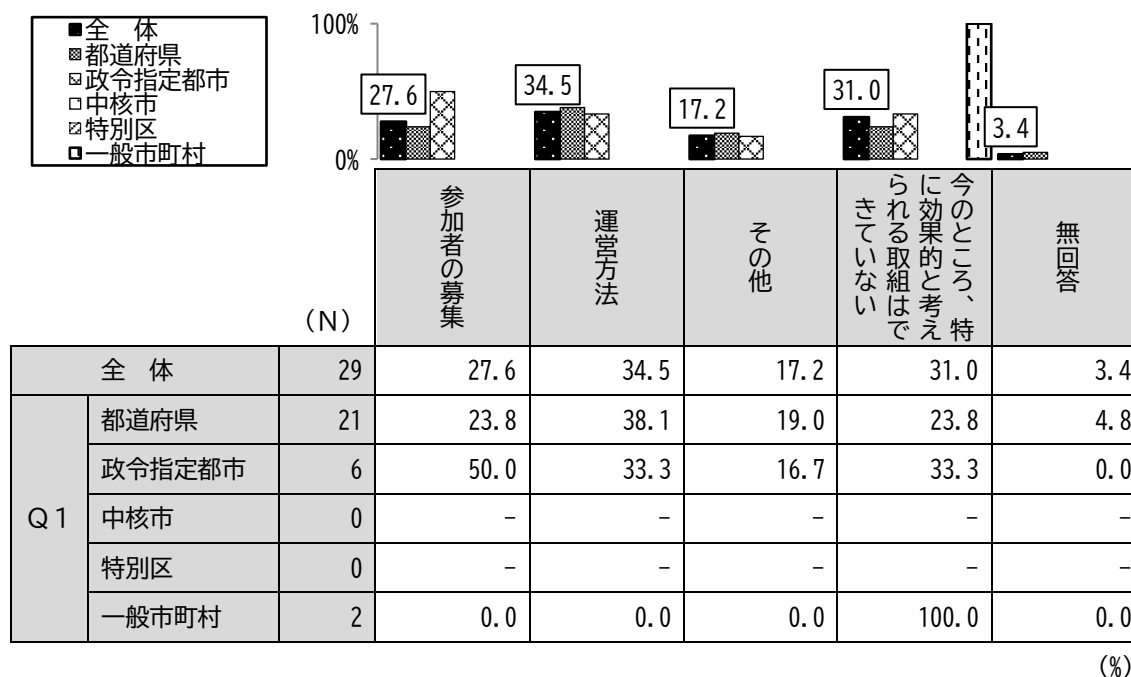


(%)

Q7 オンラインサロンにおける効果的と考えられる取組 (MA) (Q7×Q1 自治体種別)

Q6 ヤングケアラー関連の取組において、「オンラインサロン」を実施していると回答した自治体に対して、オンラインサロンでの効果的と考えられる取組を尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

図表4-13：オンラインサロンでの効果的と考えられる取組 (MA・FA)
(Q7×Q1 自治体種別)



(%)

【その他の主な内容】

- ヤングケアラー支援に熱心な方が実施する
- 民間団体に委託している
- オンラインサロン以外に、参加者の個別相談にも応じる体制を取っている など

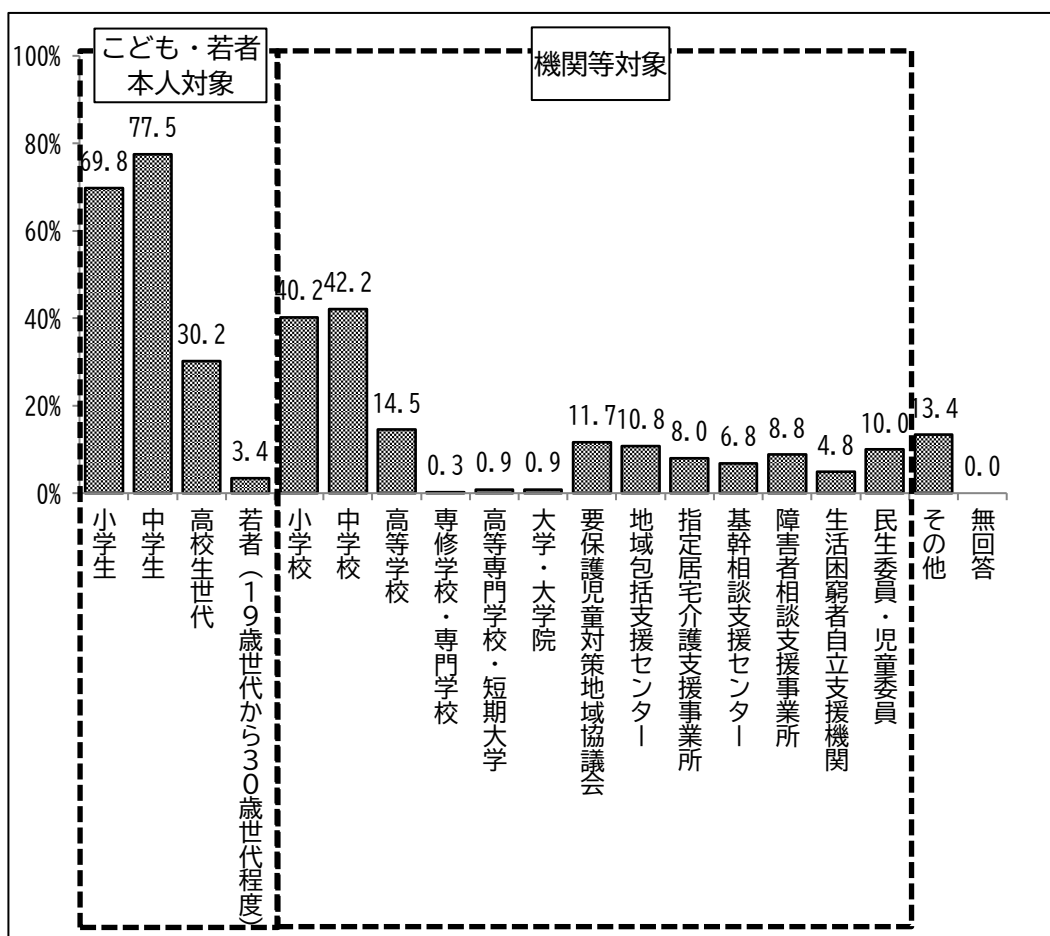
上記の各項目の具体的な内容として、自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

参加者の募集
➤ <u>SNSでの募集や、関係機関・大学等への訪問活動</u> を実施。
➤ <u>各学校の全校生徒へのチラシの配布</u> や、SNSでの情報発信。
➤ 予定ではあるが、オンラインサロンを <u>2部制</u> にし、 <u>1部はヤングケアラー以外も参加可能</u> とし、 <u>2部はヤングケアラーのみ</u> として入り口を広くするようにしている。
➤ 自宅にインターネット環境がない、自宅からは参加しづらいヤングケアラーのため、市内5か所の <u>若者支援施設からもオンライン参加を可能</u> としている。
➤ <u>LINE公式アカウント</u> を開設し、 <u>友だち募集</u> を行っている。 など
運営方法
➤ 運営に関しては、 <u>レクリエーションやティータイムの時間を設け、話しやすい環境づくり</u> を行っている。ケアのため会場への参加が難しい場合は、オンラインでの参加も可。
➤ 当事者支援団体に委託事業として実施しており、 <u>元当事者が運営スタッフに参画することを通じて、当事者が参加しやすくなるような工夫</u> をしながら運営を行っている。
➤ 当事者を含む参加者が <u>食事を作り、来場者に提供する</u> 。(当事者へのエンパワメント、有用感、安心感につながっている)
➤ 実績のある企業に委託し、これまでの経験を踏まえた取り組みを展開してくれている。 <u>先輩ケアラーを招いてのオンラインサロン</u> など、効果があったと考える。
➤ いきなり信頼関係のない人とのオンラインはハードルが高い。 <u>LINE相談などの匿名</u> でも実施できたり、 <u>半分対面のハイブリッド型</u> などをとることによって、 <u>参加者の一定のハードルは下がる</u> 。
➤ 元ヤングケアラーの方が自身の体験を話す内容を <u>ウェビナー形式</u> で実施した。 <u>発言しなくてもよい</u> こともあり、当事者等の方も参加しやすく、ヤングケアラーや若者ケアラー、元ヤングケアラーの方に参加していただけた。 など

Q11 実態調査の調査対象 (MA)

Q3 ヤングケアラー関連の取組において、「実態調査・把握」を実施していると回答した自治体に対して、実態調査の調査対象を尋ねたところ、こども・若者本人向け（小学生、中学生、高校生世代、若者（19歳世代から30歳世代程度））と機関向け（そのほかの項目）で以下のとおりの結果となった。

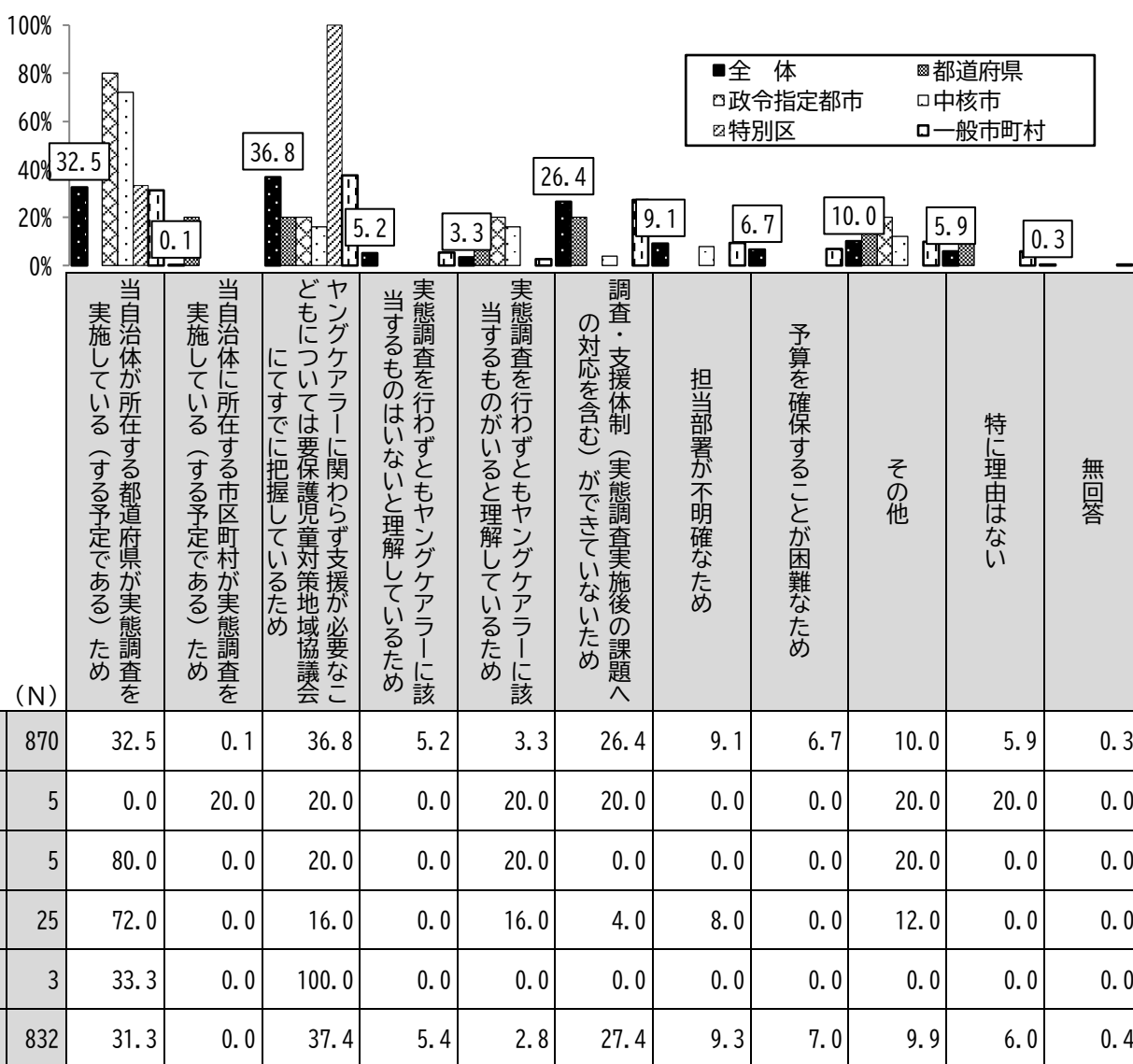
図表4-14：実態調査の調査対象 (MA) (N=351)



Q14 実態調査を実施していない理由 (MA) (Q14×Q1 自治体種別)

Q3 ヤングケアラー関連の取組において、「実態調査・把握」を実施していないと回答した自治体に対して、実態調査を実施していない理由を尋ねたところ、以下のとおり結果となった。

図表4-15：実態調査を実施していない理由 (MA) (N=870)



(%)

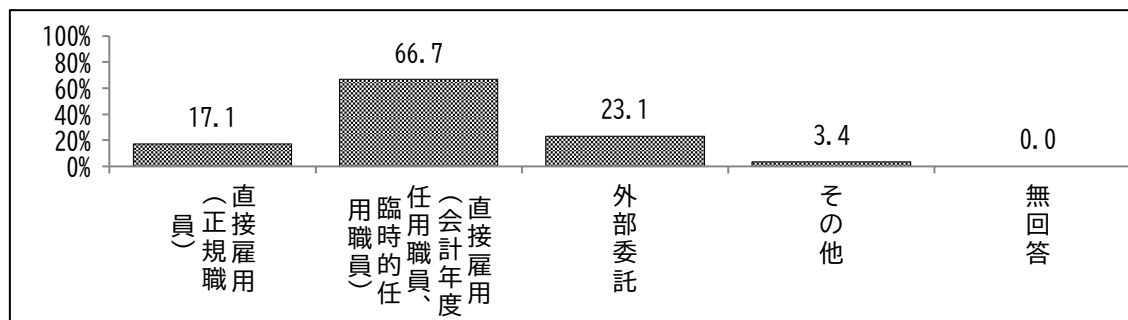
【その他の主な内容】

- 今後実施予定
- 実態調査を行わずとも把握できる体制や取組があるため
- 実態調査を行う必要性を感じないため（費用対効果が低いを含む） など

Q18 ヤングケアラー・コーディネーターの雇用・契約形態 (MA)

Q3ヤングケアラー関連の取組において、「ヤングケアラー・コーディネーターの配置」をしていると回答した自治体に対して、ヤングケアラー・コーディネーターの雇用・契約形態を尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

図表4-16：ヤングケアラー・コーディネーターの雇用・契約形態 (MA) (N=117)



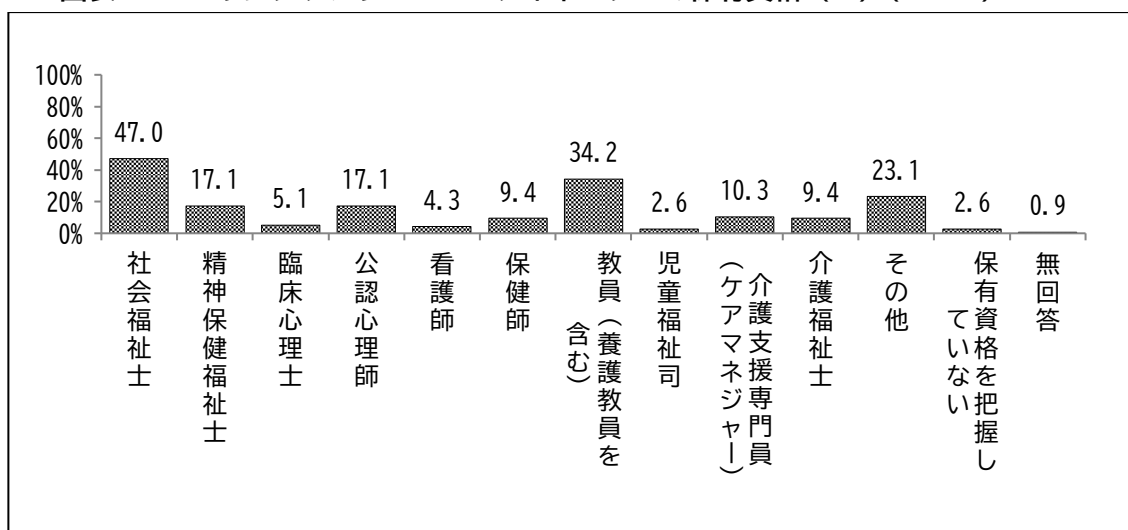
【その他の主な内容】

- 公益財団法人日本財団と民間団体の3者協定により実施
- 相談員として委嘱 など

Q20 ヤングケアラー・コーディネーターの保有資格 (MA)

Q3ヤングケアラー関連の取組において、「ヤングケアラー・コーディネーターの配置」をしていると回答した自治体に対して、ヤングケアラー・コーディネーターの保有資格を尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

図表4-17：ヤングケアラー・コーディネーターの保有資格 (MA) (N=117)



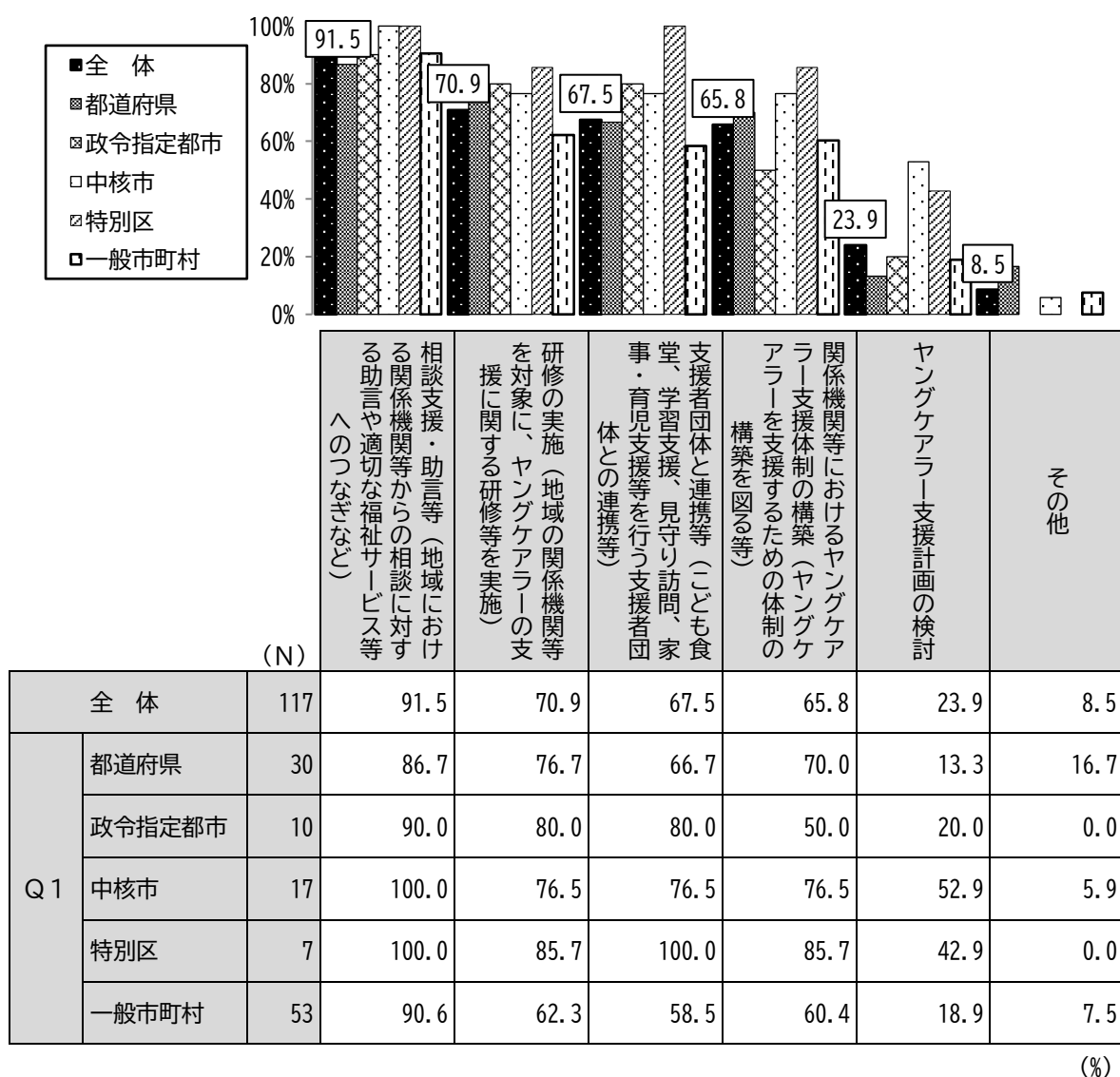
【その他の主な内容】

- 保育士
- スクールソーシャルワーカー など

Q21 ヤングケアラー・コーディネーターが担う役割 (MA) (Q21×Q1 自治体種別)

Q3 ヤングケアラー関連の取組において、「ヤングケアラー・コーディネーターの配置」をしていると回答した自治体に対して、ヤングケアラー・コーディネーターが担う役割を尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

図表4-18：ヤングケアラー・コーディネーターの役割 (MA) (Q21×Q1 自治体種別)



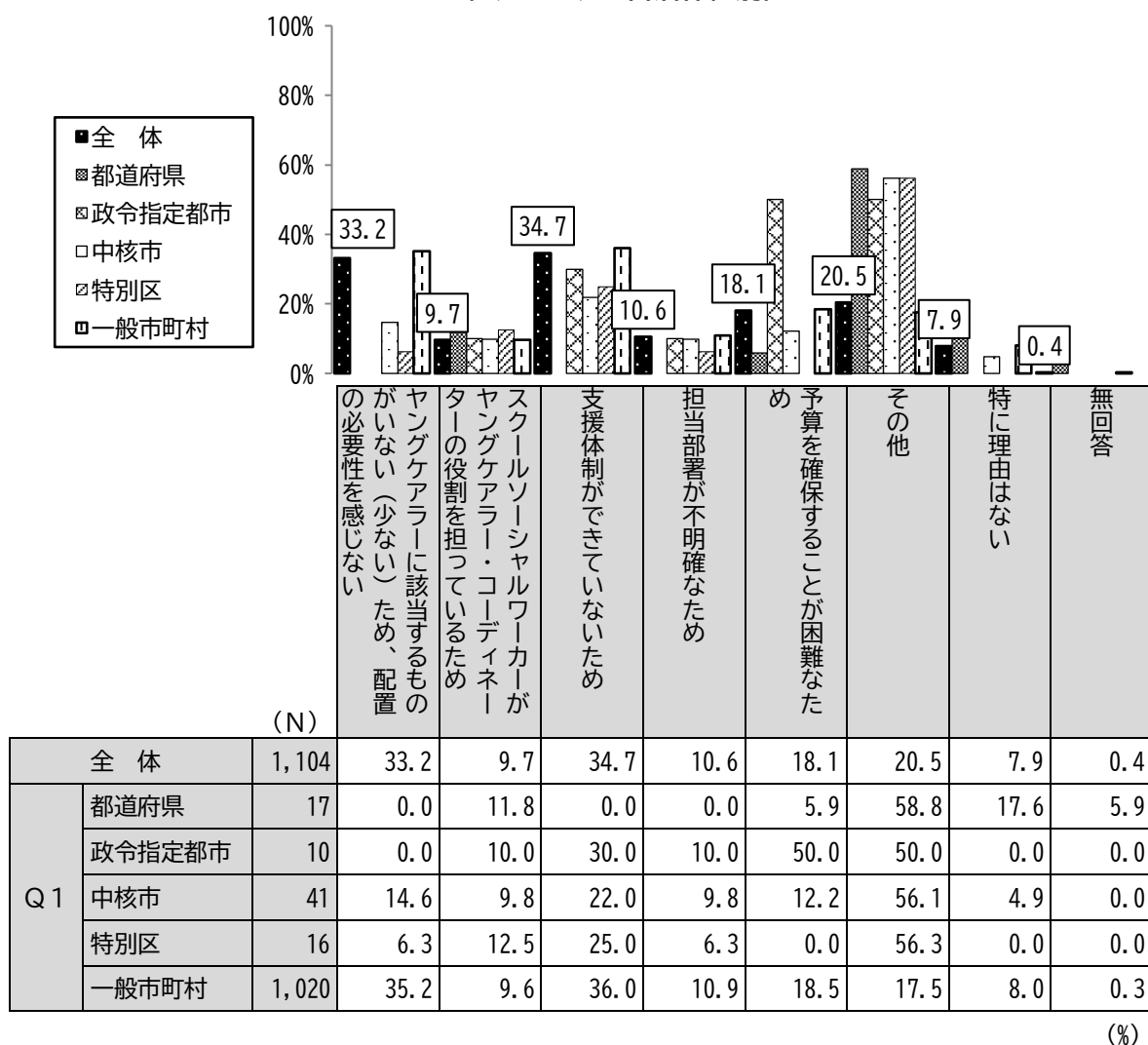
【その他の主な内容】

- 市町村に対する講演
- 居場所支援における企画・運営
- 啓発活動 など

Q23 ヤングケアラー・コーディネーターを配置していない理由 (MA) (Q23×Q1 自治体種別)

Q3 ヤングケアラー関連の取組において、「ヤングケアラー・コーディネーターの配置」をしていないと回答した自治体に対して、その理由を尋ねたところ、以下の通りの結果となった。

図表4-19：ヤングケアラー・コーディネーターを配置していない理由 (MA)
(Q23×Q1 自治体種別)



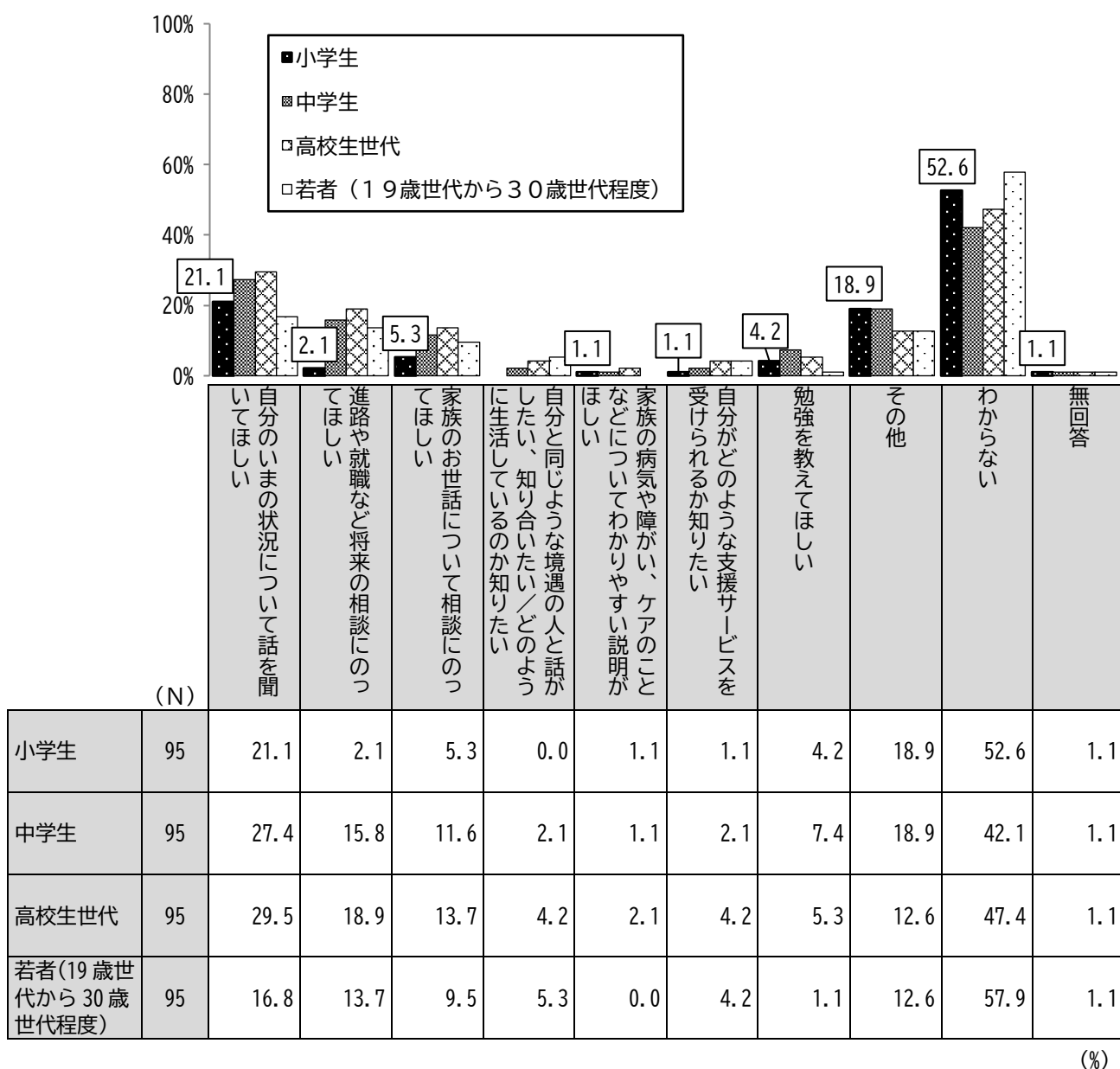
【その他の主な内容】

- 総合相談（専門スタッフ）及び重層的支援などの連携体制があるため
- 児童福祉部門のソーシャルワーカーが担う
- 家庭相談員が対応している
- 人材不足 など

Q24 相談支援において、相談内容（主訴）として多いもの（MA）

Q3 ヤングケアラー関連の取組において、「ピアサポート等相談支援体制の推進」をしていると回答した自治体に対して、相談内容（主訴）として多いものを尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

図表4-20：相談支援において、相談内容（主訴）として多いもの（MA）



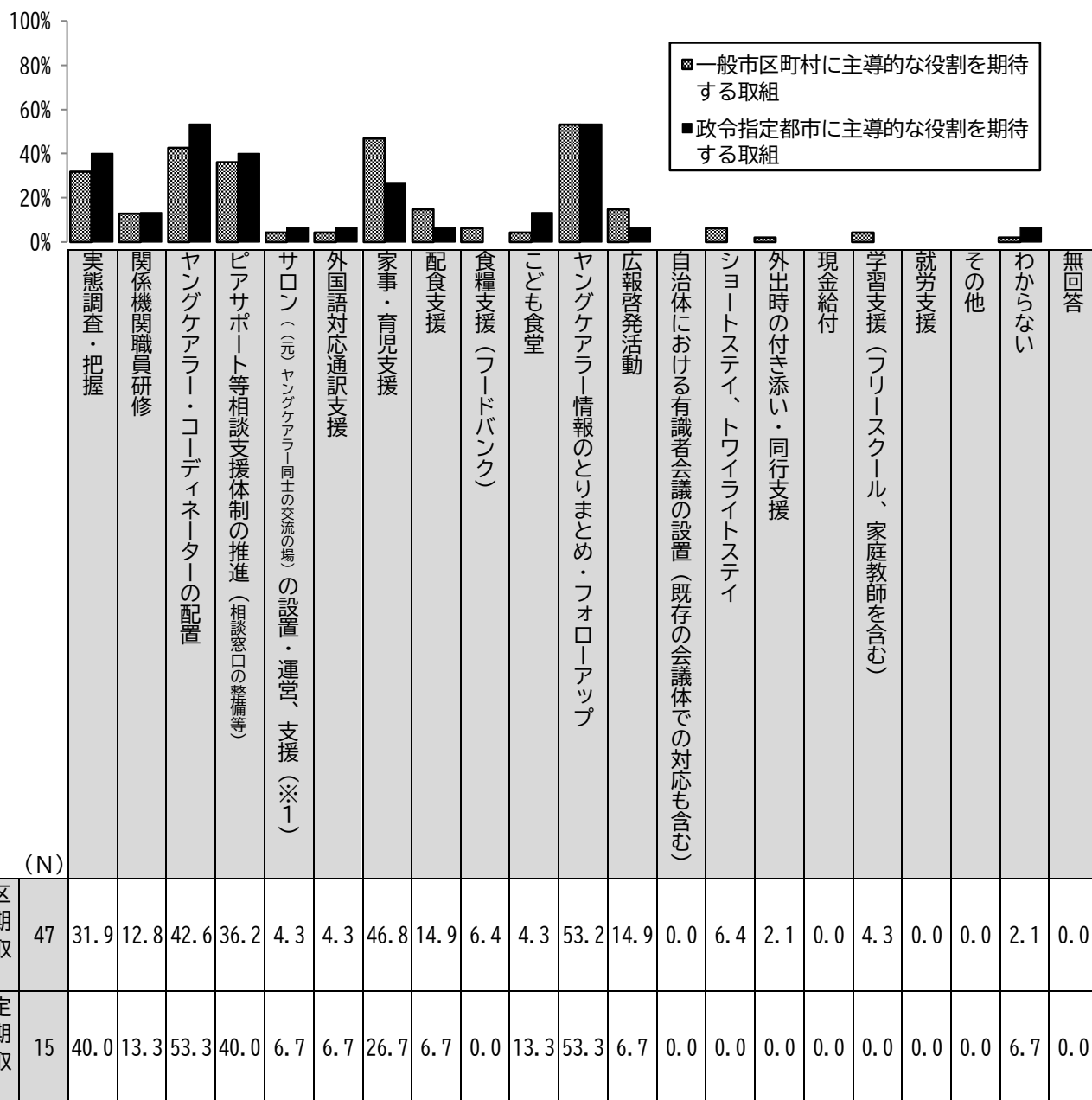
【その他の主な内容】

- 相談実績なし
- 話をしたり一緒に遊んでほしい
- 家事援助 など

Q28 都道府県が、市区町村に主導的な役割を期待する取組 (MA)

都道府県が、市区町村に主導的な役割を期待する取組は以下のとおりである。

図表4-21：都道府県が、市区町村に主導的な役割を期待する取組 (MA：上位3つまで)



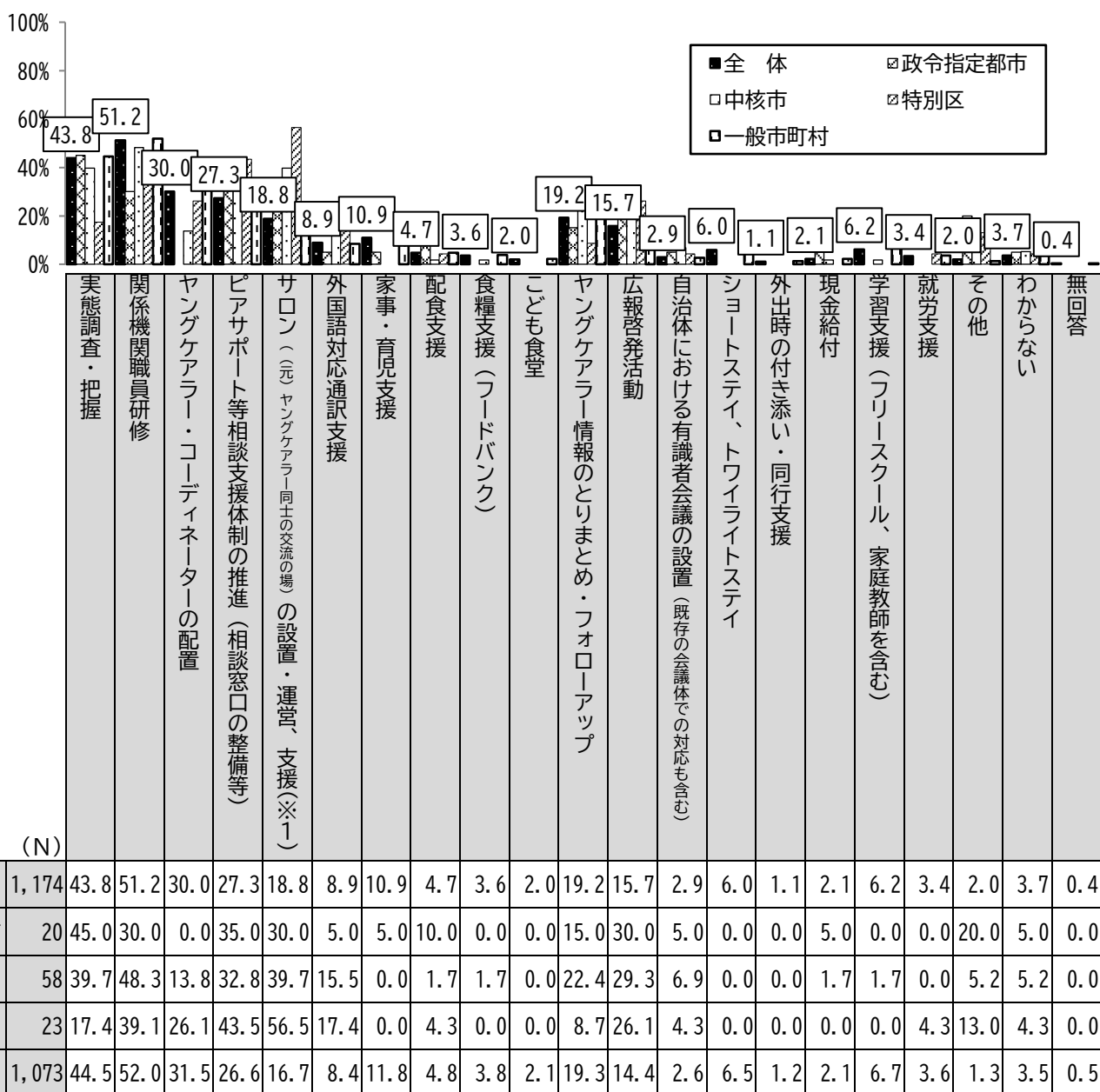
※1：オンライン、対面いずれも含む

(%)

Q29 市区町村が、都道府県に主導的な役割を期待する取組 (MA)

市区町村が、都道府県に主導的な役割を期待する取組は以下のとおりである。

図表4-22：市区町村が、都道府県に主導的な役割を期待する取組 (MA：上位3つまで)



※1：オンライン、対面いずれも含む

(%)

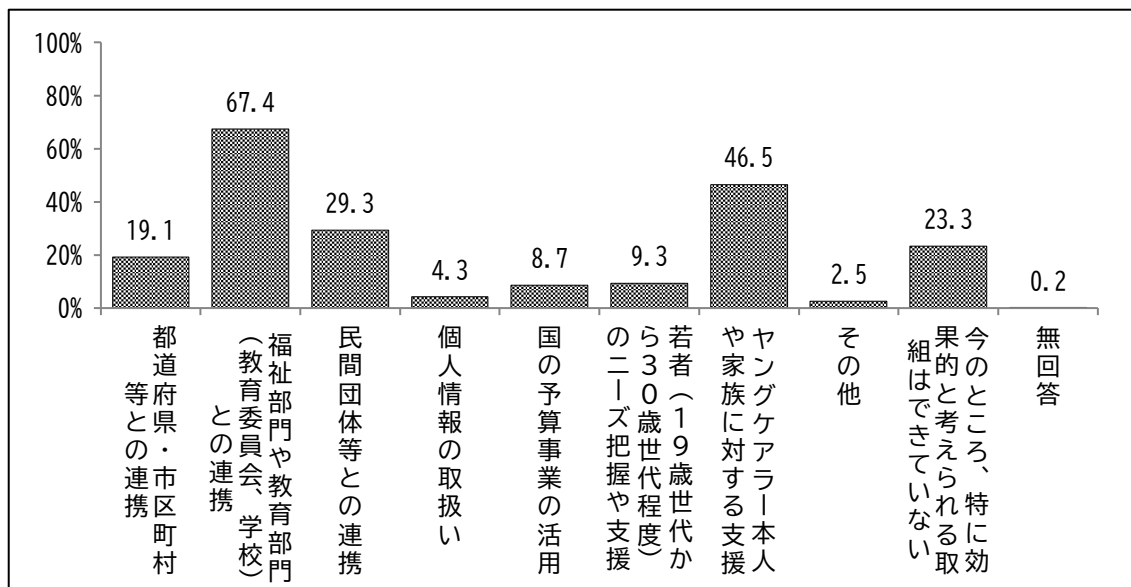
【その他の主な内容】

- 新たな支援サービスの創設
- 教育部門に対する主体的な研修や把握の働きかけ、福祉部局との連携
- 情報提供システムの構築 など

Q30 貴自治体が行うヤングケアラー支援において、特に効果的と考えられる取組 (MA)

すべての自治体種別に対して、自治体が行うヤングケアラー支援において、特に効果的と考えられる取組を尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

図表4-23：貴自治体が行うヤングケアラー支援において、特に効果的と考えられる取組 (MA) (N=1,221)



【その他の主な内容】

- ヤングケアラーに関する情報発信 (普及啓発)
- 当事者・元当事者団体との連携
- 重層的支援体制の構築 など

また、自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

【都道府県・市区町村等との連携】
➢ 高校は県立高校が多いため、 <u>情報提供や実態把握などは県教育委員会の協力が不可欠。</u>
➢ 県から市町村 (3か所) に対して、 <u>支援体制の構築を図るモデル事業を委託して実施している。</u> モデル事業の中において、市町村が県立高校を訪問するアウトリーチ型支援にも取り組んでいる。
➢ 各種民間団体、福祉教育の資源を持ち寄り、 <u>県のコーディネート事業で支援に対する助言を得て対応するため。</u> など
【福祉部門や教育部門 (教育委員会、学校) との連携】
➢ <u>本人や家族に寄り添うことからケアの実態や事実が判明するため、こどもの居場所である学校との連携は欠かせない。</u>
➢ 教育部門から福祉部門へ、 <u>児童生徒が長期欠席している情報を提供してもらうことで、長期欠席の原因である課題に気づき、速やかに支援策を検討・実施することができる。</u>
➢ 複数の関係機関が関わるケースが多く、 <u>要保護児童対策地域協議会ベースでの支援がやりやすい。</u>

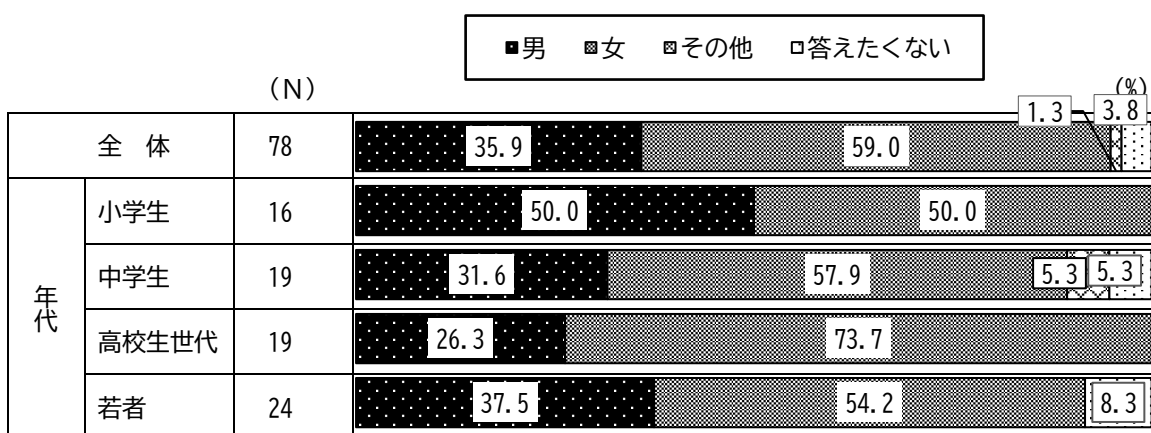
<p>➤ <u>市（町村）が県立高校を訪問することで相談を受ける（ヤングケアラーを把握する）ケースが増加している。</u></p>
<p>➤ 学校がヤングケアラー発見のきっかけになることが多く、<u>家族の状況やこどもの気持ちを聞き出しやすい関係性</u>である。</p>
<p>➤ 小中学校が実施している「<u>学校生活アンケート</u>」において、ヤングケアラーに該当する<u>児童について情報共有</u>を行い、窓口である福祉課が把握できているため「福祉部門や教育部門」との連携は効果的であると考えます。</p>
<p>➤ 研修を行う上で、<u>福祉の視点と教育の視点を共存させる</u>ことは重要と考えます。</p>
<p>➤ 要保護児童対策地域協議会や教育部門と情報共有を行い、<u>福祉サービスの利用や子ども食堂等の情報提供</u>を行って、<u>利用につなげている。</u></p>
<p>➤ 教育部門と連携し、学校を通じて児童生徒に広報啓発を行っているほか、学校における対応フロー等について、<u>連携支援マニュアル</u>を作成している。 など</p>
<p>【民間団体等との連携】</p>
<p>➤ 支援対象児童等見守り強化事業を活用し、民間団体へヤングケアラー等の<u>気になる世帯へ定期的に訪問し、実態把握</u>を行う事業を補助事業として実施している。</p>
<p>➤ 家事や学習の支援について、<u>ヘルパー事業所やシルバー人材センター、学習塾などの民間事業者等と協力すること</u>で効果があると考えられる。</p>
<p>➤ 支援対象児童等見守り強化事業を導入し、ハイリスクな家庭を訪問することで、<u>家庭の孤立化を防いでいる。</u> など</p>
<p>【個人情報の取扱い】</p>
<p>➤ <u>要対協を活用</u>した個人情報の取扱い など</p>
<p>【国の予算事業の活用】</p>
<p>➤ 市の単独予算での事業実施は難しく、<u>国庫補助等を活用しての実施が現実的</u>である。</p>
<p>➤ 国の予算事業を利用することで、<u>関係機関職員研修・LINE 相談窓口等幅広い支援を行うことができる。</u></p>
<p>➤ 国の予算を活用し、実態把握調査ができ、<u>ヤングケアラーの概数把握</u>ができた。 など</p>
<p>【若者（19歳世代から30歳世代程度）のニーズ把握や支援】</p>
<p>➤ 府で設置しているヤングケアラーの相談窓口については<u>年齢制限を設けておらず</u>、また、当事者同士のつどい事業（オンラインコミュニティ）について、概ね30歳までを対象としており、こども・若者について<u>年齢を区切らずに支援</u>を行っている。 など</p>
<p>【ヤングケアラー本人や家族に対する支援】</p>
<p>➤ ヤングケアラーについて、<u>若者からのメッセージ</u>がもっと今の児童に身近に感じられるような発信。</p>
<p>➤ <u>家事援助・配食サービス</u>を行うことでヤングケアラー本人や家族の<u>身体的・精神的負担軽減</u>につながる。</p>
<p>➤ 7月からヤングケアラーサポート LINE（SNS相談）を始め、登録者数は日々増加傾向にある。</p>
<p>➤ 本人の意思や家族の状況など、それぞれちがうので、<u>まず本人の意思を尊重</u>する。</p>
<p>➤ こどもの意見表明権があることなど<u>こども自身の権利</u>について<u>知ること、学習することの必要性</u>を感じる。</p>
<p>➤ <u>近隣家庭や民生児童委員と連携</u>した支援 など</p>

(2) ヤングケアラー本人に対するアンケート調査結果

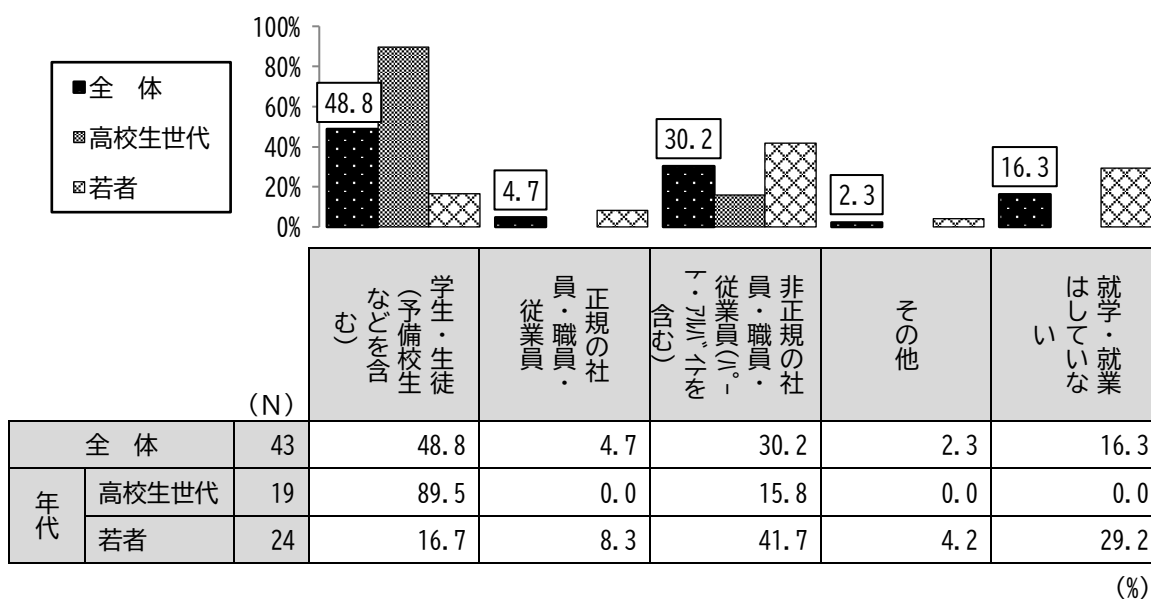
Q10(小中学生) Q2、4、5(高校生世代以上) 回答者属性

回答者属性(性別、高校生以上の職業、居住地)は、それぞれ以下のとおりである。

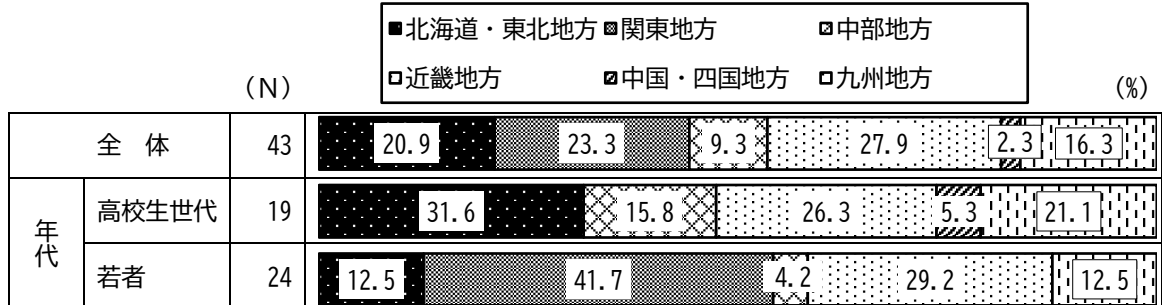
図表4-24：性別



図表4-25：高校生以上の職業



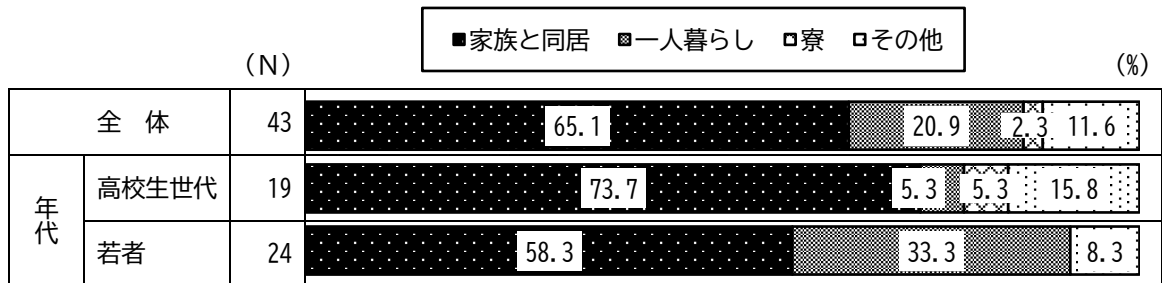
図表4-26：居住地



Q6(高校生世代以上) 住まい方 (SA)

回答者の住まい方は以下のとおりである。

図表4-27：住まい方 (SA)



Q11(小中学生) Q 7(高校生世代以上) 同居家族 (MA)

回答者の同居家族は以下のとおりである。

図表4-28：同居家族 (MA)

※同居家族の回答割合の上位3つに色づけ

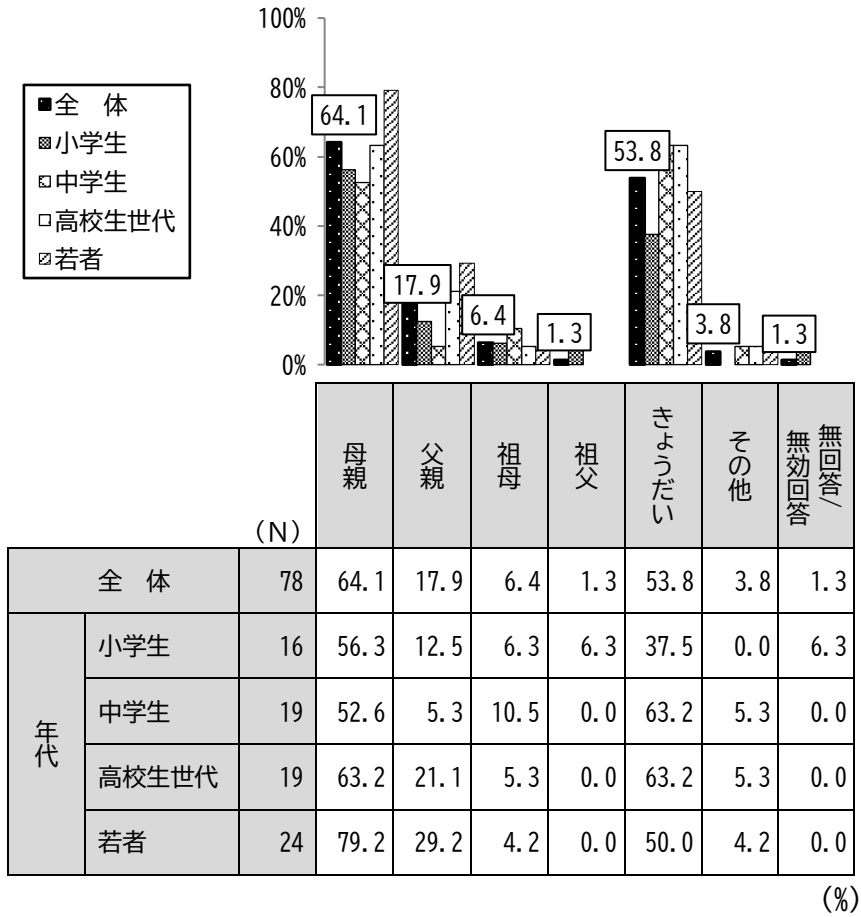
(%)

		(N)	母親	父親	兄	姉	弟	妹	祖母	祖父	曾祖母	曾祖父	叔母	叔父	あなたの配偶者・パートナー	あなたの子	いとこ	甥、姪	母親のパートナー	父親のパートナー	その他	
全体		63	82.5	46.0	19.0	15.9	44.4	34.9	9.5	1.6	0.0	0.0	0.0	3.2	1.6	1.6	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	
年代	小学生	16	81.3	43.8	31.3	18.8	50.0	37.5	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0
	中学生	19	89.5	31.6	26.3	26.3	42.1	36.8	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高校生世代	14	78.6	57.1	14.3	14.3	57.1	35.7	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	若者	14	78.6	57.1	0.0	0.0	28.6	28.6	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q12(小中学生) Q 9(高校生世代以上) ケア対象者 (MA)

回答者のケアの対象者は以下のとおりである。

図表 4-29：ケアの対象者 (MA)



Q13(小中学生) Q10(高校生世代以上) ケア対象者の状況（お世話を必要とする理由）(MA)

お世話を必要とする理由について尋ねたところ、①小中学生、②高校生世代以上で、それぞれ結果は以下のとおりである（①、②で質問形式が異なるため、図表を分けている（以下同様））。

母親の場合は「こころの病気」のケースが多く、きょうだいの場合は、年代で異なる傾向がみられた（小中学生では「若い」、高校生世代以上では「発達障がい」が多い）。

図表4-30：お世話を必要とする理由（小中学生）

※回答割合の上位3つに色づけ

	(N)	高齢 (65歳以上)	若い	要 介護 (食事や身の回りのお世話)が必 要	認知症	身体障がい	知的障がい	発達障がい ※疑い含む	こころの病気(うつ病など) ※疑い 含む	依存症(お酒やギャンブルなどをやめ られず、生活に問題を抱えている)	こころの病気、依存症以外の病気	日本語が苦手	その他	わからない
お母さん/ お父さん	20	0.0	—	10.0	0.0	5.0	0.0	15.0	80.0	15.0	20.0	5.0	5.0	5.0
おばあさん/ おじいさん	3	66.7	—	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
きょうだい	18	—	50.0	5.6	—	0.0	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	5.6
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

図表4-31：お世話を必要とする理由（高校生世代以上）

※回答割合の上位3つに色づけ

(%)

	(N)	高齢 (65歳以上)	幼 い	要 介 護 (食事や身の回りのお世話)が必 要	認 知 症	身 体 障 が い	知 的 障 が い	発 達 障 が い ※疑い含む	精 神 疾 患 (うつ病など) ※疑い含む	依 存 症 (お酒やギャンブルなどをやめ られず、生活に問題を抱えている)	精 神 疾 患、 依 存 症 以 外 の 病 気	日 本 語 が 苦 手	そ の 他
母親	31	3.2	—	9.7	0.0	6.5	6.5	16.1	90.3	0.0	6.5	0.0	6.5
父親	11	9.1	—	36.4	0.0	36.4	0.0	9.1	18.2	18.2	27.3	9.1	18.2
祖母	2	100.0	—	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
祖父	0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
きょうだい	24	—	29.2	4.2	—	4.2	16.7	54.2	25.0	0.0	12.5	4.2	16.7
その他	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0

Q14(小中学生) Q11(高校生世代以上) 実施しているケアの内容 (MA)

実施しているケアの内容について尋ねたところ、①小中学生、②高校生世代以上で、それぞれ結果は以下のとおりである。

年代を問わず「家事」、「話を聞く（感情面のサポート）」、「見守り」を行うケアラーが多く、また、高校生世代以上では、「家計支援」を担うケアラーも少なくないといえる。

図表4-32：実施しているケアの内容（小中学生）

※回答割合の上位3つに色づけ

(%)

(N)		家事（食事の準備や掃除、洗濯）	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩と一緒にいく	病院へ一緒に行く	病院などにいる家族に会いに行く	医療的なお世話（痰の吸引など）	話を聞く（感情面のサポート）	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	きょうだいのお世話や送り迎え	その他	無回答/無効回答
全体	35	51.4	25.7	45.7	28.6	8.6	2.9	68.6	54.3	2.9	0.0	20.0	25.7	8.6	2.9

図表4-33：実施しているケアの内容（高校生世代以上）

※回答割合の上位3つに色づけ

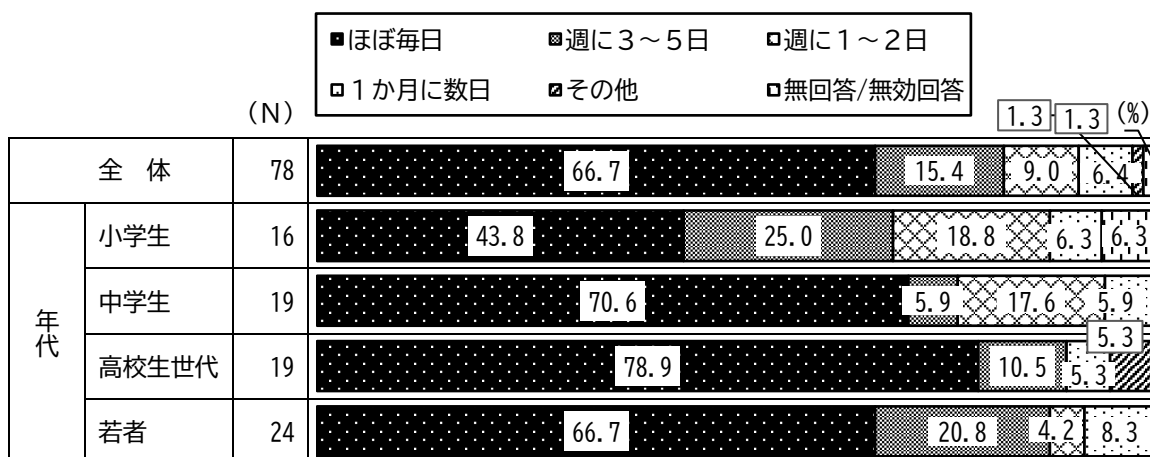
(%)

(N)	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	お世話など	身体的な介護（入浴やトイレのサポート）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	入院や入所をしている家族との面会	医療的なお世話（痰の吸引など）	話を聞く（感情面のサポート）	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	家計支援（家族のためにバイトで働くなど）	薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	その他	無回答/無効回答
母親	31	51.6	19.4	9.7	38.7	38.7	16.1	3.2	77.4	54.8	0.0	22.6	45.2	12.9	6.5	0.0	
父親	11	88.9	0.0	0.0	44.4	44.4	0.0	0.0	88.9	22.2	11.1	11.1	44.4	22.2	33.3	0.0	
祖母	2	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
祖父	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
きょうだい	24	45.8	62.5	12.5	25.0	33.3	12.5	0.0	54.2	70.8	0.0	20.8	33.3	16.7	20.8	0.0	
その他	2	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	

Q15(小中学生) Q12(高校生世代以上) ケアの頻度 (SA)

回答者のケアの頻度は以下のとおりであり、「ほぼ毎日」が多数派であった。

図表4-34：ケアの頻度 (SA)

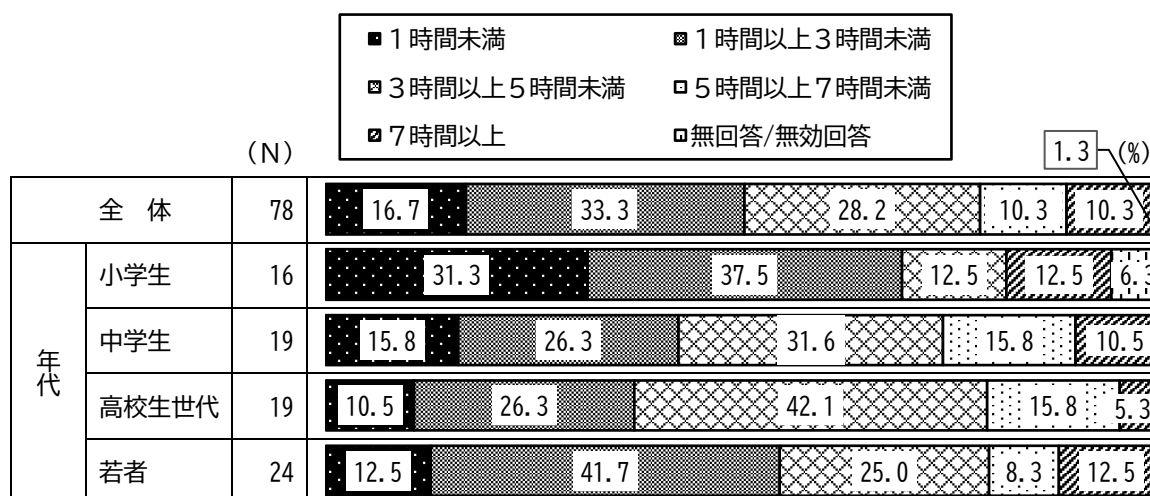


Q16(小中学生) Q13(高校生世代以上) ケアに費やす時間 (SA)

回答者がケアに費やす時間(平日1日あたり)※は以下のとおりであり、中高生では「3時間以上5時間未満」が最も多く見られた。

※ 日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間

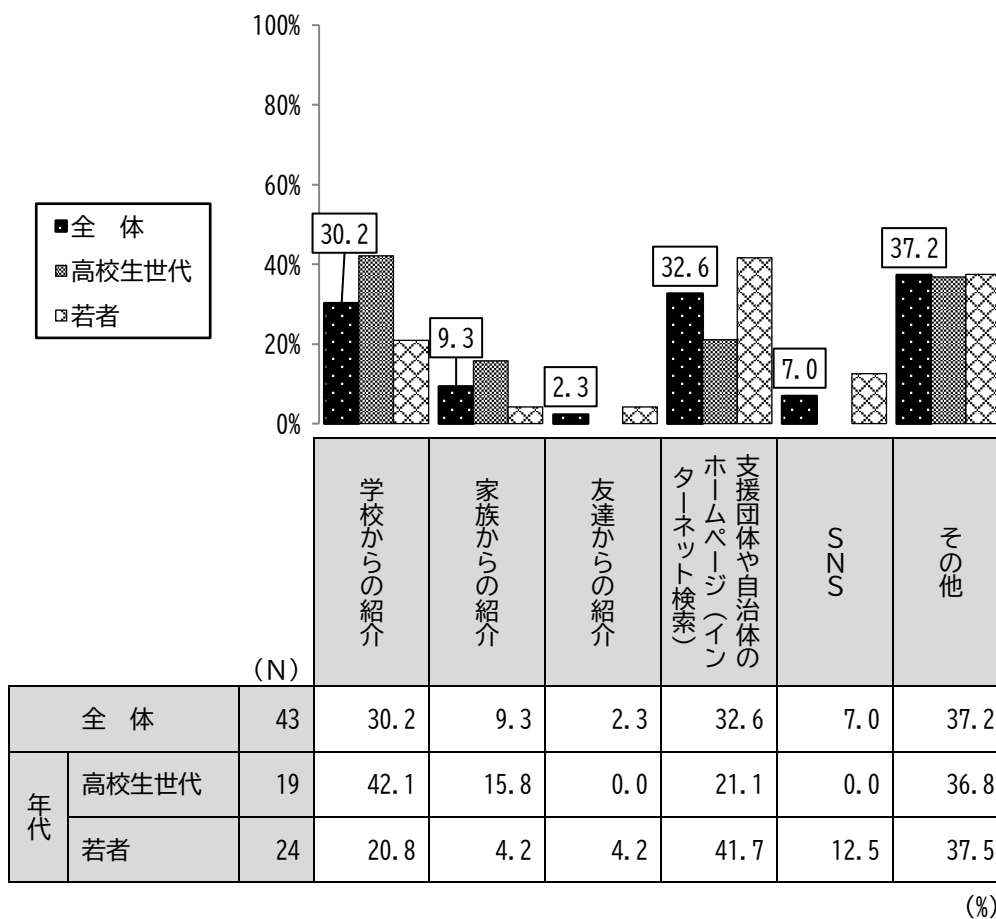
図表4-35：ケアに費やす時間 (SA)



Q15(高校生世代以上) 支援サービスを知ったきっかけ (MA)

回答者が支援サービスを知ったきっかけを尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

図表4-36：支援サービスを知ったきっかけ (MA)



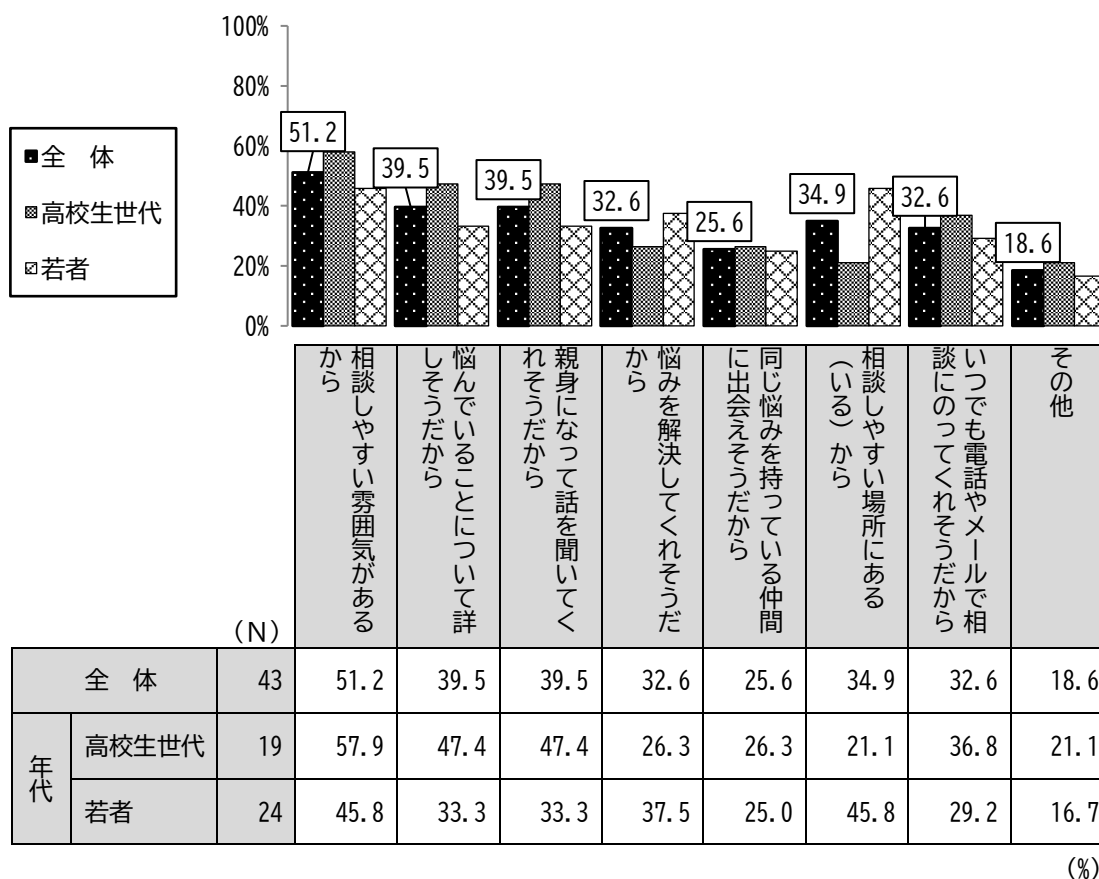
【その他の主な内容】

- 市役所の担当の人からの紹介
- 就労準備支援センター
- 社会福祉協議会 など

Q16(高校生世代以上) 支援サービスを利用したきっかけ (MA)

回答者が支援サービスを利用したきっかけを尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

図表4-37：支援サービスを利用したきっかけ (MA)



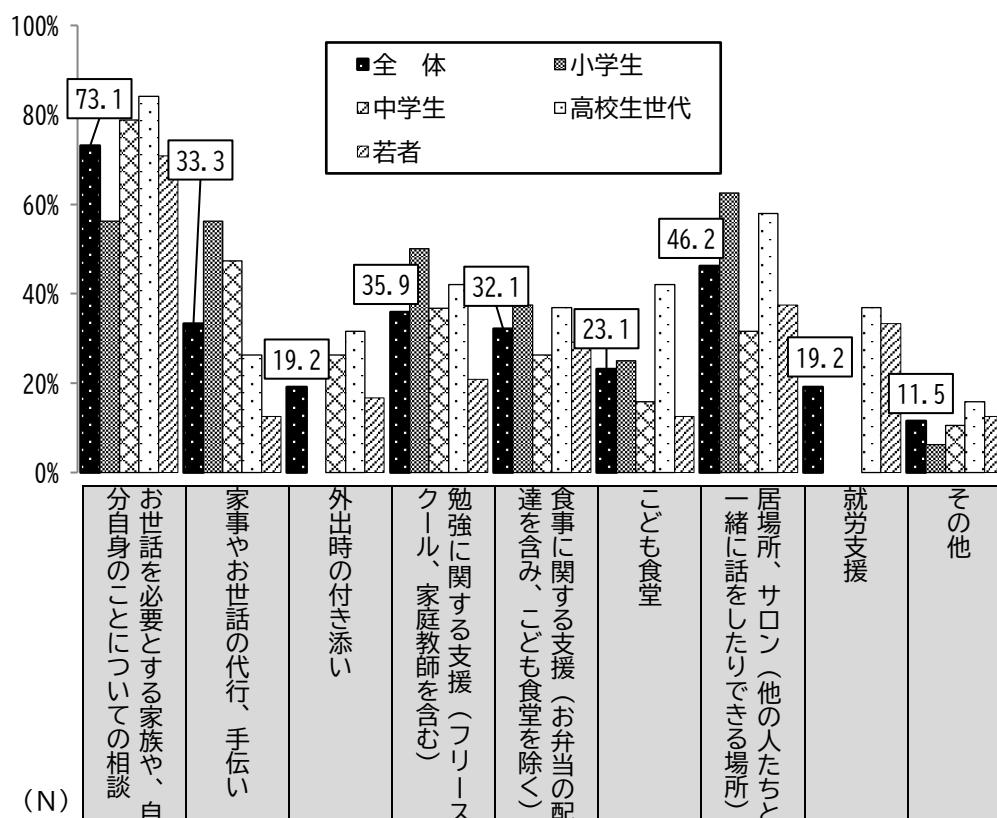
【その他の主な内容】

- 身近に相談先がないから
- 弁当の宅配サービスに魅力があったから など

Q2(小中学生) Q17(高校生世代以上) 利用したことがある支援サービス (MA)

回答者が利用したことがある支援サービスを尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

図表4-38：利用している（した）支援サービス (MA)



		(N)	お世話が必要とする家族や、自分自身のことについての相談	家事やお世話の代行、手伝い	外出時の付き添い	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	子ども食堂	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	就労支援	その他
年代	全体	78	73.1	33.3	19.2	35.9	32.1	23.1	46.2	19.2	11.5
	小学生	16	56.3	56.3	0.0	50.0	37.5	25.0	62.5	-	6.3
	中学生	19	78.9	47.4	26.3	36.8	26.3	15.8	31.6	-	10.5
	高校生世代	19	84.2	26.3	31.6	42.1	36.8	42.1	57.9	36.8	15.8
	若者	24	70.8	12.5	16.7	20.8	29.2	12.5	37.5	33.3	12.5

(%)

Q3(小中学生) Q18(高校生世代以上) 利用してよかったと一番に感じる支援 (SA)

利用してよかったと一番に感じる支援を尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。利用してよかった支援について、家事能力が相対的に低い小中学生はそのニーズが高く、中学生以上においては徐々に「相談」の割合が高まる傾向がみられた。

図表4-39：利用してよかったと一番に感じる支援 (SA)

(%)

		(N)	自身のことについての相談	お世話を必要とする家族や、自分	家事やお世話の代行、手伝い	外出時の付き添い	勉強に関する支援(フリースクール、家庭教師を含む)	食事に関する支援(お弁当の配達を含み、こども食堂を除く)	こども食堂	居場所、サロン(他の人たちと一緒に話をしたりできる場所)	就労支援	その他	利用してよかったと感じた支援サービスはない	無回答/無効回答
全体		78	34.6	12.8	0.0	6.4	7.7	5.1	12.8	1.3	7.7	3.8	7.7	
年代	小学生	16	18.8	25.0	0.0	6.3	6.3	6.3	12.5	-	0.0	6.3	18.8	
	中学生	19	26.3	26.3	0.0	5.3	5.3	5.3	10.5	-	5.3	5.3	10.5	
	高校生世代	19	42.1	0.0	0.0	5.3	5.3	10.5	15.8	0.0	10.5	5.3	5.3	
	若者	24	45.8	4.2	0.0	8.3	12.5	0.0	12.5	4.2	12.5	0.0	0.0	

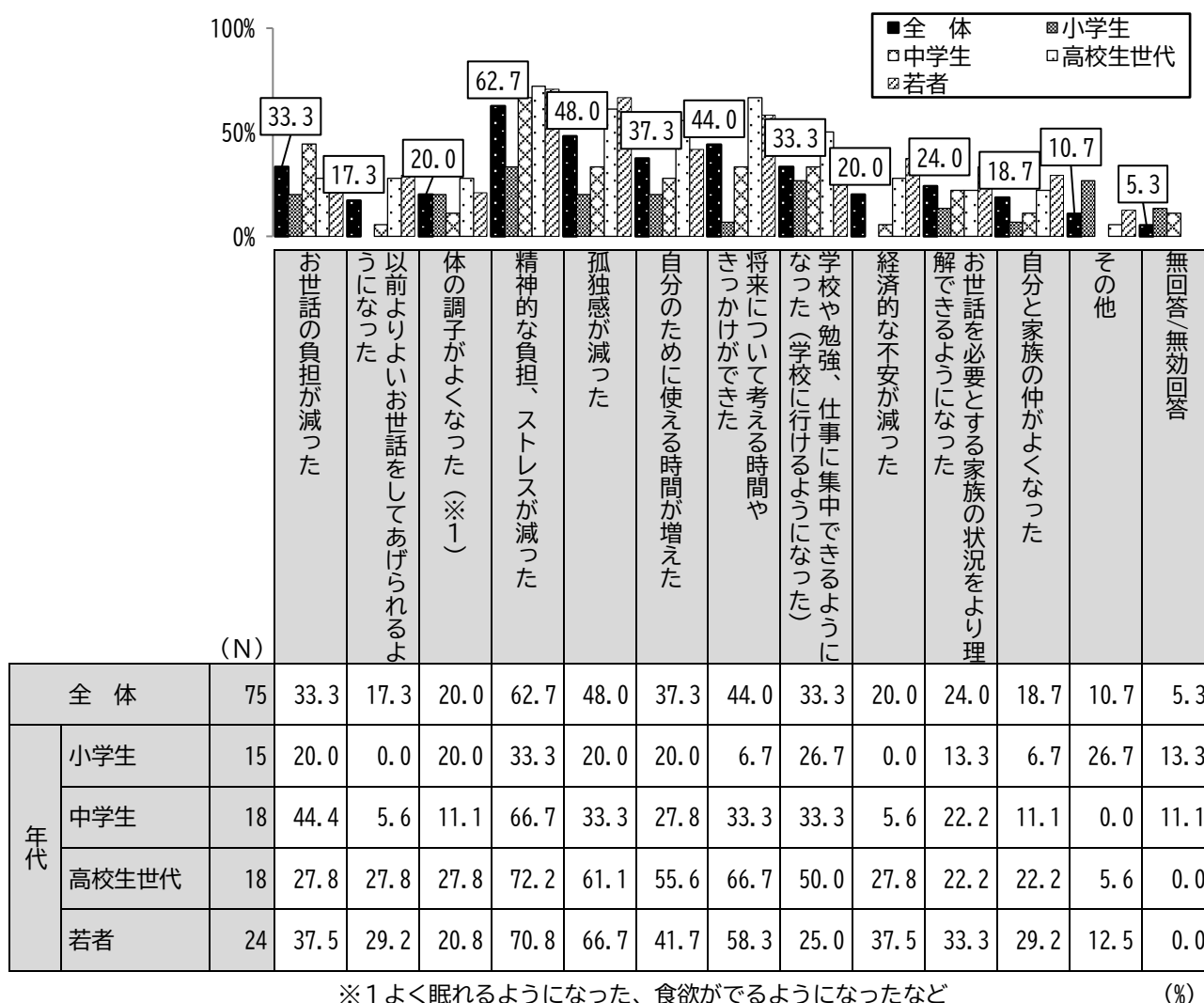
【その他の主な内容】

- 車送迎
- 親との話
- 生活保護 など

Q4(小中学生) Q19(高校生世代以上) 利用してよかったと感じる理由(MA) (一番よかったと感じる支援について)

利用してよかったと一番感じる支援について、利用してよかったと感じる理由を尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。
 高校生世代、若者は、将来への不安を含む、精神面のサポートのニーズが高い様子がみられた。

図表4-40：利用してよかったと感じる理由(MA)
 (一番よかったと感じる支援について)



【その他の主な内容】

- こども食堂で友達と一緒に遊べるのが楽しい
- 家族が病院に行ってくれた など

Q4(小中学生) Q19(高校生世代以上) 一番よかったと感じる支援を利用して生じた自身の変化 (FA)

自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

【お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談】
➤ 前は自分がしなくちゃと思っていたけど今はしなくてもいいかなっと思えるようになった。(中学生)
➤ 愚痴や学校の事、親の事を話せて、今は大学受験に向けて集中できている。(高校生世代)
➤ お弁当の食事の無料提供をしていただいたり、その都度相談に乗っていただいています。一人で抱え込むことが徐々に減少し、「私たちが居るよ」などと、いつも気にかけてくださり、物事を客観視できたり、「生きててもいいんだ」という実感が徐々に湧いて、とても助かっています。ありがとうございます。(若者) など
【家事やお世話の代行、手伝い】
➤ おいしいご飯が食べれること。(小学生)
➤ 一緒に片づけをしてくれる人がいるのはよかった。(小学生) など
【勉強に関する支援】
➤ 不登校だったため、(支援団体) より訪問にきてもらっていた。その後、学習会に参加できるようになった。(中学生)
➤ SSWさんが助けてくれた(高校生世代)
➤ 不登校の弟のSSWさんが家に来てくれるようになり、自分だけで背負わなくてよいと思うようになった。(若者) など
【食事に関する支援(お弁当の配達を含み、こども食堂を除く)】
➤ お弁当が配達してもらえるので、夏休みなどに学童保育に行くことができ、お昼ご飯も食べられる。(ないとご飯は食べられない)(小学生)
➤ 学校に行くようになった。(中学生)
➤ 自分の話を聞いてくれたり、寄り添ってくれたり食事等の支援など色々な支援をしてくれたことにより、理解者がいることや栄養面、精神面が向上し日常の中で少し安心、安全な気持ちを持てる時間が増えたこと。そして自らそういった時間を持てるように意識を向けられるようになっていったこと。(若者) など
【こども食堂】
➤ 人見知りは今もあるけど、前よりは減ってきた感じがする。(小学生)
➤ やさしくなれた(高校生世代) など
【居場所、サロン】
➤ 宿題ができるのが嬉しい。教えてくれるのがいい。ちゃんとがんばろうと思う。(中学生)
➤ ひきこもっていたが、人に会うようになった。話せる人が増えた。病院に行けている。(高校生世代)
➤ 居場所カフェで話をすることで、自分が今後することの整理や、気持ちを落ち着かせる時間をつくることができ、精神を落ち着かせることができた。(若者) など
【就労支援】
➤ 就労支援(法人でのアルバイト)で経済的余裕が生まれた。また、家庭事情を考慮してもらい働きやすい環境をつくってもらった。(若者) など
【その他】
➤ SSWさんが、通信制の高校を探してくれた 親が余裕ができ、部活の車送迎をしてくれるようになった。(中学生)

<ul style="list-style-type: none"> ➤ 相談できる場所が増えた、<u>自分が楽になれる(瞬間)居場所ができた。</u>(高校生世代) ➤ <u>母親から金銭を捻出される機会が増えた。</u>高校を卒業してから借金の返済の肩代わりをしないといけない。大学に進学ができない(若者) など
--

※ SSW…スクールソーシャルワーカー(以下同様)

Q4(小中学生) **Q19(高校生世代以上)** 一番よかったと感じる支援を利用して生じた家族の変化(FA)

自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

【お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談】
<ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>元気になった、ちょっと心配性じゃなかった。</u>(小学生) ➤ <u>こどもにサポートしてくれる人ができたことを喜んでくれた。</u>進路の話もお母さんの気持ちをこどもに話してくれていい関係に少なくなっている。(中学生) ➤ 困っている時に<u>人を頼ることができるようになった。</u>(中学生) ➤ <u>病院に行ってくれて、困れば、また行くと思う。</u>(若者) など
【家事やお世話の代行、手伝い】
<ul style="list-style-type: none"> ➤ お母さんもご飯をつくってもらっていると<u>楽になってそう</u>な感じがする(小学生) など
【勉強に関する支援】
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 不登校の弟のSSWさんが家にきてくれるようになり、弟は少しずつ勉強するようになった。<u>フリースクールにも連れて行ってもらえた。</u>弟がSSWさんと一緒に出掛けている時、<u>母は一人時間を持てるようになった。</u>母も弟の相談相手^ができた。(若者) など
【食事に関する支援(お弁当の配達を含み、こども食堂を除く)】
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市のサービスを受け入れ、<u>生活環境が良くなった</u>(高校生世代) など
【こども食堂】
<ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>なごやかに</u>なった(高校生世代) など
【居場所、サロン】
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 行政・民間の支援に対する<u>不信感の減少</u>。支援嫌いであったが、民間団体との関わりを持つことができた。(若者) など
【その他】
<ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>母の表情が穏やかに</u>なり、<u>病状が安定した</u>。ひきこもっていた弟にSSWさんが話し相手になり、勉強を教えてくれ、<u>フリースクールに連れていってくれた</u> 大学生さんが遊び相手になってくれ、休むことができた <u>洗い物や洗濯を手伝ってくれ、休むことができた。</u>(高校生世代) など

Q3(小中学生) Q18(高校生世代以上) 一番よかったと感じる支援 ×
 Q4(小中学生) Q19(高校生世代以上) 利用してよかったと感じる理由 (MA)

利用してよかったと一番感じる支援と、利用してよかったと感じる理由をクロス集計したところ、以下のとおりの結果となった。

図表4-41：一番よかったと感じる支援×利用してよかったと感じる理由

※回答割合(利用してよかったと感じる理由)の上位3つに色づけ

(%)

		(N)	利用してよかったと感じる理由											
			お世話の負担が減った	以前よりよいお世話をしあげられるようになった	体の調子がよくなった(よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど)	精神的な負担、ストレスが減った	孤独感が減った	自分のために使える時間が増えた	きた	将来について考える時間やきっかけができた	学校や勉強、仕事に集中できるようになった(学校に行けるようになった)	経済的な不安が減った	お世話を必要とする家族の状況をより理解できるようになった	自分と家族の仲がよくなった
利用してよかったと一番感じる支援	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	27	25.9	18.5	18.5	88.9	55.6	51.9	70.4	37.0	11.1	18.5	14.8	3.7
	家事やお世話の代行、手伝い	10	50.0	0.0	10.0	20.0	10.0	30.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	外出時の付き添い	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	勉強に関する支援(フリースクール、家庭教師を含む)	5	80.0	60.0	60.0	80.0	80.0	80.0	80.0	100.0	60.0	60.0	60.0	20.0
	食事に関する支援(お弁当の配達を含み、こども食堂を除く)	6	50.0	16.7	16.7	50.0	66.7	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7
	こども食堂	4	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0
	居場所、サロン(他の人たちと一緒に話をしたりできる場所)	10	10.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	40.0	30.0	20.0	20.0	10.0	20.0
	就労支援	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
その他	6	50.0	50.0	50.0	66.7	66.7	50.0	50.0	50.0	66.7	50.0	33.3	16.7	

【その他の主な内容】

- 自分の時間が増えた
- 精神的に楽になった
- 友達が増えていつもより話す内容が多くなった など

Q3(小中学生) Q18(高校生世代以上) 一番よかったと感じる支援 ×
 Q13(小中学生) Q10(高校生世代以上) お世話を必要とする理由 (MA)

利用してよかったと一番感じる支援と、お世話を必要とする理由をクロス集計したところ、以下のとおりの結果となった。

図表4-42：一番よかったと感じる支援×お世話を必要とする理由

※一番よかったと感じる支援の回答割合の上位2つに色づけ

		(N)	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	家事やお世話の代行、手伝い	外出時の付き添い	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	こども食堂	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	就労支援	その他	利用してよかったと感じた支援サービスはない	無回答/無効回答
お世話を必要とする理由	高齢（65歳以上）	6	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7
	若い	17	35.3	11.8	0.0	5.9	5.9	11.8	11.8	0.0	5.9	5.9	5.9
	要介護（介護が必要な状態）	13	61.5	23.1	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
	認知症	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3
	身体障がい	8	50.0	12.5	0.0	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	知的障がい	10	60.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	発達障がい ※1	26	50.0	7.7	0.0	7.7	7.7	0.0	11.5	3.8	3.8	3.8	3.8
	精神疾患 ※1	50	38.0	12.0	0.0	8.0	6.0	2.0	8.0	2.0	10.0	4.0	10.0
	依存症 ※1, 2	5	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	精神疾患、依存症以外の病気	11	27.3	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	18.2	0.0	9.1	0.0	27.3
	日本語が苦手、わからない	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0
	その他	12	16.7	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	8.3	8.3	16.7	16.7	16.7
	わからない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※1 疑いを含む

※2 アルコール依存症、ギャンブル依存症など

Q 7(小中学生) Q23(高校生世代以上) 支援の改善要望、あったらよいと考える支援 (FA)

自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

【相談支援の充実】
(SSWの配置)
➤ <u>SSWさんが常に学校にいてほしい</u> 。SSWさんは年契約らしく、仲良くなったと思ったら、すぐに別の人に代わってしまう。(中略)SSWさんは他の地域の福祉のことをよく知っていて、いろいろ教えてくれます。学校の先生や校長先生は、それはできないというけれど、SSWさんは他地域では行っていると紹介してくれて、できることが増えました。 など
(継続的な相談相手)
➤ 高校になるとSSWがいなくて、家庭内の具体的なことを <u>相談する人が減りました</u> 。これから先、ずっと心細いです。(高校生世代)
➤ <u>大学以降、相談する人がいなくなり</u> 、本当は同じ人に続けて相談したかった。(若者) など
(相談対応時間の拡大)
➤ 土日祝祭日は窓口はお休みなので、その週の中に <u>たまに孤独に感じることがあります</u> 。 など
(その他)
➤ オンラインではない居場所が欲しい。 <u>相談窓口に行っても相談に乗れないといわれた</u> 。ご飯を届けてほしい。食糧支援も生活保護を受けているからと言われて断られた(若者) など
【その他】
➤ 自治体によって、支援サービスにばらつきがあること。そして、宅配サービスは一度使用すれば使えなくなるのではなく、 <u>毎年継続して利用ができるように、予算を確保して、広報に努めてほしい</u> 。 <u>一過性の支援に終わらないよう</u> 、よろしくお願いします。
➤ <u>支援サービスがあることの周知をこどもの頃から教育としてほしい</u> 。何か大変なことが起きた時の駆け込み寺の認識が、今の自分でもなかった。社協や地元のNPO法人の認知を拡大するお手伝いを東京都からも促進してほしい。など

※ SSW…スクールソーシャルワーカー (以下同様)

Q 8(小中学生) Q24(高校生世代以上) アンケートの案内をもらった団体/自治体の支援サービス以外で他の人にしてもらって嬉しかったこと (FA)

自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

【相談対応・困りごとへの柔軟な対応】
➤ <u>SCさんやSSWさんに相談にのってもらって、嬉しかった</u> 。下の子の勉強を見てもらったり、学校と一緒にいって行ってもらったり、ご飯を一緒に食べたり、仕事を紹介してもらったり、下の子を遊びに連れて行ってくれたり 病児保育は喘息があると、保育所でみてくれないので、助かりました学校に不登校の子の部屋が増えればいい SCさんやSSWさんを月給制にして、辞めないようにしてほしい。毎年変わるから、家族も打ち解けない。(高校生世代)
➤ <u>フリースクールの方々に、弟妹の面倒を見てもらい、今は自分のことを協力してもらっている</u> (高校生世代)

<p>➤ <u>SSWさんに宿題を見てもらったこと、勉強を教えてもらったこと SSWさんは家に来てくれるので、助かります</u> SSWさんに担任の先生には言いづらいことを伝えてもらったこと SSWさんにフリースクールに連れて行ってもらったこと SSWさんに学校に付き添ってもらえたこと 通信教材の丸付け、公園に連れて行ってもらったこと 家事援助 病児保育 (若者)</p>
<p>➤ このアンケートの案内をいただいた方たちには、本当に毎日相談に乗っていただいております、助けられ今生きております。現在、複数の支援機関さんともつながっており、<u>介護のこと、生活面、仕事面、すべてにおいて支援をいただいております</u>。辛い時なども親身になってお話を聞いてくださるので嬉しいです。(若者)</p>
<p>➤ <u>話を聞いてもらったこと。それに対して否定することなく、一経験として聞いてもらったことが大変励みになった</u>。それがなければ死んでいたと思う。ただただ感謝しかない。(若者) など</p>
<p>【その他】</p>
<p>➤ <u>進路に関する支援が助かった</u>。オープンハイスクールの付き添いや試験の日の同行がないと、進まなかった。お母さんの病気のことをわかりやすく説明してくれる人がいなかったから、どうしたらいいかわからなかった。(高校生世代) など</p>

※ SC…スクールカウンセラー (以下同様)

Q25(高校生世代以上) 広報活動における留意点 (FA)

自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

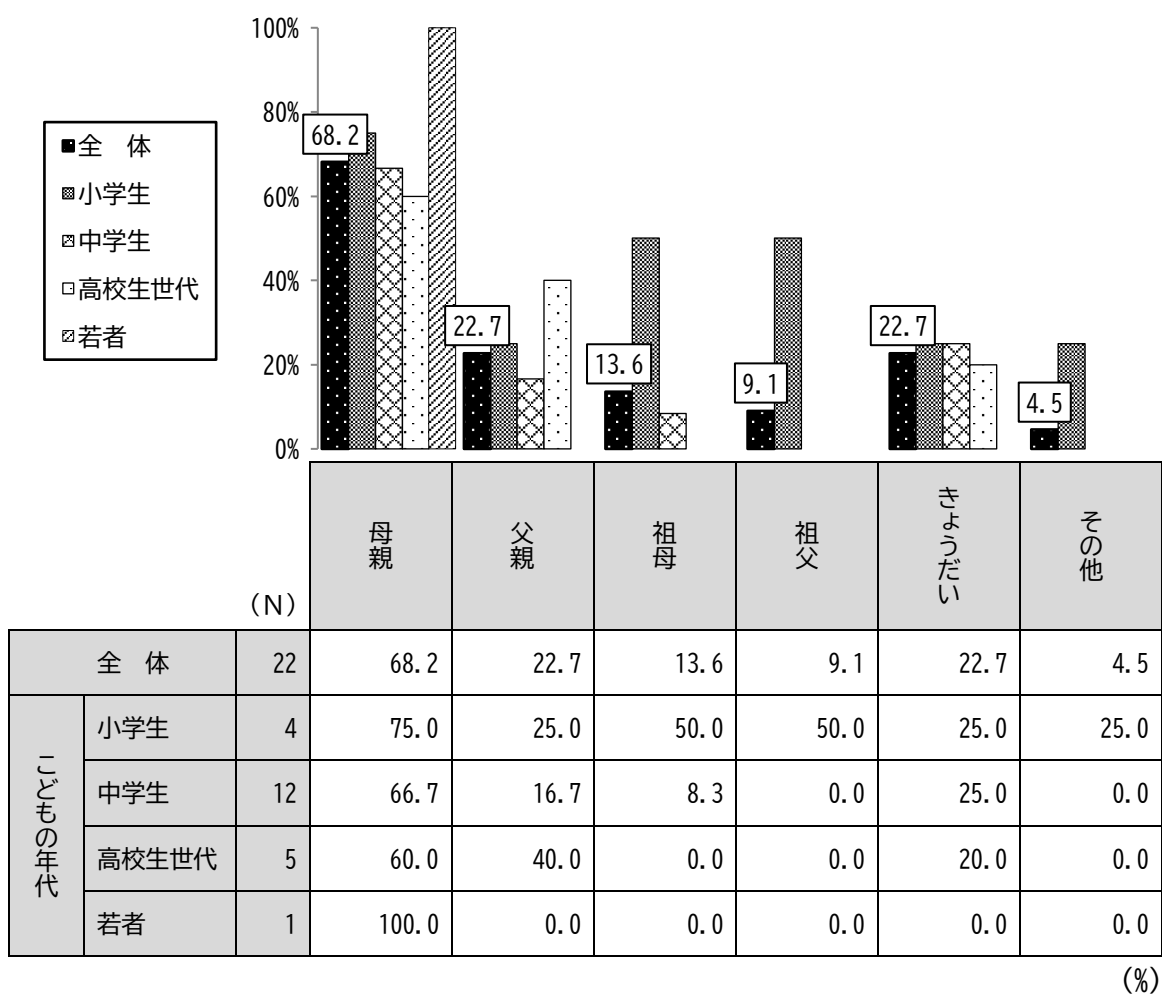
<p>【「よい気持ち、前向きな気持ち」になるような内容・方法・表現】</p>
<p>➤ <u>SSWさんに相談しよう</u> (高校生世代)</p>
<p>➤ <u>頼っていいんだよ1人で抱え込まなくていいんだよ1人じゃないよ</u> (若者)</p>
<p>➤ <u>相談体験エピソードの動画化</u>など。相談するといっても電話することや対面で話をするのはパワーがいるので、実際に相談にのっているところを撮影し動画にして流すことで、少しでも安心して相談してみようと思う一歩にしてもらえるといいかと思う。(若者)</p>
<p>➤ <u>LINEで相談できることを書いてくれたら、相談しやすい、電話はハードルが高い</u>。(若者)</p>
<p>➤ <u>「時には逃げても良い」「完璧にケアをこなせなくても良い」ということを言ってもらえるだけで少し気持ちが楽になる</u>。感謝の言葉や労いの言葉を掛けられると気持ちが楽になる。「いつもお疲れ様、でも時には手を抜いて良いよ」など。(若者) など</p>
<p>【「いやな気持ち、後ろ向きな気持ち」になる内容・方法・表現】</p>
<p>➤ <u>「ひとりで抱え込まないで」と書かれているのを見ると、お前に何が分かるねんとなる</u>。(高校生世代)</p>
<p>➤ <u>ありのまま起きたことを包み隠さずに公開しないこと</u>。生々しいリアルな意見がないと、本当に悩んでいる人には刺さらないと思う。(若者)</p>
<p>➤ <u>家族のお世話をしてかわいそう</u>。家族のお世話していることが、<u>何か役に立つといいね</u>。役に立つとか、たたないとかでしているわけではないので。(若者)</p>
<p>➤ <u>「発見」とか「ヤングケアラー」と大きく示されると、悪いことみたいに感じる</u>。(高校生世代)</p>
<p>➤ <u>助けが必要な人と、言われたくないです</u>。お母さんにもヤングケアラーとか言葉を聞かせたくないです。聞いたら、自分を責めて、精神的に調子が悪くなります。そうなったら私も困るからです。(高校生世代)</p>
<p>➤ <u>ヤングケアラーだと言われて、お母さんが考えてくれるようになるとは思えない</u>。逆効果になると思う。(若者) など</p>

(3) ヤングケアラーの家族に対するアンケート調査結果

Q12 ケア対象者 (MA)

こども・若者が担うケアの対象者の割合は以下のとおりである。

図表4-43：ケアの対象者 (MA)



【その他の主な内容】

➤ いとこ

Q13 ケア対象者の状況（お世話を必要とする理由）（MA）

お世話を必要とする理由について尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。
 本人アンケートと同様、「精神疾患」が多く、また、本人アンケートと比較して、
 「精神疾患、依存症以外の病気」も多い傾向が見られた。

図表4-44：お世話を必要とする理由（MA）

※回答割合の上位3つに色づけ

(%)

	(N)	高齢（65歳以上）	若い	介護（食事や身の回りのお世話）が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	発達障がい ※疑い含む	精神疾患（うつ病など） ※疑い含む	依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている）	精神疾患、依存症以外の病気	日本語が苦手	その他
母親	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	93.3	6.7	46.7	6.7	0.0
父親	5	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	40.0	0.0	40.0
祖母	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
祖父	2	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
きょうだい	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0

【その他の主な内容】

- 仕事が多忙

Q14 こどもが実施しているケアの内容 (MA)

こどもが実施しているケアの内容について尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

図表4-45：お世話の内容 (MA)

※回答割合の上位3つに色づけ

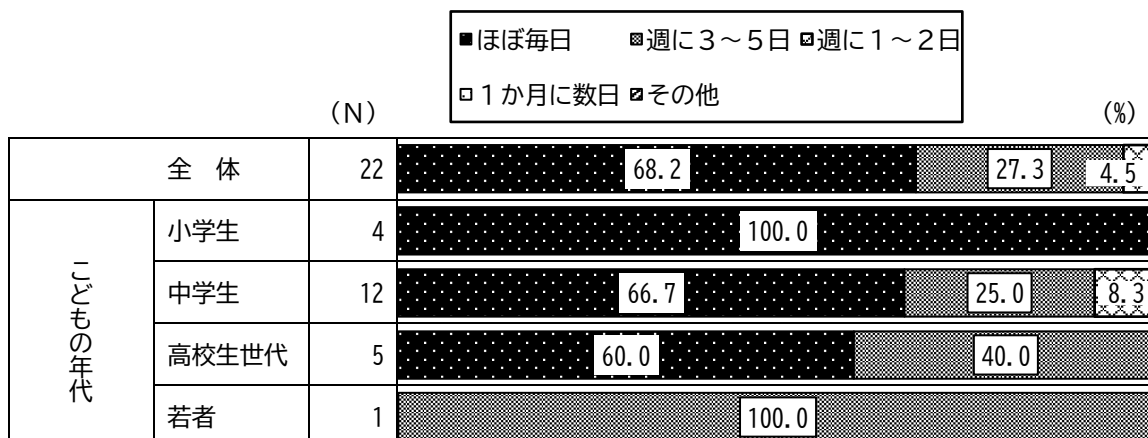
(%)

	(N)	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	お世話など	身体的な介護（入浴やトイレの介助など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	面会	入院や入所をしている家族との面会	医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	話し相手になるなど	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	家計支援（家族のためにバイトで働くなど）	薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	その他
母親	15	60.0	33.3	6.7	53.3	26.7	6.7	6.7	73.3	40.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
父親	5	80.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
祖母	3	100.0	0.0	33.3	66.7	66.7	0.0	0.0	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
祖父	2	100.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
きょうだい	5	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q15 こどもが実施しているケアの頻度 (MA)

こどもが実施しているケアの頻度について尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

図表4-46：お世話の頻度 (MA)

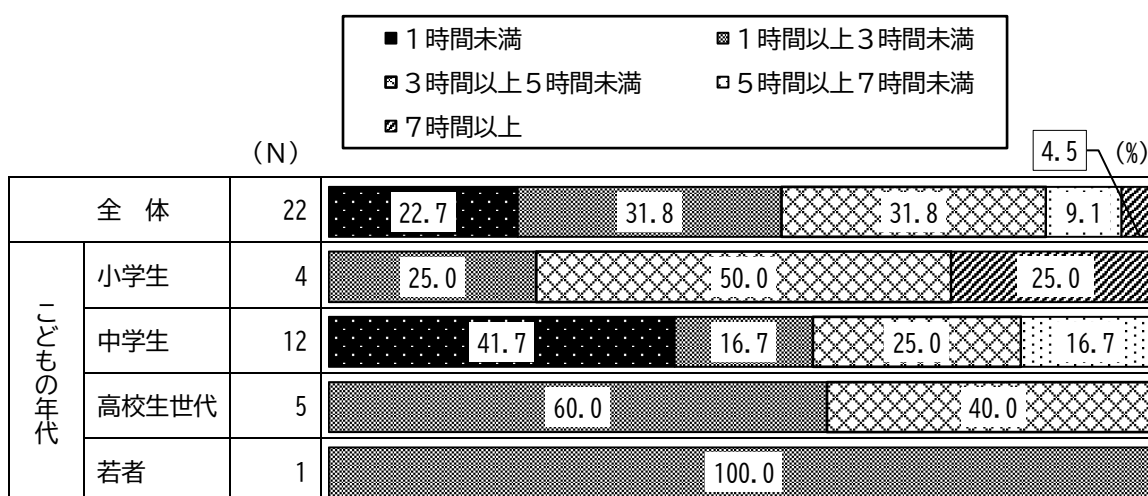


Q16 こどもがケアに費やす時間 (MA)

こどもがケアに費やす時間（平日1日あたり）※について尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

※ 日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間

図表4-47：お世話の時間 (MA)



Q18 こどもが利用した支援サービス(MA)

団体や自治体が提供する支援サービスの利用者について、「こども」と回答した人に、こどもが利用した支援サービスを尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

図表4-48：こどもが利用した支援サービス(MA)

		(N)	お世話やサポートをしているこども自身についての相談	家事やお世話の代行、手伝い	外出時の付き添い	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	こども食堂	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	就労支援	その他	わからない
全体		18	77.8	11.1	38.9	61.1	50.0	22.2	55.6	5.6	0.0	0.0
こどもの年代	小学生	2	100.0	0.0	50.0	100.0	100.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	中学生	11	72.7	18.2	36.4	72.7	54.5	9.1	36.4	0.0	0.0	0.0
	高校生世代	4	75.0	0.0	50.0	25.0	25.0	25.0	100.0	25.0	0.0	0.0
	若者	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

Q19 家族の立場からみて、こどもが支援を利用してよかったと一番に感じる支援 (SA)

団体や自治体が提供する支援サービスの利用者について、「こども」と回答した人に、家族の立場からみて、こどもが支援を利用してよかったと一番に感じる支援について尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

図表 4-49：家族の立場からみて、こどもが支援を利用してよかったと一番に感じる支援 (SA) (%)

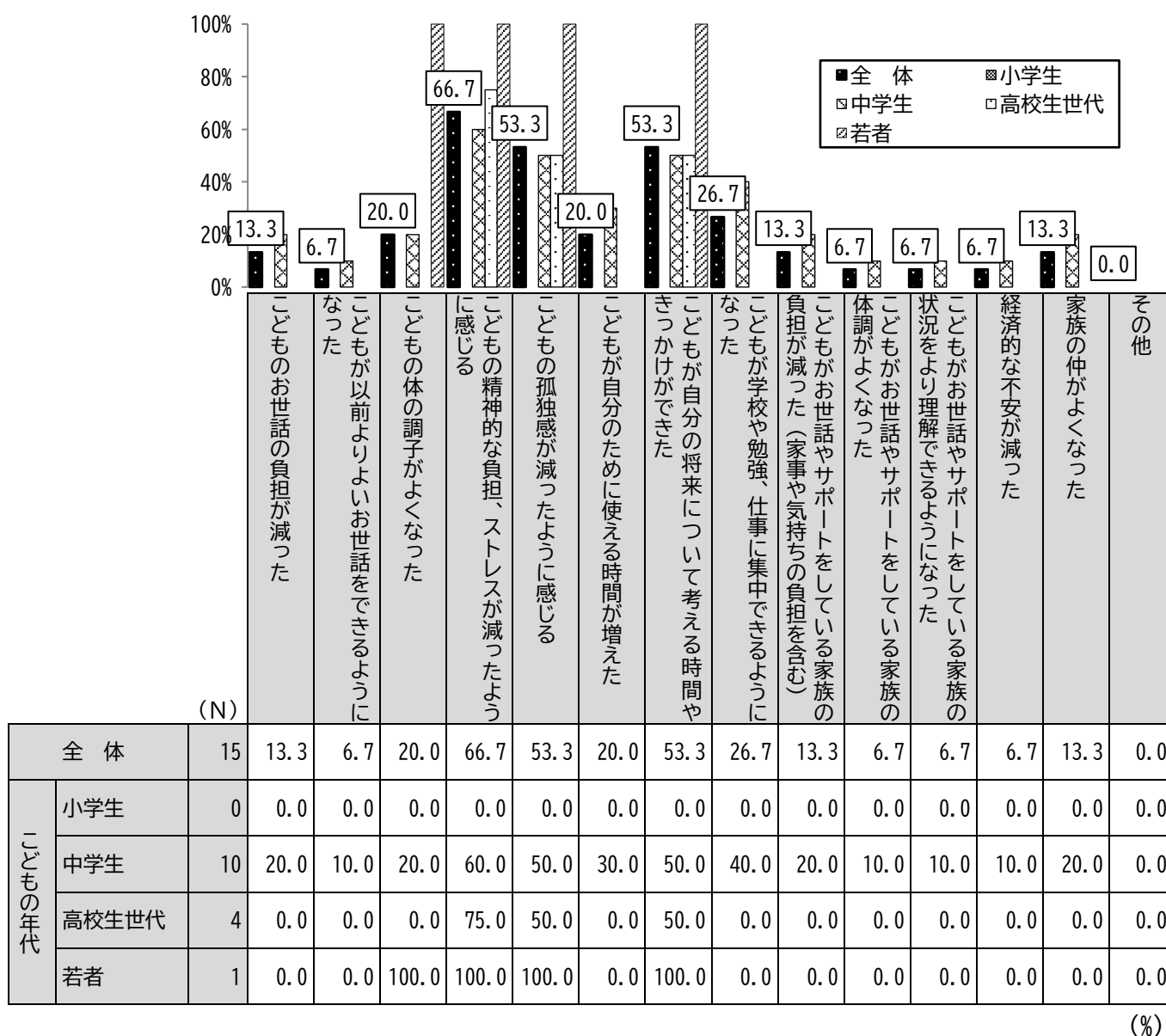
		(N)	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしているこども自身についての相談	家事やお世話の代行、手伝い	外出時の付き添い	勉強に関する支援 (※1)	食事に関する支援 (※2)	こども食堂	居場所、サロン (※3)	就労支援	その他	こどもが支援サービスを利用してよかったと感じたことはない	わからない
全体		18	27.8	5.6	5.6	11.1	5.6	0.0	27.8	0.0	0.0	0.0	16.7
こどもの年代	小学生	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	中学生	11	18.2	9.1	9.1	18.2	9.1	0.0	27.3	0.0	0.0	0.0	9.1
	高校生世代	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	若者	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※1 フリースクール、家庭教師を含む
 ※2 お弁当の配達を含み、こども食堂を除く
 ※3 他の人たちと一緒に話をしたりできる場所

Q20 子どもが支援を利用してよかったと感じる理由（MA）（一番よかったと感じる支援について）

家族の立場からみて、子どもが支援を利用してよかったと一番感じる支援について、その理由を尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。
本人アンケートと同様に、子どもの将来への不安を含む、精神面のサポートのニーズが高い様子がみられた。

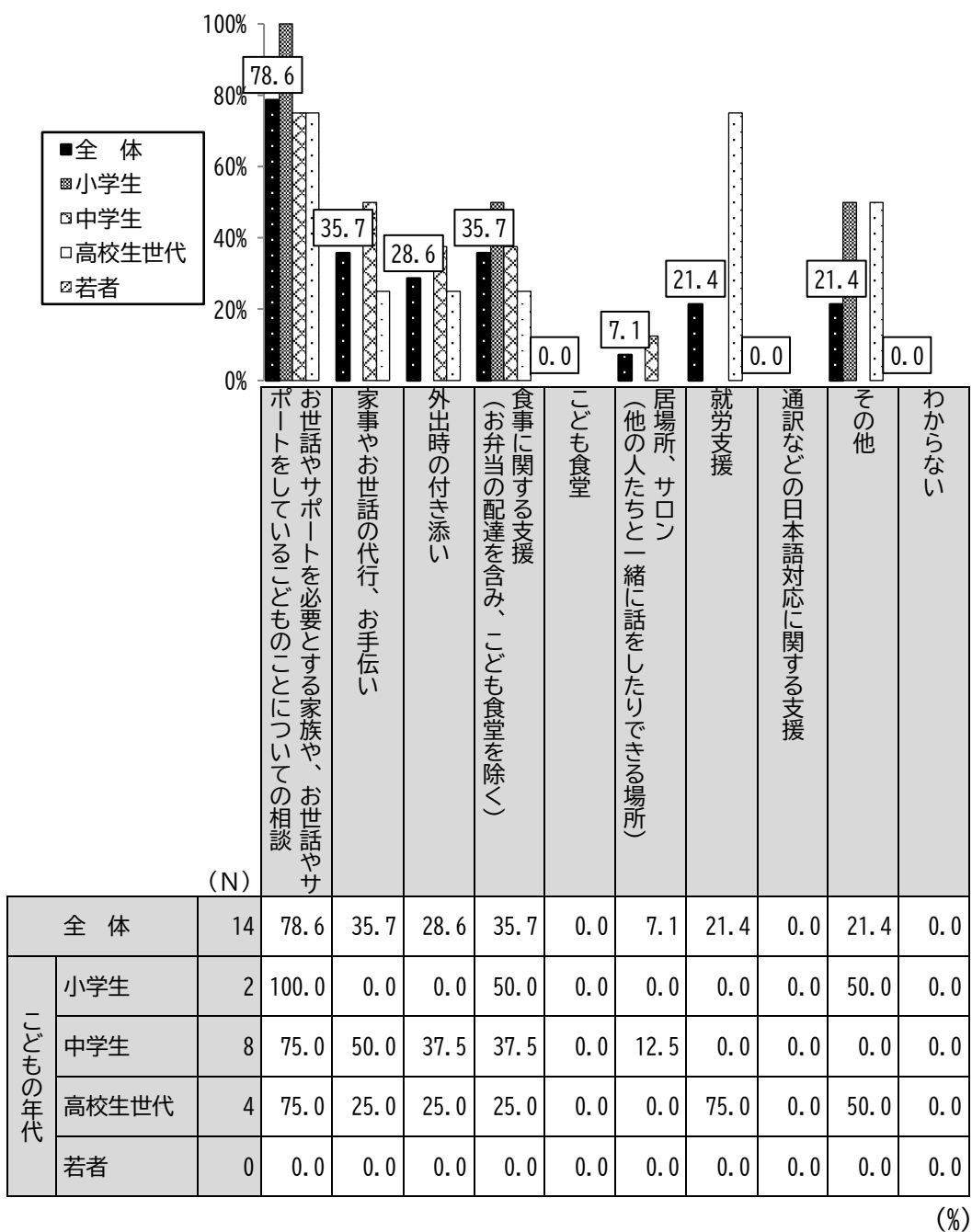
図表4-50：子どもが支援を利用してよかったと感じる理由（MA）
（一番よかったと感じる支援について）



Q24 家族が利用した支援サービス (MA)

団体や自治体が提供する支援サービスの利用者について、「子どもがお世話やサポートをしている家族」または「子どもがお世話やサポートをしている家族以外の家族」と回答した人に、家族が利用した支援サービスについて尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

図表 4-51：家族が利用した支援サービス (MA)



(%)

Q25 家族が利用してよかったと一番に感じる支援（SA）

団体や自治体が提供する支援サービスの利用者について、「子どもがお世話やサポートをしている家族」または「子どもがお世話やサポートをしている家族以外の家族」と回答した人に、家族が利用してよかったと一番に感じる支援について尋ねたところ、結果は以下のとおりとなった。

図表 4-52：家族が利用してよかったと一番に感じる支援（SA）

		(N)	(%)										
			お世話やサポートをしている子どものことについての相談	家事やお世話の代行、お手伝い	外出時の付き添い	食事に関する支援（※1）	子ども食堂	居場所、サロン（※2）	就労支援	通訳などの日本語対応に関する支援	その他	ご家族の方が支援サービスを利用してよかったと感じたことはない	わからない
全体		14	42.9	7.1	7.1	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	7.1
子どもの年代	小学生	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	中学生	8	50.0	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高校生世代	4	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	若者	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※1 お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く

※2 他の人たちと一緒に話をしたりできる場所

【その他の主な内容】

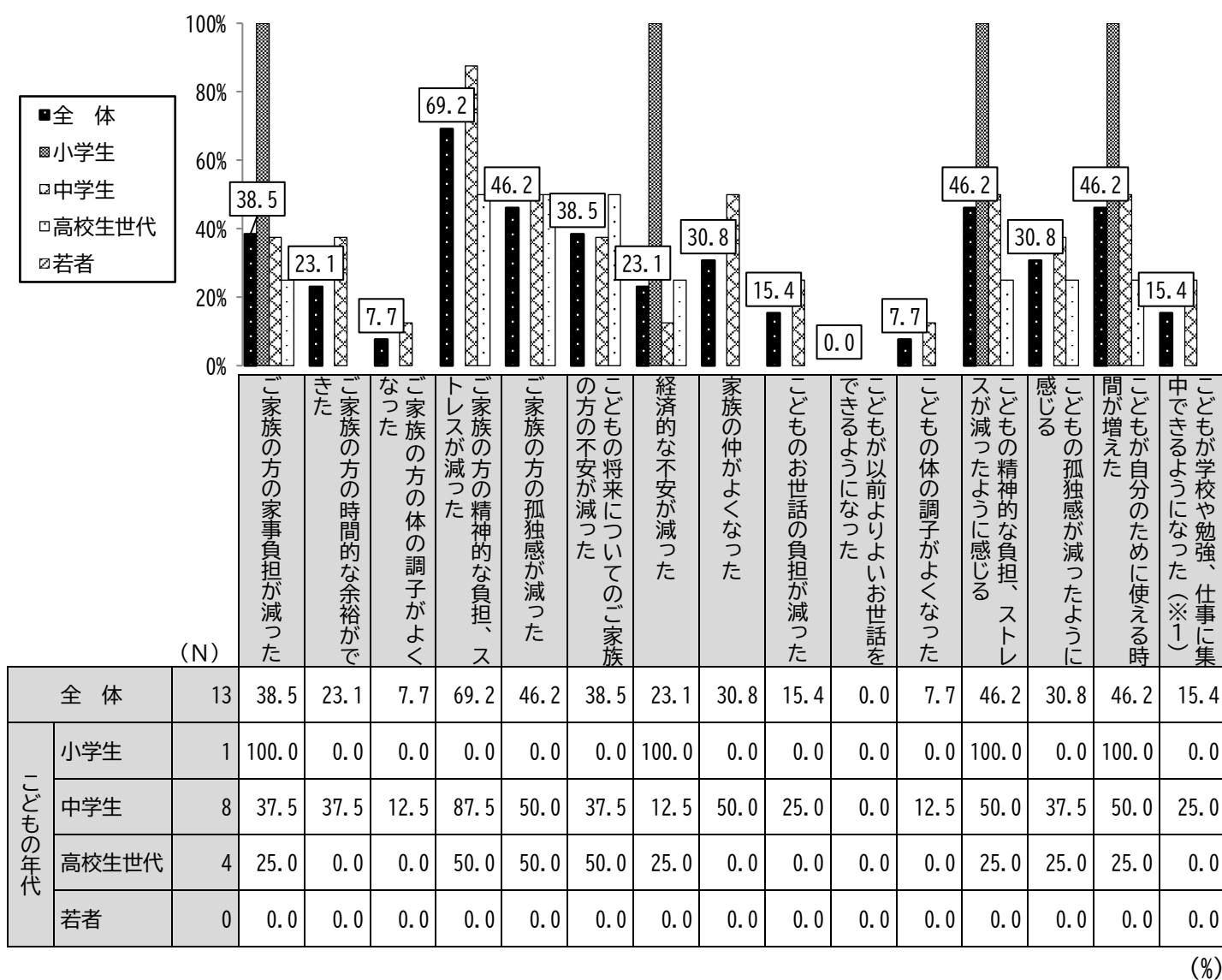
- 生活保護、保健相談、子どもの相談（高校生世代）
- デイサービス（高校生世代） など

Q26 家族が支援を利用してよかったと感じる理由（MA）（一番よかったと感じる支援について）

家族が利用してよかったと一番感じる支援について、その理由を尋ねたところ、結果は以下のとおりとなった。

家族が支援を利用することで、子どもにもよい影響が出ている様子がみられた。

図表4-53：家族が支援を利用してよかったと感じる理由（MA）
（一番よかったと感じる支援について）



※1 学校に行けるようになったなども含む

Q26 一番よかったと感じる支援を利用して生じたこどもの変化 (FA)
 (支援の利用者：こども・若者)

自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

(家族から見た) 自由記述
➤ 大人に対して自分の意見がちゃんと言えるようになった。 <u>安心して自分を出せるようになった</u> りした。(中学生)
➤ 少し人と話せるようになった。 <u>笑うことが増えた</u> (中学生)
➤ <u>ご飯を一緒に食べれるのが嬉しいという言葉が出た</u> 。(中学生)
➤ 昼夜を問わず話を聞いてもらい、 <u>精神的に落ち着いた</u> 。(高校生世代)
➤ ひきこもっていたが、外に出て、 <u>いろいろな人と接するようになった</u> 。(高校生世代)
➤ <u>体調がましになった</u> 。 <u>前向きになった</u> 。 <u>進学を決められた</u> 。(若者) など

※ 文末のカッコ内はこどもの年代を示す (以下同様)。

Q26 一番よかったと感じる支援を利用して生じた家族の変化 (FA)
 (支援の利用者：こども・若者)

自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

(家族から見た) 自由記述
➤ 安心して任せられるので <u>親の負担が減った</u> 。(中学生)
➤ <u>私自身も人に任せていい、頼っていい</u> 、いろいろな大人に関わってもらおうと <u>成長すると思えた</u> (中学生)
➤ <u>人に頼ることは悪くないと思えるようになった</u> 。(中学生)
➤ 高校進学など先の見通しが増えた。 <u>こどもとの間に入ってくれる人ができた</u> 。(中学生)
➤ 少しは <u>人と関われるようになった</u> (高校生世代)
➤ <u>進路の話を進めてもらった</u> 。しんどくて、自分はできなかった。(高校生世代)
➤ <u>病院に行った</u> 。(若者) など

- Q26 一番よかったと感じる支援を利用して生じたこどもの変化 (FA)
(支援の利用者：家族)

自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

(家族から見た) 自由記述
➤ 配食サービスを利用し、お弁当という <u>特別感</u> もあり、 <u>ワクワク</u> できたり、食事については <u>栄養バランス</u> の考えられたものを送っていただけたので、どうしても栄養が偏りがちで体調が優れない分も少しカバーしていただけた。(小学生)
➤ 何を作ろうかという悩みから解消された。 <u>勉強や趣味の時間を取れるようになった</u> 。(中学生)
➤ こどもが相談に乗ってもらうことで、 <u>親との会話が増えた</u> 。(高校生世代)
➤ <u>家族以外で相談できる人ができた</u> 。こどもにも障害福祉の相談員をつけてもらい、高校以降も相談できる人ができた。 <u>不登校だったこどもが高校から登校している</u> 。(高校生世代) など

- Q26 一番よかったと感じる支援を利用して生じた家族の変化 (FA)
(支援の利用者：家族)

自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

(家族から見た) 自由記述
➤ 週に1度配食していただけることで食事を準備する時間や <u>献立を考えるストレスから離れる</u> ことができ、 <u>こどもたちと関わる時間をもてた</u> 。また相談窓口では親の私たちがこどもにかけている負担やそれ以外の悩み事もしっかりと傾聴、共感していただけて気持ちが軽くなりました。(小学生)
➤ 支援の人と話すことで、 <u>少しこどもと関わりやすくなった</u> 。(中学生)
➤ 相談に乗ってもらうことで、 <u>こどもとの会話が増えた</u> 。(高校生世代)
➤ こどもとの話が難しかったが、間に人が入ってくれて、 <u>どうしたらいいか分かりやすくなった</u> 。 <u>進路も決めることができた</u> 。(高校生世代) など

- Q30 支援の改善要望、あったらよいと考える支援 (FA)

自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

【相談対応】
➤ 中学校の先生とSSWにかなりサポートしてもらったが、高校からが不安。 <u>SSWが途中から配置されなくなり、とても困った</u> (中学生)
➤ <u>高校以降、SSWがいなくなるので困る</u> 。(中学生)
➤ <u>大学では相談に乗ってくれる人が見つかっていない</u> 。(若者) など

【その他の支援】
➤ 第3の居場所、少人数で受け入れてくれる場所お弁当やお菓子などを届けてくれる <u>配食サービス・レスパイトケア・体験活動</u> (小学生)
➤ <u>食事に関する支援</u> 。(中学生)
➤ SNSのPR欄なども活用し、第三者からの相談も情報提供として受けられるようにしてほしい。そこから行政や福祉サービスと連携がとれるようにする。ケアラーのこどもたちへの具体的な支援として学びたいのに就職したとか、アルバイトと学業を無理しながら両立しているこどもたちへの <u>学費支援、就学支援</u> 。同じ境遇のこどもたちが思いを共有できる <u>茶話会</u> 。通常使えるはずであるがこどもたちが無知なために使えていない、又は申請できていない <u>自治体の福祉サービス</u> (支援の必要な家族のヘルパー支援やデイサービスの利用など)への <u>接続、連携、手続きの代行</u> など。次の設問にあるような内容の広報映像作品をつくり、学校等へ配布して <u>人権問題として学習機会を持つ</u> ことで、自分では気づいていなかった当事者の掘り起こしをする。(小学生)
➤ 家から <u>こどもたちだけで行ける距離に居場所</u> があると利用しやすい(中学生)
➤ <u>いろいろな体験</u> をさせてほしい。こどもの世話が苦手なため。(中学生)
➤ 自分が入院した時、こどもは <u>一時保護</u> になるが、保護所はこどもにとってつらいので、もっと <u>気持ちよく過ごせる場所</u> にしてほしい。(高校生世代) など

※ SSW…スクールソーシャルワーカー (以下同様)

Q31 広報活動における留意点 (FA)

自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

【「よい気持ち、前向きな気持ち」になるような内容・方法・表現】
➤ <u>楽しそうな活動の様子</u> など (小学生)
➤ ひとりじゃないよ。我慢しなくていいよ。思ったことを言ってもいいよ。私はあなたの味方。という <u>寄り添う言葉</u> 。「誰かのために」はあなたのためになっていますか？もっと自分のためにそのままのあなたで生きていい。自分のやりたい事を我慢しなくて良いというような <u>自己肯定感の高まるメッセージ</u> (小学生)
➤ 昔はそういう支援がなかった。ヤングケアラーのことで <u>救い出してもらえるこどもが増えるのはいい</u> と思う (中学生)
➤ ない。 <u>身近な人にサポートしてほしいだけ</u> 。(高校生世代) など
【「いやな気持ち、後ろ向きな気持ちになる内容・方法・表現】
➤ オンラインサロンへの参加(<u>自宅で自宅の愚痴は言えないので</u>) (小学生)
➤ こどもに迷惑をかけているのか、と <u>申し訳ない気持ち</u> になる。(高校生世代)
➤ 自分のこどもがヤングケアラーであることが <u>そもそも悪い</u> と感じている(中学生)
➤ <u>聞きたくない</u> 。(高校生世代)
➤ ヤングケアラーと聞いたら、 <u>自分を責めて死にたくなります</u> 。(中学生)
➤ 関係ないと思っている。 <u>聞きたくない</u> 。(中学生)
➤ ケアされたいと思ってないから <u>自分を責めている</u> 。 <u>死にたくなる</u> 。(高校生世代)
➤ <u>見たくない</u> 。(若者) など

(4) 支援団体に対するアンケート調査結果

Q6 ヤングケアラー本人と関わり始めの段階において最も効果的だと考える支援 (SA)

ヤングケアラー本人と関わり始めの段階において最も効果的だと考える支援について尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

年代を問わず、「アウトリーチ」が効果的である様子がうかがえるとともに、年代別で効果的な支援に若干の差がみられた。

図表4-54：ヤングケアラー本人と関わり始めの段階において最も効果的だと考える支援 (SA) ※回答割合(効果的だと考える支援)の上位3つに色づけ

		関わり始めの段階において最も効果的だと考える支援																				(%)				
		相談窓口での対面相談	電話相談	オンライン相談	SNS相談	アウトリーチ (訪問による相談支援)	元当事者による相談支援 (ピアサポート)	オンラインサロン	対面のサロン (リアルイベントを含む)	通訳者の配置	遠隔通訳	翻訳機の整備	外国語対応通訳支援	その他	家事・育児支援	配食支援	食糧支援 (フードバンク)	こども食堂	ショートステイ、トワイライトステイ	外出時の付き添い・同行支援	現金給付	学習支援 (フリースクール、家庭教師を含む)	就労支援	その他	当該年代のサービス利用者が少ないため不明	
(N)																										
支援対象	小学生	28	0.0	0.0	0.0	3.6	14.3	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	14.3	3.6	0.0	0.0	3.6	0.0	10.7	39.3
	中学生	28	0.0	0.0	0.0	10.7	17.9	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	21.4	0.0	7.1	28.6
	高校生世代	28	3.6	0.0	0.0	17.9	10.7	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	3.6	3.6	3.6	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	28.6
	若者	28	3.6	10.7	7.1	7.1	7.1	3.6	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	3.6	28.6

また、自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

【アウトリーチ】
➤ 心身の健康面、生活面、家族関係等全体へのアプローチ。(全世代)
➤ ケア負担や期間、状況によって身体的にも精神的にも将来的にも影響があるため早期の第三者のつながりが大切。こどもの居場所や家庭にアウトリーチし、直接出会っていく。(小学生)
➤ 学習、学校に行くこと適切な養育がされているかなど支援ができる可能性が高い。(中学生) など
【こども食堂】
➤ 関わる大人が増えることで、見守りの体制が作りやすい。(小学生)
➤ まずはつながりや安心して居られる場所。食の提供もあり。(小学生) など
【学習支援】
➤ 家族がいる自宅ではなかなか集中して学習に取り組めない場合、居場所で学習ができることで学習習慣を身に着けられ、本人の安心にもつながったようだ。(中学生)
➤ 毎週、学校の先生とは違う先生に生活の話をしながら勉強もできるところ。(中学生) など
【SNS 相談】
➤ SNS 相談はこども自身が自ら相談しやすく、大人の助言を得ることができる。SNS 相談のみでは家庭内の状況は変えられないので、必要時は支援機関につなげていくなどの段階的な構造も必要。(中学生、高校生世代) など
【電話相談】
➤ 必要な時に電話や SNS での相談が支えになる。(若者)
➤ ヤングケアラーであったこと、現状についての受容等を支援できる。(若者) など

Q8 ヤングケアラー本人との関わりを持ち始めて以降、負担の軽減を目指す段階において、最も効果的だと考える支援サービス(SA)

ヤングケアラー本人との関わりを持ち始めて以降、負担の軽減を目指す段階において、最も効果的だと考える支援サービスについて尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。年代を問わず、「アウトリーチ」が効果的である様子がうかがえる。

図表4-55：ヤングケアラー本人との関わりを持ち始めて以降、負担の軽減を目指す段階において、最も効果的だと考える支援サービス(SA) ※回答割合の上位3つに色づけ

(%)

		負担の軽減を目指す段階において最も効果的だと考える支援																								
		相談窓口での対面相談	電話相談	オンライン相談	SNS相談	アウトリーチ(訪問による相談支援)	元当事者による相談支援(ピアサポート)	オンラインサロン	対面のサロン(リアルイベントを含む)	通訳者の配置	遠隔通訳	翻訳機の整備	外国語対応通訳支援	その他	家事・育児支援	配食支援	食糧支援(フードバンク)	こども食堂	ショートステイ、トワイライトステイ	外出時の付き添い・同行支援	現金給付	学習支援(フリースクール、家庭教師を含む)	就労支援	その他	当該年代のサービス利用者が少ないため不明	
(N)																										
支援対象	小学生	28	0.0	0.0	0.0	3.6	17.9	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	3.6	0.0	7.1	3.6	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	14.3	35.7
	中学生	28	0.0	0.0	0.0	3.6	21.4	3.6	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	3.6	0.0	7.1	3.6	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	10.7	25.0
	高校生世代	28	3.6	0.0	0.0	7.1	17.9	3.6	0.0	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	3.6	0.0	3.6	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	3.6	28.6
	若者	28	3.6	10.7	3.6	3.6	10.7	3.6	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	3.6	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6

また、自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

【アウトリーチ】
➤ 心身の健康面、生活面、家族関係等全体へのアプローチ。(全世代)
➤ 生活面のサポートから心理面、家族関係友人関係の安定につながる可能性(小学生)
➤ 具体的に相談を聞き状況を整理し必要なことが一緒に考えられる。(小学生～高校生世代)
➤ 保護者を含めた相談が必要だと思うから。(中学生) など
【その他】
➤ 家では必要以上に頑張っていたり、それが必要以上の我慢になっていたりの気持ちを居場所でクールダウンしたり、一切否定なく、受け止めてくれる場所であるから。(小学生)
➤ 居場所があること、こどもらしく過ごせる安心感、話せる大人がいて、困ったら大人を頼れること。(小学生、中学生) など
【対面のサロン】
➤ 地域に顔見知りができ、家庭外の大人にも柔らかく見守ってもらいながら生きていけることは、生きる力をつけるために役立っていると感じる。(中学生、高校生世代) など
【電話相談】
➤ 心理面での支えの存在とつながることの大事さ。(若者)
➤ 対象者にとって、話しを聞いてほしい時に、かけられることが重要と感じる。(若者) など
【就労支援】
➤ 自分の将来を見つけていける一歩になる可能性があるから。(若者)
➤ 就労することで家族関係を改善する。(若者) など

Q11 ケア対象者の状況別で、最も効果的だと考える支援サービス (SA)

お世話を必要としている方の状況別（支援サービスを利用するヤングケアラーがお世話を
 する対象の方の状況として多いもの上位3つ）で、最も効果的だと考える支援サービ
 スについて尋ねたところ、以下のとおりの結果となった。

Q6 や Q8 の年代別のデータと比較して効果的な支援にばらつきがある様子がみられる。

図表 4-56：ケア対象者の状況別で、最も効果的だと考える支援サービス (SA)

※回答割合の上位3つに色づけ

(%)

		ケア対象者の状況別で、最も効果的だと考える支援																							
		相談窓口での対面相談	電話相談	オンライン相談	SNS相談	アウトリーチ（訪問による相談支援）	元当事者による相談支援（ピアサポート）	オンラインサロン	対面のサロン（リアルイベントを含む）	通訳者の配置	遠隔通訳	翻訳機の整備	外国語対応通訳支援 その他	家事・育児支援	配食支援	食糧支援（フードバンク）	こども食堂	シヨートステイ、トワイライトステイ	外出時の付き添い・同行支援	現金給付	学習支援（フリースクール、家庭教師を含）	就労支援	その他		
(N)																									
お世話を必要としている方の状況	高齢（65歳以上）	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	若い	13	7.7	7.7	0.0	0.0	15.4	0.0	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	30.8	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	
	要介護（介護が必要な状態）	6	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	認知症	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	身体障がい	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知的障がい	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発達障がい※1	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	精神疾患※1	17	0.0	17.6	0.0	0.0	29.4	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	11.8
	依存症 ※1, 2	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	精神疾患、依存症以外の病気	5	20.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日本語が苦手、わからない	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	その他	4	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※1 疑いを含む

※2 アルコール依存症、ギャンブル依存症など

また、自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

【アウトリーチ】
➤ 心身の健康面、生活面、家族関係等全体へのアプローチ。(幼い、要介護、精神疾患)
➤ 支援が必要な状況を専門員が直接把握することは支援に直結する。(精神疾患、日本が苦手)
➤ 保護者の生活サイクルに合わせることにしんどさを感じているため。(精神疾患) など
【家事育児支援】
➤ 幼子を含め、基本的な生活習慣が確立できるように家族全体を捉えるために。(幼い)
➤ まずはサポートとして入らないと当事者は動けない。(幼い) など
【相談窓口での対面相談】
➤ 具体的なサポートを開始するには対面相談以外の支援は難しい。(幼い、要介護、精神疾患、依存症以外の病気) など

※ 文末のカッコ内は、ヤングケアラーがお世話をする対象の方の状況を示す。

第5章 インタビュー調査

1. 調査目的

(1) 地方自治体に対するインタビュー

都道府県、市区町村のそれぞれの取組や役割分担等の詳細を把握・整理し、効果的な取組事例の分析に活かす。

(2) ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するインタビュー

地方自治体やヤングケアラー支援団体のこれまでの支援等の取組を通じて、ヤングケアラー等にとって、その支援がもたらした影響や支援に関する改善点等について、アンケート調査ではつかみきれない内容を把握・整理し、効果的な取組事例の分析に活かす。

2. 調査概要

(1) インタビュー調査の対象

1) 地方自治体に対するインタビュー

本事業で実施した「地方自治体に対するアンケート調査」における、インタビュー協力可否の回答状況、提供する支援内容(都道府県における支援メニューが充実している、民間団体との連携に積極的、ヤングケアラー・コーディネーターを配置している等)、及び地域差なども考慮して、インタビュー対象となる自治体を選定した。多くの自治体にとって参考にしやすい事例を聞けるよう、検討委員会委員からの次の助言等を踏まえ、以下の対象にグループインタビューを実施した。

≪検討委員会委員からの助言≫

- 人口規模の偏りに配慮したほうがよい
- 早くから取組が進められてきた先進的取組自治体の場合、「A県だから実施できる」と捉えられてしまう可能性がある。スムーズに支援を充実させることができた自治体ではなく、予算取り等、苦勞しながらも(近年)取組を充実させることができた自治体の事例が参考にしやすいのではないかなど

図表5-1：インタビュー対象（地方自治体）

グループ	自治体名
第1グループ	大阪府、大阪市、茨木市
第2グループ	大分県、中津市

2) ヤングケアラー本人、家族、支援団体に対するインタビュー

本事業で実施した「支援団体に対するアンケート調査」における、インタビュー協力可否の回答状況及び提供する支援内容等を踏まえ、以下の対象にインタビューを実施した。

図表5-2：インタビュー対象（本人、家族、支援団体）

団体名	インタビュー対象		
	支援団体	本人	家族
(特非)こどもソーシャルワークセンター（滋賀県大津市）	○	○	
(一社)ヤングケアラー協会（東京都品川区）	○	○	
(公財)さっぽろ青少年女性活動協会（北海道札幌市）	○	○	
(公社)全国精神保健福祉会連合会（東京都杉並区）		○	
(一社) Omoshiro（神奈川県横浜市）		○	○
(特非)もりおかユースポート（岩手県盛岡市）		○	○

(2) 調査の時期

令和6年1月22日（月）～2月20日（火）

(3) 調査の方法

オンラインインタビューにて実施した。

なお、本人、家族インタビューについては、インタビュー対象者や支援団体からの希望等に応じ、一部対面でのインタビューを実施した。

(4) 調査項目

調査項目を以下に示す。

図表5-3：自治体インタビュー調査項目

<p>【支援制度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヤングケアラー支援の検討の流れ、取組のきっかけ (ヤングケアラー支援をどのように捉え、支援を充実させてきたか。) 2. 予算取りで苦労した点(特に取組始めの段階)及びそれに対する工夫 <p>【関係機関との連携】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 都道府県、市区町村における役割分担及びそのポイント (以下の支援を行っている場合は、該当の支援を中心に) <ol style="list-style-type: none"> (1) アウトリーチ (①支援対象者の把握、②情報・支援を届ける、等の段階別での具体的な取組内容を含む) (2) ヤングケアラーコーディネーター、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの配置やそれぞれの専門職の役割及び連携 4. (都道府県への質問) 予算や人的資源の少ない小規模な市区町村の取組を後押しするために効果的であるとする取組・工夫 5. 都道府県、市区町村のそれぞれの取組で、特にありがたいと感じる取組 6. 都道府県、市区町村に今後さらに期待する取組 7. 自治体内の関係部局の連携におけるポイント (福祉部局と教育部局との連携状況、連携にあたっての課題、上手くいっている事例等) 8. ヤングケアラー支援団体(ヤングケアラー支援に特化した取組に限らず、医療機関等も含む)との連携を円滑化するためのポイント <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. これからヤングケアラー支援を始めようとする自治体に向けたメッセージ(限られたリソースの中で、都道府県、市区町村それぞれで優先的に行うべきと考える支援及びその理由等) 10. 支援策の拡充等に向けた必要な対応(制度改正が必要な点であったり、国への要望等を含む)
--

図表5-4：本人インタビュー調査項目

<p>【団体への事前インタビュー項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケアについて <ol style="list-style-type: none"> (1) ケアの対象の方及びその方の状況 (2) こどもが担うケアの内容 2. 支援について <ol style="list-style-type: none"> (1) 支援を利用したきっかけ(経緯) (2) 利用した支援内容 (3) 支援の利用回数 <p>【当日のインタビュー項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケアについて <ol style="list-style-type: none"> (1) ケアをすることに対する想い (2) 体調面で気になること
--

- (3) 生活への影響
- 2. 支援について
 - (1) 支援を利用したきっかけ(経緯やその時の気持ち)
 - (2) 支援を受ける前に期待していたこと(団体への期待を含む)
 - (3) 支援を受けた感想、団体の人にしてもらって一番嬉しかったこと
- 3. 支援を受けた後について
 - (1) ケア(あなたが担っている役割)に関して変わったこと
 - (2) 健康面・心理面・生活面、家族関係等の変化
 - (3) あったらよいな、と感じる支援
(今ある支援がより使いやすくなってほしい、なども含む)
- 4. 団体以外の人を含め、他の人にしてもらって嬉しかったこと
- 5. 支援をする人たちに知っておいてほしいこと
(どういう人(場所)が相談しやすいかなども含む)

図表5-5：家族インタビュー調査項目

【団体への事前インタビュー項目】

- 1. ケアについて
 - (1) ケアの対象の方及びその方の状況
 - (2) こどもが担うケアの内容
- 2. 支援について
 - (1) 支援の利用者
 - (2) 支援を利用したきっかけ(経緯)
 - (3) 利用した支援内容
 - (4) 支援の利用回数

【当日のインタビュー項目】

- 1. ケアについて
 - (1) こどもの体調面で気になること
 - (2) こどもの生活への影響
- 2. 支援について
 - (1) 支援を利用したきっかけ(経緯やその時の気持ち)
 - (2) 支援を受ける前に期待していたこと(団体への期待を含む)
 - (3) 支援を受けた感想、団体の人にしてもらって一番嬉しかったこと
- 3. 支援を受けた後について
 - (1) ケア(こどもが担う役割)に関して変わったこと
 - (2) こどもやご家族の方の健康面・心理面・生活面、家族関係等の変化
 - (3) あったらよいな、と感じる支援
(今ある支援がより使いやすくなってほしい、なども含む)
- 4. 団体以外の人を含め、他の人にしてもらって嬉しかったこと
- 5. 支援をする人たちに知っておいてほしいこと
(自治体が行う広報に対する考え、自治体に求めることなども含む)

図表5-6：支援団体インタビュー調査項目

【支援のポイント(使い分け等)】

1. 年齢や発達に応じた支援
2. ケアの内容に応じた支援
3. アウトリーチの効果的な方法（①支援対象者の把握、②情報・支援を届ける、等の段階別での具体的な取組内容を含む）
4. 家族構成に応じた支援
5. 効果的な支援を行うための支援順序
6. 限られたリソースの中で優先的に行うべき支援
7. 支援対象者を増やす工夫
8. 支援を卒業する際のポイント（ヤングケアラー本人や家族の納得感を得るための工夫等）
9. 家族と関わる際のポイント

【外部との関係】

10. 地方自治体との連携を円滑化するためのポイント
11. 地方自治体以外の他機関（医療機関等）との連携状況及び連携を円滑化するためのポイント
12. 地方自治体に期待すること（ニーズがあるものの、予算や人的資源の不足で実施できていない支援の提供等も含む）

3. 調査結果

本項では以下の略称を用いる。

YC…ヤングケアラー

YCC…ヤングケアラー・コーディネーター

SSW…スクールソーシャルワーカー

SC…スクールカウンセラー

SV…スーパーバイザー

(1) 地方自治体インタビュー結果概要

1) 大阪府、大阪市、茨木市

大阪府、大阪市、茨木市 (府…大阪府、市…大阪市、茨…茨木市)	
支援制度	
1. YC 支援検討の流れ、取組のきっかけ	<p>① (府)国の PT の提言を受け、<u>令和4年3月に府の指針を策定。1. 社会的認知度の向上</u> (早期発見・把握に活かす)、<u>2. プラットフォームの整備</u> (市町村の体制整備の後押し)、<u>3. 支援策の充実</u>という3つの柱で取組を進めている。</p> <p>② (市)令和3年3月の議会で YC の問題が取り上げられ、<u>市長のトップダウン</u>で取組を始めることができた。実態調査を速やかに行ったほか、多分野多機関連携に力を入れている。</p> <p>③ (茨)市内の支援施設にて <u>YC の複雑事例が複数発生</u>し、国の補助金を活用しながら取組を実施。<u>まずは実態調査を行い、その後、YCC 配置による連携強化を行い、今後は訪問支援事業の導入を検討中。</u></p>
2. 予算取りで苦労した点とそれに対する工夫	<p>① (府)<u>広域自治体が取組む必要性を理解いただくのに時間を要した</u>。予算要求にあたっては、市町村・民間支援団体の意向を把握し説明する必要がある。18 歳以上の若者に対して支援が必要な場合があるので、<u>法改正も後押しになる。</u></p> <p>② (市)<u>市長の重点予算枠</u>があり、通常の新規事業よりも予算確保しやすかった。</p> <p>③ (茨)具体的な事例を説明しながらも<u>必要性を理解いただくのに苦労した</u>。一歩ずつ取組を進めているところ。</p>
関係機関との連携	
3. 都道府県、市区町村における役割分担及びそのポイント	<p>① (府)<u>多くの福祉サービスの実施主体は市町村で、府は市町村のバックアップ</u>を担う。また、<u>府立高校への SSW の配置、SSW の SV の雇用</u>を進め、令和4年度は YC 支援は延べ 2,000 件を超えた。</p> <p>② (市)SC, SSW の拡充、YCC を配置。<u>SSW は保健福祉センターに席を置き、教育と福祉の円滑な連携</u>を図っている。</p> <p>③ (茨)<u>まずは YCC に情報が入る</u>。SSW が支援施設にこどもを直接つなげる場合もあるが、情報共有はできている。<u>多機関連携の推進役、学校卒業後の見守りも担う。</u></p>
4. 小規模市区町村の取組の後押し	<p>① (府)グループワークやロールプレイなどを盛り込んだ<u>市町村向けの研修</u>を開催。</p> <p>② (府)<u>民間支援団体 11 か所に助成</u>を行い、学校や放課後の居場所、学習</p>

大阪府、大阪市、茨木市 (府…大阪府、市…大阪市、茨…茨木市)	
し	支援、社会体験プログラムの提供、ピアサポートなどを実施。(昨年度は助成団体5か所)
5. 都道府県、市区町村のそれぞれの取組で、ありがたいと感じる取組	<p>① (府)すべての市町村ではないが、<u>市町村の持っている社会資源を活用して、ケース会議を開催できる体制を整えていること。</u></p> <p>② (府)府立高校は広域であるため、<u>市町村別の窓口一覧</u>を周知しており、<u>学校現場では非常に助かる。</u></p> <p>③ (市)研修での他市町村や府のSSWとの交流はありがたく、外国語通訳派遣事業の対象となる<u>家庭の支援</u>につながった。</p> <p>④ (茨)研修で他市町村との<u>交流機会</u>があることや、支援の<u>好事例を紹介</u>してもらえることもありがたい。</p>
6. 都道府県、市区町村に今後さらに期待する取組	<p>① (府)<u>専門相談窓口があると、相談先を迷うことがなく、相談につながりやすい</u>と感じているため、今後設置に向け我々ができることを支援していきたい。</p> <p>② (市)<u>研修による交流機会</u>の提供を引き続きお願いしたい。</p> <p>③ (茨)YC 家庭はこどもが食事を準備することが多いため、<u>YC 向けに食事の負担が楽になるような支援</u>があると嬉しい。</p>
7. 自治体内の関係部局の連携におけるポイント	<p>① (府)令和3年9月に<u>関係課長会議</u>を立ち上げ、情報共有をしている。研修においても教育と福祉がそれぞれ参加しあっている。YCの問題が取り上げられて以降、<u>教育と福祉の連携が今までよりも深まっている</u>と感じており、今後もより進んでいくと思う。</p> <p>② (市)令和3年5月に<u>副市長をトップとした PT を設置</u>し、年2、3回議論しており、情報交換が非常にやりやすい。また、<u>貧困対策でこどもサポートネット事業</u>があり、この事業においても教育、福祉の連携がスムーズになっている。</p> <p>③ (茨)<u>子ども・若者支援地域協議会</u>をつくっており、教育、福祉が連携しやすい状況にある。また、<u>卒業後が気になる生徒の情報</u>を学校から<u>市内の支援施設等に共有</u>いただいている。</p>
8. 支援団体との連携を円滑化するポイント	<p>① (府)<u>助成団体を訪問</u>するなど、<u>積極的に足を運び、課題などを確認</u>している。また、団体同士の関係構築のため、<u>意見交換会</u>も開催した。</p> <p>② (市)<u>委託先との定期的な打合せ</u>や<u>民間事業者が集まる研修への市職員の参加</u>により関係構築を図っている。</p> <p>③ (茨)<u>支援団体同士が顔の見える信頼関係</u>を築くことが重要である。</p>
9. これから支援を始めるようとする自治体に向けたメッセージ	<p>① (府)YC 支援を通じて、YC 以外の困りごとを抱えるこどもたちにも<u>気づき支援につなげることができるとともに、世帯全体への支援にもつなげることが</u>できる。</p> <p>② (市)実態調査を行うことで、<u>実態の把握</u>ができ、<u>予算取りの根拠</u>にも用いることができる。</p> <p>③ (茨)YC は<u>地域会議や障害、介護関係の会議</u>に出席し、<u>啓発</u>を行い<u>関係構築</u>をしてきていることで、<u>結果として相談が入ってくるようになって</u>いる。既存の体制の中ではなかなかできないことであったため、YC は配置するとよいと思う。</p>
10. 支援策の拡充等に	① (府)国と都道府県と市町村の役割分担を示してほしい。 <u>市町村の責務</u> として取り組むべきだと <u>明記</u> されていないと、 <u>小さな自治体では取組が難</u>

大阪府、大阪市、茨木市 (府…大阪府、市…大阪市、茨…茨木市)	
向けた必要なもの	<p>しい。</p> <p>② (市)YC 支援は中長期的で安定的・継続的な支援が必要となるため、<u>支援策、財政措置の充実</u>をしてほしい。</p> <p>③ (茨)<u>訪問支援事業</u>の導入を検討している。<u>YC 家庭の中には経済状況がよい場合もあるが、現行制度では所得に応じて利用者負担が求められてしまうため、補助金を充てて利用者負担をなくしてほしい。</u></p>

2) 大分県、中津市

大分県、中津市 (県…大分県、市…中津市)	
支援制度	
1. YC 支援検討の流れ、取組のきっかけ	<p>① (県)令和2年の国の調査を受け、<u>令和3年に県でも実態調査(小学5年から高校3年の8学年を対象)</u>を実施し、その結果、支援が必要なYCが約千人いると推計された。その後、<u>令和4年に周知啓発、SNS等の相談窓口設置、研修等</u>を実施。<u>令和5年に全市町村を訪問し、支援体制等のヒアリングやYC専門アドバイザーを配置し、市町村等からの相談対応等</u>を実施。</p> <p>② (市)以前からYCに注目し、対応を進めてきた。例えば、YCがきょうだいの世話のために<u>学校を遅刻する場合は、保健室で軽食を食べさせたり、家で勉強ができない子に対し、放課後に教諭が勉強を教えるなど</u>、個々のケースに応じて取り組んできた。また、<u>市の児童福祉部門と市教委の双方が連携の必要性を感じていたことから連絡会を実施</u>することとなった。</p>
2. 予算取りで苦労した点とそれに対する工夫	<p>① (県)全く新たに取組む事業であり、何から始めるのが効果的なのか分からず、<u>周知啓発、相談体制の構築から始めた。</u></p> <p>② (市)議員からYCの質問もあり、市としてもYC支援の必要性を感じている。国の補助も活用しつつ、YC支援の予算取りを行うことができた。<u>ケースに関わる人がYCの視点を持ち、その上で、YCに気づいた時に、どう関わっていくのかを協議できる体制ができることが大切だ</u>と思う。必要性があれば事業化して対応を進めていくことになる。</p>
関係機関との連携	
3. 都道府県、市区町村における役割分担及びそのポイント	<p>① (県)アウトリーチについて、身近な市町村における<u>相談支援体制が重要</u>。県は、その後押しや助言を行っていく。また、<u>専門アドバイザーが市町村の会議に参加するなどして実態把握に努め、具体的相談や市町村の体制構築に向けた助言</u>を実施。</p> <p>② (市)YCの特徴として、<u>支援につなげるまでが難しい</u>という点が挙げられる。<u>YCCを配置</u>することで、<u>手厚い支援や連携</u>ができており、専門的な視点で関わることの必要性を感じている。YC家庭を支援につなげるため、保護者の抱える困難を支援者で共有しながら、こどもや保護者に</p>

大分県、中津市 (県…大分県、市…中津市)	
	とって受け入れられやすいアプローチ方法を考えている。
4. 小規模市区町村の取組の後押し	<p>① (県) 町村など小規模自治体にも必要な情報が十分に届くようにすることを目的として、各市町村の児童福祉主管課の担当者を集めた<u>連絡会議を開催した</u>。この会議では、<u>各市町村の現状や取組状況、成功事例などを共有した</u>。</p> <p>② (県) 県のアドバイザーはこどもとの関わり方・周知の助言、人材育成研修に加え、市町村の体制づくりの支援を行っている。<u>市町村の現場では手探りで体制づくりを行っている現状がある</u>。現場に出向いて、虐待、貧困など、様々な社会資源をいかに組み合わせて YC への気づきや支援につなげる体制をつくるか、<u>地域性・地域差を考慮した上で、助言</u>を行っている。また、市町村の定例会、SSW、高齢、障害分野の研修会にも出席している。</p>
5. 都道府県、市区町村のそれぞれの取組で、ありがたいと感じる取組	<p>① (県)関係機関との連携がとれており、<u>独自のアンケートや学習会</u>といった取組を行い、そこで<u>事例や情報を共有</u>することができている市町村がある。</p> <p>② (市)実態が把握できていないと支援を計画できない。令和3年に<u>県が実態調査を行ってくれたことで</u>、市の実態も把握でき、<u>計画づくりに活かすことができた</u>。研修については、県から細かく指導をいただきありがたい。</p>
6. 都道府県、市区町村に今後さらに期待する取組	<p>① (県)市町村の取組には濃淡がある。<u>支援体制の構築や具体的な支援策等</u>について悩む点などがあれば、是非<u>アドバイザーも活用</u>してもらいたい。</p> <p>② (市)市教委とは月1回の連絡会を行っており、この1年で関係がより深まり、連絡会以外のタイミングでも相談や情報共有が行いやすくなった。<u>県立高校との連携</u>については、<u>支援体制づくりに課題</u>を感じている。<u>県に、県の教育委員会との連携を深めるためにサポートしていただけるとありがたい</u>。研修に関しては、<u>県の専門アドバイザーがSSW向けに研修を実施</u>してもらい、勉強になったという声があった。これからも広く実施いただけるとありがたい。</p>
7. 自治体内の関係部局の連携におけるポイント	<p>① (県) 県教委においては、実態調査の実施や YC 支援のため SSW を増員するなど、<u>YC 支援に協力的</u>である。一方で、学校現場では YC の認知度はまだまだ低く、学校によって対応に差があると感じる。</p> <p>② (市)YC 等の気になる子についての台帳を SSW が作成しており、<u>児童福祉部門にも共有</u>いただいている。また、<u>月1回市の教育委員会との連携会議</u>を行い、<u>見守りや進捗</u>を共有し、<u>支援役割を共有</u>できていることは大きいと思う。また、<u>重層的支援体制整備事業</u>でも YC 支援の必要性を理解いただき、<u>障がい部門や介護部門等の専門職への研修会等も実施</u>できている。</p>
8. 支援団体との連携を円滑化するポイント	<p>① (県) 県内に YC に特化した取組を行う団体はないが、<u>一部のこども食堂や児童家庭支援センター</u>で支援を行っている場合がある。市町村において、そういった関係機関と<u>日頃から共通認識</u>をつくるのが大事だと思っている。</p> <p>② (市) 当市の<u>児童家庭支援センター</u>が、<u>訪問型の支援対象児童等見守り</u></p>

大分県、中津市 (県…大分県、市…中津市)	
	<p>強化事業や第三の居場所事業、こども食堂等、複数事業を行っている。その中で、情報共有を図りながら、円滑な連携のもと、ケースに応じた支援が行えている。児童家庭支援センターは要対協の構成員でもあり、守秘義務や情報共有の連携もスムーズに行えている。</p>
9. これから支援を始めるようとする自治体に向けたメッセージ	<p>① (県) 身近な市町村でどれだけ支援の体制を整えられるかが重要と考える。家族を丸ごと支援できるよう、関係所属のほか、行政だけでなく、支援に直接関わる人、有識者、地域、当事者の声を取り入れることが大事だと思う。</p> <p>② (市) 一つ一つの事例を大切にして、その実態や支援の必要性を財務部等に理解してもらう事より始める。そのためには、要対協の中など、関係する部署における実態把握を行う必要がある。</p>
10. 支援策の拡充等に向けた必要なもの	<p>① (県) こどもに一番身近な学校現場の教職員や教育委員会がYC支援に取り組めるよう、文部科学省における取組の強化をお願いしたい。また、市町村が取り組みやすく、利用者の負担をできるだけ軽くした子育て支援施策の充実が必要。</p> <p>② (市) 生活への支援の他に、将来の進学や就労など、先への支援の必要性も感じる。今後は若者の支援者と連携が必要だが、まだ十分な連携ではなく課題だと感じている。</p>

(2) ヤングケアラー本人、家族インタビュー調査結果概要

1) インタビュー対象者の概要

図表5-7：インタビュー対象者の概要

	年代	利用した支援	利用団体
Aさん (男性)	30代 (若者世代/社会人)	相談支援	(公社)全国精神保健福祉社会連合会(みんなねっと)
Bさん (男性)	10代 (中学生)	① 家事支援 ② 交流の場(居場所)	(一社)Omoshiro
Bさんの家族(母)			
Cさん (女性)	10代 (高校生世代/アルバイト)	交流の場(居場所)	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会
Dさん (男性)	10代 (若者世代/社会人)	① 交流の場(居場所) ② トワイライトステイ・ショートステイ	(特非)こどもソーシャルワークセンター
Eさん (女性)	10代 (大学生)	相談支援	(特非)もりおかユースポート
Eさんの家族(母)			
Fさん (男性)	30代 (若者世代/社会人)	就労支援	(一社)ヤングケアラー協会

※ 交流の場(居場所)利用時に、食事の提供や学習面のサポートを受けている場合もあり

※ インタビュー協力者を増やせるよう、依頼時に、こども・若者の年齢やケア対象者の状況などの制限は設けなかったため、若者世代、ケア対象者が精神疾患を抱える家族の場合が多いことに留意が必要

2) Aさん

Aさんの状況	
利用した団体	(公社)全国精神保健福祉社会連合会(みんなねっと)
利用した支援	相談支援(精神障がい者の家族の家族ピア教育プログラム「家族による家族学習会」)
年齢・性別	30代・男性
ケア対象	母
ケア内容	Aさんが中学生の頃から精神疾患(うつ)を抱える母親への精神的なサポートなどを実施。
家族構成	<高校の2年時まで> 義父、母、姉、Aさん <社会人1年目まで> 母、Aさん ※ 現在は母とは別に暮らしている
支援を利用したきっかけ	ソーシャルワーカーとして働く上での勉強の意味合いで、母親と別に暮らし始めて以降、25、6歳の時に利用。
支援の利用状況	・ 1コース5回のプログラムを利用 ・ 現在は、支援を実施・運営する「担当者」としても活動

インタビュー記録概要（Aさん）	
1. ケアについて	<p>① 母への対応がケアに該当するの今は今でもわからない。<u>母を心配して話を聞く側面</u>と、話を聞かないと家庭が回らないため<u>聞かざるを得ない側面</u>と、話を聞くことで自分が安心して寝られる、という<u>打算的な側面</u>があり、様々な感情が生じていた。</p> <p>② 母と同居中は、母の物音一つで起きる生活が続いていたため、<u>母から離れて暮らしていても、眠りが浅い状態が続いている。</u></p>
2. 支援について	<p>① 家族学習会の仲間と話していくと、自分の気持ちを少しずつ言葉にすることができるようになった。複雑な気持ちが重くなりすぎて、単純に悲しい、などとは言えない。また、単純に母が好きか嫌いかとは言える感情ではなかったが、仲間の話の中から表現を見つけると、そこから<u>自分らしい言葉で仲間に打ち明けられるようになり、また周りに受け止められ、受け止めて、</u>というのを家族学習会で回数を重ねていけたことで、<u>自分らしくいられる場所に少しずつ変わっていった。</u></p> <p>② 母と暮らしていた時は、自分の感情を押し殺していたが、人間らしい部分が自分にもあり、<u>仲間と一緒に苦しい思いを共有できるということが発見</u>だった。自分は<u>生きていてよかったのだ</u>、と感じられた。</p> <p>③ 自分に自信を持てるようになり、また、自分が話すことでエピソードを思い出す人、感動してくれる人、自身の発見につながった人などもある。話を聞いて自分のためになるだけでなく、自分の話をすることで<u>人のためになれると感じられたのが大きかった。</u></p> <p>④ 「団体の人に〇〇をしてもらって嬉しかった」というよりは、<u>学習会という場所自体がありがたかった</u>。こどもの立場だからこそ共感できることをよく理解していただいて、こどもの立場で仲間を集めていただいたのはありがたかった。</p>
3. 支援を受けた後の変化について	<p>① 私個人としては変化はなかったが、家族との距離感を無理なく、適度に保てるようになるなどの<u>変化があった仲間は多くいる</u>。実際に仲間が行動した時の話は他の人にとっても有益で、自信になる。</p> <p>② 何かがあれば家族会で話せばよい、家族学習会の仲間とこれからも愚痴を言い合い、辛いことや良かったことを共有できる、と思えると、<u>安心して母とも関わるのができたのは心理的にも良く、健康面にもつながっていた</u>と思う。</p>
4. 他の人にしてもらって嬉しかったこと	<p>① 家族学習会を経て、20代後半になってたまたま中学の時に信頼を寄せていた友達に会った際に、当時のことや現状について打ち明けることができた。大変だったんだね、と自分の話を聞いて、<u>ただ受け止めてくれ、特別扱いされなかったのがとても嬉しかった。</u></p>
5. 支援をする人たちに知ってほしいこと	<p>① 支援者には支援するエゴがあり、このように支援して、解決してあげたい、問題に関わり、解決に向けて前進したい、と考えがちである。それで救われる人も一定数いるが、YCに関することも含め、<u>支援される側のペースを尊重してほしい</u>と思う。</p> <p>② <u>支援者は専門職でなくてもいい</u>。専門職でなくても様々な形で助けることができる、ということ自身も伝えていきたい。</p>

3) Bさん

Bさんの状況	
利用した団体	(一社) Omoshiro
利用した支援	①家事支援 ②交流の場 (居場所)
年齢・性別	10代・男性 (中学生)
ケア対象	母
ケア内容	糖尿病・精神疾患を抱える母親の外出時の付き添い、金銭管理 (金銭的な不安を抱えている)、精神的なサポートなどを実施。 ※ 父が他界して以降は父が担っていた役割をBさんが担う
家族構成	<小学校まで> 父、母、Bさん、弟 (別居) <現在> 母、Bさん、弟 (別居) ※ 弟は乳児院に入所後、児童養護施設で生活 ※ 父は病気により他界 (生前、統合失調症を抱えていた) ※ 生活保護受給世帯
支援を利用したきっかけ	弟が生まれたタイミングで区役所が家庭訪問を行い、育児支援につながる。弟が施設入所後、障害支援として利用団体とつながる。当初、父の支援拒否があったが、その後、父が歳をとって考えが変わり、Bさんが小学校低学年の時にヘルパー支援の利用を開始。現在は訪問看護も利用。その後、Bさんが小学校高学年の頃から、利用団体が提供する居場所の活動に参加。
支援の利用状況	・ ヘルパー支援は週2回 (掃除や買い物など) ・ 訪問看護は週1回 (母の通院・服薬管理や医療連携 (体調面のデータや気を付けることを確認)) ・ 居場所は、以前は月1回 (毎回参加)。1年前からは、時々参加

インタビュー記録概要 (Bさん)		
対象	本人	家族
1. ケアについて	① 大変という感覚ではないが、 <u>面倒</u> だと感じる時はある。 ② 誰かに言われた訳ではないが <u>母親の病気のことはなんとなく理解</u> している。 ③ 全般的に、家庭における <u>経済面の心配</u> がある。	① 学校は、先月行われた中学校の泊りがけの行事へ向けてしばらく頑張っていたが、行事後は <u>燃え尽きたように、学校には行けていない</u> 。 ② 朝起きることが難しく、起こしても起きられない。 <u>母親としては、「自分や家のことは心配しないでいいよ」というスタンス</u> 。 ③ 一方で、 <u>Bさんに頼らなければいけないので頼って生活</u> しており、二人の関係性が近すぎて喧嘩することがある。
2. 支援について	① <u>ヘルパーさんは、気づいたら毎週</u> 来ている存在。 <u>代わりに家事をしてくれて嬉しい</u> 。	① ヘルパーには大きな期待はなかったが、 <u>相談できることはありがたかった</u> 。

インタビュー記録概要（Bさん）		
対象	本人	家族
	② <u>居場所</u> に行くことは楽しく、自分にとって <u>大事な場所</u> 。スタッフが話しやすく、 <u>友達感覚で何でも話せる関係</u> 。特定の会いたいと思うスタッフもできた。	② 居場所について、 <u>Bさんにいろいろな人と関わってほしい</u> と思っていた。当初はお菓子目当てだったが、徐々に行くこと自体が楽しくなってきたよう。 <u>初めて居場所を訪れた時は、母子ともに楽しかった</u> 。Bさんの様子を見て、彼にもいろいろなことに取り組む能力があることを実感した。
3. 支援を受けた後の変化について	① 居場所に行くようになり、 <u>気づいたら良い方に変っていた</u> と感じるが、 <u>どう変わったかを言葉にするのが難しい</u> 。 ② <u>母親をみていてくれる人がいてほしい</u> 。	① 居場所に行く日は、 <u>Bさん自身で予定を立てて行動する習慣</u> ができていた。両親も予定をカレンダーに書き、予定に合わせて送り出していた。 ② 団体とは <u>家族皆で関わりがあったため、共通の話題ができ、家族間のやり取りが増えた</u> 。 ③ 日程面で柔軟性のあるヘルパーのサービスがあると良い。 <u>体調が悪く、体が動かなくてヘルパーを迎えることができない時もある</u> 。
4. 他の人にしてもらって嬉しかったこと	① 居場所のスタッフが話しやすい。 <u>友達感覚で話せる人が自分にもいるという感覚が大事</u> だと思う。 ② 同年代の友達だけでなく、 <u>頼れる大人が近くにいることで将来の自分の生き方がイメージできる</u> 。信頼がおけて自分を応援してくれる人がいることが良かった。	① 居場所スタッフの方は <u>熱意があり、親身になって助言</u> をしてくれる。 ② 以前お世話になっていた訪問看護のスタッフが、Bさんに服やカバンをくれたことがあった。また、私自身がBさんの入学式に履いていく靴がなかった際には、 <u>一緒に考えてくれて靴を調達</u> してくれて、 <u>助かった</u> 。
5. 支援をする人たちに知ってほしいこと	① <u>自分のことだけではなく、家族全体</u> をまとめて気にかけて、サポートしてくれることが <u>嬉しい</u> 。	① 支援について、もっとテレビなどで大々的に広報を行ってほしい。ポスターはあまり見ることがない。公式ホームページも見ることがないし、見たとしても <u>どんな支援があるのか（自分に必要な支援やどんな支援が利用できるのか）、よく分からない</u> 。

《支援団体コメント》

- ・ 最初はいい子ちゃん、という印象。次第に自分の「やりたくない」や「代わりにこうしたい」という意思や気持ちを言葉にできるようになった。

- 学校の担任が熱心な方で、学校の行事と一緒にに行けるように、バスの座席等いろいろと考えてくれていた。泊りがけの行事の前には、週1、2回の頻度で家庭訪問に来てくれていた。

4) Cさん

Cさんの状況	
利用した団体	(公財) さっぽろ青少年女性活動協会
利用した支援	交流の場(居場所)
年齢・性別	10代・女性(アルバイト(高校生世代))
ケア対象	きょうだい
ケア内容	きょうだいの世話、家庭の家事全般。 ※ 現在はアルバイトにより頻度が減っている
家族構成	父、母、Cさん、上と下にきょうだいが複数名
支援を利用したきっかけ	自宅に来た回覧板で、団体が運営する若者向けのカフェを知り、中学生の頃から参加。その後、カフェのスタッフの紹介により、YC 向けの居場所にも参加。
支援の利用状況	・ 若者向けのカフェ(軽食あり)は中学生の頃から毎月2回参加 ・ YC 向けの居場所(食事あり)は事業が開始した令和4年10月から毎月参加 ※ いずれの居場所も毎回参加

インタビュー記録概要(Cさん)	
1. ケアについて	① 「 <u>何で自分がやらなければならないのか</u> 」という思いもあるが、自分の将来に役立つとも思っている。大変だとは思っていない。 ② きょうだいの面倒をみることとアルバイトで忙しく、 <u>休める日が少ない。睡眠時間が足りない</u> こともある。
2. 支援について	① カフェは人と話すきっかけになると思った。 <u>自分は高校に行けなかった</u> ので人と話す機会がなく、行ってみようと思った。YC 向けの居場所は誘われたから参加しただけであり、 <u>特に期待はなかった</u> 。 ② カフェの雰囲気合っていて、 <u>人が話しやすかった</u> ので通っていた。 ③ YC 向けの居場所は、話を聞いていて、自分と <u>同じ境遇の人がこんなにたくさんいるのか</u> 、と知ることができ、他の人と話ができて嬉しかった。
3. 支援を受けた後の変化について	① 家では家事などに追われながら勉強をしていたが、カフェでは <u>自分の時間を確保できるようになった</u> ことは大きかった。他の人と話ができて、心理面で助かった。家で <u>家族と話す際の話</u> にもできた。 ② ケアは自分だけでは解決できない問題も多い。 <u>どのようにサポートしてもらうか・対処するべきか、他の仲間から教えてもらうことができた</u> 。 ③ 自分の思っていることを何でも話せる。ご飯を食べる際に、 <u>栄養豊富なご飯を出してもらっている</u> ので助かっている。 <u>お米など</u> をもらって帰るので <u>生活費の助け</u> になり、ありがたい。 ④ 家事は大変だが、 <u>家族以外の人</u> が家に入ってほしくはない。

インタビュー記録概要（Cさん）	
4. 他の人にしてもらって嬉しかったこと	① アルバイト先の方は、きょうだいが多いことは知っているが、家の事情は知らない。仲良くしてくれており、 <u>帰り際に食べ物をくれることもあり助かっている。</u>
5. 支援をする人たちに知っておいてほしいこと	① YC が否定されず、話を聞いてもらえる場所をつくってほしい。話を聞いて、 <u>寄り添ってもらえると嬉しい。</u>

5) Dさん

Dさんの状況	
利用した団体	(特非)こどもソーシャルワークセンター
利用した支援	交流の場（居場所）、トワイライトステイ・ショートステイ
年齢・性別	10代・男性（社会人（若者世代））
ケア対象	きょうだい
ケア内容	小学生の頃からきょうだいの世話と洗濯や部屋の掃除などを担い、中学校3年には家事全般を担う。また、生活困窮のため、高校からはアルバイトで家計のサポートも実施。
家族構成	<高校卒業まで> 父、母、Dさん、下にきょうだいが複数名 <現在> 一人暮らし ※ 保護者に軽度知的障害の可能性あり
支援を利用したきっかけ	中学3年生の秋に市から紹介されて、夜の居場所（トワイライトステイ）の利用を開始。高校入学後、若者の居場所活動へ移行。
支援の利用状況	・居場所に中学3年生の頃からほぼ週一回のペースで通う。それに加えて、バイト帰りに顔を出すことも多かった ・高校3年生の時に、団体にてYC支援がはじまり、現在はピアスタッフとしてピアサポート活動（地域ボランティア活動・社会発信活動・取材協力）に参加

インタビュー記録概要（Dさん）	
1. ケアについて	① ケアを始めて <u>1年くらいは、「なぜ自分が」と</u> 思っていたが、 <u>2、3年経って体が慣れるとケアが当たり前だ</u> と感じるようになった。 ② 金銭的に厳しく、自分がほしいものを買えず何もできなかった。きょうだいたちにも同じ思いを味わわせたくないという思いがあった。高校時代は、アルバイト・家事・学校の3つをこなし、 <u>睡眠時間が削られていた。</u>

インタビュー記録概要（Dさん）	
2. 支援について	<p>① 中学3年生の頃は受験もあり、<u>勉強をする時間を確保する目的</u>で通っていた。急に紹介されたので、<u>期待は特になかった</u>。</p> <p>② 高校生になると、次第に自分の辛い気持ちを吐き出せる・疲れを癒せる場所になった。<u>唯一休める場所が居場所しかなかった</u>。</p> <p>③ 団体の皆で<u>泊まりがけで出かけたことが本当に楽しかった</u>。家族旅行はほぼ行ったことがなく、修学旅行も行けなかったので嬉しかった。</p>
3. 支援を受けた後の変化について	<p>① 心理面で楽になった。居場所に行く予定ができたことで、「あと何日耐えれば、居場所に行ける」という楽しみができた。<u>通い始める前は、「ケアが永遠に続く」という感覚</u>だった。</p> <p>② 家から離れる時間ができ、物事を<u>ポジティブに</u>考えられるようになった。</p> <p>③ 家事が負担であっても家の中のことは自分でやりたい。そのため、<u>家事支援</u>を利用できる環境があったとしても、<u>利用しなかった</u>と思う。</p> <p>④ <u>配食支援</u>はあるとありがたい。<u>ご飯を作る時間がなくなるので、もっと勉強する時間ができていた</u>と思う。</p>
4. 他の人にしてもらって嬉しかったこと	<p>① 通っていた<u>中学校と団体がつながっていて、紹介してくれたことは助かった</u>。そこがつながっていなかったら、団体を知ることはなかった。</p>
5. 支援をする人たちに知ってほしいこと	<p>① <u>窓口は、こどもが自分の困難を打ち明けるにはハードルが高い</u>。居場所のような愚痴を吐き出せる場所があると良い。オンラインでの居場所よりは<u>対面の方が話しやすい</u>。</p>

6) Eさん

Eさんの状況	
利用した団体	(特非)もりおかユースポート
利用した支援	相談支援
年齢・性別	10代・女性（大学1年生）
ケア対象	母
ケア内容	Eさんが小学生の頃から精神疾患（うつ）を抱える母親への精神的なサポートなどを実施。その後、Eさんが高校生の時に母親が難病を患い、身体的サポートも実施。
家族構成	母、Eさん
支援を利用したきっかけ	高校の先生から団体への相談を勧められたことがきっかけで相談窓口を利用。
支援の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校3年の受験期に、1、2か月間で3回ほど窓口を利用 ・ 現在は、団体の学生ピアサポーターとして講演をするなど活動中

インタビュー記録概要（Eさん）		
対象	本人	家族
1. ケアについて	<p>① 精神的なサポートが大変だった。母が難病を患い、高校からは身体的なサポートも行うようになった。身体的なサポートよりも精神的なサポートの方が辛いと感じていた。<u>体は大丈夫だが、心がしんどかった。</u></p> <p>② 母親の身体的なサポートで、<u>土日は部活に行けない</u>ことも多かった。</p>	<p>① こどもの体調で気になることについて、<u>食事面でジャンクフードばかり</u>食べているため心配している。また、<u>心理面</u>については、<u>感情の起伏が激しい</u>ように感じる。</p>
2. 支援について	<p>① 相談支援の利用を考えたのは、自分自身もYCについて知りたかったから。自分でも検索をしていて、団体のことを知っていたが、先生から紹介されるまでは<u>相談する勇気が出なかった。</u></p> <p>② 相談時は、<u>どんな支援が受けられるのだろうか、</u>と期待していた。</p>	<p>① <u>同じことを経験した人と気持ちを共有</u>することで、<u>気持ちが楽になってほしい</u>と考えていた。</p>
3. 支援を受けた後の変化について	<p>① ケア自体にはあまり変化はないが、<u>前より周りを頼れる</u>ようになった。</p> <p>② 気持ちが暗くなることが減り、<u>ポジティブ</u>に考えられるようになった。</p> <p>③ YC であることを母に伝えることができ、母が<u>自分を気遣ってくれる</u>ことが増えた。</p> <p>④ YC について気軽に話せる場所がもっと増えると良い。また、<u>動画や写真など、SNS などでどんな場所なのか発信があると、行きやすい。</u></p> <p>⑤ 弁当の配食があると、金銭的にも楽になる。現在は有償の弁当配食を利用しているが、<u>月1回程度でも無償で届くと助かる。</u></p> <p>⑥ 一時期、<u>ヘルパー支援</u>を受けていたことはあったが、部屋に人がいることで<u>母親の調子が悪化したため、利用を中止した。</u></p>	<p>① ケアに関して<u>変わったことはあまりない。</u></p> <p>② <u>こどもに対する支援としては、気持ちがすっきりするような居場所</u>があるとよいと思う。</p> <p>③ <u>自身に対しては、同じ難病や病気を抱えている人が集い、精神的に楽になる場</u>があると嬉しい。</p>
4. 他の人にしてもらって嬉し	<p>① 部活の顧問に退部の相談をしたところ、マネージャーにしてくれた。顧問はいつも<u>気にかけてくれ、非常に心強かった。</u></p> <p>② ピアサポーターとして体験談を話</p>	—

インタビュー記録概要（Eさん）		
かったこと	す際に声をかけてもらえる。また、質問をしてもらうなど、興味を持ってもらえることが嬉しい。 <u>ピアサポーターという居場所を提供してくれたことも嬉しく、誇りを持っている。</u>	
5. 支援をする人たちに知っておいてほしいこと	① 団体は SNS を活用しており、いつでも <u>気軽にLINEができて助かる。</u> 足を運んだ際も、 <u>スタッフが明るく笑顔で迎えてくれるので、前向きな気持ち</u> になれる。	① <u>地域のどのような場所でも、車いすや身体障がいを抱えている人が利用できるようにしてほしい。</u>

7) Fさん

Fさんの状況	
利用した団体	（一社）ヤングケアラー協会
利用した支援	就労支援（LINE、オンライン相談）、相談支援
年齢・性別	30代・男性
ケア対象	母
ケア内容	Fさんが幼少期から精神疾患を抱える母親への精神的サポートと身体的サポートなどを実施。現在は、医療や介護関連の手続きや入院・通所時の付き添いなども実施。別居の高齢の祖母のケアも時折行う。
家族構成	父、母、兄、Fさん ※高校時代はホームステイ ※大学卒業後、一度実家を出るが、母の病状悪化により再び同居。その後、母は何度かリハビリや体調調整等で入退院を繰り返す。現在は通所介護・リハビリサービスや訪問診療等を受けて在宅療養
支援を利用したきっかけ	大学卒業後、母の病状悪化で実家に戻り、介護と仕事の両立に悩んでいた際、SNS上で団体のキャリア相談サービスを知った。
支援の利用状況	・ LINE やオンラインでのキャリア相談を利用（LINE上では複数回相談し、オンライン面談は3～4回程度利用） ・ その他、団体のオンラインコミュニティを利用

インタビュー記録概要（Fさん）	
1. ケアについて	① 自分が物心ついた頃からケアを行っていたため、 <u>学生時代は感じていなかったが、大人になった今思い返すと負担感は強かった。</u> ② <u>中学の頃は不登校</u> になった時期があった。 <u>親のことを心配</u> していたり、 <u>家のことで疲れ</u> が溜まっていたことも影響していたと思う。

インタビュー記録概要（Fさん）	
	③ 大学では看護を学んだが、 <u>欠席できない実習があるにも関わらず、母の入退院の付き添いで休まなければいけない時があった。</u>
2. 支援について	① <u>働くことが好きである一方で、親のケアもしたいという葛藤があり、介護をしながらでも働きやすい職場の紹介や、新しい働き方の提案をしてくれることを期待しており、フルリモートの仕事やフレックス制度等、新しい働き方を教えてもらえた。</u>
3. 支援を受けた後の変化について	<p>① キャリア相談をしたことで働き方の多様性を知ることができ、<u>将来への不安が減った。</u></p> <p>② 団体の Slack 上の <u>オンラインコミュニティ</u> にも登録しており、団体の実際のイベントにも参加し、そこで自分の状況を客観的に見ることができた。例えば、他の家族のメンバーの立場（介護に参加しなかった兄など）や考えを知ることができ、<u>兄に対する不満が消化された。</u></p> <p>③ 自身が訪問看護で働いていた際に、YC と思われる子に出会うこともあった。（例えば訪問看護であれば、家族支援等に対して加算が取ればお金をいただきながら訪問をすることができるため、）<u>YC がいることを考慮した訪問看護や介護サービスがあると良い。</u></p> <p>④ <u>YC のメンタルケア、精神疾患の予防・啓発が進むとよいと思う。</u> 精神疾患は遺伝要因と環境要因があると言われている。<u>YC はストレスを抱えやすい</u>ため、環境要因も成立しうる。YC たち自身も自分のケアができるようになる支援・教育もあると良い。</p> <p>⑤ こども時代に困難があると、<u>自己肯定感が低くなったり、負い目を感じる</u>ことがある。大人になれば急に何でもできるようになる、という訳ではないので、<u>こどもの頃から支援をして、自分の生活を大切にしながらケアできるよう支援できるとよい。</u> YC が大人になり、親との関係を切ろうとするケースもある。行き詰まって家族から離れてしまう前に、家族が家族で居られるように、支えられると良いと思う。</p> <p>⑥ <u>家族単位での支援・大人向けの支援が必要だと強く感じる。</u> 家族は必ずしもケアの専門家ではないので、効果的なケアをできていない場合もある。<u>早くから効果的なケアができていれば、こどもが YC にならなくて済んだかもしれない、</u>というケースもある。また、保護者の介護能力が低かったり、多忙からこどもがやらざるを得なくなるケースもある。そのため、<u>介護者・養護者の大人に対しても精神面や社会資源の活用</u>の支援、<u>介護等の知識獲得を含むサポートが必要</u>である。</p>
4. 他の人にしてもらって嬉しかったこと	① 母親の入院時に配慮してくれて大変助かった。母親が入院の予定だったが、体調不良で行けなくなってしまった。 <u>病院のソーシャルワーカーやケアマネジャーが事情を理解してくれ、ベッドを確保して母親の体調の良くなるタイミングを辛抱強く待ってくれた。</u> それまでは母親はずっと家において、効果的なケアもできていない状態だったが、 <u>入院により通所サービスも受けられるようになり、病状が上向きになっている</u> ことを感じられるようになり良かった。
5. 支援をする人たちに知ってほしいこと	<p>① 行動や声かけなど、態度で示してくれるだけで助かる。場合によっては、<u>「家から逃げ出してもいいんだよ」ということも教えてあげてほしい。</u> 親と一緒にいたい子もいると思うが、<u>短期でも家から離れて休む、という選択肢があることを伝えてほしい。</u></p> <p>② 介護をしている人は<u>家を出られない、家族の不調で急に出かけられなく</u></p>

インタビュー記録概要（Fさん）	
	なる、という事情がある。「急に来られなくなってもいいんだよ」というメッセージが伝わると参加しやすくなる。

《支援団体コメント》

- ヤングケアラー支援は広まりつつあるが、若者支援については自治体の支援メニューも少なく、窓口のある自治体も少ない。働きたいヤングケアラーのこども・若者を企業に紹介したいが、理解がある企業がなかなか見つからない。

(3) 支援団体インタビュー調査結果概要

1) 特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター（滋賀県大津市）

特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター	
0. 組織概要	① 当団体は <u>YCの専門ではないが</u> 、しんどさを抱えるこども・若者の支援を行っており、利用者は <u>YCの割合が高い</u> 。
支援のポイント	
1. 年齢や発達の程度に応じた支援	<p>① 普段は <u>トワイライトステイ</u>と呼ばれる夜(17~21時)の居場所を提供し、<u>長期休みになると、ショートステイ</u>などの宿泊等プログラムも提供している。これは、<u>大津市の補助事業</u>で、市からこどもたちが紹介されてくる。</p> <p>② また、昨年度から <u>滋賀県のYC支援体制強化事業</u>として、<u>配食や、体験活動(水族館に行く等)</u>を月一回提供している。主にSSWからの要望を受けて紹介される。</p> <p>③ 若者に対しては <u>若者向けの居場所やシェルター</u>でサポートすることもある。さらに、<u>ネット上での夜回り活動</u>を通じてつながることもある。高校生世代くらいになると、自分たちでSNSで情報を得たり、友達から話を聞いて来ることもある。</p> <p>④ <u>家から離れてもらうことは重視</u>している。ケアラーは学校や仕事へ行くなど、外に出ることはできる場合が少なくない。プログラムの中心は交流や楽しいことだが、<u>ポロっとこぼした心情を大人がキャッチ</u>したり、お互いが <u>ピアの中で支え合っている</u>。</p>
2. ケアの内容に応じた支援	<p>① プログラム内でYCについて <u>語る時間を設ける</u>というよりは、<u>愚痴のような形で自然に親や環境について話すことができる場</u>をつくっている。<u>事情は多様だが、何を話しても安心だと感じられ、話すことでホッとできる</u>。</p> <p>② それに加えて、<u>日常生活を体験できる</u>ことがポイントである。家では余裕がなくてそういうことはできないが、当団体で食事会や誕生日会があると <u>みんなと同じような経験ができる</u>。<u>こどもたちがセンターに求めているのは、そのようなことだ</u>と思う。</p>
3. アトリチの効果的な方法	① <u>配食と送迎</u> を行っている。滋賀県という立地もあり、送迎は基本であり、我々としては、家に行くことにこだわっている。 <u>送迎を通じて親に会いに行き、状況を把握する</u> 。顔を見て調子が悪そうだったら必要に応じて役所に訪問をお願いするなどしている。
4. 家族構成に応じた支援	① 民間・行政の専門職同士で情報共有をしているので家族の状態は、把握はしているが、本人たちには行政から家族の構成情報を教えてもらったことは言わない。ケアラーに親の調子を聞いても、正直に言う場合もあれば、濁されることもある。その答えが、 <u>どの程度ケアラーにとって今の状況が辛いかを測るパラメーター</u> になり、 <u>どの程度踏み込むかを決められる</u> 。
5. 効果的な支援	① <u>公的なルートと、こども同士が持っているつながり</u> を大事にしている。若者やこども同士が持っているつながりから、「知り合いで困っている子が

特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター	
順序	いる」と紹介されるルートは一定数ある。
6. 優先的に行うべき支援	① <u>命や健康状態に関わるような緊急性のあるもの</u> に優先的にリソースを投入する必要があると思う。ちょっと手を入れてすぐ変わるものではないので、 <u>時間がかかるし成果も見えづらいが重要な点</u> である。当事者がしんどさを乗り越えて頑張ったというストーリーの方が寄付は集まりやすいが、その中でまだ立ち直れないような人へは寄付がいきづらい。
7. 支援対象者を増やすためのポイント	① 団体としてはキャパオーバーで受け入れ拡大は難しいが、人が来る仕組みができています。 <u>行政との関係性</u> があり、こどもや若者に <u>また来たい</u> と思ってもらえたり、しんどい思いをしている子を <u>連れてきたくなる</u> ような場づくりのノウハウがある。 ② 啓発ではなく、小さな草の根活動を広げることが、一番支援が必要なケアラーのこどもたちがつながるのに最重要だと思う。 <u>SSW や訪問介護の事業所</u> などが、実際に支援している家庭のこどもをセンターにつなげてくれるとありがたい。
8. 支援の卒業	① ケアが終わったとしても本人のしんどさは変わらず、5～10年は引きずる。 <u>ケアを行っている最中</u> はそれが <u>日常で当たり前</u> になりすぎていて、あまり今すぐ助けてほしいという風にはならない。 ② <u>支援の出口は、ない</u> と思う。ケアが終了した後の方が <u>生きづらさが強くなっている</u> ように見受けられるため、 <u>そこへの支援ももっと重点的に考えることが必要</u> だと思う。
9. 家族と関わる際のポイント	① 家族全体を見るのは重要だが、 <u>当団体としてはこどもに主軸</u> を置いておきたい。ご家族から相談があれば聞くんが、どちらかという家族の相談を受ける場所は他にもあるので、そちらを緩やかに伝えていくイメージ。 ② 当団体はこども・若者が抱える様々な課題に対応しており、虐待やひとり親家庭、発達障害や不登校など、 <u>親に自責の念を感じさせない、傷つけないために最も適切なアプローチ</u> は何かをよく考えるようにしている。
外部との関係	
10. 地方自治体との連携	① YC が目の前にいるので、行政の仕様書通りに事業を行った場合、恐らくこうなる、ということをもっとある程度明示できているため、 <u>柔軟に予算計上</u> できるようにしてもらっている。 ② <u>数字などで成果が見せられるものしか事業化されないことに危機感</u> を持っている。オンラインサロンやヘルパーなど、支援は必要ないわけではないが、時間や約束を守れることが前提となる。しかし、YC の場合、 <u>ケア対象者の体調の変化で急遽予定が変わり、参加/利用できずキャンセルになってしまう</u> 、ということも少なくない。
11. 自治体以外の他機関との連携	① 大体のケースは児童福祉法に基づく要保護児童対策地域協議会の枠組み内ではほぼ解決しているが、 <u>問題なのは、18歳を超えると支援がないこと</u> である。医療機関も民間なので難しい。 ② 当団体は、専門職を配置していることが強み。地域の団体に関しては、 <u>行政と誰かが上手くマッチングする必要がある</u> と感じる。

特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター	
12. 自治体への期待	① 現状は補助金が不足している。民間団体では目の前にいる子どもたちが求めていることを把握できている場合もあるため、当団体のように、ある程度の裁量権をいただき、自由にやらせていただけるとありがたい。

2) 一般社団法人ヤングケアラー協会（東京都品川区）

一般社団法人ヤングケアラー協会	
支援のポイント	
1. 年齢や発達の程度に応じた支援	<p>① YC 当事者へのつながり方は年代別で異なる。<u>小・中学生</u>向けには、<u>アウトリーチ</u>を重点的に行っている。小学生は<u>困難を自分で訴えることが難し</u>かったり、本人が<u>困難な状況を自覚していない</u>こともあり、大人がいかに気づいて支えていくかが重要。</p> <p>② <u>中高生</u>になると、当協会が実施している <u>LINE 相談窓口</u>に相談が来る。</p> <p>③ <u>高校生</u>になると、状況を客観視し、言語化できることも増える。<u>SNS での相談</u>は、ケアで忙しい YC 等にとっても相談しやすい。一方で、緊急度が高く本人・家族に介入していく必要性を感じる場合でも、本人から個人情報を得られず自治体と連携することが難しいケースもあり、歯がゆさも感じている。</p> <p>④ <u>若者世代</u>になると、具体的な情報や支援を必要としている人も多いため、<u>オンライン等で話せる</u>ことも多い。</p> <p>⑤ YC が抱える課題はすぐに解決することが困難な場合が多いため、すべての年代に共通して、継続的に関われる人、話せる場があることが重要。協会で開催しているサロンでは YouTube ライブや Zoom などのオンラインと、リアルで集える居場所の運営を定期的に行っている。<u>サロンは、オンライン・対面ともに 18 歳～30 代のケアラーの参加者の利用が多い</u>。ケア負担が重い方や被虐待経験者もいる。若者ケアラーがこれまでの経験を棚卸・言語化して整理し、前向きな一歩を踏み出すきっかけの場として機能していると実感している。一方で、サロンは小学生～高校生のケアラーの居場所にはなりづらく、<u>10 代に合わせた居場所の必要性も感じている</u>。</p>
2. ケアの内容に応じた支援	<p>① ケアの内容に応じてというよりは、本人とそれぞれのご家族が必要とすることを<u>一緒に考え探していく</u>。<u>個別化された支援が原則</u>だと感じている。</p> <p>② 家族の状況に応じて福祉サービスが使える場合はつながるが、YC が行っているケアが多様であり、多様な課題を抱えて複雑化しているケースも多い。地域によって資源の差があるなども含めて、<u>現行の社会制度ではカバーしきれないケースも多々ある</u>。</p>
3. アウトリーチの効果的な方法	<p>① アウトリーチで学校や児童センター、フリースクールや子ども食堂、商店街などに行くことが多い。<u>学校への訪問の際には、先生、SSW や SC など、子どもが信頼している大人から情報連携を受けて関わり始めると、スムーズな介入につながる</u>ことが多い。</p> <p>② アウトリーチは幅が広く、<u>関係機関への挨拶回り</u>など、理由を設けて足を運ぶことが重要であり、<u>支援機関を増やす</u>という意味合いもある。実際に</p>

一般社団法人ヤングケアラー協会	
	<p>訪問することで、YCを紹介してもらえらることもある。</p> <p>③ YC が多い場所の当たりを付けることで戦略的にアウトリーチが行えると思う。例えば<u>定時制の高校、フリースクール</u>等の場所である。</p>
4. 家族構成に応じた支援	<p>① <u>ひとり親は共通して忙しく、家事が大変な状況にある。</u>YCに限らずだが、父子家庭だと、娘が父親に年齢に応じた相談がしづらいという面がある。そのため、第三者も関わる事が必要だと感じている。同じ母子・父子家庭でも、祖父母やきょうだいの有無によって違うが、<u>全体に共通して、主に家事と金銭面で生活が厳しく、今が大変なので先(こどもの進学や就職などのライフステージ)に合わせて考えることやこども自身へのケアが不足している</u>と感じる。</p>
5. 効果的な支援順序	<p>① 必要な支援はたくさんあるが、<u>心身ともに健康に生きることが大事</u>だと思う。そのためには、他者とつながることが重要だと思う。ただし、疲労が強かったり長期的に孤立してきた場合、<u>人とつながりを持つことのハードルが高い</u>こともある。そういった場合、<u>繋がりよりもっと手前の現実的な支援</u>として、衣食住に安心できることが求められる。ニーズに合わせながら「<u>配食サービス</u>」など支援のハードルが低いものを活用し関係性を構築する手立てとすることも効果的であると考えている。</p> <p>② どの場合も共通して、<u>支援につなぐことを焦ってはいけない</u>。つなぐ前にねぎらい、一緒に考えることが大事。</p>
6. 優先的に行うべき支援	<p>① <u>緊急性の高い相談支援を優先的に行っている</u>。当協会だけで対応できないケースは他の団体と連携することもある。</p> <p>② YC の抱える問題は相談の場だけでは解決できない場合も多いが、息の長い支援を展開するために、本人との関係性を築くことも意識しており、<u>信頼できる大人がいる環境</u>をつくれるようにしている。</p>
7. 支援対象者を増やすためのポイント	<p>① <u>相談しやすい雰囲気</u>づくりとして、LINE 相談は初期の頃から、「大変だから助ける」というスタンスではなく、「<u>家庭のことを気軽に話していいんだよ</u>」、というメッセージを伝えている。YC が、<u>支援を受ける「弱者」だ</u>という表現にならないように注意している。</p>
8. 支援の卒業	<p>① ケアは長く続く場合も突然終わる場合もあるが、<u>ケアが終わったからすべてが終わるわけではない</u>(ケアが終わった後の生きづらさを話す若者は多い)。一度困りごとが減っても、期間を空けてLINE で相談が来ることやイベントに来てくれることもある。</p> <p>② <u>地域の支援者がよりこどもに関わっていくことが重要</u>。YCC がすべてのケースワークに長期的に関わり続ける体制は現実的ではない。ランク付けして、緊急度が高いケースにはケースワーカーと協業し、緊急度が低いケースは地域や学校などの社会資源につなぎ、定期的な情報連携をコーディネーターが受けることで状況が急変したタイミングをキャッチできるようにする、などの体制づくりとつなぎや連携の必要性を感じている。</p>
9. 家族と関わる	<p>① 重要なのは、<u>家族の味方</u>でもある、<u>という姿勢</u>を大事にすることだと思う。</p> <p>② <u>「ヤングケアラー」という言葉自体が家族を傷つけることもある</u>という事実はある。それはメディアを通じて「こどもがかわいそう」というイメー</p>

一般社団法人ヤングケアラー協会	
際のポイント	ジがつくられていることが大きい。 <u>YC と家族の関係性はケースバイケースであるという理解を広めていくことが重要</u> だと考える。
外部との関係	
10. 地方自治体との連携	<p>① 子ども家庭支援センターに配置されている YCC については、YCC とケースワーカーの担当領域の切り分けや、要対協で受理するか否かも含め、<u>体制においてあいまいな点を明確</u>にすることが重要。また、改正法施行後の子若協議会との連携も同様である。</p> <p>② 行政から求められていることと、<u>団体として大事にしていることをすり合わせておく</u>ことも大事である。</p>
11. 自治体以外の他機関との連携	<p>① 現状、<u>YC 支援に積極的な医療機関は少ない印象</u>。診療報酬の加算になっていることを知らない医療者も多く、また、<u>外来や精神科では加算対象外</u>となっていることは医療機関との連携上も大きな課題である。</p> <p>② 18 歳を超え、<u>要対協の枠組みから外れた若者世代は支援先につながる</u>ことが難しい。そのため、医療や福祉に限らず、就労に課題を抱えることも多いため、企業等の民間とも連携する必要があると思っている。</p>
12. 自治体への期待	<p>① 自治体の支援内容にはばらつきがあるが、<u>YCC の配置があると良い</u>と感じる。相談時に、<u>分かりやすい窓口</u>があることが非常に重要である。また、家事の中でも料理に負担を感じる学生からの相談も少なくなく、<u>配食は、こども食堂などと連携して、どの自治体でも利用できる</u>と良い。</p> <p>② YC の家庭は複合的な問題を抱えているため、コーディネーターがいることで横串でチームで動くことができ、<u>たらい回しを防げる</u>。</p> <p>③ <u>ケアマネジャーや相談支援専門員がアセスメントをする際に、要介護・要介助者だけでなく、YC も念頭に置いてケアプランを作成する</u>、ということが当たり前になると良い。</p> <p>④ YC 支援は、こどもだけでなく、親への支援が圧倒的に足りないために生じている。例えば、両親の一人が病気でもう一人がフルタイムで働いていたとしても、<u>家族が同居していると支援の対象でなくなってしまう</u>ので、訪問支援が行えないことがある。結果として、<u>こどもがケアをやらざるを得なくなっている</u>こともある。</p>

3) 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会（北海道札幌市）

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会	
0. 組織概要	① 当協会は札幌市のYC支援体制強化事業を受託し、YCの居場所づくりを実施している。居場所の参加対象は主に <u>中高生を基本</u> としている。
支援のポイント	
1. 年齢や発達の程度に応じた支援	① 年代別というよりも、本人がどうしていきたいかを把握し、 <u>一人ひとりのニーズに応じてサポート</u> することが最重要。 ② 自身の家庭環境が周りと異なることに気づく時期は、小学生高学年頃が多い。 <u>現状に対し、諦めの感情</u> を抱いている中学生にも出会った。そのため、中学生には早い段階で、 <u>家族丸ごと支援</u> をするのが大切だと感じている。 ③ <u>高校生は自分の将来を具体的に考え始める年代</u> であるため、本人たちが <u>将来のことを意識</u> するような <u>関わり</u> を持つようにしている。
2. ケアの内容に応じた支援	① 当協会が関わるケアラーのケア対象者の状況としては、「 <u>幼い</u> 」、「 <u>精神疾患</u> 」、「 <u>精神疾患、依存症以外の病気</u> 」が多く、「 <u>幼い</u> 」の場合には、「 <u>食糧支援</u> 」、 <u>それ以外の二つの場合は「食糧支援」に加え、「アウトリーチ」</u> が効果的だと感じている。 ② 食糧支援は、大きく分けて二つある。一つ目は、 <u>居場所に来た子に食料をお裾分けしている</u> ケース。家庭の経済状況が厳しい、時間がないなどの理由から、居場所と自宅間をスタッフが送迎しており、重たい荷物を持ち帰ることができる。二つ目は、 <u>外出が困難な場合もあるため、物資を届けながら近況を聞きに行く</u> ケースである。 ③ 「YCの支援」の相談や場に行くとなると、 <u>家族から理解してもらえない場合もあるため、「若者向けの施設の事業に参加する」という説明している</u> こともある。 ④ <u>家事支援へのニーズ</u> を聞くと、本人たちは嬉しいというが、「 <u>家族が望まないと思う</u> 」という回答が返ってくるが多い。
3. アウトリーチの効果的な方法	① 若者支援の事業で、 <u>中学卒業後に進学しない生徒とのつながり</u> を保つため、 <u>中学校を訪問する際に、事業の紹介</u> をしているが、このような訪問から本人たちとつながっていくための対応を模索中。
4. 家族構成に応じた支援	① 母子・父子・両親のいる家庭等、あまり <u>家族構成による支援の違いは感じていない</u> 。どちらかという、それぞれの <u>家庭の事情</u> による違いだと考えている。
5. 効果的な支援順序	① <u>本人との関係性を築き、「この人たちには、自分の気持ちを打ち明けていいかな」と思ってもらえることが重要</u> 。オンラインや対面等のようなつながり方だったとしても、 <u>関係性が築けていないと、次につながらない</u> 。居場所に参加する場合、最初は、知らない人が多い場所へ行くことに抵抗を感じる参加者が多い。

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会	
6. 優先的に行うべき支援	① 会話をする中で <u>アンテナを張ることが重要</u> だと思っており、何気ない会話から気になるキーワードを見つけ、そこから現状を知ることが意識する。また、その気づきをチームで共有し、 <u>多面的な視点</u> から、支援計画を考えている。
7. 支援対象者を増やすためのポイント	① 現在、当協会の事業で、 <u>YC 支援につながる</u> ことが多い事業は大きく2つあり、一つは <u>学習支援</u> 、もう一つは、 <u>若者支援施設</u> である。若者支援施設は、居場所やキャリア相談・就労支援等としても機能している。それらに関わる人たちにYCがないかアンテナを張る意識付けをしてほしい、と働きかけている。 ② 本人の状況を踏まえ、 <u>若者支援施設の利用を促す</u> こともあり、 <u>YC の事業につながる</u> ことが必ずしも <u>ゴールではない</u> と考える。 ③ 昨年度は札幌市のYC支援体制強化事業を受託する際に自主的に相談窓口を設けた。今年度に札幌市の事業としてYC相談も始まり、 <u>事業を周知する機会が増えた</u> ことで、学校の先生、SSW や保護者のヘルパー、ケアマネジャーからの相談が増えた。 ④ 市内の中高校生向けに <u>名刺サイズのカード</u> を作成し事業を周知した。 <u>対象者への周知に加え</u> 、大人にYCへの理解を深めてもらうための啓発や、 <u>関係機関との連携も重要</u> だと考える。
8. 支援の卒業	① 一度YCの状態ではなくなった若者が、またケアを担うケースがあった。 <u>ケアをしなくてもよい環境になったとしても、状況を確認し、つながっていることは必要</u> だと感じた。
9. 家族と関わる際のポイント	① 現状では <u>YC の事業としては家族と関わっておらず</u> 、家族まるごと支援につなげるために、あと一歩入っていくためのアプローチの方法は、今後の課題。
外部との関係	
10. 地方自治体との連携	① YC の事業を担当する前から取り組んでいた若者支援事業が同じ担当部局であり、 <u>長期的な関係が築けている</u> 。 <u>情報共有やコミュニケーションを密に行っていくことが重要</u> だと感じている。
11. 自治体以外の他機関との連携	① 学校や病院、区の <u>ケース会議に呼ばれることはある</u> が、もっと関わることがあると思うため、当事業の周知に努めたい。 ② <u>ケアマネジャーやヘルパー等のご家庭に介入している方々からの情報提供が重要</u> だと感じており、より <u>つながりを強くしたい</u> 。
12. 自治体への期待	① これまで同様、札幌市との連携をしっかりと行っていきたい。

他分野との連携強化に向けて寄せられた声

《介護・障害分野》

- ◇ 自治体インタビューでは、「ヤングケアラー・コーディネーターは地域会議や障害、介護関係の会議に出席し、啓発を行い関係構築をしてくれていることで、結果として相談が入ってくるようになってきている」という声も聞かれたが、一方で、まだ介護・障害分野との連携について、更なる連携強化が必要である。
 - ヤングケアラー支援は、子どもだけでなく、親への支援が圧倒的に足りないために生じている。例えば、両親の一人が病気でもう一人がフルタイムで働いていたとしても、家族が同居していると支援の対象でなくなってしまうので、訪問支援が行えないことがある。結果として、子どもがケアをやらざるを得なくなっていることもある（支援団体インタビュー）。
 - 福祉支援も「被介護者」をメインとしたケアプランの設定が今も続いているが、ケアマネジャーがアセスメントをする際に、被介護者本人だけでなく、被介護者と暮らす家族（ヤングケアラー）の困りごと、意向や希望を把握した上で支援計画を構築するということが当たり前になると良いと思う（支援団体インタビュー）。
 - ケアマネジャーやヘルパー等のご家庭に介入している方々からの情報提供が重要だと感じており、よりつながりを強くしたい（支援団体インタビュー）。
 - 日程面で柔軟性のあるヘルパーのサービスがあると良い。体調が悪く、体が動かなくてヘルパーを迎えることができない時もある。結果、柔軟に対応できるこどもに頼ってしまう（家族インタビュー）。
- ◇ なお、支援団体インタビューでは、ケアマネジャーが子ども・若者の支援も一緒に行う事例として、次のような取組も聞かれた。「ケアマネジャーの事業所を立ち上げ、子ども・若者を含めた家族のことを考慮し、親子まるっと伴走支援を行っている。これは、親子それぞれで制度、窓口、役割が異なっているが、それを我々が一緒に対応するというもの。親子の暮らしが見えているからこそ、こどもが夏休み期間中は家事支援の内容を変えたり、夕食を準備する際に、翌日のお弁当用のおかずを用意できたりもする。こどもと大人への支援を両軸で走らせることが大切である」。このような取組は介護分野との連携強化に向けた有効な取組の一つと考えられる。
- ◇ また、「ヤングケアラー」という言葉が持つネガティブなイメージについて（「第6章5（5）広報啓発」を参照）、「こどもが入り口になると、こどもがおかれている状況を解決するという思考になりがちで、母親に問題があるという事になってしまう。その場合、母親はそのために来る人とは話したくないと思う。母親が悪者にならないように気をつける必要がある。母親のことも大事にしつつ、こどもも一緒にやろうとなれば支援に入れると思う。母親を巻き込んでそのこどもを見る仕組みづくりが大切だと思う。大好きな母親がこどものために支援を入れようとするのは、こどもからしたら嬉しいことであるため、こどもにも受け入れられやすい」（支援団体インタビュー）という声があるように、ケアマネジャーから家族を経由して、こども・若者にアプローチすることは有効な方法の一つであると考えられる。本人インタビューでも「自分のことだけではなく、家族全体をまとめて気にかけて、サポートしてくれることが嬉しい」という声を聞くこともできた。

《医療分野》

- ◇ 本人向けアンケートの結果にもある通り、こども・若者のケア対象者が精神疾患を抱えている割合は少なくない。この場合、こども・若者が医療機関に付き添ったり、訪問看護を

利用している場合は、支援者が子ども・若者の存在を認識している場合もある。そのため、医療機関等との連携は、ヤングケアラーに気づいたり、見守りを行う上でも有効だと考えられる。

- ◇ 医療機関との連携強化に向けては、令和4年度診療報酬改定において、「入退院支援加算」にヤングケアラーの項目が加えられた。引き続き、更なる連携強化が必要である。
 - 精神科の外来での家族支援は診療報酬に入っていない。実際にはヤングケアラーがいても、受診の際にはその世帯に子どもがいるという事情は聞かない（検討委員会委員）。
 - 医療機関は病気を抱える当事者と家族の介入に肝となることが多いが、現状医療機関がヤングケアラー支援に積極的なところは少ない印象。診療報酬の加算になっているが知らない医療者も多い。また、外来や精神科では加算対象外となっていることは医療機関との連携上も大きな課題であると思う（支援団体インタビュー）。
 - 自身が訪問看護で働いていた際に、ヤングケアラーと思われる子に出会うこともあった。（例えば訪問看護であれば、家族支援等に対して加算が取ればお金をいただきながら訪問をすることができるため、）ヤングケアラーがいることを考慮した訪問看護や介護サービスがあると良い。加算が取れば既存の訪問看護ステーションも積極的に実施していくと思う（本人インタビュー）。

≪その他の分野（地域包括ケアシステムにおける位置づけ及び支援体制の構築）≫

- ◇ 「ヤングケアラーは、医療機関、福祉機関、教育機関、民間の支援機関など幅広い関係機関がかかわる課題である。高齢者や精神障害者など各領域もしくは全対象における地域包括ケアシステムにヤングケアラーを位置づけ、支援体制を構築することが重要である。ヤングケアラーを含んだ地域包括ケアシステムを構築している先進的な地域における実践事例を収集し、方法を検討する必要があると考えられる」（検討委員会委員）。

第6章 考察

本調査研究の目的は、これまでの支援等の取組がヤングケアラー等にもたらした影響を把握・整理し、ヤングケアラー支援を更に効果的に充実・強化することを可能にするため、実際の声に基づいた情報を取りまとめることである。

この目的を果たすため、検討委員会での議論等も踏まえながら、ヤングケアラー支援の効果的取組にかかる以下の6つの視点から各種調査結果を踏まえて考察を行うとともに、取組を行う上でのポイント等を整理する。

1. 支援における基本的な姿勢
 - (1) ヤングケアラーの捉え方
 - (2) 家族全体を捉える視点
 - (3) 信頼関係のある人からのアプローチを基本とする（支援の専門家に限らない）
 - (4) 支援につなげることを焦らない
 - (5) 急な予定変更が生じやすいことを踏まえた事業・支援設計を行う（支援利用の急なキャンセルへの柔軟な対応）
2. 効果的な影響をもたらした支援（こども・若者の年代別）
 - (1) ヤングケアラー本人の声
 - (2) 効果的と考えられる支援順序
3. 効果的な影響をもたらした支援（ケアの対象者の状況別）
 - (1) ヤングケアラー本人の声
 - (2) ケアの対象者の状況別で効果的と考えられる支援
4. 効果的な取組事例及び取組のポイント（支援メニュー別）
 - (1) 相談窓口の設置・運営
 - (2) アウトリーチ
 - (3) 居場所の設置・運営（オンラインサロン、ショートステイ・トワイライト（夜間）ステイを含む）
 - (4) 家事・育児支援
 - (5) 食に関する支援（配食支援・食糧支援、こども食堂等）
 - (6) 学習支援
 - (7) 就労支援
 - (8) その他（外国語対応通訳支援、外出時の付き添い、現金給付、進学支援等）
5. 自治体の体制面等におけるポイント
 - (1) 都道府県、市区町村の役割分担
 - (2) 教育部門と福祉部門の連携
 - (3) 予算確保
 - (4) ヤングケアラー・コーディネーターの配置
 - (5) 広報啓発
6. 今後の課題
 - (1) 中長期的な視点が必要であることへの理解
 - (2) 学び直しの機会の充実
 - (3) 若者支援の充実
 - (4) 家族全体のニーズに対応した支援方法や普及啓発方法の検討
 - (5) 長期的な支援による支援者側の体制維持

1. 支援における基本的な姿勢

(1) ヤングケアラーの捉え方

「ヤングケアラー支援は、かわいそうな子ども・若者を助ける、ということではない。誰もがケアを担う可能性があり、ケアが必要な家族と一緒に暮らすことがある。そのため、子ども・若者が、ケアのことも家族のことも悪者にせず、自分らしくいられる時間を大人と社会が守ろうとする姿勢が重要である」（検討委員会委員）。

また、本人インタビューでは、『何で自分がやらなければならないのか』という思いもあるが、自分の将来に役立つとも思っている。大変だとは思っていない、「ケアを始めて1年くらいは、『なぜ自分が』と思っていたが、2、3年経って体が慣れるとケアが当たり前だと感じるようになった」、「精神的なサポートが大変だった。体は大丈夫だが、心がしんどかった」、「母を心配して話を聞く側面と、話を聞かないと家庭が回らないため聞かざるを得ない側面と、話を聞くことで自分が安心して寝られる、という打算的な側面があり、様々な感情が生じていた」（本人インタビュー）という声が聞かれ、ヤングケアラーの捉え方は人により様々であることに加え、一人一人が複雑な感情の中でケアを行っている様子がみられた。

また、ヤングケアラーが置かれている状況は多岐にわたり、「前提としてケアの負担は内容や時間等で変わる」、「ケアが違っていればグラデーションも変わる」（支援団体インタビュー（パイロットスタディ含む）（以下、「支援団体インタビュー」という。）。本章の「2」、「3」では、子ども・若者の年代やケア対象者の状況別で効果的と考えられる支援について言及するが、この点には留意が必要である。

また、「5（5）」で詳述するが、「ヤングケアラー」という言葉自体が、ヤングケアラーの家族を傷つける言葉として捉えられている場合が少なくないことにも留意が必要である。「子どもが入り口になると、子どもがおかれている状況を解決するという思考になりがちで、母親に問題があるという事になってしまう」（支援団体インタビュー）という声があるように、子ども・若者への支援から家族支援につなげるのが難しい場合もある。子ども・若者、家族のいずれにアプローチするのが良いのか、また、「ヤングケアラー支援」だと受け入れられづらい状況がある中で、「虐待やひとり親家庭、発達障害や不登校など、親に自責の念を感じさせない、傷つけないために最も適切なアプローチは何かをよく考える」（支援団体インタビュー）必要がある。（4（4）、4（6）なども参照）

(2) 家族全体を捉える視点

本人インタビューでは、家族全体を捉える視点の重要性について、次のような声があった。「家族単位での支援・大人向けの支援が必要だと強く感じる。家族は必ずしもケアの専門家ではないので、効果的なケアをできていない場合もある。早くから効果的なケアができてい

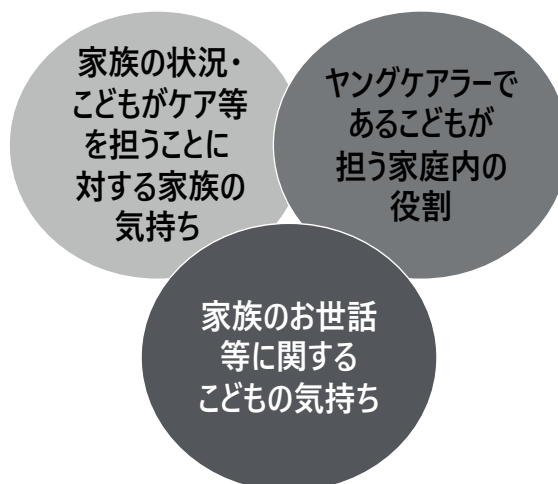
れば、こどもがヤングケアラーにならなくて済んだかもしれない、というケースもある。また、保護者の介護能力が低く、こどもがやらざるを得なくなるケースもある。そのため、大人に対しても精神面を含むサポートが必要である。家族だけでは難しい場合もあるので、行政、地域住民、学校、医療、福祉、など全体を巻き込んだ支援が必要だと思う」。

さらに、支援団体インタビューでは、「ケアマネジャーの事業所を立ち上げ、親子まるっと伴走支援を行っている。これは、親子それぞれで制度、窓口、役割が異なっているが、それを我々が一緒に対応するというもの。親子の暮らしが見えているからこそ、こどもが夏休み期間中は家事支援の内容を変えたり、夕食を準備する際に、翌日のお弁当用のおかずを用意できたりもする。こどもと大人への支援を両軸で走らせることが大切」（支援団体インタビュー）という声も聞かれた。

先行研究においても、ヤングケアラーに係る問題は、家族が抱える様々な課題が関係し合い、複合化しやすいという特徴があるという指摘がある。こども・若者だけに目を向けていても、こども・若者が抱える課題の根本解決には至らない場合もあるため、家族全体を捉える視点を強く持つておくことも必要である（下図参照）。

なお、「家族支援は、社会保障や医療福祉などの行政の制度上で支援していく必要がある。その上で、行政からの委託事業、補助事業などの様々な形で民間事業者と連携をしていくことが重要である」（検討委員会委員）。

図表6-1：ヤングケアラー支援につなげる際に求められる情報



出所：令和4年度 子ども・子育て支援等推進調査研究事業「ヤングケアラーの支援に係るアセスメントシートの在り方に関する調査研究」ヤングケアラー支援に係るアセスメントツール等の使い方ガイドブック（有限責任監査法人トーマツ）

(3) 信頼関係のある人からのアプローチを基本とする (支援の専門家に限らない)

ヤングケアラーへの支援の特徴として、支援につながりづらいという点が挙げられる。この点について、支援団体インタビューでは、「最初は、こどもたちと関係性を築き、『この人たちには、自分の気持ちを打ち明けていいかな』と思ってもらえることが重要。オンラインや対面等のようなつながり方だったとしても、関係性が築けていないと、次につながらない。居場所に参加する場合、最初は、知らない人が多い場所へ行くことに抵抗を感じる子が多い」、「学校への訪問の際は、先生、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなど、こどもが信頼している大人から情報連携を受けて関わり始めると、スムーズな介入につながる人が多い」という声が聞かれた。

また、本人インタビューにおいても、「ヤングケアラーの居場所は、(若者向けの居場所である)カフェを訪れた際に、スタッフから勧められたことが(利用の)きっかけ。当時は自分がヤングケアラーであるという認識はなく、参加をするかどうか悩んだが、スタッフから『参加するだけ参加してみたら』と言われて参加した。若者支援のカフェには、中学生の頃から月2回の開催時すべての回に参加していたので、スタッフとは顔見知りで信頼関係があった」という声があるように、信頼関係のある人からアプローチをすることでスムーズに支援につながる可能性も高まると考えられる。

ただし、信頼関係のある人というのは、支援の専門家に限るものではない。本人インタビューでは次のような声が聞かれた。「(ケアで忙しいため)部活の顧問に退部の相談をしたところ、マネージャーにしてくれた。顧問はいつも気にかけてくれ、非常に心強かった。(中略)(自分でも相談窓口を調べていたが)先生から団体を紹介されるまでは相談に行くのは勇気があるので迷っていたが、先生から後押しされて、まずは電話相談をした」。このように、こども・若者の身近にいる大人が、こどもたちの声や様子などの背景に何かあるのかわろうとする意識を持ち、こども・若者に寄り添い、信頼関係を結ぶことで、必要な支援にもつながりやすくなると考えられる。

(4) 支援につなげることを焦らない

ヤングケアラー本人向けアンケート(以下、「本人向けアンケート」という。)において、高校生世代及び若者に支援サービスを利用したきっかけを尋ねたところ、「悩みを解決してくれそうだから」という回答は上位5番目であり、必ずしも悩みの解決を求めているわけではないことがうかがえる。

また、支援団体アンケートにおいても、「安易に介入しないということを一番大事にしている。過去に働きかけを受けて拒絶をしている場合は、サービスを提案した時点で心を閉ざす方もいる」という声がある。さらに、本人インタビューにおいても、「支援者には支援するエゴがあり、このように支援して、解決してあげたい、問題に関わり、解決に向けて前進したい、と考えがちである。それで救われる人も一定数いるが、ヤングケアラーに関するこ

とも含め、支援される側のペースを尊重してほしいと思う」という声があった。これらの声があることを支援者として留意するとともに、「支援者側の価値観やものさしで判断することなく、支援される側の価値観やこれまでの暮らしの背景を知ること、聞くことを基本とする姿勢が求められる」（検討委員会委員）。

（５） 急な予定変更が生じやすいことを踏まえた事業・支援設計を行う （支援利用の急なキャンセルへの柔軟な対応）

支援団体インタビューでは、「オンラインサロンやヘルパーなど、支援は必要ないわけではないが、時間や約束を守れることが前提となる。しかし、ヤングケアラーの場合、ケア対象者の体調の変化で急遽予定が変わり、参加/利用できずキャンセルになってしまう、ということも少なくない。一方でヘルパー側としては予約していた日に子どもが家にいない場合や今日は不要だと断られることがあると、事業として運用が難しいと思う」という声があった。このような状況に対し、「我々が行う体験プログラムもキャンセル料がかさむことがあり、12人予約があったが実際蓋をあけたら5人、ということもある。現在は県の補助金がキャンセル料も対象にしてくれているが、もし民間で事業を行うとなると、ヤングケアラーの専門事業は上記の理由から敬遠されるのではないかと感じる。計画を立てにくいヤングケアラーの事情を踏まえたプログラムを検討する必要がある」（支援団体インタビュー）という声があった。「ヘルパーに対しても、キャンセルがあった際に、出張代だけでも精算できるような仕組みにしないとヘルパーの事業者が減ってしまうのではないかと懸念がある」（検討委員会委員）。

また、本人インタビューにおいても、「介護をしている人は家を出られない、家族の不調で急に出かけられなくなる、という事情がある。『急に来られなくなってもいいんだよ』というメッセージが伝わると参加しやすくなる」という声があるように、利用者向けの周知においても、事業・支援設計上も急なキャンセルに柔軟に対応できるよう配慮する必要があると考えられる。

また、「急な予定変更が生じやすいことを踏まえると、自治体の事業の実績を取るのであれば、キャンセルした人も含めた申込者数を見せることにより、事業の必要性が理解されやすい。キャンセル者も含めてつながっていることが大事である」（検討委員会委員）。

「ヘルパーのキャンセルが多いことについては、ヤングケアラーだけに生じる特別な問題というわけではない」（検討委員会委員）が、「病院等の外出は体調が良い時にしか行けないので、予定していても当日やっぱり行けない、ということもある。日時面で臨機応変に対応してくれるこどもに付き添ってもらわなければならない」（家族インタビュー）という声があるように、現状の公的な支援で対応できない部分を、こどもがカバーしている可能性があるということは十分理解しておく必要がある。

2. 効果的な影響をもたらした支援（こども・若者の年代別）

（1） ヤングケアラー本人及び家族の声

本人向けアンケートにおいて、利用してよかったと一番に感じる支援について尋ねたところ、「お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談（以下、「相談」という。）」という回答が34.6%と最も多く、これは年代が上がるにつれて、回答割合が高まる傾向にあり、支援のベースとして求められていることがうかがえた。また、年代別の特徴として、小学生においては、「相談」という回答が他の世代と比較して割合が小さい一方で、「家事やお世話の代行、手伝い（以下、「家事」という。）」の割合が大きかった。「家事」は中学生においても回答割合が相対的に大きいですが、年代が上がるにつれて、「家事」の割合は小さくなる傾向にあった。

本人向けアンケートに協力いただいた支援団体からは次のような声が聞かれた。「当団体のアンケートに回答した小学生は全員『家事』に丸をつけた。その理由は、こどもたちは母親にとって助かるものは何かと考えていたためであり、ご飯を作ってくれる人がいることで、母親が楽になったと考えていた。中学生は、母親が安心して暮らせる、という思いから、母親の心理的なサポートが助かると考えているようであった。こどもは母親が助かることを挙げる傾向があり、小学生の時はそれを家事だと認識しやすいと考えられる」。

また、年代が低いほど「相談」の回答割合が低いことについては、「解決方法があるということを知らないために相談しなかったり、相談することで家族が悲しい思いをしたり、大ごとになったりする恐怖心のほうが強い、ということが考えられる」（検討委員会委員）。

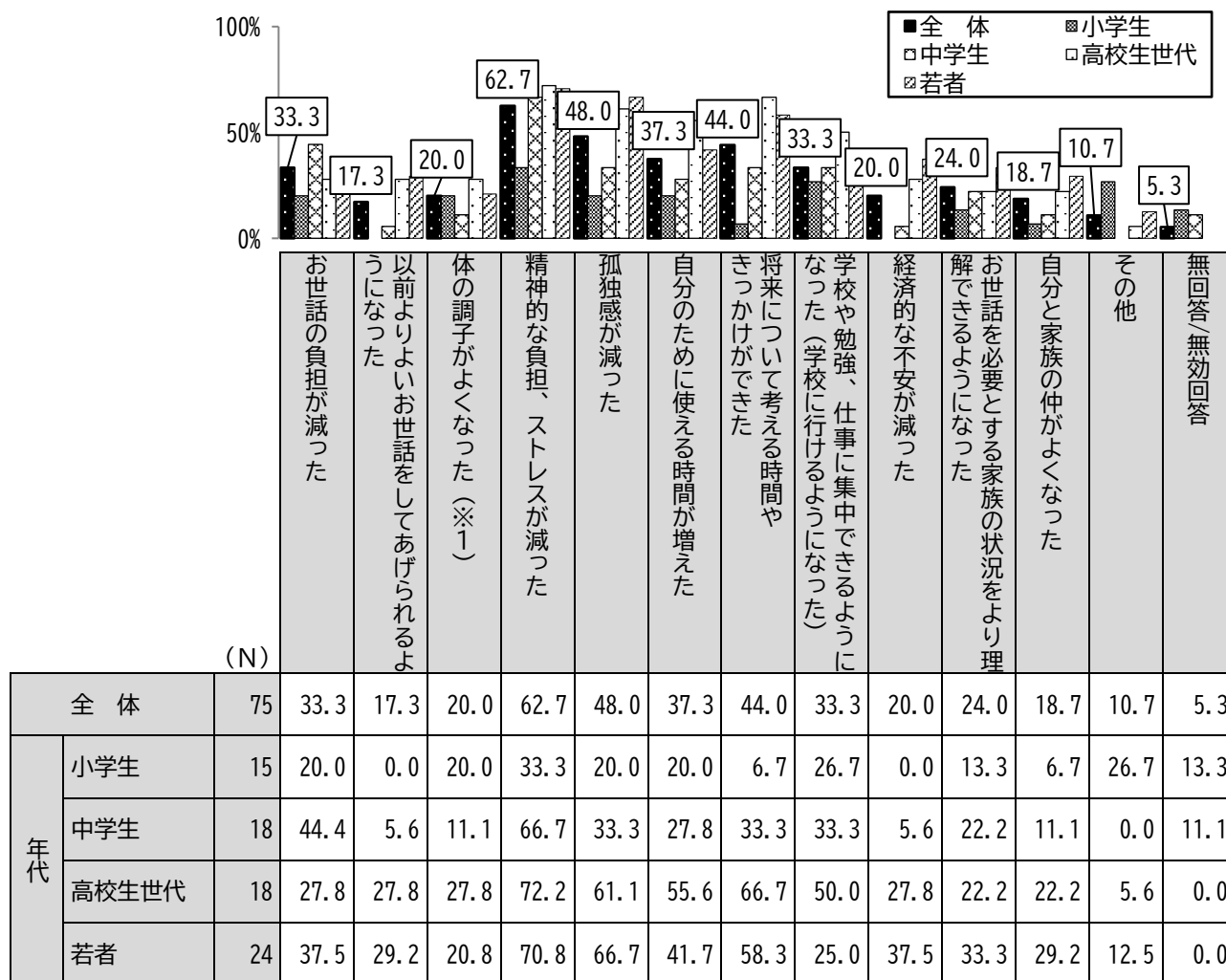
図表6-2：利用してよかったと一番に感じる支援（SA）※再掲

(%)

		(N)	自身のことについての相談	お世話を必要とする家族や、自分	家事やお世話の代行、手伝い	外出時の付き添い	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	子ども食堂	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	就労支援	その他	利用してよかったと感じた支援サービスはない	無回答／無効回答
全 体		78	34.6	12.8	0.0	6.4	7.7	5.1	12.8	1.3	7.7	3.8	7.7	
年 代	小学生	16	18.8	25.0	0.0	6.3	6.3	6.3	12.5	-	0.0	6.3	18.8	
	中学生	19	26.3	26.3	0.0	5.3	5.3	5.3	10.5	-	5.3	5.3	10.5	
	高校生世代	19	42.1	0.0	0.0	5.3	5.3	10.5	15.8	0.0	10.5	5.3	5.3	
	若者	24	45.8	4.2	0.0	8.3	12.5	0.0	12.5	4.2	12.5	0.0	0.0	

また、本人向けアンケートにおいて、利用してよかったと一番に感じる支援について、利用してよかったと一番に感じる理由を尋ねたところ、年代全般で「精神的な負担、ストレスが減った」、「孤独感が減った」、「将来について考える時間やきっかけができた」といった精神面のサポートのニーズが高い様子がみられた。また、特に、高校生世代、若者世代においては将来への不安も含め、その傾向が顕著であった。

図表6-3：利用してよかったと感じる理由（MA）※再掲
（一番よかったと感じる支援について）



※1よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど

(%)

（2）効果的と考えられる支援順序

1) ヤングケアラー本人と関わり始めの段階における効果的な支援

支援団体向けアンケートにおいて、ヤングケアラー本人と関わり始めの段階において最も効果的だと考える支援について尋ねたところ、小学生では「こども食堂」、中学生では「学習支援」、高校生世代は「SNS相談」を効果的とする回答が多く、若者世代では、「電話相談」、「オンライン相談」、「SNS相談」、「対面のサロン」、「配食支援」、「食糧支援（フードバンク）」、「就労支援」など、回答にばらつきがみられた。また、「アウトリーチ（訪問による相談支援）」は全年代共通して効果的だという回答が相対的に多かった。

アウトリーチの具体例としては、支援団体インタビューでは、学校の先生や、スクールソーシャルワーカーからの連絡を受けて学校訪問を行ったり、家庭教師方式で家庭に訪問するという事例も聞かれた。

先行研究においても指摘されている通り、ヤングケアラーへの支援の特徴として、支援につながりづらいという点が挙げられる。この点、前述の調査結果に加え、支援団体インタビューでも、若者向けのカフェ（若者向けの居場所）や学習支援からヤングケアラー支援につながることもある、という事例もあり、ヤングケアラーに特化していない取組は、ヤングケアラーという自覚の有無を問わず、こども・若者の支援利用のハードルを下げることにともつながり、関わり始めの段階において効果的であると考えられる。

2) ヤングケアラー本人と関わりを持ち始めて以降、負担軽減を目指す段階における効果的な支援

支援団体向けアンケートにて、ヤングケアラー本人と関わりを持ち始めて以降、負担軽減を目指す段階において最も効果的だと考える支援について尋ねたところ、全年代共通して「アウトリーチ（訪問による相談支援）」が効果的だという回答が多く、若者世代においては、「就労支援」という回答が最も多かった。

アウトリーチは幅が広く様々な場面で用いられることがある。支援団体アンケートの自由記述では、「心身の健康面、生活面、家族関係等全体へのアプローチ」が必要という回答や「生活面のサポートから心理面、家族関係友人関係の安定につながる可能性がある」といった回答があるなど、家族全体を捉える視点から、こどもが置かれている状況を把握することが効果的であるとする回答がみられた。

また、支援団体インタビューにおいても、家庭教師方式のアウトリーチを行い、継続的に家庭訪問する中で、こどもと一緒に部屋の片付け、家事手伝い等をし、その過程で培われた関係性を活かす形で家事代行サービスの紹介、投入をすることもある、といった声や、こどもの居場所利用時に送迎を行い、親を含む家族の状況を把握し、必要に応じて役所に訪問をお願いするなど、アウトリーチの具体的な方法も聞くことができた。

3. 効果的な影響をもたらした支援（ケアの対象者の状況別）

(1) ヤングケアラー本人及び家族の声

本人向けアンケートにおいて、お世話を必要としている人について尋ねたところ、年代共通して「母親」、「きょうだい」という回答が多かった。

また、お世話を必要な理由について、「母親」は「精神疾患（疑いを含む）」が最も多く、「きょうだい」はヤングケアラー本人の年代によって傾向が異なり、小中学生においては、「幼い」、高校生世代以上においては、「発達障がい（疑いを含む）」が最も多かった。

さらに、ケアの内容については、お世話を必要としている人を問わず、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」を行うことが多い傾向がみられた。また、年代別では、高校生世代以上において、「家計支援（家族のためにバイトで働くなど）」を行う割合も少なくなかった。

図表6-4：実施しているケアの内容（小中学生）(MA) ※再掲
※回答割合の上位3つに色づけ

(N)		家事（食事の準備や掃除、洗濯）	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩と一緒にいく	病院へ一緒にいく	＜病院などにいる家族に会いに行	医療的なお世話（痰の吸引など）	話を聞く（感情面のサポート）	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	きょうだいのお世話や送り迎え	その他	無回答／無効回答
全体	35	51.4	25.7	45.7	28.6	8.6	2.9	68.6	54.3	2.9	0.0	20.0	25.7	8.6	2.9

図表6-5：実施しているケアの内容（高校生世代以上）（MA）※再掲

※回答割合の上位3つに色づけ

(%)

	(N)	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	入会	入院や入所をしている家族との面会	医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	話し相手になるなど（愚痴を聞く、感情面のサポート）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	家計支援（家族のためにバイトで働くなど）	薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	その他	無回答/無効回答
母親	31	51.6	19.4	9.7	38.7	38.7	16.1	3.2	77.4	54.8	0.0	22.6	45.2	12.9	6.5	0.0	
父親	11	88.9	0.0	0.0	44.4	44.4	0.0	0.0	88.9	22.2	11.1	11.1	44.4	22.2	33.3	0.0	
祖母	2	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
祖父	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
きょうだい	24	45.8	62.5	12.5	25.0	33.3	12.5	0.0	54.2	70.8	0.0	20.8	33.3	16.7	20.8	0.0	
その他	2	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	

また、利用してよかったと一番に感じる支援について、ケア対象者の状況別でみると、ケア対象者の状況を問わず、「相談」、「居場所、サロン」、「家事やお世話の代行、手伝い」という回答が多い傾向にあった。

図表6-6：一番よかったと感じる支援（SA）×お世話を必要とする理由（MA） ※再掲
 ※一番よかったと感じる支援の回答割合の上位2つに色づけ

		(N)	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	家事やお世話の代行、手伝い	外出時の付き添い	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	こども食堂	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	就労支援	その他	利用してよかったと感じた支援サービスはない	無回答/無効回答
お世話を必要とする理由	高齢（65歳以上）	6	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7
	若い	17	35.3	11.8	0.0	5.9	5.9	11.8	11.8	0.0	5.9	5.9	5.9
	要介護（介護が必要な状態）	13	61.5	23.1	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
	認知症	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3
	身体障がい	8	50.0	12.5	0.0	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	知的障がい	10	60.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	発達障がい ※1	26	50.0	7.7	0.0	7.7	7.7	0.0	11.5	3.8	3.8	3.8	3.8
	精神疾患 ※1	50	38.0	12.0	0.0	8.0	6.0	2.0	8.0	2.0	10.0	4.0	10.0
	依存症 ※1, 2	5	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	精神疾患、依存症以外の病気	11	27.3	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	18.2	0.0	9.1	0.0	27.3
	日本語が苦手、わからない	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0
	その他	12	16.7	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	8.3	8.3	16.7	16.7	16.7
	わからない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※1 疑いを含む

※2 アルコール依存症、ギャンブル依存症など

（2）ケアの対象者の状況別で効果的と考えられる支援

上記（1）の本人向けアンケートに加え、支援団体向けアンケートにおいても、お世話を必要としている方の状況別で、最も効果的だと考える支援サービスを尋ねたところ、ケア対象者の状況を問わず、「アウトリーチ（訪問による相談支援）」が効果的であるという回答が多かった。その他、ケア対象者が「精神疾患（疑いを含む）」の場合は「電話相談」、「対面

のサロン（リアルイベントを含む）、「その他」が多く、ケア対象者が「若い」場合は、「家事・育児支援」、「対面のサロン（リアルイベントを含む）」が効果的であるという回答が多かった（そのほかは、クロス集計時のケア対象者別の回答件数が少ないため参考値）。

図表6-7：ケア対象者の状況別で、最も効果的だと考える支援サービス（SA）

※回答割合の上位3つに色づけ

(%)

		ケア対象者の状況別で、最も効果的だと考える支援																						
		相談窓口での対面相談	電話相談	オンライン相談	SNS相談	アウトリーチ（訪問による相談支援）	元当事者による相談支援（ピアサポート）	オンラインサロン	対面のサロン（リアルイベントを含む）	通訳者の配置	遠隔通訳	翻訳機の整備	外国語対応通訳支援 その他	家事・育児支援	配食支援	食糧支援（フードバンク）	こども食堂	シヨートステイ、トワイライトステイ	外出時の付き添い・同行支援	現金給付	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	就労支援	その他	
		(N)																						
お世話を必要としている方の状況	高齢（65歳以上）	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	若い	13	7.7	7.7	0.0	0.0	15.4	0.0	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	30.8	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	
	要介護（介護が必要な状態）	6	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	認知症	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	身体障がい	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	知的障がい	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発達障がい※1	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	精神疾患※1	17	0.0	17.6	0.0	0.0	29.4	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	5.9	0.0	11.8
	依存症 ※1, 2	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	精神疾患、依存症以外の病気	5	20.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日本語が苦手、わからない	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	その他	4	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※1 疑いを含む

※2 アルコール依存症、ギャンブル依存症など

また、アウトリーチについて、支援団体アンケートの自由記述では、「支援が必要な状況を専門員が直接把握することは支援に直結する」という回答や、前述の「2 効果的な影響をもたらした支援（こども・若者の年代別）」と同様に「心身の健康面、生活面、家族関係等全体へのアプローチ」が必要という回答があるなど、家族全体を捉える視点から、こどもが置かれている状況を把握することが効果的であると考えられていた。この点は、ケア対象者の状況に応じて支援を検討する上でも重要であると思われる。

4. 効果的な取組事例及び取組のポイント（支援メニュー別）

（1）相談窓口の設置・運営

1）特徴や課題

上記2（1）でも述べた通り、本人向けアンケートでは、利用してよかったと一番に感じる支援として、「相談」という回答が最も多かった。これは、「こどもたちからの話を聞いてほしいというメッセージ」（検討委員会委員）と捉えることができるだろう。

一方で、本人インタビューでは、「窓口は、こどもが自分の困難を打ち明けるにはハードルが高い」という声も聞かれたことに加え、検討委員会委員からは、「当市には多くの自治体から問い合わせや視察がくる。その際に、窓口を開設しても相談に至らないという話を聞くことがある」という指摘があった。

さらに、自治体向けアンケートで、相談支援を実施する自治体に対して、年代ごとの相談内容（主訴）として多いものを尋ねたところ、いずれの年代も「わからない」という回答が半数近くを占めた。

窓口の設置がこども・若者からの相談利用につながりづらく、自治体においても相談内容（主訴）を把握しがたい状況にあると考えられる。

2）効果的な取組事例及び取組のポイント

<関係機関からの相談窓口として機能する>

上記1）のとおり、相談窓口の設置がこども・若者からの利用につながりづらい一方で、「（当市では）相談窓口を設置して以降の2年半で受けた相談のうち、8割以上は関係機関からの相談である」（検討委員会委員）、「（相談窓口を）周知する機会が増えたことで、学校の先生、スクールソーシャルワーカーや保護者のヘルパー、ケアマネジャーからの相談が増えた」（支援団体インタビュー）という声があった。先行研究において、ヤングケアラーに気づくことの難しさが指摘される中、相談窓口が自治体と関係機関をつなぎ、ヤングケアラーに気づく上での重要な役割として機能している様子がかがえた（本人、家族から相談しやすい窓口にするための工夫は下図も参照）。

図表 6-8：ヤングケアラー本人やその家族が相談しやすい相談窓口にするための工夫例

通番	窓口	工夫例
1	学校等の所属機関	<ul style="list-style-type: none"> ◇ <u>日頃から子どもと接する学校が子どもの悩みを聞く相談窓口となり、また、保護者に対しても保護者面談等の機会を用いて学校が相談窓口の役割を担う。</u> ◇ <u>クラス担任や保健室の養護教諭等が、タイミングを見て、いつでも相談に乗ることを伝え、日常生活の中で気になる生徒にはさりげなく様子を聞く。</u>
2	電話・SNS・メール	<ul style="list-style-type: none"> ◇ <u>県内在学の高校生、中学生、小学校高学年等を対象としてヤングケアラーに関するハンドブックを作成し、冊子の中で子どもが相談しやすいと考えられる電話・SNS・メールの連絡先や子ども食堂、教育支援センター（適応指導教室）、オンラインサロン等の居場所を二次元コード等も用いて紹介する。</u>

出所：令和3年度 子ども・子育て支援等推進調査研究事業「多機関連携によるヤングケアラーへの支援の在り方に関する調査研究」多機関・多職種連携によるヤングケアラー支援マニュアル（有限責任監査法人トーマツ）より抜粋

<子ども・若者の心の支えになる可能性がある>

本人インタビューでは、相談窓口を利用した若者から「相談支援の利用を考えたのは、自分自身もヤングケアラーについて知りたかったから。自分でも WEB 上で検索をしていて、団体のことを知っていたが、先生から紹介されるまでは相談する勇気が出なかった」という声が聞かれた。相談に至らなかったとしても、分かりやすい相談窓口があることで、子ども若者の認知が進み、もしもの時の支えになる可能性が示唆された。

また、「(専門の) 窓口がない市町村も関係部局が連携して対応しているが、それでは相談者が自らアセスメントして電話をすることになり、相談につながりにくい。窓口を一本化しそこから関係課につないでいくことで、相談につながりやすいと感じている」(自治体インタビュー) という声もあり、相談窓口の明確化も重要であると考えられる。

<子ども・若者の相談に対するハードルを下げる>

本人インタビューでは、「(相談窓口の様子について) 動画や写真、SNS などではどんな場所なのか発信があると、行きやすい」という声が聞かれた。また、支援団体インタビューでは、「相談しやすい雰囲気づくりとして、LINE 相談は初期の頃から、『大変だから助ける』というスタンスではなく、『家庭のことを気軽に話していいんだよ』、というメッセージを伝えている。ヤングケアラーが、支援を受ける「弱者」だという表現にならないように注意している」という団体もあった。これらの声や事例も踏まえ、相談しやすい相談窓口の設置や情報発信が求められると考えられる。

<子ども・若者のニーズを踏まえた対応を行う>

本人向けアンケートにおいて、高校生世代及び若者に支援サービスを利用したきっかけを尋ねたところ、「相談しやすい雰囲気があるから」が最も多く、次いで「悩んでいることに

ついて詳しく「だから」、「親身になって話を聞いてくれそうだから」が同数で並び、その後、「相談しやすい場所にある（いる）から」という回答の次点として、「悩みを解決してくれそうだから」、「いつでも電話やメールで相談にのってくれそうだから」が同数で並び結果であった。これは、必ずしも「相談」を利用したきっかけに絞った内容ではないが、必ずしも悩みの解決を目的としているわけではないことがうかがえる。

一方で、支援団体インタビューでは、「解決を望んでいるにも関わらずカウンセリングが行われる場合もある」という声も挙げられていることから、相談窓口においては、利用者のニーズが多様であることを踏まえつつ、何を目的として相談窓口の利用に至ったのかを十分に理解した上での対応が求められる。

（２）アウトリーチ

１）特徴や課題

上記２（２）、３（２）にて、様々な場面において、アウトリーチが効果的であると考えられる支援団体が多いことを述べた。一方で、自治体アンケートにおいて、アウトリーチを実施していると回答した自治体は 40 自治体程度であり、アンケートに回答した自治体のうち 5%未満という結果であった。アウトリーチをしていない理由について、アンケートで明確な回答を得たわけではないが、アウトリーチが様々な場面で用いられるなど幅が広く、アンケート上で明確な定義を示しきれなかったことや、幅が広いためにアウトリーチの方法が分かりづらいことに加え、支援団体インタビューでは、マンパワーの問題も挙げられた。

２）効果的な取組事例及び取組のポイント

<アウトリーチを段階別で考える>

アウトリーチを大別すると、①対象者に気づく、②情報や支援を届ける、という段階に分けられる。

①については、こどもが長い時間過ごす学校へのアウトリーチが挙げられる。支援団体インタビューでは、小学生などの年代においては、「困難を自分で訴えることが難しかったり、本人が困難な状況を自覚していないこともあり、大人がいかに気づいて支えていくかが重要」であり、さらに、「学校への訪問の際は、先生、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなど、こどもが信頼している大人から情報連携を受けて関わり始めると、スムーズな介入につながることが多い」という声があった。また、同じく支援団体インタビューにて、「（学校を含む関係機関とのつながりを深めるために、）関係機関への挨拶回りなど、理由を設けて足を運ぶことが重要であり、支援機関を増やすという意味合いもある。実際に訪問することで、ヤングケアラーを紹介してもらえることもある」という声が聞かれるなど、ヤングケアラーに関する情報を得ていない段階においても、関係機関に訪問して関係づくりを行うことも重要であると考えられる。

②については、支援の対象となる子ども・若者やその家族がいる場所に訪問し、相談支援を行うことがアウトリーチの中心となる。ただし、訪問場所は多岐にわたり、上記①で触れた学校へのアウトリーチのほか、家庭教師方式でのアウトリーチや、配食支援で食事を家庭に届ける際に、子ども・若者に近況を尋ねたり、保護者や家庭の状況を把握し、必要に応じて自治体に訪問を依頼するなどの取組が支援団体インタビューで聞かれた。また、アウトリーチは現地への訪問のみならず、ネット上での夜回り活動（ヤングケアラーなど、困りごとを抱えた子ども・若者を把握する活動）を行うという団体もあった。

<効率的にアウトリーチを行う>

上記1) で触れた通り、アウトリーチには移動時間を含め多くの時間がかかるという課題もある。この点、支援団体インタビューでは、定時制高校、フリースクール等、様々な課題を抱えた子どもがいる可能性の高い場所を優先して訪問すると効率的・効果的にアウトリーチが行える可能性があるというアイデアが聞かれた。また、中学校卒業後に進学をしない場合、子どもに直接アプローチすることが難しくなる場合があることを踏まえ、「中学卒業後に進学しない生徒とのつながりを保つため、中学校を訪ねている」（支援団体インタビュー）という取組を行う団体もあった。

(3) 居場所（オンラインサロン、ショートステイ・トワイライト（夜間）ステイを含む）

1) 特徴や課題

本人向けアンケートにおいて、利用してよかったと一番に感じる支援について尋ねたところ、「お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談（以下、「相談」という。）」という回答が最も多く、次いで、「家事やお世話の代行、手伝い」、「居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）（以下、「居場所」という。）」が同じ回答割合であり、そのニーズの高さがうかがえた。

さらに、本人インタビューにおいても、「心理面で楽になった。居場所に行く予定ができたことで、『あと何日耐えれば、居場所に行ける』という楽しみができた。通い始める前は、『ケアが永遠に続く』という感覚だった」、「家では家事などに追われながら勉強をしていたが、カフェでは自分の時間を確保できるようになったことは大きかった。他の人と話ができて、心理面で助かった。家で家族と話をしている際の話題にもできた」といったポジティブな変化があったという声が多数聞かれ、「家から離れてもらうことを重視」（支援団体インタビュー）することの重要性がうかがえた。

一方で、自治体アンケートにおいて、居場所、ショートステイ・トワイライト（夜間）ステイを実施していると回答した自治体はそれぞれ、38自治体（実施率3.1%）、109自治体（実施率8.9%）にとどまった。また、居場所の中でもオンラインサロンを実施する29自治体（実

施率 2.4%) に対し、効果的と考えられる取組について追加的に尋ねたところ、「今のところ、特に効果的と考えられる取組はできていない」という回答が3割強と、各自治体、試行錯誤をしながら取組を進めていると考えられる。

2) 効果的な取組事例及び取組のポイント

<家庭で経験できていない体験を補う（あえてケアに特化しない）>

支援団体インタビューでは、「(当団体の居場所づくりは) 日常生活を体験できることがポイントである。家では余裕がなくてそういうことはできないが、当団体で食事会や誕生日会があるとみんなと同じような経験ができる。こどもたちがセンターに求めているのは、そのようなことだと思う」、「これまで経験できなかった経験や必要なものを取り戻すプロセスがないと、心のカウンセリングをただけでは学校復帰や進学等に至るのは難しい場合も少なくない」という声が聞かれた。

ヤングケアラー支援の一環として合宿活動を行う団体もある。「研修的な要素を一部設けつつも、あくまで合宿やキャンプを楽しむことを前面に出すことで、ケアのことは一旦忘れて楽しい時間を過ごすことができる。参加者間でプログラムの空いた時間に自然に交流が生まれて会話ができるようになる。プログラムの中心は交流や楽しいことだが、ポロっとこぼした心情を大人がキャッチしたり、お互いがピアの中で支え合っている」(支援団体インタビュー) というように、ヤングケアラーの支援ではありながらも、あえてケアに特化しない取組を行うことにより、ヤングケアラーの自覚の有無を問わず参加者を募ることができ、利用者の居場所への参加のハードルを下げつつ、自然な形でこどもとの距離を縮めることができると考えられる。

本人インタビューにおいては、「団体の皆で泊まりがけで出かけたことが本当に楽しかった。家族旅行はほぼ行ったことがなく、修学旅行も行けなかったので嬉しかった」という声も聞かれた。

家庭で経験できていない体験を補うような取組を自治体の事業として行う場合、その必要性について、自治体内外の理解を得るのが難しい場合も考えられる。ただし、このような取組は海外でも行われている。「イギリスのヤングケアラー支援においても、ヤングケアラーがケアの場から離れて楽しい時間を持つことは、こどもが話せるようになる上で大切なプロセスと捉えられ、合宿やヤングケアラーフェスティバルなどの支援方法が開発されてきた。ヤングケアラーの状況は様々で、重い状況にあるこども・若者は外出や睡眠確保すら難しい場合もあるが、ヤングケアラーの中には、こどもらしい体験をすることを必要としている人もいる」(検討委員会委員)。

<ケアに特化した居場所も用意する>

上記で、あえてケアに特化しない活動を行うことの利点を述べた。一方で、本人インタビューでは、次のような声が聞かれた。「ヤングケアラー向けの居場所は、話を聞いていて、

自分と同じ境遇の人がこんなにたくさんいるのか、と知ることができ、他の人と話ができて嬉しかった。(中略) ケアは自分だけでは解決できない問題も多い。どのようにサポートしてもらおうか・対処するべきか、他の仲間から教えてもらうことができた」、「家族との距離感を無理なく、適度に保てるようになるなどの変化があった仲間は多くいる。実際に仲間が行動した時の話は他の人にとっても有益で、自信になる」。

ただし、「サロンは、オンライン・対面ともに18歳～30代のケアラーの参加者の利用が多い。ケア負担が重い方や被虐待経験者もいる。若者ケアラーがこれまでの経験を棚卸・言語化して整理し、前向きな一歩を踏み出すきっかけの場として機能していると実感している。一方で、サロンは小学生～高校生のケアラーの居場所にはなりづらく、10代に合わせた居場所の必要性も感じている」(支援団体インタビュー)、「若者ケアラーや高校生以上であれば、ケアに特化した居場所は勇気づけられる大切な場所である。しかし、小中学生にとっては、『他の人の経験談を聞くことで、自身も辛い気持ちになってしまう等の二次受傷のリスク』や『ヤングケアラーの居場所に参加したことを家族に知られることで、家族関係が悪化し、家にいることが辛くなってしまうリスク』などがある」(検討委員会委員)という声も聞かれており、ケアに特化した居場所については、すべての年代において有効な取組とはいえない可能性が示唆された。

ヤングケアラー向けの居場所は、ヤングケアラーの自覚がある人に限られるため、参加者を集めづらい場合もある。一方で、こどもの年代によっては、ケアに特化した居場所だからこそ話しやすさもあると考えられる。

<自治体の補助事業としてショートステイを行う>

検討委員会委員からは、次のような声が聞かれた。「ショートステイを自治体の補助事業として実施することが重要である。自治体の事業として認められないと、個人情報や親との同意など、様々な部分で手間がかかる。また、自治体の事業の範囲外で行うことには危険も伴うため、自治体の補助事業として取組が進むとよい。また、ショートステイはこども・若者だけではなく親子同時にステイできるような取組もほしい」、「トワイライトステイやショートステイは、必ずしもヤングケアラーだから、ということではなく、地域の中で様々な状況により、家にいられない、頼れる人がいない、という人に対しての地域の逃げ場所をつくることも大事である」。

<オンラインサロンの効果的な取組>

上記1)でオンラインサロンの取組状況について述べたが、自治体アンケートでは以下のように様々な工夫がなされていた。

- 参加者募集に関しては、SNSでの募集や、関係機関・大学等への訪問活動を実施。運営に関しては、レクリエーションやティータイムの時間を設け、話しやすい環境づく

りを行っている。ケアのため会場への参加が難しい場合は、オンラインでの参加も可。

- 実績のある企業に委託し、これまでの経験を踏まえた取組を展開してくれている。各学校の全校生徒へのチラシの配布や、SNSでの情報発信、先輩ケアラーを招いてのオンラインサロンなど、効果があったと考える。
- 元ヤングケアラーの方が自身の体験を話す内容をウェビナー形式で実施した。発言しなくてもよいこともあり、当事者等の方も参加しやすく、ヤングケアラーや若者ケアラー、元ヤングケアラーの方に参加していただけた。

(4) 家事・育児支援

1) 特徴や課題

ヤングケアラーの家庭では、病気や障害のために大人が食事の支度や洗濯などの家事や育児ができず、生活の質が著しく低くなってしまっていることがある。こうした状況が認識され、ヤングケアラーの家庭に対して、家事・育児支援や食に関する支援を行う自治体も増えてきている。

本人向けアンケートにおいても、利用してよかったと一番に感じる支援について尋ねたところ、「お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談（以下、「相談」という。）」という回答が最も多く、次いで、「家事やお世話の代行、手伝い」、「居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）（以下、「居場所」という。）」が同じ回答割合であり、そのニーズの高さがうかがえた。年代別で見ると、特に、小学生、中学生が「家事やお世話の代行、手伝い」という回答をした割合が大きかった。

一方で、本人インタビューでは、「家事が負担であっても家の中のことは自分でやりたい。そのため、家事支援を利用できる環境があったとしても、利用しなかったと思う」、「家事は大変だが、家族以外の方が家に入ってほしくはない」、「一時期、ヘルパー支援を受けていたことはあったが、部屋に人がいることで母親の調子が悪化したため、利用を中止した」といった声も聞かれるなど、支援の利用にあたってはハードルが高いことがうかがえた。さらに、支援団体インタビューでは、「家事支援へのニーズを聞くと、本人たちは嬉しいというが、『家族が望まないと思う』という回答が返ってくることが多い」という声もあり、仮に子ども・若者が支援を望んだとしても家族が支援を望まない場合もあることがうかがえた。

2) 効果的な取組事例及び取組のポイント

<ヤングケアラー支援とは別の切り口でアプローチする>

「家庭教師方式のアウトリーチを行っており、継続的に家庭訪問する中で、様々な家庭問題やヤングケアラーのケアの部分に触れ、一緒に手伝いをし、信頼を深めた上で、ケアに関する専門家を連れてくるようにし、徐々に支援を広げている」（支援団体インタビュー）、「家族支援という切り口であれば、母親にとって助かるものとしてありがたがられ、子ども・若

者も受け入れやすい可能性がある」(検討委員会委員)というように、ヤングケアラー支援とは別の、子ども・若者や家族に受け入れられやすい切り口でアプローチすることも有効であると考えられる。

<声掛けを工夫する>

検討委員会委員から次のような取組の紹介があった。「当市では家事支援がよく活用されている。チラシ上のメッセージで、『ヤングケアラーのヘルパーを派遣します』ではなく、『子どもがいる家庭にヘルパーを派遣します』としていることもそうであるが、その他にもニーズを予想し、受け入れてもらいやすくするための配慮が必要である。例えば、『掃除とか難しそうだから支援を入れましょうか』と言うと断られてしまうので、『ヘルパーさんから、子どもさんに対して、家事を分かりやすく教えてもらいましょうか』等の話のもっていき方をするなどしている(当該声掛けは、子どもの家事スキル向上を目的とするものではなく、あくまで、家庭にヘルパーを抵抗なく導入するための工夫である)」。

(5) 食に関する支援(配食支援・食糧支援、子ども食堂等)

1) 特徴や課題

本人向けアンケートにおいて、利用してよかったと一番に感じる支援について尋ねたところ、「食事に関する支援(お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く)」と「子ども食堂」を合計した回答割合は「お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談(以下、「相談」という。)」に次いで、2番目に多い回答割合であった。特に配食支援については、「家事の中でも料理に負担を感じる学生からの相談も少なくなく、配食は、子ども食堂などと連携して、どの自治体でも利用できると良い」(支援団体インタビュー)、「配食支援はあるとありがたい。ご飯を作る時間がなくなるので、(学生時代に利用できていれば)もっと勉強する時間ができていたと思う」(本人インタビュー)、「弁当の配食があると、金銭的にも楽になる。現在は有償の弁当配食を利用しているが、月1回程度でも無償で届くと助かる」(本人インタビュー)という声が聞かれた。「(ヤングケアラーのご家庭は)金銭面で生活が厳しいと感じることもある」(支援団体インタビュー)という声もあり、配食支援は、金銭面のサポートとしても有効だと考えられる。

さらに特徴的なのは、上記(4)家事・育児支援と異なり、家に入ることがないため、本人インタビューにおいても、支援を利用したくない、というネガティブな反応が少なかった。さらに、「配食支援を通して、今までは支援拒否だった家族と接触できたケースもある」(検討委員会委員)という声もあり、ヤングケアラー本人やその家族など関係構築をする際の有効なアプローチであると考えられる。

2) 効果的な取組事例及び取組のポイント

＜支援をしている感を出さない＞

無理に介入し、支援をしている感が出てしまうと敬遠される傾向にあるため、配食を行う際は、支援をしている感が出てしまわないよう手作り弁当ではなく、業者の弁当を差し入れる程度に留めている、という声が支援団体インタビューで聞かれた。

＜配食支援をきっかけとして子ども・若者や家族との関係構築を図る＞

「4(2)アウトリーチ」でも述べた通り、配食支援で食事を家庭に届ける際に、子ども・若者に近況を尋ねたり、居場所などのイベントを紹介するなどの会話をするとともに、保護者や家庭の状況、顔色を含む体調等を把握し、必要に応じて自治体に訪問を依頼するなどの取組が、支援団体インタビューで聞かれた。

(6) 学習支援

1) 特徴や課題

本人向けアンケートにおいて、利用してよかったと一番に感じる支援について尋ねたところ、「勉強に関する支援」という回答割合は全体で6.4%と高くはなかった。一方で、支援団体アンケートでは、「ヤングケアラー本人と関わり始めの段階において最も効果的だと考える支援」として、「学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）」という回答が、特に中学生年代に対する回答としては最も多かった。

2) 効果的な取組事例及び取組のポイント

＜複数事業を同一の機関で実施する（学習支援等とヤングケアラー支援）＞

支援団体インタビューでは、次のような取組を行う事例があった。「全小中高300校にアウトリーチを行っており、全学校の情報にアクセスできるようになった。家庭教師方式のアウトリーチを行っており、継続的に家庭訪問する中で、様々な家庭問題やヤングケアラーのケアの部分に触れ、一緒に手伝いをし、信頼を深めた上で、ケアに関する専門家を連れてくるようにし、徐々に支援を広げている。最初は抵抗感の少ない家庭教師から入り、個別対応から小集団、集団活動へと段階的に移行していくようにしている」、「現在、当協会の事業で、ヤングケアラー支援につながる事が多い事業は大きく2つあり、一つは学習支援、もう一つは、若者支援施設である。若者支援施設は、居場所やキャリア相談・就労支援等としても機能している。それらに関わる人たちにヤングケアラーがいないかアンテナを張る意識付けをしてほしい、と働きかけている」。学習支援ということであれば、子どもやその家族にとっても受け入れやすく、そこでのつながりを基に必要な支援につなげていくことで、支援拒否を防止することにつながると考えられる。

さらに、本人インタビューでは、「中学3年生の頃は受験もあり、勉強をする時間を確保する目的で（居場所に）通っていた。（学校の先生から）急に紹介されたので、期待は特に

なかった。高校生になると、次第に自分の辛い気持ちを吐き出せる・疲れを癒せる場所になった。唯一休める場所が居場所しかなかった」という声も聞かれた。学習支援であれば、こどもや家族にとっても自然な形で抵抗なく受け入れやすく、また学校側にとっても、ヤングケアラー支援として紹介することよりも、紹介しやすいと考えられる。

なお、地域に支援団体が少ない場合も考えられるが、自治体インタビューでは、次のような声も聞かれた。「児童家庭支援センターが、訪問型の支援対象児童等見守り強化事業や第三の居場所事業、こども食堂等、複数事業を行っている。その中で、情報共有を図りながら、円滑な連携のもと、ケースに応じた支援が行えている。児童家庭支援センターは要対協の構成員でもあり、守秘義務や情報共有の連携もスムーズに行えている」。

(7) 就労支援

1) 特徴や課題

本人向けアンケートにおいて、利用してよかったと一番に感じる支援について尋ねたところ、「就労支援」という回答は、若者のみで回答があったものの、その割合は4.2%と高くはなかった。一方で、支援団体アンケートでは、「ヤングケアラー本人と関わりを持ち始めて以降、負担の軽減を目指す段階において、最も効果的だと考える支援サービス」として、「就労支援」という回答が、特に若者に対する回答としては最も多かった。

支援団体インタビューでは、若者ケアラーの求職者の特徴として次のような声があった。「求職者は、大きく二つのタイプに分けられる。一つ目は、ケアを担いながらも就労できている場合。就労はできているもののケアによって日々家庭におけるケア負担は存在するため、正社員ではなくパートタイムなどでの勤務になっているケースも非常に多く、常に現在と今後に不安を抱えているケースが多い。ケア対象者が施設に入っていたとしても、ものを届けたり、通院に付き添ったり等のケアが偶発的に必要な場合もある。二つ目のパターンは、ケア対象者の病状が悪く、離職をしているケースである。家族の福祉的な手続きまで含めた支援が必要となるなど、一般的なキャリア相談とは異なる支援が必要となる。またヤングケアラーの求職者に共通して、こどもの頃からケアを行ってきたため、学校や会社で一般的な人が身につけてきた経験を積むことができていることが多く、進学や就労に対して自信を持っていないことが多い」。さらに、「(ケアを担いながら)働きたいこども・若者を企業に紹介したいが、理解がある企業がなかなか見つからない。自治体や医療、福祉分野の中では理解が進んできているが、そこから一歩出ると、なかなか知られていない現状がある」(支援団体インタビュー)という点は課題として挙げられる。

2) 効果的な取組事例及び取組のポイント

<若者ケアラーの経験の棚卸し>

支援団体インタビューでは、次のような取組を行う事例があった。「(若者ケアラーに対して)意識している点は二つある。一点目は、窓口の入りやすさであり、LINEを利用して、求

職者が相談しやすいようにしていること。二点目は、一般的なキャリア相談に加えて、求職者のケアの背景まで含めてこれまでのキャリア・人生を棚卸しすることである」。

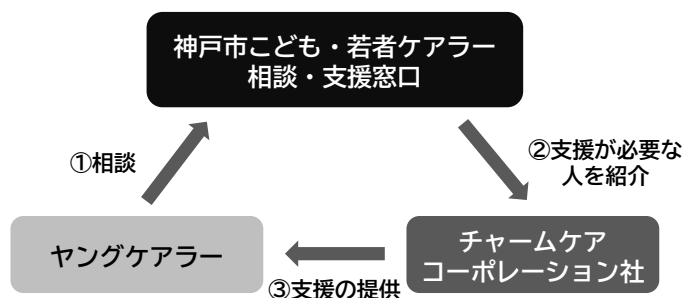
自治体と民間企業が連携をして就労支援等に取り組む事例

- ◇ 神戸市では首都圏や近畿圏で有料老人ホームを運営している株式会社チャーム・ケア・コーポレーション（以下、「チャームケア社」と連携事業を行っている。
- ◇ チャームケア社にとって、ヤングケアラーへの支援活動は、会社としてのイメージアップになるとともに、支援をしたヤングケアラーの方が介護スタッフとして就職すると、人材不足の解消にもつながり、会社としてもメリットが大きい。このような民間企業が取り組むメリットを打ち出すことで、ヤングケアラーに理解のある企業も増える可能性があるといえるだろう。

【チャームケア社が提供する3つの支援の概要】

① レスパイト支援 — 息抜き支援 —
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 学習や気分転換など一時的に自宅を離れたい、自宅で自由に過ごしたいケアラーと介護認定を受けたご家族に対し、チャームケア社運営ホームの居室や食事などを無償提供
② 中間的就労支援 — 就労訓練支援 —
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 家族のケアにより就労が困難な状況にある現・元ケアラーに対し、就労の機会及び将来の一般就労へ向けた就労訓練として、チャームケア社運営ホームでのアルバイト就労を支援 (給与は一般スタッフと同じ。労働時間などは家庭の状況に応じて柔軟に対応) ➢ 令和6年3月現在、3人が就労中、2人が就労予定
③ 奨学金支援 — 代理返還支援 —
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 就労中のケアラーの経済的・心理的な負担を軽減し、20代のキャリア創造期を自身の成長に向け、より安心して仕事に専念してもらう環境の提供

【事業イメージ】



出所：チャームケア社 HP 等を基に当法人にて作成

(8) その他（外国語対応通訳支援、外出時の付き添い、現金給付、進学支援等）

1) 特徴や課題

その他として記載した支援については、アンケートやインタビューでは効果的な支援として多くの回答が得られなかったが、それをもって支援の重要性が低いということにはならない。

「親が外国人の家庭の場合、母親が日本語を話せないと、こどもがその負担を担うことになる。その場合、その母親が働ける場所や、日本語を習得する場所が必要になる。現状では、そのような母親をこどもが支える形となってしまっている。こういった問題へも自治体の支援が必要だ。家族支援のニーズが非常に高い」(支援団体インタビュー)という声もある。

また、外出時の付き添いについては、家族インタビューにおいて、「一人で外出することに不安を感じるため、付き添い支援がほしい。現在、要介護認定がないため介護サービスは利用できない。要介護認定がより取りやすくなってほしい。現行のものは、制度自体も使いづらいと感じる。やはり病院等の外出は体調が良い時にしか行けないので、予定していても当日やっばり行けない、ということもある。日時面で臨機応変に対応してくれるこどもに付き添ってもらわなければならない」という声も聞かれるなど、公的な制度上でカバーできず、こどもに負担がかかりやすい状況にあることが示唆された。

また、ヤングケアラー支援の家庭は経済的に厳しい家庭も多いというインタビュー結果もあり、個々の家庭の状況に応じ、現金給付も効果的な取組であるといえる。

さらに、進学支援については、「進路のことは学校が主体であり、支援団体も状況が分からなかったり、口を出しづらい状況でもある。一方で、こどもは親との関係性がよくなかったり、親が精神疾患を抱えていて十分に意思疎通ができない場合、進路の話が進まないこともある。こうした状況に置かれ、中学3年生になった際に不安でいっぱいになっているケースも少なくない。例えば、オープンハイスクール¹と一緒にいく人がおらず、(スクールソーシャルワーカーである)私自身、夏場はずっと同行している状況である。こうした点をサポートしてくれる団体があるとよいと思う」(検討委員会委員)という声もあり、より支援の充実が求められる。

¹ オープンハイスクールとは、県立高等学校を開放することにより、中学生やその保護者、中学校の教員及び地域住民等が高等学校の教育内容について理解を深めるとともに、中学生が自ら学びたい学校を選択するために、進路に対する目的意識の高揚や学習意欲の向上を図るなど、中学校の進路指導の充実に資することを目的とするもの。

5. 自治体の体制面等におけるポイント

(1) 都道府県、市区町村の役割分担

自治体アンケートにおいて、「都道府県が、市区町村に主導的な役割を期待する取組」、「市区町村が、都道府県に主導的な役割を期待する取組」をそれぞれ尋ねたところ、回答割合の上位3位までは下図のとおりだった。

図表6-9：都道府県/市区町村に主導的な役割を期待する取組（MA）

	主導的な役割を期待する取組		
	都道府県から 一般市区町村への期待	都道府県から 政令指定都市への期待	市区町村から 都道府県への期待
上位1位	ヤングケアラー情報のとり まとめ・フォローアップ	ヤングケアラー情報のとり まとめ・フォローアップ	関係機関職員研修
上位2位	家事・育児支援	実態調査・把握/ ピアサポート等相談支援体制 の推進(相談窓口の整備等)	実態調査・把握
上位3位	ヤングケアラー・ コーディネーターの配置		ヤングケアラー・ コーディネーターの配置

自治体インタビューにおいても、「多くの福祉サービスの実施主体であり、住民に身近な市町村が主体と考えており、府は市町村のバックアップを行う」という声が挙げられたように、こども・若者及びその家族への直接的な支援やその情報のとりまとめといった取組は市区町村で行い、その後押しとして「関係機関職員研修」、「実態調査・把握」の実施を都道府県が担うという役割分担の状況がみられた。特に実態把握については、「実態が把握できていないと支援を計画できない。県が実態調査を行ってくれたことで、市の実態も把握でき、計画づくりに活かすことができた」（自治体インタビュー）という声も聞かれた。

また、自治体アンケートでヤングケアラー関連の取組状況を尋ねたところ、「ヤングケアラー・コーディネーターの配置」は、全体では9.6%、自治体種別でみると、都道府県が63.8%、政令指定都市が50.0%、中核市が29.3%、特別区が30.4%、一般市町村が4.9%であり、特に一般市町村での配置が進んでいない状況がみられた。

（ヤングケアラー・コーディネーターの配置については「5（4）」も参照）

さらに、自治体インタビューでは、「民間支援団体に助成を行い、学校や放課後の居場所、学習支援、社会体験プログラムの提供、ピアサポートなどを実施」という取組も聞かれ、助成先を増やすために次のような工夫も挙げられた。「助成団体を訪問し、団体の困りごとを含めて話を聞き、状況把握をしている。また、団体同士でも顔の見える関係を作るために、全団体が参加する意見交換会を実施した」、「母子生活支援施設の退所者支援の取組はもともと独自でされていたが、ヤングケアラー支援につながる部分があったので、府内すべての母子生活支援施設を訪問し、事業を説明。令和4年度は（母子生活支援施設の助成先は）1団体であったが、令和5年度には3団体に増えた」（自治体インタビュー）というように、支援団体との既存のつながりを大切にしながら、助成先を増やしている様子もみられた。

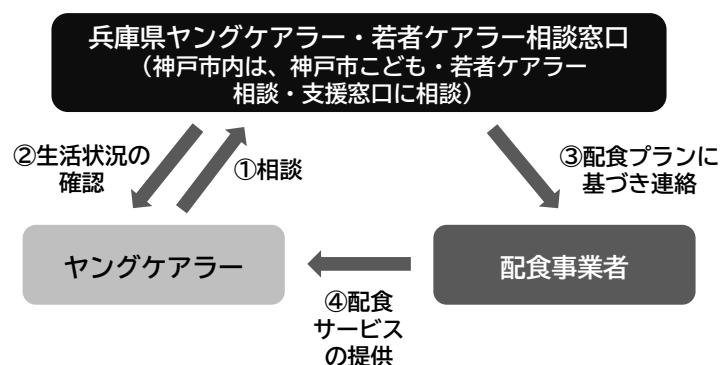
県主導で配食支援を行う事例

- ◇ 兵庫県では、県内のすべての地域を対象に、子ども・若者ケアラーの家事負担を軽減し、ケアが必要な家族への福祉サービスの支援につなげるために、子ども・若者ケアラーとその家族に弁当の配食を行う配食支援モデル事業を行っている。
- ◇ 「(兵庫県の) 配食支援を通して、今までは支援拒否だった家族と接触できたケースもある」(検討委員会委員) という声もあるなど、特に予算やマンパワーに限られる小規模自治体にとっては取組の後押しになるといえるだろう。

【配食支援の概要】

対象者	兵庫県ヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口にご相談があったヤングケアラーのうち、配食支援が必要と認められた家庭
対象地域	県内全市町 (41 市町)
支援の内容	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 弁当の配食 (対面配達) (家族の人数分) ▶ ケアが必要な家族に対して市町や関係機関と連携した支援
利用期間・回数	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 利用期間: 原則として利用開始から3か月間 ▶ 回数等: 原則週1回 ▶ 利用料: 無料 <p>※ 配食予定数に達した場合は受付を終了</p>

【事業イメージ】



出所：兵庫県の「ヤングケアラーに対する配食支援モデル事業」紹介資料より一部改変

(2) 教育部門と福祉部門の連携

自治体アンケートにおいて、「本人や家族に寄り添うことからケアの実態や事実が判明するため、こどもの居場所である学校との連携は欠かせない」といった、教育と福祉の連携の重要性に関する声は多く挙げられた。その中で、自治体アンケート及び自治体インタビューでは以下のような工夫がみられた（先行研究における個人情報の共有に係る取組や考え方の例は図表6-10参照）。

<学校・教育部門から福祉部門への情報共有>

- 教育部門から福祉部門へ、児童生徒が長期欠席している情報を提供してもらうことで、長期欠席の原因である課題に気づき、速やかに支援策を検討・実施できる。
- 小中学校が実施している「学校生活アンケート」において、ヤングケアラーに該当する児童について情報共有を行い、窓口である福祉課が把握できている。
- ヤングケアラー等の気になる子についての台帳をスクールソーシャルワーカーが作成しており、児童福祉部門にも共有いただいている。
- 卒業後が気になる生徒の情報を学校から市内の支援施設等に共有いただいている。

<福祉部門から学校・教育部門への情報提供>

- 要保護児童対策地域協議会や教育部門と情報共有を行い、福祉サービスの利用や子ども食堂等の情報提供を行って、利用につなげている。
- 教育部門と連携し、学校を通じて児童生徒に広報啓発を行っているほか、学校における対応フロー等について、連携支援マニュアルを作成している。
- 府立高校は広域であるため、市町村別の窓口一覧を周知しており、学校現場では非常に助かっている。

<学校訪問>

- 市（町村）が県立高校を訪問することで相談を受ける（ヤングケアラーを把握する）ケースが増加している。

<研修実施による連携向上>

- 研修を行う上で、福祉の視点と教育の視点を共存させることは重要。

<専門職の配置>

- 拡充したスクールソーシャルワーカーは、教育委員会に所属しているが、保健福祉センターに席を置いて、学校を回ってもらい、学校から福祉につなげやすいシステムを整えている。
- まずは、地域支援者、学校関連課、障害、介護分野からヤングケアラーコーディネーターに情報が入ってくる体制になっている。ヤングケアラーコーディネーターは多機関連携の推進役、学校卒業後の見守りも担う。

<会議体の設置>

- 関係課長会議を立ち上げ、情報共有をしている。
- 副市長をトップとしたPTを設置し、年2、3回議論しており、情報交換が非常にやりやすい。

- 子ども・若者支援地域協議会をつくっており、教育、福祉が連携しやすい状況にある。
- 月1回市の教育委員会との連携会議を行い、見守りや進捗を共有し、支援役割を共有できている。

図表6-10：個人情報の共有に係る取組や考え方の例

通番	工夫	例
1	学校から教育委員会に対してアセスメントシートを提出し、要保護児童対策地域協議会に通告	<p>◇ 学校で発見したヤングケアラーが児童虐待を受けたと疑われる場合、「児童虐待の防止等に関する法律」の通告義務の観点から、本人等の同意は不要であると判断し、校長の責任のもと学校から教育委員会へ独自のアセスメントシート（<u>養育放棄、体罰、不登校児童生徒の安否確認不可など記載</u>）を提出。</p> <p>その後、当該アセスメントシートを要保護児童対策地域協議会にも提出し、緊急性が高くない場合であっても、要支援児童として見守りを継続して、緊急性があがった場合にケース会議を行う。このように要保護児童対策地域協議会において取り扱うことで、個人情報含め関係者間で情報共有を行っている。</p>
2	自治体の個人情報保護審議会にかけ、情報共有が可能な状況を整える	<p>◇ ヤングケアラーのケースに係る情報の取扱いについて、<u>予め個人情報保護審議会にかけておくなどして、自治体内で、各関係機関・部署における情報の取扱いルールを決めておく。</u></p>
3	児童福祉法に基づく要支援児童としての市町村への情報提供	<p>◇ 児童福祉法第21条の10の5第1項では、関係機関が<u>支援を要する児童を把握した時は市町村への情報提供に努める</u>ことを規定。</p> <p>◇ 個人情報保護の例外的な取り扱いとして、「<u>法令に基づく場合</u>」に該当するため、<u>本人の同意がなくても個人情報保護法違反にはならない。</u></p> <p>◇ 支援が必要なヤングケアラーを把握した場合における<u>市町村の情報提供窓口を共有</u>しておく。</p>

出所：令和3年度 子ども・子育て支援等推進調査研究事業「多機関連携によるヤングケアラーへの支援の在り方に関する調査研究」多機関・多職種連携によるヤングケアラー支援マニュアル（有限責任監査法人トーマツ）

その他、教育部門と福祉部門の連携については、令和4年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業において、「児童福祉部門と教育分野に焦点を当てた市区町村におけるヤングケアラー 把握・支援の運用の手引き（<https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/life-sciences-and-healthcare/articles/hc/yc-tebiki.html>）」が作成されているため、参照されたい。

(3) 予算確保

自治体インタビューでは、新規事業を行うための予算を確保するにあたり、その必要性を財務部門に理解いただくのに苦労したという自治体が少なくなかった。その上で、予算取りに向けて行われた取組事例や自治体の声を以下で紹介する。

- (広域自治体においては) 予算要求にあたっては、市町村・民間支援団体の意向を把握し説明する必要がある。
- 実際の事例を説明しながら必要性を説明した。
- 国の補助も活用しつつ、予算取りを行った。
- ケースに関わる人が、ヤングケアラーがいるかもしれないという視点を持つことが大事。その上で、ヤングケアラーに気づいた時に、どう関わっていくのかを協議できる体制ができることが大切ではないか。実務者会議等、関係者で支援の必要性があれば事業化して、対応を進めていくことになる。
- 実態調査がまず大事だと思う。実態を把握することに加え、調査結果を予算取りの根拠にすることもできるため、まずは実態調査を行うと良い。
- 実態が把握できていないと支援を計画できない。県が実態調査を行ってくれたことで、市の実態も把握でき、計画づくりに活かすことができた。
- ヤングケアラー支援の法制化の動きもあり、今後の予算確保に向けた根拠になる。

(4) ヤングケアラー・コーディネーターの配置

上記(1)でも述べた通り、自治体アンケートにおいて、「都道府県が、市区町村に主導的な役割を期待する取組」、「市区町村が、都道府県に主導的な役割を期待する取組」をそれぞれ尋ねたところ、それぞれの上位3位に「ヤングケアラー・コーディネーターの配置」が挙げられた(都道府県から政令指定都市への期待を除く)。一方で、実際の配置状況は、全体では9.6%、自治体種別で見ると、都道府県が63.8%、政令指定都市が50.0%、中核市が29.3%、特別区が30.4%、一般市町村が4.9%であった。「ヤングケアラー・コーディネーターの配置」を行っていない自治体に対して、その理由を尋ねたところ、「支援体制ができていないため」という回答が最も多く、次いで「ヤングケアラーに該当するものがない(少ない)ため、配置の必要性を感じない」、「その他」という結果だった。「その他」の具体的な内容としては、「配置の必要性を感じない(既存の対応で十分対応できている)」という結果が多かった。

「ヤングケアラー・コーディネーターの配置」をしている自治体に対して、ヤングケアラー・コーディネーターが担っている役割を尋ねたところ、「相談支援・助言等(地域における関係機関等からの相談に対する助言や適切な福祉サービス等へのつなぎなど)」という回答が最も多く、次いで「研修の実施(地域の関係機関等を対象に、ヤングケアラーの支援

に関する研修等を実施)」、「支援者団体と連携等(こども食堂、学習支援、見守り訪問、家事・育児支援等を行う支援者団体との連携等)」、「関係機関等におけるヤングケアラー支援体制の構築(ヤングケアラーを支援するための体制の構築を図る等)」であった。

自治体インタビュー及び支援団体インタビューでは、以下のとおり、ヤングケアラー・コーディネーターを配置したことによるメリットを聞くことができた。

- 県がヤングケアラー専門アドバイザーを配置した目的は、関係機関からの相談を受けて、こどもとの関わり方・周知の助言、人材育成として研修などを行うことに加え、市町村の体制づくりの支援を行うためである。実際の市町村などの現場では、ヤングケアラーの認知度が十分でないことから、発見しづらく支援につながりにくい、また、実際にどのような支援につながればいいのかなど支援に苦慮している中で、手探りで体制づくりを行っている現状がある。現場に出向いて、虐待、困窮への対応など、様々な社会資源をいかに組み合わせてヤングケアラーへの気づきや支援につなげる体制をつくるか、地域性・地域差を考慮した上で、助言を行っている。(自治体インタビュー)
- 既存の支援体制はある中でもヤングケアラー・コーディネーターを配置したことで助かっていることも多い。多機関連携についても、上手く支援が進まない、情報が集まらない、誰が引っ張るか分からない、等の理由で上手くいかないこともあったので、情報を収集し、段取りをしてもらっている。いろんなケース会議に入ってもらい、現場にも行っていただいている。スクールソーシャルワーカーとの違いは、スクールソーシャルワーカーは学校から地域支援につなげるところがメインなので、地域につながった後は福祉がメインとなるのでヤングケアラー・コーディネーターの担当になる。スクールソーシャルワーカーは学校卒業後に離れてしまうので、地域で見守っていくためにヤングケアラー・コーディネーターが担う役割は大きいと考えている。(自治体インタビュー)
- ヤングケアラー・コーディネーターは令和4年8月から委託事業として配置している。現在丸一年が経過したところだが、昨年度末に学校卒業後に(スクールソーシャルワーカーの)支援が途絶えることへの不安の声をいただいていたので、ヤングケアラー・コーディネーターを配置してよかったと思う。(自治体インタビュー)
- ヤングケアラー・コーディネーターの配置要否は自治体によって違うと思うが、啓発とヤングケアラー・コーディネーターの配置はやっていただくとよいのかなと感じている。特に高齢者・障害者支援関係者の方からは、支える側の家族にまで意識が向いていなかったという意見も多くあった。ヤングケアラー・コーディネーターが地域会議や障害、介護関係の会議に出席して、啓発を行い、顔の見える関係をつくってくれている。結果、相談が入ってくるようになってきている。自分たちにはできない役割を担ってくれていると思う。(自治体インタビュー)

- ヤングケアラーの特徴として、支援につなげるまでが難しいという点が挙げられる。他のケースに加えてヤングケアラーの対応となると、手が回らないことがある。この点、ヤングケアラー・コーディネーターを配置することで、手厚い支援や連携ができており、専門的な視点で関わることの必要性を感じている。(自治体インタビュー)
- ヤングケアラーの家庭でより困難を抱えている家庭は複合的な問題を抱えていることが多い。家族が身体、精神、知的等、複数の異なる障害や貧困などの問題、日本語がわからないなどの課題を抱えていて、分野をまたいだ支援が必要な状況もある。そのような状況下で、横串でチームで動くコーディネーターが必要不可欠だと思う。現状、すぐに解決できるような支援が入らないことも多いが、一緒に考え動いてくれる味方が家族にできることはとても大きい。たらい回しをされてしまうケースは多いが、それが防げるようになったことは良い。(支援団体インタビュー)

本人向けアンケートにおいて、スクールソーシャルワーカーに相談対応・困りごとへの柔軟な対応等をしてもらったことが嬉しかったという回答が多く、スクールソーシャルワーカーに対するニーズが高いことがうかがえた。加えて、学校を卒業してスクールソーシャルワーカーに相談できなくなることへの不安について、多くの声が寄せられていた。この点、学校卒業後も継続的に相談ができる相手として、ヤングケアラー・コーディネーターが配置されていることは、こども・若者にとって心強い存在になりうると考えられる。

(5) 広報啓発

自治体アンケートの結果、「広報啓発活動」を行う自治体は全体の4割程度であったが、一般市町村を除く、都道府県、政令指定都市、中核市、特別区においてはいずれも7割を超える結果であった。広報啓発を進める中での留意点や要望などについて、以下の声が聞かれた。

<「ヤングケアラー」という言葉自体が家族を傷つけている可能性がある>

支援団体インタビューにて、『ヤングケアラー』という言葉自体が家族を傷つけることもあるという事実はある。それはメディアを通じて「こどもがかわいそう」というイメージがつくられていることが大きい。ヤングケアラーと家族の関係性はケースバイケースであるという理解を広めていくことが重要だと考える。「今現在家族と関わるケースもあるが、『ヤングケアラー』という言葉のネガティブなイメージから家族へ話してほしくないというこどもや若者もいる」という声が聞かれた。

また、家族向けアンケートにて広報活動における留意点を尋ねた際にも、以下のように同様の声が聞かれた。

- こどもに迷惑をかけているのか、と申し訳ない気持ちになる。
- 自分のこどもがヤングケアラーであることがそもそも悪いなと感じている。
- 聞きたくない。
- ヤングケアラーと聞いたら、自分を責めて死にたくなります。
- 関係ないと思っている。聞きたくない。
- ケアされたいと思ってないから自分を責めている。死にたくなる。
- 見たくない。

「ヤングケアラー」という言葉自体が、すでにヤングケアラーのこども・若者の親にとって受け入れがたいものになっていることがうかがえる。本事業における家族向けアンケート、家族インタビューにおいて回答数や協力者が少なかったことも、この「ヤングケアラー」という言葉のイメージが影響したと推察される。引き続き、より家族への配慮も行った上での広報啓発が求められる。

<小中学生への啓発の際の留意点>

「ACEs：Adverse childhood experiences(逆境的小児期体験)²の影響を受けているこどもたちは、信じない・話さない・感じないということが身についてしまっている場合があるため、話させよう、自覚させよう、というのは発達的に厳しい（人間不信、感覚麻痺は必ずしもACEsの影響ではない場合もある。図表6-11も参照）。ヤングケアラーは、こどもたちがこどもらしく過ごせないというところが問題であるにも関わらず、困難な状況であることを自覚させようとすることは、こどもらしくあることを否定していることにもなりかねない。そのため、啓発のあり方は特に小中学生に関しては慎重にならないといけない。年齢によって、ケアの捉え方、親への思いなどは大きく変化し、揺らいでいる。発達過程の不安定な思春期の時期は気をつけないといけないと思う」（検討委員会委員）。

² 小児期における被虐待や機能不全家族(家族が本来持つべき機能が著しく働いていない家族)との生活による困難な体験のことをいう。

図表6-11：元ヤングケアラーの声

- (家族のことを聞かれた際に、)「私が口を開く事で、母が死にたいと言ったり、大ごとになったりするのではないか。根掘り葉掘り聞かれてそのまま答えて状況が悪化したらどうしよう」と思っていた。
- 自身は中学生の時は人間不信で、手を差し伸べられても、どうせ分かってもらえないと思っていたため、聞かれても「何でもない」と答えていた。YCであることの中には、自分の心を開いたら傷ついたという経験があることもも少なくないと思う。
- 母が発病した時、異変に気付いて声をかけてくれた先生がいた。だが、その先生に話したことがすべて児童相談所に伝わっていて、親が児童相談所から呼ばれた事があった。信頼していた先生に裏切られたと感じ、大人への不信感を持った。
- 私は小学生の時に児童相談所に預けられ、親が病院に入るという環境になった。こどもとしてはそれが当たり前だったので正常なのか異常なのかが分かっていなかった。家族と分断され、状況が分からないまま時間が過ぎていった。こどもであった私のことは置き去りのまま、支援が進んでいった。

出所：令和4年度 子ども・子育て支援等推進調査研究事業「ヤングケアラーの支援に係るアセスメントシート¹の在り方に関する調査研究」ヤングケアラー支援に係るアセスメントツール等の使い方ガイドブック（有限責任監査法人トーマツ）より一部抜粋

上記の状況を踏まえ、自治体が広報啓発を行う際の工夫として、検討委員会委員からは次のような声が聞かれた。「ヤングケアラーかどうかを問う啓発よりも、『孤立や核家族化が進む今の世の中において、子育てや家族のケアを家族だけで抱えられないのは当然のこと。誰がヤングケアラーか、ではなく、これからは地域全体で支え合い、育児やケアをしていくんだよ』というメッセージを発信することが望ましい。また、広報啓発のためのチラシやリーフレットにおいても、家族が見ても傷つかないような内容にしていく必要がある。（参考：自分と家族の味方（ミカタ）をつくるブック（大阪市）
<https://www.city.osaka.lg.jp/kodomo/page/0000550590.html>）」（検討委員会委員）。

<ヤングケアラー自身の精神疾患の予防・啓発の必要性>

本人インタビューにて、次のような声が聞かれた。「ヤングケアラーのメンタルケア、精神疾患の予防・啓発が進むとよいと思う。精神疾患は遺伝要因と環境要因があると言われている。遺伝要因で精神疾患のリスクが高い場合、ヤングケアラーはストレスを抱えやすいため環境要因も成立しうる。ヤングケアラーたち自身も自分のケアができるようになる支援・教育もあると良い」。さらに、「『家から逃げ出してもいいんだよ』ということも教えてあげてほしい。親と一緒にいたい子もいると思うが、短期でも家から離れて休む、という選択肢があることを伝えてほしい」といった声も聞かれるなど、こども・若者の声を踏まえた広報啓発が行われることが望まれる。なお、「家から逃げ出してもいいんだよ」というメッセージについては、地域の中で、ショートステイの事業などを含む、逃げ出せる場所があるか、という点にも留意が必要である。

6. 今後の課題

(1) 中長期的な視点が必要であることへの理解

先行研究においても指摘されている通り、ヤングケアラーへの支援の特徴として、支援につながりづらいという点が挙げられる。これに加え、支援につながったとしても、「これまで経験できなかった経験や必要なものを取り戻すプロセスがないと、心のカウンセリングをただけでは学校復帰や進学等に至るのは難しい場合も少なくない」、「(ヤングケアラー支援は) ちょっと手を入れてすぐ変わるものではないので、時間がかかるし成果も見えづらい」(支援団体インタビュー) という声もある。

さらに、本人インタビューにおいても、「こども時代に困難があると、自己肯定感が低くなったり、負い目を感じることもある。大人になれば急に何でもできるようになる、という訳ではないので、こどもの頃から支援をして、大人になっても要介護者の家族を、自分の生活を大切にしながらケアできるよう支援できるとよい。ヤングケアラーが大人になり、ケアが必要な親を行政や医療福祉関係者に任せて「関わりたくないので連絡をしないでくれ」といって親との関係を切ろうとするケースもある。その結果、行政や医療、福祉の負担が増す」という声もある。

これに対し、「数字などで(短期的な)成果が見せられるものしか事業化されないことに危機感を持っている」、「長期的な支援となることが多いため、評価の段階を細かく設定しないと、事業の効果が見えず、すぐに取りやめとなってしまふことが懸念される」(支援団体インタビュー)、「ヤングケアラー支援は中長期的で安定的・継続的な支援が必要となるため、支援策、財政措置の充実をしてほしい」(自治体インタビュー) という懸念が挙げられた。

ヤングケアラー及びその家族への支援は、長期的な視点で考える必要があることを十分に理解した上で、評価の段階を細かく設定するなどして、事業や支援を組み立てていくことが重要だといえる。

(2) 学び直しの機会の充実

上記(1)にて、支援団体から「これまで経験できなかった経験や必要なものを取り戻すプロセス」が必要であるという声を紹介した。これに関連し、学び直しの機会の充実の必要性について、支援団体インタビューでは、次のような声が聞かれた。「基礎学力がある人たちは様々なチャンスがあるが、当団体に来る子たちの中にはヤングケアラーであったために小中学校にほとんど行けていない子が一定数いる。この子たちは本当に困っていて、生活保護を若くして受けている場合も少なくない。一つ希望を抱いているのは、夜間中学校である。夜間中学校は全国でもどんどん増えていく流れになっていて、不登校経験者や外国籍の人、学力が低い層の学び直しの機会と言われているが、ここにヤングケアラーも含まれると

良い」。ヤングケアラーへの支援として、夜間学校での学習も一つの選択肢としてありうるといえる。

(3) 若者支援の充実

上記(1)で述べた通り、ヤングケアラー支援は中長期的な視点を持つ必要があり、18歳を超えたからといって「ケアラーの状態は18歳で終わるものではない」(自治体インタビュー)。この点、若者支援の充実の必要性について、支援団体インタビューでは、次のような声が聞かれた。「18歳を超え、要保護児童対策地域協議会の枠組みから外れた若者世代は支援先につながる事が難しい。そのため、医療や福祉に限らず、企業等の民間とも連携する必要があると思っている(就労に課題を抱えることも多いため)。若者世代のヤングケアラーを支援する団体は少ないため、この世代は孤立・孤独を経験することが極めて多い。こども世代は学校があるが、若者世代はここに行けばつながれる、という場所がないので若者世代のヤングケアラーは出会い方や支え方が難しい。そのため、企業が支援してくれると良い。若者世代のヤングケアラーに関心のある企業と連携することが重要である」。若者世代の支え方という点では、「大人になってからこども時代の人生を振り返り、自分の人生をみつけていくプログラム(『家族による家族学習会』(第5章3(2)2)参照)のような取組が更に充実していくことが望まれる」(検討委員会委員)。

なお、他の支援団体からも18歳を超えた若者への支援の不足、要保護児童対策地域協議会のような連携体制をつくるための枠組み、将来の進学や就労などの支援の必要性について声が挙げられた。また、支援があったとしても「例えば、カウンセリングが有料になり、高くて利用できないこともある」(検討委員会委員)という声にも留意しておく必要がある。

(4) 家族全体のニーズに対応した支援方法や普及啓発方法の検討

「今回の支援団体への調査では家族全体を支援するということの重要性が指摘されている。一方で、ヤングケアラーという言葉が正しく理解されないことで、こどもにケアを強いっている家族という見方が広まり、家族を傷つけてしまっているという意見は重く受け止めなければならない」(検討委員会委員)。

ヤングケアラーの家族に対するアンケート及びインタビューにおいても、調査への協力者数はヤングケアラー本人よりも少なく、インタビューへの協力が困難だった理由について、支援団体から以下のような声が聞かれた。

- 親の立場からすれば、自分がこどもに対して親としての対応がしっかりできずにいたことを「ヤングケアラー」との位置付けをもって、改めて認識させられ、自責の念にかられている感じが伝わってくる。親がダメというニュアンスがこちらにはな

くても、受け手の方にはそう感じてしまうなどがあったのかと想像される。

- こども・若者が家族に内緒で居場所を利用しているケースが多い。
- 一人の子は、家族に言うと、「ヤングケアラー＝母親がいけない」と捉えられ、居場所に行くことを認めてもらえないだろう、とのこと。
- 保護者負担や、ヤングケアラーを認知していない状況を踏まえ、難しい。
- とりわけ精神疾患を抱えておられる方々は、いま現在もその疾患がある中で生活をしている。

そのため、「今回のインタビューでも家族のニーズは十分に把握できたとは言えない。家族のニーズを把握し、支援や広報への示唆を得る必要がある」（検討委員会委員）。

（５） 長期的な支援による支援者側の体制維持

支援団体インタビューでは、支援の出口の難しさについて、以下のような声が聞かれた。

- ケアは長く続く場合も突然終わる場合もあるが、ケアが終わったからすべてが終わるわけではない（ケアが終わった後の生きづらさを話す若者は多い）。一度困りごとが減っても、期間を空けて LINE で相談が来ることやイベントに来てくれることもある。
- 一度ヤングケアラーの状態ではなくなった若者が、またケアを担うケースがあった。ケアをしなくてもよい環境になったとしても、状況を確認し、つながっていることは必要だと感じた。
- ケアが終わったとしても本人のしんどさは変わらず、5～10年は引きずる。ケアを行っている最中はそれが日常で当たり前になりすぎていて、あまり今すぐ助けてほしいという風にはならない。
- 支援の出口は、ないと思う。ケアが終了した後の方が生きづらさが強くなっているように見受けられるため、そこへの支援ももっと重点的に考えることが必要だと思う。
- ケア対象者が亡くなるまでケアは終わらないため、ケアがなくなる時が支援の終了ではない。

一方で、「最初に支援を始めた子たちには手厚く支援ができるが、そのままの状態だと、限られたマンパワーと予算の中で、今度は新たに受け入れられないという問題が出る」（検討委員会委員）。そのため、支援を持続可能なものにするためには、支援団体インタビューで聞かれた、次のような考え方も大いに参考にしうるといえる。

- 自分の人生の舵を自分で取っている感覚をその人が持てたら終わりで良いと思う。

自分でヘルパーや区役所に相談できれば、終わりで大丈夫だと思う。自分で SOS を発信できるような力をつけ、自分でその感覚を持てていけば良いと思う。

- 昔ながらの地域のように、本人が周りの人に助けてといえる状況をつくり、様々なつながりの中でその家族を支えられるという状況を整える必要がある。小集団、集団活動の段階で様々なつながりをつくり、孤立を防ぐ必要がある。
- つながり続けることを目的とした「伴走型支援」が親子を社会的孤立から遠ざけるために必要な仕組みとなる。

「中長期的な視点でヤングケアラーとその家族を支援していくことと、支援の持続可能な仕組みを作ること。この二つをどう両立させるかが、今後のヤングケアラー支援において重要になってくると考えられる」（検討委員会委員）。

本調査研究で収集した情報等を基に、地域の実情に応じ、ヤングケアラーへの支援が更に進むことを願う。

第7章 成果の公表方法

本報告書は、有限責任監査法人トーマツのホームページにて広く一般に公開する。

付録 資料編

資料編への掲載内容

- 各種アンケート調査票
- 各種アンケート集計結果（単純集計表、クロス集計表）
- インタビュー記録

■地方自治体に対するアンケート調査票

(地方自治体向け)
「ヤングケアラーへの支援に関するアンケート調査」ご協力のお願い (所要時間：15分程度)

こども家庭庁 子ども・子育て支援等推進調査研究事業事務局
(有限責任監査法人トーマツ)

有限責任監査法人トーマツでは、令和5年度こども家庭庁 子ども・子育て支援等推進調査研究事業として「ヤングケアラー支援の効果的取組に関する調査研究」を行っております。この事業は、ヤングケアラーやそのご家族に対してこれまで行われてきた支援等の取組がどのような効果をもたらしたかを検証することで、ヤングケアラー支援の更なる充実・改善の一助にすることを旨とするものです。

この度、この事業の一環で、地方自治体におけるヤングケアラー支援に向けた取組状況を把握するためのアンケートをさせていただきますこととなりました。調査結果はとりまとめて、本事業で報告書を作成する際の参考情報とさせていただきます。

ご回答内容は、集計等の処理を行った上で本事業において参考情報とさせていただきますほか、事業報告書で紹介させていただく場合がございますが、回答者様が特定される形で公表されることはございません。また、ご回答内容はこの事業の目的以外には使用せず、取扱いに十分注意いたします。

皆様におかれましては、ご多量の折に大変恐れ入りますが、アンケートにご協力いただけますと幸甚に存じます。

(※)報告書は令和5年度末を目途に、当法人及びこども家庭庁ホームページにて公開を予定しております

回答期日 **令和5年10月6日(金)まで**
回答はこちらから <https://rsch.jp/3be0384b1fabe09d/login.php>
(アンケートへの回答はExcelではなく上記アンケートサイトよりお願いいたします。)

【アンケートに関するお問合せ先】
こども家庭庁 子ども・子育て支援等推進調査研究事業事務局 (有限責任監査法人トーマツ 平岡、國東、木村)
電話番号：03-6213-1660 (受付時間：平日 10時～17時)
メールアドレス： jimukyoku@tohmatsums.co.jp

回答者：全員 改ページ

- Q1 SA 貴自治体の種別を教えてください。(当てはまるものを1つ選択)
- O1 都道府県
 - O2 政令指定都市
 - O3 中核市
 - O4 特別区
 - O5 一般市町村
- Q2 SA 貴自治体におけるヤングケアラー支援の主な担当窓口はどちらですか。(当てはまるものを1つ選択)
- O1 児童福祉部門
 - O2 教育部門(教育委員会、学校)
 - O3 母子保健部門
 - O4 高齢者福祉部門
 - O5 障害福祉部門
 - O6 生活保護担当部門
 - O7 政策部門
 - O8 重層的支援体制
 - O9 主な担当窓口が定まっていない
 - O10 その他(具体的に)
- Q3 MA 2021年度に、「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム」において、今後取り組むべき施策(「早期発見・把握」、「支援策の推進」、「社会的認知度の向上」)を取りまとめました。貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、2023年9月1日時点で実施したことがある、もしくは実施中のものを教えてください。(当てはまるものすべてを選択)
- Q1 実態調査・把握(既存の各種調査に、ヤングケアラーに係る設問を追加するなどの対応を含む)
 - Q2 関係機関職員研修
 - Q3 ヤングケアラー・コーディネーターの配置
 - Q4 ピアサポート等相談支援体制の推進(相談窓口の整備等)
 - Q5 サロン(元)ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援(オンライン、対面いずれも含む)
 - Q6 外国語対応通訳支援
 - Q7 家事・育児支援
 - Q8 配食支援
 - Q9 食糧支援(フードバンク)
 - Q10 こども食堂
 - Q11 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ^{※1}
 - Q12 広報啓発活動^{※2}
 - Q13 自治体における有識者会議の設置(既存の会議体での対応も含む)
 - Q14 ショートステイ、トワイライトステイ
 - Q15 外出時の付き添い・同行支援
 - Q16 現金給付
 - Q17 学習支援(フリースクール、家庭教師を含む)
 - Q18 就労支援
 - Q19 その他^{※3}(具体的に)
 - Q20 ヤングケアラー関連の取組は特になし
- ※1 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップは、学校等が把握し市町村の福祉部局等へつないだヤングケアラーの情報を一元的に集計・把握するとともに、ヤングケアラーのその後の生活改善までフォローアップする体制を整備する取組等を指します。
- ※2 広報啓発活動は、ヤングケアラー認知度向上に係る広報啓発等事業を通じ、関係機関・団体や地域住民等へのヤングケアラーに関する意識の向上を図ることにより、ヤングケアラーへの適切な対応に資することを目的とする取組等を指します。
- ※3 入学卒業支援(進路支援を含む)等、選択肢に記載の取組以外にヤングケアラー関連の取組があれば教えてください。
- Q4 FA 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、Q3で回答いただいた支援のうち、最初に支援を始めてから2023年9月1日時点までの経過年数を教えてください。なお、ヤングケアラー関連の取組が特にな場合は「0年0ヶ月」とご回答ください。
()年 ()ヶ月
- Q5 MA Q3のほかに、ヤングケアラー本人や家族がよく利用するサービスを教えてください。(利用頻度の高いサービス上位5つを選択)
- Q1 放課後等デイサービスなどの療育機関の利用
 - Q2 障害福祉サービスの計画相談支援(親子とも)
 - Q3 生活保護制度
 - Q4 訪問看護
 - Q5 精神保健相談
 - Q6 母子生活支援施設への入所
 - Q7 母子家庭支援制度、貸付
 - Q8 生活困窮者貸付
 - Q9 地域包括支援センターへの相談
 - Q10 介護保険制度
 - Q11 教育相談や不登校相談
 - Q12 児童患者春期外来
 - Q13 発達相談
 - Q14 その他(具体的に)
 - Q15 ヤングケアラーがいらないため特になし

回答者：Q3=□4-6、8 (いずれかに該当あり)

改ページ

Q6 MA 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、具体的な取組内容を教えてください。(当てはまるものすべてを選択)

	ピアサポート等相談支援体制の推進(相談窓口の整備等)	
Q6.1	相談窓口での対面相談	<input type="checkbox"/>
Q6.2	電話相談	<input type="checkbox"/>
Q6.3	オンライン相談	<input type="checkbox"/>
Q6.4	SNS相談	<input type="checkbox"/>
Q6.5	アウトリーチ(訪問による相談支援)	<input type="checkbox"/>
Q6.6	元当事者による相談支援(ピアサポート)	<input type="checkbox"/>
	サロン(元)ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援(オンライン、対面いずれも含む)	
Q6.7	オンラインサロン	<input type="checkbox"/>
Q6.8	対面のサロン(リアルイベントを含む)	<input type="checkbox"/>
	外国語対応通訳支援	
Q6.9	通訳者の配置	<input type="checkbox"/>
Q6.10	遠隔通訳	<input type="checkbox"/>
Q6.11	翻訳機の整備	<input type="checkbox"/>
Q6.12	その他(具体的に)	<input type="checkbox"/>
	配食支援(支援対象)	
Q6.13	ヤングケアラー本人	<input type="checkbox"/>
Q6.14	ヤングケアラー本人の同居家族	<input type="checkbox"/>
Q6.15	支援を受ける際に「ヤングケアラー本人」、「ヤングケアラー本人の同居家族」を選択可能	<input type="checkbox"/>
Q6.16	その他(具体的に)	<input type="checkbox"/>

回答者：Q6.7に該当あり

改ページ

Q7 MA 貴自治体が行うオンラインサロンにおいて、以下の中で特に効果的と考えられる取組がありましたら教えてください。(当てはまるものすべてを選択)

- 1 参加者の募集
2 運営方法
3 その他(具体的に))
4 今のところ、特に効果的と考えられる取組はできていない

上記で選択した項目について、具体的な内容を教えてください。(任意)

回答者：Q3=□1-12、19 (いずれかに該当あり)

改ページ

Q8 MA 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施しているものはありますか。(当てはまるものすべてを選択)

- 1 実態調査・把握(既存の各種調査に、ヤングケアラーに係る設問を追加するなどの対応を含む)
2 関係機関職員研修
3 ヤングケアラー・コーディネーターの配置
4 ピアサポート等相談支援体制の推進(相談窓口の整備等)
5 サロン(元)ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援(オンライン、対面いずれも含む)
6 外国語対応通訳支援
7 家事・育児支援
8 配食支援
9 食糧支援(フードバンク)
10 こども食堂
11 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ※1
12 広報啓発活動※2
13 その他(具体的に))
14 国の予算事業として実施しているものはない

※1 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップは、学校等が把握し市町村の福祉部局等へつないだヤングケアラーの情報を一元的に集計・把握するとともに、ヤングケアラーのその後の生活改善までフォローアップする体制を整備する取組等を指します。

※2 広報啓発活動は、ヤングケアラー認知度向上に係る広報啓発等事業を通じ、関係機関・団体や地域住民等へのヤングケアラーに関する意識の向上を図ることにより、ヤングケアラーへの適切な対応に資することを目的とする取組等を指します。

<p>▼主な国の予算事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラー支援体制強化事業(児童虐待防止対策等総合支援事業費補助金) →下記リンク先、スライド2～3を参照 ・子育て世帯訪問支援臨時特別事業(子育て支援対策臨時特別交付金) →下記リンク先、スライド8を参照 ・支援対象児童等見守り強化事業 →下記リンク先、スライド9を参照 ・市町村相談体制整備事業(児童虐待防止対策等総合支援事業費補助金) →下記リンク先、スライド4を参照 ・児童虐待防止等のための広報啓発事業(児童虐待防止対策等総合支援事業費補助) →下記リンク先、スライド6を参照 <p>※国の予算事業の詳細はこども家庭庁の以下の資料を参照ください。 https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/e0eb9d18-d7da-43cc-a4e3-51d34ec335c1/98c645de/20230401_policies_young-carer_08.pdf</p>

09 MA 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。(当てはまるものすべてを選択)

Table with 7 columns: ①ヤングケアラー支援体制強化事業, ②子育て世帯訪問支援臨時特例事業, ③支援対象児童等見守り強化事業, ④市町村相談体制整備事業, ⑤児童虐待防止等のための広報啓発事業, ⑥その他(事業名). Rows include 06.1 実態調査・把握, 06.2 関係機関職員研修, 06.3 ヤングケアラー・コーディネーターの配置, 06.4 ピアサポート等相談支援体制の推進, 06.5 サロン(元)ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営, 06.6 外国語対応通訳支援, 06.7 家事・育児支援, 06.8 配食支援, 06.9 食糧支援(フードバンク), 06.10 子ども食堂, 06.11 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ, 06.12 広報啓発活動, 06.13 その他.

- ※1 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップは、学校等が把握し市町村の福祉部局等へつないだヤングケアラーの情報を一元的に集計・把握するとともに、ヤングケアラーのその後の生活改善までフォローアップする体制を整備する取組等を指します。
※2 広報啓発活動は、ヤングケアラー認知度向上に係る広報啓発等事業を通じ、関係機関・団体や地域住民等へのヤングケアラーに関する意識の向上を図ることにより、ヤングケアラーへの適切な対応に資することを目的とする取組等を指します。

▼主な国の予算事業
・ヤングケアラー支援体制強化事業(児童虐待防止対策等総合支援事業費補助金)
・子育て世帯訪問支援臨時特例事業(子育て支援対策臨時特例交付金)
・支援対象児童等見守り強化事業
・市町村相談体制整備事業(児童虐待防止対策等総合支援事業費補助金)
・児童虐待防止等のための広報啓発事業(児童虐待防止対策等総合支援事業費補助)
※国の予算事業の詳細はこども家庭庁の以下の資料を参照ください。
https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/e0eb9d18-d7da-43cc-a4e3-51d34ec335c1/98c645de/20230401_policies_young-carer_08.pdf

010 MAMT

貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組(国の予算事業以外の取組を含む)の実施形態を教えてください。(当てはまるものすべてを選択)
同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。
※委託先、補助事業実施先として記載いただいた団体については、別途実施予定のヤングケアラー支援団体向けアンケート調査の対象とさせていただきます。当該調査はヤングケアラーにとって効果的だと考えられる支援を把握することを目的とするものです。

Table with 6 columns: 自治体が直接実施, 委託事業として実施, 委託先名称(任意), 補助事業として実施, 主な補助事業実施団体名称(任意), その他の実施形態で実施. Rows include 010.1 実態調査・把握, 010.2 関係機関職員研修, 010.3 ヤングケアラー・コーディネーターの配置, 010.4 ピアサポート等相談支援体制の推進, 010.5 サロン(元)ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営, 010.6 外国語対応通訳支援, 010.7 家事・育児支援, 010.8 配食支援, 010.9 食糧支援(フードバンク), 010.10 子ども食堂, 010.11 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ, 010.12 広報啓発活動, 010.13 自治体における有識者会議の設置, 010.14 ショートステイ・トワイライトステイ, 010.15 外出時の付き添い・同行支援, 010.16 現金給付, 010.17 学習支援(フリースクール、家庭教師を含む), 010.18 就労支援, 010.19 その他(具体的に).

- ※1 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップは、学校等が把握し市町村の福祉部局等へつないだヤングケアラーの情報を一元的に集計・把握するとともに、ヤングケアラーのその後の生活改善までフォローアップする体制を整備する取組等を指します。
※2 広報啓発活動は、ヤングケアラー認知度向上に係る広報啓発等事業を通じ、関係機関・団体や地域住民等へのヤングケアラーに関する意識の向上を図ることにより、ヤングケアラーへの適切な対応に資することを目的とする取組等を指します。

011 MA

ここからは「実態調査・把握(既存の各種調査に、ヤングケアラーに係る設問を追加するなどの対応を含む)」についてお伺いします。
貴自治体で実施した(あるいは実施中の)ヤングケアラーに関する実態調査の調査対象を教えてください。(当てはまるものすべてを選択)
また、こども若者本人向けに実態調査を実施した場合は実態調査の実施回数(2023年9月1日現在(実施中の場合は実施回数を含む))についてもご入力ください。

- (こども若者本人向け)
□1 小学生 () (回)
□2 中学生 () (回)
□3 高校生世代 () (回)
□4 若者(19歳世代から30歳世代程度) () (回)
(機関向け)
□5 小学校
□6 中学校
□7 高等学校
□8 専修学校・専門学校
□9 高等専門学校・短期大学
□10 大学・大学院
□11 要保護児童対策地域協議会
□12 地域包括支援センター
□13 指定居宅介護支援事業所
□14 基幹相談支援センター
□15 障害者相談支援事業所
□16 生活困窮者自立支援機関
□17 民生委員・児童委員
□18 その他(具体的に) ()

回答者：Q11=□1がONの場合は小学生の回答欄を表示 Q11=□2がONの場合は中学生の回答欄を表示 Q11=□3がONの場合は高校生世代の回答欄を表示 Q11=□4がONの場合は子ども若者本人を対象としたヤングケアラーに関する実態調査について、回答時の記名の有無を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

Q12 SAMT 記名あり 記名なし その他
 1 2 3
 年代別で複数回実態調査を実施したことがある場合は近頃の調査について回答ください。

	記名あり	記名なし	その他
	1	2	3
Q12.1	小学生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Q12.2	中学生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Q12.3	高校生世代	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Q12.4	若者（19歳世代から30歳世代程度）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q13 SAMT 記名あり 記名なし その他
 1 2 3
 子ども若者本人を対象としたヤングケアラーに関する実態調査について、対象者の選定状況（全数（悉皆）/抽出）を教えてください。
 年代別で複数回実態調査を実施したことがある場合は近頃の調査について回答ください。

	全数調査	抽出調査	学校単位で抽出	学年単位で抽出	児童・生徒単位で抽出※	その他
	1	2	2-1	2-2	2-3	2-4
Q13.1	小学生	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q13.2	中学生	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q13.3	高校生世代	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q13.4	若者（19歳世代から30歳世代程度）	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※ 調査対象となる児童・生徒を、人数単位で抽出し、書面調査を行う場合などを指します。
 （自治体の小学5年生全体の約2割の人数を無作為で抽出するなど）

回答者：Q3=□1（「実態調査・把握」実施なし） 改ページ

Q14 MA 貴自治体においてヤングケアラーに関する実態調査を実施していない理由を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
1 当自治体が所在する都道府県が実態調査を実施している（する予定である）ため
2 当自治体に所在する市区町村が実態調査を実施している（する予定である）ため
3 ヤングケアラーに関わらず支援が必要な子どもについては保護児童対策地域協議会にてすでに把握しているため
4 実態調査を行わずともヤングケアラーに該当するものはいないと理解しているため
5 調査・支援体制（実態調査実施後の課題への対応を含む）ができていないため
6 担当部署が不明確なため
7 予算を確保することが困難なため
8 その他（具体的に）
9 特に理由はない

回答者：Q3=□2（「関係機関職員研修」実施あり） 改ページ

Q15 MA ここからは2023年9月1日までに実施したことのある「ヤングケアラーに関する関係機関職員研修」についてお伺いします。
1 関係機関職員研修を実施したことのある実施主体を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
2 Q2で回答した、ヤングケアラー支援の主な担当窓口の部門が単独で実施
3 Q2で回答した、ヤングケアラー支援の主な担当窓口の部門が他部門と共同で実施
4 教育部門（教育委員会、学校）が単独で実施
5 教育部門（教育委員会、学校）が他部門と共同で実施
6 その他の部門が実施

回答者：Q15=□1~2（実施済） 改ページ

Q16 MA Q2でお答えいただいたヤングケアラー支援の主な担当窓口の部門が主体となって実施した研修の参加者を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
1 児童福祉担当部局
2 母子保健担当部局
3 介護・高齢者福祉担当部局
4 障害者福祉担当部局
5 生活保護（生活困窮）担当部局（生活保護担当ケースワーカー等）
6 児童相談所（児童福祉司、児童心理司等）
7 児童福祉施設
8 福祉事務所
9 社会福祉協議会
10 民生委員、主任児童委員、児童委員
11 地域包括支援センター（介護支援専門員（ケアマネジャー）等）
12 指定居宅介護支援事業所（介護支援専門員（ケアマネジャー）等）
13 指定訪問介護事業所（訪問介護員（ホームヘルパー）等）
14 基幹相談支援センター（相談支援専門員等）
15 指定特定相談支援事業所（相談支援専門員等）
16 指定障害児相談支援事業所（相談支援専門員等）
17 保健所・保健センター
18 医療機関（医師、保健師、助産師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）
19 教育委員会
20 校長・副校長・教頭
21 教員（養護教諭を含む）
22 スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等の支援スタッフ
23 司法関係機関
24 子ども食堂、学習支援教室等のこどもの居場所となる機関
25 就労支援機関
26 その他支援者団体等
27 住民
28 その他（具体的に）
29 わからない

回答者：Q15=□3~4（実施済） 改ページ

Q17 MA 教育部門（教育委員会、学校）が主体となって実施した研修の参加者を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
1 児童福祉担当部局
2 母子保健担当部局
3 介護・高齢者福祉担当部局
4 障害者福祉担当部局
5 生活保護（生活困窮）担当部局（生活保護担当ケースワーカー等）
6 児童相談所（児童福祉司、児童心理司等）
7 児童福祉施設
8 福祉事務所
9 社会福祉協議会
10 民生委員、主任児童委員、児童委員
11 地域包括支援センター（介護支援専門員（ケアマネジャー）等）
12 指定居宅介護支援事業所（介護支援専門員（ケアマネジャー）等）
13 指定訪問介護事業所（訪問介護員（ホームヘルパー）等）
14 基幹相談支援センター（相談支援専門員等）
15 指定特定相談支援事業所（相談支援専門員等）
16 指定障害児相談支援事業所（相談支援専門員等）
17 保健所・保健センター
18 医療機関（医師、保健師、助産師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）
19 教育委員会
20 校長・副校長・教頭
21 教員（養護教諭を含む）
22 スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等の支援スタッフ
23 司法関係機関
24 子ども食堂、学習支援教室等のこどもの居場所となる機関
25 就労支援機関
26 その他支援者団体等
27 住民
28 その他（具体的に）
29 わからない

回答者：Q3=□3 (「ヤングケアラー・コーディネーターの配置」実施あり)

改ページ

- Q18 MA ここからは「ヤングケアラー・コーディネーターの配置状況」についてお伺いします。
 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの雇用・契約形態（直接雇用/外部委託）を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
1 直接雇用（正規職員） (→配置人数：名)
2 直接雇用（会計年度任用職員、臨時的任用職員） (→配置人数：名)
3 外部委託 (→配置人数：名)
4 その他 () (→配置人数：名)
- Q19 MA 貴自治体におけるヤングケアラー・コーディネーターの出動頻度を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
1 出動日数を週単位で定めている (→週：日)
2 出動日数を月単位で定めている (→月：日)
3 その他 ()
- Q20 MA 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの保有資格及び保有人数について教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
1 社会福祉士 () 名
2 精神保健福祉士 () 名
3 臨床心理士 () 名
4 公認心理師 () 名
5 看護師 () 名
6 保健師 () 名
7 教員（養護教員を含む） () 名
8 児童福祉司 () 名
9 介護支援専門員（ケアマネジャー） () 名
10 介護福祉士 () 名
11 その他 () () 名
12 保有資格を把握していない
- Q21 MA 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターが担っている役割を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
1 相談支援・助言等（地域における関係機関等からの相談に対する助言や適切な福祉サービス等へのつなぎなど）
2 研修の実施（地域の関係機関等を対象に、ヤングケアラーの支援に関する研修等を実施）
3 支援者団体と連携等（こども食堂、学習支援、見守り訪問、家事・育児支援等を行う支援者団体との連携等）
4 関係機関等におけるヤングケアラー支援体制の構築（ヤングケアラーを支援するための体制の構築を図る等）
5 ヤングケアラー支援計画の検討
6 その他 ()
- Q22 SA 貴自治体におけるスクールソーシャルワーカーの配置の有無を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）
1 配置している
2 配置していない

回答者：Q3≠□3 (「ヤングケアラー・コーディネーターの配置」実施なし)

改ページ

- Q23 MA ここからは「ヤングケアラー・コーディネーターの配置状況」についてお伺いします。
 貴自治体でヤングケアラー・コーディネーターを配置していない理由を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
1 ヤングケアラーに該当するものがいない（少ない）ため、配置の必要性を感じない
2 スクールソーシャルワーカーがヤングケアラー・コーディネーターの役割を担っているため
3 支援体制ができていないため
4 担当部署が不明確なため
5 予算を確保することが困難なため
6 その他 ()
7 特に理由はない

回答者：Q3=□4 (「ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）」実施あり)

改ページ

- Q24 MAMT ここからは「ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）」についてお伺いします。
 相談支援において、相談内容（主訴）として多いものは何ですか。（世代別に当てはまるものを3つまで選択）
- | | ①自分のいまの状況について話を聞いてほしい | ②進路や就職など将来の相談にのってほしい | ③家族のお話について相談にのってほしい | ④自分と似たような境遇の人と話したい、聞いてほしい/どのよう生活しているのかわかりたい | ⑤家族の病気のケアのことなどについてわかりやすい説明がほしい | ⑥自分がどのような支援サービスを受けられるか知りたい | ⑦勉強を教えてほしい | ⑧その他（具体的に記入ください） | ⑨わからない |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|---|--------------------------------|----------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| Q24.1 小学生 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| Q24.2 中学生 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| Q24.3 高校生世代 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| Q24.4 若者（19歳世代から30歳世代程度） | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

回答者：Q3=□13

改ページ

- Q25 MA ここからは「自治体における有識者会議の設置（既存の会議体での対応も含む）」についてお伺いします。
 ヤングケアラーに関する有識者会議の設置経緯を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
1 ヤングケアラーに対応するために新規で会議体を設置した
2 既存の会議体にてヤングケアラーにも対応できるようにした
3 その他（具体的に）
- Q26 MA ヤングケアラーに関する有識者会議の構成員を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
1 児童福祉担当部署
2 母子保健担当部署
3 介護・高齢者福祉担当部署
4 障害者福祉担当部署
5 生活保護（生活困難）担当部署（生活保護担当ケースワーカー等）
6 こども・若者の代表者（学生等を含む）
7 元ヤングケアラー
8 学識経験者（大学教授等）
9 児童相談所（児童福祉司、児童心理司等）
10 児童福祉施設
11 福祉事務所
12 社会福祉協議会
13 民生委員、主任児童委員、児童委員
14 地域包括支援センター（介護支援専門員（ケアマネジャー）等）
15 指定居宅介護支援事業所（介護支援専門員（ケアマネジャー）等）
16 指定訪問介護事業所（訪問介護員（ホームヘルパー）等）
17 基幹相談支援センター（相談支援専門員等）
18 指定特定相談支援事業所（相談支援専門員等）
19 指定障害児相談支援事業所（相談支援専門員等）
20 保健所・保健センター
21 医療機関（医師、保健師、助産師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）
22 教育委員会
23 校長・副校長・教頭
24 教員（養護教諭を含む）
25 スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等の支援スタッフ
26 司法関係機関
27 こども食堂、学習支援教室等のこどもの居場所となる機関
28 就労支援機関
29 その他支援者団体等
30 住民（選択肢6、7を除く）
31 その他（具体的に）
32 わからない
- Q27 MA ヤングケアラーに関する有識者会議において、こども・若者の声を聴くための工夫があれば教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
1 有識者会議の構成員にこども・若者が入っている
2 必要に応じて、こども・若者の意見を聞きながら会議を運営している
3 その他（具体的に）
4 今のところ工夫できていない

回答者：Q1=O1（都道府県）

改ページ

Q28 MA 以下のヤングケアラー関連の取組について、市区町村に主導的な役割を期待する取組はどれですか。（当てはまるものをそれぞれ3つまで選択）
 なお、※1、2の事業について、現行制度上の国の予算事業における実施主体に該当しない場合であっても回答可能です。

	一般市区町村に主導的な役割を期待する取組		政令指定都市に主導的な役割を期待する取組	
	1	2	1	2
Q28.1	実態調査・把握	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.2	関係機関職員研修	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.3	ヤングケアラー・コーディネーターの配置	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.5	サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.6	外国語対応通訳支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.7	家事・育児支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.8	配食支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.9	食糧支援（フードバンク）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.10	こども食堂	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.11	ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ※1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.12	広報啓発活動※2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.13	自治体における有識者会議の設置（既存の会議体での対応も含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.14	ショートステイ、トワイライトステイ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.15	外出時の付き添い・同行支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.16	現金給付	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.18	就労支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.19	その他（具体的に	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Q28.20	わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※1 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップは、学校等が把握し市町村の福祉部局等へつないだヤングケアラーの情報を一元的に集計・把握するとともに、ヤングケアラーのその後の生活改善までフォローアップする体制を整備する取組等を指します。
 ※2 広報啓発活動は、ヤングケアラー認知度向上に係る広報啓発等事業を通じ、関係機関・団体や地域住民等へのヤングケアラーに関する意識の向上を図ることにより、ヤングケアラーへの適切な対応に資することを目的とする取組等を指します。

回答者：Q1=O2-5（都道府県以外）

改ページ

Q29 MA 以下のヤングケアラー関連の取組について、都道府県に主導的な役割を期待する取組はどれですか。（当てはまるものを3つまで選択）
 なお、※1、2の事業について、現行制度上の国の予算事業における実施主体に該当しない場合であっても回答可能です。

	都道府県に主導的な役割を期待する取組	
	1	2
Q29.1	実態調査・把握	<input type="checkbox"/>
Q29.2	関係機関職員研修	<input type="checkbox"/>
Q29.3	ヤングケアラー・コーディネーターの配置	<input type="checkbox"/>
Q29.4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	<input type="checkbox"/>
Q29.5	サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	<input type="checkbox"/>
Q29.6	外国語対応通訳支援	<input type="checkbox"/>
Q29.7	家事・育児支援	<input type="checkbox"/>
Q29.8	配食支援	<input type="checkbox"/>
Q29.9	食糧支援（フードバンク）	<input type="checkbox"/>
Q29.10	こども食堂	<input type="checkbox"/>
Q29.11	ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ※1	<input type="checkbox"/>
Q29.12	広報啓発活動※2	<input type="checkbox"/>
Q29.13	自治体における有識者会議の設置（既存の会議体での対応も含む）	<input type="checkbox"/>
Q29.14	ショートステイ、トワイライトステイ	<input type="checkbox"/>
Q29.15	外出時の付き添い・同行支援	<input type="checkbox"/>
Q29.16	現金給付	<input type="checkbox"/>
Q29.17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	<input type="checkbox"/>
Q29.18	就労支援	<input type="checkbox"/>
Q29.19	その他（具体的に	<input type="checkbox"/>
Q29.20	わからない	<input type="checkbox"/>

※1 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップは、学校等が把握し市町村の福祉部局等へつないだヤングケアラーの情報を一元的に集計・把握するとともに、ヤングケアラーのその後の生活改善までフォローアップする体制を整備する取組等を指します。
 ※2 広報啓発活動は、ヤングケアラー認知度向上に係る広報啓発等事業を通じ、関係機関・団体や地域住民等へのヤングケアラーに関する意識の向上を図ることにより、ヤングケアラーへの適切な対応に資することを目的とする取組等を指します。

回答者：全員

改ページ

Q30 MA 貴自治体が行うヤングケアラー支援において、以下の中で特に効果的と考えられる取組がありましたら教えてください。（当てはまるものを3つまで選択）

- 1 都道府県・市区町村等との連携
- 2 福祉部門や教育部門（教育委員会、学校）との連携
- 3 民間団体等との連携
- 4 個人情報の取扱い
- 5 国の予算事業の活用
- 6 若者（19歳世代から30歳世代程度）のニーズ把握や支援
- 7 ヤングケアラー本人や家族に対する支援
- 8 その他（具体的に
- 9 今のところ、特に効果的と考えられる取組はできていない

上記で選択した項目について、具体的な内容を教えてください。（任意）

回答者：全員

改ページ

【ヤングケアラー本人、家族を対象としたアンケート調査へのご協力可否について】
 Q31 SA 本調査研究では、ヤングケアラー支援の効果的取組に関する研究を進めており、今後、ヤングケアラー本人、家族を対象としたアンケート調査を予定しています
 (調査期間：2023年10月23日(月)～11月24日(金) 予定)。
 ヤングケアラー本人、家族に対してアンケート調査のご案内及び回答のサポートについて、ご協力いただくことは可能でしょうか。
 以下の項目から当てはまるものを1つ選択してください。
 ○1 ヤングケアラー本人、家族に対するアンケートへの協力が可能
 ○2 ヤングケアラー本人に対するアンケートについてのみ協力が可能
 ○3 ヤングケアラーの家族に対するアンケートについてのみ協力が可能
 ○4 どちらともいえない
 ○5 協力ができない

【ヤングケアラー本人に対するアンケート調査概要】

対象： ヤングケアラー本人(1自治体につき、小学生、中学生、高校生世代、若者世代(19歳世代から30歳世代程度)の4世代でそれぞれ最大3名ずつ)
 ※必ずしもヤングケアラーに特化した支援の利用者に限るものではありません。
 ※協力可能な年代や人数のみのご協力でも構いませんので是非ご協力をお願いします(必ずしもすべての年代・人数への調査にご協力いただく必要はございません)。
 方法： 【小学生】 郵送調査
 【高校生世代、若者世代】 Web調査
 留意点： 小中学生については、心理的、労力的負担を軽減できるよう、ことも本人からの同意を得た上で、地方自治体の担当者がアンケートを代理で回答いただきますようお願いいたします。(20問程度)
 その際、貴所にて予め記載できる箇所を埋めていただき、本人に聞かないとわからない質問のみを本人にお尋ねいただくようお願いいたします。
 また、万が一、心理的なケアの必要性が生じた際には、適宜ご本人へのサポートをお願いいたたく存じます。

【ヤングケアラー家族に対するアンケート調査概要】

対象： ヤングケアラーの家族(1自治体につき、小学生、中学生、高校生世代、若者世代(19歳世代から30歳世代程度)の4世代の子どもを持つ家族、それぞれ最大3名ずつ)
 方法： Web調査
 <貴自治体が家族の連絡先を知っている場合>
 メールにて調査専用サイトのURLを記した依頼状を送付する。
 <貴自治体が家族の連絡先を知らない場合>
 こともを經由しての案内が可能な場合は、家族に対する調査専用サイトのURLを記した依頼状を、こともを介して案内することの協力を求める。

【ヤングケアラー本人、家族を対象としたインタビューへのご協力可否について】
 Q32 SA 本調査研究では、ヤングケアラーのご本人及びご家族の方に、支援を受けたことによる影響等に関するインタビュー(オンラインにより1時間程度、2023年12月～2024年1月頃実施予定)をお願いしたいと考えています。
 ヤングケアラーのご本人及びご家族の方の調整を地方自治体の皆様をお願いいたたく存じますが、インタビューのご調整に係るご相談をさせていただくことは可能でしょうか。(当てはまるものを1つ選択)
 なお、ご協力いただけました際はインタビュー対象者に対して薄謝を進呈いたします。
 ○1 ヤングケアラー本人、家族に対するインタビューへの協力が可能
 ○2 ヤングケアラー本人に対するインタビューについてのみ協力が可能
 ○3 ヤングケアラーの家族に対するインタビューについてのみ協力が可能
 ○4 どちらともいえない
 ○5 協力ができない

【地方自治体を対象としたインタビューへのご協力可否について】
 Q33 SA 本調査研究では、ヤングケアラー支援の効果的取組に関する研究を進めており、今後、本アンケートで回答いただいた内容を踏まえたインタビューを予定しています
 (オンラインにより1時間程度、2023年12月～2024年1月頃実施予定)。
 インタビューではヤングケアラー支援において意識している点や、都道府県、市区町村との役割分担の状況等について伺いする予定ですが、このインタビューにご協力いただくことは可能でしょうか。
 以下の項目から当てはまるものを1つ選択してください。
 ○1 協力してもよい
 ○2 どちらともいえない
 ○3 協力ができない

回答者：Q31=Q1～3

改ページ

【ヤングケアラー本人、家族を対象としたアンケート調査へのご協力可能年代及び人数の想定について】
 Q34 MA ヤングケアラー本人、家族を対象としたアンケート調査について、協力可能だと想定される年代及び人数を教えてください。(当てはまるものすべてを選択)
 (調査期間：2023年10月23日(月)～11月24日(金) 予定)。
 □1 ヤングケアラー本人(小学生) →想定される協力可能人数()人
 □2 ヤングケアラー本人(中学生) →想定される協力可能人数()人
 □3 ヤングケアラー本人(高校生世代) →想定される協力可能人数()人
 □4 ヤングケアラー本人(若者世代) →想定される協力可能人数()人
 □5 ヤングケアラーの家族(小学生の子どもを持つ家族) →想定される協力可能人数()人
 □6 ヤングケアラーの家族(中学生の子どもを持つ家族) →想定される協力可能人数()人
 □7 ヤングケアラーの家族(高校生世代の子どもを持つ家族) →想定される協力可能人数()人
 □8 ヤングケアラーの家族(若者世代の子どもを持つ家族) →想定される協力可能人数()人

【ヤングケアラー本人に対するアンケート調査概要(再掲)】

対象： ヤングケアラー本人(1自治体につき、小学生、中学生、高校生世代、若者世代(19歳世代から30歳世代程度)の4世代でそれぞれ最大3名ずつ)
 ※必ずしもヤングケアラーに特化した支援の利用者に限るものではありません。
 ※協力可能な年代や人数のみのご協力でも構いませんので是非ご協力をお願いします(必ずしもすべての年代・人数への調査にご協力いただく必要はございません)。
 方法： 【小学生】 郵送調査
 【高校生世代、若者世代】 Web調査
 留意点： 小中学生については、心理的、労力的負担を軽減できるよう、ことも本人からの同意を得た上で、地方自治体の担当者がアンケートを代理で回答いただきますようお願いいたします。(20問程度)
 その際、貴所にて予め記載できる箇所を埋めていただき、本人に聞かないとわからない質問のみを本人にお尋ねいただくようお願いいたします。
 また、万が一、心理的なケアの必要性が生じた際には、適宜ご本人へのサポートをお願いいたたく存じます。

【ヤングケアラー家族に対するアンケート調査概要(再掲)】

対象： ヤングケアラーの家族(1自治体につき、小学生、中学生、高校生世代、若者世代(19歳世代から30歳世代程度)の4世代の子どもを持つ家族、それぞれ最大3名ずつ)
 方法： Web調査
 <貴自治体が家族の連絡先を知っている場合>
 メールにて調査専用サイトのURLを記した依頼状を送付する。
 <貴自治体が家族の連絡先を知らない場合>
 こともを經由しての案内が可能な場合は、家族に対する調査専用サイトのURLを記した依頼状を、こともを介して案内することの協力を求める。

回答者：全員

改ページ

Q35 FA 貴自治体の情報について、ご回答ください。
 ※数値は半角でご入力ください。
 ※電話番号は、半角数字にてハイフンを除いて入力してください。

都道府県名	
所在地都道府県名	
市区町村名	
部署名	
ご担当者名	
連絡先 (TEL)	
連絡先 (Email)	

本アンケートへのご協力ありがとうございました。
 (アンケートへの回答はExcelではなく上記アンケートサイトよりお願いいたします。)

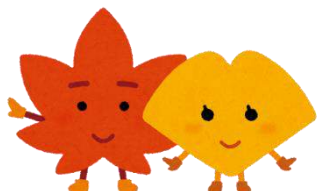
回答いただく前に（支援団体、地方自治体など大人の方へ）

16歳未満のこどもがこのアンケートに回答する場合、保護者もしくは責任のある成人の方（支援団体や行政の支援スタッフの方など）の同意が必要です。こどもが回答することに同意する場合は、以下のチェックボックスにチェックを入れてください。（当該チェックボックスへのチェックがない場合も、アンケートのご提出をもって、同意いただいたものとさせていただきます。）

こどもがアンケートに回答することに同意する
（同意する場合はチェックをお願いします）

【このアンケートへの答え方】

1. 答えは、それぞれの問いの後のあてはまる番号に○をつけてください。
2. 「その他」に○をした場合は、（ ）の中に自分で考えた答えを書いてください。
3. （あてはまる番号すべてに○）と書いてある問いは、あてはまると思った番号すべてに○をつけてください。
4. 答えたくない問いがあった場合、その問いには答えず、次の問いに進んでもかまいません。
5. このアンケートに答えることで、あなた個人が誰なのか特定されたり、あなたの家族に連絡が行ったりすることはありません。安心してお答えください。



きょうりょく
ご協力を
ねが
お願いします



1. あなたが使ったことのあるサービスのこと

あなたが支援サービスを利用している団体もしくは自治体について教えてください。

Q1. このアンケートの案内はどこでもらいましたか。もらった団体もしくは自治体の名前を教えてください。

()

Q4. 上のQ3で答えた支援サービスを利用してよかったと感じる理由を教えてください。
(あてはまる番号すべてに○)

1. お世話の負担が減った
2. これまでより、よいお世話をしあられるようになった
3. 体の調子がよくなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）
4. こころの負担が減った
5. 孤独感（自分は一人きりだと感じるこゝろ）が減った
6. 自分のために使える時間が増えた
7. 将来のことを考える時間やきっかけができた
8. 学校や勉強に集中できるようになった（学校に行けるようになった）
9. お金に関する不安が減った
10. お世話を必要とする家族のこゝろが、よりわかるようになった
11. 自分と家族の仲がよくなった
12. その他（ ）

上で選んだ理由について、どんな支援サービスを利用し、自分や家族にどんな変化があったかなど、具体的な内容を教えてください。（書くことがなければ、書かずに次の質問に進んでください）

(自分の変化)

(家族の変化)

Q5. あなたはQ3で答えた支援サービスをおおよそどのくらいの頻度で利用しましたか。
(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. ほとんど毎日 | 6. 2～3か月に1回くらい |
| 2. 週に2、3回くらい | 7. 2～3か月に1回よりも少ない |
| 3. 週に1回くらい | (1回しか利用していない場合を含む) |
| 4. 月に2、3回くらい | 8. わからない |
| 5. 月に1回くらい | |

Q6. あなたはQ3で答えた支援サービスをおおよそどのくらいの期間利用しましたか。
(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|-----------------------------|---------------|
| 1. 1回だけ利用した | 5. 6か月以上～1年未満 |
| 2. 1か月未満
(1回だけの利用の場合を除く) | 6. 1年以上～2年未満 |
| 3. 1か月以上～3か月未満 | 7. 2年以上 |
| 4. 3か月以上～6か月未満 | 8. わからない |

Q7. 支援サービスについて、「ここを変えてほしい」、「こういうサービスがほしい」ということなどがあれば、自由に書いてください。

Q8. このアンケートの案内をもらった団体もしくは自治体の支援サービス以外に、お世話を必要とする家族のことなどで、他の人にしてもらってうれしかったことがあれば、自由に書いてください(相談に乗ってもらってうれしかった、なども含みます)。

2. あなたのこと

Q9. あなたの学年を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

1. 小学1年生	6. 小学6年生
2. 小学2年生	7. 中学1年生
3. 小学3年生	8. 中学2年生
4. 小学4年生	9. 中学3年生
5. 小学5年生	

Q10. あなたの性別を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

1. 男	3. その他
2. 女	4. 答えたくない

Q11. あなたと一緒に住んでいるのは誰ですか。（あてはまる番号すべてに○）

1. お母さん	5. 兄 → () 人
2. お父さん	6. 姉 → () 人
3. おばあさん	7. 弟 → () 人
4. おじいさん	8. 妹 → () 人
	9. その他 ()

3. 家族へのお世話のこと

Q12. あなたのお世話を必要としている人はどなたですか。（あてはまる番号すべてに○）

1. お母さん	4. おじいさん
2. お父さん	5. きょうだい
3. おばあさん	6. その他 ()

→ 「1. お母さん」「2. お父さん」を選んだ人はQ13-①へ

→ 「3. おばあさん」「4. おじいさん」を選んだ人はQ13-②へ

→ 「5. きょうだい」を選んだ人はQ13-③へ

→ 「6. その他」を選んだ人はQ13-④へ

※お世話をしている人が何人いる場合には、それぞれについてお答えください。

Q13. お世話を必要としている人の状況について教えてください。

Q13-① お母さん、あるいはお父さんをお世話している人にお聞きします。

お母さん、あるいはお父さんへのお世話が必要な理由を教えてください。

（あてはまる番号すべてに○）

- | | |
|-------------------------|--------------------------------------|
| 1. 高齢（65歳以上） | 8. 依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている） |
| 2. 介護（食事や身の回りのお世話）が必要 | ※ 疑い含む |
| 3. 認知症 | 9. 7、8以外の病気 |
| 4. 身体障がい | 10. 日本語が苦手 |
| 5. 知的障がい | 11. その他（ ） |
| 6. 発達障がい ※ 疑い含む | 12. わからない |
| 7. こころの病気（うつ病など） ※ 疑い含む | |

Q13-② おばあさん、あるいはおじいさんをお世話している人にお聞きします。

おばあさん、あるいはおじいさんへのお世話が必要な理由を教えてください。

（あてはまる番号すべてに○）

- | | |
|-------------------------|--------------------------------------|
| 1. 高齢（65歳以上） | 8. 依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている） |
| 2. 介護（食事や身の回りのお世話）が必要 | ※ 疑い含む |
| 3. 認知症 | 9. 7、8以外の病気 |
| 4. 身体障がい | 10. 日本語が苦手 |
| 5. 知的障がい | 11. その他（ ） |
| 6. 発達障がい ※ 疑い含む | 12. わからない |
| 7. こころの病気（うつ病など） ※ 疑い含む | |

Q13-③ きょうだいをお世話している人にお聞きします。

きょうだいへのお世話が必要な理由を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

- | | |
|-------------------------|--------------------------------------|
| 1. 若い | 7. 依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている） |
| 2. 介護（食事や身の回りのお世話）が必要 | ※ 疑い含む |
| 3. 身体障がい | 8. 6、7以外の病気 |
| 4. 知的障がい | 9. 日本語が苦手 |
| 5. 発達障がい ※ 疑い含む | 10. その他（ ） |
| 6. こころの病気（うつ病など） ※ 疑い含む | 11. わからない |

Q13-④ 「その他」の人をお世話している人にお聞きします。

「その他」の人へのお世話が必要な理由を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

- | | |
|-------------------------|--------------------------------------|
| 1. 高齢（65歳以上） | 8. 依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている） |
| 2. 若い | ※ 疑い含む |
| 3. 介護（食事や身の回りのお世話）が必要 | 9. 7、8以外の病気 |
| 3. 認知症 | 10. 日本語が苦手 |
| 4. 身体障がい | 11. その他（ ） |
| 5. 知的障がい | 12. わからない |
| 6. 発達障がい ※ 疑い含む | |
| 7. こころの病気（うつ病など） ※ 疑い含む | |

Q14. あなたはお世話が必要な家族にどのようなお世話をしていますか。お世話をする人が何人かいる場合には、あてはまる番号すべてに○をしてください。

- | | |
|--------------------|----------------------------------|
| 1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯） | 9. 通訳（日本語や手話など） |
| 2. 入浴やトイレのお世話 | 10. お金の管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど） |
| 3. 買い物や散歩に一緒に行く※ | 11. 薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど） |
| 4. 病院へ一緒に行く※ | 12. きょうだいのお世話や送り迎え |
| 5. 病院などにいる家族に会いに行く | 13. その他（ ） |
| 6. 医療的なお世話（痰の吸引など） | |
| 7. 話を聞く（感情面のサポート） | |
| 8. 見守り | |

※（支援団体、地方自治体など大人の方へ）こどもが幼いなどの理由で、こどもを家などに一人で残しておけないために、やむを得ずこどもと一緒にいることが明らかな場合など、世話や見守りとは言えないものは、選択肢3、4には○をしないようにお願いします。

Q15. あなたはどのくらいお世話をしていますか。（あてはまる番号1つに○）

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 4. 1か月に数日 |
| 2. 週に3～5日 | 5. その他（ ） |
| 3. 週に1～2日 | |

Q16. あなたは平日に何時間くらいお世話をしていますか。（日によって違う場合は、この1か月の中でいちばん長かった日の時間を教えてください。）（あてはまる番号1つに○）

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 1時間未満 | 4. 5時間以上～7時間未満 |
| 2. 1時間以上～3時間未満 | 5. 7時間以上 |
| 3. 3時間以上～5時間未満 | |

アンケートにご協力いただき、どうもありがとうございました。

家族のお世話をすることは、とても価値のある大切なことです。ただ、お世話の負担が大きいと気持ちや体力の面で大変な思いをすることがあるかもしれません。あなた自身、あるいは友達などで、家族のお世話をすることで悩みや心配なことがある場合には、支援サービスを利用している団体や自治体、学校の先生や、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーへ相談してください。

■ヤングケアラー本人（高校生世代以上）に対するアンケート調査票

子ども・若者向けの支援団体/自治体のサービスに関するアンケート（高校生世代以上用）
ご協力をお願い（所要時間：15分程度）

子ども家庭庁 子ども・子育て支援等推進調査研究事業事務局
(有限責任監査法人トーマツ)

- このアンケートは、学校や家庭で抱える悩みや困りごとなどをみなさんに呼びかけ、支援団体や行政がみなさんに提供するサービスをよりよくすることにつなげるために行うものです（学校に通っていないに関わらずご回答いただけます）。
- このアンケートにご回答いただくのはみなさんの自由です。ご回答いただくがなくても、あなたが利用するサービスに影響することはありません。また、あなたの回答内容が支援団体や行政の方々に見られることはありません。
- このアンケートは無記名で行い、回答内容はすべて統計的に処理しますので、あなた個人が特定されたり、外部に知られたりすることはありません（ただし、無記名のため、一度ご送信いただいた（送信ボタンを押した）後は、回答内容の修正・取り消しはできません）。ご回答いただいた内容は、厳重に保管し、このアンケートや関連する調査研究事業、学術研究の目的以外には使用いたしませんので、安心して回答してください。
- みなさんの回答の一つ一つが大事な意見であり、よりよいサービスを検討していくためにも、できるだけ多くの方のご意見をお聞きしたいと考えています。ぜひこのアンケートへのご協力をお願いします。

(※)報告書は令和5年度末を目途に、当法人及び子ども家庭庁ホームページにて公開を予定しております

回答期日 **令和5年(2023年)11月17日(金)まで**
回答はこちらから <https://rsch.jp/eqt3/?chi-you>
(アンケートへの回答はPDFではなく上記アンケートサイトよりお願いいたします。)

【ご回答にあたってのお願い】

- このアンケートへの協力に同意していただく場合のみ、ご回答ください。
- アンケートは携帯電話またはパソコン等をお使いいただき、インターネット上でご回答ください。
- 回答は、選択肢から選ぶ場合と、数字や具体的な内容をご入力いただく場合があります。設問文の注意書きに従ってご回答ください。
- このアンケートの回答は、一時保存ができません。回答を途中で中断する場合は、その時点までの回答が保存されませんので、最後までご回答いただくか、改めて初めからご回答をお願いいたします。なお、回答は1人1回限りです。
- 集計結果を含めた報告書は、個人の回答が特定できないよう編集した上で、当法人ウェブサイトなどで公表します。

【アンケートに関するお問合せ先】

子ども家庭庁 子ども・子育て支援等推進調査研究事業事務局
(有限責任監査法人トーマツ RA事業本部 ヘルスケア関東東葉美野、木村健太郎、平岡晃)
電話番号：03-6213-1660（受付時間：平日 10時～17時）
メールアドレス：jimukyoku@tohmatsums.co.jp

回答者：全員

改ページ

16才未満の方の回答には、保護者もしくは責任のある成人の方の同意が必要です。
2023年10月1日現在、あなたが<16才未満>である場合は、保護者もしくは責任のある成人の方（支援団体や行政の支援スタッフの方など）に今回のアンケート案内を確認してもらい、回答の同意をもらってください。

- SA 1 16歳以上のため同意は不要
2 16歳未満であり、同意をもらった

回答者：全員

改ページ

- Q1 SA あなたの学年/年齢を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）
1 高校1年生世代（2007年4月2日～2008年4月1日生まれ）
2 高校2年生世代（2006年4月2日～2007年4月1日生まれ）
3 高校3年生世代（2005年4月2日～2006年4月1日生まれ）
4 19才世代（2004年4月2日～2005年4月1日生まれ）
5 20才世代（2003年4月2日～2004年4月1日生まれ）
6 21才世代（2002年4月2日～2003年4月1日生まれ）
7 22才世代（2001年4月2日～2002年4月1日生まれ）
8 23才世代～25才世代（1998年4月2日～2001年4月1日生まれ）
9 26才世代以上（おおむね30才世代まで）（おおむね1993年4月2日～1998年4月1日生まれ）

- Q2 MA あなたの現在の就学・就業状況等を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
1 学生・生徒（予備校生などを含む）
2 正規の社員・職員・従業員
3 非正規の社員・職員・従業員（パート・アルバイトを含む）
4 その他（具体的に)
5 就学・就業はしていない

回答者：Q2=□1

改ページ

- Q3 SA 現在在学している学校を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）
1 高等学校（全日制高校）
2 高等学校（定時制高校）
3 専修学校・専門学校
4 高等専門学校・短期大学
5 大学・大学院
6 その他（具体的に)

回答者：全員

改ページ

- Q4 SA あなたの性別を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）
1 男
2 女
3 その他
4 答えたくない
- Q5 SA あなたが住んでいる都道府県はどこですか。（当てはまるものを1つ選択）
※都道府県名プルダウン
- Q6 SA あなたの現在の住まい方を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）
1 家族と同居
2 一人暮らし
3 寮
4 その他（具体的に)

回答者：06=〇1

改ページ

- Q7 MA あなたが現在一緒に住んでいる家族について教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
- 1 母親
 - 2 父親
 - 3 兄（人）
 - 4 姉（人）
 - 5 弟（人）
 - 6 妹（人）
 - 7 祖母
 - 8 祖父
 - 9 曾祖母
 - 10 曾祖父
 - 11 叔母
 - 12 叔父
 - 13 あなたの配偶者・パートナー
 - 14 あなたの子
 - 15 いとこ
 - 16 甥、姪
 - 17 母親のパートナー
 - 18 父親のパートナー
 - 19 その他（具体的に）

回答者：全員

改ページ

- Q8 SA 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。（ここでの「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることです。）（当てはまるものを1つ選択）
- 1 現在いる
 - 2 現在はいるが、過去にいた

- Q9 MA あなたのお世話を必要としている人はどなたですか。（当てはまるものすべてを選択）
※現在お世話を必要としている人がいない場合は、過去にお世話を必要としていた人について教えてください。
- 1 母親
 - 2 父親
 - 3 祖母
 - 4 祖父
 - 5 きょうだい
 - 6 その他（具体的に）

回答者：全員

改ページ

- Q10 MAMT お世話を必要としている方の状況を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
※現在お世話を必要としている人がいない場合は、過去にお世話を必要としていた人について教えてください。

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
①高齢（65歳以上）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②若い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③要介護（介護が必要な状態）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④認知症	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤身体障がい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥知的障がい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦発達障がい（疑いを含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧精神疾患（疑いを含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑いを含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ ⑧、⑨以外の病氣	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪日本語が苦手、わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫その他（具体的に）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- Q11 MAMT あなたが行っているお世話の内容を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
※現在お世話を必要としている人がいない場合は、過去にお世話を必要としていた人について教えてください。

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
①家事（食事の準備や掃除、洗濯）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②きょうだいの世話や保育所等への送迎など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④外出の付き添い（買い物、散歩など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤通院の付き添い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥入院や入所をしている家族との面会	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨見守り	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩通訳（日本語や手話など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪金銭管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫家計支援（家族のためにバイトで働くなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑭その他（具体的に）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

回答者：全員

改ページ

- Q12 SA あなたはどのくらいの頻度でお世話をしていますか。（当てはまるものを1つ選択）
※現在お世話を必要としている人がいない場合は、過去にお世話を必要としていた人がいたときのことを教えてください。
- 1 ほぼ毎日
 - 2 週に3～5日
 - 3 週に1～2日
 - 4 1か月に数日
 - 5 その他（具体的に）

- Q13 SA 平日にお世話は何時間程度行っていますか。（日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間を教えてください）（当てはまるものを1つ選択）
※現在お世話を必要としている人がいない場合は、過去にお世話を必要としていた人がいたときのことを教えてください。
- 1 1時間未満
 - 2 1時間以上3時間未満
 - 3 3時間以上5時間未満
 - 4 5時間以上7時間未満
 - 5 7時間以上

回答者：全員

改ページ

- Q14 FA ここからはあなたが支援を受けている団体や自治体について伺います。
このアンケートの案内はどこからきましたか。案内のあった団体や自治体の名前を教えてください。

- Q15 MA Q14の支援団体や自治体の支援サービスを知ったきっかけを教えてください。
- 1 学校からの紹介
 - 2 家族からの紹介
 - 3 友達からの紹介
 - 4 支援団体や自治体のホームページ（インターネット検索）
 - 5 SNS
 - 6 その他（具体的に）

- Q16 MA Q14の支援団体や自治体の支援サービスを利用したきっかけを教えてください。
- 1 相談しやすい雰囲気があるから
 - 2 悩んでいることについて詳しくうさだから
 - 3 親身になって話を聞いてくれそうだから
 - 4 悩みを解決してくれそうだから
 - 5 同じ悩みを持っている仲間に出会えそうだから
 - 6 相談しやすい場所にある（いる）から
 - 7 いつでも電話やメールで相談のつてくれそうだから
 - 8 その他（具体的に)
- Q17 MA Q14の支援団体や自治体が行う支援サービスについてお聞きします。
あなたは次のうち、どのような支援サービスを利用していますか（していましたか）。（当てはまるものすべてを選択）
※選択肢の内容が難しい場合は、あなたにこのアンケートを渡した人に聞いてみてください。
- 1 お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談
 - 2 家事やお世話の代行、手伝い
 - 3 外出時の付き添い
 - 4 勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）
 - 5 食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）
 - 6 こども食堂
 - 7 居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）
 - 8 就労支援
 - 9 その他（具体的に)

回答者：全員 改ページ

- Q18 SA これまでに利用したことのある支援サービスのうち、利用してよかったと一番感じるものはどれですか。（当てはまるものを1つ選択）
- 1 お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談
 - 2 家事やお世話の代行、手伝い
 - 3 外出時の付き添い
 - 4 勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）
 - 5 食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）
 - 6 こども食堂
 - 7 居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）
 - 8 就労支援
 - 9 その他（具体的に)
 - 10 利用してよかったと感じた支援サービスはない

回答者：Q18=○1～9（いずれかが該当あり） 改ページ

- Q19 MA 支援サービスを利用してよかったと感じる理由を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
※これまでにいくつかの支援サービスを利用したことがある場合は、利用してよかったと一番感じるサービスについて教えてください。
- 1 お世話の負担が減った
 - 2 以前よりよいお世話をしあられるようになった
 - 3 体の調子がよくなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）
 - 4 精神的な負担、ストレスが減った
 - 5 孤独感が減った
 - 6 自分のために使える時間が増えた
 - 7 将来について考える時間やきっかけができた
 - 8 学校や勉強、仕事に集中できるようになった（学校に行けるようになった）
 - 9 経済的な不安が減った
 - 10 お世話を必要とする家族の状況をより理解できるようになった
 - 11 自分と家族の仲がよくなった
 - 12 その他（具体的に)
- 上記で選択した項目について、どのような支援サービスを利用し、自分や家族にどのような変化があったかなど、具体的な内容を教えてください。（任意）
- (自分の変化)
- (家族の変化)

- Q20 SA あなたはその支援サービスをおおよそどのくらいの頻度で利用しましたか。（当てはまるものを1つ選択）
※これまでにいくつかの支援サービスを利用したことがある場合は、利用してよかったと一番感じるサービスについて教えてください。
- 1 ほぼ毎日
 - 2 週に2、3回程度
 - 3 週に1回程度
 - 4 月に2、3回程度
 - 5 月に1回程度
 - 6 2～3か月に1回程度
 - 7 2～3か月に1回未満（利用回数か1回のみの場合を含む）
 - 8 わからない

- Q21 SA あなたはその支援サービスをおおよそどのくらいの期間利用しましたか。（当てはまるものを1つ選択）
※これまでにいくつかの支援サービスを利用したことがある場合は、利用してよかったと一番感じるサービスについて教えてください。
- 1 1回のみ利用
 - 2 1か月未満（1回のみ利用の場合を除く）
 - 3 1か月～3か月未満
 - 4 3か月～6か月未満
 - 5 6か月～1年未満
 - 6 1年～2年未満
 - 7 2年以上
 - 8 わからない

回答者：Q8=○2 and Q18=○1～9（いずれかが該当あり） 改ページ

- Q22 SA 現在、家族の中にあなたがお世話をしている人はいないものの、過去にいた、という人にお聞きします。
その支援サービスを受けたのはあなたがおおよそ何才くらいの時ですか。（当てはまるものを1つ選択）
※これまでにいくつかの支援サービスを利用したことがある場合は、利用してよかったと一番感じるサービスについて教えてください。
- 1 小学生の時
 - 2 中学生の時
 - 3 高校生の世代の時
 - 4 19～25才の時
 - 5 26才以降

回答者：全員 改ページ

- Q23 支援サービスについて、「ここを変えてほしい」、「こういうサービスがほしい」ということなどがあれば、教えてください。（任意）

- Q24 このアンケートの案内をもらった団体もしくは自治体の支援サービス以外に、お世話を必要とする家族のことなどで、他の人にしてもらってうれしかったことがあれば、その理由とともに教えてください。（相談に乗ってもらってうれしかった、なども含む）（任意）

- Q25 国や各地域において、家族のお世話をすることも、若者への支援の必要性などを広く大勢の方に知っていただくための広報活動に取り組んでいます（動画やポスターの作成など）。
その際、自分が「いやな気持ち、後ろ向きな気持ち」や「よい気持ち、前向きな気持ち」になるような内容・方法・表現などで思いつくことがあれば、教えてください。（任意）

(いやな気持ち、後ろ向きな気持ちになる内容・方法・表現など)

(よい気持ち、前向きな気持ちになる内容・方法・表現など)

本アンケートへのご協力ありがとうございました。

■ヤングケアラーの家族に対するアンケート調査票

子ども・若者及びそのご家族向けの支援団体/自治体のサービスに関するアンケート（ご家族様用）
ご協力をお願い（所要時間：15分程度）

子ども家庭庁 子ども・子育て支援等推進調査研究事業事務局
 （有限責任監査法人トーマツ）

介護や看病が必要なご家族を抱えながら、あるいは保護者の方自身が病気が障がいを抱えながら子育てをしている場合は多くあります。このような場合には、子どもにお世話を手伝わってもらわないとならないということもあるかもしれません。このアンケートは、そういった場合に、保護者の方や子どもたちが重すぎる負担を抱え込まず、よりよい生活を送ることができるようにするためには、支援団体や行政はどのようなサービスを提供できるのか、そして、どのようなサービスが効果的なのかを検討し、今後のサービスのさらなる充実につなげるためのものです。

このアンケートへの回答は任意です。ご回答いただかなくても、みなさまが利用されるサービスに影響することはありません。また、みなさまのご回答内容を支援団体の方たちが見ることもありません。このアンケートは無記名で行い、回答内容はすべて統計的に処理しますので、個人が特定されたり、情報が外部に漏洩したりすることはありません（ただし、無記名のため、一度ご送信いただいた（送信ボタンを押した）後は、回答内容の修正・取り消しはできません）。ご回答いただいた内容は、厳重に保管し、このアンケートや関連する調査研究事業、学術研究の目的以外には使用いたしませんので、安心してご回答ください。

みなさまの回答の一つ一つが今後のサービス改善を考える上で重要な意見であり、可能な限り多くの方のご意見をうかがいたいと考えております。ぜひこのアンケートへのご協力をお願いいたします。

（※）報告書は令和5年度末を目途に、当法人及び子ども家庭庁ホームページにて公開を予定しております

回答期日 **令和5年（2023年）11月17日（金）まで**
 回答はこちらから <https://rsch.jp/eqt1/?fami>
 （アンケートへの回答はPDFではなく上記アンケートサイトよりお願いいたします。）

【ご回答にあたってのお願い】

- > このアンケートへの協力に同意してくださる場合のみ、ご回答ください。
- > アンケートは携帯電話またはパソコン等をお使いいただき、インターネット上でご回答ください。
- > 回答は、選択肢から選ぶ場合と、数字や具体的な内容をご入力いただく場合があります。設問文の注意書きに従ってご回答ください。
- > このアンケートの回答は、一時保存ができません。回答を途中で中断する場合は、その時点までの回答が保存されませんので、最後までご回答いただくか、改めて初めからご回答をお願いいたします。なお、回答は1人1回限りです。
- > 集計結果を含めた報告書は、個人の回答が特定できないように編集した上で、当法人ウェブサイトなどで公表します。

【アンケートに関するお問合せ先】

子ども家庭庁 子ども・子育て支援等推進調査研究事業事務局
 （有限責任監査法人トーマツ RA事業本部 ヘルスケア関東菜美野、木村健太郎、平岡晃）
 電話番号：03-6213-1660（受付時間：平日 10時～17時）
 メールアドレス：jimukyoku@tohatsu.co.jp

回答者：全員

改ページ

- Q1 SA このアンケートはどこから案内がありましたか。（当てはまるものを1つ選択）
- O1 あなた、もしくはあなたのご家庭にいる子どもが、支援・サービスを利用したことがある団体や自治体から案内を受け取った（→団体/自治体名）
- O2 子どもからアンケートの案内を受け取った
- ※「子ども」には30歳程度までの若者を含みます。

回答者：Q1=O2

改ページ

- Q2 SA 子どもがアンケートの案内を受けた団体や自治体名を知っていますか。（当てはまるものを1つ選択）
- O1 はい（→団体/自治体名）
- O2 いいえ

回答者：Q1=O1

改ページ

ここから先の質問では、あなたのご家庭にいる「子ども」についてお聞きするものがあります。
 「子ども」が複数いる場合は、家族のお世話やサポートをする機会が多い「子ども」について、ご回答をお願いします。

- Q3-1 SA あなたと、このアンケートでいう「子ども」との関係性について、子ども本人からみた続柄を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）
- O1 母親
- O2 父親
- O3 祖母
- O4 祖父
- O5 兄・姉
- O6 弟・妹
- O7 その他（具体的に）
- ※「子ども」には30歳程度までの若者を含みます。

回答者：Q1=O2

改ページ

ここから先の質問では、あなたのご家庭にいる「子ども」についてお聞きするものがあります。
 その際は、このアンケートの案内をあなたに渡した「子ども」について、ご回答をお願いします。

- Q3-2 SA あなたと、このアンケートでいう「子ども」との関係性について、子ども本人からみた続柄を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）
- O1 母親
- O2 父親
- O3 祖母
- O4 祖父
- O5 兄・姉
- O6 弟・妹
- O7 その他（具体的に）
- ※「子ども」には30歳程度までの若者を含みます。

回答者：全員			改ページ
Q4	SA	<p>子どもの学年/年齢を教えてください。(当てはまるものを1つ選択)</p> <p><input type="radio"/> O1 小学1年生(2016年4月2日～2017年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O2 小学2年生(2015年4月2日～2016年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O3 小学3年生(2014年4月2日～2015年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O4 小学4年生(2013年4月2日～2014年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O5 小学5年生(2012年4月2日～2013年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O6 小学6年生(2011年4月2日～2012年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O7 中学1年生(2010年4月2日～2011年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O8 中学2年生(2009年4月2日～2010年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O9 中学3年生(2008年4月2日～2009年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O10 高校1年生世代(2007年4月2日～2008年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O11 高校2年生世代(2006年4月2日～2007年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O12 高校3年生世代(2005年4月2日～2006年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O13 19才世代(2004年4月2日～2005年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O14 20才世代(2003年4月2日～2004年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O15 21才世代(2002年4月2日～2003年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O16 22才世代(2001年4月2日～2002年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O17 23才世代～25才世代(1998年4月2日～2001年4月1日生まれ)</p> <p><input type="radio"/> O18 26才世代以上(おおむね30才世代まで)(おおむね1993年4月2日～1998年4月1日生まれ)</p>	
回答者：Q4=O10～18(いずれかが該当あり)			改ページ
Q5	MA	<p>子どもの現在の就学・就業状況等を教えてください。(当てはまるものすべてを選択)</p> <p><input type="checkbox"/> O1 学生・生徒(予備校生などを含む)</p> <p><input type="checkbox"/> O2 正規の社員・職員・従業員</p> <p><input type="checkbox"/> O3 非正規の社員・職員・従業員(パート・アルバイトを含む)</p> <p><input type="checkbox"/> O4 その他(具体的に)</p> <p><input type="checkbox"/> O5 就学・就業はしていない</p>	
回答者：Q5=O1			改ページ
Q6	SA	<p>子どもが現在在学している学校を教えてください。(当てはまるものを1つ選択)</p> <p><input type="checkbox"/> O1 高等学校(全日制高校)</p> <p><input type="checkbox"/> O2 高等学校(定時制高校)</p> <p><input type="checkbox"/> O3 専修学校・専門学校</p> <p><input type="checkbox"/> O4 高等専門学校・短期大学</p> <p><input type="checkbox"/> O5 大学・大学院</p> <p><input type="checkbox"/> O6 その他(具体的に)</p>	
回答者：全員			改ページ
Q7	SA	<p>子どもの性別を教えてください。(当てはまるものを1つ選択)</p> <p><input type="radio"/> O1 男</p> <p><input type="radio"/> O2 女</p> <p><input type="radio"/> O3 その他</p> <p><input type="radio"/> O4 答えたくない</p>	
Q8	SA	<p>子どもが住んでいる都道府県はどこですか。(当てはまるものを1つ選択)</p> <p>※都道府県名フルダウソ</p>	
Q9	SA	<p>子どもの現在の住まい方を教えてください。(当てはまるものを1つ選択)</p> <p><input type="radio"/> O1 家族と同居</p> <p><input type="radio"/> O2 一人暮らし</p> <p><input type="radio"/> O3 寮</p> <p><input type="radio"/> O4 その他(具体的に)</p>	
回答者：Q9=O1			改ページ
Q10	MA	<p>子どもの現在の同居家族について、子ども本人からみた関係性(子どもとの続柄)を教えてください。(当てはまるものすべてを選択)</p> <p><input type="checkbox"/> O1 母親</p> <p><input type="checkbox"/> O2 父親</p> <p><input type="checkbox"/> O3 兄()人)</p> <p><input type="checkbox"/> O4 姉()人)</p> <p><input type="checkbox"/> O5 弟()人)</p> <p><input type="checkbox"/> O6 妹()人)</p> <p><input type="checkbox"/> O7 祖母</p> <p><input type="checkbox"/> O8 祖父</p> <p><input type="checkbox"/> O9 曾祖母</p> <p><input type="checkbox"/> O10 曾祖父</p> <p><input type="checkbox"/> O11 叔母</p> <p><input type="checkbox"/> O12 叔父</p> <p><input type="checkbox"/> O13 配偶者・パートナー</p> <p><input type="checkbox"/> O14 子ども(子どもの子ども)</p> <p><input type="checkbox"/> O15 いとこ</p> <p><input type="checkbox"/> O16 甥、姪</p> <p><input type="checkbox"/> O17 母親のパートナー</p> <p><input type="checkbox"/> O18 父親のパートナー</p> <p><input type="checkbox"/> O19 その他(具体的に)</p>	
回答者：全員			改ページ
Q11	SA	<p>ご家族の中に子どもからのお世話やサポートを必要としている人はいますか(ここでの「お世話」とは、家事や看病、生活上の世話を指します)。(当てはまるものを1つ選択)</p> <p><input type="radio"/> O1 現在いる</p> <p><input type="radio"/> O2 現在はいるが、過去にいた</p>	
Q12	MA	<p>子どもからのお世話やサポートを必要としている人はどなたですか。子ども本人からみた関係性(子どもとの続柄)を教えてください。(当てはまるものすべてを選択)</p> <p>※現在お世話やサポートを必要としている人がいない場合は、過去にお世話やサポートを必要としていた人について教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/> O1 母親</p> <p><input type="checkbox"/> O2 父親</p> <p><input type="checkbox"/> O3 祖母</p> <p><input type="checkbox"/> O4 祖父</p> <p><input type="checkbox"/> O5 きょうだい</p> <p><input type="checkbox"/> O6 その他(具体的に)</p>	

回答者：全員

改ページ

Q13 MAMT 子どもがお世話やサポートをしている人について、お世話やサポートを必要としている理由を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
※現在お世話をしている人がいない場合は、過去にお世話をしていた人について教えてください。

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
①高齢（65歳以上）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②若い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③要介護（介護が必要な状態）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④認知症	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤身体障がい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥知的障がい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦発達障がい（疑いを含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧精神疾患（疑いを含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑いを含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ ⑥、⑦以外の病気	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪日本語が苦手、わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫その他（具体的に）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q14 MAMT 子どもが行っているお世話やサポートの内容を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
※現在お世話やサポートを必要としている人がいない場合は、過去にお世話やサポートを必要としていた人について教えてください。

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
①家事（食事前の準備や掃除、洗濯）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②きょうだいの世話や保育所等への送迎など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④外出の付き添い（買い物、散歩など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤通院の付き添い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥入院や入所をしている家族との面会	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨見守り	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩通訳（日本語や手話など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪金銭管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫家計支援（家族のためにバイトで働くなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑭その他（具体的に）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

回答者：全員

改ページ

Q15 SA 子どもはどのくらいの頻度でお世話やサポートをしていますか。（当てはまるものを1つ選択）
※現在、お世話やサポートを必要としている人がいない場合は、過去にお世話やサポートを必要としていた人がいたときのことを教えてください。

- 1 ほほ毎日
- 2 週に3~5日
- 3 週に1~2日
- 4 1か月に数日
- 5 その他（具体的に）

Q16 SA 子どもは平日1日にどのくらいの時間お世話をしていますか。（日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間を教えてください）（当てはまるものを1つ選択）
※現在、お世話やサポートを必要としている人がいない場合は、過去にお世話やサポートを必要としていた人がいたときのことを教えてください。

- 1 1時間未満
- 2 1時間以上3時間未満
- 3 3時間以上5時間未満
- 4 5時間以上7時間未満
- 5 7時間以上

回答者：全員

改ページ

Q17 MA 子ども、またはあなたがこのアンケートの案内を受けた団体や自治体について伺います。（当てはまるものすべてを選択）
その団体や自治体が提供する支援サービスを利用している（したことがある）人はどなたですか。

- 1 子ども
- 2 子どもがお世話やサポートをしている家族
- 3 子どもがお世話やサポートをしている家族以外の家族
- 4 わからない

回答者：Q17=○1

改ページ

Q18 MA 子どもは、その団体や自治体のどのような支援サービスを利用していますか（していましたか）。（当てはまるものすべてを選択）

- 1 お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしている子ども自身についての相談
- 2 家事やお世話の代行、手伝い
- 3 外出時の付き添い
- 4 勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）
- 5 食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）
- 6 子ども食堂
- 7 居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）
- 8 就労支援
- 9 その他（具体的に）
- 10 わからない

回答者：Q17=○1

改ページ

Q19 SA 子どもが利用したことのある支援サービスのうち、ご家族の立場からみて、子どもがサービスを利用してよかったと感じるものはどれですか。（当てはまるものを1つ選択）

- 1 お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしている子ども自身についての相談
- 2 家事やお世話の代行、手伝い
- 3 外出時の付き添い
- 4 勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）
- 5 食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）
- 6 子ども食堂
- 7 居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）
- 8 就労支援
- 9 その他（具体的に）
- 10 子どもが支援サービスを利用してよかったと感じたことはない
- 11 わからない

回答者：Q19=〇1～9 (いずれかが該当あり)

改ページ

- Q20 MA 子どもが支援サービスを利用してよかったと感じる理由を教えてください。(当てはまるものすべてを選択)
 ※これまでにいくつかの支援サービスを利用したことがある場合は、利用してよかったと一番感じるサービスについて教えてください。
- 〇1 子どものお世話の負担が減った
 - 〇2 子どもが以前よりよいお世話をできるようになった
 - 〇3 子ども体の調子がよくなった
 - 〇4 子どもの精神的な負担、ストレスが減ったように感じる
 - 〇5 子どもの孤独感が減ったように感じる
 - 〇6 子どもが自分のために使える時間が増えた
 - 〇7 子どもが自分の将来について考える時間やきっかけができた
 - 〇8 子どもが学校や勉強、仕事に集中できるようになった
 - 〇9 子どもがお世話やサポートをしている家族の負担が減った(家事や気持ちの負担を含む)
 - 〇10 子どもがお世話やサポートをしている家族の体調がよくなった
 - 〇11 子どもがお世話やサポートをしている家族の状況をより理解できるようになった
 - 〇12 経済的な不安が減った
 - 〇13 家族の仲がよくなった
 - 〇14 その他(具体的に)

上記で選択した項目について、どのような支援サービスを利用し、子どもや家族にどのような変化があったかなど、具体的な内容を教えてください。(任意)

(子どもの変化)
(家族の変化)

- Q21 SA 子どもはその支援サービスをおおよそどのくらいの頻度で利用しましたか。(当てはまるものを1つ選択)
 ※これまでにいくつかの支援サービスを利用したことがある場合は、利用してよかったと一番感じるサービスについて教えてください。
- 〇1 ほぼ毎日
 - 〇2 週に2、3回程度
 - 〇3 週に1回程度
 - 〇4 月に2、3回程度
 - 〇5 月に1回程度
 - 〇6 2～3か月に1回程度
 - 〇7 2～3か月に1回未満(利用回数が1回のみの場合を含む)
 - 〇8 わからない

- Q22 SA 子どもはその支援サービスをおおよそどのくらいの期間利用しましたか。(当てはまるものを1つ選択)
 ※これまでにいくつかの支援サービスを利用したことがある場合は、利用してよかったと一番感じるサービスについて教えてください。
- 〇1 1回のみ利用
 - 〇2 1か月未満(1回のみ利用の場合を除く)
 - 〇3 1か月～3か月未満
 - 〇4 3か月～6か月未満
 - 〇5 6か月～1年未満
 - 〇6 1年～2年未満
 - 〇7 2年以上
 - 〇8 わからない

回答者：Q11=〇2 and Q19=〇1～9 (いずれかが該当あり)

改ページ

- Q23 SA 子どもからのお世話やサポートを必要としている人が、現在はいないもの、過去にいた、という人にお聞きします。
 子どもがその支援サービスを受けたのは子どもがおおよそ何才くらいの時ですか。(当てはまるものを1つ選択)
 ※これまでにいくつかの支援サービスを利用したことがある場合は、利用してよかったと一番感じるサービスについて教えてください。
- 〇1 小学生の時
 - 〇2 中学生の時
 - 〇3 高校生の世代の時
 - 〇4 19～25才の時
 - 〇5 26才以降

回答者：Q17=〇2～3 (いずれかが該当あり)

改ページ

- Q24 MA ご家族の方が利用した支援サービスについて伺います。
 その団体や自治体のどのような支援サービスを利用していますか(していましたか)。(当てはまるものすべてを選択)
- 〇1 お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしている子どものことについての相談
 - 〇2 家事やお世話の代行、お手伝い
 - 〇3 外出時の付き添い
 - 〇4 食事に関する支援(お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く)
 - 〇5 子ども食堂
 - 〇6 居場所、サロン(他の人たちと一緒に話をしたりできる場所)
 - 〇7 就労支援
 - 〇8 通訳などの日本語対応に関する支援
 - 〇9 その他(具体的に)
 - 〇10 わからない

回答者：Q24=〇1～9 (いずれかが該当あり)

改ページ

- Q25 SA ご家族の方が利用したことのある支援サービスのうち、利用してよかったと一番感じるものはどれですか。(当てはまるものを1つ選択)
- 〇1 お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしている子どものことについての相談
 - 〇2 家事やお世話の代行、お手伝い
 - 〇3 外出時の付き添い
 - 〇4 食事に関する支援(お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く)
 - 〇5 子ども食堂
 - 〇6 居場所、サロン(他の人たちと一緒に話をしたりできる場所)
 - 〇7 就労支援
 - 〇8 通訳などの日本語対応に関する支援
 - 〇9 その他(具体的に)
 - 〇10 ご家族の方が支援サービスを利用してよかったと感じたことはない
 - 〇11 わからない

回答者：025=01~9 (いずれかが該当あり)

改ページ

- 026 MA ご家族の方が支援サービスを利用してよかったと感じる理由を教えてください。(当てはまるものすべてを選択)
※これまでにいくつかの支援サービスを利用したことがある場合は、利用してよかったと一番感じるサービスについて教えてください。
- 01 ご家族の方の家事負担が減った
 - 02 ご家族の方の時間的な余裕ができた
 - 03 ご家族の方の体の調子がよくなった
 - 04 ご家族の方の精神的負担、ストレスが減った
 - 05 ご家族の方の孤独感が減った
 - 06 こどもの将来についてのご家族の方の不安が減った
 - 07 経済的な不安が減った
 - 08 家族の仲がよくなった
 - 09 こどものお世話の負担が減った
 - 10 こどもが以前よりよいお世話をできるようになった
 - 11 こどもの体の調子がよくなった
 - 12 こどもの精神的負担、ストレスが減ったように感じる
 - 13 こどもの孤独感が減ったように感じる
 - 14 こどもが自分のために使える時間が増えた
 - 15 こどもが学校や勉強、仕事に集中できるようになった(学校に行けるようになった)
 - 16 その他(具体的に)

上記で選択した項目について、どのような支援サービスを利用し、こどもや家族にどのような変化があったかなど、具体的な内容を教えてください。(任意)

(こどもの変化)

(家族の変化)

- 027 SA ご家族の方はその支援サービスをおおよそどのくらいの頻度で利用しましたか。(当てはまるものを1つ選択)
※これまでにいくつかの支援サービスを利用したことがある場合は、利用してよかったと一番感じるサービスについて教えてください。
- 01 ほぼ毎日
 - 02 週に2、3回程度
 - 03 週に1回程度
 - 04 月に2、3回程度
 - 05 月に1回程度
 - 06 2~3か月に1回程度
 - 07 2~3か月に1回未満(利用回数が1回のみを含む)
 - 08 わからない

- 028 SA ご家族の方はその支援サービスをおおよそどのくらいの期間利用しましたか。(当てはまるものを1つ選択)
※これまでにいくつかの支援サービスを利用したことがある場合は、利用してよかったと一番感じるサービスについて教えてください。
- 01 1回のみ利用
 - 02 1か月未満(1回のみ利用の場合を除く)
 - 03 1か月~3か月未満
 - 04 3か月~6か月未満
 - 05 6か月~1年未満
 - 06 1年~2年未満
 - 07 2年以上
 - 08 わからない

回答者：011=02 and 025=01~9 (いずれかが該当あり)

改ページ

- 029 SA こどもからのお世話やサポートを必要としている人が、現在はいないものの、過去にいた、という人にお聞きします。
ご家族の方がその支援サービスを受けたのはこどもがおおよそ何才くらいの時ですか。(当てはまるものを1つ選択)
※これまでにいくつかの支援サービスを利用したことがある場合は、利用してよかったと一番感じるサービスについて教えてください。
- 01 小学生の時
 - 02 中学生の時
 - 03 高校生の世代の時
 - 04 19~25才の時
 - 05 26才以降

回答者：全員

改ページ

- 030 支援サービスについて、「ここを変えてほしい」、「こういうサービスがほしい」ということなどがあれば、教えてください。(任意)

- 031 国や各地域において、家族のお世話をすることも・若者への支援の必要性などを広く大勢の方に知っていただくための広報活動に取り組んでいます(動画やポスターの作成など)。その際、自分やこどもが「いやな気持ち、後ろ向きな気持ち」や「よい気持ち、前向きな気持ち」になるような内容・方法・表現などで思いつくことがあれば、教えてください。(任意)

(いやな気持ち、後ろ向きな気持ちになる内容・方法・表現など)

(よい気持ち、前向きな気持ちになる内容・方法・表現など)

本アンケートへのご協力ありがとうございました。

■支援団体に対するアンケート調査票

(ヤングケアラー支援団体向け)
「ヤングケアラーへの支援に関するアンケート調査」ご協力をお願い (所要時間：15分程度)

こども家庭庁 子ども・子育て支援等推進調査研究事務局
(有限責任監査法人トーマツ)

有限責任監査法人トーマツでは、令和5年度こども家庭庁 子ども・子育て支援等推進調査研究事業として「ヤングケアラー支援の効果的取組に関する調査研究」を行っております。この事業は、ヤングケアラーやそのご家族に対してこれまで行われてきた支援等の取組がどのような効果をもたらしたかを確認することで、ヤングケアラー支援の更なる充実・改善の一助にすることを旨とするものです。
なお、このアンケートは、本事業で設置した有識者委員会の委員からの助言を踏まえつつ、ヤングケアラー支援に係る地方自治体の事業を行うヤングケアラー支援団体等から対象を選定し、ご案内しています。
ご回答内容は、集計等の処理を行った上で本事業において参考情報とさせていただきます。また、事業報告書で紹介させていただく場合がございますが、回答者様が特定される形で公表されることはございません。また、ご回答内容はこの事業の目的以外には使用せず、取扱いに十分注意いたします。
皆様におかれましては、ご多用の折大変恐れますが、アンケートにご協力いただけますと幸いです。

(※)報告書は令和5年度末を以て、当法人及びこども家庭庁ホームページにて公開を予定しております

回答期日 **令和5年11月17日(金)まで**
回答はこちらから <https://rsch.jp/eqt3/?org>
(アンケートへの回答はPDFではなく上記アンケートサイトよりお願いいたします。)

【アンケートに関するお問合せ先】
こども家庭庁 子ども・子育て支援等推進調査研究事務局
(有限責任監査法人トーマツ RA事業本部 ヘルスケア園東菜美野、木村健太郎、平岡晃)
電話番号：03-6213-1660 (受付時間：平日 10時～17時)
メールアドレス： jimukyoku@tohmatu.co.jp

回答者：全員

改ページ

Q1 FA 貴団体名称を教えてください。 ()

Q2 SA, FA 貴団体の主たる事務所の所在地を教えてください。(当ではまるものを1つ選択)
※都道府県名ブルダウ 市/区/町/村 (ブルダウ)

Q3 MAMT ヤングケアラー及びそのご家族等が利用可能な支援サービスについて、2023年9月1日時点で貴団体が提供したことがあるものを教えてください
(支援サービスはヤングケアラーのみが利用できるものに限らず、ヤングケアラーではないこども等も広く利用できるものを含みます)。(当ではまるものすべてを選択)

1 相談支援
2 ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む) 同士の交流の場の提供
3 外国語対応通訳支援
4 家事・育児支援
5 配食支援
6 食糧支援(フードバンク)
7 こども食堂
8 ショートステイ、トワイライトステイ
9 外出時の付き添い・同行支援
10 現金給付
11 学習支援(フリースクール、家庭教師を含む)
12 就労支援
13 その他(具体的に)
14 特になし

※ 入学卒業支援(進路支援を含む)等、選択肢に記載の内容以外にヤングケアラー関連の支援サービスがあれば教えてください。
※ 過年度に実施した支援サービスも含みます。

回答者：Q3=Q1-3、5 (いずれかに該当あり)

改ページ

Q4 MAMT ヤングケアラー及びそのご家族等が利用可能な支援サービスについて、2023年9月1日時点で貴団体が提供したことがあるものの、具体的な内容を教えてください
(支援サービスはヤングケアラーのみが利用できるものに限らず、ヤングケアラーではないこども等も広く利用できるものを含みます)。(当ではまるものすべてを選択)

Q4.1	相談支援		
Q4.2	相談窓口での対面相談	<input type="checkbox"/>	
Q4.3	電話相談	<input type="checkbox"/>	
Q4.4	オンライン相談	<input type="checkbox"/>	
Q4.4	SNS相談	<input type="checkbox"/>	
Q4.5	アウトリーチ(訪問による相談支援)	<input type="checkbox"/>	
Q4.6	元当事者による相談支援(ピアサポート)	<input type="checkbox"/>	
Q4.7	ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む)同士の交流の場の提供		
Q4.8	オンラインサロン	<input type="checkbox"/>	
Q4.8	対面のサロン(リアルイベントを含む)	<input type="checkbox"/>	
Q4.9	外国語対応通訳支援		
Q4.10	通訳者の配置	<input type="checkbox"/>	
Q4.10	遠隔通訳	<input type="checkbox"/>	
Q4.11	翻訳機の整備	<input type="checkbox"/>	
Q4.12	その他(具体的に)	<input type="checkbox"/>	
Q4.13	配食支援		
Q4.14	(支援対象) ヤングケアラー本人	<input type="checkbox"/>	
Q4.14	ヤングケアラー本人の同居家族	<input type="checkbox"/>	
Q4.15	支援を受ける際に上記を選択可能	<input type="checkbox"/>	
Q4.16	その他(具体的に)	<input type="checkbox"/>	

※ 過年度に実施した支援サービスも含みます。

回答者：Q3=Q1-13 (いずれかに該当あり)

改ページ

Q5 MA ヤングケアラーが利用可能な支援サービスのうち、2023年9月1日時点で地方自治体の事業(委託事業、補助事業を含む)として実施したことがあるものはありますか。(当ではまるものすべてを選択)

1 相談支援
2 ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む) 同士の交流の場の提供
3 外国語対応通訳支援
4 家事・育児支援
5 配食支援
6 食糧支援(フードバンク)
7 こども食堂
8 ショートステイ、トワイライトステイ
9 外出時の付き添い・同行支援
10 現金給付
11 学習支援(フリースクール、家庭教師を含む)
12 就労支援
13 その他(具体的に)
14 自治体の事業として実施しているものはない

回答者：Q3=Q1-13 (いずれかに該当あり)

改ページ

Q6 対象者の年代別で、ヤングケアラー本人との関わり始めの段階における支援(支援の受け入れられやすさや、信頼関係の構築につながるなど)として、最も効果的だと考える支援サービスの内容を教えてください。(年代毎に最も当てはまるものを1つ選択)

	①相談窓口での対面相談	②電話相談	③オンライン相談	④SNS相談	⑤アウトリーチ(訪問による相談支援)	⑥元当事者による相談支援(ピアサポート)	⑦オンラインサロン	⑧対面のサロン(リアルイベントを含む)	⑨通訳者の配置	⑩遠隔通訳	⑪翻訳機の整備	⑫外国語対応通訳支援その他
小学生	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
中学生	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
高校生世代	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
若者(19歳世代から30歳世代程度)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

	⑬家事・育児支援	⑭配食支援	⑮食糧支援(フードバンク)	⑯こども食堂	⑰ショートステイ、トワイライトステイ	⑱外出時の付き添い・同行支援	⑲現金給付	⑳学習支援(フリースクール、家庭教師を含む)	㉑就労支援	㉒その他	㉓当該年代の利用者が少ないため不明
小学生	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
中学生	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
高校生世代	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
若者(19歳世代から30歳世代程度)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

回答者：Q3=□1-13 (いずれかに該当あり)
07 SAMT

改ページ

	Q7 Q6で選択した支援サービスについて、ヤングケアラー本人等にとって、どのような面で最も効果的だと考えますか。また、その具体的な内容を教えてください。 (年代毎に最も当てはまるものを1つ選択)				Q7-1 Q7で選択した内容について、具体的に教えてください。
	①心身の健康面	②生活面	③家族関係	④その他	
小学生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
中学生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
高校生世代	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
若者(19歳世代から30歳世代程度)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

回答者：Q3=□1-13 (いずれかに該当あり)
08 SAMT

改ページ

	Q8 対象者の年代別で、ヤングケアラー本人との関わりを持ち始めて以降、ヤングケアラー本人の抱える負担の軽減を目指す段階における支援として、最も効果的だと考える支援サービスの内容を教えてください。 (年代毎に当てはまるものを1つ選択)											
	①相談窓口での対面相談	②電話相談	③オンライン相談	④SNS相談	⑤アウトリーチ(訪問による相談支援)	⑥元当事者による相談支援(ピアサポート)	⑦オンラインサロン	⑧対面のサロン(リアルイベントを含む)	⑨通訳者の配置	⑩遠隔通訳	⑪翻訳機の整備	⑫外国語対応通訳支援 その他
小学生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
中学生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
高校生世代	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
若者(19歳世代から30歳世代程度)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

	⑬家事・育児支援	⑭配食支援	⑮食糧支援(フードバンク)	⑯こども食堂	⑰ショートステイ、ワイライステイ	⑱外出時の付き添い・同行支援	⑲現金給付	⑳学習支援(フリースクール、家庭教師を含む)	㉑就労支援	㉒その他	㉓当該年代のサービス利用者が少ないため不明
小学生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
中学生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
高校生世代	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
若者(19歳世代から30歳世代程度)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

回答者：Q3=□1-13 (いずれかに該当あり)
09 SAMT

改ページ

	Q9 Q8で選択した支援サービスについて、ヤングケアラー本人等にとって、どのような面で最も効果的だと考えますか。また、その具体的な内容を教えてください。 (年代毎に最も当てはまるものを1つ選択)				Q9-1 Q9で選択した内容について、具体的に教えてください。
	①心身の健康面	②生活面	③家族関係	④その他	
小学生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
中学生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
高校生世代	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
若者(19歳世代から30歳世代程度)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

回答者：Q3=□1-13 (いずれかに該当あり)
010 MA

改ページ

- 貴団体の支援サービスを利用するヤングケアラーがお世話をする対象の方の状況として多いものを教えてください。(当てはまるものを3つまで選択)
- (3つまで)1 高齢(65歳以上)
2 幼い
3 要介護(介護が必要な状態)
4 認知症
5 身体障がい
6 知的障がい
7 発達障がい(疑いを含む)
8 精神疾患(疑いを含む)
9 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)
10 ⑧、⑨以外の病氣
11 日本語が苦手、わからない
12 その他(具体的に)

回答者：Q3=□1-13 (いずれかに該当あり)
011 SA

改ページ

	Q11 お世話を必要としている方の状況別で、最も効果的だと考える支援サービスの内容を教えてください。(状況毎に当てはまるものを1つ選択) ※Q10で選択した3つの状況について回答いただく											
	①相談窓口での対面相談	②電話相談	③オンライン相談	④SNS相談	⑤アウトリーチ(訪問による相談支援)	⑥元当事者による相談支援(ピアサポート)	⑦オンラインサロン	⑧対面のサロン(リアルイベントを含む)	⑨通訳者の配置	⑩遠隔通訳	⑪翻訳機の整備	⑫外国語対応通訳支援 その他
①高齢(65歳以上)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
②幼い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
③要介護(介護が必要な状態)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
④認知症	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑤身体障がい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑥知的障がい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑦発達障がい(疑いを含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑧精神疾患(疑いを含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑨依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑩ ⑧、⑨以外の病氣	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑪日本語が苦手、わからない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑫その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

	⑬家事・育児支援	⑭配食支援	⑮食糧支援(フードバンク)	⑯こども食堂	⑰ショートステイ、ワイライステイ	⑱外出時の付き添い・同行支援	⑲現金給付	⑳学習支援(フリースクール、家庭教師を含む)	㉑就労支援	㉒その他
①高齢(65歳以上)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
②幼い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
③要介護(介護が必要な状態)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
④認知症	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑤身体障がい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑥知的障がい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑦発達障がい(疑いを含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑧精神疾患(疑いを含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑨依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑩ ⑧、⑨以外の病氣	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑪日本語が苦手、わからない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑫その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

回答者：Q3=□1-13 (いずれかに該当あり)
Q12 SAMT

改ページ

	Q12 Q11で選択した支援サービスについて、ヤングケアラー本人等にとって、どのような面で最も効果的だと考えますか。また、その具体的な内容を教えてください。 (状況毎に最も当てはまるものを1つ選択)				Q12-1 Q12で選択した内容について、具体的に教えてください。
	①心身の健康面	②生活面	③家族関係	④その他	
①高齢 (65歳以上)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
②若い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
③要介護 (介護が必要な状態)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
④認知症	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑤身体等が重い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑥知的障がい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑦発達障がい (疑いを含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑧精神疾患 (疑いを含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑨依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑩ ⑥、⑨以外の病気	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑪日本語が苦手、わからない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑫その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

回答者：Q3=□1-13 (いずれかに該当あり)

改ページ

- Q13 MA 貴団体における支援サービス提供にあたって、特に重要と考えていることを教えてください。(当てはまるものを3つまで選択)
- 1 子どもがおかれている環境を把握すること
 - 2 子どもの様子をよく観察し、話を聞くこと
 - 3 子どもの興味・関心に合わせた会話をすること
 - 4 保護者との信頼関係を築くこと
 - 5 関係機関と連携し、多面的に支援を行うこと
 - 6 支援につなげることを焦らない
 - 7 その他 (具体的に)

Q14 FA Q13で選択した内容について、具体的に教えてください。

Q15 SA ヤングケアラーへの支援サービス提供にあたって課題となることはどのようなことですか。(最も当てはまるものを1つ選択)

- 1 スタッフ不足
- 2 施設、必要な物品等の不足
- 3 運営資金不足
- 4 支援ノウハウの不足
- 5 外部関係機関との連携・ネットワークの不足
- 6 個人情報の取扱い
- 7 その他 (具体的に)
- 8 特になし

Q16 FA Q15で選択した内容について、具体的に教えてください。

Q17 FA ヤングケアラー支援において地方自治体に求めること、その他、地方自治体のヤングケアラー支援に係る事業について、改善してほしい点などがありましたらご自由にご記入ください。

回答者：Q3=□1-13 (いずれかに該当あり)
【インタビューへのご協力可否について】

改ページ

- Q18 SA 本調査研究では、アンケートにご協力いただいた方の中から数名に、ヤングケアラーへの支援に関するインタビュー (オンラインにより1時間程度、2023年12月～2024年1月頃実施予定) をお願いしたいと考えています。インタビューにご協力いただくことは可能でしょうか。(当てはまるものを1つ選択)
なお、ご協力いただけました際はインタビュー対象者に薄謝を進呈いたします。
- 1 協力してもよい
 - 2 どちらともいえない
 - 3 協力できない
- Q19 SA 本調査研究では、ヤングケアラー本人及びご家族の方にも、支援を受けたことによる影響等に関するインタビュー (オンラインにより1時間程度、2023年12月～2024年1月頃実施予定) をお願いしたいと考えています。ヤングケアラーのご本人及びご家族の方との調整を支援団体の皆様にお願いたく存じますが、インタビューのご調整に係るご相談をさせていただくことは可能でしょうか。(当てはまるものを1つ選択)
なお、ご協力いただけました際はインタビュー対象者に薄謝を進呈いたします。
- 1 ヤングケアラー本人、家族に対するインタビューへの協力に関する相談が可能
 - 2 ヤングケアラー本人に対するインタビューについてのみ協力に関する相談が可能
 - 3 ヤングケアラーの家族に対するインタビューについてのみ協力に関する相談が可能
 - 4 どちらともいえない
 - 5 協力できない

回答者：全員

改ページ

Q20 FA 回答者情報
※数値は半角でご入力ください。
※電話番号は、半角数字にてハイフンを除いて入力してください。

部署名	
ご担当者名	
連絡先 (TEL)	
連絡先 (Email)	

本アンケートへのご協力ありがとうございました。

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q1 貴自治体の種別を教えてください。（単数回答）

		回答数	%
全体		1221	100.0
1	都道府県	47	3.8
2	政令指定都市	20	1.6
3	中核市	58	4.8
4	特別区	23	1.9
5	一般市町村	1073	87.9
6	無回答	0	0.0

Q2 貴自治体におけるヤングケアラー支援の主な担当窓口はどちらですか。（単数回答）

		回答数	%
全体		1221	100.0
1	児童福祉部門	925	75.8
2	教育部門（教育委員会、学校）	43	3.5
3	母子保健部門	31	2.5
4	高齢者福祉部門	5	0.4
5	障害福祉部門	10	0.8
6	生活保護担当部門	2	0.2
7	政策部門	2	0.2
8	重層的支援体制	20	1.6
9	主な担当窓口が定まっていない	128	10.5
10	その他	55	4.5
11	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q3 2021年度に、「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム」において、今後取り組むべき施策（「早期発見・把握」、「支援策の推進」、「社会的認知度の向上」）を取りまとめました。貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、2023年9月1日時点で実施したことがある、もしくは実施中のものを教えてください。（複数回答）

全体		回答数	%
	全体	1221	100.0
1	実態調査・把握（既存の各種調査に、ヤングケアラーに係る設問を追加するなどの対応を含む）	351	28.7
2	関係機関職員研修	405	33.2
3	ヤングケアラー・コーディネーターの配置	117	9.6
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	95	7.8
5	サロン（（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	38	3.1
6	外国語対応通訳支援	24	2.0
7	家事・育児支援	198	16.2
8	配食支援	56	4.6
9	食糧支援（フードバンク）	127	10.4
10	こども食堂	166	13.6
11	ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ※1	98	8.0
12	広報啓発活動※2	529	43.3
13	自治体における有識者会議の設置（既存の会議体での対応も含む）	99	8.1
14	ショートステイ、トワイライトステイ	109	8.9
15	外出時の付き添い・同行支援	16	1.3
16	現金給付	3	0.2
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	83	6.8
18	就労支援	26	2.1
19	その他※3	104	8.5
20	ヤングケアラー関連の取組は特にない	376	30.8
21	無回答	0	0.0

※1 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップは、学校等が把握し市町村の福祉部局等へつないだヤングケアラーの情報を一元的に集計・把握するとともに、ヤングケアラーのその後の生活改善までフォローアップする体制を整備する取組等を指します。

※2 広報啓発活動は、ヤングケアラー認知度向上に係る広報啓発等事業を通じ、関係機関・団体や地域住民等へのヤングケアラーに関する意識の向上を図ることにより、ヤングケアラーへの適切な対応に資することを目的とする取組等を指します。

※3 入学卒業支援（進路支援を含む）等、選択肢に記載の取組以外にヤングケアラー関連の取組があれば教えてください。

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q4_1

貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、Q3で回答いただいた支援のうち、最初に支援を始めてから2023年9月1日時点までの経過年数を教えてください。なお、ヤングケアラー関連の取組が特にない場合は「0年0ヶ月」とご回答ください。（数値回答）

		回答数	%
全体		1221	100.0
1	0ヶ月	430	35.2
2	0ヶ月超1年未満	159	13.0
3	1年以上2年未満	334	27.4
4	2年以上3年未満	173	14.2
5	3年以上4年未満	28	2.3
6	4年以上5年未満	18	1.5
7	5年以上7年未満	30	2.5
8	7年以上10年未満	17	1.4
9	10年以上15年未満	15	1.2
10	15年以上	17	1.4
11	無回答	0	0.0

平均値	1.6年
最小値	0.0年
最大値	27.4年

Q5

Q3のほかに、ヤングケアラー本人や家族がよく利用するサービスを教えてください。（複数回答）

		回答数	%
全体		1221	100.0
1	放課後等デイサービスなどの療育機関の利用	182	14.9
2	障害福祉サービスの計画相談支援（親子とも）	251	20.6
3	生活保護制度	282	23.1
4	訪問看護	140	11.5
5	精神保健相談	131	10.7
6	母子生活支援施設への入所	5	0.4
7	母子家庭支援制度、貸付	69	5.7
8	生活困窮者貸付	104	8.5
9	地域包括支援センターへの相談	109	8.9
10	介護保険制度	112	9.2
11	教育相談や不登校相談	322	26.4
12	児童思春期外来	19	1.6
13	発達相談	92	7.5
14	その他	261	21.4
15	ヤングケアラーと思われるこどもがいないため特になし	445	36.4
16	無回答	8	0.7

Q6 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、具体的な取組内容を教えてください。（複数回答）

（ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等））

		回答数	%
全体		95	100.0
1	相談窓口での対面相談	76	80.0
2	電話相談	79	83.2
3	オンライン相談	26	27.4
4	SNS相談	47	49.5
5	アウトリーチ（訪問による相談支援）	41	43.2
6	元当事者による相談支援（ピアサポート）	18	18.9
7	無回答	0	0.0

（サロン（（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む））

		回答数	%
全体		38	100.0
1	オンラインサロン	29	76.3
2	対面のサロン（リアルイベントを含む）	24	63.2
3	無回答	0	0.0

（外国語対応通訳支援）

		回答数	%
全体		24	100.0
1	通訳者の配置	9	37.5
2	遠隔通訳	6	25.0
3	翻訳機の整備	10	41.7
4	その他	7	29.2
5	無回答	0	0.0

（配食支援）

		回答数	%
全体		56	100.0
1	ヤングケアラー本人	36	64.3
2	ヤングケアラー本人の同居家族	34	60.7
3	支援を受ける際に「ヤングケアラー本人」、「ヤングケアラー本人の同居家族」を選択可能	10	17.9
4	その他	7	12.5
5	無回答	4	7.1

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q7 貴自治体が行うオンラインサロンにおいて、以下の中で特に効果的と考えられる取組がありましたら教えてください。（複数回答）

		回答数	%
全体		29	100.0
1	参加者の募集	8	27.6
2	運営方法	10	34.5
3	その他	5	17.2
4	今のところ、特に効果的と考えられる取組はできていない	9	31.0
5	無回答	1	3.4

Q8 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施しているものはありますか。（複数回答）

		回答数	%
全体		836	100.0
1	実態調査・把握（既存の各種調査に、ヤングケアラーに係る設問を追加するなどの対応を含む）	85	10.2
2	関係機関職員研修	145	17.3
3	ヤングケアラー・コーディネーターの配置	100	12.0
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	38	4.5
5	サロン（（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	34	4.1
6	外国語対応通訳支援	10	1.2
7	家事・育児支援	129	15.4
8	配食支援	29	3.5
9	食糧支援（フードバンク）	9	1.1
10	こども食堂	31	3.7
11	ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ	12	1.4
12	広報啓発活動	98	11.7
13	その他	15	1.8
14	国の予算事業として実施しているものはない	496	59.3
15	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q9_1 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／実態調査・把握（複数回答）

		回答数	%
全体		85	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	76	89.4
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-
6	その他	11	12.9
7	無回答	0	0.0

Q9_2 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／関係機関職員研修（複数回答）

		回答数	%
全体		145	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	133	91.7
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-
6	その他	16	11.0
7	無回答	0	0.0

Q9_3 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／ヤングケアラー・コーディネーターの配置（複数回答）

		回答数	%
全体		100	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	99	99.0
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-
6	その他	3	3.0
7	無回答	0	0.0

Q9_4 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）（複数回答）

		回答数	%
全体		38	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	36	94.7
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-
6	その他	3	7.9
7	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q9_5 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／サロン（（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）（複数回答）

		回答数	%
全体		34	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	34	100.0
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-
6	その他	0	0.0
7	無回答	0	0.0

Q9_6 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／外国語対応通訳支援（複数回答）

		回答数	%
全体		10	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	8	80.0
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-
6	その他	2	20.0
7	無回答	0	0.0

Q9_7 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／家事・育児支援（複数回答）

		回答数	%
全体		129	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	-	-
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	100	77.5
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-
6	その他	31	24.0
7	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q9_8 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／配食支援（複数回答）

		回答数	%
全体		29	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	-	-
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	26	89.7
4	市町村相談体制整備事業	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-
6	その他	3	10.3
7	無回答	0	0.0

Q9_9 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／食糧支援（フードバンク）（複数回答）

		回答数	%
全体		9	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	-	-
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	5	55.6
4	市町村相談体制整備事業	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-
6	その他	4	44.4
7	無回答	0	0.0

Q9_10 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／子ども食堂（複数回答）

		回答数	%
全体		31	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	-	-
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	11	35.5
4	市町村相談体制整備事業	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-
6	その他	22	71.0
7	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q9_11 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ（複数回答）

		回答数	%
全体		12	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	-	-
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-
4	市町村相談体制整備事業	10	83.3
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-
6	その他	2	16.7
7	無回答	0	0.0

Q9_12 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／広報啓発活動（複数回答）

		回答数	%
全体		98	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	-	-
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	81	82.7
6	その他	18	18.4
7	無回答	1	1.0

Q9_13 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／その他（複数回答）

		回答数	%
全体		15	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	-	-
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-
6	その他	15	100.0
7	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q10_1 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／実態調査・把握（既存の各種調査に、ヤングケアラーに係る設問を追加するなどの対応を含む）（複数回答）

		回答数	%
全体		351	100.0
1	自治体が直接実施	256	72.9
2	委託事業として実施	82	23.4
3	補助事業として実施	3	0.9
4	その他の実施形態で実施	28	8.0
5	無回答	0	0.0

Q10_2 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／関係機関職員研修（複数回答）

		回答数	%
全体		405	100.0
1	自治体が直接実施	324	80.0
2	委託事業として実施	45	11.1
3	補助事業として実施	5	1.2
4	その他の実施形態で実施	38	9.4
5	無回答	2	0.5

Q10_3 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／ヤングケアラー・コーディネーターの配置（複数回答）

		回答数	%
全体		117	100.0
1	自治体が直接実施	88	75.2
2	委託事業として実施	28	23.9
3	補助事業として実施	2	1.7
4	その他の実施形態で実施	2	1.7
5	無回答	1	0.9

Q10_4 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）（複数回答）

		回答数	%
全体		95	100.0
1	自治体が直接実施	52	54.7
2	委託事業として実施	34	35.8
3	補助事業として実施	5	5.3
4	その他の実施形態で実施	4	4.2
5	無回答	3	3.2

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q10_5 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）（複数回答）

		回答数	%
全体		38	100.0
1	自治体が直接実施	3	7.9
2	委託事業として実施	30	78.9
3	補助事業として実施	4	10.5
4	その他の実施形態で実施	0	0.0
5	無回答	1	2.6

Q10_6 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／外国語対応通訳支援（複数回答）

		回答数	%
全体		24	100.0
1	自治体が直接実施	13	54.2
2	委託事業として実施	6	25.0
3	補助事業として実施	2	8.3
4	その他の実施形態で実施	4	16.7
5	無回答	1	4.2

Q10_7 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／家事・育児支援（複数回答）

		回答数	%
全体		198	100.0
1	自治体が直接実施	46	23.2
2	委託事業として実施	135	68.2
3	補助事業として実施	19	9.6
4	その他の実施形態で実施	7	3.5
5	無回答	1	0.5

Q10_8 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／配食支援（複数回答）

		回答数	%
全体		56	100.0
1	自治体が直接実施	6	10.7
2	委託事業として実施	29	51.8
3	補助事業として実施	11	19.6
4	その他の実施形態で実施	7	12.5
5	無回答	3	5.4

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q10_9 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／食糧支援（フードバンク）（複数回答）

		回答数	%
全体		127	100.0
1	自治体が直接実施	33	26.0
2	委託事業として実施	20	15.7
3	補助事業として実施	10	7.9
4	その他の実施形態で実施	63	49.6
5	無回答	4	3.1

Q10_10 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／こども食堂（複数回答）

		回答数	%
全体		166	100.0
1	自治体が直接実施	10	6.0
2	委託事業として実施	32	19.3
3	補助事業として実施	72	43.4
4	その他の実施形態で実施	58	34.9
5	無回答	3	1.8

Q10_11 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ（複数回答）

		回答数	%
全体		98	100.0
1	自治体が直接実施	93	94.9
2	委託事業として実施	2	2.0
3	補助事業として実施	2	2.0
4	その他の実施形態で実施	4	4.1
5	無回答	0	0.0

Q10_12 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／広報啓発活動（複数回答）

		回答数	%
全体		529	100.0
1	自治体が直接実施	480	90.7
2	委託事業として実施	26	4.9
3	補助事業として実施	3	0.6
4	その他の実施形態で実施	33	6.2
5	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q10_13 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／自治体における有識者会議の設置（既存の会議体での対応も含む）（複数回答）

		回答数	%
全体		99	100.0
1	自治体が直接実施	90	90.9
2	委託事業として実施	4	4.0
3	補助事業として実施	1	1.0
4	その他の実施形態で実施	2	2.0
5	無回答	1	1.0

Q10_14 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／ショートステイ、トワイライトステイ（複数回答）

		回答数	%
全体		109	100.0
1	自治体が直接実施	22	20.2
2	委託事業として実施	75	68.8
3	補助事業として実施	10	9.2
4	その他の実施形態で実施	2	1.8
5	無回答	0	0.0

Q10_15 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／外出時の付き添い・同行支援（複数回答）

		回答数	%
全体		16	100.0
1	自治体が直接実施	9	56.3
2	委託事業として実施	7	43.8
3	補助事業として実施	1	6.3
4	その他の実施形態で実施	1	6.3
5	無回答	0	0.0

Q10_16 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／現金給付（複数回答）

		回答数	%
全体		3	100.0
1	自治体が直接実施	2	66.7
2	委託事業として実施	0	0.0
3	補助事業として実施	0	0.0
4	その他の実施形態で実施	0	0.0
5	無回答	1	33.3

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q10_17 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）（複数回答）

		回答数	%
全体		83	100.0
1	自治体が直接実施	18	21.7
2	委託事業として実施	52	62.7
3	補助事業として実施	12	14.5
4	その他の実施形態で実施	8	9.6
5	無回答	0	0.0

Q10_18 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／就労支援（複数回答）

		回答数	%
全体		26	100.0
1	自治体が直接実施	12	46.2
2	委託事業として実施	11	42.3
3	補助事業として実施	1	3.8
4	その他の実施形態で実施	2	7.7
5	無回答	0	0.0

Q10_19 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／その他（複数回答）

		回答数	%
全体		104	100.0
1	自治体が直接実施	76	73.1
2	委託事業として実施	15	14.4
3	補助事業として実施	7	6.7
4	その他の実施形態で実施	13	12.5
5	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q11 貴自治体で実施した（あるいは実施中の）ヤングケアラーに関する実態調査の調査対象を教えてください。また、こども若者本人向けに実態調査を実施した場合は実態調査の実施回数（2023年9月1日現在（実施中の場合は実施回数を含む））についてもご入力ください。（複数回答）

全体		回答数	%
全体		351	100.0
1	小学生	245	69.8
2	中学生	272	77.5
3	高校生世代	106	30.2
4	若者（19歳世代から30歳世代程度）	12	3.4
5	小学校	141	40.2
6	中学校	148	42.2
7	高等学校	51	14.5
8	専修学校・専門学校	1	0.3
9	高等専門学校・短期大学	3	0.9
10	大学・大学院	3	0.9
11	要保護児童対策地域協議会	41	11.7
12	地域包括支援センター	38	10.8
13	指定居宅介護支援事業所	28	8.0
14	基幹相談支援センター	24	6.8
15	障害者相談支援事業所	31	8.8
16	生活困窮者自立支援機関	17	4.8
17	民生委員・児童委員	35	10.0
18	その他	47	13.4
19	無回答	0	0.0

Q11_SNT1_1 貴自治体で実施した（あるいは実施中の）ヤングケアラーに関する実態調査の調査対象を教えてください。また、こども若者本人向けに実態調査を実施した場合は実態調査の実施回数（2023年9月1日現在（実施中の場合は実施回数を含む））についてもご入力ください。／小学生（数値回答）

全体		回答数	%
全体		245	100.0
1	1回	196	80.0
2	2回	21	8.6
3	3回	11	4.5
4	4回	5	2.0
5	5回以上	12	4.9
6	無回答	0	0.0

平均値 1.8 回

最小値 1.0 回

最大値 30.0 回

※最大値の30回には、毎月学校で行うアンケートの実施回数を含む

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q11_SNT2_1 貴自治体で実施した（あるいは実施中の）ヤングケアラーに関する実態調査の調査対象を教えてください。また、こども若者本人向けに実態調査を実施した場合は実態調査の実施回数（2023年9月1日現在（実施中の場合は実施回数を含む））についてもご入力ください。／中学生（数値回答）

		回答数	%
全体		272	100.0
1	1回	218	80.1
2	2回	23	8.5
3	3回	12	4.4
4	4回	5	1.8
5	5回以上	14	5.1
6	無回答	0	0.0

平均値 1.7 回
 最小値 1.0 回
 最大値 30.0 回

※最大値の30回には、毎月学校で行うアンケートの実施回数を含む

Q11_SNT3_1 貴自治体で実施した（あるいは実施中の）ヤングケアラーに関する実態調査の調査対象を教えてください。また、こども若者本人向けに実態調査を実施した場合は実態調査の実施回数（2023年9月1日現在（実施中の場合は実施回数を含む））についてもご入力ください。／高校生世代（数値回答）

		回答数	%
全体		106	100.0
1	1回	97	91.5
2	2回	3	2.8
3	3回	4	3.8
4	4回	0	0.0
5	5回以上	2	1.9
6	無回答	0	0.0

平均値 1.4 回
 最小値 1.0 回
 最大値 30.0 回

※最大値の30回には、毎月学校で行うアンケートの実施回数を含む

Q11_SNT4_1 貴自治体で実施した（あるいは実施中の）ヤングケアラーに関する実態調査の調査対象を教えてください。また、こども若者本人向けに実態調査を実施した場合は実態調査の実施回数（2023年9月1日現在（実施中の場合は実施回数を含む））についてもご入力ください。／若者（19歳世代から30歳世代程度）（数値回答）

		回答数	%
全体		12	100.0
1	1回	10	83.3
2	2回	2	16.7
3	3回	0	0.0
4	4回	0	0.0
5	5回以上	0	0.0
6	無回答	0	0.0

平均値 1.2 回
 最小値 1.0 回
 最大値 2.0 回

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q12_1 こども若者本人を対象としたヤングケアラーに関する実態調査について、回答時の記名の有無を教えてください。
／小学生（単数回答）

		回答数	%
全体		245	100.0
1	記名あり	62	25.3
2	記名なし	162	66.1
3	その他	21	8.6
4	無回答	0	0.0

Q12_2 こども若者本人を対象としたヤングケアラーに関する実態調査について、回答時の記名の有無を教えてください。
／中学生（単数回答）

		回答数	%
全体		272	100.0
1	記名あり	65	23.9
2	記名なし	183	67.3
3	その他	24	8.8
4	無回答	0	0.0

Q12_3 こども若者本人を対象としたヤングケアラーに関する実態調査について、回答時の記名の有無を教えてください。
／高校生世代（単数回答）

		回答数	%
全体		106	100.0
1	記名あり	9	8.5
2	記名なし	86	81.1
3	その他	11	10.4
4	無回答	0	0.0

Q12_4 こども若者本人を対象としたヤングケアラーに関する実態調査について、回答時の記名の有無を教えてください。
／若者（19歳世代から30歳世代程度）（単数回答）

		回答数	%
全体		12	100.0
1	記名あり	0	0.0
2	記名なし	12	100.0
3	その他	0	0.0
4	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q13_1_1 こども若者本人を対象としたヤングケアラーに関する実態調査について、対象者の選定状況（全数（悉皆）／抽出）を教えてください。／小学生（単数回答）

		回答数	%
全体		245	100.0
1	全数調査	114	46.5
2	抽出調査	131	53.5
3	無回答	0	0.0

Q13_1_2 こども若者本人を対象としたヤングケアラーに関する実態調査について、対象者の選定状況（全数（悉皆）／抽出）を教えてください。／中学生（単数回答）

		回答数	%
全体		272	100.0
1	全数調査	169	62.1
2	抽出調査	103	37.9
3	無回答	0	0.0

Q13_1_3 こども若者本人を対象としたヤングケアラーに関する実態調査について、対象者の選定状況（全数（悉皆）／抽出）を教えてください。／高校生世代（単数回答）

		回答数	%
全体		106	100.0
1	全数調査	62	58.5
2	抽出調査	44	41.5
3	無回答	0	0.0

Q13_1_4 こども若者本人を対象としたヤングケアラーに関する実態調査について、対象者の選定状況（全数（悉皆）／抽出）を教えてください。／若者（19歳世代から30歳世代程度）（単数回答）

		回答数	%
全体		12	100.0
1	全数調査	2	16.7
2	抽出調査	10	83.3
3	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q13_2_1 こども若者本人を対象としたヤングケアラーに関する実態調査について、対象者の選定状況（抽出）を教えてください。／小学生（単数回答）

		回答数	%
全体		131	100.0
1	学校単位で抽出	13	9.9
2	学年単位で抽出	110	84.0
3	児童・生徒単位で抽出※	5	3.8
4	その他	3	2.3
5	無回答	0	0.0

※調査対象となる児童・生徒を、人数単位で抽出し、書面調査を行う場合などを指します。
（A自治体の小学5年生全体の約2割の人数を無作為で抽出するなど）

Q13_2_2 こども若者本人を対象としたヤングケアラーに関する実態調査について、対象者の選定状況（抽出）を教えてください。／中学生（単数回答）

		回答数	%
全体		103	100.0
1	学校単位で抽出	19	18.4
2	学年単位で抽出	72	69.9
3	児童・生徒単位で抽出	7	6.8
4	その他	5	4.9
5	無回答	0	0.0

Q13_2_3 こども若者本人を対象としたヤングケアラーに関する実態調査について、対象者の選定状況（抽出）を教えてください。／高校生世代（単数回答）

		回答数	%
全体		44	100.0
1	学校単位で抽出	8	18.2
2	学年単位で抽出	27	61.4
3	児童・生徒単位で抽出	3	6.8
4	その他	6	13.6
5	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q14 貴自治体においてヤングケアラーに関する実態調査を実施していない理由を教えてください。（複数回答）

全体		回答数	%
		870	100.0
1	当自治体が所在する都道府県が実態調査を実施している（する予定である）ため	283	32.5
2	当自治体に所在する市区町村が実態調査を実施している（する予定である）ため	1	0.1
3	ヤングケアラーに関わらず支援が必要な子どもについては要保護児童対策地域協議会にてすでに把握しているため	320	36.8
4	実態調査を行わずともヤングケアラーに該当するものはいないと理解しているため	45	5.2
5	実態調査を行わずともヤングケアラーに該当するものがあると理解しているため	29	3.3
6	調査・支援体制（実態調査実施後の課題への対応を含む）ができていないため	230	26.4
7	担当部署が不明確なため	79	9.1
8	予算を確保することが困難なため	58	6.7
9	その他	87	10.0
10	特に理由はない	51	5.9
11	無回答	3	0.3

Q15 ここからは2023年9月1日までに実施したことのある「ヤングケアラーに関する関係機関職員研修」についてお伺いします。関係機関職員研修を実施したことのある実施主体を教えてください。（複数回答）

全体		回答数	%
		405	100.0
1	Q2で回答した、ヤングケアラー支援の主な担当窓口の部門が単独で実施	253	62.5
2	Q2で回答した、ヤングケアラー支援の主な担当窓口の部門が他部門と共同で実施	118	29.1
3	教育部門（教育委員会、学校）が単独で実施（主な担当窓口が教育部門の場合を除く）	54	13.3
4	教育部門（教育委員会、学校）が他部門と共同で実施（主な担当窓口が教育部門の場合を除く）	18	4.4
5	その他の部門が実施	38	9.4
6	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q16 Q2でお答えいただいたヤングケアラー支援の主な担当窓口の部門が主体となって実施した研修の参加者を教えてください。（複数回答）

全体		回答数	%
	全体	353	100.0
1	児童福祉担当部局	265	75.1
2	母子保健担当部局	199	56.4
3	介護・高齢者福祉担当部局	164	46.5
4	障害者福祉担当部局	167	47.3
5	生活保護（生活困窮）担当部局（生活保護担当ケースワーカー等）	144	40.8
6	児童相談所（児童福祉司、児童心理司等）	115	32.6
7	児童福祉施設	94	26.6
8	福祉事務所	114	32.3
9	社会福祉協議会	140	39.7
10	民生委員、主任児童委員、児童委員	218	61.8
11	地域包括支援センター（介護支援専門員（ケアマネジャー）等）	133	37.7
12	指定居宅介護支援事業所（介護支援専門員（ケアマネジャー）等）	79	22.4
13	指定訪問介護事業所（訪問介護員（ホームヘルパー）等）	41	11.6
14	基幹相談支援センター（相談支援専門員等）	62	17.6
15	指定特定相談支援事業所（相談支援専門員等）	48	13.6
16	指定障害児相談支援事業所（相談支援専門員等）	59	16.7
17	保健所・保健センター	109	30.9
18	医療機関（医師、保健師、助産師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）	77	21.8
19	教育委員会	226	64.0
20	校長・副校長・教頭	171	48.4
21	教員（養護教諭を含む）	195	55.2
22	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等の支援スタッフ	151	42.8
23	司法関係機関	18	5.1
24	こども食堂、学習支援教室等のこどもの居場所となる機関	61	17.3
25	就労支援機関	22	6.2
26	その他支援者団体等	49	13.9
27	住民	51	14.4
28	その他	72	20.4
29	わからない	3	0.8
30	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q17 教育部門（教育委員会、学校）（主な担当窓口が教育部門の場合を除く）が主体となって実施した研修の参加者を教えてください。（複数回答）

全体		回答数	%
	全体	71	100.0
1	児童福祉担当部局	14	19.7
2	母子保健担当部局	3	4.2
3	介護・高齢者福祉担当部局	2	2.8
4	障害者福祉担当部局	3	4.2
5	生活保護（生活困窮）担当部局（生活保護担当ケースワーカー等）	2	2.8
6	児童相談所（児童福祉司、児童心理司等）	0	0.0
7	児童福祉施設	1	1.4
8	福祉事務所	2	2.8
9	社会福祉協議会	2	2.8
10	民生委員、主任児童委員、児童委員	3	4.2
11	地域包括支援センター（介護支援専門員（ケアマネジャー）等）	0	0.0
12	指定居宅介護支援事業所（介護支援専門員（ケアマネジャー）等）	0	0.0
13	指定訪問介護事業所（訪問介護員（ホームヘルパー）等）	0	0.0
14	基幹相談支援センター（相談支援専門員等）	0	0.0
15	指定特定相談支援事業所（相談支援専門員等）	0	0.0
16	指定障害児相談支援事業所（相談支援専門員等）	0	0.0
17	保健所・保健センター	2	2.8
18	医療機関（医師、保健師、助産師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）	0	0.0
19	教育委員会	29	40.8
20	校長・副校長・教頭	49	69.0
21	教員（養護教諭を含む）	59	83.1
22	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等の支援スタッフ	31	43.7
23	司法関係機関	0	0.0
24	こども食堂、学習支援教室等のこどもの居場所となる機関	2	2.8
25	就労支援機関	0	0.0
26	その他支援者団体等	1	1.4
27	住民	3	4.2
28	その他	6	8.5
29	わからない	2	2.8
30	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q18 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの雇用・契約形態（直接雇用／外部委託）を教えてください。（複数回答）

		回答数	%
全体		117	100.0
1	直接雇用（正規職員）	20	17.1
2	直接雇用（会計年度任用職員、臨時的任用職員）	78	66.7
3	外部委託	27	23.1
4	その他	4	3.4
5	無回答	0	0.0

Q18_SNT1_1 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの雇用・契約形態（直接雇用／外部委託）を教えてください。／直接雇用（正規職員）（数値回答）

		回答数	%
全体		20	100.0
1	1人	14	70.0
2	2人	3	15.0
3	3人	1	5.0
4	4人	1	5.0
5	5人以上	1	5.0
6	無回答	0	0.0

平均値 2.0 人
 最小値 1.0 人
 最大値 12.0 人

Q18_SNT2_1 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの雇用・契約形態（直接雇用／外部委託）を教えてください。／直接雇用（会計年度任用職員、臨時的任用職員）（数値回答）

		回答数	%
全体		78	100.0
1	1人	58	74.4
2	2人	17	21.8
3	3人	1	1.3
4	4人	0	0.0
5	5人以上	2	2.6
6	無回答	0	0.0

平均値 1.4 人
 最小値 1.0 人
 最大値 6.0 人

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q18_SNT3_1 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの雇用・契約形態（直接雇用／外部委託）を教えてください。／外部委託（数値回答）

		回答数	%
全体		27	100.0
1	1人	12	44.4
2	2人	9	33.3
3	3人	1	3.7
4	4人	3	11.1
5	5人以上	2	7.4
6	無回答	0	0.0

平均値 2.1 人
 最小値 1.0 人
 最大値 8.0 人

Q18_SNT4_2 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの雇用・契約形態（直接雇用／外部委託）を教えてください。／その他（数値回答）

		回答数	%
全体		4	100.0
1	1人	1	25.0
2	2人	3	75.0
3	3人	0	0.0
4	4人	0	0.0
5	5人以上	0	0.0
6	無回答	0	0.0

平均値 1.8 人
 最小値 1.0 人
 最大値 2.0 人

Q19 貴自治体におけるヤングケアラー・コーディネーターの出勤頻度を教えてください。（複数回答）

		回答数	%
全体		117	100.0
1	出勤日数を週単位で定めている	78	66.7
2	出勤日数を月単位で定めている	16	13.7
3	その他	24	20.5
4	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q19_SNT1_1 貴自治体におけるヤングケアラー・コーディネーターの出勤頻度を教えてください。／出勤日数を週単位で定めている（数値回答）

		回答数	%
全体		78	100.0
1	週1日	1	1.3
2	週2日	1	1.3
3	週3日	3	3.8
4	週4日	22	28.2
5	週5日	50	64.1
6	無回答	1	1.3

平均値 4.5 日/週
 最小値 1.0 日/週
 最大値 5.0 日/週

Q19_SNT2_1 貴自治体におけるヤングケアラー・コーディネーターの出勤頻度を教えてください。／出勤日数を月単位で定めている（数値回答）

		回答数	%
全体		16	100.0
1	月1日	0	0.0
2	月2日	0	0.0
3	月3日	0	0.0
4	月4日	1	6.3
5	月5日	0	0.0
6	月6日	0	0.0
7	月7日	0	0.0
8	月8日	0	0.0
9	月9日	0	0.0
10	月10日	1	6.3
11	月11日	0	0.0
12	月12日	0	0.0
13	月13日	0	0.0
14	月14日	0	0.0
15	月15日	1	6.3
16	月16日	4	25.0
17	月17日	3	18.8
18	月18日	2	12.5
19	月19日	0	0.0
20	月20日以上	4	25.0
21	無回答	0	0.0

平均値 16.4 日/月
 最小値 4.0 日/月
 最大値 21.0 日/月

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q20 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの保有資格及び保有人数について教えてください。
（複数回答）

		回答数	%
全体		117	100.0
1	社会福祉士	55	47.0
2	精神保健福祉士	20	17.1
3	臨床心理士	6	5.1
4	公認心理師	20	17.1
5	看護師	5	4.3
6	保健師	11	9.4
7	教員（養護教員を含む）	40	34.2
8	児童福祉司	3	2.6
9	介護支援専門員（ケアマネジャー）	12	10.3
10	介護福祉士	11	9.4
11	その他	27	23.1
12	保有資格を把握していない	3	2.6
13	無回答	1	0.9

Q20_SNT1_1 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの保有資格及び保有人数について教えてください。/
社会福祉士（数値回答）

		回答数	%
全体		55	100.0
1	1人	40	72.7
2	2人	12	21.8
3	3人	3	5.5
4	4人	0	0.0
5	5人以上	0	0.0
6	無回答	0	0.0

平均値 1.3 人
 最小値 1.0 人
 最大値 3.0 人

Q20_SNT2_1 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの保有資格及び保有人数について教えてください。/
精神保健福祉士（数値回答）

		回答数	%
全体		20	100.0
1	1人	18	90.0
2	2人	1	5.0
3	3人	1	5.0
4	4人	0	0.0
5	5人以上	0	0.0
6	無回答	0	0.0

平均値 1.2 人
 最小値 1.0 人
 最大値 3.0 人

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q20_SNT3_1 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの保有資格及び保有人数について教えてください。／
臨床心理士（数値回答）

		回答数	%
全体		6	100.0
1	1人	5	83.3
2	2人	0	0.0
3	3人	0	0.0
4	4人	0	0.0
5	5人以上	1	16.7
6	無回答	0	0.0

平均値 4.3 人
 最小値 1.0 人
 最大値 21.0 人

Q20_SNT4_1 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの保有資格及び保有人数について教えてください。／
公認心理師（数値回答）

		回答数	%
全体		20	100.0
1	1人	19	95.0
2	2人	1	5.0
3	3人	0	0.0
4	4人	0	0.0
5	5人以上	0	0.0
6	無回答	0	0.0

平均値 1.1 人
 最小値 1.0 人
 最大値 2.0 人

Q20_SNT5_1 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの保有資格及び保有人数について教えてください。／
看護師（数値回答）

		回答数	%
全体		5	100.0
1	1人	4	80.0
2	2人	1	20.0
3	3人	0	0.0
4	4人	0	0.0
5	5人以上	0	0.0
6	無回答	0	0.0

平均値 1.2 人
 最小値 1.0 人
 最大値 2.0 人

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q20_SNT6_1 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの保有資格及び保有人数について教えてください。／保健師（数値回答）

		回答数	%
全体		11	100.0
1	1人	11	100.0
2	2人	0	0.0
3	3人	0	0.0
4	4人	0	0.0
5	5人以上	0	0.0
6	無回答	0	0.0

平均値 1.0 人
 最小値 1.0 人
 最大値 1.0 人

Q20_SNT7_1 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの保有資格及び保有人数について教えてください。／教員（養護教員を含む）（数値回答）

		回答数	%
全体		40	100.0
1	1人	36	90.0
2	2人	3	7.5
3	3人	0	0.0
4	4人	0	0.0
5	5人以上	1	2.5
6	無回答	0	0.0

平均値 1.4 人
 最小値 1.0 人
 最大値 14.0 人

Q20_SNT8_1 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの保有資格及び保有人数について教えてください。／児童福祉司（数値回答）

		回答数	%
全体		3	100.0
1	1人	3	100.0
2	2人	0	0.0
3	3人	0	0.0
4	4人	0	0.0
5	5人以上	0	0.0
6	無回答	0	0.0

平均値 1.0 人
 最小値 1.0 人
 最大値 1.0 人

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q20_SNT9_1 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの保有資格及び保有人数について教えてください。／
介護支援専門員（ケアマネジャー）（数値回答）

		回答数	%
全体		12	100.0
1	1人	12	100.0
2	2人	0	0.0
3	3人	0	0.0
4	4人	0	0.0
5	5人以上	0	0.0
6	無回答	0	0.0

平均値 1.0 人
 最小値 1.0 人
 最大値 1.0 人

Q20_SNT10_1 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの保有資格及び保有人数について教えてください。／
介護福祉士（数値回答）

		回答数	%
全体		11	100.0
1	1人	11	100.0
2	2人	0	0.0
3	3人	0	0.0
4	4人	0	0.0
5	5人以上	0	0.0
6	無回答	0	0.0

平均値 1.0 人
 最小値 1.0 人
 最大値 1.0 人

Q20_SNT11_2 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターの保有資格及び保有人数について教えてください。／
その他（数値回答）

		回答数	%
全体		27	100.0
1	1人	21	77.8
2	2人	5	18.5
3	3人	0	0.0
4	4人	0	0.0
5	5人以上	1	3.7
6	無回答	0	0.0

平均値 1.3 人
 最小値 1.0 人
 最大値 5.0 人

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q21 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターが担っている役割を教えてください。（複数回答）

全体		回答数	%
1	相談支援・助言等（地域における関係機関等からの相談に対する助言や適切な福祉サービス等へのつなぎなど）	107	91.5
2	研修の実施（地域の関係機関等を対象に、ヤングケアラーの支援に関する研修等を実施）	83	70.9
3	支援者団体と連携等（こども食堂、学習支援、見守り訪問、家事・育児支援等を行う支援者団体との連携等）	79	67.5
4	関係機関等におけるヤングケアラー支援体制の構築（ヤングケアラーを支援するための体制の構築を図る等）	77	65.8
5	ヤングケアラー支援計画の検討	28	23.9
6	その他	10	8.5
7	無回答	0	0.0

Q22 貴自治体におけるスクールソーシャルワーカーの配置の有無を教えてください。（単数回答）

全体		回答数	%
1	配置している	105	89.7
2	配置していない	12	10.3
3	無回答	0	0.0

Q23 貴自治体でヤングケアラー・コーディネーターを配置していない理由を教えてください。（複数回答）

全体		回答数	%
1	ヤングケアラーに該当するものがない（少ない）ため、配置の必要性を感じない	366	33.2
2	スクールソーシャルワーカーがヤングケアラー・コーディネーターの役割を担っているため	107	9.7
3	支援体制ができていないため	383	34.7
4	担当部署が不明確なため	117	10.6
5	予算を確保することが困難なため	200	18.1
6	その他	226	20.5
7	特に理由はない	87	7.9
8	無回答	4	0.4

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q24_1 相談支援において、相談内容（主訴）として多いものは何ですか。／小学生（複数回答）

		回答数	%
全体		95	100.0
1	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	20	21.1
2	進路や就職など将来の相談にのってほしい	2	2.1
3	家族のお世話について相談にのってほしい	5	5.3
4	自分と同じような境遇の人と話がしたい、知り合いたい／どのように生活しているのか知りたい	0	0.0
5	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすい説明がほしい	1	1.1
6	自分がどのような支援サービスを受けられるか知りたい	1	1.1
7	勉強を教えてほしい	4	4.2
8	その他	18	18.9
9	わからない	50	52.6
10	無回答	1	1.1

Q24_2 相談支援において、相談内容（主訴）として多いものは何ですか。／中学生（複数回答）

		回答数	%
全体		95	100.0
1	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	26	27.4
2	進路や就職など将来の相談にのってほしい	15	15.8
3	家族のお世話について相談にのってほしい	11	11.6
4	自分と同じような境遇の人と話がしたい、知り合いたい／どのように生活しているのか知りたい	2	2.1
5	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすい説明がほしい	1	1.1
6	自分がどのような支援サービスを受けられるか知りたい	2	2.1
7	勉強を教えてほしい	7	7.4
8	その他	18	18.9
9	わからない	40	42.1
10	無回答	1	1.1

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q24_3 相談支援において、相談内容（主訴）として多いものは何ですか。／高校生世代（複数回答）

全体		回答数	%
	全体	95	100.0
1	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	28	29.5
2	進路や就職など将来の相談にのってほしい	18	18.9
3	家族のお世話について相談にのってほしい	13	13.7
4	自分と同じような境遇の人と話がしたい、知り合いたい／どのように生活しているのか知りたい	4	4.2
5	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすい説明がほしい	2	2.1
6	自分がどのような支援サービスを受けられるか知りたい	4	4.2
7	勉強を教えてほしい	5	5.3
8	その他	12	12.6
9	わからない	45	47.4
10	無回答	1	1.1

Q24_4 相談支援において、相談内容（主訴）として多いものは何ですか。／若者（19歳世代から30歳世代程度）（複数回答）

全体		回答数	%
	全体	95	100.0
1	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	16	16.8
2	進路や就職など将来の相談にのってほしい	13	13.7
3	家族のお世話について相談にのってほしい	9	9.5
4	自分と同じような境遇の人と話がしたい、知り合いたい／どのように生活しているのか知りたい	5	5.3
5	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすい説明がほしい	0	0.0
6	自分がどのような支援サービスを受けられるか知りたい	4	4.2
7	勉強を教えてほしい	1	1.1
8	その他	12	12.6
9	わからない	55	57.9
10	無回答	1	1.1

Q25 ヤングケアラーに関する有識者会議の設置経緯を教えてください。（複数回答）

全体		回答数	%
	全体	99	100.0
1	ヤングケアラーに対応するために新規で会議体を設置した	37	37.4
2	既存の会議体にてヤングケアラーにも対応できるようにした	60	60.6
3	その他	7	7.1
4	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q26 ヤングケアラーに関する有識者会議の構成員を教えてください。（複数回答）

全体		回答数	%
	全体	99	100.0
1	児童福祉担当部局	93	93.9
2	母子保健担当部局	67	67.7
3	介護・高齢者福祉担当部局	47	47.5
4	障害者福祉担当部局	61	61.6
5	生活保護（生活困窮）担当部局（生活保護担当ケースワーカー等）	55	55.6
6	子ども・若者の代表者（学生等を含む）	4	4.0
7	元ヤングケアラー	8	8.1
8	学識経験者（大学教授等）	32	32.3
9	児童相談所（児童福祉司、児童心理司等）	57	57.6
10	児童福祉施設	25	25.3
11	福祉事務所	35	35.4
12	社会福祉協議会	45	45.5
13	民生委員、主任児童委員、児童委員	54	54.5
14	地域包括支援センター（介護支援専門員（ケアマネジャー）等）	18	18.2
15	指定居宅介護支援事業所（介護支援専門員（ケアマネジャー）等）	7	7.1
16	指定訪問介護事業所（訪問介護員（ホームヘルパー）等）	2	2.0
17	基幹相談支援センター（相談支援専門員等）	17	17.2
18	指定特定相談支援事業所（相談支援専門員等）	8	8.1
19	指定障害児相談支援事業所（相談支援専門員等）	3	3.0
20	保健所・保健センター	40	40.4
21	医療機関（医師、保健師、助産師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）	43	43.4
22	教育委員会	78	78.8
23	校長・副校長・教頭	44	44.4
24	教員（養護教諭を含む）	16	16.2
25	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等の支援スタッフ	33	33.3
26	司法関係機関	20	20.2
27	子ども食堂、学習支援教室等のこどもの居場所となる機関	16	16.2
28	就労支援機関	11	11.1
29	その他支援者団体等	22	22.2
30	住民（「子ども・若者の代表者（学生等を含む）」、「元ヤングケアラー」を除く）	4	4.0
31	その他	35	35.4
32	わからない	0	0.0
33	無回答	0	0.0

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q27 ヤングケアラーに関する有識者会議において、子ども・若者の声を聴くための工夫があれば教えてください。（複数回答）

全体		回答数	%
		99	100.0
1	有識者会議の構成員に子ども・若者が入っている	1	1.0
2	必要に応じて、子ども・若者の意見を聞きながら会議を運営している	7	7.1
3	その他	18	18.2
4	今のところ工夫できていることはない	74	74.7
5	無回答	0	0.0

Q28_1 以下のヤングケアラー関連の取組について、市区町村に主導的な役割を期待する取組はどれですか。なお、※1、2の事業について、現行制度上の国の予算事業における実施主体に該当しない場合であっても回答可能です。／一般市区町村に主導的な役割を期待する取組（複数回答）

全体		回答数	%
		47	100.0
1	実態調査・把握	15	31.9
2	関係機関職員研修	6	12.8
3	ヤングケアラー・コーディネーターの配置	20	42.6
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	17	36.2
5	サロン（（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	2	4.3
6	外国語対応通訳支援	2	4.3
7	家事・育児支援	22	46.8
8	配食支援	7	14.9
9	食糧支援（フードバンク）	3	6.4
10	子ども食堂	2	4.3
11	ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ※1	25	53.2
12	広報啓発活動※2	7	14.9
13	自治体における有識者会議の設置（既存の会議体での対応も含む）	0	0.0
14	ショートステイ、トワイライトステイ	3	6.4
15	外出時の付き添い・同行支援	1	2.1
16	現金給付	0	0.0
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	2	4.3
18	就労支援	0	0.0
19	その他	0	0.0
20	わからない	1	2.1
21	無回答	0	0.0

※1 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップは、学校等が把握し市町村の福祉部局等へつないだヤングケアラーの情報を一元的に集計・把握するとともに、ヤングケアラーのその後の生活改善までフォローアップする体制を整備する取組等を指します（以下同様）。

※2 広報啓発活動は、ヤングケアラー認知度向上に係る広報啓発等事業を通じ、関係機関・団体や地域住民等へのヤングケアラーに関する意識の向上を図ることにより、ヤングケアラーへの適切な対応に資することを目的とする取組等を指します（以下同様）。

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q28_2

以下のヤングケアラー関連の取組について、市区町村に主導的な役割を期待する取組はどれですか。なお、※1、2の事業について、現行制度上の国の予算事業における実施主体に該当しない場合であっても回答可能です。／政令指定都市に主導的な役割を期待する取組（複数回答）

		回答数	%
全体		47	100.0
1	実態調査・把握	11	23.4
2	関係機関職員研修	7	14.9
3	ヤングケアラー・コーディネーターの配置	20	42.6
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	11	23.4
5	サロン（（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	2	4.3
6	外国語対応通訳支援	1	2.1
7	家事・育児支援	7	14.9
8	配食支援	1	2.1
9	食糧支援（フードバンク）	0	0.0
10	こども食堂	2	4.3
11	ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ※1	17	36.2
12	広報啓発活動※2	4	8.5
13	自治体における有識者会議の設置（既存の会議体での対応も含む）	0	0.0
14	ショートステイ、トワイライトステイ	1	2.1
15	外出時の付き添い・同行支援	0	0.0
16	現金給付	0	0.0
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	0	0.0
18	就労支援	1	2.1
19	その他	5	10.6
20	わからない	10	21.3
21	無回答	2	4.3

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q29_1

以下のヤングケアラー関連の取組について、都道府県に主導的な役割を期待する取組はどれですか。なお、※1、2の事業について、現行制度上の国の予算事業における実施主体に該当しない場合であっても回答可能です。／都道府県に主導的な役割を期待する取組（複数回答）

全体		回答数	%
	全体	1174	100.0
1	実態調査・把握	514	43.8
2	関係機関職員研修	601	51.2
3	ヤングケアラー・コーディネーターの配置	352	30.0
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	321	27.3
5	サロン（（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	221	18.8
6	外国語対応通訳支援	104	8.9
7	家事・育児支援	128	10.9
8	配食支援	55	4.7
9	食糧支援（フードバンク）	42	3.6
10	こども食堂	23	2.0
11	ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ※1	225	19.2
12	広報啓発活動※2	184	15.7
13	自治体における有識者会議の設置（既存の会議体での対応も含む）	34	2.9
14	ショートステイ、トワイライトステイ	70	6.0
15	外出時の付き添い・同行支援	13	1.1
16	現金給付	25	2.1
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	73	6.2
18	就労支援	40	3.4
19	その他	24	2.0
20	わからない	43	3.7
21	無回答	5	0.4

Q30

貴自治体が行うヤングケアラー支援において、以下の中で特に効果的と考えられる取組がありましたら教えてください。（複数回答）

全体		回答数	%
	全体	1221	100.0
1	都道府県・市区町村等との連携	233	19.1
2	福祉部門や教育部門（教育委員会、学校）との連携	823	67.4
3	民間団体等との連携	358	29.3
4	個人情報の取扱い	52	4.3
5	国の予算事業の活用	106	8.7
6	若者（19歳世代から30歳世代程度）のニーズ把握や支援	113	9.3
7	ヤングケアラー本人や家族に対する支援	568	46.5
8	その他	31	2.5
9	今のところ、特に効果的と考えられる取組はできていない	284	23.3
10	無回答	2	0.2

- Q31 【ヤングケアラー本人、家族を対象としたアンケート調査へのご協力可否について】本調査研究では、ヤングケアラー支援の効果的取組に関する研究を進めており、今後、ヤングケアラー本人、家族を対象としたアンケート調査を予定しています（調査期間：2023年10月23日（月）～11月24日（金）予定）。ヤングケアラー本人、家族に対してアンケート調査のご案内及び回答のサポートについて、ご協力いただくことは可能でしょうか。以下の項目から当てはまるものを1つ選択してください。（単数回答）

		回答数	%
全体		1221	100.0
1	ヤングケアラー本人、家族に対するアンケートへの協力が可能	10	0.8
2	ヤングケアラー本人に対するアンケートについてのみ協力が可能	14	1.1
3	ヤングケアラーの家族に対するアンケートについてのみ協力が可能	3	0.2
4	どちらともいえない	472	38.7
5	協力できない	720	59.0
6	無回答	2	0.2

- Q32 【ヤングケアラー本人、家族を対象としたインタビューへのご協力可否について】本調査研究では、ヤングケアラーのご本人及びご家族の方に、支援を受けたことによる影響等に関するインタビュー（オンラインにより1時間程度、2023年12月～2024年1月頃実施予定）をお願いしたいと考えています。ヤングケアラーのご本人及びご家族の方との調整を地方自治体の皆様をお願いしたく存じますが、インタビューのご調整に係るご相談をさせていただくことは可能でしょうか。なお、ご協力いただけました際はインタビュー対象者に対して薄謝を進呈いたします。（単数回答）

		回答数	%
全体		1221	100.0
1	ヤングケアラー本人、家族に対するインタビューへの協力が可能	6	0.5
2	ヤングケアラー本人に対するインタビューについてのみ協力が可能	3	0.2
3	ヤングケアラーの家族に対するインタビューについてのみ協力が可能	0	0.0
4	どちらともいえない	392	32.1
5	協力できない	818	67.0
6	無回答	2	0.2

- Q33 【地方自治体を対象としたインタビューへのご協力可否について】本調査研究では、ヤングケアラー支援の効果的取組に関する研究を進めており、今後、本アンケートで回答いただいた内容を踏まえたインタビューを予定しています（オンラインにより1時間程度、2023年12月～2024年1月頃実施予定）。インタビューではヤングケアラー支援において意識している点や、都道府県、市区町村との役割分担の状況等についてお伺いする予定ですが、このインタビューにご協力いただくことは可能でしょうか。以下の項目から当てはまるものを1つ選択してください。（単数回答）

		回答数	%
全体		1221	100.0
1	協力してもよい	99	8.1
2	どちらともいえない	454	37.2
3	協力できない	666	54.5
4	無回答	2	0.2

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q34 ヤングケアラー本人、家族を対象としたアンケート調査について、協力可能だと想定される年代及び人数を教えてください。（調査期間：2023年10月23日（月）～11月24日（金）予定）。（複数回答）

		回答数	%
全体		27	100.0
1	ヤングケアラー本人（小学生）	11	40.7
2	ヤングケアラー本人（中学生）	17	63.0
3	ヤングケアラー本人（高校生世代）	11	40.7
4	ヤングケアラー本人（若者世代）	6	22.2
5	ヤングケアラーの家族（小学生のこどもを持つ家族）	5	18.5
6	ヤングケアラーの家族（中学生のこどもを持つ家族）	4	14.8
7	ヤングケアラーの家族（高校生世代のこどもを持つ家族）	4	14.8
8	ヤングケアラーの家族（若者世代のこどもを持つ家族）	1	3.7
9	無回答	0	0.0

Q34_SNT1_1 ヤングケアラー本人、家族を対象としたアンケート調査について、協力可能だと想定される年代及び人数を教えてください。（調査期間：2023年10月23日（月）～11月24日（金）予定）。／ヤングケアラー本人（小学生）（数値回答）

		回答数	%
全体		11	100.0
1	1人	8	72.7
2	2人	1	9.1
3	3人	2	18.2
4	無回答	0	0.0

平均値 1.5 人
 最小値 1.0 人
 最大値 3.0 人

Q34_SNT2_1 ヤングケアラー本人、家族を対象としたアンケート調査について、協力可能だと想定される年代及び人数を教えてください。（調査期間：2023年10月23日（月）～11月24日（金）予定）。／ヤングケアラー本人（中学生）（数値回答）

		回答数	%
全体		17	100.0
1	1人	12	70.6
2	2人	1	5.9
3	3人	4	23.5
4	無回答	0	0.0

平均値 1.5 人
 最小値 1.0 人
 最大値 3.0 人

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q34_SNT3_1 ヤングケアラー本人、家族を対象としたアンケート調査について、協力可能だと想定される年代及び人数を教えてください。（調査期間：2023年10月23日（月）～11月24日（金）予定）。／ヤングケアラー本人（高校生世代）（数値回答）

		回答数	%
全体		11	100.0
1	1人	8	72.7
2	2人	0	0.0
3	3人	3	27.3
4	無回答	0	0.0

平均値 1.5 人
 最小値 1.0 人
 最大値 3.0 人

Q34_SNT4_1 ヤングケアラー本人、家族を対象としたアンケート調査について、協力可能だと想定される年代及び人数を教えてください。（調査期間：2023年10月23日（月）～11月24日（金）予定）。／ヤングケアラー本人（若者世代）（数値回答）

		回答数	%
全体		6	100.0
1	1人	4	66.7
2	2人	0	0.0
3	3人	2	33.3
4	無回答	0	0.0

平均値 1.7 人
 最小値 1.0 人
 最大値 3.0 人

Q34_SNT5_1 ヤングケアラー本人、家族を対象としたアンケート調査について、協力可能だと想定される年代及び人数を教えてください。（調査期間：2023年10月23日（月）～11月24日（金）予定）。／ヤングケアラーの家族（小学生のこどもを持つ家族）（数値回答）

		回答数	%
全体		5	100.0
1	1人	4	80.0
2	2人	1	20.0
3	3人	0	0.0
4	無回答	0	0.0

平均値 1.2 人
 最小値 1.0 人
 最大値 2.0 人

地方自治体に対するアンケート（単純集計表）

Q34_SNT6_1 ヤングケアラー本人、家族を対象としたアンケート調査について、協力可能だと想定される年代及び人数を教えてください。（調査期間：2023年10月23日（月）～11月24日（金）予定）。／ヤングケアラーの家族（中学生のこどもを持つ家族）（数値回答）

		回答数	%
全体		4	100.0
1	1人	3	75.0
2	2人	1	25.0
3	3人	0	0.0
4	無回答	0	0.0

平均値 1.3 人
 最小値 1.0 人
 最大値 2.0 人

Q34_SNT7_1 ヤングケアラー本人、家族を対象としたアンケート調査について、協力可能だと想定される年代及び人数を教えてください。（調査期間：2023年10月23日（月）～11月24日（金）予定）。／ヤングケアラーの家族（高校生世代のこどもを持つ家族）（数値回答）

		回答数	%
全体		4	100.0
1	1人	3	75.0
2	2人	1	25.0
3	3人	0	0.0
4	無回答	0	0.0

平均値 1.3 人
 最小値 1.0 人
 最大値 2.0 人

Q34_SNT8_1 ヤングケアラー本人、家族を対象としたアンケート調査について、協力可能だと想定される年代及び人数を教えてください。（調査期間：2023年10月23日（月）～11月24日（金）予定）。／ヤングケアラーの家族（若者世代のこどもを持つ家族）（数値回答）

		回答数	%
全体		1	100.0
1	1人	1	100.0
2	2人	0	0.0
3	3人	0	0.0
4	無回答	0	0.0

平均値 1.0 人
 最小値 1.0 人
 最大値 1.0 人

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q1 貴自治体の種別を教えてください。（単数回答）

	回答数	%
全体	1221	100.0
1 都道府県	47	3.8
2 政令指定都市	20	1.6
3 中核市	58	4.8
4 特別区	23	1.9
5 一般市町村	1073	87.9
6 無回答	0	0.0

Q2 貴自治体におけるヤングケアラー支援の主な担当窓口はどちらですか。（単数回答）

	(件)						(%)					
	Q1自治体種別						Q1自治体種別					
	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体	1221	47	20	58	23	1073	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 児童福祉部門	925	37	18	46	19	805	75.8	78.7	90.0	79.3	82.6	75.0
2 教育部門（教育委員会、学校）	43	0	0	1	0	42	3.5	0.0	0.0	1.7	0.0	3.9
3 母子保健部門	31	0	0	0	0	31	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
4 高齢者福祉部門	5	3	0	0	0	2	0.4	6.4	0.0	0.0	0.0	0.2
5 障害福祉部門	10	0	0	0	0	10	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
6 生活保護担当部門	2	0	0	0	0	2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
7 政策部門	2	0	0	0	1	1	0.2	0.0	0.0	0.0	4.3	0.1
8 重層的支援体制	20	4	1	0	1	14	1.6	8.5	5.0	0.0	4.3	1.3
9 主な担当窓口が定まっていない	128	0	0	5	2	121	10.5	0.0	0.0	8.6	8.7	11.3
10 その他	55	3	1	6	0	45	4.5	6.4	5.0	10.3	0.0	4.2
11 無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q3 2021年度に、「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム」において、今後取り組むべき施策（「早期発見・把握」、「支援策の推進」、「社会的認知度の向上」）を取りまとめました。貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、2023年9月1日時点で実施したことがある、もしくは実施中のものを教えてください。（複数回答）

		(件)						Q1自治体種別 (%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	1221	47	20	58	23	1073	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	実態調査・把握（既存の各種調査に、ヤングケアラーに係る設問を追加するなどの対応を含む）	351	42	15	33	20	241	28.7	89.4	75.0	56.9	87.0	22.5
2	関係機関職員研修	405	44	18	39	19	285	33.2	93.6	90.0	67.2	82.6	26.6
3	ヤングケアラー・コーディネーターの配置	117	30	10	17	7	53	9.6	63.8	50.0	29.3	30.4	4.9
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	95	27	5	11	6	46	7.8	57.4	25.0	19.0	26.1	4.3
5	サロン（（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	38	24	7	0	2	5	3.1	51.1	35.0	0.0	8.7	0.5
6	外国語対応通訳支援	24	2	2	0	5	15	2.0	4.3	10.0	0.0	21.7	1.4
7	家事・育児支援	198	10	13	33	10	132	16.2	21.3	65.0	56.9	43.5	12.3
8	配食支援	56	3	3	7	2	41	4.6	6.4	15.0	12.1	8.7	3.8
9	食糧支援（フードバンク）	127	4	0	6	5	112	10.4	8.5	0.0	10.3	21.7	10.4
10	こども食堂	166	7	3	8	7	141	13.6	14.9	15.0	13.8	30.4	13.1
11	ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ※1	98	5	2	14	5	72	8.0	10.6	10.0	24.1	21.7	6.7
12	広報啓発活動※2	529	33	15	48	18	415	43.3	70.2	75.0	82.8	78.3	38.7
13	自治体における有識者会議の設置（既存の会議体での対応も含む）	99	18	7	10	7	57	8.1	38.3	35.0	17.2	30.4	5.3
14	ショートステイ、トワイライトステイ	109	1	5	9	8	86	8.9	2.1	25.0	15.5	34.8	8.0
15	外出時の付き添い・同行支援	16	1	1	1	2	11	1.3	2.1	5.0	1.7	8.7	1.0
16	現金給付	3	0	0	1	0	2	0.2	0.0	0.0	1.7	0.0	0.2
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	83	7	4	6	4	62	6.8	14.9	20.0	10.3	17.4	5.8
18	就労支援	26	2	2	0	2	20	2.1	4.3	10.0	0.0	8.7	1.9
19	その他※3	104	9	3	7	2	83	8.5	19.1	15.0	12.1	8.7	7.7
20	ヤングケアラー関連の取組は特にない	376	1	0	0	1	374	30.8	2.1	0.0	0.0	4.3	34.9
21	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※1 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップは、学校等が把握し市町村の福祉部局等へつないだヤングケアラーの情報を一元的に集計・把握するとともに、ヤングケアラーのその後の生活改善までフォローアップする体制を整備する取組等を指します。

※2 広報啓発活動は、ヤングケアラー認知度向上に係る広報啓発等事業を通じ、関係機関・団体や地域住民等へのヤングケアラーに関する意識の向上を図ることにより、ヤングケアラーへの適切な対応に資することを目的とする取組等を指します。

※3 入学卒業支援（進路支援を含む）等、選択肢に記載の取組以外にヤングケアラー関連の取組があれば教えてください。

≪「Q3ヤングケアラー関連の取組状況」に占める「Q8国の予算事業として実施する取組」の割合≫

		(件)		(%)
		Q3回答数	Q8回答数	国予算 活用割合
	全体	1221	836	68.5
1	実態調査・把握（既存の各種調査に、ヤングケアラーに係る設問を追加するなどの対応を含む）	351	85	24.2
2	関係機関職員研修	405	145	35.8
3	ヤングケアラー・コーディネーターの配置	117	100	85.5
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	95	38	40.0
5	サロン（（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	38	34	89.5
6	外国語対応通訳支援	24	10	41.7
7	家事・育児支援	198	129	65.2
8	配食支援	56	29	51.8
9	食糧支援（フードバンク）	127	9	7.1
10	子ども食堂	166	31	18.7
11	ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ	98	12	12.2
12	広報啓発活動	529	98	18.5
13	自治体における有識者会議の設置（既存の会議体での対応も含む）	99	-	-
14	ショートステイ、トワイライトステイ	109	-	-
15	外出時の付き添い・同行支援	16	-	-
16	現金給付	3	-	-
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	83	-	-
18	就労支援	26	-	-
19	その他	104	15	14.4
20	ヤングケアラー関連の取組は特でない	376	-	-
21	無回答	0	0	-

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

≪「Q3ヤングケアラー関連の取組状況」のうち、ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数≫

(件)

		ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数														
全体		0種類	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類	11種類	12種類	13種類	
	全体	1221	743	211	118	65	44	21	14	3	1	1	0	0	0	
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	95	0	19	26	16	13	10	7	3	1	0	0	0	0	
5	サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	38	0	2	14	6	8	3	4	1	0	0	0	0	0	
6	外国語対応通訳支援	24	0	2	5	5	4	2	5	1	0	0	0	0	0	
7	家事・育児支援	198	0	55	55	31	24	17	11	3	1	1	0	0	0	
8	配食支援	56	0	5	11	12	11	6	7	2	1	1	0	0	0	
9	食糧支援（フードバンク）	127	0	21	29	31	19	15	9	1	1	1	0	0	0	
10	こども食堂	166	0	28	39	38	28	18	11	2	1	1	0	0	0	
14	ショートステイ、トワイライトステイ	109	0	15	23	27	21	9	9	3	1	1	0	0	0	
15	外出時の付き添い・同行支援	16	0	1	0	1	6	2	4	1	0	1	0	0	0	
16	現金給付	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	83	0	2	15	15	22	13	11	3	1	1	0	0	0	
18	就労支援	26	0	0	2	3	8	7	4	1	0	1	0	0	0	
19	その他	104	0	61	17	8	12	3	2	0	1	0	0	0	0	
20	上記の取組はしていない	743	743	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(%)

		ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数														
全体		0種類	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類	11種類	12種類	13種類	
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	7.8	0.0	9.0	22.0	24.6	29.5	47.6	50.0	100.0	100.0	0.0	-	-	-	
5	サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	3.1	0.0	0.9	11.9	9.2	18.2	14.3	28.6	33.3	0.0	0.0	-	-	-	
6	外国語対応通訳支援	2.0	0.0	0.9	4.2	7.7	9.1	9.5	35.7	33.3	0.0	0.0	-	-	-	
7	家事・育児支援	16.2	0.0	26.1	46.6	47.7	54.5	81.0	78.6	100.0	100.0	100.0	-	-	-	
8	配食支援	4.6	0.0	2.4	9.3	18.5	25.0	28.6	50.0	66.7	100.0	100.0	-	-	-	
9	食糧支援（フードバンク）	10.4	0.0	10.0	24.6	47.7	43.2	71.4	64.3	33.3	100.0	100.0	-	-	-	
10	こども食堂	13.6	0.0	13.3	33.1	58.5	63.6	85.7	78.6	66.7	100.0	100.0	-	-	-	
14	ショートステイ、トワイライトステイ	8.9	0.0	7.1	19.5	41.5	47.7	42.9	64.3	100.0	100.0	100.0	-	-	-	
15	外出時の付き添い・同行支援	1.3	0.0	0.5	0.0	1.5	13.6	9.5	28.6	33.3	0.0	100.0	-	-	-	
16	現金給付	0.2	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	-	-	-	
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	6.8	0.0	0.9	12.7	23.1	50.0	61.9	78.6	100.0	100.0	100.0	-	-	-	
18	就労支援	2.1	0.0	0.0	1.7	4.6	18.2	33.3	28.6	33.3	0.0	100.0	-	-	-	
19	その他※3	8.5	0.0	28.9	14.4	12.3	27.3	14.3	14.3	0.0	100.0	0.0	-	-	-	
20	上記の取組はしていない	60.9	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

◀「Q3ヤングケアラー関連の取組状況」のうち、ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数（都道府県）▶

(件)

		(都道府県) ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数														
		全体	0種類	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類	11種類	12種類	13種類
全体		47	10	8	13	7	5	2	2	0	0	0	0	0	0	0
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	27	0	3	11	6	4	1	2	0	0	0	0	0	0	0
5	サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	24	0	2	9	5	5	1	2	0	0	0	0	0	0	0
6	外国語対応通訳支援	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	家事・育児支援	10	0	1	4	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0
8	配食支援	3	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
9	食糧支援（フードバンク）	4	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0
10	こども食堂	7	0	1	0	2	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0
14	ショートステイ、トワイライストステイ	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
15	外出時の付き添い・同行支援	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
16	現金給付	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	7	0	0	0	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0
18	就労支援	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
19	その他	9	0	1	0	3	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0
20	上記の取組はしていない	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(%)

		(都道府県) ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数														
		全体	0種類	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類	11種類	12種類	13種類
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	57.4	0.0	37.5	84.6	85.7	80.0	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
5	サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	51.1	0.0	25.0	69.2	71.4	100.0	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
6	外国語対応通訳支援	4.3	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-
7	家事・育児支援	21.3	0.0	12.5	30.8	0.0	40.0	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
8	配食支援	6.4	0.0	0.0	15.4	0.0	0.0	50.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-
9	食糧支援（フードバンク）	8.5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-
10	こども食堂	14.9	0.0	12.5	0.0	28.6	20.0	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-
14	ショートステイ、トワイライストステイ	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-
15	外出時の付き添い・同行支援	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-
16	現金給付	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	14.9	0.0	0.0	0.0	28.6	60.0	0.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
18	就労支援	4.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	50.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-
19	その他	19.1	0.0	12.5	0.0	42.9	80.0	0.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-
20	上記の取組はしていない	21.3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

◀「Q3ヤングケアラー関連の取組状況」のうち、ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数（政令指定都市）▶

(件)

		(政令指定都市) ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数														
		全体	0種類	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類	11種類	12種類	13種類
	全体	20	3	5	5	1	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	5	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
5	サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	7	0	0	2	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
6	外国語対応通訳支援	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	家事・育児支援	13	0	5	5	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
8	配食支援	3	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
9	食糧支援（フードバンク）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	こども食堂	3	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
14	ショートステイ、トワイライストステイ	5	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
15	外出時の付き添い・同行支援	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	現金給付	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	4	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0
18	就労支援	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
19	その他	3	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	上記の取組はしていない	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(%)

		(政令指定都市) ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数														
		全体	0種類	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類	11種類	12種類	13種類
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	25.0	0.0	0.0	0.0	100.0	33.3	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
5	サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	35.0	0.0	0.0	40.0	100.0	33.3	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
6	外国語対応通訳支援	10.0	0.0	0.0	20.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
7	家事・育児支援	65.0	0.0	100.0	100.0	0.0	33.3	0.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
8	配食支援	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
9	食糧支援（フードバンク）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
10	こども食堂	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	100.0	0.0	100.0	-	-	-	-	-	-
14	ショートステイ、トワイライストステイ	25.0	0.0	0.0	20.0	0.0	33.3	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
15	外出時の付き添い・同行支援	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
16	現金給付	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	100.0	0.0	100.0	-	-	-	-	-	-
18	就労支援	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	100.0	0.0	-	-	-	-	-	-
19	その他	15.0	0.0	0.0	20.0	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
20	上記の取組はしていない	15.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

≪「Q3ヤングケアラー関連の取組状況」のうち、ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数（中核市）≫

(件)

		(中核市) ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数														
		全体	0種類	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類	11種類	12種類	13種類
	全体	58	21	12	12	4	5	3	1	0	0	0	0	0	0	0
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	11	0	0	5	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0
5	サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	外国語対応通訳支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	家事・育児支援	33	0	9	11	4	5	3	1	0	0	0	0	0	0	0
8	配食支援	7	0	1	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
9	食糧支援（フードバンク）	6	0	0	1	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0
10	こども食堂	8	0	0	2	0	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0
14	ショートステイ、トワイライストステイ	9	0	0	0	3	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0
15	外出時の付き添い・同行支援	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
16	現金給付	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	6	0	0	0	1	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0
18	就労支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	その他	7	0	2	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
20	上記の取組はしていない	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(%)

		(中核市) ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数														
		全体	0種類	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類	11種類	12種類	13種類
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	19.0	0.0	0.0	41.7	50.0	20.0	100.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-
5	サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-
6	外国語対応通訳支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-
7	家事・育児支援	56.9	0.0	75.0	91.7	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
8	配食支援	12.1	0.0	8.3	16.7	25.0	20.0	33.3	100.0	-	-	-	-	-	-	-
9	食糧支援（フードバンク）	10.3	0.0	0.0	8.3	0.0	60.0	33.3	100.0	-	-	-	-	-	-	-
10	こども食堂	13.8	0.0	0.0	16.7	0.0	60.0	66.7	100.0	-	-	-	-	-	-	-
14	ショートステイ、トワイライストステイ	15.5	0.0	0.0	0.0	75.0	80.0	66.7	0.0	-	-	-	-	-	-	-
15	外出時の付き添い・同行支援	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
16	現金給付	1.7	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	10.3	0.0	0.0	0.0	25.0	40.0	66.7	100.0	-	-	-	-	-	-	-
18	就労支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-
19	その他	12.1	0.0	16.7	25.0	0.0	20.0	33.3	0.0	-	-	-	-	-	-	-
20	上記の取組はしていない	36.2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

◀「Q3ヤングケアラー関連の取組状況」のうち、ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数（特別区）▶

(件)

		(特別区) ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数														
		全体	0種類	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類	11種類	12種類	13種類
全体		23	9	1	1	5	2	2	2	1	0	0	0	0	0	0
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	6	0	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
5	サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
6	外国語対応通訳支援	5	0	0	0	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0
7	家事・育児支援	10	0	0	0	5	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0
8	配食支援	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
9	食糧支援（フードバンク）	5	0	0	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
10	こども食堂	7	0	0	0	2	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0
14	ショートステイ、トワイライストステイ	8	0	0	0	2	2	1	2	1	0	0	0	0	0	0
15	外出時の付き添い・同行支援	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
16	現金給付	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	4	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
18	就労支援	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
19	その他	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
20	上記の取組はしていない	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(%)

		(特別区) ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数														
		全体	0種類	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類	11種類	12種類	13種類
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	26.1	0.0	100.0	0.0	20.0	50.0	50.0	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-
5	サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
6	外国語対応通訳支援	21.7	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
7	家事・育児支援	43.5	0.0	0.0	0.0	100.0	50.0	50.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
8	配食支援	8.7	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	50.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
9	食糧支援（フードバンク）	21.7	0.0	0.0	100.0	40.0	0.0	50.0	50.0	0.0	-	-	-	-	-	-
10	こども食堂	30.4	0.0	0.0	0.0	40.0	100.0	100.0	50.0	0.0	-	-	-	-	-	-
14	ショートステイ、トワイライストステイ	34.8	0.0	0.0	0.0	40.0	100.0	50.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
15	外出時の付き添い・同行支援	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-
16	現金給付	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	17.4	0.0	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-
18	就労支援	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0	-	-	-	-	-	-
19	その他	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	-	-	-	-	-	-
20	上記の取組はしていない	39.1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

◀「Q3ヤングケアラー関連の取組状況」のうち、ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数（一般市町村）▶

(件)

		(一般市町村) ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数														
		全体	0種類	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類	11種類	12種類	13種類
全体		1073	700	185	87	48	29	13	8	1	1	1	0	0	0	0
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	46	0	15	10	6	6	4	3	1	1	0	0	0	0	0
5	サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	5	0	0	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
6	外国語対応通訳支援	15	0	2	4	1	3	2	3	0	0	0	0	0	0	0
7	家事・育児支援	132	0	40	35	22	15	12	5	1	1	1	0	0	0	0
8	配食支援	41	0	4	7	10	9	3	5	1	1	1	0	0	0	0
9	食糧支援（フードバンク）	112	0	21	27	29	15	11	6	1	1	1	0	0	0	0
10	こども食堂	141	0	27	37	34	21	11	8	1	1	1	0	0	0	0
14	ショートステイ、トワイライストステイ	86	0	15	22	22	14	4	6	1	1	1	0	0	0	0
15	外出時の付き添い・同行支援	11	0	1	0	1	5	2	1	0	0	1	0	0	0	0
16	現金給付	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	62	0	2	14	12	14	10	7	1	1	1	0	0	0	0
18	就労支援	20	0	0	2	2	7	5	3	0	0	1	0	0	0	0
19	その他	83	0	58	13	4	6	1	0	0	1	0	0	0	0	0
20	上記の取組はしていない	700	700	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(%)

		(一般市町村) ヤングケアラー本人や家族への直接の支援に係る取組種類数														
		全体	0種類	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類	11種類	12種類	13種類
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	4.3	0.0	8.1	11.5	12.5	20.7	30.8	37.5	100.0	100.0	0.0	-	-	-	-
5	サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	0.5	0.0	0.0	3.4	0.0	3.4	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-
6	外国語対応通訳支援	1.4	0.0	1.1	4.6	2.1	10.3	15.4	37.5	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-
7	家事・育児支援	12.3	0.0	21.6	40.2	45.8	51.7	92.3	62.5	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-
8	配食支援	3.8	0.0	2.2	8.0	20.8	31.0	23.1	62.5	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-
9	食糧支援（フードバンク）	10.4	0.0	11.4	31.0	60.4	51.7	84.6	75.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-
10	こども食堂	13.1	0.0	14.6	42.5	70.8	72.4	84.6	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-
14	ショートステイ、トワイライストステイ	8.0	0.0	8.1	25.3	45.8	48.3	30.8	75.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-
15	外出時の付き添い・同行支援	1.0	0.0	0.5	0.0	2.1	17.2	15.4	12.5	0.0	0.0	100.0	-	-	-	-
16	現金給付	0.2	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	-	-	-	-
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	5.8	0.0	1.1	16.1	25.0	48.3	76.9	87.5	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-
18	就労支援	1.9	0.0	0.0	2.3	4.2	24.1	38.5	37.5	0.0	0.0	100.0	-	-	-	-
19	その他	7.7	0.0	31.4	14.9	8.3	20.7	7.7	0.0	0.0	100.0	0.0	-	-	-	-
20	上記の取組はしていない	65.2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q4_1 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、Q3で回答いただいた支援のうち、最初に支援を始めてから2023年9月1日時点までの経過年数を教えてください。なお、ヤングケアラー関連の取組が特にならない場合は「0年0ヶ月」とご回答ください。（数値回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		1221	47	20	58	23	1073	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	0ヶ月	430	1	0	0	1	428	35.2	2.1	0.0	0.0	4.3	39.9
2	0ヶ月超1年未満	159	2	3	16	4	134	13.0	4.3	15.0	27.6	17.4	12.5
3	1年以上2年未満	334	25	7	26	13	263	27.4	53.2	35.0	44.8	56.5	24.5
4	2年以上3年未満	173	15	8	12	3	135	14.2	31.9	40.0	20.7	13.0	12.6
5	3年以上4年未満	28	3	0	0	0	25	2.3	6.4	0.0	0.0	0.0	2.3
6	4年以上5年未満	18	0	0	0	0	18	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7
7	5年以上7年未満	30	1	0	1	0	28	2.5	2.1	0.0	1.7	0.0	2.6
8	7年以上10年未満	17	0	0	0	1	16	1.4	0.0	0.0	0.0	4.3	1.5
9	10年以上15年未満	15	0	1	2	0	12	1.2	0.0	5.0	3.4	0.0	1.1
10	15年以上	17	0	1	1	1	14	1.4	0.0	5.0	1.7	4.3	1.3
11	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

平均値 1.6年
 最小値 0.0年
 最大値 27.4年

Q5 Q3のほかに、ヤングケアラー本人や家族がよく利用するサービスを教えてください。（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		1221	47	20	58	23	1073	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	放課後等デイサービスなどの療育機関の利用	182	3	4	21	5	149	14.9	6.4	20.0	36.2	21.7	13.9
2	障害福祉サービスの計画相談支援（親子とも）	251	7	7	38	5	194	20.6	14.9	35.0	65.5	21.7	18.1
3	生活保護制度	282	9	10	31	7	225	23.1	19.1	50.0	53.4	30.4	21.0
4	訪問看護	140	5	4	23	7	101	11.5	10.6	20.0	39.7	30.4	9.4
5	精神保健相談	131	6	6	14	6	99	10.7	12.8	30.0	24.1	26.1	9.2
6	母子生活支援施設への入所	5	0	0	0	1	4	0.4	0.0	0.0	0.0	4.3	0.4
7	母子家庭支援制度、貸付	69	3	0	4	1	61	5.7	6.4	0.0	6.9	4.3	5.7
8	生活困窮者貸付	104	4	0	3	1	96	8.5	8.5	0.0	5.2	4.3	8.9
9	地域包括支援センターへの相談	109	2	5	10	1	91	8.9	4.3	25.0	17.2	4.3	8.5
10	介護保険制度	112	8	7	15	6	76	9.2	17.0	35.0	25.9	26.1	7.1
11	教育相談や不登校相談	322	10	7	29	8	268	26.4	21.3	35.0	50.0	34.8	25.0
12	児童思春期外来	19	1	0	2	0	16	1.6	2.1	0.0	3.4	0.0	1.5
13	発達相談	92	2	0	7	1	82	7.5	4.3	0.0	12.1	4.3	7.6
14	その他	261	29	9	11	10	202	21.4	61.7	45.0	19.0	43.5	18.8
15	ヤングケアラーと思われる子どもがいないため特になし	445	3	0	2	1	439	36.4	6.4	0.0	3.4	4.3	40.9
16	無回答	8	1	0	0	0	7	0.7	2.1	0.0	0.0	0.0	0.7

Q6 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、具体的な取組内容を教えてください。（複数回答）

（ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等））

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	95	27	5	11	6	46	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	相談窓口での対面相談	76	16	5	10	6	39	80.0	59.3	100.0	90.9	100.0	84.8
2	電話相談	79	21	5	9	5	39	83.2	77.8	100.0	81.8	100.0	84.8
3	オンライン相談	26	8	3	1	3	11	27.4	29.6	60.0	9.1	50.0	23.9
4	SNS相談	47	23	3	4	3	14	49.5	85.2	60.0	36.4	50.0	30.4
5	アウトリーチ（訪問による相談支援）	41	6	3	4	5	23	43.2	22.2	60.0	36.4	83.3	50.0
6	元当事者による相談支援（ピアサポート）	18	9	3	0	3	3	18.9	33.3	60.0	0.0	50.0	6.5
7	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営・支援（オンライン、対面いずれも含む）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	38	24	7	0	2	5	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0
1	オンラインサロン	29	21	6	0	0	2	76.3	87.5	85.7	-	0.0	40.0
2	対面のサロン（リアルイベントを含む）	24	14	5	0	1	4	63.2	58.3	71.4	-	50.0	80.0
3	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0

（外国語対応通訳支援）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	24	2	2	0	5	15	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0
1	通訳者の配置	9	1	0	0	1	7	37.5	50.0	0.0	-	20.0	46.7
2	遠隔通訳	6	0	0	0	3	3	25.0	0.0	0.0	-	60.0	20.0
3	翻訳機の整備	10	0	0	0	0	10	41.7	0.0	0.0	-	0.0	66.7
4	その他	7	1	2	0	1	3	29.2	50.0	100.0	-	20.0	20.0
5	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0

（配食支援）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	56	3	3	7	2	41	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ヤングケアラー本人	36	2	1	6	1	26	64.3	66.7	33.3	85.7	50.0	63.4
2	ヤングケアラー本人の同居家族	34	2	1	5	1	25	60.7	66.7	33.3	71.4	50.0	61.0
3	支援を受ける際に「ヤングケアラー本人」、「ヤングケアラー本人の同居家族」を選択可能	10	0	1	2	0	7	17.9	0.0	33.3	28.6	0.0	17.1
4	その他	7	1	1	0	1	4	12.5	33.3	33.3	0.0	50.0	9.8
5	無回答	4	0	0	0	0	4	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.8

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q7 貴自治体が行うオンラインサロンにおいて、以下の中で特に効果的と考えられる取組がありましたら教えてください。（複数回答）

	(件)						(%)					
	Q1自治体種別						Q1自治体種別					
	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体	29	21	6	0	0	2	100.0	100.0	100.0	-	-	100.0
1 参加者の募集	8	5	3	0	0	0	27.6	23.8	50.0	-	-	0.0
2 運営方法	10	8	2	0	0	0	34.5	38.1	33.3	-	-	0.0
3 その他	5	4	1	0	0	0	17.2	19.0	16.7	-	-	0.0
4 今のところ、特に効果的と考えられる取組はできていない	9	5	2	0	0	2	31.0	23.8	33.3	-	-	100.0
5 無回答	1	1	0	0	0	0	3.4	4.8	0.0	-	-	0.0

Q8 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施しているものはありますか。（複数回答）

	(件)						(%)					
	Q1自治体種別						Q1自治体種別					
	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体	836	46	20	58	22	690	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 実態調査・把握（既存の各種調査に、ヤングケアラーに係る設問を追加するなどの対応を含む）	85	26	3	9	12	35	10.2	56.5	15.0	15.5	54.5	5.1
2 関係機関職員研修	145	37	14	19	14	61	17.3	80.4	70.0	32.8	63.6	8.8
3 ヤングケアラー・コーディネーターの配置	100	30	9	16	7	38	12.0	65.2	45.0	27.6	31.8	5.5
4 ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	38	20	5	5	3	5	4.5	43.5	25.0	8.6	13.6	0.7
5 サロン（（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	34	22	7	0	2	3	4.1	47.8	35.0	0.0	9.1	0.4
6 外国語対応通訳支援	10	2	2	0	4	2	1.2	4.3	10.0	0.0	18.2	0.3
7 家事・育児支援	129	9	11	26	6	77	15.4	19.6	55.0	44.8	27.3	11.2
8 配食支援	29	3	2	5	1	18	3.5	6.5	10.0	8.6	4.5	2.6
9 食糧支援（フードバンク）	9	1	0	0	3	5	1.1	2.2	0.0	0.0	13.6	0.7
10 こども食堂	31	3	1	1	2	24	3.7	6.5	5.0	1.7	9.1	3.5
11 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ	12	0	0	3	1	8	1.4	0.0	0.0	5.2	4.5	1.2
12 広報啓発活動	98	15	8	13	4	58	11.7	32.6	40.0	22.4	18.2	8.4
13 その他	15	4	2	2	0	7	1.8	8.7	10.0	3.4	0.0	1.0
14 国の予算事業として実施しているものはない	496	3	1	16	4	472	59.3	6.5	5.0	27.6	18.2	68.4
15 無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q9_1 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／実態調査・把握（複数回答）

	(件)						(%)					
	Q1自治体種別						Q1自治体種別					
	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体	85	26	3	9	12	35	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 ヤングケアラー支援体制強化事業	76	25	3	9	12	27	89.4	96.2	100.0	100.0	100.0	77.1
2 子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 支援対象児童等見守り強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 市町村相談体制整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 その他	11	2	0	0	0	9	12.9	7.7	0.0	0.0	0.0	25.7
7 無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q9_2 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／関係機関職員研修（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	145	37	14	19	14	61	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	133	35	14	18	13	53	91.7	94.6	100.0	94.7	92.9	86.9
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	その他	16	2	0	3	1	10	11.1	5.4	0.0	15.8	7.1	16.4
7	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q9_3 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／ヤングケアラー・コーディネーターの配置（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	100	30	9	16	7	38	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	99	29	9	16	7	38	99.0	96.7	100.0	100.0	100.0	100.0
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	その他	3	1	0	2	0	0	3.0	3.3	0.0	12.5	0.0	0.0
7	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q9_4 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	38	20	5	5	3	5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	36	19	5	5	3	4	94.7	95.0	100.0	100.0	100.0	80.0
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	その他	3	1	0	1	0	1	7.9	5.0	0.0	20.0	0.0	20.0
7	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q9_5 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／サロン（元）ヤングケアラー同士の交流の場の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）（複数回答）

		(件)						%					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	34	22	7	0	2	3	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	34	22	7	0	2	3	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	その他	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
7	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0

Q9_6 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／外国語対応通訳支援（複数回答）

		(件)						%					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	10	2	2	0	4	2	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	8	2	2	0	4	0	80.0	100.0	100.0	-	100.0	0.0
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	その他	2	0	0	0	0	2	20.0	0.0	0.0	-	0.0	100.0
7	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0

Q9_7 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／家事・育児支援（複数回答）

		(件)						%					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	129	9	11	26	6	77	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	100	8	9	20	3	60	77.5	88.9	81.8	76.9	50.0	77.9
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	その他	31	1	2	6	3	19	24.0	11.1	18.2	23.1	50.0	24.7
7	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q9_8 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／配食支援（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		29	3	2	5	1	18	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	26	2	2	5	0	17	89.7	66.7	100.0	100.0	0.0	94.4
4	市町村相談体制整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	その他	3	1	0	0	1	1	10.3	33.3	0.0	0.0	100.0	5.6
7	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q9_9 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／食糧支援（フードバンク）（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		9	1	0	0	3	5	100.0	100.0	-	-	100.0	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	5	0	0	0	3	2	55.6	0.0	-	-	100.0	40.0
4	市町村相談体制整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	その他	4	1	0	0	0	3	44.4	100.0	-	-	0.0	60.0
7	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0

Q9_10 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／こども食堂（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		31	3	1	1	2	24	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	11	0	0	1	1	9	35.5	0.0	0.0	100.0	50.0	37.5
4	市町村相談体制整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	その他	22	3	1	0	1	17	71.0	100.0	100.0	0.0	50.0	70.8
7	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q9_11 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ（複数回答）

		(件)						%					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	12	0	0	3	1	8	100.0	-	-	100.0	100.0	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	市町村相談体制整備事業	10	0	0	2	1	7	83.3	-	-	66.7	100.0	87.5
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	その他	2	0	0	1	0	1	16.7	-	-	33.3	0.0	12.5
7	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0

Q9_12 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／広報啓発活動（複数回答）

		(件)						%					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	98	15	8	13	4	58	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	81	12	8	10	4	47	82.7	80.0	100.0	76.9	100.0	81.0
6	その他	18	2	0	5	0	11	18.4	13.3	0.0	38.5	0.0	19.0
7	無回答	1	1	0	0	0	0	1.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0

Q9_13 貴自治体におけるヤングケアラー関連の取組について、国の予算事業として実施している取組の事業名を教えてください。／その他（複数回答）

		(件)						%					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	15	4	2	2	0	7	100.0	100.0	100.0	100.0	-	100.0
1	ヤングケアラー支援体制強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	子育て世帯訪問支援臨時特例事業（子育て支援対策臨時特例交付金）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	支援対象児童等見守り強化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	市町村相談体制整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	児童虐待防止等のための広報啓発事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	その他	15	4	2	2	0	7	100.0	100.0	100.0	100.0	-	100.0
7	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q10_1 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／実態調査・把握（既存の各種調査に、ヤングケアラーに係る設問を追加するなどの対応を含む）（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		351	42	15	33	20	241	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	256	20	10	25	8	193	72.9	47.6	66.7	75.8	40.0	80.1
2	委託事業として実施	82	25	5	8	12	32	23.4	59.5	33.3	24.2	60.0	13.3
3	補助事業として実施	3	0	0	1	0	2	0.9	0.0	0.0	3.0	0.0	0.8
4	その他の実施形態で実施	28	2	1	1	1	23	8.0	4.8	6.7	3.0	5.0	9.5
5	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q10_2 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／関係機関職員研修（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		405	44	18	39	19	285	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	324	23	14	38	14	235	80.0	52.3	77.8	97.4	73.7	82.5
2	委託事業として実施	45	23	5	1	3	13	11.1	52.3	27.8	2.6	15.8	4.6
3	補助事業として実施	5	0	0	0	0	5	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8
4	その他の実施形態で実施	38	1	0	0	2	35	9.4	2.3	0.0	0.0	10.5	12.3
5	無回答	2	1	0	0	0	1	0.5	2.3	0.0	0.0	0.0	0.4

Q10_3 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／ヤングケアラー・コーディネーターの配置（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		117	30	10	17	7	53	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	88	16	6	17	4	45	75.2	53.3	60.0	100.0	57.1	84.9
2	委託事業として実施	28	15	4	0	3	6	23.9	50.0	40.0	0.0	42.9	11.3
3	補助事業として実施	2	0	0	0	0	2	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8
4	その他の実施形態で実施	2	0	0	1	0	1	1.7	0.0	0.0	5.9	0.0	1.9
5	無回答	1	1	0	0	0	0	0.9	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0

Q10_4 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		95	27	5	11	6	46	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	52	5	1	9	3	34	54.7	18.5	20.0	81.8	50.0	73.9
2	委託事業として実施	34	19	4	2	1	8	35.8	70.4	80.0	18.2	16.7	17.4
3	補助事業として実施	5	2	0	0	2	1	5.3	7.4	0.0	0.0	33.3	2.2
4	その他の実施形態で実施	4	0	0	0	0	4	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7
5	無回答	3	1	0	0	0	2	3.2	3.7	0.0	0.0	0.0	4.3

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q10_5 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／サロン（（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）（複数回答）

		(件)						%					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		38	24	7	0	2	5	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	3	0	0	0	0	3	7.9	0.0	0.0	-	0.0	60.0
2	委託事業として実施	30	20	7	0	1	2	78.9	83.3	100.0	-	50.0	40.0
3	補助事業として実施	4	3	0	0	1	0	10.5	12.5	0.0	-	50.0	0.0
4	その他の実施形態で実施	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
5	無回答	1	1	0	0	0	0	2.6	4.2	0.0	-	0.0	0.0

Q10_6 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／外国語対応通訳支援（複数回答）

		(件)						%					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		24	2	2	0	5	15	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	13	0	1	0	2	10	54.2	0.0	50.0	-	40.0	66.7
2	委託事業として実施	6	1	1	0	3	1	25.0	50.0	50.0	-	60.0	6.7
3	補助事業として実施	2	0	0	0	0	2	8.3	0.0	0.0	-	0.0	13.3
4	その他の実施形態で実施	4	0	0	0	1	3	16.7	0.0	0.0	-	20.0	20.0
5	無回答	1	1	0	0	0	0	4.2	50.0	0.0	-	0.0	0.0

Q10_7 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／家事・育児支援（複数回答）

		(件)						%					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		198	10	13	33	10	132	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	46	1	1	8	0	36	23.2	10.0	7.7	24.2	0.0	27.3
2	委託事業として実施	135	2	13	23	9	88	68.2	20.0	100.0	69.7	90.0	66.7
3	補助事業として実施	19	7	0	1	2	9	9.6	70.0	0.0	3.0	20.0	6.8
4	その他の実施形態で実施	7	1	0	1	0	5	3.5	10.0	0.0	3.0	0.0	3.8
5	無回答	1	1	0	0	0	0	0.5	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q10_8 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／配食支援（複数回答）

		(件)						%					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		56	3	3	7	2	41	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	6	0	0	0	0	6	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	14.6
2	委託事業として実施	29	1	1	6	1	20	51.8	33.3	33.3	85.7	50.0	48.8
3	補助事業として実施	11	1	1	1	1	7	19.6	33.3	33.3	14.3	50.0	17.1
4	その他の実施形態で実施	7	1	1	0	0	5	12.5	33.3	33.3	0.0	0.0	12.2
5	無回答	3	0	0	0	0	3	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	7.3

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q10_9 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／食糧支援（フードバンク）（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		127	4	0	6	5	112	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	33	1	0	4	1	27	26.0	25.0	-	66.7	20.0	24.1
2	委託事業として実施	20	2	0	0	3	15	15.7	50.0	-	0.0	60.0	13.4
3	補助事業として実施	10	1	0	0	1	8	7.9	25.0	-	0.0	20.0	7.1
4	その他の実施形態で実施	63	1	0	2	2	58	49.6	25.0	-	33.3	40.0	51.8
5	無回答	4	0	0	0	0	4	3.1	0.0	-	0.0	0.0	3.6

Q10_10 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／子ども食堂（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		166	7	3	8	7	141	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	10	1	0	1	0	8	6.0	14.3	0.0	12.5	0.0	5.7
2	委託事業として実施	32	3	1	4	0	24	19.3	42.9	33.3	50.0	0.0	17.0
3	補助事業として実施	72	3	3	3	6	57	43.4	42.9	100.0	37.5	85.7	40.4
4	その他の実施形態で実施	58	2	0	1	1	54	34.9	28.6	0.0	12.5	14.3	38.3
5	無回答	3	1	0	1	0	1	1.8	14.3	0.0	12.5	0.0	0.7

Q10_11 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ※1（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		98	5	2	14	5	72	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	93	4	2	14	5	68	94.9	80.0	100.0	100.0	100.0	94.4
2	委託事業として実施	2	0	0	0	0	2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8
3	補助事業として実施	2	1	0	0	0	1	2.0	20.0	0.0	0.0	0.0	1.4
4	その他の実施形態で実施	4	0	0	0	0	4	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6
5	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q10_12 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／広報啓発活動※2（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		529	33	15	48	18	415	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	480	21	13	46	18	382	90.7	63.6	86.7	95.8	100.0	92.0
2	委託事業として実施	26	13	4	0	1	8	4.9	39.4	26.7	0.0	5.6	1.9
3	補助事業として実施	3	0	0	1	0	2	0.6	0.0	0.0	2.1	0.0	0.5
4	その他の実施形態で実施	33	2	1	2	0	28	6.2	6.1	6.7	4.2	0.0	6.7
5	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q10_13 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／自治体における有識者会議の設置（既存の会議体での対応も含む）（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		99	18	7	10	7	57	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	90	17	7	10	7	49	90.9	94.4	100.0	100.0	100.0	86.0
2	委託事業として実施	4	0	0	0	0	4	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0
3	補助事業として実施	1	0	0	0	0	1	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8
4	その他の実施形態で実施	2	0	0	0	0	2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5
5	無回答	1	1	0	0	0	0	1.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0

Q10_14 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／ショートステイ、トワイライトステイ（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		109	1	5	9	8	86	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	22	0	1	3	1	17	20.2	0.0	20.0	33.3	12.5	19.8
2	委託事業として実施	75	0	2	6	6	61	68.8	0.0	40.0	66.7	75.0	70.9
3	補助事業として実施	10	1	0	0	1	8	9.2	100.0	0.0	0.0	12.5	9.3
4	その他の実施形態で実施	2	0	2	0	0	0	1.8	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0
5	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q10_15 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／外出時の付き添い・同行支援（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		16	1	1	1	2	11	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	9	1	0	1	0	7	56.3	100.0	0.0	100.0	0.0	63.6
2	委託事業として実施	7	0	1	0	1	5	43.8	0.0	100.0	0.0	50.0	45.5
3	補助事業として実施	1	0	0	0	0	1	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
4	その他の実施形態で実施	1	0	0	0	1	0	6.3	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
5	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q10_16 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／現金給付（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		3	0	0	1	0	2	100.0	-	-	100.0	-	100.0
1	自治体が直接実施	2	0	0	1	0	1	66.7	-	-	100.0	-	50.0
2	委託事業として実施	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-	0.0	-	0.0
3	補助事業として実施	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-	0.0	-	0.0
4	その他の実施形態で実施	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-	0.0	-	0.0
5	無回答	1	0	0	0	0	1	33.3	-	-	0.0	-	50.0

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q10_17 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）（複数回答）

		(件)						%					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		83	7	4	6	4	62	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	18	2	0	1	1	14	21.7	28.6	0.0	16.7	25.0	22.6
2	委託事業として実施	52	4	4	5	3	36	62.7	57.1	100.0	83.3	75.0	58.1
3	補助事業として実施	12	2	0	0	1	9	14.5	28.6	0.0	0.0	25.0	14.5
4	その他の実施形態で実施	8	0	0	0	0	8	9.6	0.0	0.0	0.0	0.0	12.9
5	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q10_18 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／就労支援（複数回答）

		(件)						%					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		26	2	2	0	2	20	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	12	1	0	0	0	11	46.2	50.0	0.0	-	0.0	55.0
2	委託事業として実施	11	1	1	0	2	7	42.3	50.0	50.0	-	100.0	35.0
3	補助事業として実施	1	0	0	0	0	1	3.8	0.0	0.0	-	0.0	5.0
4	その他の実施形態で実施	2	0	1	0	0	1	7.7	0.0	50.0	-	0.0	5.0
5	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0

Q10_19 貴自治体で実施しているヤングケアラー関連の取組（国の予算事業以外の取組を含む）の実施形態を教えてください。同じ取組を複数年度で実施している場合は直近の状況について回答ください。／その他（複数回答）

		(件)						%					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		104	9	3	7	2	83	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自治体が直接実施	76	2	1	6	0	67	73.1	22.2	33.3	85.7	0.0	80.7
2	委託事業として実施	15	4	2	1	2	6	14.4	44.4	66.7	14.3	100.0	7.2
3	補助事業として実施	7	2	0	0	1	4	6.7	22.2	0.0	0.0	50.0	4.8
4	その他の実施形態で実施	13	2	0	0	0	11	12.5	22.2	0.0	0.0	0.0	13.3
5	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q14 貴自治体においてヤングケアラーに関する実態調査を実施していない理由を教えてください。（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	870	5	5	25	3	832	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	当自治体が所在する都道府県が実態調査を実施している（する予定である）ため	283	0	4	18	1	260	32.5	0.0	80.0	72.0	33.3	31.3
2	当自治体に所在する市区町村が実態調査を実施している（する予定である）ため	1	1	0	0	0	0	0.1	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	ヤングケアラーに関わらず支援が必要な子どもについては要保護児童対策地域協議会にてすでに把握しているため	320	1	1	4	3	311	36.8	20.0	20.0	16.0	100.0	37.4
4	実態調査を行わずともヤングケアラーに該当するものはいないと理解しているため	45	0	0	0	0	45	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4
5	実態調査を行わずともヤングケアラーに該当するものがあると理解しているため	29	1	1	4	0	23	3.3	20.0	20.0	16.0	0.0	2.8
6	調査・支援体制（実態調査実施後の課題への対応を含む）ができていないため	230	1	0	1	0	228	26.4	20.0	0.0	4.0	0.0	27.4
7	担当部署が不明確なため	79	0	0	2	0	77	9.1	0.0	0.0	8.0	0.0	9.3
8	予算を確保することが困難なため	58	0	0	0	0	58	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0
9	その他	87	1	1	3	0	82	10.0	20.0	20.0	12.0	0.0	9.9
10	特に理由はない	51	1	0	0	0	50	5.9	20.0	0.0	0.0	0.0	6.0
11	無回答	3	0	0	0	0	3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4

Q15 ここからは2023年9月1日までに実施したことのある「ヤングケアラーに関する関係機関職員研修」についてお伺いします。関係機関職員研修を実施したことのある実施主体を教えてください。（複数回答）

		回答数	%
	全体	405	100.0
1	Q2で回答した、ヤングケアラー支援の主な担当窓口の部門が単独で実施	253	62.5
2	Q2で回答した、ヤングケアラー支援の主な担当窓口の部門が他部門と共同で実施	118	29.1
3	教育部門（教育委員会、学校）が単独で実施（主な担当窓口が教育部門の場合を除く）	54	13.3
4	教育部門（教育委員会、学校）が他部門と共同で実施（主な担当窓口が教育部門の場合を除く）	18	4.4
5	その他の部門が実施	38	9.4
6	無回答	0	0.0

◀「Q15関係機関職員研修の実施主体」の追加集計（教育部門における研修実施状況を把握するため、教育部門が主な担当窓口と回答した自治体の回答内容を調整（選択肢1→3、2→4））▶

		回答数	%
	全体	405	100.0
1	ヤングケアラー支援の主な担当窓口の部門が単独で実施（主な担当窓口が教育部門の場合を除く）	241	59.5
2	ヤングケアラー支援の主な担当窓口の部門が他部門と共同で実施（主な担当窓口が教育部門の場合を除く）	113	27.9
3	教育部門（教育委員会、学校）が単独で実施	66	16.3
4	教育部門（教育委員会、学校）が他部門と共同で実施	23	5.7
5	その他の部門が実施	38	9.4
6	無回答	0	0.0

Q21 貴自治体で配置しているヤングケアラー・コーディネーターが担っている役割を教えてください。（複数回答）

		(件)						(%)					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	117	30	10	17	7	53	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	相談支援・助言等（地域における関係機関等からの相談に対する助言や適切な福祉サービス等へのつなぎなど）	107	26	9	17	7	48	91.5	86.7	90.0	100.0	100.0	90.6
2	研修の実施（地域の関係機関等を対象に、ヤングケアラーの支援に関する研修等を実施）	83	23	8	13	6	33	70.9	76.7	80.0	76.5	85.7	62.3
3	支援者団体と連携等（子ども食堂、学習支援、見守り訪問、家事・育児支援等を行う支援者団体との連携等）	79	20	8	13	7	31	67.5	66.7	80.0	76.5	100.0	58.5
4	関係機関等におけるヤングケアラー支援体制の構築（ヤングケアラーを支援するための体制の構築を図る等）	77	21	5	13	6	32	65.8	70.0	50.0	76.5	85.7	60.4
5	ヤングケアラー支援計画の検討	28	4	2	9	3	10	23.9	13.3	20.0	52.9	42.9	18.9
6	その他	10	5	0	1	0	4	8.5	16.7	0.0	5.9	0.0	7.5
7	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q22 貴自治体におけるスクールソーシャルワーカーの配置の有無を教えてください。（単数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		117	30	10	17	7	53	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	配置している	105	26	10	15	7	47	89.7	86.7	100.0	88.2	100.0	88.7
2	配置していない	12	4	0	2	0	6	10.3	13.3	0.0	11.8	0.0	11.3
3	無回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q23 貴自治体でヤングケアラー・コーディネーターを配置していない理由を教えてください。（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体		1104	17	10	41	16	1020	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ヤングケアラーに該当するものがない（少ない）ため、配置の必要性を感じない	366	0	0	6	1	359	33.2	0.0	0.0	14.6	6.3	35.2
2	スクールソーシャルワーカーがヤングケアラー・コーディネーターの役割を担っているため	107	2	1	4	2	98	9.7	11.8	10.0	9.8	12.5	9.6
3	支援体制ができていないため	383	0	3	9	4	367	34.7	0.0	30.0	22.0	25.0	36.0
4	担当部署が不明確なため	117	0	1	4	1	111	10.6	0.0	10.0	9.8	6.3	10.9
5	予算を確保することが困難なため	200	1	5	5	0	189	18.1	5.9	50.0	12.2	0.0	18.5
6	その他	226	10	5	23	9	179	20.5	58.8	50.0	56.1	56.3	17.5
7	特に理由はない	87	3	0	2	0	82	7.9	17.6	0.0	4.9	0.0	8.0
8	無回答	4	1	0	0	0	3	0.4	5.9	0.0	0.0	0.0	0.3

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q28_1 以下のヤングケアラー関連の取組について、市区町村に主導的な役割を期待する取組はどれですか。なお、※1、2の事業について、現行制度上の国の予算事業における実施主体に該当しない場合であっても回答可能です。／一般市区町村に主導的な役割を期待する取組（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	47	47	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-
1	実態調査・把握	15	15	-	-	-	-	31.9	31.9	-	-	-	-
2	関係機関職員研修	6	6	-	-	-	-	12.8	12.8	-	-	-	-
3	ヤングケアラー・コーディネーターの配置	20	20	-	-	-	-	42.6	42.6	-	-	-	-
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	17	17	-	-	-	-	36.2	36.2	-	-	-	-
5	サロン（（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	2	2	-	-	-	-	4.3	4.3	-	-	-	-
6	外国語対応通訳支援	2	2	-	-	-	-	4.3	4.3	-	-	-	-
7	家事・育児支援	22	22	-	-	-	-	46.8	46.8	-	-	-	-
8	配食支援	7	7	-	-	-	-	14.9	14.9	-	-	-	-
9	食糧支援（フードバンク）	3	3	-	-	-	-	6.4	6.4	-	-	-	-
10	こども食堂	2	2	-	-	-	-	4.3	4.3	-	-	-	-
11	ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ※1	25	25	-	-	-	-	53.2	53.2	-	-	-	-
12	広報啓発活動※2	7	7	-	-	-	-	14.9	14.9	-	-	-	-
13	自治体における有識者会議の設置（既存の会議体での対応も含む）	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
14	ショートステイ、トワイライトステイ	3	3	-	-	-	-	6.4	6.4	-	-	-	-
15	外出時の付き添い・同行支援	1	1	-	-	-	-	2.1	2.1	-	-	-	-
16	現金給付	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	2	2	-	-	-	-	4.3	4.3	-	-	-	-
18	就労支援	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
19	その他	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
20	わからない	1	1	-	-	-	-	2.1	2.1	-	-	-	-
21	無回答	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-

※1 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップは、学校等が把握し市町村の福祉部局等へつないだヤングケアラーの情報を一元的に集計・把握するとともに、ヤングケアラーのその後の生活改善までフォローアップする体制を整備する取組等を指します（以下同様）。

※2 広報啓発活動は、ヤングケアラー認知度向上に係る広報啓発等事業を通じ、関係機関・団体や地域住民等へのヤングケアラーに関する意識の向上を図ることにより、ヤングケアラーへの適切な対応に資することを目的とする取組等を指します（以下同様）。

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q28_2 以下のヤングケアラー関連の取組について、市区町村に主導的な役割を期待する取組はどれですか。なお、※1、2の事業について、現行制度上の国の予算事業における実施主体に該当しない場合であっても回答可能です。／政令指定都市に主導的な役割を期待する取組（複数回答）

		(件)						(%)					
		Q1自治体種別						Q1自治体種別					
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
	全体	47	47	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-
1	実態調査・把握	11	11	-	-	-	-	23.4	23.4	-	-	-	-
2	関係機関職員研修	7	7	-	-	-	-	14.9	14.9	-	-	-	-
3	ヤングケアラー・コーディネーターの配置	20	20	-	-	-	-	42.6	42.6	-	-	-	-
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	11	11	-	-	-	-	23.4	23.4	-	-	-	-
5	サロン（（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	2	2	-	-	-	-	4.3	4.3	-	-	-	-
6	外国語対応通訳支援	1	1	-	-	-	-	2.1	2.1	-	-	-	-
7	家事・育児支援	7	7	-	-	-	-	14.9	14.9	-	-	-	-
8	配食支援	1	1	-	-	-	-	2.1	2.1	-	-	-	-
9	食糧支援（フードバンク）	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
10	こども食堂	2	2	-	-	-	-	4.3	4.3	-	-	-	-
11	ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ※1	17	17	-	-	-	-	36.2	36.2	-	-	-	-
12	広報啓発活動※2	4	4	-	-	-	-	8.5	8.5	-	-	-	-
13	自治体における有識者会議の設置（既存の会議体での対応も含む）	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
14	ショートステイ、トワイライトステイ	1	1	-	-	-	-	2.1	2.1	-	-	-	-
15	外出時の付き添い・同行支援	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
16	現金給付	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
18	就労支援	1	1	-	-	-	-	2.1	2.1	-	-	-	-
19	その他	5	5	-	-	-	-	10.6	10.6	-	-	-	-
20	わからない	10	10	-	-	-	-	21.3	21.3	-	-	-	-
21	無回答	2	2	-	-	-	-	4.3	4.3	-	-	-	-

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

≪「Q28都道府県が政令指定都市に主導的な役割を期待する取組」の集計母数を政令指定都市がある都道府県のものに調整≫

	(件)						(%)					
	Q1自治体種別						Q1自治体種別					
	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村
全体	15	15	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-
1 実態調査・把握	6	6	-	-	-	-	40.0	40.0	-	-	-	-
2 関係機関職員研修	2	2	-	-	-	-	13.3	13.3	-	-	-	-
3 ヤングケアラー・コーディネーターの配置	8	8	-	-	-	-	53.3	53.3	-	-	-	-
4 ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	6	6	-	-	-	-	40.0	40.0	-	-	-	-
5 サロン（（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	1	1	-	-	-	-	6.7	6.7	-	-	-	-
6 外国語対応通訳支援	1	1	-	-	-	-	6.7	6.7	-	-	-	-
7 家事・育児支援	4	4	-	-	-	-	26.7	26.7	-	-	-	-
8 配食支援	1	1	-	-	-	-	6.7	6.7	-	-	-	-
9 食糧支援（フードバンク）	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
10 こども食堂	2	2	-	-	-	-	13.3	13.3	-	-	-	-
11 ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ※1	8	8	-	-	-	-	53.3	53.3	-	-	-	-
12 広報啓発活動※2	1	1	-	-	-	-	6.7	6.7	-	-	-	-
13 自治体における有識者会議の設置（既存の会議体での対応も含む）	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
14 ショートステイ、トワイライトステイ	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
15 外出時の付き添い・同行支援	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
16 現金給付	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
17 学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
18 就労支援	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
19 その他	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-
20 わからない	1	1	-	-	-	-	6.7	6.7	-	-	-	-
21 無回答	0	0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-

地方自治体に対するアンケート（クロス集計表）

Q29_1 以下のヤングケアラー関連の取組について、都道府県に主導的な役割を期待する取組はどれですか。なお、※1、2の事業について、現行制度上の国の予算事業における実施主体に該当しない場合であっても回答可能です。／都道府県に主導的な役割を期待する取組（複数回答）

		(件)						(%)						
		Q1自治体種別						Q1自治体種別						
		全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	全体	都道府県	政令指定都市	中核市	特別区	一般市町村	
	全体	1174	-	20	58	23	1073	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	実態調査・把握	514	-	9	23	4	478	43.8	-	45.0	39.7	17.4	44.5	
2	関係機関職員研修	601	-	6	28	9	558	51.2	-	30.0	48.3	39.1	52.0	
3	ヤングケアラー・コーディネーターの配置	352	-	0	8	6	338	30.0	-	0.0	13.8	26.1	31.5	
4	ピアサポート等相談支援体制の推進（相談窓口の整備等）	321	-	7	19	10	285	27.3	-	35.0	32.8	43.5	26.6	
5	サロン（（元）ヤングケアラー同士の交流の場）の設置・運営、支援（オンライン、対面いずれも含む）	221	-	6	23	13	179	18.8	-	30.0	39.7	56.5	16.7	
6	外国語対応通訳支援	104	-	1	9	4	90	8.9	-	5.0	15.5	17.4	8.4	
7	家事・育児支援	128	-	1	0	0	127	10.9	-	5.0	0.0	0.0	11.8	
8	配食支援	55	-	2	1	1	51	4.7	-	10.0	1.7	4.3	4.8	
9	食糧支援（フードバンク）	42	-	0	1	0	41	3.6	-	0.0	1.7	0.0	3.8	
10	こども食堂	23	-	0	0	0	23	2.0	-	0.0	0.0	0.0	2.1	
11	ヤングケアラー情報のとりまとめ・フォローアップ※1	225	-	3	13	2	207	19.2	-	15.0	22.4	8.7	19.3	
12	広報啓発活動※2	184	-	6	17	6	155	15.7	-	30.0	29.3	26.1	14.4	
13	自治体における有識者会議の設置（既存の会議体での対応も含む）	34	-	1	4	1	28	2.9	-	5.0	6.9	4.3	2.6	
14	ショートステイ、トワイライトステイ	70	-	0	0	0	70	6.0	-	0.0	0.0	0.0	6.5	
15	外出時の付き添い・同行支援	13	-	0	0	0	13	1.1	-	0.0	0.0	0.0	1.2	
16	現金給付	25	-	1	1	0	23	2.1	-	5.0	1.7	0.0	2.1	
17	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	73	-	0	1	0	72	6.2	-	0.0	1.7	0.0	6.7	
18	就労支援	40	-	0	0	1	39	3.4	-	0.0	0.0	4.3	3.6	
19	その他	24	-	4	3	3	14	2.0	-	20.0	5.2	13.0	1.3	
20	わからない	43	-	1	3	1	38	3.7	-	5.0	5.2	4.3	3.5	
21	無回答	5	-	0	0	0	5	0.4	-	0.0	0.0	0.0	0.5	

ヤングケアラー本人（小中学生）に対するアンケート（単純集計表）

Q2 上のQ1で答えた団体もしくは自治体の支援サービスについて教えてください。あなたは次のうち、どのような支援サービスを利用していますか。（複数回答）

		回答数	%
全体		35	100.0
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	24	68.6
2	家事やお世話を代わりにしてもらったり、手伝ってもらったりする（ヘルパーなど）	18	51.4
3	病院などに行くときに一緒にきてもらったりする	5	14.3
4	勉強を見てもらったり、教えてもらったりする	15	42.9
5	食事の準備をしてもらったり（手伝ってもらったり）、お弁当を届けてもらったりする（こども食堂での食事はのぞく）	11	31.4
6	こども食堂	7	20.0
7	居場所、サロン（ほかの人たちと一緒に話をしたりできる場所）	16	45.7
8	その他	3	8.6
9	無回答/無効回答	0	0.0

Q3 これまでに利用したことのある支援サービスのうち、利用してよかったと一番感じるものはどれですか。（単数回答）

		回答数	%
全体		35	100.0
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	8	22.9
2	家事やお世話を代わりにしてもらったり、手伝ってもらったりする（ヘルパーなど）	9	25.7
3	病院などに行くときに一緒にきてもらったりする	0	0.0
4	勉強を見てもらったり、教えてもらったりする	2	5.7
5	食事の準備をしてもらったり（手伝ってもらったり）、お弁当を届けてもらったりする（こども食堂での食事はのぞく）	2	5.7
6	こども食堂	2	5.7
7	居場所、サロン（ほかの人たちと一緒に話をしたりできる場所）	4	11.4
8	その他	1	2.9
9	利用してよかったと感じた支援サービスはない	2	5.7
10	無回答/無効回答	5	14.3

Q4 上のQ3で答えた支援サービスを利用してよかったと感じる理由を教えてください。（複数回答）

		回答数	%
全体		33	100.0
1	お世話の負担が減った	11	33.3
2	これまでより、よいお世話をしてあげられるようになった	1	3.0
3	体の調子がよくなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）	5	15.2
4	こころの負担が減った	17	51.5
5	孤独感（自分は一人きりだと感じる）が減った	9	27.3
6	自分のために使える時間が増えた	8	24.2
7	将来のことを考える時間やきっかけができた	7	21.2
8	学校や勉強に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	10	30.3
9	お金に関する不安が減った	1	3.0
10	お世話を必要とする家族のことが、よりわかるようになった	6	18.2
11	自分と家族の仲がよくなった	3	9.1
12	その他	4	12.1
13	無回答/無効回答	4	12.1

Q5 あなたはQ3で答えた支援サービスをおおよそどのくらいの頻度で利用しましたか。（単数回答）

		回答数	%
全体		33	100.0
1	ほとんど毎日	4	12.1
2	週に2、3回くらい	9	27.3
3	週に1回くらい	13	39.4
4	月に2、3回くらい	2	6.1
5	月に1回くらい	2	6.1
6	2～3か月に1回くらい	2	6.1
7	2～3か月に1回よりも少ない（1回しか利用していない場合も含む）	0	0.0
8	わからない	1	3.0
9	無回答/無効回答	0	0.0

Q6 あなたはQ3で答えた支援サービスをおおよそどのくらいの期間利用しましたか。（単数回答）

		回答数	%
全体		33	100.0
1	1回だけ利用した	0	0.0
2	1か月未満（1回だけの利用の場合を除く）	2	6.1
3	1か月以上～3か月未満	5	15.2
4	3か月以上～6か月未満	3	9.1
5	6か月以上～1年未満	2	6.1
6	1年以上～2年未満	7	21.2
7	2年以上	12	36.4
8	わからない	2	6.1
9	無回答/無効回答	0	0.0

Q9 あなたの学年を教えてください。（単数回答）

《年代別集計》

		回答数	%
全体		35	100.0
1	小学生	16	45.7
2	中学生	19	54.3
3	無回答/無効回答	0	0.0

《学年別集計》

		回答数	%
全体		35	100.0
1	小学1年生	0	0.0
2	小学2年生	3	8.6
3	小学3年生	2	5.7
4	小学4年生	5	14.3
5	小学5年生	3	8.6
6	小学6年生	3	8.6
7	中学1年生	4	11.4
8	中学2年生	3	8.6
9	中学3年生	10	28.6
10	無回答/無効回答	2	5.7

Q10 あなたの性別を教えてください。（単数回答）

		回答数	%
全体		35	100.0
1	男	14	40.0
2	女	19	54.3
3	その他	1	2.9
4	答えたくない	1	2.9
5	無回答/無効回答	0	0.0

Q11 あなたと一緒に住んでいるのは誰ですか。（複数回答）

		回答数	%
全体		35	100.0
1	お母さん	30	85.7
2	お父さん	13	37.1
3	おばあさん	4	11.4
4	おじいさん	1	2.9
5	兄	10	28.6
6	姉	8	22.9
7	弟	16	45.7
8	妹	13	37.1
9	その他	3	8.6
10	無回答/無効回答	0	0.0

Q11 あなたと一緒に住んでいるのは誰ですか。（複数回答）

		回答数	%
全体		35	100.0
1	お母さん	30	85.7
2	お父さん	13	37.1
3	おばあさん	4	11.4
4	おじいさん	1	2.9
5	兄	10	28.6
6	姉	8	22.9
7	弟	16	45.7
8	妹	13	37.1
9	その他	3	8.6
10	無回答/無効回答	0	0.0

Q11_SNT あなたと一緒に住んでいるのは誰ですか。（数値回答）

		回答数			
		兄	姉	弟	妹
全体		10	8	16	13
1	1人	10	7	13	10
2	2人	0	1	3	2
3	3人以上	0	0	0	0
4	無回答/無効回答	0	0	0	1

		%			
		兄	姉	弟	妹
全体		100.0	100.0	100.0	100.0
1	1人	100.0	87.5	81.3	76.9
2	2人	0.0	12.5	18.8	15.4
3	3人以上	0.0	0.0	0.0	0.0
4	無回答/無効回答	0.0	0.0	0.0	7.7

		人			
		兄	姉	弟	妹
平均値		1.0	1.1	1.2	1.2
最小値		1.0	1.0	1.0	1.0
最大値		1.0	2.0	2.0	2.0

Q12 あなたのお世話を必要としている人はどなたですか。（複数回答）

		回答数	%
全体		35	100.0
1	お母さん	19	54.3
2	お父さん	3	8.6
3	おばあさん	3	8.6
4	おじいさん	1	2.9
5	きょうだい	18	51.4
6	その他	1	2.9
7	無回答/無効回答	1	2.9

Q13 お世話が必要な理由を教えてください。（複数回答）

		回答数			
		お母さん/ お父さん	おばあさん/ おじいさん	きょうだい	その他
全体		20	3	18	1
1	高齢（65歳以上）	0	2	-	0
2	若い	-	-	9	0
3	介護（食事や身の回りのお世話）が必要	2	2	1	0
4	認知症	0	2	-	0
5	身体障がい	1	0	0	0
6	知的障がい	0	0	3	0
7	発達障がい ※疑い含む	3	0	6	0
8	こころの病気（うつ病など） ※疑い含む	16	1	3	0
9	依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている）	3	0	0	0
10	8、9以外の病気	4	2	0	0
11	日本語が苦手	1	0	0	0
12	その他	1	0	3	1
13	わからない	1	0	1	0
14	無回答/無効回答	0	0	0	0

		%			
		お母さん/ お父さん	おばあさん/ おじいさん	きょうだい	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0
1	高齢（65歳以上）	0.0	66.7	-	0.0
2	若い	-	-	50.0	0.0
3	介護（食事や身の回りのお世話）が必要	10.0	66.7	5.6	0.0
4	認知症	0.0	66.7	-	0.0
5	身体障がい	5.0	0.0	0.0	0.0
6	知的障がい	0.0	0.0	16.7	0.0
7	発達障がい ※疑い含む	15.0	0.0	33.3	0.0
8	こころの病気（うつ病など） ※疑い含む	80.0	33.3	16.7	0.0
9	依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている）	15.0	0.0	0.0	0.0
10	8、9以外の病気	20.0	66.7	0.0	0.0
11	日本語が苦手	5.0	0.0	0.0	0.0
12	その他	5.0	0.0	16.7	100.0
13	わからない	5.0	0.0	5.6	0.0
14	無回答/無効回答	0.0	0.0	0.0	0.0

Q14 あなたはお世話が必要な家族にどのようなお世話をしていますか。お世話をする人が何人かいる場合には、あてはまる番号すべてに○をしてください。（複数回答）

		回答数	%
全体		35	100.0
1	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	18	51.4
2	入浴やトイレのお世話	9	25.7
3	買い物や散歩と一緒にいく	16	45.7
4	病院へ一緒にいく	10	28.6
5	病院などにいる家族に会いに行く	3	8.6
6	医療的なお世話（痰の吸引など）	1	2.9
7	話を聞く（感情面のサポート）	24	68.6
8	見守り	19	54.3
9	通訳（日本語や手話など）	1	2.9
10	お金の管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	0	0.0
11	薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	7	20.0
12	きょうだいのお世話や送り迎え	9	25.7
13	その他	3	8.6
14	無回答/無効回答	1	2.9

Q15 あなたはどのくらいお世話をしていますか。（単数回答）

		回答数	%
全体		35	100.0
1	ほぼ毎日	21	60.0
2	週に3～5日	5	14.3
3	週に1～2日	6	17.1
4	1か月に数日	2	5.7
5	その他	0	0.0
6	無回答/無効回答	1	2.9

Q16 あなたは平日に何時間くらいお世話をしていますか。（日によって違う場合は、この1か月の中でいちばん長かった日の時間を教えてください。）（単数回答）

		回答数	%
全体		35	100.0
1	1時間未満	8	22.9
2	1時間以上～3時間未満	11	31.4
3	3時間以上～5時間未満	8	22.9
4	5時間以上～7時間未満	3	8.6
5	7時間以上	4	11.4
6	無回答/無効回答	1	2.9

ヤングケアラー本人（小中学生）に対するアンケート（クロス集計表）

Q2 上のQ1で答えた団体もしくは自治体の支援サービスについて教えてください。あなたは次のうち、どのような支援サービスを利用していますか。（複数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
	全体	35	16	19	100.0	100.0	100.0
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	24	9	15	68.6	56.3	78.9
2	家事やお世話を代わりにしてもらったり、手伝ってもらったりする（ヘルパーなど）	18	9	9	51.4	56.3	47.4
3	病院などに行くときに一緒にきてもらったりする	5	0	5	14.3	0.0	26.3
4	勉強を見てもらったり、教えてもらったりする	15	8	7	42.9	50.0	36.8
5	食事の準備をしてもらったり（手伝ってもらったり）、お弁当を届けてもらったりする（こども食堂での食事はのぞく）	11	6	5	31.4	37.5	26.3
6	こども食堂	7	4	3	20.0	25.0	15.8
7	居場所、サロン（ほかの人たちと一緒に話をしたりできる場所）	16	10	6	45.7	62.5	31.6
8	その他	3	1	2	8.6	6.3	10.5
9	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

Q2×家族構成

		(件)						(%)					
		家族構成						家族構成					
		全体	ひとり親家庭（母子家庭）	ひとり親家庭（父子家庭）	二世帯世帯（ふたり親家庭）	三世帯世帯	その他世帯	全体	ひとり親家庭（母子家庭）	ひとり親家庭（父子家庭）	二世帯世帯（ふたり親家庭）	三世帯世帯	その他世帯
	全体	35	16	1	12	1	5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	24	11	1	7	1	4	68.6	68.8	100.0	58.3	100.0	80.0
2	家事やお世話を代わりにしてもらったり、手伝ってもらったりする（ヘルパーなど）	18	10	1	4	0	3	51.4	62.5	100.0	33.3	0.0	60.0
3	病院などに行くときに一緒にきてもらったりする	5	3	0	0	1	1	14.3	18.8	0.0	0.0	100.0	20.0
4	勉強を見てもらったり、教えてもらったりする	15	7	0	4	1	3	42.9	43.8	0.0	33.3	100.0	60.0
5	食事の準備をしてもらったり（手伝ってもらったり）、お弁当を届けてもらったりする（こども食堂での食事はのぞく）	11	6	0	3	0	2	31.4	37.5	0.0	25.0	0.0	40.0
6	こども食堂	7	4	0	3	0	0	20.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
7	居場所、サロン（ほかの人たちと一緒に話をしたりできる場所）	16	7	1	6	0	2	45.7	43.8	100.0	50.0	0.0	40.0
8	その他	3	0	0	3	0	0	8.6	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
9	無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

ヤングケアラー本人（小中学生）に対するアンケート（クロス集計表）

Q3 これまでに利用したことのある支援サービスのうち、利用してよかったと一番感じるものはどれですか。（単数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
	全体	35	16	19	100.0	100.0	100.0
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	8	3	5	22.9	18.8	26.3
2	家事やお世話を代わりにしてもらったり、手伝ってもらったりする（ヘルパーなど）	9	4	5	25.7	25.0	26.3
3	病院などに行くときに一緒にきてもらったりする	0	0	0	0.0	0.0	0.0
4	勉強を見てもらったり、教えてもらったりする	2	1	1	5.7	6.3	5.3
5	食事の準備をしてもらったり（手伝ってもらったり）、お弁当を届けてもらったりする（こども食堂での食事はのぞく）	2	1	1	5.7	6.3	5.3
6	こども食堂	2	1	1	5.7	6.3	5.3
7	居場所、サロン（ほかの人たちと一緒に話をしたりできる場所）	4	2	2	11.4	12.5	10.5
8	その他	1	0	1	2.9	0.0	5.3
9	利用してよかったと感じた支援サービスはない	2	1	1	5.7	6.3	5.3
10	無回答/無効回答	5	3	2	14.3	18.8	10.5

Q3×家族構成

		(件)						(%)					
		家族構成						家族構成					
		全体	ひとり親家庭（母子家庭）	ひとり親家庭（父子家庭）	二世帯世帯（ふたり親家庭）	三世帯世帯	その他世帯	全体	ひとり親家庭（母子家庭）	ひとり親家庭（父子家庭）	二世帯世帯（ふたり親家庭）	三世帯世帯	その他世帯
	全体	35	16	1	12	1	5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	8	2	0	5	0	1	22.9	12.5	0.0	41.7	0.0	20.0
2	家事やお世話を代わりにしてもらったり、手伝ってもらったりする（ヘルパーなど）	9	4	0	2	0	3	25.7	25.0	0.0	16.7	0.0	60.0
3	病院などに行くときに一緒にきてもらったりする	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	勉強を見てもらったり、教えてもらったりする	2	0	0	1	1	0	5.7	0.0	0.0	8.3	100.0	0.0
5	食事の準備をもらったり（手伝ってもらったり）、お弁当を届けてもらったりする（こども食堂での食事はのぞく）	2	2	0	0	0	0	5.7	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
6	こども食堂	2	2	0	0	0	0	5.7	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
7	居場所、サロン（ほかの人たちと一緒に話をしたりできる場所）	4	2	1	1	0	0	11.4	12.5	100.0	8.3	0.0	0.0
8	その他	1	0	0	1	0	0	2.9	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
9	利用してよかったと感じた支援サービスはない	2	1	0	1	0	0	5.7	6.3	0.0	8.3	0.0	0.0
10	無回答/無効回答	5	3	0	1	0	1	14.3	18.8	0.0	8.3	0.0	20.0

Q4 上のQ3で答えた支援サービスを利用してよかったと感じる理由を教えてください。（複数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
	全体	33	15	18	100.0	100.0	100.0
1	お世話の負担が減った	11	3	8	33.3	20.0	44.4
2	これまでより、よいお世話をしあられるようになった	1	0	1	3.0	0.0	5.6
3	体の調子がよくなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）	5	3	2	15.2	20.0	11.1
4	こころの負担が減った	17	5	12	51.5	33.3	66.7
5	孤独感（自分は一人きりだと感じること）が減った	9	3	6	27.3	20.0	33.3
6	自分のために使える時間が増えた	8	3	5	24.2	20.0	27.8
7	将来のことを考える時間やきっかけができた	7	1	6	21.2	6.7	33.3
8	学校や勉強に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	10	4	6	30.3	26.7	33.3
9	お金に関する不安が減った	1	0	1	3.0	0.0	5.6
10	お世話を必要とする家族のことが、よりわかるようになった	6	2	4	18.2	13.3	22.2
11	自分と家族の仲がよくなった	3	1	2	9.1	6.7	11.1
12	その他	4	4	0	12.1	26.7	0.0
13	無回答/無効回答	4	2	2	12.1	13.3	11.1

Q4×家族構成

		(件)						(%)					
		家族構成						家族構成					
		全体	ひとり親家庭（母子家庭）	ひとり親家庭（父子家庭）	二世帯世帯（ふたり親家庭）	三世帯世帯	その他世帯	全体	ひとり親家庭（母子家庭）	ひとり親家庭（父子家庭）	二世帯世帯（ふたり親家庭）	三世帯世帯	その他世帯
	全体	33	15	1	11	1	5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	お世話の負担が減った	11	5	0	4	0	2	33.3	33.3	0.0	36.4	0.0	40.0
2	これまでより、よいお世話をしあられるようになった	1	0	0	1	0	0	3.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
3	体の調子がよくなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）	5	0	0	4	0	1	15.2	0.0	0.0	36.4	0.0	20.0
4	こころの負担が減った	17	7	0	7	1	2	51.5	46.7	0.0	63.6	100.0	40.0
5	孤独感（自分は一人きりだと感じること）が減った	9	3	0	4	1	1	27.3	20.0	0.0	36.4	100.0	20.0
6	自分のために使える時間が増えた	8	1	0	4	1	2	24.2	6.7	0.0	36.4	100.0	40.0
7	将来のことを考える時間やきっかけができた	7	1	0	4	1	1	21.2	6.7	0.0	36.4	100.0	20.0
8	学校や勉強に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	10	4	0	4	1	1	30.3	26.7	0.0	36.4	100.0	20.0
9	お金に関する不安が減った	1	0	0	1	0	0	3.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
10	お世話を必要とする家族のことが、よりわかるようになった	6	3	0	3	0	0	18.2	20.0	0.0	27.3	0.0	0.0
11	自分と家族の仲がよくなった	3	1	0	2	0	0	9.1	6.7	0.0	18.2	0.0	0.0
12	その他	4	1	1	2	0	0	12.1	6.7	100.0	18.2	0.0	0.0
13	無回答/無効回答	4	3	0	0	0	1	12.1	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0

Q4×Q3利用してよかったと一番感じる支援サービス

(件)

Q3 利用してよかったと一番感じる支援サービス										
	全体	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	家事やお世話を代わりにしてもらったり、手伝ってもらったりする（ヘルパーなど）	病院などに行くときに一緒にきてもらう	勉強を見てもらったり、教えてもらったりする	食事の準備をしてもらったり（手伝ってもらったり）、お弁当を届けてもらったりする（こども食堂での食事はのぞく）	こども食堂	居場所、サロン（ほかの人たちと一緒に話したりできる場所）	その他	無回答/無効回答
全体	33	8	9	0	2	2	2	4	1	5
1	お世話の負担が減った	11	3	4	0	1	0	1	1	0
2	これまでより、よいお世話をしあられるようになった	1	0	0	0	0	0	0	1	0
3	体の調子よくなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）	5	2	1	0	0	0	0	1	1
4	こころの負担が減った	17	8	2	0	1	0	1	2	2
5	孤独感（自分は一人きりだと感じる）が減った	9	3	1	0	1	0	0	1	2
6	自分のために使える時間が増えた	8	4	2	0	1	0	0	1	0
7	将来のことを考える時間やきっかけができた	7	4	0	0	1	0	0	1	0
8	学校や勉強に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	10	3	1	0	2	1	0	2	0
9	お金に関する不安が減った	1	0	0	0	0	0	0	1	0
10	お世話を必要とする家族のことが、よりわかるようになった	6	2	0	0	0	0	1	0	2
11	自分と家族の仲がよくなった	3	2	0	0	0	0	0	0	1
12	その他	4	0	1	0	0	1	0	2	0
13	無回答/無効回答	4	0	1	0	0	0	0	0	3

(%)

Q3 利用してよかったと一番感じる支援サービス										
	全体	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	家事やお世話を代わりにしてもらったり、手伝ってもらったりする（ヘルパーなど）	病院などに行くときに一緒にきてもらう	勉強を見てもらったり、教えてもらったりする	食事の準備をもらったり（手伝ってもらったり）、お弁当を届けてもらったりする（こども食堂での食事はのぞく）	こども食堂	居場所、サロン（ほかの人たちと一緒に話したりできる場所）	その他	無回答/無効回答
全体	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	お世話の負担が減った	33.3	37.5	44.4	-	50.0	50.0	0.0	25.0	100.0
2	これまでより、よいお世話をしあられるようになった	3.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
3	体の調子よくなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）	15.2	25.0	11.1	-	0.0	0.0	0.0	100.0	20.0
4	こころの負担が減った	51.5	100.0	22.2	-	50.0	0.0	50.0	50.0	100.0
5	孤独感（自分は一人きりだと感じる）が減った	27.3	37.5	11.1	-	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0
6	自分のために使える時間が増えた	24.2	50.0	22.2	-	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
7	将来のことを考える時間やきっかけができた	21.2	50.0	0.0	-	50.0	0.0	0.0	25.0	100.0
8	学校や勉強に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	30.3	37.5	11.1	-	100.0	50.0	0.0	50.0	100.0
9	お金に関する不安が減った	3.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
10	お世話を必要とする家族のことが、よりわかるようになった	18.2	25.0	0.0	-	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0
11	自分と家族の仲がよくなった	9.1	25.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
12	その他	12.1	0.0	11.1	-	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
13	無回答/無効回答	12.1	0.0	11.1	-	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0

ヤングケアラー本人（小中学生）に対するアンケート（クロス集計表）

Q10 あなたの性別を教えてください。（単数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
全体		35	16	19	100.0	100.0	100.0
1	男	14	8	6	40.0	50.0	31.6
2	女	19	8	11	54.3	50.0	57.9
3	その他	1	0	1	2.9	0.0	5.3
4	答えたくない	1	0	1	2.9	0.0	5.3
5	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

Q11 あなたと一緒に住んでいるのは誰ですか。（複数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
全体		35	16	19	100.0	100.0	100.0
1	お母さん	30	13	17	85.7	81.3	89.5
2	お父さん	13	7	6	37.1	43.8	31.6
3	おばあさん	4	1	3	11.4	6.3	15.8
4	おじいさん	1	1	0	2.9	6.3	0.0
5	兄	10	5	5	28.6	31.3	26.3
6	姉	8	3	5	22.9	18.8	26.3
7	弟	16	8	8	45.7	50.0	42.1
8	妹	13	6	7	37.1	37.5	36.8
9	その他	3	1	2	8.6	6.3	10.5
10	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

<家族構成>

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
全体		35	16	19	100.0	100.0	100.0
1	ひとり親家庭（母子家庭）	16	6	10	45.7	37.5	52.6
2	ひとり親家庭（父子家庭）	1	1	0	2.9	6.3	0.0
3	二世帯世帯（ふたり親家庭）	12	6	6	34.3	37.5	31.6
4	三世帯世帯	1	0	1	2.9	0.0	5.3
5	その他世帯	5	3	2	14.3	18.8	10.5
6	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

ヤングケアラー本人（小中学生）に対するアンケート（クロス集計表）

Q12 あなたの介護を必要としている人はどなたですか。（複数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
全体		35	16	19	100.0	100.0	100.0
1	お母さん	19	9	10	54.3	56.3	52.6
2	お父さん	3	2	1	8.6	12.5	5.3
3	おばあさん	3	1	2	8.6	6.3	10.5
4	おじいさん	1	1	0	2.9	6.3	0.0
5	きょうだい	18	6	12	51.4	37.5	63.2
6	その他	1	0	1	2.9	0.0	5.3
7	無回答/無効回答	1	1	0	2.9	6.3	0.0

Q13-1 お母さん、あるいはお父さんをお世話している人にお聞きます。お母さん、あるいはお父さんへのお世話が必要な理由を教えてください。（複数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
全体		20	10	10	100.0	100.0	100.0
1	高齢（65歳以上）	0	0	0	0.0	0.0	0.0
2	介護（食事や身の回りのお世話）が必要	2	0	2	10.0	0.0	20.0
3	認知症	0	0	0	0.0	0.0	0.0
4	身体障がい	1	0	1	5.0	0.0	10.0
5	知的障がい	0	0	0	0.0	0.0	0.0
6	発達障がい ※疑い含む	3	1	2	15.0	10.0	20.0
7	こころの病気（うつ病など） ※疑い含む	16	7	9	80.0	70.0	90.0
8	依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている）	3	1	2	15.0	10.0	20.0
9	7、8以外の病気	4	3	1	20.0	30.0	10.0
10	日本語が苦手	1	0	1	5.0	0.0	10.0
11	その他	1	0	1	5.0	0.0	10.0
12	わからない	1	1	0	5.0	10.0	0.0
13	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

Q13-2 おばあさん、あるいはおじいさんをお世話している人にお聞きます。おばあさん、あるいはおじいさんへのお世話が必要な理由を教えてください。（複数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
全体		3	1	2	100.0	100.0	100.0
1	高齢（65歳以上）	2	1	1	66.7	100.0	50.0
2	介護（食事や身の回りのお世話）が必要	2	1	1	66.7	100.0	50.0
3	認知症	2	1	1	66.7	100.0	50.0
4	身体障がい	0	0	0	0.0	0.0	0.0
5	知的障がい	0	0	0	0.0	0.0	0.0
6	発達障がい ※疑い含む	0	0	0	0.0	0.0	0.0
7	こころの病気（うつ病など） ※疑い含む	1	1	0	33.3	100.0	0.0
8	依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている）	0	0	0	0.0	0.0	0.0
9	7、8以外の病気	2	1	1	66.7	100.0	50.0
10	日本語が苦手	0	0	0	0.0	0.0	0.0
11	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
12	わからない	0	0	0	0.0	0.0	0.0
13	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

ヤングケアラー本人（小中学生）に対するアンケート（クロス集計表）

Q13-3 きょうだいをお世話している人にお聞きします。きょうだいへのお世話がが必要な理由を教えてください。（複数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
全体		18	6	12	100.0	100.0	100.0
1	幼い	9	4	5	50.0	66.7	41.7
2	介護（食事や身の回りのお世話）が必要	1	1	0	5.6	16.7	0.0
3	身体障がい	0	0	0	0.0	0.0	0.0
4	知的障がい	3	0	3	16.7	0.0	25.0
5	発達障がい ※疑い含む	6	1	5	33.3	16.7	41.7
6	こころの病気（うつ病など） ※疑い含む	3	1	2	16.7	16.7	16.7
7	依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている）	0	0	0	0.0	0.0	0.0
8	6、7以外の病気	0	0	0	0.0	0.0	0.0
9	日本語が苦手	0	0	0	0.0	0.0	0.0
10	その他	3	1	2	16.7	16.7	16.7
11	わからない	1	1	0	5.6	16.7	0.0
12	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

Q13-4 「その他」の人をお世話している人にお聞きします。「その他」の人へのお世話がが必要な理由を教えてください。（複数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
全体		1	0	1	100.0	-	100.0
1	高齢（65歳以上）	0	0	0	0.0	-	0.0
2	幼い	0	0	0	0.0	-	0.0
3	介護（食事や身の回りのお世話）が必要	0	0	0	0.0	-	0.0
4	認知症	0	0	0	0.0	-	0.0
5	身体障がい	0	0	0	0.0	-	0.0
6	知的障がい	0	0	0	0.0	-	0.0
7	発達障がい ※疑い含む	0	0	0	0.0	-	0.0
8	こころの病気（うつ病など） ※疑い含む	0	0	0	0.0	-	0.0
9	依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている）	0	0	0	0.0	-	0.0
10	8、9以外の病気	0	0	0	0.0	-	0.0
11	日本語が苦手	0	0	0	0.0	-	0.0
12	その他	1	0	1	100.0	-	100.0
13	わからない	0	0	0	0.0	-	0.0
14	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	-	0.0

ヤングケアラー本人（小中学生）に対するアンケート（クロス集計表）

Q14 あなたはお世話が必要な家族にどのようなお世話をしていますか。お世話をする人が何人かいる場合には、あてはまる番号すべてに○をしてください。（複数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
全体		35	16	19	100.0	100.0	100.0
1	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	18	8	10	51.4	50.0	52.6
2	入浴やトイレのお世話	9	3	6	25.7	18.8	31.6
3	買い物や散歩と一緒にいく	16	8	8	45.7	50.0	42.1
4	病院へ一緒に行く	10	5	5	28.6	31.3	26.3
5	病院などにいる家族に会いに行く	3	2	1	8.6	12.5	5.3
6	医療的なお世話（痰の吸引など）	1	0	1	2.9	0.0	5.3
7	話を聞く（感情面のサポート）	24	10	14	68.6	62.5	73.7
8	見守り	19	7	12	54.3	43.8	63.2
9	通訳（日本語や手話など）	1	0	1	2.9	0.0	5.3
10	お金の管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	0	0	0	0.0	0.0	0.0
11	薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	7	3	4	20.0	18.8	21.1
12	きょうだいのお世話や送り迎え	9	2	7	25.7	12.5	36.8
13	その他	3	1	2	8.6	6.3	10.5
14	無回答/無効回答	1	1	0	2.9	6.3	0.0

Q15 あなたはどのくらいお世話をしていますか。（単数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
全体		35	16	19	100.0	100.0	100.0
1	ほぼ毎日	21	7	14	60.0	43.8	73.7
2	週に3～5日	5	4	1	14.3	25.0	5.3
3	週に1～2日	6	3	3	17.1	18.8	15.8
4	1か月に数日	2	1	1	5.7	6.3	5.3
5	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
6	無回答/無効回答	1	1	0	2.9	6.3	0.0

Q16 あなたは平日に何時間くらいお世話をしていますか。（日によって違う場合は、この1か月の中でいちばん長かった日の時間を教えてください。）（単数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生
全体		35	16	19	100.0	100.0	100.0
1	1時間未満	8	5	3	22.9	31.3	15.8
2	1時間以上～3時間未満	11	6	5	31.4	37.5	26.3
3	3時間以上～5時間未満	8	2	6	22.9	12.5	31.6
4	5時間以上～7時間未満	3	0	3	8.6	0.0	15.8
5	7時間以上	4	2	2	11.4	12.5	10.5
6	無回答/無効回答	1	1	0	2.9	6.3	0.0

ヤングケアラー本人（高校生世代以上）に対するアンケート（単純集計表）

Q0 16才未満の方の回答には、保護者もしくは責任のある成人の方の同意が必要です。2023年10月1日現在、あなたが16才未満である場合は、保護者もしくは責任のある成人の方（支援団体や行政の支援スタッフの方など）に今回のアンケート案内を確認してもらい、回答の同意をもらってください。（単数回答）

		回答数	%
全体		43	100.0
1	16歳以上のため同意は不要	41	95.3
2	16歳未満であり、同意をもらった	2	4.7
3	無回答/無効回答	0	0.0

Q1 あなたの学年/年齢を教えてください。（単数回答）

《年代別集計》

		回答数	%
全体		43	100.0
1	高校生世代	19	44.2
2	若者世代	24	55.8
3	無回答/無効回答	0	0.0

《学年別集計》

		回答数	%
全体		43	100.0
1	高校1年生世代（2007年4月2日～2008年4月1日生まれ）	6	14.0
2	高校2年生世代（2006年4月2日～2007年4月1日生まれ）	5	11.6
3	高校3年生世代（2005年4月2日～2006年4月1日生まれ）	8	18.6
4	19才世代（2004年4月2日～2005年4月1日生まれ）	4	9.3
5	20才世代（2003年4月2日～2004年4月1日生まれ）	1	2.3
6	21才世代（2002年4月2日～2003年4月1日生まれ）	2	4.7
7	22才世代（2001年4月2日～2002年4月1日生まれ）	1	2.3
8	23才世代～25才世代（1998年4月2日～2001年4月1日生まれ）	3	7.0
9	26才世代以上（おおむね30才世代まで）（おおむね1993年4月2日～1998年4月1日生まれ）	13	30.2
10	無回答/無効回答	0	0.0

Q2 あなたの現在の就学・就業状況等を教えてください。（複数回答）

		回答数	%
全体		43	100.0
1	学生・生徒（予備校生などを含む）	21	48.8
2	正規の社員・職員・従業員	2	4.7
3	非正規の社員・職員・従業員（パート・アルバイトを含む）	13	30.2
4	その他	1	2.3
5	就学・就業はしていない	7	16.3
6	無回答/無効回答	0	0.0

Q3 現在在学している学校を教えてください。（単数回答）

		回答数	%
全体		21	100.0
1	高等学校（全日制高校）	4	19.0
2	高等学校（定時制高校）	6	28.6
3	専修学校・専門学校	1	4.8
4	高等専門学校・短期大学	0	0.0
5	大学・大学院	3	14.3
6	その他	7	33.3
7	無回答/無効回答	0	0.0

Q4 あなたの性別を教えてください。（単数回答）

		回答数	%
全体		43	100.0
1	男	14	32.6
2	女	27	62.8
3	その他	0	0.0
4	答えたくない	2	4.7
5	無回答/無効回答	0	0.0

Q5 あなたが住んでいる都道府県はどこですか。（単数回答）

《地域別集計》

		回答数	%
全体		43	100.0
1	北海道・東北地方	9	20.9
2	関東地方	10	23.3
3	中部地方	4	9.3
4	近畿地方	12	27.9
5	中国・四国地方	1	2.3
6	九州地方	7	16.3
7	無回答/無効回答	0	0.0

《都道府県別集計》

		回答数	%
全体		43	100.0
1	北海道	3	7.0
2	青森県	0	0.0
3	岩手県	0	0.0
4	宮城県	1	2.3
5	秋田県	0	0.0
6	山形県	0	0.0
7	福島県	5	11.6
8	茨城県	1	2.3
9	栃木県	0	0.0
10	群馬県	1	2.3
11	埼玉県	0	0.0
12	千葉県	1	2.3
13	東京都	5	11.6
14	神奈川県	2	4.7
15	新潟県	0	0.0
16	富山県	0	0.0
17	石川県	0	0.0
18	福井県	0	0.0
19	山梨県	0	0.0
20	長野県	2	4.7
21	岐阜県	0	0.0
22	静岡県	2	4.7
23	愛知県	0	0.0
24	三重県	0	0.0
25	滋賀県	3	7.0
26	京都府	0	0.0
27	大阪府	1	2.3
28	兵庫県	8	18.6
29	奈良県	0	0.0
30	和歌山県	0	0.0
31	鳥取県	0	0.0
32	島根県	0	0.0
33	岡山県	0	0.0
34	広島県	0	0.0
35	山口県	0	0.0
36	徳島県	0	0.0
37	香川県	0	0.0
38	愛媛県	0	0.0
39	高知県	1	2.3
40	福岡県	2	4.7
41	佐賀県	4	9.3
42	長崎県	0	0.0
43	熊本県	1	2.3
44	大分県	0	0.0
45	宮崎県	0	0.0
46	鹿児島県	0	0.0
47	沖縄県	0	0.0
48	無回答/無効回答	0	0.0

Q6 あなたの現在の住まい方を教えてください。（単数回答）

		回答数	%
全体		43	100.0
1	家族と同居	28	65.1
2	一人暮らし	9	20.9
3	寮	1	2.3
4	その他	5	11.6
5	無回答/無効回答	0	0.0

Q7 あなたが現在一緒に住んでいる家族について教えてください。（複数回答）

		回答数	%
全体		28	100.0
1	母親	22	78.6
2	父親	16	57.1
3	兄	2	7.1
4	姉	2	7.1
5	弟	12	42.9
6	妹	9	32.1
7	祖母	2	7.1
8	祖父	0	0.0
9	曾祖母	0	0.0
10	曾祖父	0	0.0
11	叔母	0	0.0
12	叔父	0	0.0
13	あなたの配偶者・パートナー	1	3.6
14	あなたの子	1	3.6
15	いとこ	0	0.0
16	甥、姪	1	3.6
17	母親のパートナー	0	0.0
18	父親のパートナー	0	0.0
19	その他	0	0.0
20	無回答/無効回答	0	0.0

Q7_SNT あなたが現在一緒に住んでいる家族について教えてください。（数値回答）

		回答数			
		兄	姉	弟	妹
全体		2	2	12	9
1	1人	2	1	8	8
2	2人	0	1	1	1
3	3人以上	0	0	3	0
4	無回答/無効回答	0	0	0	0

		%			
		兄	姉	弟	妹
全体		100.0	100.0	100.0	100.0
1	1人	100.0	50.0	66.7	88.9
2	2人	0.0	50.0	8.3	11.1
3	3人以上	0.0	0.0	25.0	0.0
4	無回答/無効回答	0.0	0.0	0.0	0.0

		人			
		兄	姉	弟	妹
	平均値	1.0	1.5	1.6	1.1
	最小値	1.0	1.0	1.0	1.0
	最大値	1.0	2.0	3.0	2.0

Q8 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。（単数回答）

		回答数	%
全体		43	100.0
1	現在いる	32	74.4
2	現在はいるが、過去にいた	11	25.6
3	無回答/無効回答	0	0.0

Q9 あなたのお世話を必要としている人はどなたですか。（複数回答）

		回答数	%
全体		43	100.0
1	母親	31	72.1
2	父親	11	25.6
3	祖母	2	4.7
4	祖父	0	0.0
5	きょうだい	24	55.8
6	その他	2	4.7
7	無回答/無効回答	0	0.0

Q10 お世話を必要としている方の状況を教えてください。（複数回答）

		回答数					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体		31	11	2	0	24	2
1	高齢（65歳以上）	1	1	2	0	0	0
2	若い	0	0	0	0	7	1
3	要介護（介護が必要な状態）	3	4	0	0	1	0
4	認知症	0	0	1	0	0	0
5	身体障がい	2	4	0	0	1	0
6	知的障がい	2	0	0	0	4	1
7	発達障がい（疑いを含む）	5	1	0	0	13	2
8	精神疾患（疑いを含む）	28	2	1	0	6	0
9	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	0	2	0	0	0	0
10	精神疾患、依存症以外の病気	2	3	1	0	3	0
11	日本語が苦手、わからない	0	1	0	0	1	1
12	その他	2	2	0	0	4	1
13	無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0

		%					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体		100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0
1	高齢（65歳以上）	3.2	9.1	100.0	0.0	0.0	0.0
2	若い	0.0	0.0	0.0	0.0	29.2	50.0
3	要介護（介護が必要な状態）	9.7	36.4	0.0	0.0	4.2	0.0
4	認知症	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
5	身体障がい	6.5	36.4	0.0	0.0	4.2	0.0
6	知的障がい	6.5	0.0	0.0	0.0	16.7	50.0
7	発達障がい（疑いを含む）	16.1	9.1	0.0	0.0	54.2	100.0
8	精神疾患（疑いを含む）	90.3	18.2	50.0	0.0	25.0	0.0
9	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0
10	精神疾患、依存症以外の病気	6.5	27.3	50.0	0.0	12.5	0.0
11	日本語が苦手、わからない	0.0	9.1	0.0	0.0	4.2	50.0
12	その他	6.5	18.2	0.0	0.0	16.7	50.0
13	無回答/無効回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q11 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。（複数回答）

		回答数					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体		31	9	2	0	24	2
1	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	16	8	2	0	11	2
2	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	6	0	0	0	15	1
3	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	3	0	0	0	3	0
4	外出の付き添い（買い物、散歩など）	12	4	1	0	6	0
5	通院の付き添い	12	4	0	0	8	0
6	入院や入所をしている家族との面会	5	0	0	0	3	0
7	医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	1	0	0	0	0	0
8	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	24	8	1	0	13	1
9	見守り	17	2	0	0	17	1
10	通訳（日本語や手話など）	0	1	0	0	0	0
11	金銭管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	7	1	0	0	5	0
12	家計支援（家族のためにバイトで働くなど）	14	4	0	0	8	1
13	薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	4	2	0	0	4	0
14	その他	2	3	0	0	5	1
15	無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0

		%					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体		100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0
1	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	51.6	88.9	100.0	0.0	45.8	100.0
2	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	19.4	0.0	0.0	0.0	62.5	50.0
3	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	9.7	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
4	外出の付き添い（買い物、散歩など）	38.7	44.4	50.0	0.0	25.0	0.0
5	通院の付き添い	38.7	44.4	0.0	0.0	33.3	0.0
6	入院や入所をしている家族との面会	16.1	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
7	医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	77.4	88.9	50.0	0.0	54.2	50.0
9	見守り	54.8	22.2	0.0	0.0	70.8	50.0
10	通訳（日本語や手話など）	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
11	金銭管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	22.6	11.1	0.0	0.0	20.8	0.0
12	家計支援（家族のためにバイトで働くなど）	45.2	44.4	0.0	0.0	33.3	50.0
13	薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	12.9	22.2	0.0	0.0	16.7	0.0
14	その他	6.5	33.3	0.0	0.0	20.8	50.0
15	無回答/無効回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q12 あなたはどのくらいの頻度でお世話をしていますか。（単数回答）

		回答数	%
全体		43	100.0
1	ほぼ毎日	31	72.1
2	週に3～5日	7	16.3
3	週に1～2日	1	2.3
4	1か月に数日	3	7.0
5	その他	1	2.3
6	無回答/無効回答	0	0.0

Q13 平日にお世話は何時間程度行っていますか。（単数回答）

		回答数	%
全体		43	100.0
1	1時間未満	5	11.6
2	1時間以上3時間未満	15	34.9
3	3時間以上5時間未満	14	32.6
4	5時間以上7時間未満	5	11.6
5	7時間以上	4	9.3
6	無回答/無効回答	0	0.0

Q15 Q14の支援団体や自治体の支援サービスを知ったきっかけを教えてください。（複数回答）

全体		回答数	%
1	学校からの紹介	13	32.5
2	家族からの紹介	34	85.0
3	友達からの紹介	1	2.5
4	支援団体や自治体のホームページ（インターネット検索）	14	35.0
5	SNS	3	7.5
6	その他	16	40.0
7	無回答/無効回答	0	0.0

Q16 Q14の支援団体や自治体の支援サービスを利用したきっかけを教えてください。（複数回答）

全体		回答数	%
1	相談しやすい雰囲気があるから	22	51.2
2	悩んでいることについて詳しくさうだから	17	39.5
3	親身になって話を聞いてくれさうだから	17	39.5
4	悩みを解決してくれさうだから	14	32.6
5	同じ悩みを持っている仲間に出会えさうだから	11	25.6
6	相談しやすい場所にある（いる）から	15	34.9
7	いつでも電話やメールで相談にのってくれさうだから	14	32.6
8	その他	8	18.6
9	無回答/無効回答	0	0.0

Q17 Q14の支援団体や自治体が行う支援サービスについてお聞きします。あなたは次のうち、どのような支援サービスを利用していますか（していましたか）。（複数回答）

全体		回答数	%
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	33	76.7
2	家事やお世話の代行、手伝い	8	18.6
3	外出時の付き添い	10	23.3
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	13	30.2
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	14	32.6
6	子ども食堂	11	25.6
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	20	46.5
8	就労支援	15	34.9
9	その他	6	14.0
10	無回答/無効回答	0	0.0

Q18 これまでに利用したことのある支援サービスのうち、利用してよかったと一番に感じるものはどれですか。（単数回答）

		回答数	%
全体		43	100.0
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	19	44.2
2	家事やお世話の代行、手伝い	1	2.3
3	外出時の付き添い	0	0.0
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	3	7.0
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	4	9.3
6	こども食堂	2	4.7
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	6	14.0
8	就労支援	1	2.3
9	その他	5	11.6
10	利用してよかったと感じた支援サービスはない	1	2.3
11	無回答/無効回答	1	2.3

Q19 支援サービスを利用してよかったと感じる理由を教えてください。（複数回答）

		回答数	%
全体		42	100.0
1	お世話の負担が減った	14	33.3
2	以前よりよいお世話をしあえられるようになった	12	28.6
3	体の調子よくなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）	10	23.8
4	精神的な負担、ストレスが減った	30	71.4
5	孤独感が減った	27	64.3
6	自分のために使える時間が増えた	20	47.6
7	将来について考える時間やきっかけができた	26	61.9
8	学校や勉強、仕事に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	15	35.7
9	経済的な不安が減った	14	33.3
10	お世話を必要とする家族の状況をより理解できるようになった	12	28.6
11	自分と家族の仲がよくなった	11	26.2
12	その他	4	9.5
13	無回答/無効回答	0	0.0

Q20 あなたはその支援サービスをおおよそどのくらいの頻度で利用しましたか。（単数回答）

全体		回答数	%
1	ほぼ毎日	5	11.9
2	週に2、3回程度	9	21.4
3	週に1回程度	5	11.9
4	月に2、3回程度	10	23.8
5	月に1回程度	10	23.8
6	2～3か月に1回程度	1	2.4
7	2～3か月に1回未満（利用回数が1回のみを含む）	0	0.0
8	わからない	2	4.8
9	無回答/無効回答	0	0.0

Q21 あなたはその支援サービスをおおよそどのくらいの期間利用しましたか。（単数回答）

全体		回答数	%
1	1回のみ利用	4	9.5
2	1か月未満（1回のみ利用の場合を除く）	0	0.0
3	1か月～3か月未満	3	7.1
4	3か月～6か月未満	1	2.4
5	6か月～1年未満	6	14.3
6	1年～2年未満	11	26.2
7	2年以上	15	35.7
8	わからない	2	4.8
9	無回答/無効回答	0	0.0

Q22 現在、家族の中にあなたがお世話をしている人はいないものの、過去にいた、という人にお聞きます。その支援サービスを受けたのはあなたがおよそ何才くらいの時ですか。（単数回答）

全体		回答数	%
1	小学生の時	2	16.7
2	中学生の時	4	33.3
3	高校生の世代の時	3	25.0
4	19～25才の時	1	8.3
5	26才以降	2	16.7
6	無回答/無効回答	0	0.0

ヤングケアラー本人（高校生世代以上）に対するアンケート（クロス集計表）

Q2 あなたの現在の就学・就業状況等を教えてください。（複数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
全体		43	19	24	100.0	100.0	100.0
1	学生・生徒（予備校生などを含む）	21	17	4	48.8	89.5	16.7
2	正規の社員・職員・従業員	2	0	2	4.7	0.0	8.3
3	非正規の社員・職員・従業員（パート・アルバイトを含む）	13	3	10	30.2	15.8	41.7
4	その他	1	0	1	2.3	0.0	4.2
5	就学・就業はしていない	7	0	7	16.3	0.0	29.2
6	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

Q3 現在在学している学校を教えてください。（単数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
全体		21	17	4	100.0	100.0	100.0
1	高等学校（全日制高校）	4	4	0	19.0	23.5	0.0
2	高等学校（定時制高校）	6	6	0	28.6	35.3	0.0
3	専修学校・専門学校	1	0	1	4.8	0.0	25.0
4	高等専門学校・短期大学	0	0	0	0.0	0.0	0.0
5	大学・大学院	3	0	3	14.3	0.0	75.0
6	その他	7	7	0	33.3	41.2	0.0
7	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

Q4 あなたの性別を教えてください。（単数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
	全体	43	19	24	100.0	100.0	100.0
1	男	14	5	9	32.6	26.3	37.5
2	女	27	14	13	62.8	73.7	54.2
3	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
4	答えたくない	2	0	2	4.7	0.0	8.3
5	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

《小中学生、高校生世代以上統合版》

		(件)					(%)				
		年代					年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
	全体	78	16	19	19	24	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	男	28	8	6	5	9	35.9	50.0	31.6	26.3	37.5
2	女	46	8	11	14	13	59.0	50.0	57.9	73.7	54.2
3	その他	1	0	1	0	0	1.3	0.0	5.3	0.0	0.0
4	答えたくない	3	0	1	0	2	3.8	0.0	5.3	0.0	8.3
5	無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q5 あなたが住んでいる都道府県はどこですか。（単数回答）

《地域別集計》

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
	全体	43	19	24	100.0	100.0	100.0
1	北海道・東北地方	9	6	3	20.9	31.6	12.5
2	関東地方	10	0	10	23.3	0.0	41.7
3	中部地方	4	3	1	9.3	15.8	4.2
4	近畿地方	12	5	7	27.9	26.3	29.2
5	中国・四国地方	1	1	0	2.3	5.3	0.0
6	九州地方	7	4	3	16.3	21.1	12.5
7	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

《都道府県別集計》

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
	全体	43	19	24	100.0	100.0	100.0
1	北海道	3	3	0	7.0	15.8	0.0
2	青森県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
3	岩手県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
4	宮城県	1	1	0	2.3	5.3	0.0
5	秋田県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
6	山形県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
7	福島県	5	2	3	11.6	10.5	12.5
8	茨城県	1	0	1	2.3	0.0	4.2
9	栃木県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
10	群馬県	1	0	1	2.3	0.0	4.2
11	埼玉県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
12	千葉県	1	0	1	2.3	0.0	4.2
13	東京都	5	0	5	11.6	0.0	20.8
14	神奈川県	2	0	2	4.7	0.0	8.3
15	新潟県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
16	富山県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
17	石川県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
18	福井県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
19	山梨県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
20	長野県	2	1	1	4.7	5.3	4.2
21	岐阜県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
22	静岡県	2	2	0	4.7	10.5	0.0
23	愛知県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
24	三重県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
25	滋賀県	3	1	2	7.0	5.3	8.3
26	京都府	0	0	0	0.0	0.0	0.0
27	大阪府	1	1	0	2.3	5.3	0.0
28	兵庫県	8	3	5	18.6	15.8	20.8
29	奈良県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
30	和歌山県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
31	鳥取県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
32	島根県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
33	岡山県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
34	広島県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
35	山口県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
36	徳島県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
37	香川県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
38	愛媛県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
39	高知県	1	1	0	2.3	5.3	0.0
40	福岡県	2	2	0	4.7	10.5	0.0
41	佐賀県	4	2	2	9.3	10.5	8.3
42	長崎県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
43	熊本県	1	0	1	2.3	0.0	4.2
44	大分県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
45	宮崎県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
46	鹿児島県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
47	沖縄県	0	0	0	0.0	0.0	0.0
48	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

Q6 あなたの現在の住まい方を教えてください。（単数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
	全体	43	19	24	100.0	100.0	100.0
1	家族と同居	28	14	14	65.1	73.7	58.3
2	一人暮らし	9	1	8	20.9	5.3	33.3
3	寮	1	1	0	2.3	5.3	0.0
4	その他	5	3	2	11.6	15.8	8.3
5	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

Q7 あなたが現在一緒に住んでいる家族について教えてください。（複数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
	全体	28	14	14	100.0	100.0	100.0
1	母親	22	11	11	78.6	78.6	78.6
2	父親	16	8	8	57.1	57.1	57.1
3	兄	2	2	0	7.1	14.3	0.0
4	姉	2	2	0	7.1	14.3	0.0
5	弟	12	8	4	42.9	57.1	28.6
6	妹	9	5	4	32.1	35.7	28.6
7	祖母	2	1	1	7.1	7.1	7.1
8	祖父	0	0	0	0.0	0.0	0.0
9	曾祖母	0	0	0	0.0	0.0	0.0
10	曾祖父	0	0	0	0.0	0.0	0.0
11	叔母	0	0	0	0.0	0.0	0.0
12	叔父	0	0	0	0.0	0.0	0.0
13	あなたの配偶者・パートナー	1	0	1	3.6	0.0	7.1
14	あなたの子	1	0	1	3.6	0.0	7.1
15	いとこ	0	0	0	0.0	0.0	0.0
16	甥、姪	1	1	0	3.6	7.1	0.0
17	母親のパートナー	0	0	0	0.0	0.0	0.0
18	父親のパートナー	0	0	0	0.0	0.0	0.0
19	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
20	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

ヤングケアラー本人（高校生世代以上）に対するアンケート（クロス集計表）

《小中学生、高校生世代以上統合版》

		(件)					(%)				
		年代					年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
	全体	63	16	19	14	14	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	母親	52	13	17	11	11	82.5	81.3	89.5	78.6	78.6
2	父親	29	7	6	8	8	46.0	43.8	31.6	57.1	57.1
3	兄	12	5	5	2	0	19.0	31.3	26.3	14.3	0.0
4	姉	10	3	5	2	0	15.9	18.8	26.3	14.3	0.0
5	弟	28	8	8	8	4	44.4	50.0	42.1	57.1	28.6
6	妹	22	6	7	5	4	34.9	37.5	36.8	35.7	28.6
7	祖母	6	1	3	1	1	9.5	6.3	15.8	7.1	7.1
8	祖父	1	1	0	0	0	1.6	6.3	0.0	0.0	0.0
9	曾祖母	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	曾祖父	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	叔母	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	叔父	2	0	2	0	0	3.2	0.0	10.5	0.0	0.0
13	あなたの配偶者・パートナー	1	0	0	0	1	1.6	0.0	0.0	0.0	7.1
14	あなたの子	1	0	0	0	1	1.6	0.0	0.0	0.0	7.1
15	いとこ	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
16	甥、姪	1	0	0	1	0	1.6	0.0	0.0	7.1	0.0
17	母親のパートナー	1	1	0	0	0	1.6	6.3	0.0	0.0	0.0
18	父親のパートナー	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	その他	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20	無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

<家族構成>

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
	全体	28	14	14	100.0	100.0	100.0
1	ひとり親家庭（母子家庭）	9	5	4	32.1	35.7	28.6
2	ひとり親家庭（父子家庭）	4	3	1	14.3	21.4	7.1
3	二世帯世帯（ふたり親家庭）	11	5	6	39.3	35.7	42.9
4	三世帯世帯	2	1	1	7.1	7.1	7.1
5	その他世帯	2	0	2	7.1	0.0	14.3
6	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

《小中学生、高校生世代以上統合版》

		(件)					(%)				
		年代					年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
	全体	63	16	19	14	14	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ひとり親家庭（母子家庭）	25	6	10	5	4	39.7	37.5	52.6	35.7	28.6
2	ひとり親家庭（父子家庭）	5	1	0	3	1	7.9	6.3	0.0	21.4	7.1
3	二世帯世帯（ふたり親家庭）	23	6	6	5	6	36.5	37.5	31.6	35.7	42.9
4	三世帯世帯	3	0	1	1	1	4.8	0.0	5.3	7.1	7.1
5	その他世帯	7	3	2	0	2	11.1	18.8	10.5	0.0	14.3
6	無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q9 あなたのお世話を必要としている人はどなたですか。（複数回答）

		(件)			%		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
	全体	43	19	24	100.0	100.0	100.0
1	母親	31	12	19	72.1	63.2	79.2
2	父親	11	4	7	25.6	21.1	29.2
3	祖母	2	1	1	4.7	5.3	4.2
4	祖父	0	0	0	0.0	0.0	0.0
5	きょうだい	24	12	12	55.8	63.2	50.0
6	その他	2	1	1	4.7	5.3	4.2
7	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

Q10 お世話を必要としている方の状況を教えてください。（複数回答）

		回答数					
		高校生世代					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
	全体	12	4	1	0	12	1
1	高齢（65歳以上）	0	0	1	0	0	0
2	若い	0	0	0	0	6	0
3	要介護（介護が必要な状態）	0	1	0	0	0	0
4	認知症	0	0	0	0	0	0
5	身体障がい	0	1	0	0	0	0
6	知的障がい	2	0	0	0	1	0
7	発達障がい（疑いを含む）	3	0	0	0	7	1
8	精神疾患（疑いを含む）	11	1	0	0	2	0
9	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	0	0	0	0	0	0
10	精神疾患、依存症以外の病気	0	1	0	0	1	0
11	日本語が苦手、わからない	0	1	0	0	1	0
12	その他	1	2	0	0	2	1
13	無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0

%						
高校生世代						
母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	
100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	
0.0	0.0	100.0	-	0.0	0.0	
0.0	0.0	0.0	-	50.0	0.0	
0.0	25.0	0.0	-	0.0	0.0	
0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	
0.0	25.0	0.0	-	0.0	0.0	
16.7	0.0	0.0	-	8.3	0.0	
25.0	0.0	0.0	-	58.3	100.0	
91.7	25.0	0.0	-	16.7	0.0	
0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	
0.0	25.0	0.0	-	8.3	0.0	
0.0	25.0	0.0	-	8.3	0.0	
8.3	50.0	0.0	-	16.7	100.0	
0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	

		回答数					
		若者					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
	全体	19	7	1	0	12	1
1	高齢（65歳以上）	1	1	1	0	0	0
2	若い	0	0	0	0	1	1
3	要介護（介護が必要な状態）	3	3	0	0	1	0
4	認知症	0	0	1	0	0	0
5	身体障がい	2	3	0	0	1	0
6	知的障がい	0	0	0	0	3	1
7	発達障がい（疑いを含む）	2	1	0	0	6	1
8	精神疾患（疑いを含む）	17	1	1	0	4	0
9	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	0	2	0	0	0	0
10	精神疾患、依存症以外の病気	2	2	1	0	2	0
11	日本語が苦手、わからない	0	0	0	0	0	1
12	その他	1	0	0	0	2	0
13	無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0

%						
若者						
母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	
100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	
5.3	14.3	100.0	-	0.0	0.0	
0.0	0.0	0.0	-	8.3	100.0	
15.8	42.9	0.0	-	8.3	0.0	
0.0	0.0	100.0	-	0.0	0.0	
10.5	42.9	0.0	-	8.3	0.0	
0.0	0.0	0.0	-	25.0	100.0	
10.5	14.3	0.0	-	50.0	100.0	
89.5	14.3	100.0	-	33.3	0.0	
0.0	28.6	0.0	-	0.0	0.0	
10.5	28.6	100.0	-	16.7	0.0	
0.0	0.0	0.0	-	0.0	100.0	
5.3	0.0	0.0	-	16.7	0.0	
0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	

Q11 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。（複数回答）

	回答数					
	高校生世代					
	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体	12	4	1	0	12	1
1 家事（食事の準備や掃除、洗濯）	6	4	1	0	7	1
2 きょうだいの世話や保育所等への送迎など	4	0	0	0	8	0
3 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	0	0	0	0	2	0
4 外出の付き添い（買い物、散歩など）	3	1	0	0	2	0
5 通院の付き添い	4	1	0	0	2	0
6 入院や入所をしている家族との面会	2	0	0	0	1	0
7 医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	0	0	0	0	0	0
8 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	9	2	0	0	3	0
9 見守り	6	0	0	0	9	0
10 通訳（日本語や手話など）	0	0	0	0	0	0
11 金銭管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	1	0	0	0	2	0
12 家計支援（家族のためにバイトで働くなど）	6	0	0	0	3	0
13 薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	2	1	0	0	3	0
14 その他	1	3	0	0	1	1
15 無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0

%					
高校生世代					
母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0
50.0	100.0	100.0	-	58.3	100.0
33.3	0.0	0.0	-	66.7	0.0
0.0	0.0	0.0	-	16.7	0.0
25.0	25.0	0.0	-	16.7	0.0
33.3	25.0	0.0	-	16.7	0.0
16.7	0.0	0.0	-	8.3	0.0
0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
75.0	50.0	0.0	-	25.0	0.0
50.0	0.0	0.0	-	75.0	0.0
0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
8.3	0.0	0.0	-	16.7	0.0
50.0	0.0	0.0	-	25.0	0.0
16.7	25.0	0.0	-	25.0	0.0
8.3	75.0	0.0	-	8.3	100.0
0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0

	回答数					
	若者					
	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体	19	7	1	0	12	1
1 家事（食事の準備や掃除、洗濯）	10	4	1	0	4	1
2 きょうだいの世話や保育所等への送迎など	2	0	0	0	7	1
3 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	3	0	0	0	1	0
4 外出の付き添い（買い物、散歩など）	9	3	1	0	4	0
5 通院の付き添い	8	3	0	0	6	0
6 入院や入所をしている家族との面会	3	0	0	0	2	0
7 医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	1	0	0	0	0	0
8 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	15	6	1	0	10	1
9 見守り	11	2	0	0	8	1
10 通訳（日本語や手話など）	0	1	0	0	0	0
11 金銭管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	6	1	0	0	3	0
12 家計支援（家族のためにバイトで働くなど）	8	4	0	0	5	1
13 薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	2	1	0	0	1	0
14 その他	1	0	0	0	4	0
15 無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0

%					
若者					
母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0
52.6	57.1	100.0	-	33.3	100.0
10.5	0.0	0.0	-	58.3	100.0
15.8	0.0	0.0	-	8.3	0.0
47.4	42.9	100.0	-	33.3	0.0
42.1	42.9	0.0	-	50.0	0.0
15.8	0.0	0.0	-	16.7	0.0
5.3	0.0	0.0	-	0.0	0.0
78.9	85.7	100.0	-	83.3	100.0
57.9	28.6	0.0	-	66.7	100.0
0.0	14.3	0.0	-	0.0	0.0
31.6	14.3	0.0	-	25.0	0.0
42.1	57.1	0.0	-	41.7	100.0
10.5	14.3	0.0	-	8.3	0.0
5.3	0.0	0.0	-	33.3	0.0
0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0

Q12 あなたはどのくらいの頻度でお世話をしていますか。（単数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
全体		43	19	24	100.0	100.0	100.0
1	ほぼ毎日	31	15	16	72.1	78.9	66.7
2	週に3～5日	7	2	5	16.3	10.5	20.8
3	週に1～2日	1	0	1	2.3	0.0	4.2
4	1か月に数日	3	1	2	7.0	5.3	8.3
5	その他	1	1	0	2.3	5.3	0.0
6	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

Q13 平日にお世話は何時間程度行っていますか。（単数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
全体		43	19	24	100.0	100.0	100.0
1	1時間未満	5	2	3	11.6	10.5	12.5
2	1時間以上3時間未満	15	5	10	34.9	26.3	41.7
3	3時間以上5時間未満	14	8	6	32.6	42.1	25.0
4	5時間以上7時間未満	5	3	2	11.6	15.8	8.3
5	7時間以上	4	1	3	9.3	5.3	12.5
6	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

Q15 Q14の支援団体や自治体の支援サービスを知ったきっかけを教えてください。（複数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
	全体	43	19	24	100.0	100.0	100.0
1	学校からの紹介	13	8	5	30.2	42.1	20.8
2	家族からの紹介	4	3	1	9.3	15.8	4.2
3	友達からの紹介	1	0	1	2.3	0.0	4.2
4	支援団体や自治体のホームページ（インターネット検索）	14	4	10	32.6	21.1	41.7
5	SNS	3	0	3	7.0	0.0	12.5
6	その他	16	7	9	37.2	36.8	37.5
7	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

Q16 Q14の支援団体や自治体の支援サービスを利用したきっかけを教えてください。（複数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
	全体	43	19	24	100.0	100.0	100.0
1	相談しやすい雰囲気があるから	22	11	11	51.2	57.9	45.8
2	悩んでいることについて詳しくさうだから	17	9	8	39.5	47.4	33.3
3	親身になって話を聞いてくれさうだから	17	9	8	39.5	47.4	33.3
4	悩みを解決してくれさうだから	14	5	9	32.6	26.3	37.5
5	同じ悩みを持っている仲間に出会えさうだから	11	5	6	25.6	26.3	25.0
6	相談しやすい場所にある（いる）から	15	4	11	34.9	21.1	45.8
7	いつでも電話やメールで相談のってくれさうだから	14	7	7	32.6	36.8	29.2
8	その他	8	4	4	18.6	21.1	16.7
9	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

Q17 Q14の支援団体や自治体が行う支援サービスについてお聞きします。あなたは次のうち、どのような支援サービスを利用していますか（していましたか）。（複数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
	全体	43	19	24	100.0	100.0	100.0
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	33	16	17	76.7	84.2	70.8
2	家事やお世話の代行、手伝い	8	5	3	18.6	26.3	12.5
3	外出時の付き添い	10	6	4	23.3	31.6	16.7
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	13	8	5	30.2	42.1	20.8
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	14	7	7	32.6	36.8	29.2
6	こども食堂	11	8	3	25.6	42.1	12.5
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	20	11	9	46.5	57.9	37.5
8	就労支援	15	7	8	34.9	36.8	33.3
9	その他	6	3	3	14.0	15.8	12.5
10	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

Q17×家族構成

(件)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		43	9	4	11	2	2	9	1	5
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	33	7	4	8	2	1	6	1	4
2	家事やお世話の代行、手伝い	8	0	3	1	1	0	3	0	0
3	外出時の付き添い	10	3	1	1	1	0	3	0	1
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	13	5	2	3	0	0	3	0	0
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	14	3	4	3	0	0	3	0	1
6	こども食堂	11	2	3	2	0	0	2	0	2
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	20	5	2	4	1	1	5	0	2
8	就労支援	15	5	1	3	1	0	4	0	1
9	その他	6	0	1	1	0	1	3	0	0
10	無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(%)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	76.7	77.8	100.0	72.7	100.0	50.0	66.7	100.0	80.0
2	家事やお世話の代行、手伝い	18.6	0.0	75.0	9.1	50.0	0.0	33.3	0.0	0.0
3	外出時の付き添い	23.3	33.3	25.0	9.1	50.0	0.0	33.3	0.0	20.0
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	30.2	55.6	50.0	27.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	32.6	33.3	100.0	27.3	0.0	0.0	33.3	0.0	20.0
6	こども食堂	25.6	22.2	75.0	18.2	0.0	0.0	22.2	0.0	40.0
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	46.5	55.6	50.0	36.4	50.0	50.0	55.6	0.0	40.0
8	就労支援	34.9	55.6	25.0	27.3	50.0	0.0	44.4	0.0	20.0
9	その他	14.0	0.0	25.0	9.1	0.0	50.0	33.3	0.0	0.0
10	無回答/無効回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《小中学生、高校生世代以上統合版》

(件)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体	78	25	5	23	3	7	9	1	5	
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	57	18	5	15	3	5	6	1	4
2	家事やお世話の代行、手伝い	26	10	4	5	1	3	3	0	0
3	外出時の付き添い	15	6	1	1	2	1	3	0	1
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	28	12	2	7	1	3	3	0	0
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	25	9	4	6	0	2	3	0	1
6	こども食堂	18	6	3	5	0	0	2	0	2
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	36	12	3	10	1	3	5	0	2
8	就労支援	15	5	1	3	1	0	4	0	1
9	その他	9	0	1	4	0	1	3	0	0
10	無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(%)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	73.1	72.0	100.0	65.2	100.0	71.4	66.7	100.0	80.0
2	家事やお世話の代行、手伝い	33.3	40.0	80.0	21.7	33.3	42.9	33.3	0.0	0.0
3	外出時の付き添い	19.2	24.0	20.0	4.3	66.7	14.3	33.3	0.0	20.0
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	35.9	48.0	40.0	30.4	33.3	42.9	33.3	0.0	0.0
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	32.1	36.0	80.0	26.1	0.0	28.6	33.3	0.0	20.0
6	こども食堂	23.1	24.0	60.0	21.7	0.0	0.0	22.2	0.0	40.0
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	46.2	48.0	60.0	43.5	33.3	42.9	55.6	0.0	40.0
8	就労支援	19.2	20.0	20.0	13.0	33.3	0.0	44.4	0.0	20.0
9	その他	11.5	0.0	20.0	17.4	0.0	14.3	33.3	0.0	0.0
10	無回答/無効回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q18 これまでに利用したことのある支援サービスのうち、利用してよかったと一番感じるものはどれですか。（単数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
全体		43	19	24	100.0	100.0	100.0
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	19	8	11	44.2	42.1	45.8
2	家事やお世話の代行、手伝い	1	0	1	2.3	0.0	4.2
3	外出時の付き添い	0	0	0	0.0	0.0	0.0
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	3	1	2	7.0	5.3	8.3
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	4	1	3	9.3	5.3	12.5
6	こども食堂	2	2	0	4.7	10.5	0.0
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	6	3	3	14.0	15.8	12.5
8	就労支援	1	0	1	2.3	0.0	4.2
9	その他	5	2	3	11.6	10.5	12.5
10	利用してよかったと感じた支援サービスはない	1	1	0	2.3	5.3	0.0
11	無回答/無効回答	1	1	0	2.3	5.3	0.0

Q18×家族構成

(件)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		43	9	4	11	2	2	9	1	5
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	19	6	0	4	2	0	3	1	3
2	家事やお世話の代行、手伝い	1	0	1	0	0	0	0	0	0
3	外出時の付き添い	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	3	0	0	2	0	0	1	0	0
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	4	0	1	2	0	0	1	0	0
6	こども食堂	2	1	0	1	0	0	0	0	0
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	6	0	1	1	0	1	1	0	2
8	就労支援	1	1	0	0	0	0	0	0	0
9	その他	5	0	1	0	0	1	3	0	0
10	利用してよかったと感じた支援サービスはない	1	0	0	1	0	0	0	0	0
11	無回答/無効回答	1	1	0	0	0	0	0	0	0

(%)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	44.2	66.7	0.0	36.4	100.0	0.0	33.3	100.0	60.0
2	家事やお世話の代行、手伝い	2.3	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	外出時の付き添い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	7.0	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	9.3	0.0	25.0	18.2	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
6	こども食堂	4.7	11.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	14.0	0.0	25.0	9.1	0.0	50.0	11.1	0.0	40.0
8	就労支援	2.3	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9	その他	11.6	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	33.3	0.0	0.0
10	利用してよかったと感じた支援サービスはない	2.3	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	無回答/無効回答	2.3	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《小中学生、高校生世代以上統合版》

(件)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		78	25	5	23	3	7	9	1	5
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	27	8	0	9	2	1	3	1	3
2	家事やお世話の代行、手伝い	10	4	1	2	0	3	0	0	0
3	外出時の付き添い	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	5	0	0	3	1	0	1	0	0
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	6	2	1	2	0	0	1	0	0
6	こども食堂	4	3	0	1	0	0	0	0	0
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	10	2	2	2	0	1	1	0	2
8	就労支援	1	1	0	0	0	0	0	0	0
9	その他	6	0	1	1	0	1	3	0	0
10	利用してよかったと感じた支援サービスはない	3	1	0	2	0	0	0	0	0
11	無回答/無効回答	6	4	0	1	0	1	0	0	0

(%)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	34.6	32.0	0.0	39.1	66.7	14.3	33.3	100.0	60.0
2	家事やお世話の代行、手伝い	12.8	16.0	20.0	8.7	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0
3	外出時の付き添い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	6.4	0.0	0.0	13.0	33.3	0.0	11.1	0.0	0.0
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	7.7	8.0	20.0	8.7	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
6	こども食堂	5.1	12.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	12.8	8.0	40.0	8.7	0.0	14.3	11.1	0.0	40.0
8	就労支援	1.3	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9	その他	7.7	0.0	20.0	4.3	0.0	14.3	33.3	0.0	0.0
10	利用してよかったと感じた支援サービスはない	3.8	4.0	0.0	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	無回答/無効回答	7.7	16.0	0.0	4.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0

《Q10ケア対象者の状況×Q18利用してよかったと一番感じる支援サービス》

《小中学生、高校生世代以上統合版》

ケア対象者の状況 (件)														
	全体	高齢（65歳以上）	若い	要介護（介護が必要な状態）	認知症	身体障がい	知的障がい	発達障がい（疑いを含む）	精神疾患（疑いを含む）	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	精神疾患、依存症以外の病気	日本語が苦手、わからない	その他	わからない
全体	78	6	17	13	3	8	10	26	50	5	11	4	12	1
1 お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	27	1	6	8	0	4	6	13	19	2	3	1	2	0
2 家事やお世話の代行、手伝い	10	2	2	3	1	1	1	2	6	0	1	0	0	0
3 外出時の付き添い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	5	0	1	0	0	1	0	2	4	0	0	0	0	0
5 食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	6	0	1	1	0	1	0	2	3	0	1	0	1	0
6 こども食堂	4	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
7 居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	10	2	2	0	1	1	2	3	4	2	2	1	1	0
8 就労支援	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0
9 その他	6	0	1	0	0	0	0	1	5	0	1	1	2	0
10 利用してよかったと感じた支援サービスはない	3	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	2	0
11 無回答/無効回答	6	1	1	1	1	0	1	1	5	1	3	1	2	1

ケア対象者の状況 (%)														
	全体	高齢（65歳以上）	若い	要介護（介護が必要な状態）	認知症	身体障がい	知的障がい	発達障がい（疑いを含む）	精神疾患（疑いを含む）	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	精神疾患、依存症以外の病気	日本語が苦手、わからない	その他	わからない
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	34.6	16.7	35.3	61.5	0.0	50.0	60.0	50.0	38.0	40.0	27.3	25.0	16.7	0.0
2 家事やお世話の代行、手伝い	12.8	33.3	11.8	23.1	33.3	12.5	10.0	7.7	12.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0
3 外出時の付き添い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4 勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	6.4	0.0	5.9	0.0	0.0	12.5	0.0	7.7	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5 食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	7.7	0.0	5.9	7.7	0.0	12.5	0.0	7.7	6.0	0.0	9.1	0.0	8.3	0.0
6 こども食堂	5.1	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
7 居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	12.8	33.3	11.8	0.0	33.3	12.5	20.0	11.5	8.0	40.0	18.2	25.0	8.3	0.0
8 就労支援	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	2.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
9 その他	7.7	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	10.0	0.0	9.1	25.0	16.7	0.0
10 利用してよかったと感じた支援サービスはない	3.8	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	4.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
11 無回答/無効回答	7.7	16.7	5.9	7.7	33.3	0.0	10.0	3.8	10.0	20.0	27.3	25.0	16.7	100.0

Q19 支援サービスを利用してよかったと感じる理由を教えてください。（複数回答）

		(件)			(%)		
		年代			年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
全体		42	18	24	100.0	100.0	100.0
1	お世話の負担が減った	14	5	9	33.3	27.8	37.5
2	以前よりよいお世話をしあられるようになった	12	5	7	28.6	27.8	29.2
3	体の調子がよくなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）	10	5	5	23.8	27.8	20.8
4	精神的な負担、ストレスが減った	30	13	17	71.4	72.2	70.8
5	孤独感が減った	27	11	16	64.3	61.1	66.7
6	自分のために使える時間が増えた	20	10	10	47.6	55.6	41.7
7	将来について考える時間やきっかけができた	26	12	14	61.9	66.7	58.3
8	学校や勉強、仕事に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	15	9	6	35.7	50.0	25.0
9	経済的な不安が減った	14	5	9	33.3	27.8	37.5
10	お世話を必要とする家族の状況をより理解できるようになった	12	4	8	28.6	22.2	33.3
11	自分と家族の仲がよくなった	11	4	7	26.2	22.2	29.2
12	その他	4	1	3	9.5	5.6	12.5
13	無回答/無効回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0

《Q19支援サービスを利用してよかったと感じる理由×Q18利用してよかったと一番感じる支援サービス》

(件)

Q18利用してよかったと一番感じる支援サービス											
	回答数	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	家事やお世話の代行、手伝い	外出時の付き添い	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	子ども食堂	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話したりできる場所）	就労支援	その他	無回答/無効回答
全体	42	19	1	0	3	4	2	6	1	5	1
1 お世話の負担が減った	14	4	1	0	3	2	1	0	1	2	0
2 以前よりよいお世話をしてあげられるようになった	12	5	0	0	3	1	0	0	1	2	0
3 体の調子がよくなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）	10	3	0	0	3	1	0	0	1	2	0
4 精神的な負担、ストレスが減った	30	16	0	0	3	3	0	3	1	3	1
5 孤独感が減った	27	12	0	0	3	3	0	5	1	3	0
6 自分のために使える時間が増えた	20	10	1	0	3	2	0	0	1	2	1
7 将来について考える時間やきっかけができた	26	15	0	0	3	1	0	3	1	2	1
8 学校や勉強、仕事に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	15	7	0	0	3	0	0	1	1	2	1
9 経済的な不安が減った	14	3	0	0	3	1	1	2	1	3	0
10 お世話を必要とする家族の状況をより理解できるようになった	12	3	0	0	3	1	0	2	1	2	0
11 自分と家族の仲がよかった	11	2	0	0	3	1	1	1	1	2	0
12 その他	4	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0
13 無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(%)

Q18利用してよかったと一番感じる支援サービス											
	%	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	家事やお世話の代行、手伝い	外出時の付き添い	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	子ども食堂	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話したりできる場所）	就労支援	その他	無回答/無効回答
全体	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 お世話の負担が減った	33.3	21.1	100.0	-	100.0	50.0	50.0	0.0	100.0	40.0	0.0
2 以前よりよいお世話をしてあげられるようになった	28.6	26.3	0.0	-	100.0	25.0	0.0	0.0	100.0	40.0	0.0
3 体の調子がよくなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）	23.8	15.8	0.0	-	100.0	25.0	0.0	0.0	100.0	40.0	0.0
4 精神的な負担、ストレスが減った	71.4	84.2	0.0	-	100.0	75.0	0.0	50.0	100.0	60.0	100.0
5 孤独感が減った	64.3	63.2	0.0	-	100.0	75.0	0.0	83.3	100.0	60.0	0.0
6 自分のために使える時間が増えた	47.6	52.6	100.0	-	100.0	50.0	0.0	0.0	100.0	40.0	100.0
7 将来について考える時間やきっかけができた	61.9	78.9	0.0	-	100.0	25.0	0.0	50.0	100.0	40.0	100.0
8 学校や勉強、仕事に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	35.7	36.8	0.0	-	100.0	0.0	0.0	16.7	100.0	40.0	100.0
9 経済的な不安が減った	33.3	15.8	0.0	-	100.0	25.0	50.0	33.3	100.0	60.0	0.0
10 お世話を必要とする家族の状況をより理解できるようになった	28.6	15.8	0.0	-	100.0	25.0	0.0	33.3	100.0	40.0	0.0
11 自分と家族の仲がよかった	26.2	10.5	0.0	-	100.0	25.0	50.0	16.7	100.0	40.0	0.0
12 その他	9.5	5.3	0.0	-	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0	20.0	0.0
13 無回答/無効回答	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《小中学生、高校生世代以上統合版》

(件)

Q18利用してよかったと一番感じる支援サービス											
	回答数	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	家事やお世話の代行、手伝い	外出時の付き添い	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	子ども食堂	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話したりできる場所）	就労支援	その他	無回答/無効回答
全体	75	27	10	0	5	6	4	10	1	6	6
1	お世話の負担が減った	25	7	5	0	4	3	1	1	3	0
2	以前よりよいお世話をしてあげられるようになった	13	5	0	0	3	1	0	0	3	0
3	体の調子がよくなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）	15	5	1	0	3	1	0	1	3	1
4	精神的な負担、ストレスが減った	47	24	2	0	4	3	1	5	4	3
5	孤独感が減った	36	15	1	0	4	4	0	5	4	2
6	自分のために使える時間が増えた	28	14	3	0	4	2	0	0	3	1
7	将来について考える時間やきっかけができた	33	19	0	0	4	1	0	4	3	1
8	学校や勉強、仕事に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	25	10	1	0	5	1	0	3	3	1
9	経済的な不安が減った	15	3	0	0	3	1	1	2	4	0
10	お世話を必要とする家族の状況をより理解できるようになった	18	5	0	0	3	1	1	2	3	2
11	自分と家族の仲がよかった	14	4	0	0	3	1	1	1	2	1
12	その他	8	1	1	0	1	1	0	2	1	0
13	無回答/無効回答	4	0	1	0	0	0	0	0	0	3

(%)

Q18利用してよかったと一番感じる支援サービス											
	%	お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談	家事やお世話の代行、手伝い	外出時の付き添い	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	子ども食堂	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話したりできる場所）	就労支援	その他	無回答/無効回答
全体	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	お世話の負担が減った	33.3	25.9	50.0	-	80.0	50.0	25.0	10.0	100.0	0.0
2	以前よりよいお世話をしてあげられるようになった	17.3	18.5	0.0	-	60.0	16.7	0.0	0.0	100.0	0.0
3	体の調子がよくなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）	20.0	18.5	10.0	-	60.0	16.7	0.0	0.0	100.0	16.7
4	精神的な負担、ストレスが減った	62.7	88.9	20.0	-	80.0	50.0	25.0	50.0	100.0	66.7
5	孤独感が減った	48.0	55.6	10.0	-	80.0	66.7	0.0	50.0	100.0	66.7
6	自分のために使える時間が増えた	37.3	51.9	30.0	-	80.0	33.3	0.0	0.0	100.0	16.7
7	将来について考える時間やきっかけができた	44.0	70.4	0.0	-	80.0	16.7	0.0	40.0	100.0	50.0
8	学校や勉強、仕事に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	33.3	37.0	10.0	-	100.0	16.7	0.0	30.0	100.0	50.0
9	経済的な不安が減った	20.0	11.1	0.0	-	60.0	16.7	25.0	20.0	100.0	66.7
10	お世話を必要とする家族の状況をより理解できるようになった	24.0	18.5	0.0	-	60.0	16.7	25.0	20.0	100.0	33.3
11	自分と家族の仲がよかった	18.7	14.8	0.0	-	60.0	16.7	25.0	10.0	100.0	33.3
12	その他	10.7	3.7	10.0	-	20.0	16.7	0.0	20.0	100.0	16.7
13	無回答/無効回答	5.3	0.0	10.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

Q19×家族構成

(件)

	家族構成								
	全体	家族と同居					家族と非同居		
		ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体	42	9	4	10	2	2	9	1	5
1 お世話の負担が減った	14	2	2	5	0	0	4	0	1
2 以前よりよいお世話をしてあげられるようになった	12	2	1	4	1	0	3	0	1
3 体の調子が悪くなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）	10	2	1	3	0	0	3	0	1
4 精神的な負担、ストレスが減った	30	8	1	7	1	2	6	1	4
5 孤独感が減った	27	6	2	5	1	2	6	1	4
6 自分のために使える時間が増えた	20	6	2	4	0	0	4	1	3
7 将来について考える時間やきっかけができた	26	8	2	7	1	0	4	1	3
8 学校や勉強、仕事に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	15	4	1	3	1	0	3	1	2
9 経済的な不安が減った	14	2	1	3	0	0	6	0	2
10 お世話を必要とする家族の状況をより理解できるようになった	12	3	0	4	0	1	3	0	1
11 自分と家族の仲がよかった	11	3	0	5	0	0	3	0	0
12 その他	4	2	1	0	0	0	1	0	0
13 無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(%)

	家族構成								
	全体	家族と同居					家族と非同居		
		ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 お世話の負担が減った	33.3	22.2	50.0	50.0	0.0	0.0	44.4	0.0	20.0
2 以前よりよいお世話をしてあげられるようになった	28.6	22.2	25.0	40.0	50.0	0.0	33.3	0.0	20.0
3 体の調子が悪くなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）	23.8	22.2	25.0	30.0	0.0	0.0	33.3	0.0	20.0
4 精神的な負担、ストレスが減った	71.4	88.9	25.0	70.0	50.0	100.0	66.7	100.0	80.0
5 孤独感が減った	64.3	66.7	50.0	50.0	50.0	100.0	66.7	100.0	80.0
6 自分のために使える時間が増えた	47.6	66.7	50.0	40.0	0.0	0.0	44.4	100.0	60.0
7 将来について考える時間やきっかけができた	61.9	88.9	50.0	70.0	50.0	0.0	44.4	100.0	60.0
8 学校や勉強、仕事に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	35.7	44.4	25.0	30.0	50.0	0.0	33.3	100.0	40.0
9 経済的な不安が減った	33.3	22.2	25.0	30.0	0.0	0.0	66.7	0.0	40.0
10 お世話を必要とする家族の状況をより理解できるようになった	28.6	33.3	0.0	40.0	0.0	50.0	33.3	0.0	20.0
11 自分と家族の仲がよかった	26.2	33.3	0.0	50.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
12 その他	9.5	22.2	25.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
13 無回答/無効回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《小中学生、高校生世代以上統合版》

(件)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世世代世帯 (ふたり親家庭)	三世世代世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		75	24	5	21	3	7	9	1	5
1	お世話の負担が減った	25	7	2	9	0	2	4	0	1
2	以前よりよいお世話をしあられるようになった	13	2	1	5	1	0	3	0	1
3	体の調子よくなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）	15	2	1	7	0	1	3	0	1
4	精神的な負担、ストレスが減った	47	15	1	14	2	4	6	1	4
5	孤独感が減った	36	9	2	9	2	3	6	1	4
6	自分のために使える時間が増えた	28	7	2	8	1	2	4	1	3
7	将来について考える時間やきっかけができた	33	9	2	11	2	1	4	1	3
8	学校や勉強、仕事に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	25	8	1	7	2	1	3	1	2
9	経済的な不安が減った	15	2	1	4	0	0	6	0	2
10	お世話を必要とする家族の状況をより理解できるようになった	18	6	0	7	0	1	3	0	1
11	自分と家族の仲がよかった	14	4	0	7	0	0	3	0	0
12	その他	8	3	2	2	0	0	1	0	0
13	無回答/無効回答	4	3	0	0	0	1	0	0	0

《小中学生、高校生世代以上統合版》

(%)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世世代世帯 (ふたり親家庭)	三世世代世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	お世話の負担が減った	33.3	29.2	40.0	42.9	0.0	28.6	44.4	0.0	20.0
2	これまでより、よいお世話をしあられるようになった	17.3	8.3	20.0	23.8	33.3	0.0	33.3	0.0	20.0
3	体の調子よくなった（よく眠れるようになった、食欲がでるようになったなど）	20.0	8.3	20.0	33.3	0.0	14.3	33.3	0.0	20.0
4	こころの負担が減った	62.7	62.5	20.0	66.7	66.7	57.1	66.7	100.0	80.0
5	孤独感（自分は一人きりだと感じること）が減った	48.0	37.5	40.0	42.9	66.7	42.9	66.7	100.0	80.0
6	自分のために使える時間が増えた	37.3	29.2	40.0	38.1	33.3	28.6	44.4	100.0	60.0
7	将来のことを考える時間やきっかけができた	44.0	37.5	40.0	52.4	66.7	14.3	44.4	100.0	60.0
8	学校や勉強に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	33.3	33.3	20.0	33.3	66.7	14.3	33.3	100.0	40.0
9	お金に関する不安が減った	20.0	8.3	20.0	19.0	0.0	0.0	66.7	0.0	40.0
10	お世話を必要とする家族のことが、よりわかるようになった	24.0	25.0	0.0	33.3	0.0	14.3	33.3	0.0	20.0
11	自分と家族の仲がよかった	18.7	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
12	その他	10.7	12.5	40.0	9.5	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
13	無回答/無効回答	5.3	12.5	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（単純集計表）

Q1 このアンケートはどこから案内がありましたか。（単数回答）

		回答数	%
全体		22	100.0
1	あなた、もしくはあなたのご家庭にいる子どもが、支援・サービスを利用したことがある団体や自治体から案内を受け取った	20	90.9
2	子どもからアンケートの案内を受け取った	2	9.1

Q2 子どもがアンケートの案内を受けた団体や自治体名を知っていますか。（単数回答）

		回答数	%
全体		2	100.0
1	はい	1	50.0
2	いいえ	1	50.0

Q3_1 あなたと、このアンケートでいう「子ども」との関係性について、子ども本人からみた続柄を教えてください。（単数回答）

		回答数	%
全体		20	100.0
1	母親	12	60.0
2	父親	4	20.0
3	祖母	2	10.0
4	祖父	0	0.0
5	兄・姉	0	0.0
6	弟・妹	1	5.0
7	その他	1	5.0

Q3_2 あなたと、このアンケートでいう「子ども」との関係性について、子ども本人からみた続柄を教えてください。（単数回答）

		回答数	%
全体		2	100.0
1	母親	2	100.0
2	父親	0	0.0
3	祖母	0	0.0
4	祖父	0	0.0
5	兄・姉	0	0.0
6	弟・妹	0	0.0
7	その他	0	0.0

Q4 こどもの学年／年齢を教えてください。（単数回答）

《年代別集計》

		回答数	%
全体		22	100.0
1	小学生世代	4	18.2
2	中学生世代	12	54.5
3	高校生世代	5	22.7
4	若者世代	1	4.5

《学年別集計》

		回答数	%
全体		22	100.0
1	小学1年生（2016年4月2日～2017年4月1日生まれ）	0	0.0
2	小学2年生（2015年4月2日～2016年4月1日生まれ）	1	4.5
3	小学3年生（2014年4月2日～2015年4月1日生まれ）	1	4.5
4	小学4年生（2013年4月2日～2014年4月1日生まれ）	0	0.0
5	小学5年生（2012年4月2日～2013年4月1日生まれ）	0	0.0
6	小学6年生（2011年4月2日～2012年4月1日生まれ）	2	9.1
7	中学1年生（2010年4月2日～2011年4月1日生まれ）	5	22.7
8	中学2年生（2009年4月2日～2010年4月1日生まれ）	0	0.0
9	中学3年生（2008年4月2日～2009年4月1日生まれ）	7	31.8
10	高校1年生世代（2007年4月2日～2008年4月1日生まれ）	2	9.1
11	高校2年生世代（2006年4月2日～2007年4月1日生まれ）	1	4.5
12	高校3年生世代（2005年4月2日～2006年4月1日生まれ）	2	9.1
13	19才世代（2004年4月2日～2005年4月1日生まれ）	1	4.5
14	20才世代（2003年4月2日～2004年4月1日生まれ）	0	0.0
15	21才世代（2002年4月2日～2003年4月1日生まれ）	0	0.0
16	22才世代（2001年4月2日～2002年4月1日生まれ）	0	0.0
17	23才世代～25才世代（1998年4月2日～2001年4月1日生まれ）	0	0.0
18	26才世代以上（おおむね30才世代まで）（おおむね1993年4月2日～1998年4月1日生まれ）	0	0.0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（単純集計表）

Q5 こどもの現在の就学・就業状況等を教えてください。（複数回答）

		回答数	%
全体		6	100.0
1	学生・生徒（予備校生などを含む）	6	100.0
2	正規の社員・職員・従業員	0	0.0
3	非正規の社員・職員・従業員（パート・アルバイトを含む）	0	0.0
4	その他	0	0.0
5	就学・就業はしていない	0	0.0

Q6 こどもが現在在学している学校を教えてください。（単数回答）

		回答数	%
全体		6	100.0
1	高等学校（全日制高校）	1	16.7
2	高等学校（定時制高校）	1	16.7
3	専修学校・専門学校	0	0.0
4	高等専門学校・短期大学	0	0.0
5	大学・大学院	1	16.7
6	その他	3	50.0

Q7 こどもの性別を教えてください。（単数回答）

		回答数	%
全体		22	100.0
1	男	9	40.9
2	女	13	59.1
3	その他	0	0.0
4	答えたくない	0	0.0

Q8 こどもが住んでいる都道府県はどこですか。（単数回答）

《地域別集計》

		回答数	%
全体		22	100.0
1	北海道・東北地方	0	0.0
2	関東地方	6	27.3
3	中部地方	0	0.0
4	近畿地方	8	36.4
5	中国・四国地方	0	0.0
6	九州地方	8	36.4
7	無回答/無効回答	0	0.0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（単純集計表）

《都道府県別集計》

		回答数	%
全体		22	100.0
1	北海道	0	0.0
2	青森県	0	0.0
3	岩手県	0	0.0
4	宮城県	0	0.0
5	秋田県	0	0.0
6	山形県	0	0.0
7	福島県	0	0.0
8	茨城県	0	0.0
9	栃木県	0	0.0
10	群馬県	0	0.0
11	埼玉県	0	0.0
12	千葉県	1	4.5
13	東京都	1	4.5
14	神奈川県	4	18.2
15	新潟県	0	0.0
16	富山県	0	0.0
17	石川県	0	0.0
18	福井県	0	0.0
19	山梨県	0	0.0
20	長野県	0	0.0
21	岐阜県	0	0.0
22	静岡県	0	0.0
23	愛知県	0	0.0
24	三重県	0	0.0
25	滋賀県	0	0.0
26	京都府	0	0.0
27	大阪府	0	0.0
28	兵庫県	7	31.8
29	奈良県	1	4.5
30	和歌山県	0	0.0
31	鳥取県	0	0.0
32	島根県	0	0.0
33	岡山県	0	0.0
34	広島県	0	0.0
35	山口県	0	0.0
36	徳島県	0	0.0
37	香川県	0	0.0
38	愛媛県	0	0.0
39	高知県	0	0.0
40	福岡県	1	4.5
41	佐賀県	7	31.8
42	長崎県	0	0.0
43	熊本県	0	0.0
44	大分県	0	0.0
45	宮崎県	0	0.0
46	鹿児島県	0	0.0
47	沖縄県	0	0.0

Q9 こどもの現在の住まい方を教えてください。（単数回答）

		回答数	%
全体		22	100.0
1	家族と同居	21	95.5
2	一人暮らし	0	0.0
3	寮	0	0.0
4	その他	1	4.5

Q10 こどもの現在の同居家族について、こども本人からみた関係性（こどもとの続柄）を教えてください。（複数回答）

		回答数	%
全体		21	100.0
1	母親	17	81.0
2	父親	7	33.3
3	兄	4	19.0
4	姉	1	4.8
5	弟	5	23.8
6	妹	6	28.6
7	祖母	4	19.0
8	祖父	2	9.5
9	曾祖母	0	0.0
10	曾祖父	0	0.0
11	叔母	0	0.0
12	叔父	1	4.8
13	配偶者・パートナー	0	0.0
14	こども（こどものこども）	0	0.0
15	いとこ	1	4.8
16	甥、姪	1	4.8
17	母親のパートナー	0	0.0
18	父親のパートナー	0	0.0
19	その他	0	0.0

Q10_SNT こどもの現在の同居家族について、こども本人からみた関係性（こどもとの続柄）を教えてください。（数値回答）

		回答数			
		兄	姉	弟	妹
全体		4	1	5	6
1	1人	4	1	5	5
2	2人	0	0	0	1
3	3人以上	0	0	0	0
4	無回答/無効回答	0	0	0	0

		%			
		兄	姉	弟	妹
全体		100.0	100.0	100.0	100.0
1	1人	100.0	100.0	100.0	83.3
2	2人	0.0	0.0	0.0	16.7
3	3人以上	0.0	0.0	0.0	0.0
4	無回答/無効回答	0.0	0.0	0.0	0.0

		人			
		兄	姉	弟	妹
平均値		1.0	1.0	1.0	1.2
最小値		1.0	1.0	1.0	1.0
最大値		1.0	1.0	1.0	2.0

Q11 ご家族の中にこどもからのお世話やサポートを必要としている人はいますか。（単数回答）

		回答数	%
全体		22	100.0
1	現在いる	21	95.5
2	現在はいるが、過去にいた	1	4.5

Q12 こどもからのお世話やサポートを必要としている人はどなたですか。こども本人からみた関係性（こどもとの続柄）を教えてください。（複数回答）

		回答数	%
全体		22	100.0
1	母親	15	68.2
2	父親	5	22.7
3	祖母	3	13.6
4	祖父	2	9.1
5	きょうだい	5	22.7
6	その他	1	4.5

Q13 こどもがお世話やサポートをしている人について、お世話やサポートを必要としている理由を教えてください。（複数回答）

		回答数					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体		15	5	3	2	5	1
1	高齢（65歳以上）	0	0	1	1	0	0
2	幼い	0	0	0	0	1	0
3	要介護（介護が必要な状態）	0	1	0	1	0	0
4	認知症	0	0	0	1	0	0
5	身体障がい	0	0	0	1	0	0
6	知的障がい	0	0	0	0	0	0
7	発達障がい（疑いを含む）	3	1	1	1	3	1
8	精神疾患（疑いを含む）	14	2	3	1	0	1
9	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	1	0	0	0	0	0
10	精神疾患、依存症以外の病気	7	2	3	1	0	1
11	日本語が苦手、わからない	1	0	0	0	1	0
12	その他	0	2	0	0	0	0

		%					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	高齢（65歳以上）	0.0	0.0	33.3	50.0	0.0	0.0
2	幼い	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
3	要介護（介護が必要な状態）	0.0	20.0	0.0	50.0	0.0	0.0
4	認知症	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
5	身体障がい	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
6	知的障がい	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	発達障がい（疑いを含む）	20.0	20.0	33.3	50.0	60.0	100.0
8	精神疾患（疑いを含む）	93.3	40.0	100.0	50.0	0.0	100.0
9	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	精神疾患、依存症以外の病気	46.7	40.0	100.0	50.0	0.0	100.0
11	日本語が苦手、わからない	6.7	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
12	その他	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q14 こどもが行っているお世話やサポートの内容を教えてください。（複数回答）

		回答数					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体		15	5	3	2	5	1
1	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	9	4	3	2	2	1
2	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	5	2	0	0	3	0
3	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	1	1	1	0	0	0
4	外出の付き添い（買い物、散歩など）	8	1	2	1	0	0
5	通院の付き添い	4	0	2	1	0	0
6	入院や入所をしている家族との面会	1	0	0	0	0	0
7	医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	1	0	0	0	0	0
8	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	11	0	3	2	1	1
9	見守り	6	1	1	1	5	0
10	通訳（日本語や手話など）	0	0	0	0	0	0
11	金銭管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	0	0	0	0	0	0
12	家計支援（家族のためにバイトで働くなど）	1	0	0	0	0	0
13	薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	0	0	0	0	0	0
14	その他	0	0	0	0	0	0

		%					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	60.0	80.0	100.0	100.0	40.0	100.0
2	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	33.3	40.0	0.0	0.0	60.0	0.0
3	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	6.7	20.0	33.3	0.0	0.0	0.0
4	外出の付き添い（買い物、散歩など）	53.3	20.0	66.7	50.0	0.0	0.0
5	通院の付き添い	26.7	0.0	66.7	50.0	0.0	0.0
6	入院や入所をしている家族との面会	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	73.3	0.0	100.0	100.0	20.0	100.0
9	見守り	40.0	20.0	33.3	50.0	100.0	0.0
10	通訳（日本語や手話など）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	金銭管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	家計支援（家族のためにバイトで働くなど）	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
13	薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
14	その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q15 こどもはどのくらいの頻度でお世話やサポートをしていますか。（単数回答）

		回答数	%
全体		22	100.0
1	ほぼ毎日	15	68.2
2	週に3～5日	6	27.3
3	週に1～2日	1	4.5
4	1か月に数日	0	0.0
5	その他	0	0.0

Q16 こどもは平日1日にどのくらいの時間お世話をしていますか。（単数回答）

		回答数	%
全体		22	100.0
1	1時間未満	5	22.7
2	1時間以上3時間未満	7	31.8
3	3時間以上5時間未満	7	31.8
4	5時間以上7時間未満	2	9.1
5	7時間以上	1	4.5

Q17 こども、またはあなたがこのアンケートの案内を受けた団体や自治体について伺います。その団体や自治体が提供する支援サービスを利用している（したことがある）人はどなたですか。（複数回答）

		回答数	%
全体		22	100.0
1	こども	18	81.8
2	こどもがお世話やサポートをしている家族	14	63.6
3	こどもがお世話やサポートをしている家族以外の家族	3	13.6
4	わからない	2	9.1

Q18 こどもは、その団体や自治体のどのような支援サービスを利用していますか（していましたか）。（複数回答）

		回答数	%
全体		18	100.0
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしているこども自身についての相談	14	77.8
2	家事やお世話の代行、手伝い	2	11.1
3	外出時の付き添い	7	38.9
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	11	61.1
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	9	50.0
6	こども食堂	4	22.2
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	10	55.6
8	就労支援	1	5.6
9	その他	0	0.0
10	わからない	0	0.0

Q19 こどもが利用したことのある支援サービスのうち、ご家族の立場からみて、こどもがサービスを利用してよかったと一番感じるものはどれですか。（単数回答）

		回答数	%
全体		18	100.0
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしているこども自身についての相談	5	27.8
2	家事やお世話の代行、手伝い	1	5.6
3	外出時の付き添い	1	5.6
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	2	11.1
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	1	5.6
6	こども食堂	0	0.0
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	5	27.8
8	就労支援	0	0.0
9	その他	0	0.0
10	こどもが支援サービスを利用してよかったと感じたことはない	0	0.0
11	わからない	3	16.7

Q20 こどもが支援サービスを利用してよかったと感じる理由を教えてください。（複数回答）

全体		回答数	%
		15	100.0
1	こどものお世話の負担が減った	2	13.3
2	こどもが以前よりよいお世話をできるようになった	1	6.7
3	こどもの体の調子よくなった	3	20.0
4	こどもの精神的な負担、ストレスが減ったように感じる	10	66.7
5	こどもの孤独感が減ったように感じる	8	53.3
6	こどもが自分のために使える時間が増えた	3	20.0
7	こどもが自分の将来について考える時間やきっかけができた	8	53.3
8	こどもが学校や勉強、仕事に集中できるようになった	4	26.7
9	こどもがお世話やサポートをしている家族の負担が減った（家事や気持ちの負担を含む）	2	13.3
10	こどもがお世話やサポートをしている家族の体調よくなった	1	6.7
11	こどもがお世話やサポートをしている家族の状況をより理解できるようになった	1	6.7
12	経済的な不安が減った	1	6.7
13	家族の仲がよくなった	2	13.3
14	その他	0	0.0

Q21 こどもはその支援サービスをおおよそどのくらいの頻度で利用しましたか。（単数回答）

全体		回答数	%
		15	100.0
1	ほぼ毎日	0	0.0
2	週に2、3回程度	1	6.7
3	週に1回程度	9	60.0
4	月に2、3回程度	3	20.0
5	月に1回程度	2	13.3
6	2～3か月に1回程度	0	0.0
7	2～3か月に1回未満（利用回数が1回のみを含む）	0	0.0
8	わからない	0	0.0

Q22 こどもはその支援サービスをおおよそどのくらいの期間利用しましたか。（単数回答）

全体		回答数	%
		15	100.0
1	1回のみ利用	0	0.0
2	1か月未満（1回のみ利用の場合を除く）	0	0.0
3	1か月～3か月未満	1	6.7
4	3か月～6か月未満	0	0.0
5	6か月～1年未満	1	6.7
6	1年～2年未満	6	40.0
7	2年以上	7	46.7
8	わからない	0	0.0

Q23 こどもからのお世話やサポートを必要としている人が、現在はいないものの、過去にいた、という人にお聞きします。こどもがその支援サービスを受けたのはこどもがおおよそ何才くらいの時ですか。（単数回答）

全体		回答数	%
		1	100.0
1	小学生の時	0	0.0
2	中学生の時	1	100.0
3	高校生の世代の時	0	0.0
4	19～25才の時	0	0.0
5	26才以降	0	0.0

Q24 ご家族の方が利用した支援サービスについて伺います。その団体や自治体のどのような支援サービスを利用してありますか（していましたか）。（複数回答）

全体		回答数	%
		14	100.0
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしているこどものことについての相談	11	78.6
2	家事やお世話の代行、お手伝い	5	35.7
3	外出時の付き添い	4	28.6
4	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、こども食堂を除く）	5	35.7
5	こども食堂	0	0.0
6	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	1	7.1
7	就労支援	3	21.4
8	通訳などの日本語対応に関する支援	0	0.0
9	その他	3	21.4
10	わからない	0	0.0

Q25 ご家族の方が利用したことのある支援サービスのうち、利用してよかったと一番感じるものはどれですか。（単数回答）

全体		回答数	%
		14	100.0
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしているこどものことについての相談	6	42.9
2	家事やお世話の代行、お手伝い	1	7.1
3	外出時の付き添い	1	7.1
4	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	3	21.4
5	子ども食堂	0	0.0
6	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	0	0.0
7	就労支援	0	0.0
8	通訳などの日本語対応に関する支援	0	0.0
9	その他	2	14.3
10	ご家族の方が支援サービスを利用してよかったと感じたことはない	0	0.0
11	わからない	1	7.1

Q26 ご家族の方が支援サービスを利用してよかったと感じる理由を教えてください。（複数回答）

全体		回答数	%
		13	100.0
1	ご家族の方の家事負担が減った	5	38.5
2	ご家族の方の時間的な余裕ができた	3	23.1
3	ご家族の方の体の調子がよくなった	1	7.7
4	ご家族の方の精神的な負担、ストレスが減った	9	69.2
5	ご家族の方の孤独感が減った	6	46.2
6	こどもの将来についてのご家族の方の不安が減った	5	38.5
7	経済的な不安が減った	3	23.1
8	家族の仲がよくなった	4	30.8
9	こどものお世話の負担が減った	2	15.4
10	こどもが以前よりよいお世話をできるようになった	0	0.0
11	こどもの体の調子がよくなった	1	7.7
12	こどもの精神的な負担、ストレスが減ったように感じる	6	46.2
13	こどもの孤独感が減ったように感じる	4	30.8
14	こどもが自分のために使える時間が増えた	6	46.2
15	こどもが学校や勉強、仕事に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	2	15.4
16	その他	0	0.0

Q27 ご家族の方はその支援サービスをおおよそどのくらいの頻度で利用しましたか。（単数回答）

全体		回答数	%
		13	100.0
1	ほぼ毎日	0	0.0
2	週に2、3回程度	3	23.1
3	週に1回程度	6	46.2
4	月に2、3回程度	2	15.4
5	月に1回程度	2	15.4
6	2～3か月に1回程度	0	0.0
7	2～3か月に1回未満（利用回数が1回のみを含む）	0	0.0
8	わからない	0	0.0

Q28 ご家族の方はその支援サービスをおおよそどのくらいの期間利用しましたか。（単数回答）

全体		回答数	%
		13	100.0
1	1回のみ利用	0	0.0
2	1か月未満（1回のみ利用の場合を除く）	0	0.0
3	1か月～3か月未満	3	23.1
4	3か月～6か月未満	0	0.0
5	6か月～1年未満	0	0.0
6	1年～2年未満	4	30.8
7	2年以上	6	46.2
8	わからない	0	0.0

Q29 こどもからのお世話やサポートを必要としている人が、現在はいないものの、過去にいた、という人にお聞きします。ご家族の方がその支援サービスを受けたのはこどもがおおよそ何才くらいの時ですか。（単数回答）

全体		回答数	%
		1	100.0
1	小学生の時	0	0.0
2	中学生の時	1	100.0
3	高校生の世代の時	0	0.0
4	19～25才の時	0	0.0
5	26才以降	0	0.0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

Q5 こどもの現在の就学・就業状況等を教えてください。（複数回答）

		(件)			(%)		
		こどもの年代			こどもの年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
	全体	6	5	1	100.0	100.0	100.0
1	学生・生徒（予備校生などを含む）	6	5	1	100.0	100.0	100.0
2	正規の社員・職員・従業員	0	0	0	0.0	0.0	0.0
3	非正規の社員・職員・従業員（パート・アルバイトを含む）	0	0	0	0.0	0.0	0.0
4	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
5	就学・就業はしていない	0	0	0	0.0	0.0	0.0

Q6 こどもが現在在学している学校を教えてください。（単数回答）

		(件)			(%)		
		こどもの年代			こどもの年代		
		全体	高校生世代	若者	全体	高校生世代	若者
	全体	6	5	1	100.0	100.0	100.0
1	高等学校（全日制高校）	1	1	0	16.7	20.0	0.0
2	高等学校（定時制高校）	1	1	0	16.7	20.0	0.0
3	専修学校・専門学校	0	0	0	0.0	0.0	0.0
4	高等専門学校・短期大学	0	0	0	0.0	0.0	0.0
5	大学・大学院	1	0	1	16.7	0.0	100.0
6	その他	3	3	0	50.0	60.0	0.0

Q7 こどもの性別を教えてください。（単数回答）

		(件)					(%)				
		こどもの年代					こどもの年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
	全体	22	4	12	5	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	男	9	2	5	2	0	40.9	50.0	41.7	40.0	0.0
2	女	13	2	7	3	1	59.1	50.0	58.3	60.0	100.0
3	その他	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	答えたくない	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q8 こどもが住んでいる都道府県はどこですか。（単数回答）

≪地域別集計≫

		(件)					(%)				
		こどもの年代					こどもの年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
	全体	22	4	12	5	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	北海道・東北地方	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	関東地方	6	0	6	0	0	27.3	0.0	50.0	0.0	0.0
3	中部地方	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	近畿地方	8	2	2	3	1	36.4	50.0	16.7	60.0	100.0
5	中国・四国地方	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	九州地方	8	2	4	2	0	36.4	50.0	33.3	40.0	0.0
7	無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

＜都道府県別集計＞

		(件)					こどもの年代 (%)				
		こどもの年代					こどもの年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
全体		22	4	12	5	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	北海道	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	青森県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	岩手県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	宮城県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5	秋田県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	山形県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	福島県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8	茨城県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9	栃木県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	群馬県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	埼玉県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	千葉県	1	0	1	0	0	4.5	0.0	8.3	0.0	0.0
13	東京都	1	0	1	0	0	4.5	0.0	8.3	0.0	0.0
14	神奈川県	4	0	4	0	0	18.2	0.0	33.3	0.0	0.0
15	新潟県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
16	富山県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
17	石川県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
18	福井県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	山梨県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20	長野県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
21	岐阜県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
22	静岡県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
23	愛知県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
24	三重県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
25	滋賀県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
26	京都府	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
27	大阪府	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
28	兵庫県	7	1	2	3	1	31.8	25.0	16.7	60.0	100.0
29	奈良県	1	1	0	0	0	4.5	25.0	0.0	0.0	0.0
30	和歌山県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
31	鳥取県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
32	島根県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
33	岡山県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
34	広島県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
35	山口県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
36	徳島県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
37	香川県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
38	愛媛県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
39	高知県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40	福岡県	1	0	0	1	0	4.5	0.0	0.0	20.0	0.0
41	佐賀県	7	2	4	1	0	31.8	50.0	33.3	20.0	0.0
42	長崎県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
43	熊本県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
44	大分県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
45	宮崎県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
46	鹿児島県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
47	沖縄県	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

Q10 こどもの現在の同居家族について、こども本人からみた関係性（こどもとの続柄）を教えてください。（複数回答）

		(件)					(%)				
		こどもの年代					こどもの年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
	全体	21	4	12	4	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	母親	17	3	11	2	1	81.0	75.0	91.7	50.0	100.0
2	父親	7	1	4	2	0	33.3	25.0	33.3	50.0	0.0
3	兄	4	2	2	0	0	19.0	50.0	16.7	0.0	0.0
4	姉	1	0	1	0	0	4.8	0.0	8.3	0.0	0.0
5	弟	5	0	5	0	0	23.8	0.0	41.7	0.0	0.0
6	妹	6	1	4	0	1	28.6	25.0	33.3	0.0	100.0
7	祖母	4	2	2	0	0	19.0	50.0	16.7	0.0	0.0
8	祖父	2	2	0	0	0	9.5	50.0	0.0	0.0	0.0
9	曾祖母	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	曾祖父	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	叔母	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	叔父	1	0	1	0	0	4.8	0.0	8.3	0.0	0.0
13	配偶者・パートナー	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
14	こども（こどものこども）	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
15	いとこ	1	1	0	0	0	4.8	25.0	0.0	0.0	0.0
16	甥、姪	1	0	1	0	0	4.8	0.0	8.3	0.0	0.0
17	母親のパートナー	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
18	父親のパートナー	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	その他	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

<家族構成>

		(件)					(%)				
		こどもの年代					こどもの年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
	全体	21	4	12	4	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ひとり親家庭（母子家庭）	10	1	6	2	1	47.6	25.0	50.0	50.0	100.0
2	ひとり親家庭（父子家庭）	2	0	0	2	0	9.5	0.0	0.0	50.0	0.0
3	二世帯世帯（ふたり親家庭）	5	1	4	0	0	23.8	25.0	33.3	0.0	0.0
4	三世帯世帯	2	1	1	0	0	9.5	25.0	8.3	0.0	0.0
5	その他世帯	2	1	1	0	0	9.5	25.0	8.3	0.0	0.0
6	無回答/無効回答	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q12 こどもからのお世話やサポートを必要としている人はどなたですか。こども本人からみた関係性（こどもとの続柄）を教えてください。（複数回答）

		(件)					(%)				
		こどもの年代					こどもの年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
	全体	22	4	12	5	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	母親	15	3	8	3	1	68.2	75.0	66.7	60.0	100.0
2	父親	5	1	2	2	0	22.7	25.0	16.7	40.0	0.0
3	祖母	3	2	1	0	0	13.6	50.0	8.3	0.0	0.0
4	祖父	2	2	0	0	0	9.1	50.0	0.0	0.0	0.0
5	きょうだい	5	1	3	1	0	22.7	25.0	25.0	20.0	0.0
6	その他	1	1	0	0	0	4.5	25.0	0.0	0.0	0.0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

Q13 子どもがお世話やサポートをしている人について、お世話やサポートを必要としている理由を教えてください。（複数回答）

		回答数						%					
		小学生						小学生					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体		3	1	2	2	1	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	高齢（65歳以上）	0	0	1	1	0	0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
2	幼い	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	要介護（介護が必要な状態）	0	0	0	1	0	0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
4	認知症	0	0	0	1	0	0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
5	身体障がい	0	0	0	1	0	0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
6	知的障がい	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	発達障がい（疑いを含む）	0	0	1	1	1	1	0.0	0.0	50.0	50.0	100.0	100.0
8	精神疾患（疑いを含む）	3	1	2	1	0	1	100.0	100.0	100.0	50.0	0.0	100.0
9	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	精神疾患、依存症以外の病気	1	0	2	1	0	1	33.3	0.0	100.0	50.0	0.0	100.0
11	日本語が苦手、わからない	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	その他	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

		回答数						%					
		中学生						中学生					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体		8	2	1	0	3	0	100.0	100.0	100.0	-	100.0	-
1	高齢（65歳以上）	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
2	幼い	0	0	0	0	1	0	0.0	0.0	0.0	-	33.3	-
3	要介護（介護が必要な状態）	0	1	0	0	0	0	0.0	50.0	0.0	-	0.0	-
4	認知症	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
5	身体障がい	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
6	知的障がい	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
7	発達障がい（疑いを含む）	2	1	0	0	1	0	25.0	50.0	0.0	-	33.3	-
8	精神疾患（疑いを含む）	7	1	1	0	0	0	87.5	50.0	100.0	-	0.0	-
9	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	1	0	0	0	0	0	12.5	0.0	0.0	-	0.0	-
10	精神疾患、依存症以外の病気	6	2	1	0	0	0	75.0	100.0	100.0	-	0.0	-
11	日本語が苦手、わからない	1	0	0	0	1	0	12.5	0.0	0.0	-	33.3	-
12	その他	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

		回答数						%					
		高校生世代						高校生世代					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体		3	2	0	0	1	0	100.0	100.0	-	-	100.0	-
1	高齢（65歳以上）	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	-	-	0.0	-
2	若い	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	-	-	0.0	-
3	要介護（介護が必要な状態）	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	-	-	0.0	-
4	認知症	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	-	-	0.0	-
5	身体障がい	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	-	-	0.0	-
6	知的障がい	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	-	-	0.0	-
7	発達障がい（疑いを含む）	1	0	0	0	1	0	33.3	0.0	-	-	100.0	-
8	精神疾患（疑いを含む）	3	0	0	0	0	0	100.0	0.0	-	-	0.0	-
9	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	-	-	0.0	-
10	精神疾患、依存症以外の病気	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	-	-	0.0	-
11	日本語が苦手、わからない	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	-	-	0.0	-
12	その他	0	2	0	0	0	0	0.0	100.0	-	-	0.0	-

		回答数						%					
		若者						若者					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体		1	0	0	0	0	0	100.0	-	-	-	-	-
1	高齢（65歳以上）	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-	-	-	-
2	若い	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-	-	-	-
3	要介護（介護が必要な状態）	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-	-	-	-
4	認知症	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-	-	-	-
5	身体障がい	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-	-	-	-
6	知的障がい	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-	-	-	-
7	発達障がい（疑いを含む）	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-	-	-	-
8	精神疾患（疑いを含む）	1	0	0	0	0	0	100.0	-	-	-	-	-
9	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-	-	-	-
10	精神疾患、依存症以外の病気	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-	-	-	-
11	日本語が苦手、わからない	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-	-	-	-
12	その他	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-	-	-	-

Q14 こどもが行っているお世話やサポートの内容を教えてください。（複数回答）

		回答数						回答数					
		小学生						中学生					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
	全体	3	1	2	2	1	1	8	2	1	0	3	0
1	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	3	1	2	2	0	1	5	1	1	0	1	0
2	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	1	1	0	0	1	0	3	1	0	0	2	0
3	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
4	外出の付き添い（買い物、散歩など）	1	0	1	1	0	0	6	1	1	0	0	0
5	通院の付き添い	0	0	1	1	0	0	4	0	1	0	0	0
6	入院や入所をしている家族との面会	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
7	医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
8	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	3	0	2	2	1	1	5	0	1	0	0	0
9	見守り	0	0	1	1	1	0	3	1	0	0	3	0
10	通訳（日本語や手話など）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	金銭管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	家計支援（家族のためにバイトで働くなど）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

		回答数						回答数					
		高校生世代						若者					
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
	全体	3	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
1	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
2	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	外出の付き添い（買い物、散歩など）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	通院の付き添い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	入院や入所をしている家族との面会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
9	見守り	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
10	通訳（日本語や手話など）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	金銭管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	家計支援（家族のためにバイトで働くなど）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

	%						%					
	小学生						中学生					
	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	100.0	-
1 家事（食事の準備や掃除、洗濯）	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	62.5	50.0	100.0	-	33.3	-
2 きょうだいの世話や保育所等への送迎など	33.3	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	37.5	50.0	0.0	-	66.7	-
3 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	50.0	100.0	-	0.0	-
4 外出の付き添い（買い物、散歩など）	33.3	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	75.0	50.0	100.0	-	0.0	-
5 通院の付き添い	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0	-	0.0	-
6 入院や入所をしている家族との面会	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	-	0.0	-
7 医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	-	0.0	-
8 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	62.5	0.0	100.0	-	0.0	-
9 見守り	0.0	0.0	50.0	50.0	100.0	0.0	37.5	50.0	0.0	-	100.0	-
10 通訳（日本語や手話など）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
11 金銭管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
12 家計支援（家族のためにバイトで働くなど）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
13 薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
14 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-

	%						%					
	高校生世代						若者					
	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体	100.0	100.0	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-
1 家事（食事の準備や掃除、洗濯）	33.3	100.0	-	-	100.0	-	0.0	-	-	-	-	-
2 きょうだいの世話や保育所等への送迎など	33.3	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-	-	-
3 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-	-	-
4 外出の付き添い（買い物、散歩など）	33.3	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-	-	-
5 通院の付き添い	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-	-	-
6 入院や入所をしている家族との面会	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-	-	-
7 医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-	-	-
8 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	66.7	0.0	-	-	0.0	-	100.0	-	-	-	-	-
9 見守り	66.7	0.0	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-
10 通訳（日本語や手話など）	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-	-	-
11 金銭管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-	-	-
12 家計支援（家族のためにバイトで働くなど）	33.3	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-	-	-
13 薬の管理（薬を飲んだか確かめるなど）	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-	-	-
14 その他	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-	-	-

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

Q15 子どもはどのくらいの頻度でお世話やサポートをしていますか。（単数回答）

		(件)					(%)				
		こどもの年代					こどもの年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
全体		22	4	12	5	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ほぼ毎日	15	4	8	3	0	68.2	100.0	66.7	60.0	0.0
2	週に3～5日	6	0	3	2	1	27.3	0.0	25.0	40.0	100.0
3	週に1～2日	1	0	1	0	0	4.5	0.0	8.3	0.0	0.0
4	1か月に数日	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5	その他	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q16 子どもは平日1日にどのくらいの時間お世話をしていますか。（単数回答）

		(件)					(%)				
		こどもの年代					こどもの年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
全体		22	4	12	5	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	1時間未満	5	0	5	0	0	22.7	0.0	41.7	0.0	0.0
2	1時間以上3時間未満	7	1	2	3	1	31.8	25.0	16.7	60.0	100.0
3	3時間以上5時間未満	7	2	3	2	0	31.8	50.0	25.0	40.0	0.0
4	5時間以上7時間未満	2	0	2	0	0	9.1	0.0	16.7	0.0	0.0
5	7時間以上	1	1	0	0	0	4.5	25.0	0.0	0.0	0.0

Q17 子ども、またはあなたがこのアンケートの案内を受けた団体や自治体について伺います。その団体や自治体が提供する支援サービスを利用している（したことがある）人はどなたですか。（複数回答）

		(件)					(%)				
		こどもの年代					こどもの年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
全体		22	4	12	5	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	子ども	18	2	11	4	1	81.8	50.0	91.7	80.0	100.0
2	子どもがお世話やサポートをしている家族	14	2	8	4	0	63.6	50.0	66.7	80.0	0.0
3	子どもがお世話やサポートをしている家族以外の家族	3	0	3	0	0	13.6	0.0	25.0	0.0	0.0
4	わからない	2	1	1	0	0	9.1	25.0	8.3	0.0	0.0

Q18 子どもは、その団体や自治体のどのような支援サービスを利用していますか（していましたが）。（複数回答）

		(件)					(%)				
		こどもの年代					こどもの年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
全体		18	2	11	4	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしている子ども自身についての相談	14	2	8	3	1	77.8	100.0	72.7	75.0	100.0
2	家事やお世話の代行、手伝い	2	0	2	0	0	11.1	0.0	18.2	0.0	0.0
3	外出時の付き添い	7	1	4	2	0	38.9	50.0	36.4	50.0	0.0
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	11	2	8	1	0	61.1	100.0	72.7	25.0	0.0
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	9	2	6	1	0	50.0	100.0	54.5	25.0	0.0
6	子ども食堂	4	1	1	1	1	22.2	50.0	9.1	25.0	100.0
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	10	2	4	4	0	55.6	100.0	36.4	100.0	0.0
8	就労支援	1	0	0	1	0	5.6	0.0	0.0	25.0	0.0
9	その他	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	わからない	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

Q18×家族構成

(件)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		18	10	1	3	1	2	0	0	1
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしている子ども自身についての相談	14	8	0	2	1	2	0	0	1
2	家事やお世話の代行、手伝い	2	1	0	1	0	0	0	0	0
3	外出時の付き添い	7	4	0	1	0	1	0	0	1
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	11	6	0	2	1	2	0	0	0
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	9	4	1	3	0	1	0	0	0
6	子ども食堂	4	2	0	0	0	1	0	0	1
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	10	5	1	2	0	1	0	0	1
8	就労支援	1	1	0	0	0	0	0	0	0
9	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	わからない	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(%)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	100.0
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしている子ども自身についての相談	77.8	80.0	0.0	66.7	100.0	100.0	-	-	100.0
2	家事やお世話の代行、手伝い	11.1	10.0	0.0	33.3	0.0	0.0	-	-	0.0
3	外出時の付き添い	38.9	40.0	0.0	33.3	0.0	50.0	-	-	100.0
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	61.1	60.0	0.0	66.7	100.0	100.0	-	-	0.0
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	50.0	40.0	100.0	100.0	0.0	50.0	-	-	0.0
6	子ども食堂	22.2	20.0	0.0	0.0	0.0	50.0	-	-	100.0
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	55.6	50.0	100.0	66.7	0.0	50.0	-	-	100.0
8	就労支援	5.6	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
9	その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
10	わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

Q19 子どもが利用したことのある支援サービスのうち、ご家族の立場からみて、子どもがサービスを利用してよかったと一番感じるものはどれですか。（単数回答）

		(件)					(%)				
		子どもの年代					子どもの年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
全体		18	2	11	4	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしている子ども自身についての相談	5	0	2	2	1	27.8	0.0	18.2	50.0	100.0
2	家事やお世話の代行、手伝い	1	0	1	0	0	5.6	0.0	9.1	0.0	0.0
3	外出時の付き添い	1	0	1	0	0	5.6	0.0	9.1	0.0	0.0
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	2	0	2	0	0	11.1	0.0	18.2	0.0	0.0
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	1	0	1	0	0	5.6	0.0	9.1	0.0	0.0
6	子ども食堂	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	5	0	3	2	0	27.8	0.0	27.3	50.0	0.0
8	就労支援	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9	その他	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	子どもが支援サービスを利用してよかったと感じたことはない	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	わからない	3	2	1	0	0	16.7	100.0	9.1	0.0	0.0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

Q19×家族構成

(件)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		18	10	1	3	1	2	0	0	1
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしている子ども自身についての相談	5	4	0	1	0	0	0	0	0
2	家事やお世話の代行、手伝い	1	1	0	0	0	0	0	0	0
3	外出時の付き添い	1	1	0	0	0	0	0	0	0
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	2	0	0	0	1	1	0	0	0
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	1	1	0	0	0	0	0	0	0
6	子ども食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	5	1	1	2	0	0	0	0	1
8	就労支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	子どもが支援サービスを利用してよかったと感じたことはない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	わからない	3	2	0	0	0	1	0	0	0

(%)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	100.0
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしている子ども自身についての相談	27.8	40.0	0.0	33.3	0.0	0.0	-	-	0.0
2	家事やお世話の代行、手伝い	5.6	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
3	外出時の付き添い	5.6	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
4	勉強に関する支援（フリースクール、家庭教師を含む）	11.1	0.0	0.0	0.0	100.0	50.0	-	-	0.0
5	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	5.6	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
6	子ども食堂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
7	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	27.8	10.0	100.0	66.7	0.0	0.0	-	-	100.0
8	就労支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
9	その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
10	子どもが支援サービスを利用してよかったと感じたことはない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
11	わからない	16.7	20.0	0.0	0.0	0.0	50.0	-	-	0.0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

Q20 こどもが支援サービスを利用してよかったと感じる理由を教えてください。（複数回答）

		(件)					(%)				
		こどもの年代					こどもの年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
	全体	15	0	10	4	1	100.0	-	100.0	100.0	100.0
1	こどものお世話の負担が減った	2	0	2	0	0	13.3	-	20.0	0.0	0.0
2	こどもが以前よりよいお世話をできるようになった	1	0	1	0	0	6.7	-	10.0	0.0	0.0
3	こどもの体の調子がよくなった	3	0	2	0	1	20.0	-	20.0	0.0	100.0
4	こどもの精神的な負担、ストレスが減ったように感じる	10	0	6	3	1	66.7	-	60.0	75.0	100.0
5	こどもの孤独感が減ったように感じる	8	0	5	2	1	53.3	-	50.0	50.0	100.0
6	こどもが自分のために使える時間が増えた	3	0	3	0	0	20.0	-	30.0	0.0	0.0
7	こどもが自分の将来について考える時間やきっかけができた	8	0	5	2	1	53.3	-	50.0	50.0	100.0
8	こどもが学校や勉強、仕事に集中できるようになった	4	0	4	0	0	26.7	-	40.0	0.0	0.0
9	こどもがお世話やサポートをしている家族の負担が減った（家事や気持ちの負担を含む）	2	0	2	0	0	13.3	-	20.0	0.0	0.0
10	こどもがお世話やサポートをしている家族の体調がよくなった	1	0	1	0	0	6.7	-	10.0	0.0	0.0
11	こどもがお世話やサポートをしている家族の状況をより理解できるようになった	1	0	1	0	0	6.7	-	10.0	0.0	0.0
12	経済的な不安が減った	1	0	1	0	0	6.7	-	10.0	0.0	0.0
13	家族の仲がよくなった	2	0	2	0	0	13.3	-	20.0	0.0	0.0
14	その他	0	0	0	0	0	0.0	-	0.0	0.0	0.0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

Q20×家族構成

(件)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		15	8	1	3	1	1	0	0	1
1	子どものお世話の負担が減った	2	1	0	1	0	0	0	0	0
2	子どもが以前よりよいお世話をできるようになった	1	0	0	1	0	0	0	0	0
3	子どもの体の調子がよくなった	3	2	0	1	0	0	0	0	0
4	子どもの精神的な負担、ストレスが減ったように感じる	10	7	0	1	1	0	0	0	1
5	子どもの孤独感が減ったように感じる	8	4	1	0	1	1	0	0	1
6	子どもが自分のために使える時間が増えた	3	1	0	0	1	1	0	0	0
7	子どもが自分の将来について考える時間やきっかけができた	8	5	0	1	1	1	0	0	0
8	子どもが学校や勉強、仕事に集中できるようになった	4	2	0	0	1	1	0	0	0
9	子どもがお世話やサポートをしている家族の負担が減った（家事や気持ちの負担を含む）	2	2	0	0	0	0	0	0	0
10	子どもがお世話やサポートをしている家族の体調がよくなった	1	0	0	1	0	0	0	0	0
11	子どもがお世話やサポートをしている家族の状況をより理解できるようになった	1	1	0	0	0	0	0	0	0
12	経済的な不安が減った	1	1	0	0	0	0	0	0	0
13	家族の仲がよくなった	2	2	0	0	0	0	0	0	0
14	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(%)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	100.0
1	子どものお世話の負担が減った	13.3	12.5	0.0	33.3	0.0	0.0	-	-	0.0
2	子どもが以前よりよいお世話をできるようになった	6.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	-	-	0.0
3	子どもの体の調子がよくなった	20.0	25.0	0.0	33.3	0.0	0.0	-	-	0.0
4	子どもの精神的な負担、ストレスが減ったように感じる	66.7	87.5	0.0	33.3	100.0	0.0	-	-	100.0
5	子どもの孤独感が減ったように感じる	53.3	50.0	100.0	0.0	100.0	100.0	-	-	100.0
6	子どもが自分のために使える時間が増えた	20.0	12.5	0.0	0.0	100.0	100.0	-	-	0.0
7	子どもが自分の将来について考える時間やきっかけができた	53.3	62.5	0.0	33.3	100.0	100.0	-	-	0.0
8	子どもが学校や勉強、仕事に集中できるようになった	26.7	25.0	0.0	0.0	100.0	100.0	-	-	0.0
9	子どもがお世話やサポートをしている家族の負担が減った（家事や気持ちの負担を含む）	13.3	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
10	子どもがお世話やサポートをしている家族の体調がよくなった	6.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	-	-	0.0
11	子どもがお世話やサポートをしている家族の状況をより理解できるようになった	6.7	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
12	経済的な不安が減った	6.7	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
13	家族の仲がよくなった	13.3	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
14	その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

Q24 ご家族の方が利用した支援サービスについて伺います。その団体や自治体のどのような支援サービスを利用していますか（していましたか）。（複数回答）

		(件)					(%)				
		こどもの年代					こどもの年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
	全体	14	2	8	4	0	100.0	100.0	100.0	100.0	-
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしているこどものことについての相談	11	2	6	3	0	78.6	100.0	75.0	75.0	-
2	家事やお世話の代行、お手伝い	5	0	4	1	0	35.7	0.0	50.0	25.0	-
3	外出時の付き添い	4	0	3	1	0	28.6	0.0	37.5	25.0	-
4	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	5	1	3	1	0	35.7	50.0	37.5	25.0	-
5	子ども食堂	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
6	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	1	0	1	0	0	7.1	0.0	12.5	0.0	-
7	就労支援	3	0	0	3	0	21.4	0.0	0.0	75.0	-
8	通訳などの日本語対応に関する支援	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
9	その他	3	1	0	2	0	21.4	50.0	0.0	50.0	-
10	わからない	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	-

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

Q24×家族構成

(件)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		14	7	1	2	1	2	0	0	1
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしていることについての相談	11	5	1	2	1	2	0	0	0
2	家事やお世話の代行、お手伝い	5	2	1	1	0	1	0	0	0
3	外出時の付き添い	4	3	0	0	0	1	0	0	0
4	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	5	2	1	1	0	1	0	0	0
5	子ども食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	1	0	0	1	0	0	0	0	0
7	就労支援	3	2	1	0	0	0	0	0	0
8	通訳などの日本語対応に関する支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	その他	3	1	0	1	0	0	0	0	1
10	わからない	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(%)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	100.0
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしていることについての相談	78.6	71.4	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	0.0
2	家事やお世話の代行、お手伝い	35.7	28.6	100.0	50.0	0.0	50.0	-	-	0.0
3	外出時の付き添い	28.6	42.9	0.0	0.0	0.0	50.0	-	-	0.0
4	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	35.7	28.6	100.0	50.0	0.0	50.0	-	-	0.0
5	子ども食堂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
6	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	7.1	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	-	-	0.0
7	就労支援	21.4	28.6	100.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
8	通訳などの日本語対応に関する支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
9	その他	21.4	14.3	0.0	50.0	0.0	0.0	-	-	100.0
10	わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

Q25 ご家族の方が利用したことのある支援サービスのうち、利用してよかったと一番に感じるものはどれですか。（単数回答）

		(件)					(%)				
		こどもの年代					こどもの年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
	全体	14	2	8	4	0	100.0	100.0	100.0	100.0	-
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしているこどものことについての相談	6	0	4	2	0	42.9	0.0	50.0	50.0	-
2	家事やお世話の代行、お手伝い	1	0	1	0	0	7.1	0.0	12.5	0.0	-
3	外出時の付き添い	1	0	1	0	0	7.1	0.0	12.5	0.0	-
4	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	3	0	2	1	0	21.4	0.0	25.0	25.0	-
5	子ども食堂	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
6	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
7	就労支援	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
8	通訳などの日本語対応に関する支援	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
9	その他	2	1	0	1	0	14.3	50.0	0.0	25.0	-
10	ご家族の方が支援サービスを利用してよかったと感じたことはない	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
11	わからない	1	1	0	0	0	7.1	50.0	0.0	0.0	-

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

Q25×家族構成

(件)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		14	7	1	2	1	2	0	0	1
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしていることについての相談	6	4	0	0	1	1	0	0	0
2	家事やお世話の代行、お手伝い	1	1	0	0	0	0	0	0	0
3	外出時の付き添い	1	1	0	0	0	0	0	0	0
4	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	3	1	1	1	0	0	0	0	0
5	子ども食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	就労支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	通訳などの日本語対応に関する支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	その他	2	0	0	1	0	0	0	0	1
10	ご家族の方が支援サービスを利用してよかったと感じたことはない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	わからない	1	0	0	0	0	1	0	0	0

(%)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	100.0
1	お世話やサポートを必要とする家族や、お世話やサポートをしていることについての相談	42.9	57.1	0.0	0.0	100.0	50.0	-	-	0.0
2	家事やお世話の代行、お手伝い	7.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
3	外出時の付き添い	7.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
4	食事に関する支援（お弁当の配達を含み、子ども食堂を除く）	21.4	14.3	100.0	50.0	0.0	0.0	-	-	0.0
5	子ども食堂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
6	居場所、サロン（他の人たちと一緒に話をしたりできる場所）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
7	就労支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
8	通訳などの日本語対応に関する支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
9	その他	14.3	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	-	-	100.0
10	ご家族の方が支援サービスを利用してよかったと感じたことはない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
11	わからない	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	-	-	0.0

ヤングケアラーの家族に対するアンケート（クロス集計表）

Q26 ご家族の方が支援サービスを利用してよかったと感じる理由を教えてください。（複数回答）

		(件)					(%)				
		こどもの年代					こどもの年代				
		全体	小学生	中学生	高校生世代	若者	全体	小学生	中学生	高校生世代	若者
	全体	13	1	8	4	0	100.0	100.0	100.0	100.0	-
1	ご家族の方の家事負担が減った	5	1	3	1	0	38.5	100.0	37.5	25.0	-
2	ご家族の方の時間的な余裕ができた	3	0	3	0	0	23.1	0.0	37.5	0.0	-
3	ご家族の方の体の調子がよくなった	1	0	1	0	0	7.7	0.0	12.5	0.0	-
4	ご家族の方の精神的な負担、ストレスが減った	9	0	7	2	0	69.2	0.0	87.5	50.0	-
5	ご家族の方の孤独感が減った	6	0	4	2	0	46.2	0.0	50.0	50.0	-
6	こどもの将来についてのご家族の方の不安が減った	5	0	3	2	0	38.5	0.0	37.5	50.0	-
7	経済的な不安が減った	3	1	1	1	0	23.1	100.0	12.5	25.0	-
8	家族の仲がよくなった	4	0	4	0	0	30.8	0.0	50.0	0.0	-
9	こどものお世話の負担が減った	2	0	2	0	0	15.4	0.0	25.0	0.0	-
10	こどもが以前よりよいお世話をできるようになった	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
11	こどもの体の調子がよくなった	1	0	1	0	0	7.7	0.0	12.5	0.0	-
12	こどもの精神的な負担、ストレスが減ったように感じる	6	1	4	1	0	46.2	100.0	50.0	25.0	-
13	こどもの孤独感が減ったように感じる	4	0	3	1	0	30.8	0.0	37.5	25.0	-
14	こどもが自分のために使える時間が増えた	6	1	4	1	0	46.2	100.0	50.0	25.0	-
15	こどもが学校や勉強、仕事に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	2	0	2	0	0	15.4	0.0	25.0	0.0	-
16	その他	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	-

Q26×家族構成

(件)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世代世帯 (ふたり親家庭)	三世代世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		13	7	1	2	1	1	0	0	1
1	ご家族の方の家事負担が減った	5	2	1	1	0	1	0	0	0
2	ご家族の方の時間的な余裕ができた	3	2	0	0	0	1	0	0	0
3	ご家族の方の体の調子がよくなった	1	1	0	0	0	0	0	0	0
4	ご家族の方の精神的な負担、ストレスが減った	9	6	0	1	1	1	0	0	0
5	ご家族の方の孤独感が減った	6	5	0	0	1	0	0	0	0
6	こどもの将来についてのご家族の方の不安が減った	5	4	0	0	1	0	0	0	0
7	経済的な不安が減った	3	1	0	1	0	0	0	0	1
8	家族の仲がよくなった	4	3	0	0	1	0	0	0	0
9	こどものお世話の負担が減った	2	1	0	0	0	1	0	0	0
10	こどもが以前よりよいお世話をできるようになった	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	こどもの体の調子がよくなった	1	1	0	0	0	0	0	0	0
12	こどもの精神的な負担、ストレスが減ったように感じる	6	3	0	1	1	1	0	0	0
13	こどもの孤独感が減ったように感じる	4	3	0	0	1	0	0	0	0
14	こどもが自分のために使える時間が増えた	6	3	0	1	1	1	0	0	0
15	こどもが学校や勉強、仕事に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	2	1	0	0	1	0	0	0	0
16	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(%)

		家族構成								
		全体	家族と同居					家族と非同居		
			ひとり親家庭 (母子家庭)	ひとり親家庭 (父子家庭)	二世代世帯 (ふたり親家庭)	三世代世帯	その他世帯	一人暮らし	寮	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	100.0
1	ご家族の方の家事負担が減った	38.5	28.6	100.0	50.0	0.0	100.0	-	-	0.0
2	ご家族の方の時間的な余裕ができた	23.1	28.6	0.0	0.0	0.0	100.0	-	-	0.0
3	ご家族の方の体の調子がよくなった	7.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
4	ご家族の方の精神的な負担、ストレスが減った	69.2	85.7	0.0	50.0	100.0	100.0	-	-	0.0
5	ご家族の方の孤独感が減った	46.2	71.4	0.0	0.0	100.0	0.0	-	-	0.0
6	こどもの将来についてのご家族の方の不安が減った	38.5	57.1	0.0	0.0	100.0	0.0	-	-	0.0
7	経済的な不安が減った	23.1	14.3	0.0	50.0	0.0	0.0	-	-	100.0
8	家族の仲がよくなった	30.8	42.9	0.0	0.0	100.0	0.0	-	-	0.0
9	こどものお世話の負担が減った	15.4	14.3	0.0	0.0	0.0	100.0	-	-	0.0
10	こどもが以前よりよいお世話をできるようになった	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
11	こどもの体の調子がよくなった	7.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
12	こどもの精神的な負担、ストレスが減ったように感じる	46.2	42.9	0.0	50.0	100.0	100.0	-	-	0.0
13	こどもの孤独感が減ったように感じる	30.8	42.9	0.0	0.0	100.0	0.0	-	-	0.0
14	こどもが自分のために使える時間が増えた	46.2	42.9	0.0	50.0	100.0	100.0	-	-	0.0
15	こどもが学校や勉強、仕事に集中できるようになった（学校に行けるようになった）	15.4	14.3	0.0	0.0	100.0	0.0	-	-	0.0
16	その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0

支援団体に対するアンケート（単純集計表）

Q2SQ1 貴団体の主たる事務所の所在地を教えてください。／都道府県（単数回答）

《地域別集計》

		回答数	%
全体		30	100.0
1	北海道・東北地方	2	6.7
2	関東地方	14	46.7
3	中部地方	3	10.0
4	近畿地方	5	16.7
5	中国・四国地方	4	13.3
6	九州地方	2	6.7

支援団体に対するアンケート（単純集計表）

《都道府県別集計》

全体		回答数	%
1	北海道	1	3.3
2	青森県	0	0.0
3	岩手県	1	3.3
4	宮城県	0	0.0
5	秋田県	0	0.0
6	山形県	0	0.0
7	福島県	0	0.0
8	茨城県	0	0.0
9	栃木県	0	0.0
10	群馬県	1	3.3
11	埼玉県	1	3.3
12	千葉県	2	6.7
13	東京都	10	33.3
14	神奈川県	0	0.0
15	新潟県	0	0.0
16	富山県	0	0.0
17	石川県	0	0.0
18	福井県	1	3.3
19	山梨県	0	0.0
20	長野県	1	3.3
21	岐阜県	0	0.0
22	静岡県	1	3.3
23	愛知県	0	0.0
24	三重県	0	0.0
25	滋賀県	1	3.3
26	京都府	1	3.3
27	大阪府	3	10.0
28	兵庫県	0	0.0
29	奈良県	0	0.0
30	和歌山県	0	0.0
31	鳥取県	0	0.0
32	島根県	0	0.0
33	岡山県	0	0.0
34	広島県	1	3.3
35	山口県	2	6.7
36	徳島県	0	0.0
37	香川県	0	0.0
38	愛媛県	1	3.3
39	高知県	0	0.0
40	福岡県	0	0.0
41	佐賀県	1	3.3
42	長崎県	0	0.0
43	熊本県	0	0.0
44	大分県	0	0.0
45	宮崎県	1	3.3
46	鹿児島県	0	0.0
47	沖縄県	0	0.0

支援団体に対するアンケート（単純集計表）

Q3 ヤングケアラー及びそのご家族等が利用可能な支援サービスについて、2023年9月1日時点で貴団体が提供したことがあるものを教えてください。（複数回答）

		回答数	%
全体		30	100.0
1	相談支援	23	76.7
2	ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供	12	40.0
3	外国語対応通訳支援	2	6.7
4	家事・育児支援	8	26.7
5	配食支援	10	33.3
6	食糧支援（フードバンク）	14	46.7
7	こども食堂	12	40.0
8	ショートステイ、トワイライトステイ	5	16.7
9	外出時の付き添い・同行支援	7	23.3
10	現金給付	1	3.3
11	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	13	43.3
12	就労支援	9	30.0
13	その他※	9	30.0
14	特になし	2	6.7

支援団体に対するアンケート（単純集計表）

Q4

ヤングケアラー及びそのご家族等が利用可能な支援サービスについて、2023年9月1日時点で貴団体が提供したことがあるものの、具体的な内容を教えてください。（複数回答）

（相談支援）

		回答数	%
全体		23	100.0
1	相談窓口での対面相談	19	82.6
2	電話相談	17	73.9
3	オンライン相談	8	34.8
4	SNS相談	11	47.8
5	アウトリーチ（訪問による相談支援）	15	65.2
6	元当事者による相談支援（ピアサポート）	6	26.1

（ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供）

		回答数	%
全体		12	100.0
1	オンラインサロン	8	66.7
2	対面のサロン（リアルイベントを含む）	12	100.0

（外国語対応通訳支援）

		回答数	%
全体		2	100.0
1	通訳者の配置	0	0.0
2	遠隔通訳	0	0.0
3	翻訳機の整備	1	50.0
4	その他	1	50.0

（配食支援：支援対象）

		回答数	%
全体		10	100.0
1	ヤングケアラー本人	10	100.0
2	ヤングケアラー本人の同居家族	9	90.0
3	支援を受ける際に「ヤングケアラー本人」と「ヤングケアラー本人の同居家族」を選択可能	3	30.0
4	その他	0	0.0

支援団体に対するアンケート（単純集計表）

Q5 ヤングケアラーが利用可能な支援サービスのうち、2023年9月1日時点で地方自治体の事業（委託事業、補助事業を含む）として実施したことがあるものはありますか。（複数回答）

		回答数	%
全体		28	100.0
1	相談支援	18	64.3
2	ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供	10	35.7
3	外国語対応通訳支援	2	7.1
4	家事・育児支援	6	21.4
5	配食支援	6	21.4
6	食糧支援（フードバンク）	8	28.6
7	こども食堂	8	28.6
8	ショートステイ、トワイライトステイ	3	10.7
9	外出時の付き添い・同行支援	3	10.7
10	現金給付	1	3.6
11	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	8	28.6
12	就労支援	5	17.9
13	その他	6	21.4
14	自治体の事業として実施しているものはない	4	14.3

Q6_1 対象者の年代別で、ヤングケアラー本人との関わり始めの段階における支援（支援の受け入れられやすさや、信頼関係の構築につながるなど）として、最も効果的だと考える支援サービスの内容を教えてください。（単数回答）

		回答数			
		小学生向け	中学生向け	高校生世代向	若者向け
全体		28	28	28	28
1	相談窓口での対面相談	0	0	1	1
2	電話相談	0	0	0	3
3	オンライン相談	0	0	0	2
4	SNS相談	1	3	5	2
5	アウトリーチ（訪問による相談支援）	4	5	3	2
6	元当事者による相談支援（ピアサポート）	0	0	0	1
7	オンラインサロン	0	0	0	0
8	対面のサロン（リアルイベントを含む）	2	1	2	2
9	通訳者の配置	0	0	0	0
10	遠隔通訳	0	0	0	0
11	翻訳機の整備	0	0	0	0
12	外国語対応通訳支援 その他	0	0	0	0
13	家事・育児支援	1	0	0	0
14	配食支援	0	2	2	2
15	食糧支援（フードバンク）	0	0	1	2
16	こども食堂	4	0	1	0
17	ショートステイ、トワイライトステイ	1	1	1	0
18	外出時の付き添い・同行支援	0	0	0	0
19	現金給付	0	0	0	0
20	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	1	6	2	0
21	就労支援	0	0	0	2
22	その他	3	2	2	1
23	当該年代のサービス利用者が少ないため不明	11	8	8	8

%			
小学生向け	中学生向け	高校生世代向	若者向け
100.0	100.0	100.0	100.0
0.0	0.0	3.6	3.6
0.0	0.0	0.0	10.7
0.0	0.0	0.0	7.1
3.6	10.7	17.9	7.1
14.3	17.9	10.7	7.1
0.0	0.0	0.0	3.6
0.0	0.0	0.0	0.0
7.1	3.6	7.1	7.1
0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0
3.6	0.0	0.0	0.0
0.0	7.1	7.1	7.1
0.0	0.0	3.6	7.1
14.3	0.0	3.6	0.0
3.6	3.6	3.6	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0
3.6	21.4	7.1	0.0
0.0	0.0	0.0	7.1
10.7	7.1	7.1	3.6
39.3	28.6	28.6	28.6

支援団体に対するアンケート（単純集計表）

Q7 Q6で選択した支援サービスについて、ヤングケアラー本人等にとって、どのような面で最も効果的だと考えますか。また、その具体的な内容を教えてください。（単数回答）

		回答数			
		小学生向け	中学生向け	高校生世代	若者向け
全体		17	20	20	20
1	心身の健康面	10	8	7	9
2	生活面	4	6	2	7
3	家族関係	1	2	8	2
4	その他	2	4	3	2

%			
小学生向け	中学生向け	高校生世代	若者向け
100.0	100.0	100.0	100.0
58.8	40.0	35.0	45.0
23.5	30.0	10.0	35.0
5.9	10.0	40.0	10.0
11.8	20.0	15.0	10.0

Q8 対象者の年代別で、ヤングケアラー本人との関わりを持ち始めて以降、ヤングケアラー本人の抱える負担の軽減を目指す段階における支援として、最も効果的だと考える支援サービスの内容を教えてください。（単数回答）

		回答数			
		小学生向け	中学生向け	高校生世代	若者向け
全体		28	28	28	28
1	相談窓口での対面相談	0	0	1	1
2	電話相談	0	0	0	3
3	オンライン相談	0	0	0	1
4	SNS相談	1	1	2	1
5	アウトリーチ（訪問による相談支援）	5	6	5	3
6	元当事者による相談支援（ピアサポート）	0	1	1	1
7	オンラインサロン	0	0	0	0
8	対面のサロン（リアルイベントを含む）	1	2	3	2
9	通訳者の配置	0	0	0	0
10	遠隔通訳	0	0	0	0
11	翻訳機の整備	0	0	0	0
12	外国語対応通訳支援 その他	0	0	0	0
13	家事・育児支援	1	2	1	0
14	配食支援	1	1	1	2
15	食糧支援（フードバンク）	0	0	0	0
16	こども食堂	2	2	1	1
17	ショートステイ、トワイライトステイ	1	1	2	1
18	外出時の付き添い・同行支援	0	0	0	0
19	現金給付	0	0	0	0
20	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	2	2	2	0
21	就労支援	0	0	0	4
22	その他	4	3	1	0
23	当該年代のサービス利用者が少ないため不明	10	7	8	8

%			
小学生向け	中学生向け	高校生世代	若者向け
100.0	100.0	100.0	100.0
0.0	0.0	3.6	3.6
0.0	0.0	0.0	10.7
0.0	0.0	0.0	3.6
3.6	3.6	7.1	3.6
17.9	21.4	17.9	10.7
0.0	3.6	3.6	3.6
0.0	0.0	0.0	0.0
3.6	7.1	10.7	7.1
0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0
3.6	7.1	3.6	0.0
3.6	3.6	3.6	7.1
0.0	0.0	0.0	0.0
7.1	7.1	3.6	3.6
3.6	3.6	7.1	3.6
0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0
7.1	7.1	7.1	0.0
0.0	0.0	0.0	14.3
14.3	10.7	3.6	0.0
35.7	25.0	28.6	28.6

支援団体に対するアンケート（単純集計表）

Q9 Q8で選択した支援サービスについて、ヤングケアラー本人等にとって、どのような面で最も効果的だと考えますか。また、その具体的な内容を教えてください。（単数回答）

		回答数			
		小学生向け	中学生向け	高校生世代	若者向け
全体		18	21	20	20
1	心身の健康面	12	11	8	12
2	生活面	3	5	1	3
3	家族関係	1	4	8	2
4	その他	2	1	3	3

%			
小学生向け	中学生向け	高校生世代	若者向け
100.0	100.0	100.0	100.0
66.7	52.4	40.0	60.0
16.7	23.8	5.0	15.0
5.6	19.0	40.0	10.0
11.1	4.8	15.0	15.0

Q10 貴団体の支援サービスを利用するヤングケアラーがお世話をする対象の方の状況として多いものを教えてください。（複数回答）

		回答数	%
全体		28	100.0
1	高齢（65歳以上）	4	14.3
2	若い	13	46.4
3	要介護（介護が必要な状態）	6	21.4
4	認知症	2	7.1
5	身体障がい	3	10.7
6	知的障がい	2	7.1
7	発達障がい（疑いを含む）	5	17.9
8	精神疾患（疑いを含む）	17	60.7
9	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	1	3.6
10	精神疾患、依存症以外の病気	5	17.9
11	日本語が苦手、わからない	4	14.3
12	その他	4	14.3

支援団体に対するアンケート（単純集計表）

Q11 お世話を必要としている方の状況別で、最も効果的だと考える支援サービスの内容を教えてください。（単数回答）

		回答数											
		高齢（65歳以上）	若い	要介護（介護が必要な状態）	認知症	身体障がい	知的障がい	発達障がい（疑いを含む）	精神疾患（疑いを含む）	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑いを含む）	精神疾患、依存症以外の病気	日本語が苦手、わからない	その他
全体		4	13	6	2	3	2	5	17	1	5	4	4
1	相談窓口での対面相談	0	1	2	0	0	0	1	0	0	1	0	1
2	電話相談	0	1	0	0	1	0	0	3	0	1	0	0
3	オンライン相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	SNS相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
5	アウトリーチ（訪問による相談支援）	1	2	2	1	0	1	0	5	0	2	1	0
6	元当事者による相談支援（ピアサポート）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
7	オンラインサロン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	対面のサロン（リアルイベントを含む）	2	2	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0
9	通訳者の配置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	遠隔通訳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	翻訳機の整備	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	外国語対応通訳支援 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
13	家事・育児支援	0	4	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
14	配食支援	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
15	食糧支援（フードバンク）	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
16	こども食堂	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
17	ショートステイ、トワイライトステイ	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1
18	外出時の付き添い・同行支援	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
19	現金給付	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0
21	就労支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	その他	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0

支援団体に対するアンケート（単純集計表）

		%											
		高齢（65歳以上）	若い	要介護（介護が必要な状態）	認知症	身体障がい	知的障がい	発達障がい（疑いを含む）	精神疾患（疑いを含む）	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	精神疾患、依存症以外の病気	日本語が苦手、わからない	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	相談窓口での対面相談	0.0	7.7	33.3	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	25.0
2	電話相談	0.0	7.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	17.6	0.0	20.0	0.0	0.0
3	オンライン相談	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	SNS相談	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
5	アウトリーチ（訪問による相談支援）	25.0	15.4	33.3	50.0	0.0	50.0	0.0	29.4	0.0	40.0	25.0	0.0
6	元当事者による相談支援（ピアサポート）	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	オンラインサロン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8	対面のサロン（リアルイベントを含む）	50.0	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	11.8	100.0	0.0	0.0	0.0
9	通訳者の配置	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	遠隔通訳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	翻訳機の整備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	外国語対応通訳支援 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
13	家事・育児支援	0.0	30.8	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0
14	配食支援	25.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
15	食糧支援（フードバンク）	0.0	7.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0
16	こども食堂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0
17	ショートステイ、トワイライトステイ	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	20.0	5.9	0.0	0.0	0.0	25.0
18	外出時の付き添い・同行支援	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	現金給付	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	50.0	0.0
21	就労支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
22	その他	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0

支援団体に対するアンケート（単純集計表）

Q12 Q11で選択した支援サービスについて、ヤングケアラー本人等にとって、どのような面で最も効果的だと考えますか。また、その具体的な内容を教えてください。（単数回答）

		回答数											
		高齢（65歳以上）	若い	要介護（介護が必要な状態）	認知症	身体障がい	知的障がい	発達障がい（疑いを含む）	精神疾患（疑いを含む）	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	精神疾患、依存症以外の病気	日本語が苦手、わからない	その他
全体		4	13	6	2	3	2	5	17	1	5	4	4
1	心身の健康面	2	5	0	1	0	0	2	8	1	2	0	2
2	生活面	1	5	1	1	3	2	1	3	0	2	2	0
3	家族関係	1	1	3	0	0	0	2	5	0	0	2	1
4	その他	0	2	2	0	0	0	0	1	0	1	0	1

		%											
		高齢（65歳以上）	若い	要介護（介護が必要な状態）	認知症	身体障がい	知的障がい	発達障がい（疑いを含む）	精神疾患（疑いを含む）	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	精神疾患、依存症以外の病気	日本語が苦手、わからない	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	心身の健康面	50.0	38.5	0.0	50.0	0.0	0.0	40.0	47.1	100.0	40.0	0.0	50.0
2	生活面	25.0	38.5	16.7	50.0	100.0	100.0	20.0	17.6	0.0	40.0	50.0	0.0
3	家族関係	25.0	7.7	50.0	0.0	0.0	0.0	40.0	29.4	0.0	0.0	50.0	25.0
4	その他	0.0	15.4	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	20.0	0.0	25.0

Q13 貴団体における支援サービス提供にあたって、特に重要と考えていることを教えてください。（複数回答）

		回答数	%
全体		28	100.0
1	子どもがおかれている環境を把握すること	18	64.3
2	子どもの様子をよく観察し、話を聞くこと	18	64.3
3	子どもの興味・関心に合わせた会話をする	7	25.0
4	保護者との信頼関係を築くこと	9	32.1
5	関係機関と連携し、多面的に支援を行うこと	19	67.9
6	支援につなげることを焦らない	10	35.7
7	その他	1	3.6

Q15 ヤングケアラーへの支援サービス提供にあたって課題となることはどのようなことですか。（単数回答）

全体		回答数	%
	全体	28	100.0
1	スタッフ不足	3	10.7
2	施設、必要な物品等の不足	2	7.1
3	運営資金不足	6	21.4
4	支援ノウハウの不足	4	14.3
5	外部関係機関との連携・ネットワークの不足	6	21.4
6	個人情報の取扱い	4	14.3
7	その他	3	10.7
8	特になし	0	0.0

Q18 本調査研究では、アンケートにご協力いただいた方の中から数名に、ヤングケアラーへの支援に関するインタビュー（オンラインにより1時間程度、2023年12月～2024年1月頃実施予定）をお願いしたいと考えています。インタビューにご協力いただくことは可能でしょうか。なお、ご協力いただけました際はインタビュー対象者に薄謝を進呈いたします。（単数回答）

全体		回答数	%
	全体	28	100.0
1	協力してもよい	12	42.9
2	どちらともいえない	7	25.0
3	協力できない	9	32.1

Q19 本調査研究では、ヤングケアラー本人及びご家族の方にも、支援を受けたことによる影響等に関するインタビュー（オンラインにより1時間程度、2023年12月～2024年1月頃実施予定）をお願いしたいと考えています。ヤングケアラーのご本人及びご家族の方との調整を支援団体の皆様にお願ひたく存じますが、インタビューのご調整に係るご相談をさせていただくことは可能でしょうか。なお、ご協力いただけました際はインタビュー対象者に薄謝を進呈いたします。（単数回答）

全体		回答数	%
	全体	28	100.0
1	ヤングケアラー本人、家族に対するインタビューへの協力に関する相談が可能	0	0.0
2	ヤングケアラー本人に対するインタビューについてのみ協力に関する相談が可能	5	17.9
3	ヤングケアラーの家族に対するインタビューについてのみ協力に関する相談が可能	0	0.0
4	どちらともいえない	4	14.3
5	協力できない	19	67.9

支援団体に対するアンケート（クロス集計表）

Q3 ヤングケアラー及びそのご家族等が利用可能な支援サービスについて、2023年9月1日時点で貴団体が提供したことがあるものを教えてください。（複数回答）

		取組種類数														(件)
		全体	0種類	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類	11種類	12種類	13種類
	全体	30	2	7	2	4	3	3	2	2	2	0	1	1	1	0
1	相談支援	23	0	5	2	3	2	2	2	2	2	0	1	1	1	0
2	ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供	12	0	1	1	1	2	1	0	2	1	0	1	1	1	0
3	外国語対応通訳支援	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
4	家事・育児支援	8	0	1	0	2	0	0	1	0	1	0	1	1	1	0
5	配食支援	10	0	0	0	0	0	2	1	2	2	0	1	1	1	0
6	食糧支援（フードバンク）	14	0	0	0	1	1	3	2	2	2	0	1	1	1	0
7	こども食堂	12	0	0	1	1	1	3	1	1	2	0	0	1	1	0
8	ショートステイ、トワイライストステイ	5	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0
9	外出時の付き添い・同行支援	7	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0
10	現金給付	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
11	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	13	0	0	0	2	1	1	2	2	2	0	1	1	1	0
12	就労支援	9	0	0	0	0	1	1	0	2	2	0	1	1	1	0
13	その他※	9	0	0	0	1	2	2	1	0	1	0	1	1	0	0
14	特になし	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

		取組種類数														(%)
		全体	0種類	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類	11種類	12種類	13種類
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	-
1	相談支援	76.7	0.0	71.4	100.0	75.0	66.7	66.7	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	-
2	ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供	40.0	0.0	14.3	50.0	25.0	66.7	33.3	0.0	100.0	50.0	-	100.0	100.0	100.0	-
3	外国語対応通訳支援	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	100.0	-
4	家事・育児支援	26.7	0.0	14.3	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	-	100.0	100.0	100.0	-
5	配食支援	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	50.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	-
6	食糧支援（フードバンク）	46.7	0.0	0.0	0.0	25.0	33.3	100.0	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	-
7	こども食堂	40.0	0.0	0.0	50.0	25.0	33.3	100.0	50.0	50.0	100.0	-	0.0	100.0	100.0	-
8	ショートステイ、トワイライストステイ	16.7	0.0	0.0	0.0	25.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	-	100.0	100.0	100.0	-
9	外出時の付き添い・同行支援	23.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	50.0	50.0	50.0	-	100.0	100.0	100.0	-
10	現金給付	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	100.0	-
11	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	43.3	0.0	0.0	0.0	50.0	33.3	33.3	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	-
12	就労支援	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	-
13	その他※	30.0	0.0	0.0	0.0	25.0	66.7	66.7	50.0	0.0	50.0	-	100.0	100.0	0.0	-
14	特になし	6.7	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-

支援団体に対するアンケート（クロス集計表）

Q6_1 対象者の年代別で、ヤングケアラー本人との関わり始めの段階における支援（支援の受け入れられやすさや、信頼関係の構築につながるなど）として、最も効果的だと考える支援サービスの内容を教えてください。（単数回答）

		回答数				%			
		Q7 効果的観点（小学生向け）				Q7 効果的観点（小学生向け）			
		心身の健康面	生活面	家族関係	その他	心身の健康面	生活面	家族関係	その他
	全体	10	4	1	2	100.0	100.0	100.0	100.0
1	相談窓口での対面相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	電話相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	オンライン相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	SNS相談	0	0	1	0	0.0	0.0	100.0	0.0
5	アウトリーチ（訪問による相談支援）	2	1	0	1	20.0	25.0	0.0	50.0
6	元当事者による相談支援（ピアサポート）	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	オンラインサロン	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
8	対面のサロン（リアルイベントを含む）	0	1	0	1	0.0	25.0	0.0	50.0
9	通訳者の配置	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	遠隔通訳	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	翻訳機の整備	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	外国語対応通訳支援 その他	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
13	家事・育児支援	0	1	0	0	0.0	25.0	0.0	0.0
14	配食支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
15	食糧支援（フードバンク）	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
16	こども食堂	4	0	0	0	40.0	0.0	0.0	0.0
17	ショートステイ、トワイライトステイ	0	1	0	0	0.0	25.0	0.0	0.0
18	外出時の付き添い・同行支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	現金給付	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
20	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	1	0	0	0	10.0	0.0	0.0	0.0
21	就労支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
22	その他	3	0	0	0	30.0	0.0	0.0	0.0
23	当該年代のサービス利用者が少ないため不明	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0

支援団体に対するアンケート（クロス集計表）

		回答数				%			
		Q7 効果的観点（中学生向け）				Q7 効果的観点（中学生向け）			
		心身の健康面	生活面	家族関係	その他	心身の健康面	生活面	家族関係	その他
全体		8	6	2	4	100.0	100.0	100.0	100.0
1	相談窓口での対面相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	電話相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	オンライン相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	SNS相談	2	0	1	0	25.0	0.0	50.0	0.0
5	アウトリーチ（訪問による相談支援）	1	3	0	1	12.5	50.0	0.0	25.0
6	元当事者による相談支援（ピアサポート）	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	オンラインサロン	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
8	対面のサロン（リアルイベントを含む）	0	0	1	0	0.0	0.0	50.0	0.0
9	通訳者の配置	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	遠隔通訳	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	翻訳機の整備	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	外国語対応通訳支援 その他	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
13	家事・育児支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
14	配食支援	1	1	0	0	12.5	16.7	0.0	0.0
15	食糧支援（フードバンク）	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
16	子ども食堂	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
17	ショートステイ、トワイライトステイ	0	1	0	0	0.0	16.7	0.0	0.0
18	外出時の付き添い・同行支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	現金給付	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
20	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	2	1	0	3	25.0	16.7	0.0	75.0
21	就労支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
22	その他	2	0	0	0	25.0	0.0	0.0	0.0
23	当該年代のサービス利用者が少ないため不明	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0

支援団体に対するアンケート（クロス集計表）

		回答数				%			
		Q7 効果的観点（高校生世代向け）				Q7 効果的観点（高校生世代向け）			
		心身の健康面	生活面	家族関係	その他	心身の健康面	生活面	家族関係	その他
全体		7	2	8	3	100.0	100.0	100.0	100.0
1	相談窓口での対面相談	0	0	1	0	0.0	0.0	12.5	0.0
2	電話相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	オンライン相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	SNS相談	2	0	3	0	28.6	0.0	37.5	0.0
5	アウトリーチ（訪問による相談支援）	1	0	0	2	14.3	0.0	0.0	66.7
6	元当事者による相談支援（ピアサポート）	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	オンラインサロン	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
8	対面のサロン（リアルイベントを含む）	1	0	1	0	14.3	0.0	12.5	0.0
9	通訳者の配置	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	遠隔通訳	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	翻訳機の整備	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	外国語対応通訳支援 その他	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
13	家事・育児支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
14	配食支援	1	1	0	0	14.3	50.0	0.0	0.0
15	食糧支援（フードバンク）	1	0	0	0	14.3	0.0	0.0	0.0
16	子ども食堂	0	0	0	1	0.0	0.0	0.0	33.3
17	ショートステイ、トワイライトステイ	0	0	1	0	0.0	0.0	12.5	0.0
18	外出時の付き添い・同行支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	現金給付	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
20	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	1	0	1	0	14.3	0.0	12.5	0.0
21	就労支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
22	その他	0	1	1	0	0.0	50.0	12.5	0.0
23	当該年代のサービス利用者が少ないため不明	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0

支援団体に対するアンケート（クロス集計表）

		回答数				%			
		Q7 効果的観点（若者向け）				Q7 効果的観点（若者向け）			
		心身の健康面	生活面	家族関係	その他	心身の健康面	生活面	家族関係	その他
全体		9	7	2	2	100.0	100.0	100.0	100.0
1	相談窓口での対面相談	0	0	1	0	0.0	0.0	50.0	0.0
2	電話相談	2	0	0	1	22.2	0.0	0.0	50.0
3	オンライン相談	2	0	0	0	22.2	0.0	0.0	0.0
4	SNS相談	1	1	0	0	11.1	14.3	0.0	0.0
5	アウトリーチ（訪問による相談支援）	1	0	0	1	11.1	0.0	0.0	50.0
6	元当事者による相談支援（ピアサポート）	1	0	0	0	11.1	0.0	0.0	0.0
7	オンラインサロン	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
8	対面のサロン（リアルイベントを含む）	1	0	1	0	11.1	0.0	50.0	0.0
9	通訳者の配置	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	遠隔通訳	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	翻訳機の整備	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	外国語対応通訳支援 その他	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
13	家事・育児支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
14	配食支援	0	2	0	0	0.0	28.6	0.0	0.0
15	食糧支援（フードバンク）	0	2	0	0	0.0	28.6	0.0	0.0
16	子ども食堂	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
17	ショートステイ、トワイライトステイ	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
18	外出時の付き添い・同行支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	現金給付	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
20	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
21	就労支援	1	1	0	0	11.1	14.3	0.0	0.0
22	その他	0	1	0	0	0.0	14.3	0.0	0.0
23	当該年代のサービス利用者が少ないため不明	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q7 Q6で選択した支援サービスについて、ヤングケアラー本人等にとって、どのような面で最も効果的だと考えますか。また、その具体的な内容を教えてください。（単数回答）

		回答数				%			
		小学生向け	中学生向け	高校生世代	若者向け	小学生向け	中学生向け	高校生世代	若者向け
全体		17	20	20	20	100.0	100.0	100.0	100.0
1	心身の健康面	10	8	7	9	58.8	40.0	35.0	45.0
2	生活面	4	6	2	7	23.5	30.0	10.0	35.0
3	家族関係	1	2	8	2	5.9	10.0	40.0	10.0
4	その他	2	4	3	2	11.8	20.0	15.0	10.0

支援団体に対するアンケート（クロス集計表）

Q8 対象者の年代別で、ヤングケアラー本人との関わりを持ち始めて以降、ヤングケアラー本人の抱える負担の軽減を目指す段階における支援として、最も効果的だと考える支援サービスの内容を教えてください。（単数回答）

	全体	回答数				%			
		小学生向け	中学生向け	高校生世代	若者向け	小学生向け	中学生向け	高校生世代	若者向け
	28	28	28	28	100.0	100.0	100.0	100.0	
1 相談窓口での対面相談	0	0	1	1	0.0	0.0	3.6	3.6	
2 電話相談	0	0	0	3	0.0	0.0	0.0	10.7	
3 オンライン相談	0	0	0	1	0.0	0.0	0.0	3.6	
4 SNS相談	1	1	2	1	3.6	3.6	7.1	3.6	
5 アウトリーチ（訪問による相談支援）	5	6	5	3	17.9	21.4	17.9	10.7	
6 元当事者による相談支援（ピアサポート）	0	1	1	1	0.0	3.6	3.6	3.6	
7 オンラインサロン	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	
8 対面のサロン（リアルイベントを含む）	1	2	3	2	3.6	7.1	10.7	7.1	
9 通訳者の配置	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	
10 遠隔通訳	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	
11 翻訳機の整備	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	
12 外国語対応通訳支援 その他	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	
13 家事・育児支援	1	2	1	0	3.6	7.1	3.6	0.0	
14 配食支援	1	1	1	2	3.6	3.6	3.6	7.1	
15 食糧支援（フードバンク）	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	
16 こども食堂	2	2	1	1	7.1	7.1	3.6	3.6	
17 ショートステイ、トワイライトステイ	1	1	2	1	3.6	3.6	7.1	3.6	
18 外出時の付き添い・同行支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	
19 現金給付	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	
20 学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	2	2	2	0	7.1	7.1	7.1	0.0	
21 就労支援	0	0	0	4	0.0	0.0	0.0	14.3	
22 その他	4	3	1	0	14.3	10.7	3.6	0.0	
23 当該年代のサービス利用者が少ないため不明	10	7	8	8	35.7	25.0	28.6	28.6	

支援団体に対するアンケート（クロス集計表）

		回答数				%			
		Q9 効果的観点（小学生向け）				Q9 効果的観点（小学生向け）			
		心身の健康面	生活面	家族関係	その他	心身の健康面	生活面	家族関係	その他
全体		12	3	1	2	100.0	100.0	100.0	100.0
1	相談窓口での対面相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	電話相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	オンライン相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	SNS相談	0	0	1	0	0.0	0.0	100.0	0.0
5	アウトリーチ（訪問による相談支援）	2	2	0	1	16.7	66.7	0.0	50.0
6	元当事者による相談支援（ピアサポート）	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	オンラインサロン	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
8	対面のサロン（リアルイベントを含む）	1	0	0	0	8.3	0.0	0.0	0.0
9	通訳者の配置	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	遠隔通訳	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	翻訳機の整備	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	外国語対応通訳支援 その他	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
13	家事・育児支援	1	0	0	0	8.3	0.0	0.0	0.0
14	配食支援	1	0	0	0	8.3	0.0	0.0	0.0
15	食糧支援（フードバンク）	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
16	こども食堂	2	0	0	0	16.7	0.0	0.0	0.0
17	ショートステイ、トワイライトステイ	0	1	0	0	0.0	33.3	0.0	0.0
18	外出時の付き添い・同行支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	現金給付	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
20	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	2	0	0	0	16.7	0.0	0.0	0.0
21	就労支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
22	その他	3	0	0	1	25.0	0.0	0.0	50.0
23	当該年代のサービス利用者が少ないため不明	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0

支援団体に対するアンケート（クロス集計表）

		回答数				%			
		Q9 効果的観点（中学生向け）				Q9 効果的観点（中学生向け）			
		心身の健康面	生活面	家族関係	その他	心身の健康面	生活面	家族関係	その他
全体		11	5	4	1	100.0	100.0	100.0	100.0
1	相談窓口での対面相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	電話相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	オンライン相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	SNS相談	0	0	1	0	0.0	0.0	25.0	0.0
5	アウトリーチ（訪問による相談支援）	2	2	1	1	18.2	40.0	25.0	100.0
6	元当事者による相談支援（ピアサポート）	1	0	0	0	9.1	0.0	0.0	0.0
7	オンラインサロン	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
8	対面のサロン（リアルイベントを含む）	1	0	1	0	9.1	0.0	25.0	0.0
9	通訳者の配置	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	遠隔通訳	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	翻訳機の整備	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	外国語対応通訳支援 その他	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
13	家事・育児支援	0	2	0	0	0.0	40.0	0.0	0.0
14	配食支援	1	0	0	0	9.1	0.0	0.0	0.0
15	食糧支援（フードバンク）	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
16	子ども食堂	2	0	0	0	18.2	0.0	0.0	0.0
17	ショートステイ、トワイライトステイ	0	1	0	0	0.0	20.0	0.0	0.0
18	外出時の付き添い・同行支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	現金給付	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
20	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	2	0	0	0	18.2	0.0	0.0	0.0
21	就労支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
22	その他	2	0	1	0	18.2	0.0	25.0	0.0
23	当該年代のサービス利用者が少ないため不明	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0

支援団体に対するアンケート（クロス集計表）

		回答数				%			
		Q9 効果的観点（高校生世代向け）				Q9 効果的観点（高校生世代向け）			
		心身の健康面	生活面	家族関係	その他	心身の健康面	生活面	家族関係	その他
全体		8	1	8	3	100.0	100.0	100.0	100.0
1	相談窓口での対面相談	0	0	0	1	0.0	0.0	0.0	33.3
2	電話相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	オンライン相談	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	SNS相談	0	0	2	0	0.0	0.0	25.0	0.0
5	アウトリーチ（訪問による相談支援）	2	1	1	1	25.0	100.0	12.5	33.3
6	元当事者による相談支援（ピアサポート）	1	0	0	0	12.5	0.0	0.0	0.0
7	オンラインサロン	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
8	対面のサロン（リアルイベントを含む）	1	0	1	1	12.5	0.0	12.5	33.3
9	通訳者の配置	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	遠隔通訳	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	翻訳機の整備	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	外国語対応通訳支援 その他	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
13	家事・育児支援	0	0	1	0	0.0	0.0	12.5	0.0
14	配食支援	1	0	0	0	12.5	0.0	0.0	0.0
15	食糧支援（フードバンク）	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
16	子ども食堂	1	0	0	0	12.5	0.0	0.0	0.0
17	ショートステイ、トワイライトステイ	1	0	1	0	12.5	0.0	12.5	0.0
18	外出時の付き添い・同行支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	現金給付	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
20	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	1	0	1	0	12.5	0.0	12.5	0.0
21	就労支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
22	その他	0	0	1	0	0.0	0.0	12.5	0.0
23	当該年代のサービス利用者が少ないため不明	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0

支援団体に対するアンケート（クロス集計表）

		回答数				%			
		Q9 効果的観点（若者向け）				Q9 効果的観点（若者向け）			
		心身の健康面	生活面	家族関係	その他	心身の健康面	生活面	家族関係	その他
全体		12	3	2	3	100.0	100.0	100.0	100.0
1	相談窓口での対面相談	1	0	0	0	8.3	0.0	0.0	0.0
2	電話相談	2	0	0	1	16.7	0.0	0.0	33.3
3	オンライン相談	1	0	0	0	8.3	0.0	0.0	0.0
4	SNS相談	0	1	0	0	0.0	33.3	0.0	0.0
5	アウトリーチ（訪問による相談支援）	1	0	1	1	8.3	0.0	50.0	33.3
6	元当事者による相談支援（ピアサポート）	1	0	0	0	8.3	0.0	0.0	0.0
7	オンラインサロン	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
8	対面のサロン（リアルイベントを含む）	2	0	0	0	16.7	0.0	0.0	0.0
9	通訳者の配置	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	遠隔通訳	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	翻訳機の整備	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	外国語対応通訳支援 その他	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
13	家事・育児支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
14	配食支援	1	1	0	0	8.3	33.3	0.0	0.0
15	食糧支援（フードバンク）	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
16	子ども食堂	1	0	0	0	8.3	0.0	0.0	0.0
17	ショートステイ、トワイライトステイ	1	0	0	0	8.3	0.0	0.0	0.0
18	外出時の付き添い・同行支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	現金給付	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
20	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
21	就労支援	1	1	1	1	8.3	33.3	50.0	33.3
22	その他	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
23	当該年代のサービス利用者が少ないため不明	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q9 Q8で選択した支援サービスについて、ヤングケアラー本人等にとって、どのような面で最も効果的だと考えますか。また、その具体的な内容を教えてください。（単数回答）

		回答数				%			
		小学生向け	中学生向け	高校生世代	若者向け	小学生向け	中学生向け	高校生世代	若者向け
全体		18	21	20	20	100.0	100.0	100.0	100.0
1	心身の健康面	12	11	8	12	66.7	52.4	40.0	60.0
2	生活面	3	5	1	3	16.7	23.8	5.0	15.0
3	家族関係	1	4	8	2	5.6	19.0	40.0	10.0
4	その他	2	1	3	3	11.1	4.8	15.0	15.0

「ヤングケアラー支援の効果的取組に関する調査研究」に係る インタビュー結果

- 1 こども若者、家族インタビュー
 - (1) 利用団体：公益社団法人全国精神保健福祉会（みんなねっと）
 - (2) 利用団体：一般社団法人 Omoshiro
 - (3) 利用団体：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
 - (4) 利用団体：特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター
 - (5) 利用団体：特定非営利活動法人もりおかユースポート
 - (6) 利用団体：一般社団法人ヤングケアラー協会

- 2 支援団体インタビュー結果
 - (1) 認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス（基礎調査）
 - (2) 一般社団法人 Omoshiro（基礎調査）
 - (3) 特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター
 - (4) 一般社団法人ヤングケアラー協会
 - (5) 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

- 3 自治体インタビュー結果
 - (1) 大阪府、大阪市、茨木市
 - (2) 大分県、中津市

図表1：インタビュー対象（本人、家族、支援団体）

団体名	インタビュー対象		
	支援団体	本人	家族
(特非)スチューデント・サポート・フェイス（佐賀県佐賀市）	○		
(一社) Omoshiro（神奈川県横浜市）	○	○	○
(特非)こどもソーシャルワークセンター（滋賀県大津市）	○	○	
(一社)ヤングケアラー協会（東京都品川区）	○	○	
(公財)さっぽろ青少年女性活動協会（北海道札幌市）	○	○	
(公社)全国精神保健福祉会（東京都杉並区）		○	
(特非)もりおかユースポート（岩手県盛岡市）		○	○

【インタビュー結果の記載に係る留意点】

- 第5章に掲載した内容に関連する箇所は灰色で網掛けをしている。
- また、インタビュー結果においては以下の略称を用いる。

YC…ヤングケアラー	SSW…スクールソーシャルワーカー
YCC…ヤングケアラー・コーディネーター	SC…スクールカウンセラー
	SV…スーパーバイザー

1. こども若者/家族インタビュー結果

1 こども若者/家族インタビュー結果

図表2：インタビュー対象者の概要

	年代	利用した支援	利用団体
Aさん (男性)	30代 (若者世代/社会人)	相談支援	(公社)全国精神保健福祉社会連合会(みんなねっと)
Bさん (男性)	10代 (中学生)	① 家事支援 ② 交流の場(居場所)	(一社)Omoshiro
Bさんの家族(母)			
Cさん (女性)	10代 (高校生世代/アルバイト)	交流の場(居場所)	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会
Dさん (男性)	10代 (若者世代/社会人)	① 交流の場(居場所) ② トワイライトステイ・ショートステイ	(特非)こどもソーシャルワークセンター
Eさん (女性)	10代 (大学生)	相談支援	(特非)もりおかユースポート
Eさんの家族(母)			
Fさん (男性)	30代 (若者世代/社会人)	就労支援	(一社)ヤングケアラー協会

※交流の場(居場所)利用時に、食事の提供や学習面のサポートを受けている場合もあり

1. こども若者/家族インタビュー結果（みんなねっと）

1 - (1) こども若者インタビュー

（利用団体：公益社団法人全国精神保健福祉会（みんなねっと））

インタビュー実施日：令和6年1月22日（月）

利用した支援： 相談支援（精神障がい者の家族の家族ピア教育プログラム「家族による家族学習会」）
--

Aさんの状況	
年齢・性別	30代・男性
ケア対象	母
ケア内容	Aさんが中学生の頃から精神疾患（うつ）を抱える母親への精神的なサポートなどを実施。
家族構成	<高校の2年時まで> 義父、母、姉、Aさん <社会人1年目まで> 母、Aさん ※ 現在は母とは別に暮らしている
支援を利用したきっかけ	ソーシャルワーカーとして働く上での勉強の意味合いで、母親と別に暮らし始めて以降、25、6歳の時に利用。
支援の利用状況	・ 1コース5回のプログラムを利用 ・ 現在は、支援を実施・運営する「担当者」としても活動

1 ケアについて

① ケアをすることに対する想い

- ・ 母への対応がケアに該当するの今は今でも分からない。母はうつだったので、きっかけがなくても気持ちが落ち込むこともあれば、不安や心配といった感情が強く出ることもあった。そのような時に母の話を聞くことが自分の役割であり、それがケアに該当するのかもしれない。ただし、母を心配して話を聞く側面と、話を聞かないと家庭が回らないため聞かざるを得ない側面と、話を聞くことで自分が安心して寝られる、という打算的な側面があり、様々な感情が生じながら、ケアをしていた。自ら望んで話を聞いていた面もあったため、決してケアを担ったために辛い思いをしたとは言いきれず、不安定な家庭の中で母に大切に育ててきてもらったことに対して、母にそのように寄り添うことで恩返しができる、とも思っている。大きく捉えるならば、母のことは大好きであるし大切な存在である。だが、母を目の前にすると、そのような感情の前に苛立ちや不満という感情も生じてしまう。ケアをしてきたと言いつつも、自分のせいで母が体調を崩してしまうことや、自分から冷たく当たってしまうなど、マイナスな要因にもなっていた場面もたくさんあったと思う。
- ・ 当時は自分が一番母のことを理解していると思い、一番母の力になれるという自信が

1. こども若者/家族インタビュー結果（みんなねっと）

あった。公的なサービスを利用することに関しても、母は嫌だろうと勝手に想像し、自分が一人で対応してきた。

② 体調面で気になること

- ・ 母と同居中は、母の物音一つで起きる生活が続いていたため、どこかでずっと母のことを心配しており、夜中トイレに行く母の音でさえ反応して起きることが高校まで続いていた。母から離れて暮らしていても、毎晩夢を見るなど、眠りが浅い状態が続いており、その影響は大きいと感じる。

③ 生活への影響

- ・ たとえ母が健康であったとしても、もしかしたら学校には遅刻をしていたかもしれない、と思うと、母の影響で、というのは言い難い。個人因子の影響もあると思う。

2 支援について

① 支援を利用したきっかけ

- ・ みんなねっとの家族学習会は25、6歳の時に利用していた。母が精神疾患を患い、中学から母の対応をしていた経緯もあり、キャリアとしてはソーシャルワーカーという福祉の道に進んだ。
- ・ 同じ支援者の立場の人にも母が病気であることや状態は言い出せず、また言い出す必要も感じていなかった。他の人に何かしてもらうことを期待しているわけではない、母の対応ができていたから、という理由でもあるが、実際は孤立しており、親との生活で苦しい気持ちになったり、将来について悩んだり不安になっていた。そのような気持ちをなかつたこととして振舞い、プライベートでも誰かに相談することもなかつた。
- ・ 最初に家族学習会を知ったのは福祉新聞がきっかけである。

② 支援を受ける前に期待していたこと

- ・ 当初は、自分の仕事の一環で、家族支援についてより学びを深めたり、自身が精神疾患の親を持つこどもの立場でもあるということで、何かできることがあるのではないかと考えていた。
- ・ 家族学習会に本格的に参加する前に、仲間から、自身の置かれている状況だけではなく、その時に自分がどう感じたかを聞かれた時に、うまく答えられず、衝撃を受けた。苦しかった、悲しかった、こうしてほしかった、という感情について考えてなかつたことに気づくことができ、そこをさらに深掘していくと、新しい自分が見つかるのではと思い家族学習会に参加した。

1. こども若者/家族インタビュー結果（みんなねっと）

③ 支援を受けた感想、団体の人にしてもらって一番嬉しかったこと

- ・ 家族学習会の仲間と話していくと、自分の気持ちを少しずつ言葉にすることができるようになった。複雑な気持ちが重くなりすぎて、単純に悲しい、などとは言えない。また、単純に母が好きか嫌いかは言える感情ではなかったが、仲間の話の中から表現を見つけると、そこから自分らしい言葉で仲間に打ち明けられるようになり、また周りに受け止められ、受け止めて、というのを家族学習会で回数を重ねていくことで、自分らしくいられる場所に少しずつ変わっていった。最初は状況ばかりを伝えて感情については言葉にできていなかったが、徐々に話せるようになり、あまり泣くことはない自分でも泣ける場面があった。
- ・ 母と暮らしていた時は、ロボットのような感覚で自分の感情を押し殺していたが、人間らしい部分が自分にもあり、仲間と一緒に苦しい思いを共有できるということが発見だった。そのような話ができるようになったことで、自分の居場所がここにあると思えた。そう考えると、自分は生きていてよかったのだ、と感じられた。自分に自信を持てるようになり、また、自分が話すことでエピソードを思い出す人、感動してくれる人、自身の発見につながった人などもある。話を聞いて自分のためになるだけではなく、自分の話をする事で人のためになれると感じられたのがとても大きかった。自分は人のためにもなれるし、自分のためにも自分のことを大切にできる。生きていてよかったんだ、と感じたのと同時に、自分の役割を見つけることもできた。人のためになることができ、生きている価値が見出せるのであれば、このような活動を続けていきたい、と感じた。
- ・ 家族学習会に参加したことで、周りに同じような経験をしている人がいると知ることができ、安心感につながった。親に対して嫌な気持ちになってもいい、といった思いをはじめ、腹を割って話ができただのはとてもよかったと感じる。
- ・ 家族学習会は、参加者として1回、担当者として3、4回経験している。担当者として関わったケースの中には、参加者の人が腹を割って話すことで、今まで隠していたことまで話すことができ、「人生はここから始まる」とコメントされて最終回を迎えた時があった。担当者として、仲間として、仲間の変化を見ることができ、心の底から関わってよかったと思えた。また、精神疾患を抱えるこどもを持つ親御さんで、担当者研修の講師でもある方から「頑張ってきたね」と言ってもらったのがとても嬉しかった。何気ない一言だったが、そんな一言が嬉しく、涙が出た。
- ・ 「団体の人に〇〇をしてもらって嬉しかった」というよりは、学習会という場所自体がありがたかった。家族の立場といっても家族が抱える課題や家族構成などで細分化される。そんな中、こどもの立場だからこそ共感できることをよく理解していただいて、こどもの立場で仲間を集めていただいたのはありがたかった。学習会の内容もこどもの立場に適したものに更新していただくなど、参加者の特性を理解して対応していただいた。

1. こども若者/家族インタビュー結果（みんなねっと）

3 支援を受けた後について

① ケア（担っている役割）に関して変わったこと

- ・ 私個人としては変化はなかったが、変化があった仲間は多くいる。例えば、家族との距離感について、1週間に1度、場所が離れていても顔出しに行く必要があり、それを苦痛に思っていた人が、1週間に1回電話しているという人の話を聞いて、家族との距離感を無理なく、適度に保てるようになった人もいる。また、不安もあるが思い切って家を出てもいいと思えるようになった人なども多く見てきた。実際に仲間が行動した時の話は他の人にとっても有益で、自信になる。家族会を通じて何かしら変わった人はたくさんいる。

② 健康面・心理面・生活面、家族関係等の変化

- ・ 何かがあれば家族会で話せばよい、家族学習会の仲間とこれからも愚痴を言い合い、辛いことや良かったことを共有できる、と思えると、安心して母とも関わることができたのは心理的にも良く、健康面にもつながっていたと思う。
- ・ 家族関係はあまり変わっていない。気持ちの整理ができたため、余裕を持って関わることができるようになったが、元々関係が悪いわけではなかったため、大きく変化してはいない。心理面での変化がとても大きかったと思う。

③ あったらよいな、と感じる支援

- ・ あまり思いつかないのが本音。支援とは違うかもしれないが、偏見がなくなればよいと感じる。偏見がなくなればサービスを受けやすくなると思う。個人的には今はサービス自体は充実してきていると思っている。それでもサービスが行き届いていないのは社会的な障壁が大きいということは、こどもの立場としても感じている。偏見がないといい、と言いつつ、自分たちが一番偏見を持っていたりする。精神疾患への理解に関する内容が高校の教科書に載ったが、とても良いことだと思う。心の病について勉強することで、特別な存在ではなく、風邪と同じように病院に行き、相談もできる世の中になることが必要だと思う。
- ・ ケアの負担を強く感じていた当時、話を聞いてくれる人がいたらよかったと思うが、同時に話を聞いてくれたところで何になるのだ、という先入観があった。そのため、支援が充実していても、かつての自分は使わなかったと思う。
- ・ 以前、「助けられた人は誰ですか」という点について、YC 経験のある方々に調査をしたところ、最も多かったのは近所の人や親戚の人であり、専門職でも学校の先生でもなかった。追加で「何をどのように助けられたか」と聞くと、支援を受けたことではなく、気にかけてくれた、心配してくれた、話を聞いてくれた、といったことが出てきた。問題を解決してもらった支援ではなく、このような支援の在り方もあるのだろう、と感じている。それができる人は専門職でなくともすべての大人ができると思っ

1. こども若者/家族インタビュー結果（みんなねっと）

ている。そのためには、啓発や理解がさらに進むとよいと思う。

4 団体以外の人を含め、他の人にしてもらって嬉しかったこと

- ・ 中学の時は母のことを誰にも言わなかったが、最も仲良くしていた友達の母が自分の母のことを気にかけてくれていた。その友達には言えていなかったが、唯一の信頼できる友達だった。そのお母さんにはよく食事に誘ってもらっており、とても嬉しかったと記憶している。その後、家族学習会を経て、20代後半になってたまたまその友達に会った際に、当時のことや現状について打ち明けることができた。友達は自身の状況について知らなかったそうだが、大変だったんだね、と自分の話を聞いて、ただ受け止めてくれ、特別扱いされなかったのがとても嬉しかった。

5 支援をする人たちに知っておいてほしいこと

- ・ 反省の念も込めて言うが、支援者には支援するエゴがあり、このように支援して、解決してあげたい、問題に関わり、解決に向けて前進したい、と考えがちである。それで救われる人も一定数いるが、YCに関することも含め、支援される側のペースを尊重してほしいと思う。周りから大変だね、大丈夫か、と言われすぎても、大事になるのでは、と萎縮して相談できなくなってしまう。どしっと構えてくれる相談者であるべきだろうと思う。まずは相談してもらえようように信頼関係を築き、SOSを出してもらった時に、本人のペースを尊重しながら動ける支援者でないと、信頼は勝ち取れないと、こどもの立場の支援者でありながら感じる場所である。また、心理的なことではあるが、親御さんや障害を持っている人のことを悪く言って支援を開始する人はNGである。親も大変であり、こどものあなたも大変であるから、一緒に支援をしていくといった、家族丸ごと、視野の広い支援者が信頼でき、頼って相談しやすくなるということを知っていただきたい。
- ・ 支援者は専門職でなくてもいい。専門職でなくても様々な形で助けることができる、ということ自身も伝えていきたい。

以上

1. こども若者/家族インタビュー結果 (Omoshiro)

1 - (2) こども若者/家族インタビュー

(利用団体：一般社団法人 Omoshiro)

インタビュー実施日：令和6年2月6日 (火)

利用した支援： ① 家事支援 ② 交流の場 (居場所)

Bさんの状況	
年齢・性別	10代・男性 (中学生)
ケア対象	母
ケア内容	糖尿病・精神疾患を抱える母親の外出時の付き添い、金銭管理 (金銭的な不安を抱えている)、精神的なサポートなどを実施。 ※ 父が他界して以降は父が担っていた役割をBさんが担う
家族構成	<小学校まで> 父、母、Bさん、弟 (別居) <現在> 母、Bさん、弟 (別居) ※ 弟は乳児院に入所後、児童養護施設で生活 ※ 父は病気により他界 (生前、統合失調症を抱えていた) ※ 生活保護受給世帯
支援を利用したきっかけ	弟が生まれたタイミングで区役所が家庭訪問を行い、育児支援につながる。弟が施設入所後、障害支援として利用団体とつながる。当初、父の支援拒否があったが、その後、父が歳をとって考えが変わり、Bさんが小学校低学年の時にヘルパー支援の利用を開始。現在は訪問看護も利用。その後、Bさんが小学校高学年の頃から、利用団体が提供する居場所の活動に参加。
支援の利用状況	・ ヘルパー支援は週2回 (掃除や買い物など) ・ 訪問看護は週1回 (母の通院・服薬管理や医療連携 (体調面のデータや気を付けることを確認)) ・ 居場所は、以前は月1回 (毎回参加)。1年前からは、時々参加

【1 - (2) - 1. こども若者インタビュー】

1 ケアについて

① ケアをすることに対する想い

- ・ ケアをすることは、大変という感覚ではない。ただし、単純に面倒だと感じる時はある。
- ・ 母親の病気のことはなんとなく理解している。誰かに直接言われた訳ではないが、感

1. こども若者/家族インタビュー結果 (Omoshiro)

じていた。

② 体調面で気になること

- ・ 眠すぎて困っている。ご飯の回数が少ないことに関しては、気持ち面ではなく、身体的に空腹でないため食べていない。

③ 生活への影響

- ・ 全般的に、家庭における経済面の心配がある。

2 支援について

① 支援を利用したきっかけ（経緯やその時の気持ち）

【家事支援】

- ・ ヘルパーさんは、気づいたら毎週来ている存在だったので、いつも来ているなーと思っていた。

【交流の場（居場所）】

（家族インタビュー参照）

② 支援を受ける前に期待していたこと（団体への期待を含む）

- ・ 特になし。

③ 支援を受けた感想、団体の人にしてもらって一番嬉しかったこと

【家事支援】

- ・ 代わりに家事をしてくれて嬉しい。

【交流の場（居場所）】

- ・ 居場所に行くことを楽しいと感じている。自分にとって大事な場所である。スタッフが話しやすいので好き。特定の会いたいと思うスタッフもできた。スタッフは、友達感覚で何でも話せる関係である。

3 支援を受けた後について

① ケア（あなたが担っている役割）に関して変わったこと

- ・ 特になし。

② 健康面・心理面・生活面、家族関係等の変化

- ・ 気づいたら良い方に変っていたと感じるが、どう変わったかと聞かれると言葉にするのが難しい。
- ・ （支援団体からコメント）最初はいい子ちゃん、という印象だったが、次第に自分の

1. こども若者/家族インタビュー結果 (Omoshiro)

「やりたくない」や「代わりにこうしたい」という意思を表明できるようになった。
気持ちを言葉にすることができるようになった。

③ あったらよいな、と感じる支援

- ・ 母親をみていてくれる人がいてほしい。

4 団体以外の人を含め、他の人にしてもらって嬉しかったこと

【支援団体】

- ・ 居場所のスタッフが話しやすい。友達感覚で話せる人が自分にもいるという感覚が大事だと思う。
- ・ 同年代の友達だけでなく、頼れる大人が近くにいることで将来の自分の生き方がイメージできることが良い。また、「この人にやりたいことを言ったらサポートしてくれる」という、信頼がおけて自分を応援してくれる人がいることが良かった。

【学校】

- ・ (支援団体からコメント) 担任の先生が熱心な方で、先日行われた学校の泊りがけの行事と一緒にいけるように、バスの座席等、心配していろいろと考えてくれていた。行事前には、週1、2回の頻度で家庭訪問に来てくれていた。

5 支援をする人たちに知っておいてほしいこと

- ・ 自分のことだけではなく、家族全体をまとめて気にかけて、サポートしてくれることが嬉しい。

【1-(2)-2. 家族インタビュー (母親)】

1 ケアについて

① こどもの体調で気になること

- ・ 成長期だが、食事を1日1、2食食べればいい方であまり栄養が摂れていないと思う。自分が好きなもの(マクドナルド、ハムカツ等)はたくさん食べられている。小学生までは、よく食べていたが、最近は「今はお腹が空いていない、後で」などと拒むことも出てきた。量も多くは食べないようになった。最近あまりご飯と一緒に食べていない。
- ・ 学校は、先月行われた中学校の泊りがけの行事へ向けてしばらく頑張って通っていたが、行事から帰ってきてからは燃え尽きたように学校に行っていない。朝起きることが難しく、起こしても起きられず行けていない状態。放っておくと夕方まで寝ている。母親としては、「自分や家のことは心配しないでもいいよ」というスタンスであ

1. こども若者/家族インタビュー結果 (Omoshiro)

る。

② こどもの生活への影響

- ・ Bさんに頼らなければいけないので頼って生活しており、2人の関係性が近すぎて喧嘩することがある。例えば、私自身は一人で外出することに不安を抱えているため、どこに行くにもBさんに付き添ってもらっている。病院の予約等で外出しなければいけない際に、Bさんが付き添おうとしても、私自身の体調が悪く出かけられず、喧嘩することもある。
- ・ 本人が物心ついた頃から、両親が2人とも働いていなかったため、こども目線で仕事についてどう考えているのかが心配である。

2 支援について

① 支援を利用したきっかけ（経緯やその時の気持ち）

【家事支援】

- ・ きっかけとしては、Bさんの弟が生まれたタイミングで区役所の家庭訪問が行われたことである。ヘルパーの家事支援に対して、父親は当初、他人が家に入ることを嫌がっていた。母親としては、「関わってもらえるならありがたいので、どんな方でも受け入れる」という気持ちだった。その後、区役所の話のしやすい担当者と関係ができたことから態度が軟化し、また、「しつこかったのであきらめた」という心境の変化もあり、支援の受け入れに至ったのではないと思う。当時は「ヤングケアラー」という言葉を知らなかったが、Bさんに負担をかけていたかもしれないと思う。

【交流の場（居場所）】

- ・ ケアマネ事業所が支援団体を設立（現利用団体）することになり、Bさんも居場所に来ないかと誘ってもらい、小学校高学年の頃から通っている。5、6年生の頃は毎月（月1回）行っていた。中学生になってからは時折行く程度である。

② 支援を受ける前に期待していたこと（団体への期待を含む）

【家事支援】

- ・ 特段期待していたことはなかったが、相談できることはありがたかった。

【交流の場（居場所）】

- ・ 居場所では、Bさんにいろんな人と関わってほしいと思っていた。家にずっといると、ゲーム内で誰かとチャットすることはあっても、あまり人と人との会話の機会がなかった。最初はお菓子目当てでの参加だったが、徐々に行くこと自体が楽しくなってきたようである。

1. こども若者/家族インタビュー結果 (Omoshiro)

③ 支援を受けた感想、団体の人にしてもらって一番嬉しかったこと

【家事支援】

- ・ 家事が苦手なので、ヘルパーさんに来てもらえて助かっている。おかげで、家の中をある程度清潔な状態に維持できるようになったので、とても感謝している。現在は苦手なお風呂・トイレ掃除を行ってもらっている。
- ・ 父親が存命の時は、ヘルパーが料理を作ってくれるが最後の味付けは父親が担当し、仕事をすべては取り上げない支援だった。
- ・ 電話ではなく、LINE で気軽に相談できている点ありがたい。団体の方には愚痴を聞いてもらったりもしている。

【交流の場（居場所）】

- ・ 初めて居場所を訪れた時は、母子共に楽しかった。Bさんの様子を見て、彼にもいろいろなことに取り組む能力があることを実感した。それまでは、授業参観や卒業式にも体調が悪く行けていなかったため、Bさんの外での様子を見るのが今までなかった。
- ・ 今は亡き父親は、Bさんに、「Omoshiro さんにずっとお世話になりなさい」というほど信頼を寄せていた。

3 支援を受けた後について

① ケア（こどもが担う役割）に関して変わったこと

- ・ Bさんはまだ幼かったので、支援を受け始めた時はケアを担っていなかった。
- ・ 支援とは関係なく、父親が亡くなったことから、以前父親が担っていた母との外出の付き添いをBさんが担うようになった。

② こどもやご家族の方の健康面・心理面・生活面、家族関係等の変化

【交流の場（居場所）】

- ・ Bさんは居場所から家に帰ってくると、「楽しかった」とよく言っていた。例えば、他団体の主催でガチャポンのカプセルを使ってアートを楽しむなど、様々なアクティビティに参加していた。話を聞くと、とても楽しそうな様子だった。
- ・ 居場所に行く日は、本人は朝お風呂に入る等、自分で予定を立てて行動する習慣ができていた。両親も予定をカレンダーに書き、予定に合わせて送り出していた。
- ・ 利用団体とは家族皆で関わりがあったため、共通の話題ができ、家族間のやり取りが増えた。
- ・ 父親は当初支援を拒んでいたが、スタッフの方の熱意と、話しやすさから次第に心を開き、きちんとしていて心強い、と感じるようになっていたと思う。自身の健康状態の悪化もあり、最後の方は、「支援をお願いしたい」という様子だった。

1. こども若者/家族インタビュー結果 (Omoshiro)

③ あったらよいな、と感じる支援

- ・ こどもへのサポートでほしいものは、就労支援である。こどもが夢に向けて必要なことを頑張れるようなサポートがあると嬉しい。
- ・ 日程面で柔軟性のあるヘルパーのサービスがあると良い。現在ヘルパーに入ってもらっているが、日にちが決まっている点が使いづらい。体調が悪く、体が動かなくてヘルパーを迎えることができない時もある。
- ・ 体調が悪く動けなくなってしまった時に呼べる、家のことをやってくれるサービス（ご飯を炊いてくれたり、掃除をしてくれる等）があると良い。
- ・ 一人で外出することに不安を感じるため、付き添い支援がほしい。現在、要介護認定がないため介護サービスは利用できない。要介護認定がより取りやすくなってほしい。現行のものは、制度自体も使いづらいと感じる。やはり病院等の外出は体調が良い時にしか行けないので、予定していても当日やっぱり行けない、ということもある。日時面で臨機応変に対応してくれるBさんに付き添ってもらおう必要が出てきてしまう。

4 団体以外の人を含め、他の人にしてもらって嬉しかったこと

【交流の場（居場所）】

- ・ スタッフの方の熱意があり、とても話しやすい。親身になって助言をしてくれる。

【訪問看護】

- ・ 以前お世話になっていた訪問看護のスタッフが、Bさんに服やカバンをくれたことがあった。また、私自身がBさんの入学式に履いていく靴がなかった際には、一緒に考えてくれて靴を調達してくれたこともあり、助かった。

【近所の人】

- ・ Bさんを慕ってくれている小学生のこどもがいるご家庭が、ご近所付き合いのような形でBさんを招いてご飯に連れて行ってってくれることがある。

【学校のクラスメート】

- ・ Bさんが学校に行っていないくても、家に遊びに来てくれているので、Bさんの支えになっていると思う。

【学校】

- ・ Bさんの中学校の担任の先生が事情を理解してくれており、Bさんが泊りがけの行事に参加した際には、仲の良い上記のクラスメートがバスの隣の席や同じ部屋になれるよう、調整・配慮をしてくれた。

5 支援をする人たちに知っておいてほしいこと

- ・ 支援について、もっとテレビなどで大々的に広報を行ってほしい。ポスターはあまり見ることがない。公式ホームページも見ることがないし、見たとしてもどんな支援が

1. こども若者/家族インタビュー結果 (Omoshiro)

あるのか (自分に必要な支援やどんな支援が利用できるのか)、よく分からない。

6 その他 (他のママに伝えたいこと)

- ・ もっと他人を頼っていいのだということは伝えたい。恥ずかしいことではないし、頼って助かることはたくさんある。

以上

1. こども若者/家族インタビュー結果（さっぽろ青少年女性活動協会）

1 - (3) こども若者インタビュー記録
(利用団体：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)
インタビュー実施日：令和6年2月8日（木）

利用した支援：

① 交流の場（居場所）

Cさんの状況	
年齢・性別	10代・女性（アルバイト（高校生世代））
ケア対象	きょうだい
ケア内容	きょうだいの世話、家庭の家事全般。 ※ 現在はアルバイトにより頻度が減っている
家族構成	父、母、Cさん、上と下にきょうだいが複数名
支援を利用したきっかけ	自宅に来た回覧板で、団体が運営する若者向けのカフェを知り、中学生の頃から参加。その後、カフェのスタッフの紹介により、YC 向けの居場所にも参加。
支援の利用状況	・ 若者向けのカフェ（軽食あり）は中学生の頃から毎月2回参加 ・ YC 向けの居場所（食事あり）は事業が開始した 2022 年 10 月から毎月参加 ※ いずれの居場所も毎回参加

1 ケアについて

① ケアをすることに対する想い

- ・ 「何で自分がやらなければならないのか」という思いもあるが、自分の将来に役立つとも思っている。大変だとは思っていない。

② 体調面で気になること

- ・ きょうだいの面倒をみていると、きょうだいの風邪など病気が自分にもうつってしまう。その結果、家事ができなくなってしまう。
- ・ 睡眠時間が足りないこともある。そのため、体調を崩しやすいと感じる。
- ・ 食事は普通に摂れている。

③ 生活への影響

- ・ きょうだいの面倒をみることとアルバイトで忙しく、休める日が少ない。

1. こども若者/家族インタビュー結果（さっぽろ青少年女性活動協会）

2 支援について

① 支援を利用したきっかけ（経緯やその時の気持ち）

【交流の場（居場所）_若者支援のカフェ】

- ・ 家に来た回覧板に、団体が運営する若者支援のカフェが紹介されていた。家族のケアをしていて他の人と話す機会も限られていたため、行ってみようと思った。

【交流の場（居場所）_YC 向けの居場所】

- ・ YC の居場所は、カフェを訪れた際に、スタッフから勧められたことがきっかけ。当時は自分が YC であるという認識はなく、参加をするかどうか悩んだが、スタッフから「参加するだけ参加してみたら」、と言われて参加した。若者支援のカフェには、中学生の頃から月 2 回の開催時すべての回に参加していたので、スタッフとは顔見知り信頼関係があった。

② 支援を受ける前に期待していたこと（団体への期待を含む）

【交流の場（居場所）_若者支援のカフェ】

- ・ 人と話すきっかけになると思った。自分は高校に行けなかったので人と話す機会がなく、行ってみようと思った。

【交流の場（居場所）_YC 向けの居場所】

- ・ スタッフの人に誘われたから参加しただけであり、特に期待などはなかった。

③ 支援を受けた感想、団体の人にしてもらって一番嬉しかったこと

【交流の場（居場所）_若者支援のカフェ】

- ・ カフェの雰囲気合っていて、人が話しやすかったので通っていた。また、人数が少なかったため、自分の話もできて相手の話も聞くことができた。自分の話したいタイミングでゆっくり話すことができたのが良かった。
- ・ 通常の堅い話だけでなく、自分の好きなものや趣味の話ができたり、好きなものを共有できる時間が楽しかった。
- ・ 参加者は、同年代が多い。

【交流の場（居場所）_YC 向けの居場所】

- ・ 初回は不安もあったため、オンラインで参加した。話しやすい人がたくさんいたため、また行ってみようと思った。
- ・ 初回の活動内容としては、自己紹介、YC の説明動画を視聴、みんなから話を聞く、という流れだった。
- ・ 話を聞いていて、自分と同じ境遇の人がこんなにたくさんいるのか、と知ることができ、他の人と話ができ嬉しかった。

1. こども若者/家族インタビュー結果（さっぽろ青少年女性活動協会）

3 支援を受けた後について

① ケア（あなたが担っている役割）に関して変わったこと

【交流の場（居場所）_若者支援のカフェ】

- ・ 人前で話ができるようになった。

【交流の場（居場所）_YC 向けの居場所】

- ・ 自分だけでは解決できない問題が多かったので、どのようにサポートしてもらうか・対処すべきか、他の仲間から教えてもらうことができた。皆で家事の話をして、工夫できる点などを共有することはあるが、自治体の制度などの難しい話はしていない。
- ・ 自分の家庭は人数が多く、自分より家族が多い人が居場所にはいないので、他の利用者からアドバイスをもらっても必ずしも参考にならないことがあった。

② 健康面・心理面・生活面、家族関係等の変化

【交流の場（居場所）_若者支援のカフェ】

- ・ カフェに勉強をしている人がいたことから、その人たちに勉強を教えてもらうこともあった。家では家事などに追われながら勉強をしていたが、カフェでは自分の時間を確保できるようになったことは大きかった。
- ・ 他の人と話ができただけで、心理面で助かった。ストレス解消になった。家に帰って家族と話をする際の話題にもできた。また、カフェでは軽食も出してもらっている。

【交流の場（居場所）_YC 向けの居場所】

- ・ 自分の思っていることを何でも話せる。ご飯を食べる際に、栄養豊富なご飯を出してもらっているのが助かっている。
- ・ 食糧支援に関しては、家族の人数が多くてももらえる分では足りないのご飯を持って帰ることはないが、お米などをもらって帰れるので生活費の助けになり、ありがたい。

③ あったらよいな、と感じる支援

- ・ 食事の準備は負担が多い時もあるので、誰かに作ってほしいなと感じる時もある。ただし、ご飯を作るのは皆ができるわけではないと思う。ゴミ出しくらいはきょうだいにやってほしいと感じることもある。忙しいので少しでも家事を手伝ってもらえるとありがたい。
- ・ ただし、家族以外の方が家に入ってほしくはない。

4 団体以外の人を含め、他の人にしてもらって嬉しかったこと

【アルバイト先】

- ・ アルバイト先の方は、きょうだいが多くいることは知っているが、家の事情は知らない。仲良くしてくれており、帰り際に食べ物をくれることもあり助かっている（難しく考

1. こども若者/家族インタビュー結果（さっぽろ青少年女性活動協会）

えてほしくないので、特にバイト先の人に家庭の話はしていないし、話すことに不安も感じる）。

5 支援をする人たちに知っておいてほしいこと

- ・ YCが否定されず、話を聞いてもらえる場所を作ってほしい。話を聞いて、寄り添ってもらえると嬉しい。

以上

1. こども若者/家族インタビュー結果（こどもソーシャルワークセンター）

1 - (4) こども若者インタビュー記録

（利用団体：特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター）

インタビュー実施日：令和6年2月12日（月）

利用した支援： ① 交流の場（居場所） ② トワイライトステイ・ショートステイ

Dさんの状況	
年齢・性別	10代・男性（社会人（若者世代））
ケア対象	きょうだい
ケア内容	小学生の頃からきょうだいの世話と洗濯や部屋の掃除などを担い、中学校3年には家事全般を担う。また、生活困窮のため、高校からはアルバイトで家計のサポートも実施。
家族構成	<高校卒業まで> 父、母、Dさん、下にきょうだいが複数名 <現在> 一人暮らし ※ 保護者に軽度知的障害の可能性あり
支援を利用したきっかけ	中学3年生の秋に市から紹介されて、夜の居場所（トワイライトステイ）の利用を開始。高校入学後、若者の居場所活動へ移行。
支援の利用状況	・ 居場所に中学3年生の頃からほぼ週一回のペースで通う。それに加えて、バイト帰りに顔を出すことも多かった ・ 高校3年生の時に、団体にてYC支援がはじまり、現在はピアスタッフとしてピアサポート活動（地域ボランティア活動・社会発信活動・取材協力）に参加

1 ケアについて

① ケアをすることに対する想い

- ・ 金銭的に厳しく、自分がほしいものも買えず何もできなかった。きょうだいにも同じ思いを味わわせたくないという思いがあった。
- ・ ケアを始めてから1年くらいは、「なぜ自分が」と思っていたが、2、3年経って体が慣れるとケアを行うことが当たり前だと感じるようになった。

② 体調面で気になっていたこと

- ・ あまり病気にもなることもなく、体調面で気になることは特になかった。
- ・ 中学生の時は家にいたため家事をする時間も十分にあったが、高校生になり、アルバイト・家事・学校の3つをこなす始め、睡眠時間が少なくなっていた。

1. こども若者/家族インタビュー結果（こどもソーシャルワークセンター）

③ 生活への影響

- ・ 小学校時代は、ご飯は親が作りおきをしていた。小学校6年生から少し家事をはじめ、中学校になってから家事全般を担当するようになった。
- ・ 高校時代は、時間がなかったのでコンビニでご飯を買い、移動時間に食べる生活だった。また、アルバイト先で自由にまかないを作って良かったため、夕食はアルバイト先で食べていた。
- ・ 学校へは問題なく通うことができていた。
- ・ 団体の居場所を利用する際は、居場所に行く時間だけ親にきょうだいのお世話を頼んでいた。
- ・ 社会人になり家族と離れて暮らすようになったため、ケアは現在行っていないが、両親が忙しい時は、時折きょうだいが発発的に泊まりに来ることがある。家計は現在も支えており、月5万円を家に入れている（高校の時は手元に1万円を残し、5万円以上の金額を家に入っていた）。
- ・ 一人暮らしを始めてケアが無くなった後に、特に辛さは感じなかった。趣味に使える時間が増えて、家事に割いていた時間と逆転した。

2 支援について

① 支援を利用したきっかけ（経緯やその時の気持ち）

- ・ 中学3年生の頃に、学校の先生から勉強する場として紹介されて、親と訪れた。当時は勉強する時間を作ることが難しく、受験も控えていたので勉強をする時間を確保する目的で通っていた。高校生になると、次第に自分の辛い気持ちを吐き出せる・休める場所になり、週に1回遊びに行く感覚になった。唯一休める場所が居場所しかなかった。

② 支援を受ける前に期待していたこと（団体への期待を含む）

- ・ 急に紹介されたので、期待は特になかった。どういう場所なのかは気になった。

③ 支援を受けた感想、団体の人にしてもらって一番嬉しかったこと

- ・ 話す相手が多くなったことが良かった。家が嫌で、そこから離れて、息抜きができる・疲れを癒せる場所として使っていた。以前はカラオケでストレス発散していたが、お金がかかるのでやめた。
- ・ 団体のアクティビティ（長期休暇期間の特別活動）で、皆で泊まりがけで出かけたことが本当に楽しかった。家族でほとんど旅行にも行ったことがなく、学校の修学旅行にも全く参加できなかったのが嬉しかった。

1. こども若者/家族インタビュー結果（こどもソーシャルワークセンター）

3 支援を受けた後について

① ケア（あなたが担っている役割）に関して変わったこと

- ・ きょうだい居場所を利用し始めたことで、きょうだいの世話をする負担が多少減った。きょうだいの利用ももっと早く始められていれば良かったと思う。（Dさんの紹介できょうだいの一人がトワイライトステイ、ショートステイの利用を開始。昨年度、YC 支援事業を通して他のきょうだいが体験活動に参加、その後トワイライトステイを利用することになった。きょうだい居場所を利用することでケアをする機会は減少した）

② 健康面・心理面・生活面、家族関係等の変化

- ・ 心理面で楽になった。居場所に行く予定ができたことで、「あと何日耐えれば、居場所に行ける」という楽しみができた。通い始める前は、「ケアが永遠に続く」という感覚だったが、居場所に行き始めたことで、1週間の区切りができ、耐えなければいけないと感じる期間が短くなった。
- ・ ストレスの多い家から離れる時間ができたことで、物事をポジティブに考えられるようになった。

③ あったらよいな、と感じる支援

- ・ こういう居場所がもっと増えてほしい。都市部にあったとしても、遠方在住だと通えないので、県内に複数箇所ほしい。また、それらの居場所が皆にもっと知られてほしい。会議室のような場所というよりは、一軒家の当居場所のような、アットホームで家のような居場所があると良い。自分が利用している居場所は上下関係がない点良かった。学校や会社では上下関係が生まれてしまうので、それがなく同じ立場で話せることが心地良い。
- ・ 家事が負担であっても家の中のことは自分でやりたいと考えている。そのため、当時、家事支援を利用できる環境があったとしても、利用しなかったと思う。人にとってやり方があるので、他人の手が入ると「ちょっと違う」と感じてしまう。
- ・ 配食支援はあるとありがたい。配食があれば、ご飯を作る時間がなくなるので、もっと勉強する時間ができていたと思う。また、ご飯という形でなくても、材料がもらえると食費が浮くので助かる。
- ・ 交通費を出してほしい。自宅からセンターまで電車とバスを使わないといけないため、片道 500 円近くかかる。毎週通うと月 4,000 円必要で、それは高校生にはしんどい。センターは交通費を出してくれたため、自分のお金を使うことはなかった。

1. こども若者/家族インタビュー結果（こどもソーシャルワークセンター）

4 団体以外の人を含め、他の人にしてもらって嬉しかったこと

【学校】

- ・ 通っていた中学校と団体がつながっていて、紹介してくれたことは助かった。そこが繋がっていなかったら、団体を知ることはなかった。
- ・ 中学校の先生は家庭の事情は知らなかったが、私自身が授業中にぼーっとしている様子を見て、気にかけてくれていた。勉強の話から、団体につなげてくれた。

【アルバイト先】

- ・ アルバイト先でまかないが出ていたことが良かった。自分で買わずに済んでありがたかった。

5 支援をする人たちに知っておいてほしいこと

- ・ 窓口は、こどもが自分の困難を打ち明けるには勇気がいるのでハードルが高い。居場所のような愚痴を吐き出せる場所があると良いと感じる。オンラインでの居場所は、画面越しの会話でしかなく、自分としては対面の方が話しやすい。

以上

1. こども若者/家族インタビュー結果（もりおかユースポート）

1 - (5) こども若者インタビュー記録 (利用団体：特定非営利活動法人もりおかユースポート) インタビュー実施日：令和6年2月13日（火）

利用した支援： ① 相談支援

Eさんの状況	
年齢・性別	10代・女性（大学1年生）
ケア対象	母
ケア内容	Eさんが小学生の頃から精神疾患（うつ）を抱える母親への精神的なサポートなどを実施。その後、Eさんが高校生の際に母親が難病を患い、身体的サポートも実施。
家族構成	母、Eさん
支援を利用したきっかけ	高校の先生から団体への相談を勧められたことがきっかけで相談窓口を利用。
支援の利用状況	・ 高校3年の受験期に、1、2カ月間で3回ほど窓口を利用 ・ 現在は、団体の学生ピアサポーターとして講演をするなど活動中

【1 - (5) - 1. こども若者インタビュー】

1 ケアについて

① ケアをすることに対する思い

- ・ 自身が幼い頃から母親が精神疾患を抱えており、精神的なサポートが大変だった。母がネガティブになった際に自分にも気持ちが移ってしまうので、どう対処すればいいか分からず悩んでいた。
- ・ 高校からは、母親が難病を患ったことを機に、身体的なサポートも行うようになった。身体的なサポートは自分が動けば対応できるので、精神的なサポートの方が辛いと感じていた。

② 体調面で気になること

- ・ 体は大丈夫だが、心がしんどかった。誰にも話せなかったので、自分で解決するために、音楽を聞くなどの形でストレスを発散するしかなかった。
- ・ 感情を処理しきれず泣くこともあり、精神的につらかった。

③ 生活への影響

- ・ 高校生の時に母親のケアで忙しく、部活をやめようと思い、顧問に相談した。学校には通えていたが、難病になった母親の身体的なサポートが必要になったことで、土日は部活に行けないことも多かった。

1. こども若者/家族インタビュー結果（もりおかユースポート）

- ・ 小中学校時代は、精神的には大変だったが、身体的なサポートがない分、時間的な余裕はあった。

2 支援について

① 支援を利用したきっかけ（経緯やその時の気持ち）

- ・ 相談支援の利用を考えたのは、自分自身も YC について知りたかったから。親の世話をしているのは自分だけでないということを知ることができ、安心する気持ちが芽生えた。自分でも「ヤングケアラー（県名）」と、検索をしていて、団体のことを知っていた。先生から団体を紹介されるまでは相談に行くのは勇気がいるので迷っていたが、先生から後押しされて、まずは電話相談をした。

② 支援を受ける前に期待していたこと（団体への期待を含む）

- ・ 電話相談をした時は、母に対する精神的なサポートよりも身体的なサポートがつかうと感じており、どんな支援が受けられるのだろうか、と期待していた。
- ・ また、犬を複数匹飼っており、当時受験生でもあったため、学校帰りに犬の散歩をすることもきつかったので支援がほしかった。

③ 支援を受けた感想、団体の人にしてもらって一番嬉しかったこと

- ・ 親のケアをするのは、「あなただけじゃないんだよ」と寄り添ってくれ、助言をしてくれた。
- ・ また、犬の散歩の代行サービスも紹介してくれた。結果的には、有償だったので利用には至らなかったが、一緒に考えてくれて、気持ちに寄り添ってもらえて本当に嬉しかった。

3 支援を受けた後について

① ケア（あなたが担っている役割）に関して変わったこと

- ・ ケア自体にはあまり変化はないが、前より周りの人を頼れるようになったことは、自分の中で変化があったと感じている。

② 健康面・心理面・生活面、家族関係等の変化

- ・ 気持ちが暗くなることが減り、ポジティブに考えられるようになった。
- ・ 母には、「私はヤングケアラーなんだよ」と伝えることができた。その結果、母親のケアをする際に、母親が自分を気遣ってくれることが増えた。

③ あったらよいな、と感じる支援

- ・ 無償の犬の散歩代行サービスがあると嬉しかった。

1. こども若者/家族インタビュー結果（もりおかユースポート）

- ・ 家族のケアで悩んでいても、自分がYCであると気づけない場合もあるので、気づくことができる機会がもっと増えると良いと思う。
- ・ YCについて気軽に話せる場所ももっと増えると良いと思う。また、その場所がどのような所なのかイメージができると利用したいという人も増えると思う。動画や写真、SNSなどでどんな場所なのか想像できる発信があると、行きやすい。どんな所なのか分からないと怖いので、なかなか行きづらい。
- ・ SNSはサムネイルが大事なので、そこで太字で支援内容を紹介し、ポチっと押すことで支援につながると気軽によいと思う。
- ・ LINEの公式などで、ピザのデリバリーのように、【何か困っていますか？】、【電話がいいですか、メールがいいですか？】などとメニューが表示されていくようなものだと、若い人でも気軽に支援を利用してみようと思えるかもしれない。
- ・ 弁当の配食があると、金銭的にも楽になるので助かる。現在は有償の弁当配食サービスを利用しているが、月1回程度でも無償で届くと助かる。
- ・ 一時期、ヘルパー支援を受けていたことはあったが、部屋に人がいることに母親がストレスを感じてしまい調子が悪化したため、利用を中止した。

4 団体以外の人を含め、他の人にしてもらって嬉しかったこと

【学校の先生】

- ・ 部活の顧問の先生に退部の相談をしたところ、退部ではなくマネージャーにしてくれた。部活での立ち位置への気遣いをしてくれて、ありがたかった。
- ・ 顧問はいつも気にかけてくれており、非常に心強かった。
- ・ 中学の時は思春期でもあり、誰にも知られたくない思いが強く、家族の状況などは隠していた。一方で、つらく、誰かに知ってほしい気持ちもあり、複雑だった。

【支援団体】

- ・ 頻繁にLINEなどで連絡をしてくれていて、「自分が気にされているんだ」と感じ、気持ち became 楽になった。

【ピアサポーターの活動】

- ・ 様々な場所に行って体験談を話す際に「辛かったね」「頑張ったね」と声をかけてもらえる。また、質問をしてもらう等、興味を持ってもらえることが嬉しい。また、ピアサポーターという居場所を提供してくれたことも嬉しく、誇りを持ってやらせてもらっている。

5 支援をする人たちに知っておいてほしいこと

- ・ 団体はSNSを活用しており、いつでも気軽にLINEができて助かる。足を運んだ際も、スタッフが明るく笑顔で迎えてくれるので、前向きな気持ちになれる。そういう場所であってほしい。

1. こども若者/家族インタビュー結果（もりおかユースポート）

- ・ 支援が必要なこどもはもっともっとたくさんいると思うので、今後さらに YC 支援が充実して欲しい。

【1 - (5) - 2. 家族インタビュー（母親）】

1 ケアについて

① こどもの体調で気になること

- ・ 食事面については、こどもがジャンクフードばかり食べているため心配している。
- ・ 心理面については、感情の起伏が激しいように感じる。

② こどもの生活への影響

- ・ 特になし。

2 支援について

① 支援を利用したきっかけ（経緯やその時の気持ち）

- ・ （本人インタビュー参照）

② 支援を受ける前に期待していたこと（団体への期待を含む）

- ・ 同じことを経験した人と気持ちを共有することで、気持ちが楽になってほしいと考えていた。

③ 支援を受けた感想、団体の人にしてもらって一番嬉しかったこと

- ・ 特になし。

3 支援を受けた後について

① ケア（こどもが担う役割）に関して変わったこと

- ・ ケアに関して変わったことはあまりない。

② こどもやご家族の方の健康面・心理面・生活面、家族関係等の変化

- ・ 特になし。

③ あったらよいな、と感じる支援

- ・ こどもに対する支援としては、気持ちがすっきりするような居場所があるとよいと思う。
- ・ 自身に対しては、同じ難病や病気を抱えている人が集い、精神的に楽になる場があると嬉しい。

1. こども若者/家族インタビュー結果（もりおかユースポート）

4 団体以外の人を含め、他の人にしてもらって嬉しかったこと

- ・ 特になし。

5 支援をする人たちに知っておいてほしいこと

- ・ 地域のどのような場所でも、車いすや身体障がいを抱えている人が利用できるようにしてほしい。

以上

1. こども若者/家族インタビュー結果（ヤングケアラー協会）

1 - (6) こども若者インタビュー記録 (利用団体：一般社団法人ヤングケアラー協会) インタビュー実施日：令和6年2月20日（火）

利用した支援： ① 就労支援（LINE、オンライン相談） ② 相談支援
--

Fさんの状況	
年齢・性別	30代・男性
ケア対象	母
ケア内容	Fさんが幼少期から精神疾患を抱える母親への精神的サポートと身体的サポートなどを実施。現在は、医療や介護関連の手続きや入院・通所時の付き添いなども実施。別居の高齢の祖母のケアも時折行う。
家族構成	父、母、兄、Fさん ※高校時代はホームステイ ※大学卒業後、一度実家を出るが、母の病状悪化により再び同居。 その後、母は何度かリハビリや体調調整等で入退院を繰り返す。 現在は通所介護・リハビリサービスや訪問診療等を受けて在宅療養
支援を利用したきっかけ	大学卒業後、母の病状悪化で実家に戻り、介護と仕事の両立に悩んでいた際、SNS上で団体のキャリア相談サービスを知った。
支援の利用状況	・ LINE やオンラインでのキャリア相談を利用 (LINE上では複数回相談し、オンライン面談は3～4回程度利用) ・ その他、団体のオンラインコミュニティを利用

1 ケアについて

① ケアをすることに対する思い

- ・ 自分が物心ついた頃からケアを行っていたため、学生時代は感じていなかったが、大人になった今思い返すと負担感は強かった。母に対する精神的なサポートに加え、身体的なサポートも小さいころから行ってきた。
- ・ ただし、家族からの愛情を受けて育てられたと感じているし、病気を抱えているために、親も家のことをやりたくてもできないという気持ちもわかっている。
- ・ 家族は大事だし、ケアをするために看護師になった。公的な制度上の限界もあり、家族でないとできないこともある。その一方で、家族だからこそできないこともあるの

1. こども若者/家族インタビュー結果（ヤングケアラー協会）

で、外部の力も借りている。

② 体調面で気になること

- ・ こどもの頃は精神的につらかったが、自宅から離れた高校生以降は負担感が認識できるようになり、最近になって自分に負担がかかりすぎないようにケアをするコツのようなものが分かってきたことに加え、大学で看護を学んだこともあり、徐々にうまく対処できるようになった。
- ・ 幼少期から中学生くらいまでは、親がご飯の準備をできない時もあり、父もフルタイム就労しつつこどもや寝たきりの祖母の対応におわれ、疲れ果てており、消極的ネグレクトに近い状態になっており、親のケアにあたる事で情緒的な課題に加えて成長発達に影響が出ていたと思う。

③ 生活への影響

- ・ 中学の頃は不登校になった時期があった。学校では特に何が嫌だということはないため、今思い返すと、親のことを心配していたり、家のことで疲れが溜まっていたことも影響していたと思う。
- ・ 高校は留学し、北米の学校に通った。これも、今思うと家から離れたかった、という部分もあったと感じる。父が働いていて金銭の工面ができ、自宅を離れて状況を大きく変えることができた。
- ・ ただし、自分が高校生の時に、母の状態が悪化し、高校生活の最後の方は杖歩行をする状態になっていた。留学中も、時差があるなか電話を通じて母の精神的サポートをしていたことで、睡眠不足になっていた。高校の先生が、授業中に寝てしまっているFさんに気づき、心配してSSWにつないでくれた。怒られるかと思ったが、SSWが眠れていない状況を心配してくれた。そこで初めて周りに家族の話ができた。
- ・ 北米の大学に進学希望していたが、親のこともあり、日本に帰国して進学することになった。
- ・ 大学では看護を学んだが、欠席できない実習があるにも関わらず、母の入退院の付き添いで休まなければいけない時があった。父はいたが、事情があり、母の付き添い等は行えなかった。
- ・ 兄は、ケアを避けている印象だったが、自分の心を守ろうとしていたのだと思う。現在も同居しており、一緒に出かけることもあり関係は良好である。
- ・ 父は幼いこども二人の面倒を見ながら不調時は母親の世話も加わり、寝たきりの祖母の世話もしなくてはならない時があり、かなり疲労困憊していた時期があった。

2 支援について

① 支援を利用したきっかけ

- ・ 大学卒業後に病院に就職し、自分自身の生活も大事だと感じ、寮に入り、実家を離れ

1. こども若者/家族インタビュー結果（ヤングケアラー協会）

たが、一度病院につながった母親が通院を辞めてしまったことで、母親の病状が悪化し、ケアが必要になり実家に戻るようになった。この時にも行政などに相談したが介護保険適用外なことや、本人が拒否することなどから支援がないと言われ、なんの支援も入れられず、未治療のままだった。母の夜のトイレの付き添いの必要があり、夜勤で働けなくなったこともあり、訪問看護の仕事に変えた。65歳になったタイミングで介護支援センターに行き、ケアマネが入った事で訪問診療や訪問リハなどが入り、少し改善した事もあり、再就職。親の介護があることを職場にも伝えていたが、仕事が減るわけでもなく、特段配慮されることもなかった。その当時、母親の病状は良くなったり悪化したりという状況だった。一年ごとに父、母、祖母の入院もあり、仕事と家のことを行うことに限界を感じ、退職した。介護に理解のある職場を探したが見つからない、という時に、Facebook 経由で団体のキャリア相談サービス「ヤングケアラーズキャリア」を知り、LINE 相談へつながった。

- ・ YC という言葉については、友達を介して知った。元々団体の代表のことはテレビで見たことがあり、知っていた。
- ・ 高校時代までは自分のつらさを言語化できなかった。また、家庭の事情は言っていけない雰囲気を感じていたし、困っているという認識もなかった。もし自分が日本の学校に進学していたら、家にひきこもり、助けを求めることはできなかったと思う。
- ・ 留学先の高校では、サボる生徒は学校から追い出されたり、留学生だと国へ帰されると聞いていたので、SSW に授業中眠っているため呼び出された時は緊張したが、眠れていないのか？ホームシックなのか？と心配をして話を聞いてくれて、ホッとして涙が出た。SSW はカリキュラムに関する相談がメインなので、その後、学校看護師（保健室養護教諭）や公認心理師につながり、そこで専門家に親の相談をすることができた。この経験を経て、周りに相談するハードルが大きく下がった。

② 支援を受ける前に期待していたこと

- ・ 働くことが好きである一方で、親のケアもしたいという葛藤があり、介護をしながらでも働きやすい職場の紹介や、新しい働き方の提案をしてくれることを期待していた。

③ 支援を受けた感想、団体の人にしてもらって一番嬉しかったこと

- ・ とても親身に話を聞いてくれた。同じ元 YC という立場で話したり、共感してくれる人と出会ったのが初めてで、とても嬉しかった。
- ・ フルリモートの仕事やフレックス制度等、新しい働き方を教えてもらった。
- ・ LINE 相談では、たくさんやり取りをさせてもらった。オンライン面談は3回ほど。直接ご飯を食べに行き話す機会もいただいた。
- ・ 母校の大学の非常勤講師として働かないかという話があったが、フルタイムで働くこと、ケアの都合で急に休む必要が生じる可能性があることなど不安な点も多かった。

1. こども若者/家族インタビュー結果（ヤングケアラー協会）

その際にヤングケアラーズキャリアで相談させて貰い、不安も解消でき、母校ということあり、ケアを行いながらの勤務に理解があり、最終的には実習の現場で実習期間中のみ働くことができた。現在は仕事に就いていないが、団体に働かせてもらう話もでている。

3 支援を受けた後について

① ケア（担っている役割）に関して変わったこと

- ・ 年齢や看護師としての仕事経験を積んだために、以前よりもケアをよりよく行えるようにはなったが、キャリア相談をしたことによるケア自体への変化はない。働き方は見直しができた。

② 健康面・心理面・生活面、家族関係等の変化

- ・ キャリア相談をしたことで働き方の多様性を知ることができ、将来への不安が減った。
- ・ また、キャリア相談とは別に団体の Slack 上のオンラインコミュニティに登録しており、団体の実際のイベントにも参加し、そこで自分の状況を客観的に見ることができた。例えば、他の家族のメンバーの立場（介護に参加しなかった兄など）や考えを知ることができ、兄に対する不満が消化された。「こういう状況だったから介護に積極的になれなかったのかな」と思えるようになった。
- ・ オンラインコミュニティは不安の吐き出し口になっていて、そこで同じ経験をした人同士で共感したり、「いいね」してくれたりというだけで心が楽になる。団体の代表をテレビで見て、団体のことを検索をした際に、コミュニティを知った。その時は登録しなかったが、コロナ禍でしんどいと感じる時期があり、その際に利用し始めた。
- ・ 最近、団体の活動を通して、家族のことについて人前で話す機会があった。今までは隠したい気持ちもあったが、困りごとや、自分が頑張ってきたことなどを話せたことで、気持ちがとても前向きになった。家族の当時の気持ちなど、過去の状況を考え直すことができ、自分の不満が解消され、これからも家族をサポートしていきたいと改めて感じた。結果として、家族との仲が改善して自分も楽になった。
- ・ 自分が人前で話をした際、行政の職員の方が YC について熱心に学ぶ様子が嬉しかった。自分がこどもの時は、行政に相談しても「高齢者の枠に入らないので介護保険の対象にならない、本人が拒否するなら難しい」と言われ、病院には「本人が来院する必要がある」と言われていた。年齢的に介護にもつながらず、他に利用できる支援も紹介されなかった。大学の支援制度に詳しい教員にも相談したが、利用できる支援は見つからなかった。そのような経験があるため、行政が熱心に取り組んでくれていて嬉しい。

1. こども若者/家族インタビュー結果（ヤングケアラー協会）

③ あったらよいな、と感じる支援

- ・ 団体でキャリア相談をさせてもらった際に、介護をしている求職者に対して、理解のある企業の情報をもう少しもらえると嬉しかった。理解のある企業が増えてくれればいいと思った。ハローワークは要介護の親がいるため融通をきかせて貰える職場でないと感じたが、形式的な対応で残念だった。
- ・ （団体からのコメント）YC 支援は広まりつつあるが、若者支援については自治体の支援メニューも少なく、窓口のある自治体も少ない。働きたい YC のこども若者を企業に紹介したいが、理解がある企業がなかなか見つからない。自治体や医療、福祉分野の中では理解が進んでいるが、そこから一步出ると、なかなか知られていない現状がある。
- ・ アウトリーチ事業があると良い。直接的に利益にならないと継続が難しくなると思うが、例えば訪問看護であれば、家族支援等に対して加算が取ればお金をいただきながら訪問をすることができる。自身が訪問看護で働いていた際に、YC とと思われる子に出会うこともあった。YC がいることを考慮した訪問看護や介護サービスがあると良い。例えば、団体が訪問看護ステーションを作り、看護師への指示書さえ作成できれば、家族単位での訪問看護を行うことが可能であるとする。加算が取れば既存の訪問看護ステーションも積極的に実施していくと思う。
- ・ YC のメンタルケア、精神疾患の予防・啓発が進むとよいと思う。精神疾患は遺伝要因と環境要因があると言われている。遺伝要因で精神疾患のリスクが高い場合、YC はストレスを抱えやすいため環境要因も成立しうる。YC たち自身も自分のケアができるようになる支援・教育があると良い。疾患教育をすれば YC たちも自分の親のよく分からない部分分かるようになるし、親の症状に対する対処法も分かるためいいと思う。
- ・ 学生時代から講演などで YC の話を聞けるといい。学生時代、YC という言葉を知らなかった。北米の高校では、精神疾患を抱える人や元薬物依存者の人などの話を聞いたので、そのような機会があると良い。特に医療福祉系の大学などでは実現しやすいのではないかと感じている。
- ・ 未成年と成人で区切らない継続的な支援も必要だと思う。訪問看護をしていた際、こどもの頃に YC だったであろう人が十分な養育を受けられず思春期になってひきこもりになって大人になってしまったケースがあった。年齢で区切ってしまうと支援が届かないことがあると感じた。
- ・ こども時代に困難があると、自己肯定感が低くなったり、負い目を感じることもある。大人になれば急に何でもできるようになる、という訳ではないので、こどもの頃から支援をして、大人になっても要介護者の家族を、自分の生活を大切にしながらケアできるよう支援できるとよい。YC が大人になり、ケアが必要な親を行政や医療福祉関係者に任せて「関わりたくないの連絡をしないでくれ」といって親との関係を切

1. こども若者/家族インタビュー結果（ヤングケアラー協会）

ろうとするケースもある。その結果、行政や医療、福祉の負担が増す。こどもが家族から離れること自体は本人のためでもあるので批判されるべきではないが、行き詰まって家族から離れてしまう前に、家族が家族で居られるように、YC 自身が担えるケアの限界を知ることができるように支えられると良いと思う。

- ・ 家族単位での支援・大人向けの支援が必要だと強く感じる。YC に限ったことではないが、在宅療養・支援をしていると、患者や YC だけを見ていても成り立たないと感じる。子育てをしながら家族の世話をしつつフルタイム就労などしては大人も体調を崩しかねず、YC にも影響が出る。一人の要介護者がいることで、家族構成によっては芋づる式に家族全体が不調に陥ることもある。特に YC はこどもなので、家族からの影響を大きく受ける。家族は必ずしもケアの専門家ではないので、効果的なケアをできていない場合もある。早くから効果的なケアができていれば、こどもが YC にならなくて済んだかもしれない、というケースもある。また、保護者の介護能力が低かったり、多忙から、こどもがやらざるを得なくなるケースもある。そのため、介護者・養護者の大人に対しても精神面や社会資源活用の支援、介護等の知識獲得を含むサポートが必要である。それが結局 YC のためになる。家族だけでは難しい場合もあるので、行政、地域住民、学校、医療、福祉、など全体を巻き込んだ支援が必要だと思う。
- ・ 65 歳になるまで 30 年近く母親は未治療・未支援で家族だけで世話してきた。
- ・ （団体からのコメント）年齢で支援を区切らないでほしい。特に精神疾患に対する訪問制度は限られており、ケア対象の家族が医療につながる事が困難な場合もある。行政に相談しても、医療に相談してから来てほしいと言われるが、本人が病院に行けないと、家族もこどもも支援を受けられない。ケア対象者が 65 歳になり、介護保険サービスの利用対象になって初めて支援につながるような現状がある。

4 団体以外の人を含め、他の人にしてもらって嬉しかったこと

【団体・学校】

- ・ 話を聞いてもらえただけで嬉しかった。ひたすら話を聞いてもらい、それだけで間違いなく気分が楽になった。

【学校の心理師】

- ・ 「そこまで親の介護に責任を負わなくていいんだよ」と言われ、自分が責任を感じていたことを知ることができた。自分が認識していなかった感情を自覚し、自分が困っていたことが何なのかを顕在化させることができて良かった。

【友達や友達の親】

- ・ 友達には家族のことは言えていなかったが、様子を見て遊びに誘ってくれたり、無理やりでも連れ出してくれた。
- ・ 友達の親も気にかけてくれていた。

1. こども若者/家族インタビュー結果（ヤングケアラー協会）

【病院】

- ・ 最近の出来事だと、母親の入院時に配慮してくれて大変助かった。母親が入院の予定だったが、体調不良で行けなくなってしまった。自身が病院で働いていたこともあり、多大な迷惑をかけてしまったことを理解できるので、自身としては入院をあきらめかけていた。その際、病院のソーシャルワーカーやケアマネジャーが事情を理解してくれ、ベッドを確保して母親の体調の良くなるタイミングを辛抱強く待ってくれた。そのおかげで母親は入院ができた。それまでは母親はずっと家にいて、効果的なケアもできていない状態だったが、入院により通所サービスも受けられるようになり、病状が上向きになっていることを感じられるようになり良かった。人に恵まれた。

5 支援をする人たちに知っておいてほしいこと

- ・ 周りが気にかけてくれている、ということが雰囲気だけでも伝わることで楽になる人もいる。行動や声かけなど、態度で示してくれるだけで助かる。自分が高校生の時に、授業で寝ていただけなのに生活を気にかけてもらえた。利用できる支援等を教えてもらえると希望を持てる。場合によっては、「家から逃げ出してもいいんだよ」ということも教えてあげてほしい。親と一緒にいたい子もいると思うが、短期でも家から離れて休む、という選択肢があることを伝えてほしい。
- ・ 介護をしている人は家を出られない、家族の不調で急に出かけられなくなる、という事情がある。そのため、サロンなどのイベントは、オンラインと現地参加のいずれでも参加できるようにしたり、途中入退場可という選択肢があるとありがたい。また、「急に来られなくなってもいいんだよ」というメッセージが伝わると参加しやすくなる。
- ・ YCは、自分でつらい状況に気づけていない子がいると思うので、周りの大人が見て積極的に声をかけたりと、お節介くらいの関わり方をするくらいがちょうど良いのではないかと思う。

以上

2. 支援団体インタビュー(パイロットスタディ)結果(スチューデント・サポート・フェイス)

2 支援団体インタビュー結果

2-1-(1) 認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス (インタビュー実施日：令和5年7月31日(月))

1 組織の概要について

- ・ 我々は社会的に孤立をし、地域からも分断された当事者に支援を届ける活動をしている。社会的な孤立は誰もが陥るものであり、対策を広げる必要がある。我々の元には YC だった人からの SOS のメールも届いている。こどもの頃にケアを担わなければならず、家族が抱える問題が複合化し、社会不適合を起こしている場合も少なくない。孤独の中で死を意識する程の極限の状態に追い込まれていることもある。このような状態は潜在化していて見えづらいが、しっかり目を向けていく必要がある。
- ・ 我々はアウトリーチを重要視しており、支援を当事者の元に届けるという発想・取組を基軸としている。中でもワンストップ化に力を入れており、あそこに行けば何とかできるという窓口を作っている。問題が複合化しており、多機関がそれぞれ部分的に対応する場合、消極的な権限争いが起こる可能性もある。現状、子ども・若者育成支援推進法に基づく相談窓口、ひきこもり地域支援センター、地域若者サポートステーション事業に基づく相談窓口、生活困窮者自立支援法に係る取組等について、我々の NPO がプラットフォーム機能を果たすことで一元化ができています。
- ・ 我々の窓口には年間延べ 81,000 件の相談が寄せられている。コロナ禍はイレギュラーだったが、コロナ禍前の3年間は、学校・教育分野からの紹介が多かった。また、行政機関、専門機関からの依頼が7割ある。これはネットワークが発達していることの象徴でもあるが、カウンセリングで話を聞くだけではうまくいかなかったため、我々に紹介いただくというケースが多い。対人関係、依存行動、障害、精神疾患等の困難を抱えている場合がある。
- ・ 2,400 名を対象に行った調査では、63.7%が家族環境に様々な課題を抱えており、それが社会的な自立に何らかの影響を与えていることが示唆された。その中に YC に該当するケースは相当数あるといえる。家族自身も疲弊しているため、本人支援だけでなく、家族支援も必須の取組だと思う。84.7%は相談の受付時に複数の領域で困難を抱えており、問題が複合化していた。
- ・ 従来の公的支援の限界を突破するために我々が工夫していることが3点ある。1点目の工夫は、多職種連携を前提とした組織を作っている。国家資格が中心となるが、民間の資格を含めると29種の有資格者が所属している。一つの専門職によるアプローチでは、偏りがあり、支援計画が途中で破綻するという事が起こりやすい。相談の84.7%は問題が複合化しているため、まず一つの組織内に多角的に検証できる仕組みを整える必要がある。

2. 支援団体インタビュー(パイロットスタディ)結果(スチューデント・サポート・フェイス)

- ・ 2点目の工夫はこどもの価値観に合わせるための工夫である。こどもや若者は専門家を嫌うケースが少なくない。また、過去の出会いで生じた傷つき体験によって左右される場合もある。本人の周りにどのような家族関係があり、どのような外部関係者が関わって今の困難な状態にあるのか、どんな存在であればこどもにとって受け入れやすい存在となり得るのかということの詳細に分析し、支援者をマッチングし、家族構成等の相対的要素を加味して関係を構築している。当事者がなぜ心を開いてくれないのかという事に着眼しないと、支援者を紹介しても関係構築につながらない。我々はこどもたちに対して価値観のチャンネルを合わせている。本人が好きなのを我々も好きになり、興味関心を持ち、積極的に関心を持つようにしている。こどもの価値観に合わせることで、本人にとって受け入れ易い存在として認識してもらい関係性を作り、家族問題がある場合はそこから介入するというアプローチをしている。
- ・ そこで、2点目の工夫として独自の研修システムと連動させることで、価値観のギャップが生じにくい若い世代の支援員に活躍いただきやすい体制を作っている。全体で250名のスタッフがいますが、約6割が20代、30代で構成されているため、価値観のギャップが生じにくい世代が関わることでこどもとの関係を効果的に作ることができる。そこにチームアプローチが機能する。若い世代の支援員と共にチームを構成する、経験のある専門性を持ったメンバーが家族問題へとアプローチしていく。なお、250名のうち、80数名が有給職員である。
- ・ 3点目の工夫はネットワークの重視である。自分たちだけではできないことも多くあるが、それができる人たちとつながることで解消することができる。我々はNPO団体としては珍しく、法制度に基づく行政主導の複数の協議体の構成機関に位置づけていただいている。これは当団体が非常に多岐にわたる団体等とのネットワーク構築ができているためでもあると思う。NPOの立ち上げ時に、地域課題を解決するため誰がどんなことで頑張っているのかについて地域全体を把握し、限られた資源の中で我々がどこに力を入れれば良いのかを明らかにした。その際、子育てに関する相談・支援団体についてのガイドブックを作成した。各機関のつながりにおける特徴は、緩やかな連携で、主義主張やり方は一旦置いておき、こどもたちのために活動するのであれば、情報を一元化できるようにするために運動を展開した。この時は約700団体にご協力いただいた。それによって地域全体を見ることができ、課題も把握することができた。続いてその課題の解決のプロセスに移行した。例えば、若者の味方隊、職親という取組がある。職親は若者の就労体験を受け入れる事業主である。前提として、こどもたちは様々な困難を抱えているため、いきなり説教はしないなど、こどもたちのことを理解し、困難の背景を察してくれる事業主に協力いただいている。このような就労に向けた中間的なトレーニングメニューを提供している。
- ・ 地域的な限界は全国規模の取組を推進することで補うしかない。この点、生活困窮者自立支援法に係る生活困窮者自立支援全国ネットワーク、精神医療分野との協働により

2. 支援団体インタビュー(パイロットスタディ)結果(スチューデント・サポート・フェイス)

設立に至ったコミュニティ・メンタルヘルス・アウトリーチ協会、社会的養護の領域の取組を支援する、九州若者サポートネットワーク等も設立の段階から関与している。このように重層的にネットワークを構築する中で、公的支援の限界を突破し、誰一人見捨てないという取組を展開している。

- ・ こども若者という観点では、平成 22 年にできた子ども・若者育成支援推進法に基づき、都道府県単位では全国初の設置となった法定協議会の中で県内唯一の指定支援機関としての指定を受け、子ども・若者総合相談センターを運営している。同じく受託・運営する生活困窮者自立支援事業は、年齢関係なく支援が可能となっている。

2 こどもの年齢や発達の程度に応じた支援におけるポイント

- ・ 前提としてケアの負担は内容や時間、家族環境、地域との関係性等で変わる。
- ・ 幼児期など愛着形成が優先される段階では、ケアの内容にもよるが、ケアが愛着形成を育む手段になり得る場合もある。思春期では幼児期に比べ活動範囲も広がり、本来であれば友人関係の中で社会性を育む経験を積むことになる。他のこどもに比べるとその経験の機会が失われ、格差が生まれやすくなるため、YC の支援を可能な限りいれるように意識している。
- ・ 年代による支援については、発達心理学があるように基本的に若者支援はそれぞれの世代によって変わると思うが、我々の支援のプログラムメニューはオーダーメイド型である。生まれ育った環境、家族との関係性、所属する学校の状況等によっても得られる経験や機会に格差が出る。ケアで逸失した経験等があれば、それを補っていくという考え方である。これまでの外部環境を分析し、そのこどもが次の段階に進むために、必要な経験を補うという考え方である。特に今、価値観は多様化しており、価値文化も異なっている。外国人の家庭の問題もあり、宗教文化も異なっている。その中で、我々としては、個別性を重視し、年代だけではなく、生まれ育った環境から受けている影響や足りない経験を補っていくというイメージを持っている。
- ・ 我々はあらゆる年齢層のこどもたちと向き合っているが、こどもの年代というよりは、こどもを取り巻く家庭環境や外部関係者がどのように関与したか等の経緯によって変わるという事に焦点を当ててきた。アンケートで年代ごとに効果的な支援と聞かれた場合、共通して居場所の重要性といった回答は出てくると思うが、個別的な部分もあるため答えにくい。特に幼児期については、家庭で十分な養育を受けられていないことで他の子に比べて発達に遅れが出る場合もある。その上の年代になると不登校として影響が出る場合もあるため、保育や教育という枠組みの中で発見し、接点を持つ先生方が他機関につなげるなどして個別的な支援へと導入することになると思う。

3 こどもが担うケアの内容に応じた支援におけるポイント

- ・ 一番の課題は精神的なケアの部分である。メンタルヘルスの課題を抱えている保護者

2. 支援団体インタビュー(パイロットスタディ)結果(スチューデント・サポート・フェイス)

のケアを担っていると、こどもが受ける心理的影響も負担も大きくなることもある。介護については、サービス利用料が払えないという問題があるが、障害福祉サービスでできることはたくさんある。メンタルヘルスの問題を抱えている中には、症状等から他者を受け入れられない保護者の存在がある。就労段階、若年無業者の職業的な自立を支援する地域若者サポートステーションで行った実態調査では、支援機関のサービスを利用するにあたっての困難として、支援に対する理解が得られないという保護者要因があり、アウトリーチのサービス対象でこのような課題を抱えている割合が 29%であった。こどもがひきこもりで働けない状況になり困難を抱えているが、保護者が支援サービス受けたくないと思っている場合がある。また、抵抗感や不信感を持っているという本人要因は 59.7%であった。対人関係や社会での挫折経験のある当事者はこの傾向が強くなる。

- ・ ひとり親家庭の中には、元配偶者の暴力等の影響によって、対人恐怖等の状態に陥り、外部の人間に対しても不信感や拒絶感を持ってしまう場合もある。訪問看護等のケアが必要な状態になっているにも関わらず、他者への拒絶感等からサービスを受け入れられない状態になっていることも少なくない。これは年月が経てば経つほどこども側の問題も影響し共依存になる場合がある。ケアをしてくれる人がこどもしかおらず、親も周りとの接触機会がほぼないため、孤独感から、また、すべての日常をこどもと共有したいといった心理から、こどもの学校や友人との時間にも制限をかけてしまう。こどもが思春期となると友達関係がうまくいかなくなり、結果、学校で不適応を起こしてしまい家にひきこもりがちになり、親子共依存という形になる。実例として、小学校から不登校になり、それが中学に入っても続き、20 数歳まで母親と2人で家に孤立していたというケースがある。
- ・ 一番注意したいところは精神的なケアを担うこどもへの支援に力を入れることだと思う。精神疾患を抱える親を持つこどもに対してのアプローチで大切にしていることは、保護者の信頼感である。実際にアウトリーチをかけられるようになった時に、我々は生活の中の負担をいかに減らせるかという事を考える。精神的なケアや治療を進めるために病院との連携を取りながらやる場合もあるが、それよりも生活の中の負担が減って助かったという想いがなければ、信頼は積み上げられないと思う。必要性を感じてもらい継続的に家庭に入っていくために、万事屋的な役割が必要になる。こどもと一緒に部屋の片付け、家事手伝いをして、生活の中の負担を減らすようにしている。その後、信頼関係が構築されて保護者の心に余裕がでたら、家事代行サービスの紹介し、投入することもできる。ケアを受けている側の過去の経験に応じて、まずは間接的にでも負担軽減という観点から最小限の接点を持ち、継続的に関与する過程で苦手意識を払拭し、段階的に支援の輪を広げていくようにしている。

2. 支援団体インタビュー(パイロットスタディ)結果(スチューデント・サポート・フェイス)

4 効果的な支援を行うための支援順序におけるポイント

- ・ 家庭に介入する際の接点としては、全体の7割が行政機関、専門機関からの紹介である。行政側からの支援導入が難しいケースには、過去に支援を受け失敗を経験しているひきこもり当事者や家族問題を抱えるケースが多い。ひきこもっていること自体知られたくない、行政関係者に家族の状況を知られたら虐待と判断されこどもが引き離されてしまうかもしれないといった思いから行政側の関与を望まない。こういった当事者への対応については、民間団体が対応するということがポイントとなる。特に虐待は疑いの段階で通告が義務化されているため、本来であれば相談すればすぐに解決できる子育ての問題でも抱え込んで閉ざしてしまう家庭がある。我々は民間の NPO のため行政機関とは違ったイメージで入れるという事も抵抗感を軽くするポイントだと思う。
- ・ 支援順序という事については、安易に介入しないということを一番大事にしている。過去に働きかけを受けて拒絶をしている場合は、良かれと思ってサービスを提案した時点で頑なに心を閉ざす方もいる。人間の心理として、働きかければ働きかけるほど、拒絶感が強化され反射的に強い拒絶が入るという事が起こりうるのである。過去の経緯を含めてどのような状況で孤立しているのか、サービスが必要だと考えられるが受け入れない理由は何かという事について情報収集をして分析をし、糸口を探っている。
- ・ 我々は孤立した当事者を対象としているが、不登校児童生徒等、所属がある場合は学校から支援導入を図っている。全小中高 300 校に学校訪問し、SC、ソーシャルワーカー等が対応に苦慮したケースを引き受ける、全国初の包括型の訪問支援事業を教育委員会から委託を受け、全県域でアウトリーチを行っている。それにより、全学校と情報連携ができるようになった。学校に登校している子は、接点が先生や友達となり、そこからの紹介で対象のこどもにアプローチすることができる。その後、価値観のチャンネルを合わせている。アプローチする際のバリエーションは豊富にある。例えば、当事者がオンラインゲームに関心があるようであれば、ゲームを通じてやり取りをし、オフ会に誘うこともできる。そのオフ会で接点を持ち、関係性を作ることができれば、親を紹介してもらうという事もできる。逆に親からつながる場合もあり、生活困窮者自立支援法の枠組みの中で貸付等のやり取りをする中で親と関係性を作ることできる。そこで様々な事情、状況を伺い、その負担を軽減する方向から介入し、こどもと接点を持つパターンもある。また、学習・生活支援事業の一環である学習会を通じてや、こども食堂に来ているこどもを通じて保護者と接点を作ったりと、様々な手段で接点を持ち、段々と本来の相談ができるような関係性を作っている。
- ・ 我々は家庭教師方式のアウトリーチを行っている。こどもからすると、心の専門家が派遣されてくることには抵抗感を持つ場合もあるため、あえて家庭教師として入っている。継続的に家庭に訪問するプロセスで、関係性を構築し、様々な家庭問題や YC のケアの部分に触れ、一緒に手伝いをし、信頼を深めた上で、ケアに関する専門家を連れてくるようにし、だんだんと支援を広げていくような活動をしている。最初はひきこもり

2. 支援団体インタビュー(パイロットスタディ)結果(スチューデント・サポート・フェイス)

の子であっても、支援をしていく中で状態が改善し、小集団や集団活動につなげる。そのプロセスの中で、様々な関係機関や専門家の支援サービスを導入している。入り口は多様であるため、学習面に限らず、本人がどのような経緯で孤立状態になったかによってアプローチの仕方を変えるようにしている。不登校のこどもに対する対策としては家庭教師方式のアウトリーチをする場合も少なくない。

5 限られたリソースの中で優先的に行うべき支援

- ・ 年間で 81,000 件の相談が来るため、優先順位を決めて支援を組み立てている。我々の団体には全体で 250 人が所属しており、大学生や社会人が研修を経て常勤職員になっている。基本的に 80 数名いる有給職員で経験を積んだメンバーは専門性が求められる重篤な状況の家族の支援に集中してもらい、有償・無償ボランティアはこども食堂等に参加し、居場所づくり等のケアの一部を担っている。この点、行政等の時給単価が高い人が調理支援をすることは効率的ではなく、当団体の研修制度を受講する大学生に従事してもらう方が、そこでの経験を次のキャリアに活かすなど、戦略的な人材育成にもつなげることができてよいと思う。
- ・ 我々はこの取組を平成 15 年から展開しているが、ここに様々な地域の人に関わっており、地域の社会資源を開発している。例えば、冒頭で触れた若者の味方隊という就労支援に関する取組では、働くことについてこどもが気軽に相談ができる。一般社団法人こども宅食応援団からアドバイザー契約のお話をいただき、協働でこども宅食も実施している。食料支援をするプロセスで、こどもや家族との関係性を作り、支援の導入を図っている。最近赤ちゃん宅食を始めており、見守りが必要な段階の特定妊婦等に定期的におむつ等を届けるという支援もしている。その中で関係性を作り、親に対して支援を導入している。このようにリソースを開発し、広げていくという事も行っている。一つの団体ではできることは限られているため、少しずつネットワークを広げていく中で、地域全体で当事者に支援をできる人が充実していくことが大切だと思う。

6 支援対象者を増やすためのポイント

- ・ あそこに行けば何とかかなるというイメージがなければ頼らないと思う。専門分化した行政の窓口になぜ結びつかないのかということを考えないと、民間が同じことをしても意味がない。実際、専門性に基じたアウトリーチでこども本人と家族を同時並行的に支援する手法は、問題解決の能力が高いということは口コミで広がる。それを聞いて、相談してみようという保護者も出てくる。また、関係機関から情報を寄せていただくこともあり、当事者が必要とするニーズに対して、多くの情報の中から必要な情報を絞って届けるということも大事だと思う。また、学校がポイントでもある。義務教育はすべてのこどもたちが唯一通る道である。学校からの相談が一番多く、先生もなんとなく気になっているという家庭は多くあるが、今は学校が担う社会的役割も増えている

2. 支援団体インタビュー(パイロットスタディ)結果(スチューデント・サポート・フェイス)

ため、手が回らない。いじめや虐待が過去最多の状況であるため、YC に優先的に力を入れることができる状態ではない。そのため、先生の負担を減らしながら、情報提供をいただいて、我々が可能な限り動くというアプローチをしており、先生からの評判も良い。前述の教育委員会からの委託事業に関しては、申請書や報告書等のやり取りも可能な限り先生方の負担が小さくなるように配慮している。公立学校と我々の NPO との間では委託契約に基づく集団守秘義務が適用されるため、比較的簡易な方法で情報共有できるが、他機関との連携の際には、個人情報の取扱いに関する問題は必ず出てくる。それに対して、我々は受託運営する様々な行政サービスに対して、一括同意方式の手続きを行っている。17 事業各々で必要な利用申込書や個人情報の取扱いに関する同意書について、1 枚の利用申込書兼個人情報の取扱いに関する同意書にまとめている。通常、行政の窓口ではサービスの数だけ書類が必要になるが、それは両者にとって負担でしかなく、窓口から遠ざかせることにつながると思う。参議院厚生労働委員会でも取り上げられたが、当団体は、国、県、市のすべての委託主と交渉して、佐賀一括同意方式を開発し、1 枚の紙で一括同意が取れるようにした。一方で、当事者が必要のないサービスをチェックボックスで削っていくだけで完了するため負担が大幅に減る。守秘義務という法的な枠組みがあるため、安心感があるという事も大事だが、一括同意方式のように、当事者の手続き負担をいかに減らせるかという事も大切なポイントである。

7 支援を卒業する際のポイント(ヤングケアラー本人や家族の納得感を得るための工夫等)

- ・ 我々が持っている情報には、行政が持っていないものが相当数ある。当事者と信頼関係を築き、継続的に家庭の中に入っていくことで初めて虐待や DV 等の家族問題が判明することもある。こども本人の支援について、社会参加・自立までのプロセスでは多くの人たちと関わる可能性がある。その過程の中で、我々の役割は伴走者であることである。本人の過去の経緯やその時々々の状態、環境の状況を把握し、支援を最適化するという役割を担っている。そのためには関係作りが大事であり、入り口は緻密に準備している。ひきこもり状態にある不登校児童生徒の場合、最初は抵抗感の少ない家庭教師から入り、個別対応から小集団、集団活動へと段階的に移行していくようにしている。学校生活の途絶で逸失した経験を取り戻すプロセスがないと、心のカウンセリングをただだけでは学校復帰や進学に至るのは難しい場合も少なくない。その他の家族のケアについても必要に応じてそれぞれに伴走者をつける必要がある。親としては、知られたくない情報を暴露されると、場合によっては捕まってしまうのではないかと考える。そのため、最初は家庭教師としての役割に限定しつつ、親と関係性を作り、親に病識がなければ、研修会を通じた心理教育からその治療、家族の対立があるのであれば第三者性を生かした仲裁による対立の解消、多重債務者であれば債務整理、介護が必要なのであれば該当するサービスの提供と必要な手立てを関係性の構築を前提に講じている。また、性

2. 支援団体インタビュー(パイロットスタディ)結果(スチューデント・サポート・フェイス)

的虐待への対処や離婚調停、就職支援、反社会的勢力からの脱却というプロセスも支えることもある。家族全体の状態が良くなるよう関係機関等とのネットワークを活かすことで多面的にアプローチしている。その際に足りない社会資源は、協働で開発しながら発展的に取組を推進している。

- ・ 卒業のポイントとしては、昔ながらの地域のように、本人が周りの人に助けてといえる状況を作り、様々なつながりの中でその家族を支えられるという状況を整えるということだと思う。孤立している当事者の場合、個別対応から小集団、集団活動へと段階的に移行する過程で様々な人や制度とのつながりを作り、再び孤立することを防ぐ必要がある。
- ・ 家族が抱える複合的な課題に対しては、多面的アプローチをした方が、結果的には早く解決すると考えている。現状の公的支援の窓口のサービスは、当該窓口が担う専門サービスに特化してこども本人のみ支援をしている場合があるが、家族が抱える根本的な課題の解消には踏み込まないため、解決に至らないこともある。こどもの支援に相当な社会的コストをかけながらも、結果が伴わないという事になる。
- ・ アウトリーチのフィールドを活用した人材育成システムの運用も行っている。アウトリーチの対象者の実態調査によると、対象者の 63.1%は過去に複数の公的支援の利用を経験しているものの、改善に至っていない。支援領域の課題が集積したフィールドでのソーシャルワーク活動は、これから専門職として資格取得を目指す大学生たちにとっても学びが深い。深刻な課題を抱える家族に対しては、様々な専門知識を持っているベテランチームが動き、大学生たちは、人材育成という枠組みを活用しながら多くの家庭やこどもたちに関わることができる。この枠組みが効果的に機能していると思う。また、支援をしていた家庭の元当事者が支援者に回るという事もある。専門職だけが支援を担っているわけではなく、地域のより多くの人々が支援に参画できるようにしていることも大きいと思う。

8 地方自治体との連携を円滑化するためのポイント

- ・ 行政相手の場合は、PDCA サイクルを回すことを意識しながら行っている。特に行政に対しては、批判的なアプローチをせずに、具体的な代替案を出すようにしている。西鉄バスジャック事件があった時代には、行政や病院の窓口担当者等に批判が集中し袋叩きにあい、官民の間に溝が広がり、閉鎖的になってしまったことがあった。そもそも予算や人員も含め制度上の課題にも関わらず、代替案もなく実践も伴わない批判がより困難な状況を生む悪循環に陥っていることに気づいた。そこで、官民、互いに限界を認め合い、補い合うだけでなく、足りないもの、必要なものは、協働で創り出すことを呼びかけた。まずは学校に目を向けて家庭教師のアウトリーチを行った。その際には、必ず担任の先生に連絡し、挨拶をした。先生たちも認識した状態で、支援に結果が伴えば、先生たちの信頼を得ることができる。それが事業化されて、家庭教師方式のアウトリー

2. 支援団体インタビュー(パイロットスタディ)結果(スチューデント・サポート・フェイス)

チは平成 18 年に学校の出席扱いとなり、全国初の IT 活用支援事業の受託につながった。スタッフも徐々にボランティアから常勤化され、義務教育段階から高校卒業まで支援を行うことができるようになり、すべての公立学校、小中高約 300 校を網羅する全国初の包括的な訪問支援に発展を遂げている。このような取組の際にも、多角的に分析をし、双方で事業評価をする仕組みが必要である。不登校関連の事業評価は、我々が独自に開発した多軸評価アセスメント指標 Five Different Positions や教育委員会側が策定する 13 段階の評価等を用いて多角的に検証している。学校と教育委員会、我々が客観的に評価をし検証を伴いながら段階的に事業を発展させている。

- ・ 特に YC の場合、長期的な支援となることが多いため、評価の段階を細かく設定しないと、事業の効果が見えず、すぐに取りやめとなってしまうことが懸念される。家族の中でどのような細かい変化が生まれているかという事を探り、検証できる仕組みを設けることは重要だと思う。
- ・ また、連携の負担をいかに減らすかということも大事である。我々は就労支援に関して国、県と三者協定を結んでおり、国と県の施設が入っている同じ建物に我々も入り、1 回の手続きで双方の支援を受けることができるようにした。行政サービスを受ける際には、様々な書類があるが、一括同意方式という代替案を出し、成功した。1 枚の利用申込書兼同意書ですべてを兼ねており、それにより負担が少なくなり、当事者も相談しやすくなった。一つ一つは小さな総合相談窓口でも集約化すれば、スケールメリットが生まれ多職種のチームが常駐する窓口となり、解決能力、支援能力も高くなる。その上でアウトリーチを伴う支援実践を行いつつ、PDCA を回すことで、自治体レベルで協働事業が創設され、結果として義務教育段階から就労段階まで伴走型の支援が展開できる、総合的な自立支援体制が構築された。財政にも 3 年間で 9 億 5 千万以上の税収効果をもたらしたとの試算も出ている。
- ・ また、行政だけではなく民間の努力も大事だと思う。我々は各種法定協議会等の共通の構成機関として参画しており、社会的孤立という共通する課題で合同での研修会を企画し運営している。我々が主催をする際には、課題を課題のまま終わらせないという方針を持っている。例えば、こどもの貧困問題というテーマで行った際には、行動宣言を出し、実行した。具体的には、佐賀未来創造基金を巻き込み、どんな境遇のこどもも見捨てないという想いのもと、さが・こども未来応援プロジェクトを立ち上げた。ふるさと納税の仕組みを活用して、基金を集め、こども食堂等民間の団体や学生団体、学習支援団体に対してつぶれないように資金提供を行っている。行政の奨学金サービスでは対応が難しいケースについては、企業から協力金を得て、独自の奨学金制度を作っている。佐賀は車がないと生活できないが、生活保護に入ってしまうと車を持つことができない。カーシェアリング協会等と協定を結ぶことで、困窮からの脱却を車の貸出を伴う生活困窮者支援を行っている。フードバンクも複数立ち上がったため、それをまとめる協議会の立ち上げも行った。商店街とも連携し、マルシェプログラムを実施し、その

2. 支援団体インタビュー(パイロットスタディ)結果(スチューデント・サポート・フェイス)

過程で様々な仕事を創り出し、YC の子どもたちだけでなく、親の支援にもつなげている。広告代理店とは当事者が考案しデザインしたお土産を商品化する形で地域の観光業の支援を行っている。他にも、子ども宅食応援団との連携によるアウトリーチ、弁護士会有志と子どもシェルターも作った。

- ・ 我々の団体の運営資金については、2億5千万程度で行政の委託事業が9割近くを占めている。地域のNPOでは財政面、人員面でも大きい団体である。だからこそ、地域の他の支援団体は別の形で支援しないといけないと思い、基金を立ち上げた。
- ・ 家庭教師として子どもとの接点を作るために訪問し、関係性を作っていくという話をしたが、これはNPO本体の事業であり、赤字事業である。我々は家庭の経済状況によらず、無償でも訪問する。そのうえで、行政の事業を活用しながら支援を行っている。
- ・ 課題を課題のまま放置せず、協働する中で新たな社会資源の開発を行い、支援メニューを増やしていくことも重要であり、ケアを受ける子や家族を支えることを通じて、地域全体を良くしていくという循環が必要だと思う。垣根を越えて当事者を支える仕組みができると良いと思う。
- ・ このように、行政が提供できないサービスを提供できれば、その必要性から行政との関係、連携が深くなると思う。

9 その他

- ・ 小学校低学年の子どもに対するアンケートについては、支援機関との関係性ができていれば可能だと思う。ただし、実際に小学生の子どもたちにアンケートをする際には心のケアも一緒にしなければいけないと思う。自分が恵まれていないという事を気づかせて、実際の支援は受けられないとなると苦しみを抱えさせることになると思う。支援とセットにして実施したほうが良いと思う。関係性ができている人であれば、アンケートの実施の機会を生かして関係性をさらに深めることもできると思う。

以上

2. 支援団体インタビュー（パイロットスタディ）結果（Omoshiro）

2-1-(2) 一般社団法人 Omoshiro (インタビュー実施日：令和5年8月3日（木）)

0 組織の概要

- ・ 私自身はケアマネジャーであり、精神障害、知的障害、身体障害の方へのケアマネジメントを行っている。その中でも、精神保健福祉士として、精神疾患を抱えている母親に会うことが多い。
- ・ ひとり親家庭で、母親が精神疾患を抱えている場合、母親にも支援チームはあり、子どもにも学校や支援チームはあるため、YC の子どもたちが誰からも知られていないというわけではない。なんとなく気づいていたり、大丈夫かなと思っている人たちはおり、それぞれのチームはあるが、実際は親子の暮らしは分からず孤立している場合がある。また、子どもと母親は、支援の根拠になる法制度などが異なるため、窓口や利用可能なサービス等も異なる。我々は母親の支援に入っているが、子どもの方では学校の先生が担当している場合があり、学校でどのような話し合いをしているのか、どのような支援を考えているのかという声やプロセスは我々には共有されない。つまり、それぞれの暮らしは理解していても、親子の暮らしは分からない状態である。子どもと窓口が異なるため、母親は様々なところに相談をしないとサポートが入らず、何度も同じ話をしなければいけなくなっている。例えば、お金については生活保護、病院のことは病院の医師に相談することになる。窓口でも母親に対して困っていることはないかを聞くが、相談内容は切り取られてしまい、それぞれの役割に割り振られている。これが縦割りといわれる制度である。縦割りによって専門性が広がったことは事実であるため、必ずしも悪いことではないと思う。必要な支援がある時には、その支援が届くという仕組みにはなっているが、役割が明確になったため、母親は何度も同じ話をしなければならないという事が起きている。
- ・ このような背景から、我々は令和3年にケアマネジャーの事業所を立ち上げ、親子まるっと支援をする事業を始めた。母親たちに会い、ヘルパー、訪問医療サービス、学校関係者との連絡をすべて行っている。立ち上げからの最初の1年は、周囲から、良いことやっているねという声をいただくだけであったが、段々と学校側も協力してくれるようになった。例えば、水泳の授業においては、子どもが元気でプールの道具を持ってきたとしても、承諾書がないと先生は子どもをプールに入れてあげることができない。ご家庭には何度も手紙を出しているが書類を提出いただけないという時に、我々が母親にサインをもらい、代わりに学校に提出するということをしている。これはケアマネジャーのモニタリングの一環で行っているため特別に行っているわけではないが、水泳の承諾書を届けることで、子どもはプールに入ることができる。このような取組をしているうちに、学校のケース会議に呼んでもらえるようになった。また、直接先生から打診されることもあり、この1年で、先生たちと顔の見える関係ができた。

2. 支援団体インタビュー（パイロットスタディ）結果（Omoshiro）

- ・ 親子それぞれの制度、窓口、役割が異なっているが、私たちはそれを一緒に対応している。例えば、家事支援で、ヘルパーが1時間掃除や調理の支援をする場合があるが、夏休み期間であれば子どもが家にいるため、いくら掃除をしても部屋が片付かない。そのため、掃除は不要で、それよりも三食の献立作りや買い物のリストの作成、お昼ごはんの焼きそばを作ってほしいという要望がある。このような場合、夏休みの間だけ支援の内容を変えている。我々は親子の暮らしが見えており、子どもが何年生でどれくらい焼きそばを食べるのかを把握しているため、ヘルパーの方にも焼きそばをフライパンいっぱい作ってほしいというリクエストを出せる。私の経験の中で、ヘルパーの方のところに行くと、フライパンの中に大きいハンバーグ2つと小さいハンバーグを2つ作っていたことがあった。その家はひとり親家庭で子どもとの2人暮らしであったため、小さいハンバーグはオーダーしていなかったが、親子の暮らしが見えているヘルパーが、翌日のお弁当用として作ってくれていた。ヘルパーにとっては大きいハンバーグ2個にプラスで小さいハンバーグ2個を作ることは大変なことではないとのことであった。それぞれの親子の暮らしを見て、ヘルパーの入れ方など、親子の暮らしに合わせたケアマネジメントをする必要があると思う。制度は多くあるが、それを入れるだけでなく、様々なサービスがつながり、連携していくことが大事だと思う。
- ・ 親子まるっと伴走支援を行う上で、親子それぞれが自分の気持ちを伝えあえるようにすることが重要だと考えている。最初は我々のような支援者が代弁者ではあるが、最終的には、子どもが進路を決める時期になった際に、自分が何になりたいのか、家を出たいのか、アルバイトをしたいのか等、自分の考えを母親に伝えられるようになれば良いと思う。そして、それを母親が応援できるようにしたいと思う。そのため、親子まるっと伴走支援では、親子それぞれ伝える、伝わる練習をするという事を大事にしている。
- ・ 当団体はケアマネジャーの事業所であるため、ケアを必要としている母親が入り口となっており、子どもから入っているわけではない。母親から入ることで、そこで暮らす子どもたちを居場所につないでいる。その居場所につなぐことで、子どもは母親以外の大人と出会い伝える伝わる練習をしている。その居場所にいる子どもたちは我々ケアマネジャーが関わっている家庭のため、同じピアである。実は子どもたちは流行っている事や様々な言葉を知っている。例えばいじめの話をする際に、「もやもや言葉」という言葉を使い、大人はオブラートに包んで話すが、子どもは「死ぬ」「消えろ」という言葉を知っている。子どもたちは分かっているため、オブラートに包む必要はないと思う。例えば、「死ぬ」という言葉を使っていたら、それはどのような意味か本当に伝えたいことは何かという事を聞くようにしている。
- ・ 子どもたちに出会い、サポートを届けるための入り口が母親という事は他とは違うところだと思う。ケアマネジャーの事業は今ある既存のサービスを使っているため、我々の事業所でできることには限りがある。例えば、契約数に上限があったり、我々の事業所は横浜にあるため、北海道に支援を届けることはできないという事である。ただし、

2. 支援団体インタビュー（パイロットスタディ）結果（Omoshiro）

ケアマネジャーの事業所は全国にあり、全国にソーシャルワーカーがいるため、研修をしながらソーシャルワーカーを育て、一緒に親子まるっと支援をしてくれる仲間を育てるという事業もしている。神奈川県精神保健福祉協会の中には小さなグループができており、YC のことも含めて親子まるっと支援の考え方を大事にしたいという話が出ている。ソーシャルワーカーの中で話が出るのは、こどもたちが助けてと言える力をつけてほしいという事である。家族の話をして、誰も笑わずに向き合ってくれる環境を作りたいという話を皆でしている。YC だけでなく、いじめ、貧困、外国人ルーツの問題を抱えているこどもがいるが、すべてに通じると思う。

- ・ その他の事業としては、研修講師や調査の協力をし、行政や企業の方に YC に対してどのような応援ができるのか、こどもたちの早い成長スピードに合わせて何ができるのかということを考えてもらう事業をしている。また、地域連携も兼ねて、SNS でファン作りをしている。応援の仕方が分からないから応援ができないという場合も多くあるため、応援してほしい形を発信している。当団体では、親子まるっと伴走支援、居場所事業、母親への既存のサービスを使ったケアマネジャー事業をしている。
- ・ こどもの居場所事業は自主事業として行っており、研修等でいただくお金を活用している。今後、YC の事業として打ち出していきたいという思いがあり、応援してもらえるようにするための仕組みを考えている。YC のための特別な居場所ではなく、こどもがこどもらしく過ごせるような居場所にしたい。そこにケアが必要な家族と暮らしているこどもたちも来て、大人と出会って楽しく過ごせる居場所にしたい。これをビジネスとしてどのように機能させるのかという事に悩んでいる。単年度の助成金をいただいたこともあるが、年齢の制限や置かれている環境に制限をしたくない。YC を特別視せず、そこに当たり前にある場所にしないといけないと思っている。
- ・ 少子高齢化や核家族化でケアは誰しものが担う時代になっていると思う。ひとり親の世帯では、母親に何かあればケアを担うのはこどもである。そのような状況になった際に、ケアはネガティブなものではなく、人、場所、制度とつながれるチャンスになる。ケアが必要な家族と暮らしているこどもたちにその時の成長度合いに応じた必要なサービスが入り、こどもたちが大事な家族を悪者にせず話せる環境を現在作っている。これに行政のサポートが入るとありがたいと考えている。

1 こどもの年齢や発達に応じて支援におけるポイント

- ・ いつ誰が何をするのかという事だと思う。この年齢だからこれが必要という事ではなく、ケアが違っていけばグラデーションも変わると思う。対象がきょうだい、祖父、母親でも変わる。何が重要かという事よりもその子にとっていつどこで誰が何をすることが大事なのかを考えることが大切だと思う。例えば、個別に対応したほうが良い場合もあれば、同じ経験をした仲間との何気ない会話の中で本音が聞けたり、お互いに有益な情報交換につながる場合もある。こどもたちからどのタイミングでそういった話を引

2. 支援団体インタビュー（パイロットスタディ）結果（Omoshiro）

き出せるのかが分からないため、いつどこで誰が何をするのが大事だと思う。その際、我々は母親の暮らしの背景を把握している。その時の母親がどのような状況で、何に困っているのかをケアマネジャーは把握しているため、居場所事業でもそれが情報として入っている上で、子どもたちと向き合っているのがポイントだと思う。何歳に何が必要か、小学生に何が必要かという事よりも、その親子の暮らしが分かっている上で、居場所の中で話した方が良く、個別に場所を変えて話をしてメモを残した方が良く、区役所に連携したほうが良いという事を状況に合わせて対応している。母親の暮らしが分からないとできないことだと思う。

- ・ 何歳であっても困っていることが言えれば良いと思う。若者であっても、困っていることが小学校3年生と同じ内容でも良いと思う。困っていることをちゃんと困らせてあげることが支援のポイントだと思う。「大丈夫」で片づけず、困っていることに共感し、応援することが大事だと思う。それができれば、どの年齢であっても困っていることがあれば相談してくれると思う。その支援をすればよいため、シンプルな構図になると思う。それが大事だと思う。年齢や学齢期で分けると、専門性や元々あるリソースを使うということもあると思うが、成長段階にはグラデーションがあると思う。母親や大人たちは、困っていることを言えず、「大丈夫です」と言ってしまうことも少なくないが、どの年齢であっても困っていることは言っていると思う。YCだけでなく大人も子どもも全員困っている事を言えなければいけないというマインドになってほしいと思う。親が脳梗塞で倒れるというのは、どの子どもでも経験する可能性があり、その際はケアを担う必要が生じ得る。自分でお弁当作りや洗濯をしなければならず、その状況について話せる社会にしなければいけないと思う。大人が先行して、そのような空気やマインドを作らなければならないと思う。

2 こどもが担うケアの内容に応じた支援におけるポイント

- ・ 当法人が行っている親への支援については、家族からの理解がある状態でスタートしている。誰かに支援してもらいたいという事がスタートのため、母親はどのように助けてもらいたいのかを発信する練習が必要である。買い物の時間や場所などにこだわりがある場合もあるが、それも母親の大事な気持ちであり、それを伝えるように話さないと伝わらないため、練習が必要な場合もある。
- ・ こどもの中にも、定期的にスーパーへ買い物に行く必要がある子もいる。買い物では好きな食材を買うことができるため嫌ではないが、今日は嫌や、今は嫌、という時がある。ただし、自分が嫌だというと、母親が困るという構図が家の中でできていると、大事な母親を困らせないように、嫌と言う事をやめようと折り合いをつけ、それが段々と当たり前になっていく。その状態のこどもに対して、買い物が大変ではないかと支援者が聞いても、大丈夫と言われてしまう。鬱々とした気持ちの子もいるかもしれないが、母親を大切にしたい気持ちの子もいるという事がポイントだと思う。こどもがケアを担う内

2. 支援団体インタビュー（パイロットスタディ）結果（Omoshiro）

容に応じた支援は、その子が話したいと思う事や大切な家族を悪者にせず、語れる状況を作ることである。そのような関係を作ることで支援に入ることができる。先ほどのような家庭の場合は、2週間に1回はヘルパーを入れ、スーパーに行ってもらえると、最悪子どもが行かなくても大丈夫な状況にできる。一方で、スーパーに行った際には自分のジュース等、好きなものを買うことができるため、スーパーに行くという役割を残しておく、こどもの気持ちにも寄り添える場合もある。実際にこどもの声を聞き、暮らしを理解し、匙加減で支援内容を決めている。それが分かれば支援はスムーズに入り、ヘルパーをずっと使ってもらえる。

- ・ 支援の対象となる家族構成としてはひとり親世帯が多い。3世帯同居家族は減ってきていると思う。両親と子どもというパターンでは、両親はいるがきょうだいが多い場合、親のどちらかが外国籍の場合、生活保護世帯が7、8割である。我々は、母親から入ることが多いが、認知症や難病を患っている65歳以上の祖父母がいる場合には、介護のケアマネジャーにも入ってもらっている。また、世帯の中に自閉症や知的障害の子どもがいる場合には、障害児のケアマネジャーにも入ってもらっている。一つの家庭にケアマネジャーが2人いる場合もある。

3 効果的な支援を行うための支援順序におけるポイント

- ・ 我々は母親への支援が入り口であり、そこでこどものケアを見るということをしている。母親は子どもたちのためになることが大事だと考えている事が多い。そのため、ごはんや買い物、洗濯等、子どもたちに関わるようなことをお願いされる事が多く、自分の病院に付き添ってほしいという事はあまり聞かない。母親も子どもを大事にしており、こどもの暮らしを守りたいと思っているのである。ケアマネジャーもこうした母親の考えに沿ってサービスを入れている。
- ・ 家庭へ支援を入れる際には、ヘルパーが来ることを子どもたちにも説明しており、食べたいものをリクエストして良いという事を伝えている。子どもたちはなぜヘルパーが来ているのかを理解していないが、手伝いに来てくれているという事は分かっている。助けてもらっているという事は理解しているため、助けてほしいと言える子になると思う。子どもが入り口になると、子どもがおかれている状況を解決するという思考になりがちで、母親に問題があるという事になってしまう。その場合、母親はそのために来る人とは話したくないと思う。母親が支援を拒む理由を考えなければいけないと思う。母親が悪者にならないように気をつける必要がある。母親のことも大事にしつつ、子どもも一緒にやろうとなれば支援に入れると思う。入り口を間違えることで、リソースが一つも使えない、支援を届けられないという事が起こると思う。
- ・ 母親を巻き込んでその子どもを見る仕組みづくりが大切だと思う。大好きな母親が子どものために支援を入れようとしてすることは、子どもからしたら嬉しいことであるため、子どもにも受け入れられやすい。

2. 支援団体インタビュー（パイロットスタディ）結果（Omoshiro）

4 限られたリソースの中で優先的に行うべき支援

- ・ 財源が十分でない場合は、今あるものを使うことが大切だと思う。ケアマネジャーや、徒歩圏内にある学校等のリソースを利用することが大切だと思う。ケアマネジャーはその地域に何があるのかを把握している。ケアマネジャーはそのこどもの暮らしの周りに何があるのか、ケアの内容、その暮らしを知っており、うまく活用すると良いと思う。新しいものよりも、既存のものにあやかるのが良いと思う。あつという間にこどもは大きくなってしまいうため、少しずつ支援を届けていくのが良いと思う。

5 支援対象者を増やすためのポイント

- ・ こどもと大人への支援を両軸で走らせることが大切だと思う。こどもには助けてと言って良い、大切な家族のことを話して良いという教育やマインドを育てることが大切だと思う。こども自身のケアが大事であること、自分で自分のことを守る力をつけるための練習が必要であることを伝えている。
- ・ 助けてと言って良いという事を体感できるチャンスを作ることが大事だと思う。例えば、出産時は、母子手帳を貰ったり、助産師が訪問に行くなど、必ず行政と関わると思う。我々が支援で関わる方には、必要な時に行政に助けを求められるよう、練習してもらっている。妊婦の時に助けが求められるようになれば、育児で苦しい場面にあった時に役所に相談に行ける。助産師の目的はこどもの成長を見ることだが、困った時に出会える人間がいるということを実感できる練習になっていると思う。
- ・ 我々は困りきっている人たちを対象に支援をしており、支援を拒むという人はあまりいない。そういった人たちはコミュニティにつながっていること、近所に話せる人がいることが大切だと思う。しかるべき時に我々につながるという事ができれば良いと思う。すべて我々が担うのではなく、協力し合いながら支援をしていきたいと思う。その時の自分の状態に合わせて、自分で選び、そこに所属し、辞めていいと思える時にはいつでも辞めることができるという仕組みがあると良いと思う。

6 支援を卒業する際のポイント（ヤングケアラー本人や家族の納得感を得るための工夫等）

- ・ ケア対象者が亡くなるまでケアは終わらないため、ケアがなくなる時が支援の終了ではない。自分の人生の舵を自分で取っている感覚をその人が持てたら終わりだ良いと思う。自分でヘルパーや区役所に相談できれば、終わりで大丈夫だと思う。自分で SOS を発信できるような力をつけ、自分でその感覚を持てていけば良いと思う。

7 地方自治体との連携を円滑化するためのポイント

- ・ ケアマネジャーは個人情報の壁を越えることができる。行政、医療機関、教育との連携

2. 支援団体インタビュー（パイロットスタディ）結果（Omoshiro）

を考えた際に、我々がケアマネジャーを選んだ大きな理由の一つである。ケアマネジャーは契約を結んでいるため、関係者と情報提供をし合うことができ、教育関係についてもケアマネジャーという立ち位置によって必要な範囲で情報共有ができるのである。個人情報の取扱いという事を考える必要があり、どのように突破するかが大切だと思う。個人情報の壁が一番大きく、行政にとっても難しいと思う。例えば、YCCを置いても、個人情報の壁を越えられる仕組みになっているかが重要なポイントだと思う。もしなっていないければ誰もその人に情報は渡さないと思う。

- ・ コラボレーションの際のポイントについては、こどもたちに支援をどのように届けるのかというのが一番大事だと思う。我々は行政の取組を中心に行っているが、こどもたちが会える大人には、様々な人がいた方が面白いと思っている。企業も大人も、我々が行っているような取組を、どのように応援すればよいか分からないという場合もあるが、こどもたちの居場所で一緒に遊ぶことはできると思う。例えば、芋ほり体験を実施し、ボランティアや見学の方が来てくれることによって、自分ができることを考えるきっかけになれば良いと思う。月に1回イベントを行い、様々な人に来てもらえる仕組みにしている。こどもたちと大人で楽しいことをして、その後にそれが共通の話題として会話につながり、信頼関係を作れると良いと思う。見学に来られる方は、こども関係の仕事をしている方が多く、権利擁護をしている弁護士、市議、行政、近所の方等、様々な人が来る。

以上

2. 支援団体インタビュー結果（こどもソーシャルワークセンター）

2-2-(1) 特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター

（インタビュー実施日：令和6年1月25日（木））

0 組織の概要

- ・ 当団体はYCの専門ではないが、しんどさを抱えるこども若者の支援を行っている。当団体の支援を利用するこども若者のうち、YCの割合は高い。
- ・ 小中学生が当団体につながる際は、市と県の2つの紹介ルートがある。
- ・ 当団体ではトワイライトステイと呼ばれる夜（17～21時）の居場所を提供し、サポートしている。長期休みになると、ショートステイなどの宿泊等プログラムも提供している。これは、大津市からの補助を受けて行政と連携して行っているものであり、市から事情のあるこどもたちが紹介されてくる。
- ・ また、昨年度から滋賀県のYC支援体制強化事業を受けるようになり、そこからのルートで紹介される場合は、配食を行ったり、家から離れてこどもらしい楽しい時間を体験できるような体験活動（水族館に行く等）を月一回提供している。主にSSWからの要望を受けて紹介される。
- ・ 高校生の利用者の中には、小中学生の頃から通っている子が一定数いる。また、若者に対しては若者向けの居場所やシェルターでサポートすることもある。さらに、ネット上での夜回り活動を通じてつながることもある。小中学生では、自分から飛び込んでくることはないが、高校生世代くらいになると、自分たちでSNSで情報を得たり、友達から話を聞いて来ることもある。
- ・ 滋賀県のYC支援事業では、ピアサポーターという枠組みの中で合宿をしている。ボランティアとして活動に参加したいという人たちの中には、YCの自覚はないが、当てはまる人たちもおり、その場合はピアサポーターとして活動に参加してもらっている。団体ができて10年程度ということもあるが、当団体の活動の参加者の年代は大体20代半ばくらいまでであり、30代はあまりいない。
- ・ 当団体にくるこども若者は虐待や貧困の家庭の子も多く、合宿を行う際は、貧困支援を行う団体や大阪のYCの支援団体の人たちに参加者募集も含め協力いただきながら進めている。一年目は特に、「子どもの貧困対策センターあすのば」に協力いただいた。
- ・ プログラム内容に関しては、意図的にYCについて話す時間を作るというより、あくまで合宿やキャンプと捉え楽しむことを前面に出している。研修的な要素も一部あるが、参加者間でプログラムの空いた時間に自然に交流が生まれて会話ができるようになる。条例を作るために勉強しようとか、YCについて語るというような活動ではなく、まずは仲間を作るために集まらないか、というアプローチである。本人たちはアドバイスやYCについて話すことは望んでいない。プログラムの中心はケアのことを一旦忘れて、楽しい時間を過ごすことである。

2. 支援団体インタビュー結果（こどもソーシャルワークセンター）

【支援のポイント(使い分け等)】

1 年齢や発達に応じた支援

- ・ 高校生に関して言うと、自分の家庭状況や精神面等、ある程度言語化している部分はあるが、現状を今すぐどうにかしようということはあまり考えていない。ボランティアの中にもYCの若者や大学生が多いが、自分の家庭の問題はありつつも、それを今すぐどうにかしようという話にはならない。ただし、それでも家に帰ったら、その家族の喧嘩の仲裁役になったり、きょうだいの面倒を見なければいけない、自分でご飯を作らなければいけない、という現状がある。そのため、その家から離れて当センターに来て、自分の時間をゆっくり過ごしてもらった方がいいのではないかと考えている。
- ・ 家から離れてもらうことは重視している。ケアラーは家から出られないと思われているが、学校や仕事へ行くなど、外に出ることはできる場合が少なくない。当団体に来ている子どもたちはせめて外にいる時はケアについて考えることなく時間を過ごしたいと思っているように感じる。家の外に出てまでYCの問題について語り合ったり、アドバイスを受けることは、望んでないのではないかと感じる。プログラムの中心は交流や楽しいことだが、ぽろっとこぼした心情を大人がキャッチしたり、お互いがピアの中で支え合っている。例えば、高校生の子が小中学生と遠出した際に、下の年代の子どもたちと話し、その話を聞いて、自分が下の歳の子たちの役に立てているということを感じられる時間にするというところが、プログラムの中心になる。一見YCに関連した活動を何もしていないように見える点は事業の難しさでもあるが、当事者に寄り添った結果、このような形になった。
- ・ 当団体の利用者はケアラーであり、かつ貧困や虐待要素が強いので、一般化しづらい部分はあると思うが、保護者も子どもも福祉サービスアレルギーがあると感じる。実際当事者は家事支援も配食もそうだが、支援をしてあげている感ができればほど拒絶されるように思う。あれば助かると思うが、子どもたちはご飯づくりや家事のサポートを入れてほしいと思っているようには感じていない。YC支援としてヘルパーが注目されたこともあり、滋賀県でも利用できるようになったら利用したいかを子どもたちにも聞かすが、使いたいという声はあまり聞かない。
- ・ 反対にヘルパーが入っている家庭に関する支援会議の場で、ヘルパー側から苦情を言われることもある。ヘルパー支援を入れているものの、すぐにキャンセルしたり、説教されるので嫌だ、などと利用を拒否されることもあるという。ヘルパーの事業側も利用者側のケアラーがわがままだと感じており、双方難しさがある。実際にかなり片付いていないような家もあるが、無理に介入し、支援をしている感が出てしまうと敬遠される傾向にある。現在行っているのは配食サービスだが、これは当事者の声を踏まえて始めた。実際に配食と言っても、支援をしている感がでてしまわないよう手作り弁当ではなく、業者の弁当の差し入れる程度に留めている。
- ・ また、家事支援について、利用側のキャンセル率が高いのは、本人の事情や、急遽家族

2. 支援団体インタビュー結果（こどもソーシャルワークセンター）

のケアが必要になることがあるためである。そもそもYCの事情として、計画を立てづらいという側面がある。一方でヘルパー側としては予約していた日にこどもが家にいない場合や今日は不要だと断られることがあると、事業として運用が難しいと思う。もちろんありがたいがられる場合もあるが、一方で面倒に感じられる場合もあり、こどもがあまりヘルパーにいい印象を持たないこともある。

- ・ 我々が行う体験プログラムもキャンセル料がかさむことがあり、12人予約があったが実際蓋をあけたら5人、ということもある。現在は県の補助金がキャンセル料も対象にしてくれているが、もし民間で事業を行うとなると、YCの専門事業は上記の理由から敬遠されるのではないかと感じる。計画を立てにくいYCの事情を踏まえたプログラムを検討する必要がある。
- ・ 家の事情で決まった時間に自分が参加できるかどうか分からないことがネックだという点は、オンラインサロンも同じなのではないか。定期的にくる子は少ないと聞くと、そのような原因があるのではないかと思う。うちは週ごとの活動なので来ないこともあるし、お互いにそれでも良いと思っている。来られない場合はリーチして、参加できる他のプログラムを勧める等もしている。例えば、ずっとトワイライトに来ていた子が来なくなった場合、泊まりなら行けるという話が出れば、本来は長期休みしかショートステイという泊まりはやってなかったが個別に対応することもある。そこでスタッフと話す機会を持つことができ、ただ楽しく過ごすだけではあるが、将来の進路や家のこと等いろいろと話すこともできる。
- ・ 既存の介護保険制度や障害支援制度、児童福祉制度へつなぐ場合はキャンセル問題を含め、臨機応変な対応が求められる。

2 ケアの内容に応じた支援（発達障害、精神障害等）

- ・ 前述したが、プログラム内でYCについて語る時間を設けるというよりは、愚痴のような形で自然に親や環境について話すことができる場を作っている。メンタルヘルスや発達障害などYCの家庭には家族の様々な課題があるが、そういう問題は学校の友達や知り合いにはなかなか話せない。こちらとしては親御さんの情報も持っているの親御さんたちも辛いだろうなとも思うが、当プログラムはケアラーたちがそういう話をするのが許される空間である。全体的に、当団体に来ている子たちは何かしらの事情を抱えた子が多い。事情は多様だが、何を話しても安心だと感じられ、話すことでホッとできる。プログラム内で設けられた語る場ではないからこそできることだと思う。普段なかなか話せない話題について話せる、心理的安全性が確保された場が提供できている点が良いと思う。
- ・ それに加えて、日常生活を体験できることがポイントである。ケアラーであるが故に、家庭と学校の行き来になってしまい一般的な家庭経験、旅行に行ったり遊びに行ったりを経験していない。そのため、当団体で誕生会や食事会等ちょっとしたイベントを開

2. 支援団体インタビュー結果（こどもソーシャルワークセンター）

催している。ケアラーの中には誕生日を祝われたことがない子も少なくない。誕生日にケーキを食べてお祝いをしたりすると、誕生日に家族でレストランに行った時のような思い出ができる。家では余裕がなくてそういうことはできないが、当団体でそういうイベントがあるとみんなと同じようにインスタに写真をあげられるような経験ができる。こどもたちがセンターに求めているのは、そのようなことだと思う。センターに来るボランティアの方には、こどもたちにわがままをさせすぎでは、と言われることもあるが、家で頑張っていて苦労している分、センターで大人に構ってもらえる時間を提供している。例えば、ジュースを取ってと言われてたら取ってあげる。大人に構ってもらうというのも家で経験できないことである。

- ・ 話をする際は、今からしゃべりましょう、とセッティングされるのではなく、自分のタイミングで話せる場があることが重要である。

3 アウトリーチの効果的な方法

- ・ 配食と送迎を行っている。滋賀県という立地もあり、送迎は基本になっている。一定の年齢になると自力で来ることができるが、（小学生～高校生世代の年齢のこどもたちには）交通費を出すことを徹底している。我々としては、家に行くことにすごくこだわっている。どのような家庭や環境に住んでいるかを見る。例えば、坂の上に住んでいて5kgのお米を小学生が買わなくてはいけない場合、月1回くらいの頻度なので送迎のタイミングで届けたりする。そうすると買い物の負担が軽減できる。送迎を通じて親に会いに行き、状況を把握する。お会いすると、手帳は持っていないが知的障害を抱えていそう、ということが分かったり、精神疾患を抱えている親御さんの顔を見て調子が悪そうだったら必要に応じて役所に訪問をお願いするなど、対応している。
- ・ 自然に配食を行うコツは、受け取る側に極力負担をかけないことである。食品は傷んでしまうので直接渡すことは必要だが、弁当に取りに来てもらったり、アンケートを取ったりすることはしない。弁当を届け、玄関先で話をする。例えば、今度動物園に行くが一緒に行かないかという誘いや、来月修学旅行で家を離れられるから楽しみだ、という話を聞くなどの軽い雑談をする。実際にお店で余っている食品をもらって渡すこともあるが、その際も、お弁当をもらえることになったので受け取ってくれたら助かります、というような姿勢を貫いている。ポイントとして、あまり受け取る側にとって圧にならないように気を付けている。

4 家族構成に応じた支援

- ・ 民間・行政の専門職同士で情報共有をしているので家族の状態は、把握はしているが、本人たちには行政から家族の構成情報を教えてもらったことは言わない。例えば、アルコール依存症の親を持つ子たちと関わることが多いのだが、親が入院することになった、というような話を聞くこともある。その場合、ケアラーに親の調子を聞いても、正

2. 支援団体インタビュー結果（こどもソーシャルワークセンター）

直に入院していると言う場合もあれば、入院していると言えずに濁されることもある。隠したい場合とそうでない場合がある。その答えが、どの程度ケアラーにとって今の状況が辛いかを測るパラメーターになる。あちらがどれだけ情報開示してくれるかによって、こちらもどの程度踏み込むかを決められる。もし入院している、と言ってくれた場合、「じゃあご飯どうしてるの、配食をしようか」という話ができる。隠している場合、隠している気持ちを大事にしながら、うまく傷つかないように、サポートを入れている。その点は、行政の持っている情報と照らし合わせながら対応できるのが民間団体に専門職を置いている当団体の強みである。行政側が民間を信じてある程度のやり取りをしてくれるからできることである。補助金の範囲内で専門職を雇うのは難しいと思うが、専門職の目線と当事者目線の両方があることが大事なのだと思う。

5 効果的な支援を行うための支援順序

- ・ 効果的な支援を行うには、入り口が重要だと思う。ケアラーとのつながり方というのは苦勞する点だが、公的なルートと、こども同士が持っているつながりを大事にしている。若者やこども同士が持っているつながりから、「知り合いで困っている子がいる」と紹介されるルートは一定数ある。あとは、自治体や行政機関から紹介してもらうしかない。例えば、九州地域など遠方から相談が来ることもあるが、どこに住んでいてどういう家庭なのかは公的機関の情報がないと分からない。インターネットがあるといってもなかなかつながれないし、特にこどもが当事者だとインターネット上のリソースを使いこなすレベルまでいくのが難しい。

6 限られたリソースの中で優先的に行うべき支援

- ・ 費用対効果は出ないかもしれないが、命や健康状態に関わるような緊急性のあるものに優先的にリソースを投入する必要があると思う。ちょっと手を入れてすぐ変わるものではないので、時間がかかるし成果も見えづらいが重要な点である。すぐ解決できるところと、重要度が高いが時間がかかるところとどちらに投入するか。見えやすい、分かりやすいストーリーに支援はいきがちだが、実際支援が届いていない層がいる。例えば、障害を持っている人や、貧困層は自分の状況を語れない。当事者がしんどさを乗り越えて頑張ったというストーリーの方が寄付は集まりやすいが、その中でまだ立ち直れないような人へは寄付がいきづらい。しんどい思いをしているこどもたちと日々関わっている団体としては、そのバランスが大事だと思う。

7 支援対象者を増やす工夫

- ・ 当センターは団体としてはもうキャパオーバーくらいの人数（平日は毎日、数人のこどもを「ほっ」とる一む、トワイライトステイでそれぞれ受け入れ、土日はeatalk（事業内容としては子ども食堂）を開き、高校生世代以上のこども若者を受け入れている。毎

2. 支援団体インタビュー結果（こどもソーシャルワークセンター）

週、延べ人数で 30 人近いこども若者がセンターに来る。加えて YC の体験活動で配食家庭のこどもやピアスタッフの若者が合わせて 10 - 15 人ほど来る）を受けており、受け入れ拡大は難しいが、人が来る仕組みができています。行政との関係性があり、こどもや若者にまた来てもらいたいと思ってもらえたり、誰か同じようにしんどい思いをしている子を連れて来たくなるような場づくりのノウハウがある。問題の性質上、オンラインでの解消が難しいことが多い。付き合いの中で見えてくるサポートの仕組みを作っていくことが重要なので、このノウハウをどう広げていくかが重要。啓発ではなく、小さな草の根活動を広げることが、一番支援が必要なケアラーのこどもたちがつながるのに最重要だと思う。SSW や訪問介護の事業所などが、実際に支援している家庭のこどもをセンターにつなげてくれるとありがたい。

- ・ 一昨年に行政が啓発ポスターや相談カードを作り、SNS での発信もしたがこどもたちからは認知されていないように感じる。また、専門職向けにケアラーを知ってもらうための研修会を県が主催で行ったが、自治体や支援団体からの紹介は 1 年間で 0 件だった。やはり人と人の繋がりが重要だと思う。実際に当団体でイベントをやった際に、自分も YC だったという方が参加し、次のイベントの際には知り合いを連れくるといってくれていた。こういった個人個人のつながりを重視しつつ、一人一人救うしかないのかなと思う。
- ・ 実際つながることができた後は個別支援に特化する必要があり、ケースワークに時間とお金に投入できると良いと思うが、福祉はそもそも人が集まらない点は課題である。

8 支援を卒業する際のポイント

- ・ 就職してもトラウマを抱えていたり、PTSD 等の精神疾患を抱えていることがあるケアラーが終わったとしても本人のしんどさは変わらず、5~10 年は引きずる。大学に入学してもケアラー人生は終わらない。家のことで大学を休学、退学することもある。
- ・ 就労面で安定して食べていけるようになったらクリアできる部分は多いと思う。やはり金銭面の安定が肝ではないか。
- ・ 基礎学力がある人たちは様々なチャンスがあるが、当団体に来る子たちの中には YC であつたために小中学校にほとんど行けていない子が一定数いる。この子たちは本当に困っていて、生活保護を若くして受けている場合も少なくない。一つ希望を抱いているのは、夜間中学校である。夜間中学校は滋賀県でも再来年度に開校するが、全国でもどんどん増えていく流れになっていて、不登校経験者や外国籍の人、学力が低い層の学び直しの機会と言われているが、ここに YC も含まれると良い。小中学校で本来学ぶべき経験をしていない子たちは、本当に困っている。その子たちがやり直しをしようと思ったら、やはり小中学校のその基礎学力であつたり、こども時代に奪われた経験を取り戻す経験をすることが重要だと思う。この夜間中学校の文脈に、うまくこの YC 問題が加わることで、ケアラーを救うチャンスが作れると思う。

2. 支援団体インタビュー結果（こどもソーシャルワークセンター）

- ・ ケアが終わった子の支援の方がしんどいと感じることがある。渦中にいる子たちは気も張っていてそれが日常なので、あまり苦ではなくなってしまう状態だが、家を離れて頑張っている、特有の難しさがある。ケア対象だったアルコール依存の親を亡くした子がいるが、その子は亡くなった後の方が大変だった。いろんな行政の手続きなどに追われている。だから YC を終えた後や、そのケアの輪から外れた子の支援の方が圧倒的にエネルギーが必要だと感じた。ケアを行っている最中はそれが日常で当たり前になりすぎていて、あまり今すぐ助けてほしいという風にはならない。離れてから、そのきつさに気づくことが多い。
- ・ オンラインサロンは、30 代や元ケアラーの人たちが盛り上がっていることが多い。小中高生は、オンラインサロンで話すというよりは本来学校に行って友達と話したい時期である。
- ・ 支援の出口は、ないと思う。ケアが終了した後の方が生きづらさが強くなっているように見受けられるため、そこへの支援ももっと重点的に考えることが必要だと思う。ケアが終了した後でも支援が必要なので、終わりはない。
- ・ 10 年来支援を続けている例もあり長期的な支援が必要であるため、当団体としては規模感は大事にしており、団体がみられる範囲のこどものみ受け入れている。基本的に、個別支援が必要な領域であるため、地域的にも広域な支援は不向きだとも感じる。
- ・ 窓口で相談した時に、解決を求めているのにカウンセリングが行われたり、逆もある。相談者のケアラーも何を求めているか分かっていない場合もある。解決のために動く相談と、話だけを聞いてもらいたい相談との切り分けを、今後考えていく必要があると感じている。

9 家族と関わる際のポイント

- ・ 家族全体を見るのは重要だが、当団体としてはこどもに主軸を置いておきたい。ご家族から相談があれば聞かすが、どちらかというと家族の相談を受ける場所は他にもあるので、そちらを緩やかに伝えていくイメージである。こどもの家族と関わることはあるし、知的障害や精神障害を抱えている、等の情報の把握はしているが直接的に支援対象ではない。そのため、ある種なんでも言える間柄になっていると思う。家族側から雑談をしてくれることもある。こちらからもサービスを紹介したり食べ物を持って行ったりしている。家族とは、こどもをベースとした関わり方になっている。例えば、訪問して玄関を開けた時に散らかっている部屋が見える時があるが、その時は父母が仕事で忙しくて掃除が間に合っていないのだな、ということを感じる。ただ、だからといって掃除ができていない点に言及するわけでもない。ひとり親家庭の支援団体は親子両方見るが、うちは YC が対象である。行政だと支援対象は親だけになることが多く、こどもは学校の担当になることが多い。そのような役割分担を意識してやり取りをする。ケアの対象ではなくて、第三者的に程よい距離感で話ができるようにしている。親が精神的

2. 支援団体インタビュー結果（こどもソーシャルワークセンター）

にシャッターを下ろしてしまうとこどもも当サービスを利用できなくなるという側面もあることは意識している。

- ・ 「YC」というアプローチで家族に関わろうとすると、拒絶されるケースも少なくないと聞く。この点、当団体はこども若者が抱える様々な課題に対応しており、虐待やひとり親家庭、発達障害や不登校など、様々な問題を抱えがちなYCに対して、親に自責の念を感じさせない、傷つけないために最も適切なアプローチは何かをよく考えるようにしている。他に大きな問題があったとしてもこの言い方だと傷つけるな、と思う場合は、不登校や勉強の支援という形で関わる。例えば、不登校という関わり方は、勉強で苦労している、等の理由で関わりやすいため、家族にとっては支援を受けるハードルを下げられる。これは当団体が支援特化していない強みだと思う。例えば、特定の層を支援する団体だとスティグマやレッテルから脱却しづらいが、そこに関しては広くやっている団体の強さがあり、実際そこを大事にしている。

【外部との関係】

10 地方自治体との連携を円滑化するためのポイント

- ・ YC が目の前にいるので、行政の仕様書通りに事業を行った場合、恐らくこうなる、ということをもっとある程度明示できているため、柔軟に予算計上できるようにしてもらっている。県の事業は補助事業なので割と融通が利く。現在は事前に必要なプログラムを提示しており、内容に関して、行政側と協議をしてすり合わせをしている。事業運営に関して一定の裁量をいただいているのがありがたい。
- ・ 参加したこどもが喜んで、また来たい、と思ってくれることが重要だと考える。数字などで成果が見せられるものしか事業化されないことに危機感を持っている。語りたいたいYCが集まるサロンだったら、人も集まり、語ったものを成果として見せやすいが、そもそも当団体に来ている子はそういうレベル感ではない。そもそも小中学校に行けていないこどもたちはアンケートに回答したり、みんなが話し合いをする場で話すことができない場合もある。オンラインサロンのような場合は、そもそも時間の約束を守ることができる子しかターゲットにならない。ヘルパーの話もそうだが、支援自体は必要ないわけではないが、時間や約束を守れることが前提になってくるため実施が難しい。会いたくないので居留守を使ったり、キャンセルしたりということも起こっており、そこにヘルパーを投入しても効果は出ないと感じる。
- ・ ケアラーの中で分断されていると感じる。声を上げて発信できるYCたちのところにお金やサービスが導入されていて、本当にしんどいケアの状態にあって、声も上げられないケアラーたちを救えるメニューがない状態である。到達目標がいるのは理屈上分かっているが、定量的に示しづらい効果も少なくなく、今回のようなこういう丁寧なヒアリングはとても重要だと考える。
- ・ 県のYC支援事業を行うようになって大きく変わっているのは、個別支援が増えてきた

2. 支援団体インタビュー結果（こどもソーシャルワークセンター）

ことである。YC の子たちや家庭に関わっていくと、サービスを一方的に提示し、参加してくれというだけでは解消しない。個々の様々な問題が出てきたらその子たちのオーダーメイドで、ステイするのか泊まりにするのか、などとやることがどんどん増えていっている。

1 1 自治体以外の他機関との連携状況及び連携を円滑化するポイント

- ・ 基本的に行政から紹介されるケースがほとんどであるため、行政のネットワーク会議に参加している。医療機関とは直接やり取りすることは無いが、ケース会議には一緒に参加している。大体のケースは児童福祉法に基づく要保護児童対策地域協議会の枠組み内ではほぼ解決しているが、問題なのは、18 歳を超えると支援がないことである。医療機関も民間なので難しい。ケアラーはこれから子ども・若者育成支援推進法の中に位置づけられていくと聞いているが、同法で作るネットワークは、ケース会議を行い実務的に進めていくところまでには至っていないように思う。こどもたちと同様に 18 歳以上のケアラーも支援する団体が集まってそれぞれ役割分担をして情報共有を行い、つながる仕組みが早く整ってほしいと思う。当団体はそのネットワークに入れてもらっているので良いが、多くの民間団体はネットワークに入っていない。より多くの民間団体が行政側のネットワークにちゃんと入っていく必要があると思う。
- ・ 当団体は、専門職を配置していることが強みだと思う。地域の団体に関しては、行政と誰かがうまくマッチングする必要があると感じる。

1 2 自治体に期待すること

- ・ 期待することとしては、補助金であり、現状は不足している。そして、オンラインサロンと相談窓口は廃止してもよいのではないかと感じる。ほかには、研修や講演をする中で他職種と名刺交換をしてもあまりつながらないためそのような交流もなかなか難しい。当団体のように、ある程度裁量権がもらえていて、自由にやらせてくれる状況が良い。また、行政と支援団体で対話をして言いたいことは言える関係があると良い。現場の支援を行うのは、時間もエネルギーも要するので、実際に目の前のこどもたちが求めていることを提供したい。

以上

2. 支援団体インタビュー結果（さっぽろ青少年女性活動協会）

2-2-(2) 一般社団法人ヤングケアラー協会

（インタビュー実施日：令和6年1月30日（木））

【支援のポイント(使い分け等)】

1 年齢や発達に応じた支援

- ・ YC 当事者へのつながり方は年代別で異なっている。小学生・中学生向けの活動としては、YCCとしてアウトリーチを重点的に行い、こどもと関わる支援者支援も行いながら、こどもたちとベストな関係性を築くことを意識している。小学生は困難を自分で訴えることが難しかったり、本人が困難な状況を自覚していないこともあるため、大人がいかに気づいて支えていくかが重要になる。中学生・高校生向けの活動としては、当協会が実施しているLINE相談窓口がある。高校生くらいになると、具体的な進路選択が必要になったり、状況を客観視し言語化できることも増える。SNSでの相談は、ケアで忙しかったり個人名を明かしたくないYCにとって相談しやすく、気軽な入り口としてのメリットが大きい。一方で、自殺示唆など緊急度が高く本人・家族に介入していく必要性を感じる場合でも、本人から個人情報を得られず自治体や警察と連携することが難しいケースも多く、歯がゆさも感じている。若者世代になると、具体的な情報収集や支援が必要と認識している人も多いため、ウェブ会議ツールや対面で話すことも多い。
- ・ すべてのYCに共通して、状況をすぐに解決することが困難な場合も多い。継続して関わられる人がいること・話せる場があることが重要だと考える。
- ・ 協会では運営しているサロンではYouTubeライブやZoomなどのオンラインと、リアルで集える居場所（ミートアップ）の二つを定期的に行っている。サロンは、オンライン・対面共に18歳～30代のケアラーの参加者の利用が多い。ケア負担が重い方や被虐待経験者もいる。若者ケアラーがこれまでの経験を棚卸・言語化して整理し、前向きな一歩を踏み出すきっかけの場として機能していると実感している。一方で、サロンはオンライン・リアル共に小学生～高校生のケアラーの居場所にはなりづらく、10代に合わせた居場所の必要性も感じている。
- ・ 他にも、オンラインコミュニティ（ヤンクルコミュニティ）を運営し、ケアラーのみが参加できるクローズドなコミュニティで自分の思いを発信できる場所をつくっている。
- ・ YCズキャリアというYC向けのキャリア相談窓口を設けており、意識している点は二つある。一点目は、窓口の入りやすさであり、LINEを利用して、求職者が相談しやすいようにしていること。二点目は、一般的なキャリア相談に加えて、求職者のケアの背景まで含めてこれまでのキャリア・人生を棚卸しすることである。本人の望む就労の形に向けて幅広いサポートを行うが、求職者と企業のマッチングサービスは行っていない。
- ・ 求職者は、大きく二つのタイプに分けられる。一つ目は、ケアを担いながらも就労できている場合。就労はできているもののケアによって日々家庭におけるケア負担は存在するため、正社員ではなくパートタイムなどでの勤務になっているケースも非常に多

2. 支援団体インタビュー結果（さっぽろ青少年女性活動協会）

く、常に現在と今後に不安を抱えているケースが多い。ケア対象者が施設に入っていたとしても、ものを届けたり、通院に付き添ったり等のケアが偶発的に必要な場合もある。二つ目のパターンは、ケア対象者の病状が悪く、離職をしているケースである。家族の福祉的な手続きまで含めた支援が必要となるなど、一般的なキャリア相談とは異なる支援が必要となる。また YC の求職者に共通して、こどもの頃からケアを行ってきたため、学校や会社で一般的な人が身につけてきた経験を積むことができていないことが多く、進学や就労に対して自信を持っていないことが多い。

2 ケアの内容に応じた支援

- ・ LINE 相談では、ケアの内容に応じて支援の方法を変えることはない。まず話を聞き、問題解決に焦らず関係構築を行なっている。本人が望むか必要であれば、それぞれに応じた福祉制度の紹介や民間団体などのつなぎを行っている。
- ・ ただし、自治体ごとにある制度とない制度が多様であり（例えば若サポなど）、また家族が精神疾患の場合は福祉制度自体が不十分ということもあり、つなぎ先の選択肢がないということもある。
- ・ ケアの内容に応じてというよりは、本人とそれぞれのご家族が必要とすることを一緒に考え探していく。家族の状況に応じて福祉サービスが使える場合はつなぐが、福祉への強い拒否感や家族の関係性などの要因から簡単に解決しないケースの方が多い。いずれにせよ個別化された支援が原則だと感じている。
- ・ YC が行っているケアは多様であり、例えば、いわゆる障害の枠には入らないが、慢性的に親が症状を抱えているためこどもが家事をしている、という場合もある。多様な課題を抱えて複雑化しているケースも多い。地域によって資源の差があるなども含めて、現行の社会制度ではカバーしきれないケースが多々ある。その場合は、いかにしてこども・若者時代を乗り越え、自分自身の選択肢を考えることができるかと協会でも日々模索している。実際に多くの場合はその都度、個別にサポートの方法を考えることがほとんどである。当協会には全国から相談が来るので、都内にある協会としてというよりは、本人たちの居住する自治体に応じて接続先を探し、連携している状況である。

3 アウトリーチの効果的な方法

- ・ アウトリーチの場所としては、学校や児童センター、フリースクールや子ども食堂、商店街などに行くことが多い。家庭へのアプローチは要対協の枠組みの中で動かないと難しい。小学生は特に、こどもだけではなく、家族にアプローチすることも大事である。学校への訪問の際は、学校から連絡があって訪問する場合と、コーディネーターから学校を訪問し、つないでもらう場合などがある。突然 YCC が入るよりも、先生や SSW や SC などこどもが信頼している大人から情報連携を受けて、関わり始めるとスムーズな介入につながるが多い。児童センターから連絡が来ることも少なくない。小学生の

2. 支援団体インタビュー結果（さっぽろ青少年女性活動協会）

場合は、品川区の事業の中でアウトリーチを行ったり、全国から LINE で相談を受けている。

- ・ アウトリーチは足を運ぶ幅が広い。関係機関への挨拶回りや定期訪問、情報提供があった団体への訪問、学校への訪問授業を行っている。挨拶回りのように、理由を設けて足を運ぶことは重要だと考えており、その中で、学校や大学、病院など、支援者として関わってくれる人や機関を増やす活動をしている。実際に訪問することで、紹介してもらえるケースもある。しかし、直接足を運んで面談する方法では、マンパワーの問題があり、コーディネーターとしての活動に限界がある。そのため、周りの支援者を巻き込むことが重要になってくる。また、学校への訪問授業も重要性が高い。YC だと声を上げる生徒がいけない場合だとしても、元当事者の我々がその存在を周知することで、当事者の相談のハードルを下げる目的もある。
- ・ 挨拶周りで言うと、区内の学校や児童センター、病院、フリースクール等様々な場所へ赴く。支援機関の発掘・つながりを作るという意味合いもある。
- ・ 団体を回るコツとしては、スケジューリングが肝になる。1年目は草の根的に幅広く訪問することが多かったが、現在は地域を決めて回っている。つながりを作って、最終的に電話でも話せる関係性を構築できればコーディネーターが現地に赴く頻度は減らしていけると感じるが、最初は会いに行き、顔が見える関係になることが大事だと考えている。
- ・ 挨拶回りに行くと、その場で団体の方が YC を繋いでくれることがある。電話だと紹介のハードルが高い。実際に、足を運んだ際に訪問先が声をかけてくれたりつなげてくれることが多い。
- ・ 実際にまだ実施はしていないが、YC が多い場所の当たりを付けることで戦略的に支援が行えると思う。例えば定時制の高校、フリースクール等の場所である。そのような戦略的な動き方は YC を発見する上で効果的だと考える。

4 家族構成に応じた支援

- ・ ひとり親は共通して忙しく、家事が大変な状況にある。きょうだいの有無によってもニーズが異なる。YC に限らずだが、父子家庭だと、娘が父親に年齢に応じた相談がしづらいという面がある。そのため、第三者も関わる事が必要だと感じている。同じ母子・父子家庭でも、祖父母やきょうだいの有無によって違うが、全体に共通して、主に家事と金銭面で生活が厳しく、今が大変なので将来（こどもの進学や就職などのライフステージ）に合わせて考えることや子ども自身へのケアが不足していると感じる。
- ・ 家族構成ではないが、金銭苦があるかないかによって選択肢の幅が狭まるため金銭的な課題も重要である。また、外国籍の親の通訳をしている家族の場合、こどもが通訳を行っているくらい両親が日本語が話せない状況のため、通訳以外にも多くの困難を抱えている。書類や窓口の手続きも頻繁に行い、多くの場合は親が孤立しているのを支え

2. 支援団体インタビュー結果（さっぽろ青少年女性活動協会）

ている。親が日本語を学べるボランティアとつながるなど、親支援も共通して重要な課題である。

5 効果的な支援を行うための支援順序

- ・ 必要な支援はたくさんあるが、心身共に健康に生きることが大事だと思う。そのためには、他者とつながることが重要だ。疲労が強かったり長期的に孤立してきた場合、人とつながりを持つこと自体のハードルが高いこともある。そういった場合は、つながりよりもっと手前の現実的で必要な支援、衣食住に安心できることが求められる。
- ・ 例えば、ニーズに合わせながら「配食サービス」など支援のハードルが低いものを活用し関係性を構築する手立てとすることも効果的であると考えている。
- ・ 深刻な状況になっていることもあるので、緊急性や個々の状況（例：高校三年生で大学受験を控えている等）によって、支援の順序・方法は変わってくる。学校と相談して進学相談をする場合や、家庭に支援が入れるように医療・福祉関係者と話すべきケース等、個々の状況に応じて対応が必要だと感じる。例えば、同じ高校三年生であっても、志望校が決まり進学の話が進んでいる場合は家庭内で担っている負担が減るよう例えば家事の支援を考えることも必要だが、そもそも進学さえもあきらめなければいけないようなケースの場合は、学校と連携して進路相談を行える場所を探す必要性がある。
- ・ どの場合も共通して、「具体的な支援につなぐ」ことを焦ってはいけない。つなぐ前に労い、一緒に考え、そのさきで具体的な支援につなげることを考えていかなければいけない。

6 限られたリソースの中で優先的に行うべき支援

- ・ 非常に限られたリソースの中では、自傷他害のリスク、虐待や暴行、幼いなどの緊急性の高い相談支援を優先的に行っている。深刻なケースの場合は、繋ぎをすることもとても重要である。当協会だけで対応できないケース（例えばいじめや不登校など他に専門機関がある場合）は他の支援機関や民間団体と連携することもある。また、YCの抱える問題は相談の場だけでは解決できない場合も多いが、息の長い支援を展開するために本人との関係性を築くことも意識しており、信頼できる大人がいる環境を作れるようにしている。本当に深刻な場合は、自治体につなぐことが大事であるが、その対応は個々の状況によって異なるので、必ずしも一般化できるようなことではない。

7 支援対象者を増やす工夫

- ・ 相談しやすい雰囲気づくりとして、LINE相談は初期の頃から、「大変だから助ける」というスタンスではなく、「家庭のことを気軽に話していいんだよ」というメッセージを伝えるようにしている。自分がこどもだった時に、支援を受けられると言われても支援を受けなかったと思う。YCが、支援を受ける「弱者」だという表現をせず、当事者が

2. 支援団体インタビュー結果（さっぽろ青少年女性活動協会）

声を上げやすい伝え方をするように注意している。

8 支援を卒業する際のポイント

- ・ 卒業を何と捉えるかは極めて難しいと思っている。ケアは長く続く場合も突然終わる場合もあるが、ケアが終わったからすべてが終わるわけではない。（ケアが終わった後の生きづらさを話す若者は多い）
- ・ 協会の目指すビジョンは「YC が自分らしく生きられる社会」であり、と広く定義している。こども若者が選択肢を多く持ち、自分が納得のいく選択をできることを目指しており、卒業を協会側からは決めてはいない。悩みがある程度解決した段階で本人から「また何かあったら相談に来る」というように「自ら卒業」していくケースはある。今現在は入り口をなるべく広くして、「YC かそうではないか分からない」方からもまずは相談も受け入れている。また相談者が必要な支援につながり相談が来なくなった後も、また期間を空けて LINE で相談が来ることもある。それ以外でも心身が健やかなタイミングでイベントに顔を出してくれることもあるので、あまり入り口や卒業を定義付けていない。
- ・ コーディネーターとして関わるケースでも、つなぎ先がなく本人と継続して関わり続けるケースが少なくない。コーディネーターのみで YC の全員と関わり続けることは難しいが、つなぎ先がない現状はそうになってしまう。YCC がすべてのケースワークに長期的に関わり続ける体制は現実的ではない。ランク付けして、緊急度が高いケースにはケースワーカーと協業し、緊急度が低いケースは地域や学校などの社会資源につなぎ、定期的な情報連携をコーディネーターが受けることで状況が急変したタイミングをキャッチできるようにする、などの体制づくりとつなぎや連携の必要性を感じている。また、現行の社会福祉の仕組みだけではカバーできないようなケースも多く、そのような場合に「こども時代を支え伴走し続ける大人」と出会えるような民間団体への繋ぎが必要だと感じている。しかし現状では若者やケアラーを対象とした民間団体はまだ少ない。日本の中でも民間の団体が増えることや地域の支援者がよりこどもに関わっていくことが重要だと思う。それができたなら、コーディネーターが面談・アセスメントをしてつなぎ役に従事することができる。

9 家族と関わる際のポイント

- ・ 重要なのは、家族の味方でもある、という姿勢を大事にすることだと考える。例え YC 本人が家族のことを悪く言っていたとしても、こちらはすべてを同調せずに受け止める姿勢が必要である。YC の味方であるためにも、家族の味方であるようにしている。今現在家族と関わるケースもあるが、「ヤングケアラー」という言葉のネガティブなイメージから家族へ話してほしくないということもや若者もいる。
- ・ 「ヤングケアラー」という言葉自体が家族を傷つけることもあるという事実はある。そ

2. 支援団体インタビュー結果（さっぽろ青少年女性活動協会）

れはメディアを通じて「こどもがかわいそう」というイメージが作られていることが大きい。YC について YC と家族の関係性はケースバイケースであるという理解を広めていくことが重要だと考える。

【外部との関係】

10 地方自治体との連携を円滑化するためのポイント

- ・ 子ども家庭支援センターに配置されている YCC については、ケースワーカーとの担当領域の切り分けや、要対協で受理するか否かも含め、体制においてあいまいな点を明確にしていくことが重要になる。改正法施行後は子若協議会との連携も明確化が必要になる。コーディネーターが関わることで支援が必要な人が可視化されるので、実際の支援を行いながら、体制面についても必要に応じて常にアップデートしていくことが大事である。
- ・ また、行政から求められていることと、団体として大事にしていることをすり合わせておくことも大事である。
- ・ LINE 相談を全国から受けているケースでは、時々支援機関につなぎの連絡を取ることもある。しかし、こどもや若者にとって有力な地域の資源や窓口は各地域によって異なっているため、いつも手探りで探している状況である。より明確化し協会としてもつながりをもっていくことが必要だと感じている。

11 地方自治体以外の他機関との連携状況及び連携を円滑化するためのポイント

- ・ YC 支援団体間で連携することが重要だと思う。現状では忙しくて十分情報交換ができていないが、YC 支援を円滑化するためには支える側のつながりが必要だと思う。
- ・ 医療機関は病気を抱える当事者と家族の介入に肝となることが多いが、現状医療機関が YC 支援に積極的なところは少ない印象。ソーシャルワーカーなどを中心に医療機関との連携を図っていくことが重要である。診療報酬の加算になっているが知らない医療者も多く、チェックの付け方が分からない方も多い。また外来や精神科では加算対象外となっていることは医療機関との連携上も大きな課題であると思う。また、こどもは学校を通じて福祉につながりやすいが、18 歳を超え、要対協の枠組みから外れた若者世代は支援先につながる事が難しい。そのため、医療や福祉に限らず、企業等の民間とも連携する必要があると思っている（就労に課題を抱えることも多いため）。若者世代の YC を支援する団体は少ないため、この世代は孤立・孤独を経験することが極めて多い。こども世代は学校があるが、若者世代はここに行けばつながれる、という場所がないので若者世代の YC は出会い方や支え方が難しい。そのため、企業が支援してくれると良い。若者世代の YC に関心のある企業と連携することが重要である。

2. 支援団体インタビュー結果（さっぽろ青少年女性活動協会）

1 2 地方自治体に期待すること

- ・ 自治体の支援内容にはばらつきがあるが、YCC の配置がそれぞれにあると良いと感じる。YC の認知が進み、こども若者が相談したいと声を上げてくれた場合に、分かりやすい窓口があることが非常に重要だからである。今まではYC が相談をするとなった際に、多重の課題がある場合は複数の窓口を回る必要があった。特にこどもにとっては、複雑な手続きは負担になる。YCC が配置されたことによって、行く窓口が分からない等の問題を防げるようになったことは大きい。
- ・ また、配食のサポートは必要だと思う。家事の中でも料理に負担を感じる学生等から相談を受けることは少なくない。どの自治体でも住む場所で変わるのではなく同様に支援を利用できると良いと思う。福祉支援も「被介護者」をメインとしたケアプランの設定が今も続いているが、ケアマネジャーがアセスメントをする際に、要介護者・要介助者だけでなく、YC も念頭に置いてケアプランを作成する、ということが当たり前になると良いと思う。
- ・ YC の家庭でより困難を抱えている家庭は複合的な問題を抱えていることが多い（ケアを必要な人が複数人いる、ケア以外の他の家族の課題が生じるなど）。家族が身体、精神、知的等、複数の異なる障害や貧困などの問題、日本語が分からないなどの課題を抱えていて、分野をまたいだ支援が必要な状況もある。そのような状況下で、横串でチームで動くコーディネーターが必要不可欠だと思い当協会でも取り組んでいる。現状、すぐに解決できるような支援が入らないことも多いが、一緒に考え動いてくれる味方が家族にできることはとても大きい。たらい回しをされてしまうケースは多いが、それが防げるようになったことは良い。
- ・ ケアマネジャーや相談支援専門員、児童相談所や子ども家庭支援センターのケースワーカー等、直接YC と家族に関わる機会のある人たちがそれぞれのケースに対して余裕を持って取り組める（ケア対象者だけでなくケアする家族も含めてしっかりアセスメントができたり、プラン作成ができること）が、結果的に支援対象者・支援者、双方の負担を軽減する。一番前線で働いているケアマネジャーやソーシャルワーカーなどの支援者が、YC への知識と余裕を持って関わることが重要だと感じている。
- ・ YC 支援は、こどもだけでなく、親への支援が圧倒的に足りないために生じている。例えば、両親の一人が病気でもう一人がフルタイムで働いていたとしても、家族が同居していると支援の対象でなくなってしまうので、訪問支援が行えないことがある。結果として、こどもがケアをやらざるを得なくなっていることもある。また、親が外国人の家庭の場合、母親が日本語を話せないと、こどもがその負担を担うことになる。その場合、その母親が働ける場所があることや、日本語を習得する場所が必要になる。現状では、そのような母親をこどもが支える形となってしまっている。そのような問題へも自治体の支援が必要だ。家族支援のニーズが非常に高い。

以上

2. 支援団体インタビュー結果（さっぽろ青少年女性活動協会）

2-2-(3) 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

（インタビュー実施日：令和6年2月7日（水））

0 組織の概要

- ・ 当協会は札幌市内の児童館や若者支援施設の受託をしている公益財団法人である。その中の受託事業として、札幌市の YC 支援体制強化事業を受託しており、当事業内で、YC の状態にある若者たちの居場所作りを実施している。居場所の参加対象は中高生を基本としているが、小学生の相談や居場所の参加を希望した場合は、状況に応じて受け入れることも視野に入れている。

【支援のポイント(使い分け等)】

1 年齢や発達に応じた支援

- ・ 年代別というよりも、本人がどうしていきたいかを把握し、一人ひとりのニーズに応じてサポートすることが最重要だと考える。
- ・ 自身の家庭環境が周りと異なることに気づく時期は、小学校高学年頃が多いという意見が多い。また、現状を自分で変えることや、家庭環境が変わることの難しさに気づき、自分たちが置かれている状況をどうすることもできないと、あきらめの感情を抱いていた中学生にも出会った。そのため、中学生には早い段階で、家族全体を丸ごと支援する形で関わるのが大切だと感じている。
- ・ 高校生も状況によっては中学生への対応と同じだが、自分の将来を具体的に考え始める年代である。そのため、本人たちが、自分の未来を考えることを意識できるようなサポートをすることが多い。
- ・ 現在、当法人が管理運営している若者支援施設や、困窮世帯の中学生を対象とした学習支援事業などを通して、YC 支援につながることもある。
- ・ 現在、当協会が取り組んでいる事業の中で、YC 支援につながる事業は大きく2つあり、一つは学習支援である。また、もう一つは、15-34 歳までを対象とした若者支援施設 (Youth+) を札幌市内で5か所運営しており、利用者がスタッフを介してつながることも多い。若者支援施設は、居場所や貸室、イベントなどを開催している。若者サポートステーションでは、キャリア相談・就労支援（キャリアのステップアップ相談）を実施している。
- ・ 居場所を訪れるのは高校生が多いが、中には家庭の事情で高校に行かなかった高校生世代の子どもたちもいる。やりたいことはあっても、先のイメージが湧いておらず一歩先に進むことが難しい場合があるため、自分がイメージする将来を一緒に考えるようにしている。
- ・ 本人の状況を踏まえ、若者支援施設の利用を促すこともある。YC の事業につながることも必ずしもゴールではないと考える。

2. 支援団体インタビュー結果（さっぽろ青少年女性活動協会）

2 ケアの内容に応じた支援

- ・ 当協会が関わるケアラーのケア対象者の状況としては、「若い」、「精神疾患」、「精神疾患、依存症以外の病気」が多い。それぞれの状況別で効果的と考える支援については、「若い」の場合には、「食糧支援（フードバンク）」、それ以外の二つの場合は「食料支援」に加え「アウトリーチ（訪問による相談支援）」とアンケート上で回答している。
- ・ 現在行っている食糧支援は、大きく分けて二つある。一つ目は、居場所に来たこどもに食料をお裾分けしているケースである。家庭の経済状況が厳しい、時間がないなどの理由から、居場所と自宅間をスタッフが送迎している。重たい荷物も持ち帰ることができる。二つ目は、外出が困難な状況である場合もあるため、物資を届けながら近況を聞きに行くケースもある。この場合、直接会って話ができるため、外に出られないこどもとつながる手段にもなっている。居場所では昼食の提供を行っているが、急きょ欠席となった参加者に、家族の分も含め食料や食事を持参する場合もある。アンケートでは効果的な取組として、「食糧支援（フードバンク）」と回答したが、実際には、配食も含む、「食に関する支援」が効果的だと考える。
- ・ 「YC の支援」の相談や場に行くとなると、家族から理解してもらえない場合もあるため「若者向けの施設の事業に参加する」という説明をし、自分の居場所となる場に参加をすることもある。
- ・ アンケートで回答した「精神疾患、依存症以外の病気」について、ケアラー本人も何の症状か分かっていないこともあり、母親はいつも寝ている、と言っている参加者もいる。
- ・ 家事支援へのニーズを聞くと、本人たちは嬉しいというが、「お父さんやお母さんは家に入ってきてほしくないと思っていると思うから、無理だと思う」という回答が返ってくるケースが多い。
- ・ 家族のためケアをしているという認識と、「なぜ自分だけが」という思いも抱いている。「何をしても変わらない」ではなく、一人ひとりの未来を一緒に考えていける大人たちでありたいと考えている。

3 アウトリーチの効果的な方法

- ・ 学習支援の会場や、若者支援施設で、YC の背景がないか意識をすることを大切にしている。
- ・ 若者支援の事業で、中学卒業後に進学しない生徒とのつながりを保つため中学校を訪問する際に、事業の紹介をしている。このような訪問から本人たちとつながっていくための対応を模索中である。

4 家族構成に応じた支援

- ・ 母子・父子・両親のいる家庭等、あまり家族構成による支援の違いは感じていない。ど

2. 支援団体インタビュー結果（さっぽろ青少年女性活動協会）

ちらかという、それぞれの家庭の事情による違いだと考えている。

5 効果的な支援を行うための支援順序

- ・ 年齢に関係なく本人との関係性を築き、「この人たちには、自分の気持ちを打ち明けていいかな」と思ってもらえることが重要と考えている。オンラインや対面等どんなつながり方も、関係性が築けていないと、次につながらない。居場所に参加する場合、最初は、知らない人が多い場所へ行くことに抵抗を感じる参加者が多い。「最初はオンラインがいい」「いつも行っている自分の居場所のスタッフにそばにいてほしい」という状態を経て、次第に一人でも大丈夫というケースも多い。参加者にとって、自分が否定されない、安心できる場所を提供することが大切だと感じる。

6 限られたリソースの中で優先的に行うべき支援

- ・ 会話をする中でアンテナを張ることが重要だと思っており、何気ない会話から気になるキーワードを見つけ、そこから現状を知ることが意識する。その気づきを一人のものにせず、チームでの共有をし、多面的な視点から支援計画を考える。

7 支援対象者を増やす工夫

- ・ 市内の中高校生向けに名刺サイズのカードを作成し事業を周知した。対象者への周知に加え、大人にYCへの理解を深めてもらうための啓発や、関係機関との連携も重要だと考える。
- ・ 札幌市の事業としてYCの相談が始まったのは今年度からであり、昨年度は事業を受託する際に自主的に相談窓口を設けた。事業を周知する機会が増えたことで、学校の先生、SSWや保護者のヘルパー、ケアマネジャーからの相談が増えた。自分のこどもの同級生に関して保護者から相談が寄せられたケースもあった。

8 支援を卒業する際のポイント

- ・ 家族から離れて自立し、YCの状態ではなくなった若者が、家族の生活が成り立たなくなり、家族が現在の本人の自宅に同居を始め、再び家族全員のケアを担うことになったケースがあった。ケアラーの状態にあったこどもがケアをしなくてもよい環境になったとしても、状況を確認しつながらいることは必要だと感じた。

9 家族と関わる際のポイント

- ・ 現状では家族と関わっておらず、保護者と話ができる環境がほとんどない。YCを支援するには、家族を丸ごと支援することが必要だと感じているため、あと一步入っていくためのアプローチの方法は今後の課題だと考える。

2. 支援団体インタビュー結果（さっぽろ青少年女性活動協会）

【外部との関係】

1 0 地方自治体との連携を円滑化するポイント

- ・ 現在、当協会は担当局としっかりとした連携ができていますが、これは YC の事業を担当する前から取り組んでいた若者支援事業が同じ担当部局であり、長期的な関係が築けているためである。そこから考えると、情報共有やコミュニケーションを密に行っていくことが重要だと感じている。

1 1 地方自治体以外の他機関との連携状況及び連携を円滑化するポイント

- ・ 学校や病院、行政ではあるが区の担当部局から連絡をいただき、ケース会議に参加させていただいた。もっと関わることがあるのではないかと思うため、周知を行ってきたい。
- ・ ケアマネジャーやヘルパー等のご家庭に介入している方々からの情報提供が重要だと感じており、よりつながりを強くしていきたいと思う。

1 2 地方自治体に期待すること

- ・ これまで同様、札幌市との連携をしっかり行っていきたい。

以上

3. 自治体インタビュー結果（大阪府、大阪市、茨木市）

3 自治体インタビュー結果

3－（１）大阪府、大阪市、茨木市

（インタビュー実施日：令和6年2月8日（木））

【支援制度】

1 ヤングケアラー支援の検討の流れ、取組のきっかけ

<大阪府>

- 国のプロジェクトチームの提言をきっかけとして、令和3年5月に庁内のワーキンググループを立ち上げた。また、同年9月に庁内の各部局の関係課長会議を設置し、令和4年3月に大阪府 YC 支援推進指針を策定した。国の提言と同様、令和4年度からの3年間を重点的な取組期間として、主な内容としては3つの大きな柱を立てた。1つ目は社会的認知度の向上、早期発見・把握、2つ目はプラットフォームの整備（市町村の体制整備の後押し）、3つ目は支援策の充実である。
- 当初は支援ノウハウの伝授に重きをおいていたところがある。しかし、大事なのは子どもに関わる大人を増やすことであるということが事例等を通じて分かってきた。支援を押し付けるのではなく、周りの大人が自然な会話を通して関係性を作っていくことが大事であり、ケアラーが担う家庭内での役割を、やってはいけないという風を感じることを決してないように、本人の意向を尊重し大切にすることが必要である。そういった内容を事例集としてまとめているところである。

<大阪市>

- 令和3年3月の議会で YC の問題が取り上げられ、市長の答弁があった。内容としては大きく2つあり、1つ目は、専門家の意見を伺いながら実態調査を行うということ。2つ目は、学校、福祉、保健、医療等、多分野が一体となって取り組むことが必要ということだった。そのため、トップダウン的に取組を進めることができている。

<茨木市>

- ユースプラザ（居場所と相談支援を提供する施設）を5か所で運営している。その中で、子どもが YC の状況にあり、かつ、複雑な事例が複数あった。そのケース検討の中で、ケアラー問題への注力が必要ではないか、という話になり、同じタイミングで国の補助金事業が始まったため、それを活用して事業を開始した。
- 流れとしては、令和4年度に、市内の学校や支援者等を対象にした実態調査を行い、支援者の意識（啓発も含む）や YC を認識している人がどの程度いるのかを確認した。その結果、多機関連携や啓発が必要ということで、今年度から YCC を配置し、支援者連携や地域会議、セーフティネット会議に出席するなどして顔が見える関係を作り、情報の収集等を行っている。また、家事支援が必要な家庭も多く

3. 自治体インタビュー結果（大阪府、大阪市、茨木市）

みられることから、今後は訪問支援事業の導入を検討している。

- 他には、元 YC 対象のピアサロンと現在 YC の子どもを対象としたピアサロンを隔月で運営している。具体的な支援というより、見守りや、何かあった際に手を差し伸べられる体制づくりが必要と考え、多機関連携に力を入れている。

2 予算取りで苦労した点及びそれに対する工夫

<大阪府>

- どの自治体もそうだと思うが、財政難の状況にあるので、指針を根拠として国庫補助金を活用し予算要求をした。
- 広域自治体に取り組む必要性を理解していただくことに時間がかかってしまったが、粘り強くあきらめずに説明するのがポイントだと思う。18 歳以上の若者でも寄り添いを含め支援が必要な場合があるので、法改正は後押しになると考えている。市町村や民間支援団体の意向を調査して現場の意見を活用して説明をすることが必要だと思う。

<大阪市>

- 予算取りは、市長の重点予算枠という、通常の予算とは別の枠に乗せてもらったため、通常の新規事業を立ち上げるよりは予算を確保しやすかった。話が大きくなったおかげで、トップダウンでやりやすかった。

<茨木市>

- ユースプラザの具体的な例を説明しながらではあったが、必要性を理解してもらうのに苦慮した。繰り返し説明をし、事例を複数紹介して最終的に予算はついたが、アンケート実施、コーディネーターの配置など一歩ずつ進めてきているところである。

【関係機関との連携】

3 都道府県、市区町村における役割分担及びそのポイント（特に（1）アウトリーチ、（2）ヤングケアラー・コーディネーター、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの配置や役割、連携について）

<大阪府>

- 指針にも盛り込んでいるが、役割分担で言うと、多くの福祉サービスの実施主体であり住民に身近な市町村が主体と考えている。大阪府はその市町村のバックアップを行うという役割を担っている。また、府としては、民間の支援団体に対する助成を行い、支援につながる子どもや若者の数を増やせるよう後押ししている。他にも、市町村の担当者に対して研修や会議を開催して、先行事例を紹介するという取組を行っている。
- （1）アウトリーチに関して言うと、民間支援団体は学校の居場所事業や子ども

3. 自治体インタビュー結果（大阪府、大阪市、茨木市）

食堂などの事業をしていてその中でこどもの状態を把握している。

- （2）について、府立高校での取り組みとしては、学校は早期発見をできる重要な場所だと考えているので、YC かもしれない子に気づき、SSW につなぎ、福祉の支援につなげている。見つける・つなぐ・支える、の3本柱で府立高校としては取り組んでいる。
- 高校2年生の4.1%がYCであったという国の実態調査が行われたのち、府立高校については令和3年度に実態調査を行った。国の調査項目を基にして、つらい思いをしている子にすぐに対応できるように、任意で記名式で行ったところ、全体で6.5%と国よりも高い割合であった。回答率は2割程度だったが、それを根拠に知事と話し、令和4年度にSSWを拡充できるという流れになった。令和4年度も実態調査を行っており、令和3年度よりも回答率を高めるため、質問数をかなり少なくして実施した。その結果、8割が回答し、家族のお世話をしているという回答が11.4%であった。その結果を踏まえて、SCは平成25年から全校配置しているが、SSWは定時制を中心に30校だけだったところ、令和4年度に拡充し、97校に配置した。配置のない学校については、SSWのSVを教育庁で雇用し、巡回してもらい実態調査の結果を見てもらいながら対応している。その結果、令和4年度の支援実績として、SSWやSVが、YCを支援した件数は延べ2,000件を超えた。令和4年度からカウントし始めたため、それ以前と比較はできないが、それだけの数を支援できた。報道提供等はしていないが、実態調査は今年もやっている。毎年新生が入り、在校生も家庭の状況が変わってくるので「YC」という名称は使っていないが、実態調査は毎年実施していく予定である。令和3、4年度の結果については報道提供しているので、大阪府のホームページで閲覧可能である。
- 役割分担をしており、直接的支援は市町村に行ってほしいと考えているので、府としては、今も今後もYCC配置の予定はない。

<大阪市>

- 各区役所にYC相談窓口を設置している。ただし、こどもはなかなか窓口で相談に来れないと思うので、(介護、障害、学習支援等の)他制度事業者への普及啓発に力を入れている。個人情報の絡みで、事業者から直接教えてもらうことはできないが、窓口を案内してもらえるように、事業者との連携を進めている。
- 予算の重点枠で、SCの体制の充実とSSWの増員を行っており、こどもが長時間過ごす学校で、YCのこどもに気づききっかけにできればと考えている。コーディネーターは令和4年8月から委託事業として配置している。
- 昨年度開始し、現在丸一年が経過したところだが、昨年度末に学校卒業後に支援が途絶えることへの不安の声をいただいていたので、YCCを配置してよかったと思う。大阪市は規模が大きいこともあり、SSWと役割が重複する部分はあまりなく、連携をしていく立ち位置だと感じている。今回拡充したSSWは、教育委員会に所

3. 自治体インタビュー結果（大阪府、大阪市、茨木市）

属しているが、保健福祉センターに席を置いて、学校を回ってもらい、学校から福祉につなげやすいシステムを整えているという点が特徴だと思う。

<茨木市>

- まずは YCC に情報が入ってくる（地域支援者、学校関連課、障害、介護分野から情報が入ってくる）。YCC が支援者のところに行って支援者からの相談に応じたり、学校に面談に行ったりすることもあり、そこで何をサポートできるかをお伝えしている。あとは、YCC との連携という意味では、SSW に加え、コミュニティソーシャルワーカーも多い。SSW は学校生徒と地域資源をつなげるのが役割のため、YCC に関わらず、ユースプラザに子どもを連れて行ってくれたりもするし、情報共有もできている。障害や介護分野の支援者は、YC の視点を持った支援をお願いしているが、その点はまだ難しいと感じる部分もあるので、粘り強く啓発することが必要だと思っている。
- 既存の支援体制はある中でも YCC を配置したことで助かっていることも多い。多機関連携についても、うまく支援が進まない、情報が集まらない、誰が引っ張るか分からない、等の理由でうまくいかないこともあったので、情報を収集し、段取りをしてもらっている。いろんなケース会議に入ってもらい、現場にも行っていただいている。SSW との違いは、SSW は学校から地域支援につなげるところがメインなので、地域につながった後は福祉がメインとなるので YCC の担当になる。SSW は学校卒業後に離れてしまうので、地域で見守っていくために YCC が担う役割は大きいと考えている。

4 予算や人的資源の少ない小規模な市区町村の取組を後押しするために効果的であると考える取組・工夫

<大阪府>

- 一つは市町村の担当者向けの研修の実施である。令和5年度は、43市町村を14のエリアに分けて、市町村の担当者だけでなく、民間支援団体、SSW、コミュニティソーシャルワーカーなど多くの職種の人を対象に、グループワークやロールプレイを行った。ロールプレイでは、生徒役、先生役、間をつなぐSSW役になり、子どもが自分の悩みや困り事を話せるかどうか体験してもらった。
- また、府民からの寄付を財源とした大阪府福祉基金を活用して、民間支援団体への助成（令和4年度から3年間の期間限定で、1団体あたり上限500万円）を行っている。昨年度の助成団体数は5つだったが、今年度は11団体に増えた。学校や放課後の居場所、居場所の中での学習支援や社会体験を行うプログラムなどを提供してもらっている。これらの取組を市町村の研修の場で共有してもらい、連携を深めるなどしている。
- 学校内の居場所事業を行う民間支援団体の集まりに参加し、YC支援の紹介と共に

3. 自治体インタビュー結果（大阪府、大阪市、茨木市）

本事業に参加していただけないか、とアプローチした。また、母子生活支援施設の退所者支援の取組みはもともと独自でされていたが、YC 支援につながる部分があったので、府内すべての母子生活支援施設を訪問し、事業を説明。令和4年度は1団体であったが、令和5年度には3団体に増えた。

5 都道府県、市区町村のそれぞれの取組で、特にありがたいと感じる取組

<大阪府>

- 研修を、市町村内でも多機関多職種と連携しつなかりを作る機会として生かしていただいたこと。また、すべての市町村ではないが、それぞれ持っている様々な資源を活用し、ケースが生じた際に、ケース会議ができる体制を整えていただいていたこと。
- 府立高校は広域になるので、様々な市町村に居住する生徒が通っている。その中で、YCの生徒に気づいた際に（YCだけの事案ではないが）、居住地によってつなぐ先が違ふという問題がある。福祉部の方が市町村の窓口を一覧にして周知している。そのような一覧があると、学校現場からすると大変助かるので、今後の取組としても窓口の設置がもっと広まってほしい。

<大阪市>

- 研修の機会は非常にありがたい。私が参加した際に、府立高校のSSWも来ており、顔の見える関係を作ることができた。そのSSWから外国語通訳派遣事業の対象になるような家庭とつながり、支援のきっかけになった事例がある。顔が見える関係になり、連絡が取りやすくなった。定期的に情報交換させてもらい、市内の府立高校への周知に教育庁に協力してもらったこともある。

<茨木市>

- 講師を呼んで研修をしていただくと共に、他の市町村と関わりを持てる機会を作っていたいたり、支援の好事例などを紹介してもらえることがありがたい。

6 都道府県、市区町村に今後さらに期待する取組

<大阪府>

- YC 専門の相談窓口を作っていただきたい。現在43中23市町村（53%）に作ってもらっている。現在窓口がない市町村も関係部局が連携して対応してくれているが、それでは相談者が自らアセスメントして電話することになり、相談につながりにくい。窓口として一本化しそこから関係課につないでいくことで、相談につながりやすいと考えるので、今後設置に向け我々ができることを支援していきたい。

<大阪市>

- 「5」で述べたことを今後も引き続きぜひお願いしたい。

3. 自治体インタビュー結果（大阪府、大阪市、茨木市）

<茨木市>

- 今後も引き続き研修等をお願いしたい。研修の内容については、今年度は、初めて聞く人も多かったと思うので導入的な内容が多かった。来年度はより発展的内容として、具体的な支援につながるような内容にしていただけるとありがたい。
- アンケートでは府に期待する取組として食糧支援という回答もさせていただいた。これは、YC 家庭はこどもが食事の準備をしていることが多いためである。その負担を軽減するために、こども食堂でも、府の支援を受けてフードバンクのようにレトルト食品を持ち帰ってもらえるようにしているところもあると思うので、YC 向けにも食事の負担が楽になるような支援があると嬉しい。

7 自治体内の関係部局の連携におけるポイント

<大阪府>

- 令和3年9月に立ち上げた、関係部局の課長が集まる関係課長会議を年2回ほど開催し、各課での取組状況等について情報共有をしている。
- 教育と福祉の連携という意味合いでは、お互いの研修会や会議に出席すると共に、SSW、コミュニティソーシャルワーカーにも福祉、教育の研修や、市町村エリアごとに分かれて行うグループワークに参加してもらい顔の見える関係を築いている。今までも庁内の教育と福祉は顔の見える関係ではあったが、YC の問題が取り上げられて以降、顔の見える関係がより深まったという実感がある。今までは教育の場で、福祉の方を呼んで情報提供してもらう機会はほとんどなかったが、今は普通にできるようになった。これから教育と福祉の連携がより進んでいくと思っている。

<大阪市>

- 令和3年5月に副市長をトップとしたプロジェクトチームを設置し、全庁的な支援の在り方や対策の方向性を検討している。このプロジェクトチームは年2、3回開催で、各支援事業の進捗管理や予算取りについて議論をしており、こども青少年局、教育部局、福祉局、健康局、各区長とも情報交換が非常にやりやすい。また、貧困対策として実施しているこどもサポートネット事業の枠組みがあることにより、学校教育現場と保健福祉分野の連携が非常にスムーズになっている。

<茨木市>

- 福祉と教育の連携でいうと、子ども・若者支援地域協議会を作っており、構成員に教育部門、福祉部門が入り、連携しやすい環境にある。学校との取組でいうと、今年度も10~12月に、中学3年生の卒業後が気になる生徒の情報を集約してもらい、ユースプラザやコミュニティソーシャルワーカー等が会議に参加し、共有してもらっている。卒業後に不安がある子を卒業前に地域につなげるようにしている。現在は中学3年生が対象だが、中学3年の冬にケースを繋いでもらっ

3. 自治体インタビュー結果（大阪府、大阪市、茨木市）

でも、卒業までにつながらないこともあり、中2、中1へ対象を広げた方がよいのではという声もあり、対応していきたいと考えている。

8 ヤングケアラー支援団体との連携を円滑化するポイント

<大阪府>

- 活動するためには財源が必要となるため、府福祉基金を活用した助成を行っている。また、信頼関係を築くことも大事であり、助成団体11か所を訪問し、団体の困りごとを含めて話を聞き、状況把握をしている。
- また、団体同士でも顔の見える関係を作るために、全団体が参加する意見交換会を実施し、例えば、学校とどのようにつながればいいのか、などの課題や工夫について情報交換を行った。
- 民間団体を増やしたり、連携先を増やすコツというのは特にない。コツというよりはつながりがあったからこそできたことだと思う。母子生活支援施設も、活動内容をお聞きする中で他の施設も退所者支援などの活動をしているので声をかけてみようということになった。

<大阪市>

- YCCを配置してもらっているNPOとは、定期的に月1くらいで打合せを行っている。定期的な打合せを始めてから、報告書で読むのと話を聞くのでは認識が大きく変わってくるという実感があるので、顔の見える関係が大事だと考えている。
- 地域の支援団体と直接話すことはなかなかない。福祉部局が所管している、社会福祉協議会や地域包括支援センター、介護、障害の事業者などの集まる研修に市の職員も参加し、YCの支援について説明しつつ、連携を深められるように働きかけている。

<茨木市>

- アナログではあるが、支援者同士が顔の見える信頼関係を築き、相談ができる場を作ることが重要だと思う。名前を知っていても、顔が分からないと相談にはつながらないということをよく聞くので、支援者同士も支援者とこどもとの関係においても関係構築を行うことが大事であり、力を入れていきたい。

9 これから支援を始めるようとする自治体に向けたメッセージ

<大阪府>

- YC支援を通じて、YC以外の困りごと（ひきこもり、不登校など）を抱えることもたちにも気づき、支援につなげていくことができることは大きなメリットだと考えている。こどもを支援することが、結果的に世帯全体の支援につながっていくので、ぜひ取り組んでいただければと思う。

3. 自治体インタビュー結果（大阪府、大阪市、茨木市）

<大阪市>

- 茨木市の考えに同意する。
- 地域の実情を把握すること、実態調査がまず大事だと思う。実態を把握することに加え、調査結果を予算取りの根拠にすることもできるため、まずは実態調査を行うと良いのではないかと思う。

<茨木市>

- YCCの配置可否は自治体によって違うと思うが、啓発とYCCの配置はやっていただくよいかと感じている。特に高齢者・障害者支援関係者の方からは、支える側の家族にまで意識が向いていなかったという意見も多くあった。YCCが地域会議や障害、介護関係の会議に出席して、啓発を行い、顔の見える関係を作ってくれている。結果、相談が入ってくるようになってきている。自分たちにはできない役割を担ってくれていると思う。

10 支援策の拡充等に向けた必要なもの

<大阪府>

- 府では令和4年度からYCの支援強化へ向けた法整備について国へ要望を出してきた。要望に対して子ども・若者育成支援推進法が改正される方向で進んでおり、支援の対象として家族のケアを過度に行っていることもが位置づけられる見込みである。これは自治体としても支援の根拠にできるので、ありがたい。府の指針は、国のPTが定めた重点期間、施策の方向性を参考にしている。来年度が重点期間の最後の年なので、国の方向性が示されるのか否かを注目している。示されるのであれば、再来年の予算要求へ向けて来年度の夏頃に動き出す必要がある。方向性を出すのであれば、早期に示してほしい。YCの問題は中長期的なものである。中長期的な財政支援が必要である。
- 今回の法改正はありがたいが、もう一歩進んで、国と都道府県と市町村の役割分担を盛り込んでほしい。市町村の責務として取り組むべきだという明記が無いと、小さな自治体では取組が難しいので予算確保へ向けて根拠があるとありがたい。

<大阪市>

- YCの課題解決は我々だけではできない。学校、福祉、医療、地域など、大人が気付かないと支援がそもそも行えない。必ずしもすぐ解決できることではないので、中長期的で安定的・継続的な支援が必要となる。法制化や、支援策、財政措置の充実をしてほしい。

<茨木市>

- 来年度訪問支援事業の導入を検討しており、その際は国の補助金も申請したい。ただ現行制度では、所得に応じて利用者が自己負担を求められている。市として

3. 自治体インタビュー結果（大阪府、大阪市、茨木市）

は、利用者の負担をなくしたい。国としても、利用者の負担をなくして、補助金を充ててほしい。YC 家庭の中には、経済状況が良くても、親の理解がない、子どもにお金をかけることを嫌う家庭もあるため、経済状況による差はなくしてほしい。

- 障害サービスなどいろんなものがあるが、YC は利用できるものがなかなか無く、制度のはざままで利用できないこともある。親やきょうだいのケアをしていることへのサービスの拡充を願う。

以上

3. 自治体インタビュー結果（大分県、中津市）

3-（2）大分県、中津市

（インタビュー実施日：令和6年2月16日（金））

【支援制度】

1 ヤングケアラー支援の検討の流れ、取組のきっかけ

<大分県>

- 令和2年度の国の調査を受け、令和3年度に県内の小学5年生から高校3年生を対象に悉皆調査を実施した。回答率は72%で、そのうち70.2%が「ヤングケアラー」を聞いたことがないと答え、家族などの世話で困りごとを抱えている児童・生徒が約1,000人いると推計された。そのため、令和4年度から、周知啓発、相談窓口設置などに取り組むこととし、SNS等相談窓口設置のほか、県民フォーラムや県を6か所に分けたブロック別研修等を開始した。令和5年度は、全市町村を訪問し支援体制等をヒアリングすると共に、担当者連絡会議、人材育成のための研修等を実施している。併せて、YC 専門アドバイザーを県庁内に配置し、研修講師や市町村等からの具体的な相談への助言等を行っている。

<中津市>

- 当市は要保護児童対策地域協議会における体制面も含め、こどもの支援を行政・民間が連携して行うことができている。YCの問題は、身体的虐待、ネグレクト、経済困窮、不登校などの問題を通して家庭に入らな中で状況が見えてくる場合がほとんどで、上の子が下の子の世話をしていたり、虐待や不登校、母の通院の付き添い、学校を休むなど様々な状況が見えてきた。
- 当市では、以前からYCに注目し、対応を進めてきた。
例えば、YCがきょうだいの世話をする必要があり学校に遅れる場合は、学校の保健室で軽食を食べさせたり、家で勉強ができない子に対し、放課後に教諭が残って勉強を教えるなど、個々のケースに応じてできる支援に取り組んできた。
- 学校でのこどもの声や様子の変化の把握ができているSSWやSCとの連携の必要性を感じていた中、市教委側も、連携の必要性を感じていた事で、市児童福祉と市教委の連絡会を実施していくこととなった。

2 予算取りで苦労した点及びそれに対する工夫

<大分県>

- 全く新たにに取り組む事業であり、約1,000人という推計はあるものの実態が見えない中、何から始めるのが効果的なのか分からずともかくYCの存在を知ってもらうこと、身近で相談できる体制を構築することから始めた。

3. 自治体インタビュー結果（大分県、中津市）

<中津市>

- 議員から YC の質問もあり、市としても YC 支援の必要性を感じている。国の補助も活用しつつ、事業の必要性を財務部局にも理解してもらい、予算取りを行うことができた。
- 令和5年度から、YCC を1名配置することとなり、啓発や個々の状況に応じたきめ細やかな支援を行えるようになった。
- 様々なケースにおいて、こどもが YC の状況におかれていることがある。その際、ケースに関わる人がその視点を持つことが大事だと思う。そのうえで、YC に気づいた時に、どう関わっていくのかを協議できる体制ができることが大切ではないか。実務者会議等、関係者で支援の必要性があれば事業化して、対応を進めていくことになる。
- 中津市では重層的支援体制も整備しており、その中で周知啓発を進めているところであるが、そこでも YC 支援の必要性に関する声が挙がってきている。

【関係機関との連携】

3 都道府県、市区町村における役割分担及びそのポイント（特に（1）アウトリーチ、（2）ヤングケアラー・コーディネーター、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの配置や役割、連携について）

<大分県>

- （1）アウトリーチについて、身近な市町村における相談支援体制が重要。県は、その後押しや助言を行っていく。
- （2）県の専門アドバイザーが市町村や市町村における福祉と教育の連携会議等を訪問し、実態把握に努め、具体的相談や市町村の体制構築に向けた助言等を行っている。

<中津市>

- YC に気づくという観点では、やはり教育委員会との連携が大事だと思う。当市では、SSW が把握している情報を基にした台帳を作成し児童福祉部門とも共有できている。
- アウトリーチで情報・支援を届けるという観点では、訪問事業や、支援対象児童等見守り強化事業などを通じて家庭に入ることによって状況や困りが見えてくる。
- YC の特徴として、支援につなげるまでが難しいという点が挙げられる。他のケースに加えて YC の対応となると、手が回らないことがある。この点、YCC を配置することで、手厚い支援や連携ができており、専門的な視点で関わることの必要性を感じている。
- 子育て世帯訪問事業は来年度から開始する予定である。YC 家庭を支援につなげる

3. 自治体インタビュー結果（大分県、中津市）

のは難しいため、保護者の抱える困難を支援者で共有しながら、家庭に入り込むために、子どもや保護者にとって受け入れられやすいアプローチ方法を考えている。その際、信頼関係が構築できている支援者からのアプローチが重要となるため、支援者同士の連携は大事だと感じている。

4 予算や人的資源の少ない小規模な市区町村の取組を後押しするために効果的であると考える取組・工夫

<大分県>

- 町村など小規模自治体にも必要な情報が十分に届くようにすることを目的として、各市町村の児童福祉主管課の担当者を集めた連絡会議を開催した。連絡会議の内容としては、各市町村の現状や取組状況を共有し、成功事例などを横展開するためであり、昨年7月に続き、2月に第2回を開催予定である。
- 県がアドバイザーを配置した目的は、関係機関からの相談を受けて、こどもの関わり方・周知の助言、人材育成として研修などを行うことに加え、市町村の体制づくりの支援を行うためである。実際の市町村などの現場では、YCの認知度が十分でないことから、発見しづらく支援につながりにくい、また、実際にどのような支援につながればいいのかなど支援に苦慮している中で、手探りで体制づくりを行っている現状がある。現場に出向いて、虐待、困窮への対応など、様々な社会資源をいかに組み合わせるYCへの気づきや支援につなげる体制を作るか、地域性・地域差を考慮した上で、助言を行っている。
- また、アドバイザーは、市町村の定例会、SSW、高齢、障害分野の研修会にも出席している。市町村で多職種が参加する研修を開催したところ、「顔を見て一つの事例を通して地域の社会資源を知れた」「地域に様々な支援方法があることに改めて気づかされた」などの声があり、顔の見える関係が深まったと感じている。

5 都道府県、市区町村のそれぞれの取組で、特にありがたいと感じる取組

<大分県>

- 関係機関との連携がとれており、独自のアンケートや学習会といった取組を行い、そこで事例や情報を共有することができている市町村がある。

<中津市>

- 実態が把握できていないと支援を計画できない。令和3年度に県が実態調査を行ってくれたことで、市の実態も把握でき、計画づくりに活かすことができた。今後、県が比較実態調査を行っていただけると、市も同じ基準で実態を把握する事ができるのでありがたい。

3. 自治体インタビュー結果（大分県、中津市）

- 研修については、県から細かく指導をしていただきありがたいと感じている。

6 都道府県、市区町村に今後さらに期待する取組

<大分県>

- 市町村では、それぞれの規模や実態に応じてそれぞれ取り組んでいるが、その取組には濃淡がある。先進事例などを共有しながら、すべての市町村でYCの支援体制が整うように支援していきたい。相談支援体制の構築や具体的な支援策等について、専門アドバイザーを活用してもらいたい。

<中津市>

- 市教委とは月1回の連絡会を行っており、この1年で関係がより深まり、連絡会以外のタイミングでも相談や情報共有が行いやすくなった。県立高校との連携については、組織の壁を感じる面もあり、情報共有や連携した支援体制づくりには課題を感じている。県に、県教委との連携を深めるためのサポートをしていただけるとありがたい。
- 研修に関しては、去年の6,7月に、県の専門アドバイザーがSSW向けに研修を実施してもらい、勉強になったという声があった。これからも県のソーシャルワーカー向け研修など、広く実施いただけるとありがたい。

7 自治体内の関係部局の連携におけるポイント

<大分県>

- 教育委員会においては、実態調査の実施やYC支援のためSSWを増員するなど、YC支援に協力的である。一方で、学校現場ではYCの認知度はまだまだ低く、学校によって対応に差があると感じる。
- 市町村によっては、何か心配な情報があれば、すぐ学校に連絡することができるという声も聞くので、連携が進んでいる市町村もある。

<中津市>

- YC等の気になる子についての台帳をSSWが作成しており、児童福祉部門にも共有いただいている。また、月1回市の教育委員会との連携会議を行い、見守りや進捗を共有し、支援役割を共有できていることは大きいと思う。すぐ支援につなげるのは難しいが、見守りやこどもの声をどう聞くかという点では、SCなどにも協力いただきながら、家族支援に生かすことができている。
- 庁内で進める重層的支援体制整備事業の中でもYC支援の必要性は理解いただき、今年度は、障がい部門や介護部門等の専門職へ、YC支援の理解も深めていただくための研修会等も多く取り組むことができている。

3. 自治体インタビュー結果（大分県、中津市）

8 YC 支援団体との連携を円滑化するポイント

<大分県>

- 県内に YC に特化した取組を行う団体はないが、一部のこども食堂や児童家庭支援センターで支援を行っている場合がある。市町村において、そういった関係機関と日頃から共通認識を作ることが大事だと思っている。

<中津市>

- 中津市の児童家庭支援センターが、訪問型の支援対象児童等見守り強化事業や第三の居場所事業、こども食堂等、複数事業を行っている。その中で、情報共有を図りながら、円滑な連携のもと、ケースに応じた支援が行えている。児童家庭支援センターは要保護児童対策地域協議会の構成員でもあり、守秘義務や情報共有の連携もスムーズに行えている。
- 中津市に住民主体のこども食堂もあるが、現状、連携した支援を行った実績はまだない。

9 これから支援を始めるようとする自治体に向けたメッセージ

<大分県>

- 身近な市町村でどれだけ支援の体制を整えられるかが重要と考える。家族を丸ごと支援できるよう、関係所属のほか、行政だけでなく、支援に直接関わる人、有識者、地域、当事者の声を取り入れることが大事だと思う。そのためには関係機関との横の関係を構築していくことが必要になると思う。

<中津市>

- ひとつひとつの事例を大切に、その実態や支援の必要性を財務部等に理解してもらい、事より始める。そのためには、要対協の中など、関係する部署における実態把握を行う必要はある。

10 支援策の拡充等に向けた必要なもの

<大分県>

- こどもに一番身近な学校現場の教職員や教育委員会が YC 支援に取り組めるよう、文部科学省における取組の強化をお願いしたい。また、市町村が取り組みやすく、利用者の負担をできるだけ軽くした子育て支援施策の充実が必要。
- また、人材育成の観点で、民間団体の実施する研修でなく国が主体的に行う人材育成等の場がほしい。
- 身近な相談先である市町村において必要な取組ができるように、国においては、十分な財源措置をお願いしたい。

3. 自治体インタビュー結果（大分県、中津市）

<中津市>

- 1年近く学びながら周知等の活動した中で、YCの説明を行う際に、定義があいまいで困ることがある。国がYCの定義や分類をしっかりと決めて明示してくれると説明しやすい。YCというものが分かりづらい状態なので、周知しづらいと感じる。
- YCの定義もあいまいで、支援も幅が広く、支援者としてもこれで良いのかと戸惑う部分がある。YCC同士が情報共有できたり、研修できる場があると、ありがたいと思う。
- 生活への支援の他に、将来の進学や就労など、先への支援の必要性も感じる。今後は若者の支援者と連携が必要だが、まだ十分な連携ではなく課題だと感じている。

以上

謝辞

本調査研究事業の実施に際して、インタビュー調査においてご協力いただきましたAさん、Bさん、Cさん、Dさん、Eさん、Fさん、及びそのご家族の皆様、並びに一般社団法人Omoshiro、一般社団法人ヤングケアラー協会、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会、公益社団法人全国精神保健福祉会連合会、特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター、特定非営利活動法人もりおかユースポート、認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス、大阪府、大阪市、茨木市、大分県、中津市の関係者の皆様、また、アンケート調査にご回答いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

さらに、本調査研究事業の検討委員会の委員としてご指導賜りました皆様におかれましては、調査設計や分析・考察、報告書の作成に至るまで、専門的見地からさまざまなご助言をいただき心より感謝申し上げます。

免責事項

デロイト トーマツ グループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイトネットワークのメンバーであるデロイト トーマツ合同会社ならびにそのグループ法人（有限責任監査法人トーマツ、デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社、デロイト トーマツ コンサルティング合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社、デロイト トーマツ税理士法人、DT 弁護士法人およびデロイト トーマツ グループ合同会社を含む）の総称です。デロイト トーマツ グループは、日本で最大級のプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査・保証業務、リスクアドバイザー、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、税務、法務等を提供しています。また、国内約 30 都市に約 2 万人の専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト、www.deloitte.com/jp をご覧ください。

Deloitte (デロイト) とは、デロイト トウシュ トーマツ リミテッド (“DTTL”)、そのグローバルネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人（総称して“デロイトネットワーク”) のひとつまたは複数を指します。DTTL (または “Deloitte Global”) ならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体であり、第三者に関して相互に義務を課しまたは拘束させることはありません。DTTL および DTTL の各メンバーファームならびに関係法人は、自らの作為および不作為についてのみ責任を負い、互いに他のファームまたは関係法人の作為および不作為について責任を負うものではありません。DTTL はクライアントへのサービス提供を行いません。詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

デロイト アジア パシフィック リミテッドは DTTL のメンバーファームであり、保証有限責任会社です。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバーおよびそれらの関係法人は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィックにおける 100 を超える都市（オークランド、バンコク、北京、ベンガルール、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、ムンバイ、ニューデリー、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む）にてサービスを提供しています。

Deloitte (デロイト) は、監査・保証業務、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、リスクアドバイザー、税務・法務などに関連する最先端のサービスを、Fortune Global 500®の約 9 割の企業や多数のプライベート（非公開）企業を含むクライアントに提供しています。デロイトは、資本市場に対する社会的な信頼を高め、クライアントの変革と繁栄を促し、より豊かな経済、公正な社会、持続可能な世界の実現に向けて自ら率先して取り組むことを通じて、計測可能で継続性のある成果をもたらすプロフェッショナルの集団です。デロイトは、創設以来 175 年余りの歴史を有し、150 を超える国・地域にわたって活動を展開しています。“Making an impact that matters” をパーパス（存在理由）として標榜するデロイトの 45 万人超の人材の活動の詳細については、www.deloitte.com をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、デロイト トウシュ トーマツ リミテッド (“DTTL”)、そのグローバルネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人が本資料をもって専門的な助言やサービスを提供するものではありません。皆様の財務または事業に影響を与えるような意思決定または行動をされる前に、適切な専門家にご相談ください。本資料における情報の正確性や完全性に関して、いかなる表明、保証または確約（明示・黙示を問いません）をするものではありません。また DTTL、そのメンバーファーム、関係法人、社員・職員または代理人のいずれも、本資料に依拠した人に関係して直接または間接に発生したいかなる損失および損害に対して責任を負いません。DTTL ならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。

本調査研究報告書は、こども家庭庁令和5年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業として、こども家庭庁成育局長より採択を受けた有限責任監査法人トーマツ（以下、「当法人」）が提供したものであり、保証業務として実施したものではありません。

本調査研究報告書を受領または閲覧する名宛人（本調査研究報告書に関して当法人へ採択事業者の通知をしている機関）以外の方（以下、「閲覧者等」）は、例外なく本調査研究報告書に記載される事項を認識し了解したものとみなされます。

1. 本調査研究報告書は、こども家庭庁令和5年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業として、こども家庭庁成育局長より採択を受けた当法人が提供したものであり、閲覧者等に対して注意義務または契約上の義務を負って実施されたものではないこと。従って、当法人は、本調査研究報告書及び本調査研究報告書に関連する業務に関して、閲覧者等に対して裁判上または裁判外を問わずいかなる義務または責任も負わないこと。
2. 本調査研究報告書には、閲覧者等が理解し得ない情報が含まれ、また、閲覧者等が必要とする情報が必ずしも網羅されていない可能性があること。なお、本調査研究報告書に記載されている以外の情報が名宛人に伝達されている可能性があること。
3. 閲覧者等は、本調査研究報告書を受領または閲覧によって本調査研究報告書に依拠する権利及びこれを引用する権利を含むいかなる権利も取得しないこと。閲覧者等は本調査研究報告書に記載された一定の前提条件・仮定及び制約について受容するとともに閲覧者等による本調査研究報告書の利用及び利用の結果に関する全ての責任を閲覧者等自身が負うこと。
4. 閲覧者等は、当法人及びその役員、社員、職員等に対して本調査研究報告書を受領または閲覧に関連して閲覧者等に生じるいかなる損害や不利益についてもその賠償請求を行わず、また、いかなる権利の行使も行わないこと。

令和5年度 子ども・子育て支援等推進調査研究事業

ヤングケアラー支援の
効果的取組に関する調査研究

令和6年(2024年)3月 発行
編集・発行 有限責任監査法人トーマツ